

弘前大学大学院医学研究科・附属病院

自己評価報告書

＝ 2006年度－2007年度 ＝

2 0 0 9 年 3 月

弘前大学大学院医学研究科・附属病院自己評価委員会

自己評価報告書の発刊にあたって

弘前大学大学院医学研究科長 佐 藤 敬

2006～2007 年度の自己点検評価結果がまとまりました。今回もまた、多くの教員の努力の成果が明確に見てとれるものになっていると思います。個々の教員の努力を称えとともに、この自己点検評価と報告書作成の作業を担当された多くの教職員の皆さんにも感謝します。

医学研究科における自己点検評価は、既に10年を超えて実施されてきましたが、よく言われるように、研究実績に比べて、教育実績をはじめとする他の領域の評価には難しいものがあります。研究実績にしても、インパクトファクターが目立ちますが、その意味は微妙な点も無いわけではありません。特に教育実績評価に関しては、これまでもいくつかの試みがあるものの、十分な妥当性のある客観的評価はいまだ確立されていないと言って差し支えないと思います。したがって、現行のように明確なデータをもって表し、評価することが必要であり、そのための作業は決して容易ではありません。特に、昨年からは全学共通の評価が別個に行われ、しかもその結果に基づいたインセンティブなどの措置が実施されるようになって、医学研究科独自の自己点検評価はどうあるべきか真剣な議論の必要性が見えてきました。このことは、医学研究科として以前から実施してきた、予算のインセンティブ配分や教員任期制との関係などがあり、必ずしも簡単に結論付けられるとは思えません。

少なくとも理念としては、評価は研究実績のみならず、大学教員としての活動のあらゆる側面を考慮して行われなければなりません。しかしその際、教員として、われわれの役割の第一は教育にあることを、この機会に改めて確認することも重要です。例として私個人のことを考えてみると、私自身は研究施設に所属する者として、長い間きわめて限定的な教育活動にのみ従事し、多くは研究に時間を使っていました。共通教育が始まり、更に、数年前からはカリキュラムが多様化されて、講義・実習の担当も増えましたが、医学研究科長を拝命してからは、当然ながら管理・運営に関する業務の比重が大きくなりました。教員としての実績全体は個々の教員の果たすべき役割によっておのずから異なるのが当然です。しかし、大学教員として、それぞれの専門領域において、求められる教育実績は先ず果たさなければなりません。そして、教育、研究、管理・運営、社会貢献等における実績の比重は個々の教員ごとに、あるいは、その時々必要性によって異なるのも当然のことだと思います。基本的に附属病院は教育・研究の場ですが、そこでの実績には、完全に診療と言わなければならないものもたくさんあるのが普通でしょう。

この評価はあくまで自己点検評価です。他との比較ではなく、自らの教員としての責務に照らして活動がどう評価できるのか、そして更に努力すべき点があるとすれば、それは何かを、虚心坦懐に見つめたいと思います。

自己評価報告書 2006－2007 年度版刊行にあたって

弘前大学大学院医学研究科・附属病院自己評価委員会

委員長 若 林 孝 一
(脳神経病理学講座)

弘前大学大学院医学研究科（医学部医学科）・附属病院では、1994年に最初の自己点検評価を行い、その後も自己点検評価を継続するとともに、その内容を報告書として公表してきました。現在、2002年度以降の報告書が医学研究科のホームページからダウンロードすることができるようになっていきます。この度、2006年度と2007年度の内容をまとめたのがこの報告書であり、これで8回目の報告となります。今回の報告書作成にあたり、これまでの報告書との連続性を維持するため、評価項目としては前回同様に、教育、研究、管理・運営、社会貢献の4分野としました。診療に関する項目は附属病院年報との重複を避けるため、従前どおり含まれておりません。

2007年4月に大学院医学研究科が部局化され、医学研究科、附属病院、保健学研究科はそれぞれが部局になりました。大学院の部局化は単に組織の改組ではなく、大学院の重点化を目的としたものです。この部局化を機に、これまでの医学科の講座はすべて廃止され、大学院講座が新設されました。従来の生理学第一講座と生理学第二講座は統合され、総合機能生理学講座となりました。生化学第一講座は糖鎖工学講座と名称を改め、高度先進医学研究センターに所属することになりました。さらに、老年科学講座が廃止され、腫瘍内科学講座が新設されました。脳神経血管病態研究施設、高度先進医学研究センター、動物実験施設は大学院の附属施設となり、脳神経血管病態研究施設の4部門と高度先進医学研究センターの専任部門も大学院講座となりました。附属病院の小児外科、総合診療部、医療情報部、薬剤部も大学院講座を有することになりました。

日本では大学院進学者の数はこの10年間に約2倍に増えました。しかし、文部科学省はさらに数の充実を求めています。その指標が大学院の充足率であり、文部科学省は定員の90%以上の充足率を求めています。一方、新臨床研修医制度の導入によって地方では医師不足が深刻な問題となり、多方面に新たな問題が波及しています。この問題の打開策の一つとして、医学部の入学者定員が増加されることになり、弘前大学医学部医学科では2009年4月から入学者が20名増となります。本務である医学教育においても質と量のアップが求められ、さらに、研究、診療、地域や国際社会への貢献など、幅広い活動が評価の対象となってきています。

2007年度から弘前大学では全教員を対象とした評価システムが大学全体で動き始めました。医学研究科・附属病院の自己評価システムとは内容的にも重複するところが多く、両者の兼ね合いについては今後検討すべき課題と思われます。

最後に、本報告書の作成にご協力いただいた医学研究科と附属病院のすべての教員と事務職員各位に深謝申し上げます。

目 次

第1章 教育活動

1. 神経解剖・細胞組織学講座（旧解剖学第一講座）	1
2. 生体構造医科学講座（旧解剖学第二講座）	3
3. 統合機能生理学講座（旧生理学第一講座及び旧生理学第二講座）	7
4. ゲノム生化学講座（旧生化学第二講座）	10
5. 病態薬理学講座（旧薬理学講座）	13
6. 分子病態病理学講座（旧病理学第一講座）	17
7. 病理生命科学講座（旧病理学第二講座）	20
8. 感染生体防御学講座	24
9. 社会医学講座	28
10. 法医学講座	32
11. 消化器血液内科学講座（旧内科学第一講座）（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）	35
12. 循環呼吸腎臓内科学講座（旧内科学第二講座）（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）	39
13. 内分泌代謝内科学講座（旧内科学第三講座）（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）	42
14. 老年科学講座（資料なし）	45
15. 腫瘍内科学講座（2007年度新設のため、2007年度のみ報告）	46
16. 神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）	48
17. 小児科学講座（診療科：小児科を含む）	51
18. 胸部心臓血管外科学講座（旧外科学第一講座）（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）	54
19. 消化器外科学講座（旧外科学第二講座）（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）	58
20. 整形外科学講座（診療科：整形外科を含む）	62
21. 皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）	66
22. 泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）	70
23. 眼科学講座（診療科：眼科を含む）	73
24. 耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）	76
25. 放射線科学講座（旧放射線医学講座）（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）	79
26. 産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）	82
27. 麻酔科学講座（旧麻酔学講座，診療科：麻酔科を含む）	85
28. 脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）	89
29. 歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）	92
30. 形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）	96
31. 救急・災害医学講座	98
32. 臨床検査医学講座	100
33. 臨床薬理学講座	102
34. 小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）	104
35. 医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）	106
36. 総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）	109

37. 薬剤学講座（薬剤部を含む）	112
38. 脳神経病理学講座（旧分子病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	114
39. 脳血管病態学講座（旧脳血管病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	117
40. 脳神経生理学講座（旧機能回復部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	120
41. 脳神経内科学講座（旧神経統御部門）（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）	122
42. 分子生体防御学講座（旧高度先進医学研究センター）	125
43. 糖鎖工学講座（旧生化学第一講座）	127
44. 附属動物実験施設（施設長（教授，併任）については，感染生体防御学講座で報告）（2007年度分資料なし）	130
45. 医学教育センター（2007年度から専任教員なしのため，2006年度のみ報告）	132
46. 手術部（部長（教授，併任）については消化器外科学講座で報告）（2006年度分資料なし）	134
47. 検査部（部長（教授，併任），副部長（助（准）教授，併任）については臨床検査医学講座で報告）	136
48. 放射線部（教員分は放射線科学講座で報告）（2007年度分資料なし）	138
49. 輸血部（部長（教授，併任）については胸部心臓血管外科学講座で報告）	140
50. 集中治療部（部長（教授，併任）については麻酔科学講座で報告）	142
51. 周産母子センター（部長（教授，併任）については産科婦人科学講座で，副部長（助（准）教授，併任）については小児科学講座で報告） （2007年度分資料なし）	144
52. 病理部（部長（教授，併任）については病理生命科学講座で報告）	146
53. 光学医療診療部（部長（教授，併任）については，消化器血液内科学講座で報告）	148
54. リハビリテーション部（部長（教授，併任）については整形外科学講座で報告）	150
55. 医療安全推進室（2006年度まで専任教員なしのため，2007年度のみ報告）	152
（別表）医学部医学科学生について資料1～5	154
大学院生について資料1～9	162

第2章 研究活動

研究活動に関する自己点検・評価（記載説明）

1. 神経解剖・細胞組織学講座（旧解剖学第一講座）	169
2. 生体構造医科学講座（旧解剖学第二講座）	173
3. 統合機能生理学講座（旧生理学第一講座及び旧生理学第二講座）	179
4. ゲノム生化学講座（旧生化学第二講座）	187
5. 病態薬理学講座（旧薬理学講座）	192
6. 分子病態病理学講座（旧病理学第一講座）	198
7. 病理生命科学講座（旧病理学第二講座）	206
8. 感染生体防御学講座	213
9. 社会医学講座	220
10. 法医学講座	228
11. 消化器血液内科学講座（旧内科学第一講座）（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）	232
12. 循環呼吸腎臓内科学講座（旧内科学第二講座）（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）	243
13. 内分泌代謝内科学講座（旧内科学第三講座）（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）	252
14. 老年科学講座（資料なし）	261
15. 腫瘍内科学講座（2007年度新設のため，2007年度のみ報告）	264

16.	神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）	268
17.	小児科学講座（診療科：小児科を含む）	280
18.	胸部心臓血管外科学講座（旧外科学第一講座）（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）	288
19.	消化器外科学講座（旧外科学第二講座）（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）	295
20.	整形外科学講座（診療科：整形外科を含む）	303
21.	皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）	317
22.	泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）	326
23.	眼科学講座（診療科：眼科を含む）	335
24.	耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）	341
25.	放射線科学講座（旧放射線医学講座）（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）	349
26.	産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）	356
27.	麻酔科学講座（旧麻酔学講座，診療科：麻酔科を含む）	367
28.	脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）	376
29.	歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）	381
30.	形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）	387
31.	救急・災害医学講座	391
32.	臨床検査医学講座	396
33.	臨床薬理学講座	402
34.	小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）	407
35.	医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）	411
36.	総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）	416
37.	薬剤学講座（薬剤部を含む）	422
38.	脳神経病理学講座（旧分子病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	426
39.	脳血管病態学講座（旧脳血管病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	432
40.	脳神経生理学講座（旧機能回復部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	439
41.	脳神経内科学講座（旧神経統御部門）（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）	444
42.	分子生体防御学講座（旧高度先進医学研究センター）	454
43.	糖鎖工学講座（旧生化学第一講座）	460
44.	附属動物実験施設（施設長（教授，兼任）については，感染生体防御学講座で報告）（2007年度分資料なし）	467
45.	医学教育センター（2007年度から専任教員なしのため，2006年度のみ報告）	470
46.	手術部（部長（教授，兼任については消化器外科学講座で報告）（2006年度分資料なし）	473
47.	検査部（部長（教授，兼任），副部長（助（准）教授，兼任）については臨床検査医学講座で報告）	476
48.	放射線部（教員分は放射線科学講座で報告）（2007年度分資料なし）	480
49.	輸血部（部長（教授，兼任）については胸部心臓血管外科学講座で報告）	483
50.	集中治療部（部長（教授，兼任）については麻酔科学講座で報告）	487
51.	周産母子センター（部長（教授，兼任）については産科婦人科学講座で，副部長（助（准）教授，兼任）については小児科学講座で報告）	493
52.	病理部（部長（教授，兼任）については病理生命科学講座で報告）	497
53.	光学医療診療部（部長（教授，兼任）については，消化器血液内科学講座で報告）	501
54.	リハビリテーション部（部長（教授，兼任）については整形外科学講座で報告）	506
55.	医療安全推進室（2006年度まで専任教員なしのため，2007年度のみ報告）	510

第3章 社会貢献活動

1. 神経解剖・細胞組織学講座（旧解剖学第一講座）	515
2. 生体構造医科学講座（旧解剖学第二講座）	517
3. 統合機能生理学講座（旧生理学第一講座及び旧生理学第二講座）	520
4. ゲノム生化学講座（旧生化学第二講座）	522
5. 病態薬理学講座（旧薬理学講座）	524
6. 分子病態病理学講座（旧病理学第一講座）	527
7. 病理生命科学講座（旧病理学第二講座）	530
8. 感染生体防御学講座	533
9. 社会医学講座	536
10. 法医学講座	543
11. 消化器血液内科学講座（旧内科学第一講座）（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）	545
12. 循環呼吸腎臓内科学講座（旧内科学第二講座）（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）	549
13. 内分泌代謝内科学講座（旧内科学第三講座）（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）	553
14. 老年科学講座（資料なし）	556
15. 腫瘍内科学講座（2007年度新設のため、2007年度のみ報告）	557
16. 神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）	559
17. 小児科学講座（診療科：小児科を含む）	565
18. 胸部心臓血管外科学講座（旧外科学第一講座）（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）	570
19. 消化器外科学講座（旧外科学第二講座）（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）	573
20. 整形外科科学講座（診療科：整形外科を含む）	577
21. 皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）	582
22. 泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）	585
23. 眼科学講座（診療科：眼科を含む）	589
24. 耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）	592
25. 放射線科学講座（旧放射線医学講座）（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）	595
26. 産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）	600
27. 麻酔科学講座（旧麻酔学講座，診療科：麻酔科を含む）	605
28. 脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）	609
29. 歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）	612
30. 形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）	615
31. 救急・災害医学講座	617
32. 臨床検査医学講座	620
33. 臨床薬理学講座	622
34. 小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）	624
35. 医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）	626
36. 総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）	628
37. 薬剤学講座（薬剤部を含む）	632
38. 脳神経病理学講座（旧分子病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	634
39. 脳血管病態学講座（旧脳血管病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	636

40. 脳神経生理学講座（旧機能回復部門）（附属脳神経血管病態研究施設）……………	638
41. 脳神経内科学講座（旧神経統御部門）（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）…	640
42. 分子生体防御学講座（旧高度先進医学研究センター）……………	644
43. 糖鎖工学講座（旧生化学第一講座）……………	646
44. 附属動物実験施設（施設長（教授，兼任）については，感染生体防御学講座で報告）（2007年度分資料なし）……………	649
45. 医学教育センター（2007年度から専任教員なしのため，2006年度のみ報告）……………	651
46. 手術部（部長（教授，兼任については消化器外科学講座で報告）（2006年度分資料なし）…	653
47. 検査部（部長（教授，兼任），副部長（助（准）教授，兼任）については臨床検査医学講座で報告）……………	655
48. 放射線部（教員分は放射線科学講座で報告）（2007年度分資料なし）……………	657
49. 輸血部（部長（教授，兼任）については胸部心臓血管外科学講座で報告）……………	660
50. 集中治療部（部長（教授，兼任）については麻酔科学講座で報告）……………	662
51. 周産母子センター（部長（教授，兼任）については産科婦人科学講座で，副部長（助（准）教授，兼任）については小児科学講座で報告）…	664
52. 病理部（部長（教授，兼任）については病理生命科学講座で報告）……………	666
53. 光学医療診療部（部長（教授，兼任）については，消化器血液内科学講座で報告）…	668
54. リハビリテーション部（部長（教授，兼任）については整形外科学講座で報告）…	670
55. 医療安全推進室（2006年度まで専任教員なしのため，2007年度のみ報告）……………	672

第4章管理・運営

I. 所属委員会……………	675
II. 医学(系)研究科・医学部医学科及び附属病院役付職員一覧……………	685
III. 学友会所属サークル一覧（体育系及び文化系）……………	686
IV. 教員現員並びに諸会議・会合等について……………	688
1. 神経解剖・細胞組織学講座（旧解剖学第一講座）……………	688
2. 生体構造医科学講座（旧解剖学第二講座）……………	688
3. 統合機能生理学講座（旧生理学第一講座及び旧生理学第二講座）……………	689
4. ゲノム生化学講座（旧生化学第二講座）……………	690
5. 病態薬理学講座（旧薬理学講座）……………	690
6. 分子病態病理学講座（旧病理学第一講座）……………	691
7. 病理生命科学講座（旧病理学第二講座）……………	692
8. 感染生体防御学講座……………	692
9. 社会医学講座……………	693
10. 法医学講座……………	693
11. 消化器血液内科学講座（旧内科学第一講座）（診療科：消化器内科・血液内科・膠原病内科を含む）……………	694
12. 循環呼吸腎臓内科学講座（旧内科学第二講座）（診療科：循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科を含む）……………	695
13. 内分泌代謝内科学講座（旧内科学第三講座）（診療科：内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科を含む）…	695
14. 老年科学講座（資料なし）……………	696
15. 腫瘍内科学講座（2007年度新設のため，2007年度のみ報告）……………	696
16. 神経精神医学講座（診療科：神経科精神科を含む）……………	696
17. 小児科学講座（診療科：小児科を含む）……………	697
18. 胸部心臓血管外科学講座（旧外科学第一講座）（診療科：呼吸器外科・心臓血管外科を含む）……………	698

19.	消化器外科学講座（旧外科学第二講座）（診療科：消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科を含む）	699
20.	整形外科科学講座（診療科：整形外科を含む）	699
21.	皮膚科学講座（診療科：皮膚科を含む）	700
22.	泌尿器科学講座（診療科：泌尿器科を含む）	701
23.	眼科学講座（診療科：眼科を含む）	702
24.	耳鼻咽喉科学講座（診療科：耳鼻咽喉科を含む）	702
25.	放射線科学講座（旧放射線医学講座）（診療科：放射線科，診療部：放射線部を含む）	703
26.	産科婦人科学講座（診療科：産科婦人科を含む）	704
27.	麻酔科学講座（旧麻酔学講座，診療科：麻酔科を含む）	704
28.	脳神経外科学講座（診療科：脳神経外科を含む）	705
29.	歯科口腔外科学講座（診療科：歯科口腔外科を含む）	706
30.	形成外科学講座（診療科：形成外科を含む）	707
31.	救急・災害医学講座	707
32.	臨床検査医学講座	708
33.	臨床薬理学講座	709
34.	小児外科学講座（診療科：小児外科を含む）	709
35.	医学医療情報学講座（診療部：医療情報部を含む）	710
36.	総合診療医学講座（診療部：総合診療部を含む）	711
37.	薬剤学講座（薬剤部を含む）	712
38.	脳神経病理学講座（旧分子病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	713
39.	脳血管病態学講座（旧脳血管病態部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	713
40.	脳神経生理学講座（旧機能回復部門）（附属脳神経血管病態研究施設）	714
41.	脳神経内科学講座（旧神経統御部門）（附属脳神経血管病態研究施設）（診療科：神経内科を含む）	714
42.	分子生体防御学講座（旧高度先進医学研究センター）	715
43.	糖鎖工学講座（旧生化学第一講座）	716
44.	附属動物実験施設	716
45.	医学教育センター	719
46.	手術部（2006年度分資料なし）	719
47.	検査部	720
48.	放射線部	720
49.	材料部	721
50.	救急部	722
51.	輸血部	722
52.	集中治療部	723
53.	周産母子センター	724
54.	病理部	724
55.	光学医療診療部	725
56.	リハビリテーション部	726
57.	強力化学療法室（ICTU）	726
58.	地域連携室	727

59.	MEセンター	728
60.	治験管理センター	728
61.	卒後臨床研修センター	729
62.	歯科医師卒後臨床研修室	730
63.	腫瘍センター	730
64.	栄養管理部	731
65.	病歴部（2007年度新設のため、2007年度のみ報告）	731
66.	地域医療支援センター	732
67.	医療安全推進室（2006年度分資料なし）	736

教 育 活 動

第1章 教育活動

1. 神経解剖・細胞組織学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

80%

これから2年間の目標：

教育活動を本務として、積極的に実行するとともに、個々の教員の教育能力の向上を図る。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	正村 和彦	教授	基礎教育	生物学の基礎 I I B	10
	小田桐紗織	助手	基礎教育	基礎ゼミナール	43.5

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	浅野 義哉	助手	基礎教育科目	基礎科学実験	18
07年度	浅野 義哉	助教	基礎教育科目	基礎科学実験	18

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	正村 和彦	教授	脳の科学	3	28
	浅野 義哉	助手	個体の構成と機能	2	4
	目黒 玲子	助手	コア B-1 個体の構造と機能	2	6
	小田桐紗織	助手	基礎人体科学演習	1	87
07年度	浅野 義哉	助教	個体の構成と機能	2	8
	目黒 玲子	助教	個体の構成と機能	2	4.5
	小田切沙織	助手	基礎人体科学演習	1	60

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	正村 和彦	教授	組織学実習	2	60
	浅野 義哉	助手			
	目黒 玲子	助手	脳の解剖実習	3	20
	小田桐紗織	助手			
07年度	浅野 義哉	助教	組織学実習	2	60
			発展生命科学 I (実習)	3	20
	目黒 玲子	助教	組織学実習	2	49.5
			発展生命科学 I (実習)	3	15
	小田切沙織	助手	組織学実習	2	30
			発展生命科学 I (実習)	3	15

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4名	浅野 義哉, 目黒 玲子
07年度	2名	浅野 義哉, 目黒 玲子

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	正村 和彦	教授	最新のトピックス・・・		4

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	正村 和彦	教授	80	80
	目黒 玲子	助手	28	28
07年度	浅野 義哉	助教	30	30
	目黒 玲子	助教	42	42

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	正村 和彦	教授	個体の構成と機能 脳の科学	3.5 —
	小田桐紗織	助手	基礎人体科学演習	4.24
07年度	小田切沙織	助手	基礎人体科学演習	前期3.87 後期4.00

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
組織学実習	2	15	60	3.8	3.7
脳の解剖学	3	5	20	—	—

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
発展生命科学Ⅰ（脳解剖実習）	3	5	20	—	—
組織学実習	2	15	60	3.3	3.8

2. 生体構造医科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

8-9割。

学生が興味・関心を持って授業を受けており、またよく理解している。

学士編入学生もスムーズに入り込むことが出来、興味・関心を持ち理解できたことは良かった。

准教授・助教は教育経験を積み、進歩した。

学外の教育においても、コメディカル学生の人体解剖学見学実習を含む解剖学教育等で有意義な貢献をした。

これから2年間の目標：

1. 医学部、他学部あるいはコメディカル、大学院学生等に、肉眼解剖学、細胞・組織学、神経内分泌学、発達・老化を含む実験医学・生物学等を興味をもって学習・修得できるような授業を行なう。
2. 医学部学生には、医学・医療の基本をきちんと学習・体得させるよう努力する。また、3年次途中入学者へも対応できるよう努力する。
解剖学の理解を助けるプリント、実習マニュアルを充実・完成させる。
発生学の講義を、講義プリント等を整理・充実し、学生の理解しやすい、興味をもちやすいものにする。
3. 准教授・助教の教育能力を一層高めるよう経験を積ませる。
4. 社会的貢献にも努力する。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	加地 隆	教授	21世紀教育 (テーマ科目)	生活習慣と健康（人体の加齢による変化）	2コマ

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	加地 隆	教授	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	1クール
	外崎 敬和	助教授		基礎科学実験（生物）	3回 (3コマ/回)
	渡邊 誠二	助手		基礎ゼミナール	1クール
07年度	加地 隆	教授	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	8コマ
	外崎 敬和	准教授	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	3コマ
			21世紀教育（自然系基礎）	基礎科学実験（生物）	3回 (1コマ/回)
	渡邊 誠二	助教	21世紀教育（導入科目）	基礎ゼミナール	3コマ

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	加地 隆	教授	個体の構成と機能 発展生命科学Ⅱ	2年，学士3年 3年	15コマ＋骨学実習5コマ 1コマ
	外崎 敬和	助教授	個体の構成と機能 発展生命科学Ⅱ	2年，学士3年 3年	6コマ（実習講義5コマを含む）＋骨学実習5コマ 1コマ
	渡邊 誠二	助手	個体の構成と機能	2年，学士3年	1コマ＋骨学実習10コマ
07年度	加地 隆	教授	個体の構成と機能 発展生命科学Ⅱ	2年 3年	10コマ＋骨学実習5コマ 1コマ
	外崎 敬和	准教授	個体の構成と機能 発展生命科学Ⅱ	2年 3年	9コマ＋骨学実習5コマ 1コマ
	渡邊 誠二	助教	個体の構成と機能	2年	3コマ＋骨学実習10コマ

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	加地 隆	教授	研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3 年 2 年, 学士 3 年 1 年	1 クール 35 回（3 コマ／回） 1 クール
	外崎 敬和	助教授	研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習	3 年 2 年, 学士 3 年	1 クール 35 回（3 コマ／回）
	渡邊 誠二	助手	人体解剖学実習 基礎人体科学演習	2 年, 学士 3 年 1 年	35 回（3 コマ／回） 1 クール
07年度	加地 隆	教授	研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3 年 2 年 1 年	1 クール 35 日（3 コマ／日） 2 クール
	外崎 敬和	准教授	研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3 年 2 年 1 年	1 クール 35 日（3 コマ／日） 2 クール
	渡邊 誠二	助教	研究室研修（チュートリアル） 人体解剖学実習 基礎人体科学演習	3 年 2 年 1 年	1 クール 35 日（3 コマ／日） 2 クール

06年度

- * 毎回約 1 時間の実習講義の後に実習。毎回約 2 時間の居残り実習に教員が最低 1 人、通常は 2 人が指導を続け、午後 8 時に施錠。その他に 1-2 回の実習補習を行った。
- * 3 回の実習口頭試問の他に、3 回の筆記試験を行った。

07年度

- * 毎回約 1 時間の実習講義の後に実習。毎回約 2 時間の居残り実習に教員が最低 1 人、通常は 2 人が指導を続け、午後 8 時に施錠。その他に 1-2 回の実習補習を行った。
- * 3 回の実習口頭試問の他に、3 回の筆記試験を行った。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	加地 隆	教授	6 年（3 名）	3 クール
	外崎 敬和	助教授	6 年（3 名）	3 クール
	渡邊 誠二	助手	6 年（3 名）	3 クール

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4 名	外崎 敬和, 渡邊 誠二
07年度	3 名	外崎 敬和

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	加地 隆	教授	医学研究概論		1 コマ
07年度	加地 隆	教授	医学研究概論 I	1, 2 年	1 コマ

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	外崎 敬和	准教授	医学研究基礎技術実習	1 年	3 コマ

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	加地 隆	教授	平成18年度弘前大学医学部医学科FD講演会（マーサー大学における医学の新教育法, 2006.5.18）
	外崎 敬和	助教授	平成18年度弘前大学医学部医学科FD講演会（マーサー大学における医学の新教育法, 2006.5.18） クリニカルクラークシップFD講演会（2007.3.3）
07年度	加地 隆	教授	2007年度医学研究科教育FD（大学院教育の現状と実質化・大学院シラバスの作成方法, 2008.1.29, MCC）
	外崎 敬和	准教授	2007年度医学研究科教育FD（大学院教育の現状と実質化・大学院シラバスの作成方法, 2008.1.29, MCC）

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	外崎 敬和	助教授	2回	2回（2コマ／回）
	渡邊 誠二	助手	17回	17回（2コマ／回）
07年度	外崎 敬和	准教授	17回	17回
	渡邊 誠二	助教	18回（36時間）	18回（36時間）

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	加地 隆	教授	人体解剖学実習 個体の構成と機能	95-100% 85-100%
	外崎 敬和	助教授	人体解剖学実習 個体の構成と機能	95-100% 90-100%
	渡邊 誠二	助手	人体解剖学実習 個体の構成と機能	95-100% 90-100%
07年度	加地 隆	教授	個体の構成と機能（含骨学実習） 人体解剖学実習	85-100% 95-100%
	外崎 敬和	准教授	個体の構成と機能（含骨学実習） 人体解剖学実習	85-100% 95-100%
	渡邊 誠二	助教	個体の構成と機能（含骨学実習） 人体解剖学実習	85-100% 95-100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	加地 隆	教授	個体の構成と機能、人体解剖学実習	A: 3.7, B: 3.5
	外崎 敬和	助教授	個体の構成と機能、人体解剖学実習	良好 (A: 4.2, B:-)
	渡邊 誠二	助手	個体の構成と機能、人体解剖学実習	良好 (A, B: 4.0)
07年度	加地 隆	教授	個体の構成と機能および人体解剖学実習講義	良好
	外崎 敬和	准教授	個体の構成と機能および人体解剖学実習講義	良好
	渡邊 誠二	助教	個体の構成と機能および人体解剖学実習講義	良好

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
人体解剖学	2年, 学士3年	35日 (3コマ/日)	210時間	4.5	4.3

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
人体解剖学	2年, 学士3年	35日 (3コマ/日)	210時間	4.0	3.9

3. 統合機能生理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

この2年間に旧第一生理と第二生理が統合機能生理学講座となり、教授1名減となったが、現有の教育スタッフ3名（教授1名、准教授2名）で、学部教育に関しては100%の目標を達成した。大学院生の入学がなく、その点での目標は達成できなかった。

これから2年間の目標：

教授・准教授に加え、本年度採用された助教を教育スタッフとして育成ことにより、学部および大学院学生に、高度な教育の実現を目指す。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	山田 勝也	助教授	テーマ科学	最新医学の現状	6
07年度	蔵田 潔	教授		基礎ゼミナール	30
	相澤 寛	准教授	テーマ科目	最新医学の現状 (J)	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	泉井 亮	教授	コア B-1 (1) 個体の構成と機能 生体の恒常性維持と適応の機構	2 年前期	4
			コア B-1 (4) 個体の構成と機能	2 年前期	10
	蔵田 潔	教授	コア B-1：個体の構成と機能	2 年	5
			基礎人体科学演習	1 年	28
	山田 勝也	助教授	発展生命科学Ⅱ 細胞内情報伝達と細胞機能Ⅰ &Ⅱ	3 年前期	4
			コア B-1 (1) 個体の構成と機能 生体の恒常性維持と適応の機構	2 年前期	2
			チュートリアル教育	3 年前期	8
			チュートリアル教育	3 年後期	8
07年度	相澤 寛	助教授	基礎人体科学演習	1 年後期	32
			コア B-1：個体の構成と機能	2 年	5
	蔵田 潔	教授	基礎人体科学演習	1 年	4
			コア B-1：個体の構成と機能	2 年	18
	相澤 寛	准教授	基礎人体科学演習	1 年	28
			コア B-1：個体の構成と機能	2 年	18
	山田 勝也	准教授	基礎人体科学演習	1 年	4
			コア B-1：個体の構成と機能	2 年	20
			発展生命科学Ⅱ	3 年	4
			チュートリアル教育	3 年	16
			基礎人体科学演習	1 年	2

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	泉井 亮	教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	2 年	50
	蔵田 潔	教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	M 2・学士入学 M 3	10
	山田 勝也	助教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	2 年	40
	相澤 寛	助教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	M 2・学士入学 M 3	10

07年度	蔵田 潔	教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	2 年	60
	相澤 寛	准教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	2 年	50
	山田 勝也	准教授	統合基礎医学実習 A (生理学実習)	2 年	50

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	山田 勝也
07年度	1名	蔵田 潔
	1名	山田 勝也

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	蔵田 潔	教授	生理学総論・人体生理学	1・2	4
	山田 勝也	助教授	医学研究概論 最新のトピックスと今後の展開	1 年前期	2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	山田 勝也	助教授	医学研究基礎技術実習パッチクランプ法	1 年後期	5

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	泉井 亮	教授	Iptakalim inhibits KATP channels activity of rat pancreatic β -cells.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	山田 勝也	助教授	4 年	保健学科卒業研究指導	9 ヶ月

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	泉井 亮	教授	7	7
	蔵田 潔	教授	4	0
	山田 勝也	助教授	通年 (学位論文指導 3 名)	0
			34	34
07年度	蔵田 潔	教授	4	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	泉井 亮	教授	コア B-1 (1) 個体の構成と機能	90%
			コア B-1 (4) 個体の構成と機能	90%
			総合基礎医学実習 A	100%
	蔵田 潔	教授	コア B-1(4)：個体の構成と機能	85%
	山田 勝也	助教授	最新医学の現状	95%
			発展生命科学Ⅱ	90%
			コア B-1 (1) 個体の構成と機能	85%
			チュートリアル教育	100%
			基礎人体科学演習	100%
			総合基礎医学実習 A	100%
07年度	蔵田 潔	教授	コア B-1 個体の構成と機能 (1) 細胞の機能と個体の生理機能	90%
			コア B-1 個体の構成と機能 (4) 神経系の生理学的機構	90%
			基礎人体科学演習	100%
			統合基礎医学実習 A	100%
	相澤 寛	准教授	コア B-1 個体の構成と機能 (1) 細胞の機能と個体の生理機能	90%
			コア B-1 個体の構成と機能 (4) 神経系の生理学的機構	90%
			基礎人体科学演習	100%
			統合基礎医学実習 A	100%
	山田 勝也	准教授	コア B-1 個体の構成と機能 (1) 細胞の機能と個体の生理機能	90%
			コア B-1 個体の構成と機能 (4) 神経系の生理学的機構	90%
			基礎人体科学演習	100%
			統合基礎医学実習 A	100%
			発展生命科学Ⅱ	100%
			チュートリアル教育	100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	泉井 亮	教授	コア B-1 (1) 個体の構成と機能	評価 A 4.0
				評価 B 3.9
	蔵田 潔	教授	コア B-1：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	評価 A 3.4
				評価 B 4.0
	山田 勝也	助教授	個体の構成と機能	評価 A 4.1
				評価 B 4.0
07年度	相澤 寛	助教授	コア B-1：個体の構成と機能 基礎人体科学演習	評価 A 3.6
				評価 B 4.0
	蔵田 潔	教授	個体の構成と機能	3.4
	相澤 寛	准教授	個体の構成と機能	
	山田 勝也	准教授	個体の構成と機能	3.9

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A (生理学実習)	2年	10	50	4.3	4.2
統合基礎医学実習 A	2年	15	45	4.1	4.0

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A	2年	10	60	4.4	4.1

4. ゲノム生化学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- 1 学生の理解を確かめながら，思考力，創造力を育成するように講義，実習を行ない，80％程度の成果を得た。
- 2 成績の評価について，色々な出題形式を試み，改善に努めた。
- 3 大学院学生の教育について，実験データの解析を通して，知識の具体化を図るように努め，80％程度の成果を得た。

これから2年間の目標：

- 1 生命活動や病気の物質的基盤を理解するために必要な知識を与え，学生の理解度を確かめながら，学生の思考力，想像力，創造力を育成するように努める。
- 2 知識，記憶中心の評価から，運用能力，応用力を重視した評価を行なうように，試験問題の改善に努める。
- 3 大学院学生の研究能力の向上を図るために，生命科学全般について，必要な知識を身につけられよう，教育の充実に努める。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	土田 成紀	教授	テーマ	人間の尊厳	6 時間
	山田 俊幸	助教授	テーマ科目	最新医学の現状 (F)	6 時間
07年度	土田 成紀	教授	テーマ科目	人間の尊厳	10 時間

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	土田 成紀	教授	基礎教育科目	基礎科学実験 (化学)	24 時間
07年度	土田 成紀	教授	基礎教育科目	基礎科学実験 (化学)	24 時間
	山田 俊幸	准教授		基礎ゼミナール	30 時間

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	土田 成紀	教授	個体の構成と機能 (6) 遺伝と遺伝子 発展生命科学 II	2 年	30 時間
				3 年	4 時間
07年度	土田 成紀	教授	個体の構成と機能 (6) 遺伝と遺伝子 発展生命科学 II	2 年	30 時間
				3 年	4 時間

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	土田 成紀	教授	統合基礎医学実習 A チュートリアル	2 年	60 時間
				3 年	16 時間
	山田 俊幸	助教授	統合基礎医学実習 A 基礎人体科学演習	2 年	60 時間
				1 年	60 時間
07年度	清水 武史	助手	統合基礎医学実習 A チュートリアル	2 年	60 時間
				3 年	16 時間
	土田 成紀	教授	統合基礎医学実習 A チュートリアル	2 年	60 時間
				3 年	32 時間
07年度	山田 俊幸	准教授	基礎人体科学演習 統合基礎医学実習 A	1 年	84 時間
				2 年	60 時間
07年度	清水 武史	助教	チュートリアル 統合基礎医学実習 A	3 年	16 時間
				2 年	60 時間

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4名	土田 成紀
07年度	2名	土田 成紀

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	土田 成紀	教授	医学研究概論（前期）	1年	2時間
07年度	土田 成紀	教授	医学研究概論（前期） 医学研究概論（後期）	1年 1年	2時間 6時間

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	土田 成紀	教授	医学研究基礎技術実習	1年	4時間
	山田 俊幸	助教授	腫瘍病態科学実験実習	2年	120時間
07年度	土田 成紀	教授	医学研究基礎技術実習	1年	4時間

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
07年度	土田 成紀	教授	Development of glutathione S-transferase-P-negative foci accompanying nuclear factor-erythroid 2-related factor 2 expression during early stage of rat hepatocarcinogenesis

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	土田 成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム
07年度	土田 成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
07年度	山田 俊幸	准教授	4年	卒業研究（保健学科）	1年間
	清水 武史	助教	4年	卒業研究（保健学科）	1年間

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	土田 成紀	教授	個体の構成と機能 (6) 遺伝と遺伝子	85%
			発展生命科学 II	85%
			統合基礎医学実習 A	100%
			チュートリアル	100%
07年度	山田 俊幸	助教授	統合基礎医学実習 A	100%
			基礎人体科学演習	100%
			統合基礎医学実習 A	100%
07年度	清水 武史	助手	統合基礎医学実習 A	100%
			統合基礎医学実習 A	100%
			統合基礎医学実習 A	100%
			統合基礎医学実習 A	100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	土田 成紀	教授	個体の構成と機能 (6) 遺伝と遺伝子	A 3.7/B 3.5
07年度	土田 成紀	教授	個体の構成と機能 (6) 遺伝と遺伝子	A 3.9/B 3.9

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A	2 年	10	60	3.9	3.6

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A	2 年	60 日	360 時間	4.2	4.0

5. 病態薬理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

（目標）

- ・医療従事者中心，疾病中心の医療から，患者中心の医療への変化に呼応した教育を実践する。
- ・大学院生を取り巻く環境の大きな変化を踏まえた上で，大学院生の教育・研究の充実を目指す。

（到達度）

- ・コアカリキュラムの沿った教育を実践し，相応の成果を上げたと考えられるが，さらに一層，患者中心の医療を念頭に教育内容のブラッシュアップを図る必要があると考える。また大学院生の多くが社会人大学院生となり，じっくり研究に取り組む時間が確保できない状況の中，学位を4名の大学院生に取らせることが出来た。従って到達度は80％程度と考えられる。

これから2年間の目標：

目標そのものは2年前の内容が十分意味があると考えるので，さらにこれからの2年間，その目標に沿って，より一層充実した内容の教育を実践したい。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	元村 成	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
	古川 賢一	助教授	基礎教育科目	生物学の基礎 IIB	10
			テーマ科目	薬と健康	4
			テーマ科目	最新医学の現状	2
07年度	元村 成	教授	テーマ科目	生活習慣と健康 (F)	6
	古川 賢一	准教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
			基礎教育科目	生物学の基礎 IIB	10
			テーマ科目	生物の科学と技術	10

2）実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	元村 成	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	6
	古川 賢一	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	18
07年度	元村 成	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	20
	古川 賢一	准教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	18

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	元村 成	教授	基礎人体科学演習	1	120
			侵襲と生体応答	2	24
			発展生命科学 II	2	2
			系統別講義（循環器系）	4	2
	古川 賢一	助教授	侵襲と生体応答	2	4
			特別教育科目（研究室研修）	3	270
			チュートリアル	3	12
	瀬谷 和彦	助手	特別教育科目（研究室研修）	3	270
			チュートリアル	3	6
	木村 正臣	助手	チュートリアル	3	6

07年度	元村 成	教授	基礎人体科学演習	1	120
			侵襲と生体応答（薬理学総論）	2	24
			発展生命科学Ⅱ	3	2
			診療の基本的知識（薬理学各論）	4	20
			発展臨床医学Ⅱ（東洋医学）	4	6
			循環器と疾患（循環器系の薬理学）	4	2
	古川 賢一	准教授	診療の基本的知識（薬理学各論）	4	22
			発展生命科学Ⅱ	3	2
			特別教育科目（研究室研修）	3	270
	瀬谷 和彦	助教	チュートリアル	3	8
			特別教育科目（研究室研修）	3	270
	木村 正臣	助教	チュートリアル	3	6
			チュートリアル	3	6

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	元村 成	教授	統合基礎医学実習 B	3	42
				2	30
	古川 賢一	助教授	統合基礎医学実習 B	3	42
				2	30
07年度	瀬谷 和彦	助手	統合基礎医学実習 B	3	42
				2	30
	木村 正臣	助手	統合基礎医学実習 B	3	42
				2	30
	元村 成	教授	統合基礎医学実習 B	2	36
				2	36
	古川 賢一	准教授	統合基礎医学実習 B	2	36
				2	36
	瀬谷 和彦	助教	統合基礎医学実習 B	2	36
				2	36
	木村 正臣	助教	統合基礎医学実習 B	2	36
				2	36

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	木村 正臣	助手	2 年	26

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4名	古川 賢一，瀬谷 和彦
07年度	2名	古川 賢一，瀬谷 和彦

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	元村 成	教授	実験薬理学・講義	2・3	4
	古川 賢一	助教授	実験薬理学・講義	1・2	4
07年度	元村 成	教授	実験薬理学・講義	2・3	4
	古川 賢一	准教授	医学研究概論 実験薬理学・講義	1・2 1・2	2 4

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	元村成	教授	実験薬理学・実験実習	2・3	4
			循環薬理学・実験実習	2・3	2
07年度	古川賢一	助教授	タンパク質情報学・実験実習	1・2	4
	古川 賢一	准教授	タンパク質情報学・実験実習	1・2	4
	瀬谷 和彦	助教	医学研究基礎技術実習	1	6

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	元村 成 (阿部馨)	教授	Generation of antitumor active neutral medium-sized α -glycan in apple vinegar.
	古川 賢一 (澤田利匡)	助教授	Effects of extracellular nucleotides on cultured fibroblast-like cells from human cervical ligamentum flavum (ヒト脊椎靱帯由来培養細胞に対する細胞核酸の影響酸の影響)
07年度	元村 成 古川 賢一	教授 准教授	Calcification of Aortic Smooth Muscle Cells Isolated from Spontaneously Hypertensive Rats(高血圧自然発症ラットの動脈平滑筋細胞の易石灰化)(金丸幸太) A Functional RNAi Screen for Runx2-regulated Genes Associated with Ectopic Bone Formation in Human Spinal Ligaments. (ヒト脊椎靱帯の異所性骨化に関与する Runx2調節遺伝子の RNA 干渉による探索)(岸谷正樹)

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	瀬谷 和彦	助手	4年	臨床薬理学(保健学科)	15
			1年	薬理概論(教育学部)	15
07年度	元村 成	教授	1年	保健学科看護学専攻・薬理学	30
	瀬谷 和彦	助教	3・4年	臨床薬理学(保健学科)	15
			1年	薬理概論(教育学部)	15

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	元村 成	教授	34	30
07年度	元村 成	非常勤講師	4	4
	古川 賢一	非常勤講師	22	22

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	元村 成	教授	基礎人体科学演習	100%
			侵襲と生体応答	90%
			統合基礎医学実習 B (3年)	100%
			統合基礎医学実習 B (2年)	100%
	古川 賢一	助教授	侵襲と生体応答	90%
			統合基礎医学実習 B (3年)	100%
07年度	元村 成	教授	統合基礎医学実習 B (2年)	100%
			臨床薬理学 (保健学科)	90%
			薬理概論 (教育学部)	100%
			基礎人体科学演習	100%
			侵襲と生体応答 (薬理学総論)	95%
			発展生命科学 II	90%
	古川 賢一	准教授	診療の基本的知識 (薬理学各論)	95%
			発展臨床医学 II (東洋医学)	90%
	瀬谷 和彦	助教	循環器と疾患 (循環器系の薬理学)	90%
			統合基礎医学実習 B	100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	元村 成	教授	発展生命科学Ⅱ 侵襲と生体応答	3.2
	古川 賢一	助教授	侵襲と生体応答	2.6
07年度	古川 賢一	助教授	侵襲と生体応答	4.0
	元村 成	教授	基本的診療の知識（薬理学各論）	3.3
	古川 賢一	准教授	基本的診療の知識（薬理学各論）	4.1
	瀬谷 和彦	助教	臨床薬理学（保健学科） 薬理概論（教育学部）	3.6
				3.9

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2 年			4.2	4.1
統合基礎医学実習 B	3 年			4.3	4.1

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2 年	7 日	42	データ無し	データなし

6. 分子病態病理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- 1) 医学科学生に講義、実習を通して、病理学が医学の中で占める重要性を認識させ、正しい知識と、それを実際に症例を通じて体得させるよう努めた。大半の学生は、講義、実習を通して体得できたようであり、9割方は到達できた。
- 2) 病理形態診断学に加え、疾患のメカニズムや新しい治療法と深く関連した分子病理学的情報を講義に盛り込む。
- 3) 医学部医学科の病理学実習、クリニカルクラークシップ、研修室研修、保健学科の病理学実習により、単なる知識の伝達のみではなく、医療職に就くものとしての人間のあり方についても教育してきたつもりである。本目標は、十分に達成されていると考えている。

これから2年間の目標：

- 1) 病理学が、最新医学の中で、臨床と密接に関連し、臨床医学の一分野であることを認識させ、更なる関心をもたせる。また、研究を志向する学生を育てる。
- 2) 病理総論疾患の分子病理学的なメカニズム、分子標的治療法を中心とした新しい治療法と疾患メカニズムとの関連、感染症を中心に診断における分子病理学的手法など、最新の病理の知見と関連した治療法を講義に盛り込む。
- 3) 今までと同様に、主として実習を通じて、病理学の基礎知識を教えることと同時に、自らの力で知識を広げていけるような人材育成をめざす。また、大学での研究成果を地域医療に還元できるよう努力する。
- 4) 引き続き、担当する講義・実習を通じて学生の医学への理解を助け、病理学の面白さを伝えて行きたい。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	八木橋操六	教授	基礎科目	最新医学の現状Ⅲ	2
	水上 浩哉	助手		基礎ゼミナール	8
	矢嶋 信久	助手	21世紀教育	基礎ゼミナール	4
07年度	矢嶋 信久	助教	21世紀教育	基礎ゼミナール	4

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	矢嶋 信久	助教	専門教育科目（学部）	発展生命科学Ⅲ	180
				人体の病理と病態実習	174
				クリニカルクラークシップ	64

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	八木橋操六	教授	発展生命科学Ⅲ	3年	28
			人体の病理と病態	3年	14
	和田 龍一	助教授	発展生命科学Ⅲ	3年	4
			病理と病態	3年	4
	水上 浩哉	助手	発展生命科学Ⅲ	3年	2
07年度	八木橋操六	教授	基礎人体科学	1年	28
			人体の病理と病態	3年	14
			発展生命科学Ⅲ	3年	16
			応用病理	4年	4
	和田 龍一	准教授	病理と病態	3年	4
			発展生命科学Ⅲ	3年	6
			病理学実習講義	3年	6
			応用病理	4年	4
	水上 浩哉	助教	チュートリアル	3年	12
	矢嶋 信久	助教	チュートリアル教育	3年	8

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態 人体の病理と病態	3 年 4 年	180 168
	和田 龍一	助教授	人体の病理と病態実習 病理学実習		180 174
	水上 浩哉	助手	人体の病理と病態	3, 4 年	354
	矢嶋 信久	助手	発展生命科学Ⅲ 人体の病理と病態実習		180 174
07年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態・実習	3 年	48
	和田 龍一	准教授	病理学実習	3 年	30
	水上 浩哉	助教	病理学実習	3 年	45

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	八木橋操六, 和田 龍一, 水上 浩哉, 矢嶋 信久
07年度	2名	和田 龍一, 水上 浩哉, 八木橋操六

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	八木橋操六	教授	病理系	1～3年	2
07年度	八木橋操六	教授	病理系	1～3年	6

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	八木橋操六	教授	病理診断実習	1～3年	40
07年度	八木橋操六	教授	病理診断実習	1～3年	24

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	矢嶋 信久	助手	3 年	臨地実習病理組織細胞学	84
07年度	矢嶋 信久	助教	3 年	臨地実習病理組織細胞学	84

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
07年度	水上 浩哉	助教	2	2

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
07年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態	97%
			発展生命科学Ⅲ	95%
			応用病理	90%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
07年度	和田 龍一	准教授	病理学実習	(A) 3.8, (B) 3.6

2) 専門教育の評価 該当なし。

7. 病理生命科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

以下の4点を重視しながら教育を行うことを目標としている。

1. 常に学生とのコミュニケーションを大切にし、学生が意欲的に勉学に取り組むよう方向付けを行うとともに、学生からの教育評価のフィードバックを受け入れる。
2. 学部教育では、臨床医学の基礎として、主要疾患の病態（疾患機序）を把握することや個体レベルで疾患の重要性を理解することを主眼とする。
3. 大学院教育では、自らが研究データの解析と体系化を行えるよう指導する。
4. コアカリキュラムや最新の知見に基づき、常に授業内容の見直しを図る。

自己評価に加えて、学生授業アンケートでも高い評価をえており、上記の目標に対する到達度は、80%と判断される。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で、(1) 学生とのコミュニケーション、(2) 病態把握に主眼をおいた学部教育、(3) 研究の体系化を重視した大学院教育、(4) 弛まぬ授業内容の見直し、の4点を重視する。また、新たに

1. 学部教育では、有意義な病理学実習を実現するため、実習材料の改善を図る。
2. 大学院教育では、研究データの解析と体系化を行えるとともに、研究の客観性と国際性を重要視して英文論文を作成するよう指導する。

ことを、目標に加えたい。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	楠美 智巳	講師	テーマ科目	運動とリハビリテーション (B)	4
	鬼島 宏	教授	テーマ・健康	最新医学の現状	4
07年度	楠美 智巳	講師	テーマ・健康	最新医学の現状	6
	佐藤 冬樹	助教	テーマ・健康	最新医学の現状	2

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授		基礎ゼミナール	30
07年度	鬼島 宏	教授		基礎ゼミナール	30

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	医学英語Ⅰ	1 年次	30
			病理と病態	3 年次	22
			チュートリアル教育	3 年次	8
			発展生命科学Ⅱ	3 年次	2
	楠美 智巳	講師	病理と病態	3 年次	8
			発展生命科学Ⅱ	3 年次	2
07年度	鬼島 宏	教授	チュートリアル教育	3 年次	8
			医学英語Ⅰ	1 年次	30
			病理と病態	3 年次	22
			チュートリアル	3 年次	8
			発展生命科学Ⅱ	3 年次	2
			応用病理	4 年次	10

07年度	楠美 智巳	講師	病理と病態 チュートリアル 発展生命科学Ⅱ 応用病理	3年次 3年次 3年次 4年次	8 8 2 4
	佐藤 冬樹	助教	医学英語Ⅰ チュートリアル 応用病理	1年次 3年次 4年次	2 16 4

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	基礎人体科学演習	1年次	30
			人体の病理と病態実習入門	3年次	20
			人体の病理と病態実習	3年次	20
			国家試験対策セミナー講座	6年次	2
06年度	楠美 智巳	講師	人体の病理と病態実習	3年次	50
			人体の病理と病態実習入門	3年次	50
			基礎人体科学演習	1年次	10
			人体の病理と病態実習	3年次	50
07年度	佐藤 冬樹	助手	人体の病理と病態実習入門	3年次	50
			基礎人体科学演習	1年次	60
			基礎人体科学演習	1年次	30
			人体の病理と病態実習入門	3年次	20
07年度	鬼島 宏	教授	人体の病理と病態実習	3年次	20
			国家試験対策セミナー講座	6年次	2
			基礎人体科学演習	1年次	4
			人体の病理と病態実習入門	3年次	40
07年度	楠美 智巳	講師	人体の病理と病態実習	3年次	40
			基礎人体科学演習	1年次	80
			人体の病理と病態実習入門	3年次	50
			人体の病理と病態実習	3年次	50

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	6年次	100
	楠美 智巳	講師	6年次	60
07年度	鬼島 宏	教授	6年次	100
	楠美 智巳	講師	6年次	60

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	5名	鬼島 宏, 楠美 智巳, 佐藤 冬樹
07年度	3名	鬼島 宏, 楠美 智巳, 佐藤 冬樹

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	医学研究概論		2
			最新医学の動向		2
			生体情報病態学		60
			病態病理学		60
06年度	楠美 智巳	講師	腫瘍病理学		60
			最新医学の動向	1年次	2
07年度	鬼島 宏	教授	医学研究概論		2
			最新医学の動向		2
			生体情報病態学		60
			病態病理学		60
07年度	佐藤 冬樹	助手	腫瘍病理学		60
			基礎人体科学演習	1年次	60
			人体の病理と病態実習入門	3年次	50
			人体の病理と病態実習	3年次	50

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	生体情報病態学演習		30
			生体情報病態学実験実習		60
	楠美 智巳	講師	病態病理学演習		30
			病態病理学実験実習		60
			腫瘍学演習		30
			腫瘍学実験実習		60
07年度	佐藤 冬樹	助手	実習・形態学コース		2
			生体情報病態学演習		30
	鬼島 宏	教授	生体情報病態学実験実習		60
			生体情報病態学演習		30
	楠美 智巳	講師	病態病理学演習		30
			病態病理学実験実習		60
			腫瘍学演習		30
			腫瘍学実験実習		60
	佐藤 冬樹	助教	実習・形態学コース		2
			生体情報病態学演習		30
			生体情報病態学実験実習		60

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	鬼島 宏	教授	Mucin expression in human colorectal adenocarcinomas Claudin-1 expression indicates long-term prognosis of colorectal adenocarcinoma
07年度	鬼島 宏	教授	Decreased expression of claudin-1 correlates with recurrence status in breast cancer Claudin-1 expression is correlated with tumor necrosis factor-alpha (TNF- α) in human pancreatic cancer cells (保健学科修士)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	鬼島 宏	教授	ティーチング・ポートフォリオ資格認定研修への派遣 Recording Teaching Accomplishment Institute, Centre for Learning and Teaching, Dalhousie University, Halifax, Canada, May 29 - June 6, 2006.
			地域医療 FD 第1回 (2006.12.6. 臨床大講義室)
			医学部 FD Active Learner をめざして (2006.12.15. MCC)
			地域医療 FD 第2回 (2006.12.20. 臨床大講義室)
	楠美 智巳	講師	地域医療 FD 第3回 (2007.1.10. 臨床大講義室)
			地域医療教育 FD 弘前大学医学部 FD 講演会
07年度	佐藤 冬樹	助手	地域医療 FD 第1回 (2006.12.6. 臨床大講義室)
			医学部 FD Active Learner をめざして (2006.12.15. MCC)
			地域医療 FD 第3回 (2007.1.10. 臨床大講義室)
			地域医療教育 FD 第1回 (2007.11.01. 病院大会議室)
	鬼島 宏	教授	地域医療教育 FD 第2回 (2007.11.20. 基礎第2講義室)
			地域医療教育 FD 第3回 (2007.11.29. 病院大会議室)
07年度	楠美 智巳	講師	地域医療教育 FD 第4回 (2007.12.04. 基礎第2講義室)
			地域医療教育 FD
	佐藤 冬樹	助教	地域医療教育 FD 第1回 (2007.11.01. 病院大会議室)
			地域医療教育 FD 第2回 (2007.11.20. 基礎第2講義室)

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	3 年次	検査技術科学専攻臨地実習	50
07年度	鬼島 宏	教授	4 年次	検査技術科学専攻卒業研究	100
			3 年次	検査技術科学専攻臨地実習	50
	佐藤 冬樹	助教	4 年次	検査技術科学専攻卒業研究	270
			3 年次	検査技術科学専攻臨地実習	50

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	鬼島 宏	教授	2（広島大学） 2（山形大学） 10（秋田看護福祉大学）	10
	楠美 智巳	講師	20	20
07年度	鬼島 宏	教授	2（広島大学） 3（東海大学） 8（秋田看護福祉大学）	8
	楠美 智巳	講師	10（秋田看護福祉大学） 30（五所川原市立高等医看護学院）	10 30
	佐藤 冬樹	助教	10（秋田看護福祉大学）	10

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	鬼島 宏	教授	病理と病態	95%
			人体の病理と病態実習入門	95%
			人体の病理と病態実習	95%
	楠美 智巳	講師	病理と病態	90%以上
07年度	鬼島 宏	教授	基礎人体科学演習	90%
			チュートリアル教育	100%
			病理と病態	95%
	楠美 智巳	講師	人体の病理と病態実習入門	95%
			人体の病理と病態実習	95%
	佐藤 冬樹	助教	病理と病態	90%以上
			基礎人体科学演習	90%
			チュートリアル教育	100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	鬼島 宏	教授	病理と病態	(A) 4.6, (B) 4.6
	楠美 智巳	講師	人体の病理と病態実習入門	2.9
			病理と病態	3.3
	佐藤 冬樹	助手	チュートリアル教育	最頻値：5段階評価で4.4
07年度	鬼島 宏	教授	応用病理（4年次）	(A) 4.4, (B) 4.5
	楠美 智巳	講師	応用病理	2.8
	佐藤 冬樹	助教	応用病理	4.2

2) 専門教育の評価 該当なし。

8. 感染生体防御学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当した。
2. コアカリキュラムに準拠し，学生が理解しやすい講義を行うよう，研鑽している。
3. チュートリアル教育の点検に務めた。
4. 学生と双方関係を持ちながら講義を進めている。

これから2年間の目標：

1. 21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
2. コアカリキュラムに準拠し，学生が理解しやすい講義を行うよう，研鑽する。
3. カリキュラムの改善を行う。
4. 学生と双方関係を持ちながら授業を進める。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
			テーマ科目	環境と生活 C	14
07年度	中根 明夫	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
			テーマ科目	環境と生活 C	12

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	36
	胡 東良	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	36
	差波 拓志	助手講師	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	36
	長内 理大	助手講師	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	36
	成田 浩司	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	36
07年度	中根 明夫	教授	基礎教育科目	基礎科学実験	18
	胡 東良	准教授	基礎教育科目	基礎科学実験	18
	差波 拓志	助教	基礎教育科目	基礎科学実験	18
	長内 理大	助教	基礎教育科目	基礎科学実験	18
	成田 浩司	助教	基礎教育科目	基礎科学実験	18

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	基礎人体演習	1 年	60
			個体の構造と機能	2 年	4
			侵襲と生体応答	2 年	62
			チュートリアル	3 年	16
			発展生命科学Ⅱ	3 年	2
	胡 東良	助教授	侵襲と生体応答	2 年	16
			チュートリアル	3 年	14
	差波 拓志	助手講師	侵襲と生体応答	2 年	2
			チュートリアル	3 年	14
	長内 理大	助手講師	侵襲と生体応答	2 年	14
			チュートリアル	3 年	16
			発展生命科学Ⅱ	3 年	2
	成田 浩司	助手	チュートリアル	3 年	20

07年度	中根 明夫	教授	基礎人体演習 侵襲と生体応答 チュートリアル 発展生命科学Ⅱ	1年 2年 3年 3年	64 56 8 2
	胡 東良	准教授	侵襲と生体応答 チュートリアル	2年 3年	16 14
	差波 拓志	助教	チュートリアル	3年	8
	長内 理大	助教	侵襲と生体応答 チュートリアル	3年 2年	14 8
	成田 浩司	助教	チュートリアル	3年	16

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	統合基礎医学実習 B	2年	68
	胡 東良	助教授	統合基礎医学実習 B	2年	68
	差波 拓志	助手講師	統合基礎医学実習 B	2年	68
	長内 理大	助手講師	統合基礎医学実習 B	2年	68
	成田 浩司	助手	統合基礎医学実習 B	2年	68
07年度	中根 明夫	教授	統合基礎医学実習 B	2年	68
	胡 東良	准教授	統合基礎医学実習 B	2年	68
	差波 拓志	助教	統合基礎医学実習 B	2年	68
	長内 理大	助教	統合基礎医学実習 B	2年	68
	成田 浩司	助教	統合基礎医学実習 B	2年	68

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	9名	胡 東良, 差波 拓志, 長内 理大, 成田 浩司
07年度	7名	中根 明夫, 胡 東良, 差波 拓志, 長内 理大, 成田 浩司

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	生命科学と倫理	1年	2
			医学研究概論	1年	2
			遺伝発生研究セミナー	1年	2
07年度	中根 明夫	教授	生命科学と倫理	1年	2
			医学研究概論	1年	2
			遺伝発生研究セミナー	1年	2
			感染免疫・生体防御学講義	2年	50
			感染免疫・生体防御学演習	2年	60
			免疫制御学講義	2年	60
			免疫制御学演習	2年	30
	胡 東良	准教授	感染免疫・生体防御学講義 感染免疫・生体防御学演習	2年 2年	10 60
	差波 拓志	助教	免疫制御学演習	2年	60

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	差波 拓志	助手講師	医学研究基礎技術実習	1年	2
07年度	中根 明夫	教授	感染免疫・生体防御学実験実習 免疫制御学実験実習	1年 1年	90 90
	胡 東良	准教授	感染免疫・生体防御学実験実習	1年	90
	差波 拓志	助教	免疫制御学実験実習	1年	90
	長内 理大	助教	感染免疫・生体防御学実験実習	1年	90

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	中根 明夫	教授	All-trans-retinoic acid (atRA) increases host resistance to <i>Listeria monocytogenes</i> infection through macrophage activation in vitamin A-deficient mice
07年度	中根 明夫	教授	Intranasal immunization of mutant toxic shock syndrome toxin 1 elicits systemic and mucosal immune response against <i>Staphylococcus aureus</i> infection

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	中根 明夫	教授	チュートリアル授業チューター育成 FD (前期) チュートリアル授業チューター育成 FD (後期)
07年度	中根 明夫	教授	チュートリアル授業チューター育成 FD (前期) チュートリアル授業チューター育成 FD (後期)

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	教育学部 2 年	微生物学	30
07年度	中根 明夫	教授	教育学部 2 年	微生物学	30

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	中根 明夫	教授	80	60
07年度	中根 明夫	教授	80	60
	成田 浩司	助教	30	30

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	中根 明夫	教授	基礎人体演習	100%
			個体の構造と機能	90%
			侵襲と生体応答 (微生物)	90%
			侵襲と生体応答 (免疫)	90%
07年度	中根 明夫	教授	統合基礎医学実習 B	100%
			侵襲と生体応答 (微生物)	90%
			侵襲と生体応答 (寄生虫)	97%
			発展生命科学 II	95%
06年度	胡 東良	助教授	基礎人体演習	100%
			侵襲と生体応答 (微生物)	95%
			侵襲と生体応答 (免疫)	95%
			統合基礎医学実習 B	100%
07年度	胡 東良	准教授	侵襲と生体応答 (微生物)	90%
			侵襲と生体応答 (寄生虫)	97%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	中根 明夫	教授	個体の構造と機能	(A) 4.0, (B) 3.9
	胡 東良	助教授	侵襲と生体応答	(A) 3.8, (B) 3.9
	長内 理大	助手講師	発展生命科学Ⅱ	(A) 4.0, (B) 4.0
07年度	中根 明夫	教授	侵襲と生体応答	(A) 4.0, (B) 3.8
	胡 東良	准教授	侵襲と生体応答	(A) 4.0, (B) 3.8
	長内 理大	助教	侵襲と生体応答	(A) 4.4, (B) 4.4

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2年	11	68	4.3	4.2

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 B	2年	12	68	4.2	4.1

9. 社会医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

社会性を賦与するための教育の推進。とくに現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採用された地域医療型クリニカルワークショップ教育の充実を図る。

以上の目標についてほぼ実践できた。

これから2年間の目標：

引き続き社会性を賦与するための教育の推進と、地域との連携による医療とその向上のための教育を目指す。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	中路 重之	教授		基礎ゼミナール	32
	梅田 孝	助教授	テーマ科目	運動とリハビリテーション (B)	6
07年度	中路 重之	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
			テーマ科目	生活習慣と健康 (F)	10
	梅田 孝	准教授	テーマ科目	運動とリハビリテーション (B)	6
			テーマ科目	生活習慣と健康 (H)	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中路 重之	教授	医用統計学	2	2
			基礎人体科学演習	1	68
			チュートリアル	3	4
			研究室研修	3	102
			社会と医学 I	4	90
	梅田 孝	助教授	基礎人体科学演習	1	20
			チュートリアル	3	16
			研究室研修	3	102
			社会と医学 I	3	16
	高橋 一平	助手 (助手講師)	基礎人体科学演習	1	20
			チュートリアル	3	16
	菅原 典夫	助手	研究室研修	3	102
			松坂 方士	3	102
07年度	中路 重之	教授	基礎人体科学演習	1	46
			医用統計学	2	2
			研究室研修	3	102
			チュートリアル	3	4
			健康と医学	4	36
			発展臨床医学 I	4	32
	梅田 孝	准教授	研究室研修	3	102
			チュートリアル	3	4
			健康と医学	4	12
	松坂 方士	助教	研究室研修	3	102
			チュートリアル	3	4

07年度	高橋 一平	助教	研究室研修	3	50
			チュートリアル	3	4
			健康と医学	4	4
	檀上 和真	助教	研究室研修	3	52

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中路 重之	教授	社会と医学実習	4	66
	梅田 孝	助教授	社会と医学実習	4	66
	高橋 一平	助手 (助手講師)	社会と医学実習	4	66
07年度	中路 重之	教授	実践社会医学	2	16
	梅田 孝	准教授	実践社会医学	2	56
	高橋 一平	助教	実践社会医学	2	48
	松坂 方士	助教	実践社会医学	2	48

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	中路 重之	教授	6	300
	梅田 孝	助教授	6	300
	高橋 一平	助手	6	300
07年度	中路 重之	教授	6	300
	梅田 孝	准教授	6	300
	松坂 方士	助教	6	300
	高橋 一平	助教	6	300

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	6名	中路 重之, 梅田 孝, 高橋 一平, 菅原 典夫, 松坂 方士
07年度	3名	中路 重之, 梅田 孝, 松坂 方士
	1.5名	高橋 一平, 檀上 和真

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中路 重之	教授	疫学	1	30
			疫学演習	1	30
			地域・国際保健科学	1	30
			地域・国際保健科学演習	1	30
			健康・予防医学	1	30
			健康・予防医学演習	1	30
	梅田 孝	助教授	体力栄養医学	1	60
			体力栄養医学演習	1	60
07年度	中路 重之	教授	医学研究概論Ⅰ	1	2
			医学研究概論Ⅱ	1	30
			疫学講義	1	64
			疫学演習	1	34
			健康・予防医学講義	1	60
			健康・予防医学演習	1	32
			地域・国際保健科学講義	1	58
			地域・国際保健科学演習	1	34
			社会医療総合医学講義	1	62
			社会医療総合医学演習	1	30

07年度	梅田 孝	准教授	体力栄養医学講義	1	58
			体力栄養医学演習	1	34
			スポーツ健康科学講義	1	58
			スポーツ健康科学演習	1	34

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中路 重之	教授	疫学実験実習	2	15
			地域国際保健科学実験実習	2	15
			健康・予防実験実習	2	15
	梅田 孝	助教授	体力栄養医学実習	2	60
07年度	中路 重之	教授	疫学実験実習	2	16
			健康・予防医学実験実習	2	32
			地域・国際保健科学実験実習	2	31
			社会医療総合医学実験実習	2	30
	梅田 孝	准教授	体力栄養医学実習	2	32
			スポーツ健康科学実習	2	32

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	中路 重之	教授	加藤拓彦：精神作業面を継続している入院統合失調症患者における社会精神医学的側面～結婚と就労を中心に～
			嶋谷 泉：The recovery rate and oro-ireal transit time of orally ingested non-digestive oligo-saccharide (raffinose) in the human ileum.
			一戸とも子：慢性疾患を持つ中高校生の QOL の特徴
07年度	中路 重之	教授	Are individuals with lower neutrophil oxidative burst activity more prone to Helicobacter pylori infection? (松坂方士)
			Changes in the capability of reactive oxygen species production by neutrophils following weight reduction in female judoists (八重垣誠)
			Helicobacter pylori 感染と動脈硬化との関連に関する疫学研究 岩木健康増進プロジェクトにおける一般住民での検討 (古川照美)

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	5 名
07年度	5 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
07年度	梅田 孝	准教授	1-4	健康スポーツ医学	30

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	中路 重之	非常勤講師	2	
07年度	中路 重之	非常勤講師	8	2 (秋田大学医学部) 6 (弘前学院大学看護学部)
	梅田 孝	非常勤講師	12	運動と健康の科学 (放送大学)

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	中路 重之	教授	医用統計学	85%
			チュートリアル	100%
			研修室研修	100%
			社会と医学Ⅰ	95%
07年度	梅田 孝	助教授	チュートリアル	100%
			研修室研修	100%
			社会と医学Ⅰ	95%
			健康と医学	95%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	中路 重之	教授	医用統計学	3.61
			チュートリアル	3.89
			研修室研修	4.07
			社会と医学Ⅰ	3.79
07年度	梅田 孝	助教授	チュートリアル	3.89
			研修室研修	4.07
			社会と医学Ⅰ	3.79
			発展臨床医学Ⅰ	3.58
07年度	中路 重之	教授	健康と医学	3.60
			基礎人体科学演習	3.94
			医用統計学	4.08
			生活習慣と健康 (F)	3.71
07年度	梅田 孝	准教授	健康と医学	3.60
			運動とリハビリテーション (B)	4.10
			生活習慣と健康 (H)	3.91

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
社会と医学Ⅰ・Ⅱ実習	4	66	102	3.8	3.6

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
クリニカルクラークシップ	6	60	1200	4	—

10. 法医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- 1 全ての授業について、書籍・文献の検索・読破による自主自学を前提としたものとし、講義自体は、学生の理解の誤りを正し、学習への意欲を掻き立てるための刺激の機会と位置づける。(50/100)
- 2 授業内容は、コアカリキュラム・国家試験出題ガイドラインに従いながらも、「全てを」「丁寧に」「わかりやすく」「楽しく」教える方法を敢えて放棄し、自主的な学習こそが大学では重要であることを強制的に理解させる。(70/100)
- 3 上記1 および2 を踏まえ、厳しい試験を実施する。(80/100)
- 4 研究室研修、基礎学生実習において指導を行う。(80/100)
- 5 研修・実習内容の見直しを絶えず行う。(100/100)
- 6 総合して、実りのある講義および実習を目指す。(75/100)

これから2年間の目標：

- 1 全ての授業について、書籍・文献の検索・読破による自主自学を前提としたものとし、講義自体は、学生の理解の誤りを正し、学習への意欲を掻き立てるための刺激の機会と位置づける。
- 2 授業内容は、コアカリキュラム・国家試験出題ガイドラインに従いながらも、「全てを」「丁寧に」「わかりやすく」「楽しく」教える方法を敢えて放棄し、自主的な学習こそが大学では重要であることを強制的に理解させる。
- 3 上記1 および2 を踏まえ、厳しい試験を実施する。
- 4 研究室研修、基礎学生実習において医師となるべきプロフェッショナル意識をもたせるべき可能な限り強力な指導を行う。
- 5 研修・実習内容の見直しを絶えず行う。
- 6 総合して、実りのある講義および実習を目指す。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	黒田 直人	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
	北 武	講師	テーマ科目	健康と医療	6
			導入科目	基礎ゼミナール	30
07年度	黒田 直人	教授	導入科目	基礎ゼミナール	28
	美作宗太郎	助教	導入科目	基礎ゼミナール	2

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	黒田 直人	教授	基礎人体科学演習	1	60
			医の原則	2	28
			社会と医学Ⅱ	4	22
			研究室研修		216
07年度	黒田 直人	教授	社会と医学Ⅱ	4	4
			研究室研修		216
			基礎人体科学演習	1	58
			医の原則Ⅱ	2	30
07年度	黒田 直人	教授	チュートリアル教育	3	4
			研究室研修	3	216
			法と医療	4	10
			クリニカル・クラークシップ	6	120
07年度	美作宗太郎	助教	基礎人体科学演習	1	2
			チュートリアル教育	3	8
			研究室研修	3	216
			社会と医学Ⅱ	4	4
07年度	北 武	講師	研究室研修	3	216

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	黒田 直人	教授	社会と医学実習	4	18
	北 武	講師			
07年度	黒田 直人	教授	法と医療（特別実習）	4	6
	美作宗太郎	助教	法と医療（特別実習）	4	6

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	8名	黒田 直人, 北 武
07年度	3名	黒田 直人, 北 武, 美作宗太郎

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	黒田 直人	教授	基礎科目	1～3	2
	北 武	講師	鑑識学概論	3	2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
07年度	美作宗太郎	助教	チュートリアル教育 FD

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	黒田 直人	教授	青森県警察学校 2 時間	0
			青森県消防学校 4 時間	4
			青森地方検察庁 1 時間	0

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	黒田 直人	教授	基礎人体科学演習	100%
			医の原則	25%
			社会と医学Ⅱ	80%
	北 武	講師	社会と医学Ⅱ	90%

07年度	黒田 直人	教授	基礎人体科学演習 医の原則Ⅱ チュートリアル教育 研究室研修 法と医療 クリニカル・クラークシップ	95% 30% 95% 95% 80% 95%
	美作宗太郎	助教	基礎人体科学演習 チュートリアル教育 研究室研修	95% 100% 100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	黒田 直人	教授	基礎人体科学演習 医の原則 社会と医学Ⅱ	
	北 武	講師	社会と医学Ⅱ	

2) 専門教育の評価 該当なし。

11. 消化器血液内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

- 引き続き21世紀教育，専門教育，大学院教育，保健学科等，多方面にわたる講義，実習を担当する。また講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い，簡潔な知識を学生に提供する。
→到達度： 80%
- クリニカルクラークシップの位置づけを明確にし，さらに充実させる。
→到達度： 80% 好評につき次年度より定員増を予定している。
- 卒後臨床教育における当科の果たすべき目標達成に向けて，教育システムをさらに充実させる。
→到達度： 70%

これから２年間の目標：

- 21世紀教育，専門教育，大学院教育，保健学科等，多方面にわたる講義，実習を担当する。また講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い，簡潔な知識を学生に提供する。
- クリニカルクラークシップの位置づけを明確にし，さらに充実させる。
- 卒後初期臨床研修における当科の果たすべき目標達成に向けて，教育システムをさらに充実させる。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	福田 眞作	教授	テーマ	最新医学の現状（B）	6 時間

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	福田 眞作	助教授	消化器と疾患	3 年	4 時間
	坂本 十一	講師	系統別講義（消化器系）	4 年	6 時間
	伊東 重豪	講師	チュートリアル教育	3 年	8 時間
	下山 克	講師	消化器と疾患	3 年	4 時間
	遠藤 哲	助手	系統別講義（消化器系）	4 年	4 時間
	三上 達也	助手	消化器と疾患	3 年	4 時間
07年度	福田 眞作	教授	消化器と疾患 発展現代医学Ⅰ（内科系）	3 年 2 年	4 時間 2 時間
	坂本 十一	准教授	消化器と疾患	4 年	4 時間
	下山 克	講師	消化器と疾患 OSCE（腹部症状問診）	3 年 4 年	6 時間 2 時間
	遠藤 哲	助教	消化器と疾患 系統別講義（消化器系）	4 年 4 年	4 時間 4 時間
	三上 達也	助教	消化器と疾患 発展現代医学Ⅰ（内科系）	3 年 4 年	4 時間 2 時間

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	棟方 昭博	教授	5 年	38 週
	福田 眞作	助教授	5 年	38 週
	坂本 十一	講師	5 年	38 週
	伊東 重豪	講師	5 年	38 週

06年度	下山 克	講師	2 年 5 年	52 回 38 週
	山形 和史	助手	5 年	38 週
	遠藤 哲	助手	5 年	38 週
	三上 達也	助手	5 年	38 週
	吉村 徹郎	助手	5 年	38 週
07年度	福田 眞作	教授	5 年	38 週
	坂本 十一	准教授	5 年	38 週
	伊東 重豪	講師	5 年	38 週
	下山 克	講師	2 年 5 年	26 時間 38 週
	山形 和史	助教	5 年	38 週
	遠藤 哲	助教	5 年	38 週
	三上 達也	助教	5 年	38 週
	高畑 武功	助教	5 年	38 週
	吉村 徹郎	助教	5 年	38 週
	佐藤 研	助教	5 年	38 週

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	下山 克	講師
	遠藤 哲	助手
07年度	伊東 重豪	講師
	下山 克	講師
	三上 達也	助教

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	棟方 昭博	教授	内科学総論	1～2 年	15 回
	下山 克	講師	<i>H. pylori</i> 感染の臨床	1・2 年	2 回
07年度	伊東 重豪	講師	がんのベーシックサイエンス		4.5 時間
	高畑 武功	助教	共通科目「遺伝発生医学セミナー」		1 時間

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	棟方 昭博	教授	消化器病理・病態修復学	3～4 年	15 回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	棟方 昭博	教授	内視鏡的で観察される粘膜模様と組織学的萎縮ないし腸上皮化生（胃癌のリスクファクター）との相関（佐々木 聡） SSRI・SNRI のラット大腸運動への効果～水侵拘束モデルを用いて～（滝本美耶子） ヘリコバクターピロリ感染患者における <i>sabA</i> 遺伝子と抗 Lewis X 抗体との関連（中里文佳） グルココルチコイド抵抗性潰瘍性大腸炎患者における熱ショック蛋白 70kd の抗炎症効果（藤田 均） ペーチェット病患者と潰瘍性大腸炎患者末梢血単核球における <i>Streptococcus sanguis</i> 細胞壁に対するサイトカイン応答（山口佐都子） 大腸癌における癌関連遺伝子多型の臨床病理学的因子に及ぼす影響（吉谷 元）
	下山 克	講師	Infection of <i>sabA</i> -positive <i>H. pylori</i> does not induce anti-Lewis X antibody in host.（中里文佳）
07年度	福田 眞作	教授	腸管粘膜 T 細胞における慢性ニコチン刺激のニコチン性アセチルコリン受容体を介した Th1 特異的転写因子発現増強作用（菊池英純） 治療抵抗性潰瘍性大腸炎における Transforming growth factor- β 受容体の発現抑制（島谷孝司）

07年度	伊東 重豪	講師	腸管粘膜 T 細胞における慢性ニコチン刺激のニコチン性アセチルコリン受容体を介した Th1 特異的転写因子発現増強作用（菊池英純）
	高畑 武功	助教	間葉系幹細胞の腫瘍増殖作用
	佐藤 研	助教	Functional MRI による IBS の評価

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	1 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	5 名
07年度	5 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
07年度	三上 達也	助教	4 年	臨床実習（ERCP その他）	15 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	福田 眞作	助教授	消化器と疾患	80%
	坂本 十一	講師	系統別講義（消化器系）	85%
	下山 克	講師	消化器と疾患	85%
	遠藤 哲	助手	系統別講義（消化器系）	85%
	三上 達也	助手	消化器と疾患	90%
07年度	福田 眞作	教授	消化器と疾患（3年） 現代発展医学Ⅰ（内科系）	90%
				90%
	坂本 十一	准教授	消化器と疾患（4年）	85%
	下山 克	講師	消化器と疾患（3年）	93%
	遠藤 哲	助教	消化器と疾患（4年）	80%
	三上 達也	助教	消化器と疾患（3年） 発展現代医学Ⅰ	90%
				95%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	福田 眞作	助教授	消化器と疾患	(A) 4.3 (B) 4.2
	坂本 十一	講師	系統別講義（消化器系）	4.0
	下山 克	講師	消化器と疾患	4.3
	遠藤 哲	助手	系統別講義（消化器系）	3.7
	三上 達也	助手	消化器と疾患	4.1
07年度	福田 眞作	教授	消化器と疾患（3年）	(A) 4.5 (B) 4.4
	坂本 十一	准教授	消化器と疾患（4年）	集計なし
	下山 克	講師	消化器と疾患（3年）	4.5
	遠藤 哲	助教	消化器と疾患（4年）	4.0
	三上 達也	助教	消化器と疾患（3年）	3.9

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	38 週		4.4	4.3

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	38 週		4.7	4.7

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。（80%）

講義内容の見直しを絶えず行う。（90%）

出席率の向上を計る。（90%）

臨床実習（BSL）教育において，clinical clerkship に基づく実習を充実し，Problem-oriented learning を定着させる。（90%）

卒後臨床研修は初期研修だけでなく後期研修もプログラムの充実化を図り，研修医にとって魅力的なものとする。これにより多くの後期研修医を迎えたい。（70%）

これから２年間の目標：

１．共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。

２．講義内容の見直しを絶えず行う。

３．出席率の向上を図る。

４．臨床実習（BSL）教育において，クリニカルクラークシップに基づく実習を充実し，Problem-oriented learning を定着させる。

（１）教育実績

【21世紀教育】

１）講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	奥村 謙	教授	テーマ科目	最新医学の現状（K）	6
	高梨 信吾	准教授		呼吸器疾患の話題	3

２）実習 該当なし。

【学部教育】

１）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	奥村 謙	教授	内科診断学 循環器と疾患	4 年	2
				3 年	16
	長内 智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	4 年	6
	高梨 信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系） 加齢と侵襲	4 年	36
				4 年	2
07年度	花田 裕之	講師	循環器と疾患 系統別講義（循環器系）	3 年	2
				4 年	6
	奥村 謙	教授	循環器と疾患 発展現代医学Ⅰ（内科系）	3 年	18
				2 年	2
	長内 智宏	准教授	系統別講義（循環器系）	4 年	6
	高梨 信吾	准教授	系統別講義（呼吸器） 発展現代医学Ⅰ 発展現代医学Ⅱ	4 年	18
				2 年	1
				4 年	1
	花田 裕之	講師	循環器と疾患	4 年	16
	及川 広一	助教	チュートリアル教育	3 年	8
	大和田真玄	助教	チュートリアル教育	3 年	8

２）基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	奥村 謙	教授	5, 6 年	190
	長内 智宏	助教授	5 年	36
	高梨 信吾	助教授	5 年	72
	藤本 幸士	助手	5, 6 年	40
07年度	奥村 謙	教授	5, 6 年	190
	長内 智宏	准教授	5, 6 年	36
	高梨 信吾	准教授	5 年	72

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	長内 智宏	助教授
	藤本 幸士	助手
07年度	長内 智宏	准教授

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	長内 智宏, 中村 典雄
07年度	1名	長内 智宏

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	奥村 謙	教授	循環呼吸病態科学講義	1 年	36
	長内 智宏	助教授	医学研究総論	1, 2 年	1
07年度	長内 智宏	准教授	医学研究概論Ⅱ	1年	2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	奥村 謙	教授	Double-stranded RNA stimulates the expression of monocyte chemoattractant protein-1 in BEAS-2B bronchial epithelial cells. Beneficial effect of neutrophil elastase inhibitor on anti-Thy1.1 nephritis in rats. Nicorandil suppresses the increases in plasma level of matrix metalloproteinase activity and attenuates left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction. p122 protein, a positively regulatory protein for phospholipase C (PLC) δ 1, is upregulated in patients with coronary spastic angina. A possible role in the enhanced vasomotility. Aldosterone Causes Vasoconstriction in Coronary Arterioles Isolated From Spontaneously Hypertensive Rats via Angiotensin II Type-1 Receptor and Superoxide Radicals. Analysis of nitric oxide-mediated inflammation in asthma and COPD : Influence of smoking.
	長内 智宏	助教授	Pravastatin decreases the plasma and pericardial levels of matrix metalloproteinase activity by reducing oxidative stress in patients with coronary artery disease
07年度	奥村 謙	教授	Increased adiponectin synthesis in the visceral adipose tissue in men with coronary artery disease treated with pravastatin: A role of the attenuation of oxidative stress. Atherosclerosis 2008; 199: 378-83.
	長内 智宏	准教授	Vasoconstrictor effect of aldosterone via angiotensin II type 1 (AT ₁) receptor: possible role of AT ₁ receptor dimerization. Cardiovascular Research 2008; 79: 169-78 Coupling factor 6 downregulates platelet endothelial cell adhesion molecule-1 via c-Src activation and acts as a proatherogenic molecule. Atherosclerosis 2008; 200: 45-50.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
07年度	花田 裕之	講師	保健学科看護科2年	蘇生の科学と実習	4時間

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	奥村 謙	教授	6	6
07年度	花田 裕之	講師	6時間	救急認定看護師

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	奥村 謙	教授	循環器と疾患	80%
	長内 智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	80-90%
	高梨 信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	80%
07年度	奥村 謙	教授		80%
	長内 智宏	准教授	系統別講義（循環器系）	80-90%
	高梨 信吾	准教授	系統別講義（呼吸器）	80%
			発展現代医学Ⅰ	99%
			発展現代医学Ⅱ	99%
	花田 裕之	講師	系統別講義（循環器系）	80%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科目名	評価
06年度	奥村 謙	教授	循環器と疾患	4.2
	長内 智宏	助教授	系統別講義（循環器系）	4.2-4.3
	高梨 信吾	助教授	系統別講義（呼吸器系）	4.5
07年度	奥村 謙	教授	系統別講義（循環器系）	4.5
	長内 智宏	准教授	系統別講義（循環器系）	4.3
	高梨 信吾	准教授	系統別講義（呼吸器）	4.5
	花田 裕之	講師	系統別講義（循環器系）	未実施

2) 専門教育の評価 2007年度

授業科目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	38週		4.7	4.7

13. 内分泌代謝内科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

80%

これから2年間の目標：

病態生理を理解した臨床医の育成

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
06年度	丹藤 雄介	講師		最新医学の現状 G	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	須田 俊宏	教授	内分泌代謝と疾患	3, 4	19回
	玉澤 直樹	助教授	代謝内分泌系（代謝）	4年次	6
			免疫・感染症系（感染症）	3年次	20
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	4年次	20
	小川 吉司	講師	代謝内分泌系	4年次	6
	松井 淳	講師	侵襲と加齢Ⅰ	3年次	2
			内分泌・代謝と疾患	4年次	4
丹藤 雄介	講師	侵襲と加齢Ⅰ 代謝内分泌（代謝）	3年次 4年次	2 4	
蔭山 和則	講師	内分泌学	2－3年	3	
07年度	須田 俊宏	教授	内分泌代謝系と疾患	3, 4年	27.5
	玉澤 直樹	准教授	侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3年次	13.5
			内分泌代謝（代謝）	4年次	9
	松井 淳	講師	発展医学	3年生	1.5
			侵襲と加齢Ⅰ	3年生	1.5
			侵襲と加齢Ⅱ	3年生	3
			内分泌代謝と疾患	4年生	3
丹藤 雄介	講師	侵襲と加齢Ⅰ 代謝内分泌（代謝）	3年生 4年生	2 4	
蔭山 和則	講師	内分泌学	2－3年	4.5	

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	須田 俊宏	教授	5	ポリクリ 76回
	玉澤 直樹	助教授	5・6年次	2週に1回
	小川 吉司	講師	5・6年次	2週に1回
	松井 淳	講師	5・6年次	2週に1回
	丹藤 雄介	講師	5－6	通年
	蔭山 和則	講師	3－4年	毎日
	二川原 健	講師	5, 6	期間中すべて

07年度	須田 俊宏	教授	4, 5年	通年
	玉澤 直樹	准教授		
	松井 淳	講師		
	丹藤 雄介	講師		
	蔭山 和則	講師		
	崎原 哲	講師		
	二川原 健	助教		

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	二川原 健（本学 OSCE のほか、自治医大 OSCE へも外部評価者として参加）	助手
07年度	二川原 健	助教
	柳町 幸	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
07年度	2名	丹藤 雄介
	1名	蔭山 和則

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	小川 吉司	講師	細胞生物学コース	大学院	1回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
07年度	玉澤 直樹	准教授	Effect of PPAR α and PPAR γ combination therapy on reverse cholesterol transport in Zucker Diabetic Fatty Rat.
	丹藤 雄介	講師	Metformin restores glycated HDL-mediated impairment of cholesterol efflux. 佐藤江里, 田村綾女, 丹藤雄介, 須田俊宏, 中村光男, 山岸昌一. Spontaneously Diabetic Torii (SDT) ラットにおけるセルレイン誘導急性浮腫膵炎と Receptor for Advanced Glycation Endproducts (RAGE) の発現. 弘前医学59, 110-117, 2008

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	3名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	須田 俊宏	教授	内分泌代謝	70%
	玉澤 直樹	助教授	代謝内分泌系（代謝）	80%
			免疫・感染症系（感染症） 侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	80% 80%
07年度	須田 俊宏	教授	内分泌代謝系と疾患	30－70%
	玉澤 直樹	准教授	侵襲と加齢Ⅰ（感染症） 内分泌代謝（代謝）	90% 80%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	須田 俊宏	教授	内分泌代謝	3.5
	玉澤 直樹	助教授	代謝内分泌系（代謝）	3.0
			免疫・感染症系（感染症）	3.7
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	2.9
	松井 淳	講師	内分泌・代謝と疾患	4.2
07年度	須田 俊宏	教授	内分泌代謝系と疾患 3年	2.9
	玉澤 直樹	准教授	侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3.5
			内分泌代謝（代謝）	3.9
	丹藤 雄介	講師	侵襲と加齢Ⅰ	4.4

2) 専門教育の評価 該当なし。

14. 老年科学講座 (資料なし)

前回 (2年前) 設定した目標に対する到達度:

これから2年間の目標:

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

2) 実習

【学部教育】

1) 講義

2) 基礎実習

3) 臨床実習

4) O S C E

【研究室研修】

【大学院】

1) 講義

2) 実習

3) 学位論文

【ファカルティ・ディベロップメント】

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	
07年度	

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	
07年度	

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

【他大学・他施設における講義】

【学生授業出席率】

【学生による授業評価】

1) 授業評価

2) 専門教育の評価

15. 腫瘍内科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

学生が自ら学ぶよう援助し，臨床腫瘍学の基礎を教育する

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義 該当なし。

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
07年度	西條 康夫	教授	5年生	3ヶ月
	伊東 重豪	講師	5, 6年生	180時間
	高畑 武功	助教	5, 6年生	1年間

4) O S C E

	担当者名	職名
07年度	伊東 重豪	講師

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	伊東 重豪	講師	がんのベーシックサイエンス		4.5時間
	高畑 武功	助教	共通科目「遺伝発生医学セミナー」		1 時 間

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
07年度	伊東 重豪	講師	腸管粘膜 T 細胞における慢性ニコチン刺激のニコチン性アセチルコリン受容体を介した Th1 特異的転写因子発現増強作用
	高畑 武功	助教	間葉系幹細胞の腫瘍増殖作用

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
07年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1) 授業評価 該当なし。

2) 専門教育の評価 該当なし。

16. 神経精神医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

100% 到達した。

これから2年間の目標：

時代の問題となっている疾患，例えば非定型うつ病，発達障害等も講義内容に加えてゆく。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
06年度	矢部 博興	助教授		メンタルヘルス A	8
	古郡 規雄	講師		メンタルヘルス A	2
07年度	兼子 直	教授		メンタルヘルス A	2
	矢部 博興	准教授		メンタルヘルス A	8
	古郡 規雄	講師		メンタルヘルス A	2

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
07年度	兼子 直	教授	臨床実習	BSL	38

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	兼子 直	教授	系統別講義（精神系）	5 年	4
			系統別講義（精神系）	4 年	5
	矢部 博興	助教授	精神科における診断技術	5 年	2
			摂食障害	5 年	2
			心因性精神障害 I	5 年	2
			心因性精神障害 II	5 年	2
			精神医学概論（症状）	5 年	2
	古郡 規雄	講師	系統別講義（精神系）	4 年	3
07年度	菊池 淳宏	助手	精神医学	4 年	6
	松岡 貴志	助手	チュートリアル	3 年	4
	兼子 直	教授	系統別講義（精神系）	4 年	10
	矢部 博興	准教授	系統別講義（精神系）	4 年	10
	古郡 規雄	講師	系統別講義（精神系）	4 年	4
	菊池 淳宏	助教	系統別講義（精神系）	4 年	4.5
	松岡 貴志	助教	チュートリアル	3 年	8

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	松岡 貴志	助手	アーリーエクスポージャー	2 年	2
07年度	松岡 貴志	助教	アーリーエクスポージャー	2 年	2

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	兼子 直	教授	5－6 年	1 年間
	菊池 淳宏	助手	5 年	19（1 回 6 日間）
	松岡 貴志	助手	5 年	19

07年度	兼子 直	教授	5－6年	1年間
	古郡 規雄	講師	5年	100時間
	菊池 淳宏	助教	5年	36週
	松岡 貴志	助教	5年	19

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	菊池 淳宏	助手
07年度	古郡 規雄	講師
	菊池 淳宏	助教
	松岡 貴志	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	矢部 博興, 松岡 貴志, 朝井 廉
07年度	6名	栗林 理人, 古郡 規雄, 菊池 淳宏, 松岡 貴志

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	兼子 直	教授	精神医学	1－3年	全体 1 回 精神系 8 回
	矢部 博興	助教授	脳神経疾患の基礎と臨床 精神医学		2 2
07年度	兼子 直	教授	精神医学	1－3年	全体 1 回 精神系 10回
	矢部 博興	准教授	脳神経疾患の基礎と臨床 精神医学		2 2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	兼子 直	教授	神経精神医学	1－4年	1年間
	矢部 博興	助教授	臨床実地見学実習		4
	松岡 貴志	助手		3年	80
07年度	兼子 直	教授	神経精神医学	1－4年	1年間
	矢部 博興	准教授	臨床実地見学実習		4
	松岡 貴志	助教		3年	80

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	古郡 規雄	講師	リスペリドンとパロキセチンの相互作用
07年度	兼子 直	教授	・統合失調症における感覚記憶の時間統合機能障害に関する研究 ・Effect of verapamil on pharmacokinetics and pharmacodynamics of risperidone; In vivo evidence of involvement of P-glycoprotein in risperidone disposition.
	古郡 規雄	講師	・Effect of verapamil on pharmacokinetics and pharmacodynamics of risperidone.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	3 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	8 名
07年度	6 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	矢部 博興	助教授		教育学部（臨床医科学Ⅲ－2）	16
				大学院教育研究科（精神医学特論）	16
				保健学科（神経・筋・感覚機能学）	
07年度	矢部 博興	准教授		教育学部（臨床医科学Ⅲ－2）	16
				大学院教育研究科（精神医学特論）	16
				保健学科（神経・筋・感覚機能学）	

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	兼子 直	教授	13	10
	古郡 規雄	講師	4	0
	松岡 貴志	助手	6	弘前医師会准看護学生 弘前ホスピタリティアカデミー
			30	
07年度	兼子 直	教授	15	10
	古郡 規雄	講師	4	0
	松岡 貴志	助教	6	弘前医師会准看護学生 弘前ホスピタリティアカデミー
			30	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	兼子 直	教授	系統別講義（精神系）	70%
	古郡 規雄	講師	系統別講義（精神系）	60%
07年度	兼子 直	教授	系統別講義（精神系）	70%
	古郡 規雄	講師	系統別講義（精神系）	75%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	兼子 直	教授	系統別講義（精神系）	3.6
	古郡 規雄	講師	系統別講義（精神系）	4.3
	菊池 淳宏	助手	精神医学	4.2
07年度	兼子 直	教授	系統別講義（精神系）	A：4.0，B：4.0
	古郡 規雄	講師	系統別講義（精神系）	4.1
	菊池 淳宏	助教	精神医学	3.8

2) 専門教育の評価 該当なし。

17. 小児科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

講義の内容は、絶えず見直し、プリントやコンピュータを用いた分かり易い講義になるよう改善を加えた。ほぼ目標は達成された。

講義、実習は可能な限り担当したが、出席率の向上に関しては今後も検討の余地がある。

これから2年間の目標：

1. 講義内容の見直しを絶えず行う。
2. 21世紀教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を可能な限り担当する。
3. 出席率の向上を計る。
4. 教育面で学生への講義には教官研修会で得た効率的な教育のために教育学で裏付けされた理論を応用した，より分かり易く効率的な講義を行うべく努力する。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
06年度	田中 完	講師		最新医学の現状	3コマ
	土岐 力	講師		生物学の基礎 IIA	5
07年度	伊藤 悦朗	教授		最新医学の現状	4.5
	高橋 徹	准教授		最新医学の現状	4.5
	土岐 力	講師		生物学の基礎 IIA	7.5

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	伊藤 悦朗	教授	系統別（成長発達系）	4年生	6コマ
			系統別（血液系）	4年生	5コマ
			臨床診断学（内科診断学）	4年生	2コマ
	高橋 徹	助教授	成長発達系	4年生	3
			循環器系	3年生	5
			ブレ SGT	4年生	1
	田中 完	講師	侵襲と加齢－小児感染症	3年生	1コマ
			成長発達系－感染症	4年生	1コマ
			呼吸器系－小児の呼吸器疾患	4年生	1コマ
			免疫系－小児のリウマチ性疾患	4年生	1コマ
			腎、尿路系－小児の糸球体疾患 1	4年生	1コマ
			腎、尿路系－小児の糸球体疾患 2	4年生	1コマ
07年度	伊藤 悦朗	教授	腎、尿路系－小児腎不全	4年生	1コマ
			小児固形腫瘍	4年生	1コマ
			系統別（成長発達系）	4年生	9
	高橋 徹	准教授	発展現代医学	4年生	1.5
			発展現代医学	2年生	1.5
			成長発達系	4年生	4.5
			循環器系	3年生	7.5
			ブレ BSL	4年生	1.5

07年度	田中 完	講師	侵襲と加齢－小児感染症	3 年生	1.5
			成長発達系－感染症	4 年生	1.5
			呼吸器系－小児の呼吸器疾患	4 年生	1.5
			免疫系－小児のリウマチ性疾患	3 年生	1.5
			腎，尿路系－小児の糸球体疾患 1	4 年生	1.5
	照井 君典	助教	腎，尿路系－小児の糸球体疾患 2	4 年生	1.5
			腎，尿路系－小児腎不全	4 年生	1.5
			小児固形腫瘍	4 年生	1.5
	佐々木伸也	助教	成長発達系	4 年生	1.5

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	田中 完	講師	5 年生	腎示説（各 BSL 毎に 1 コマずつ）
	佐々木伸也	助手	5 学年	27
07年度	伊藤 悦朗	教授	5 年生	200
	田中 完	講師	5 年生	腎示説（各 BSL 毎に 1 コマずつ）
	照井 君典	助教	5 年生 6 年生	1 年間 3 ヶ月間
	佐々木伸也	助教	5 年生	27

4) O S C E

	担当者名	職名
07年度	照井 君典	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	土岐 力
07年度	1名	土岐 力

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	伊藤 悦朗	教授	大学院医学研究概論		2
	土岐 力	講師	遺伝発生学	1 年	
	照井 君典	助手	造血幹細胞移植の実際と倫理的問題		1
07年度	伊藤 悦朗	教授	大学院医学研究概論		1.5
			小児発達医学		1.5
	土岐 力	講師	遺伝発生医学セミナー	1 年	1.5
	照井 君典	助教	造血幹細胞移植の実際と倫理的問題		1.5

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	伊藤 悦朗	教授	Molecular genetic study of cardio-facio-cutaneous syndrome
07年度	伊藤 悦朗	教授	Functional analysis of JAK3 mutations in transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down syndrome
	田中 完	講師	Expression of mRNA for functional molecules in urinary sediment in glomerulonephritis

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1名
07年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	伊藤 悦朗	教授	系統別（成長発達系） 系統別（血液系） 臨床診断学（内科診断学）	95% 95% 95%
	田中 完	講師	上記の各担当講義	おおそ70～80%程度
07年度	伊藤 悦朗	教授	系統別（小児疾患・成長と発達） 発展現代医学 発展現代医学	95% 95% 95%
	田中 完	講師	上記の学部各担当講義	おおそ70～80%程度

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	伊藤 悦朗	教授	系統別（血液系）	A: 4.0, B: 3.9
	高橋 徹	助教授	成長発達系	A: 3.9, B: 3.8
	田中 完	講師	成長発達系－感染症	3.5
07年度	伊藤 悦朗	教授	系統別（小児疾患・成長と発達）	A: 4.1, B: 4.1
	高橋 徹	准教授	小児疾患・成長と発達	A: 4.0, B: 4.0
	田中 完	講師	成長発達系講義, 感染症	3.7

2) 専門教育の評価 2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5	10	18	4.6	5.0

18. 胸部心臓血管外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 講義形式の授業では、より interactive な講義形式を取り入れて、学生の参加・知的活動の刺激を促進する。→達成した。
2. 臨床実習では、基本的診察技能の向上を次の目標とし、シミュレーターなどを活用した実習指導を行う。また、患者・指導教官からの評価を取り入れ、学生に自らの不足の点を気づかせることを目標とする。→達成した。

これから2年間の目標：

1. 講義形式の授業では、学生に自ら学ぶ姿勢を植え付ける。医療リスクマネジメントの講義では、グループ報告を取り入れてこれをまとめて出版する。
 2. 講義では毎回学生からの講義評価を行い、その評価結果は、次回の講義の冒頭で学生に提示し、評価の意義を説明するとともに、次回以降の講義の改善点についても学生に提示する。また、学生からの不適切な意見については、どのような点が不適切であるのか、きちんと説明し、評価の意義を双方向性に生かすように努力する。
- 臨床実習では、基本的診察技能の向上を目指すとともに、クリニカルクラークシップでは、より実践的な診療への参加を促す。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	鈴木 保之	准教授		最新医学の現状（K）	3

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	福田 幾夫	教授	系統別講義（循環器系） 基本的診察知識 PerSGT	4 年次 3 年次 4 年次	8 時間 4 時間 6 時間
	鈴木 保之	助教授	系統別講義（循環器系） 基本的診察知識	4 年次 3 年次	4 時間 2 時間
	皆川 正仁	講師	循環器と疾患	4 年次	2 時間
	福井 康三	講師	系統別講義（循環器系）	4 年次	4 時間
	對馬 敬夫	講師	系統別講義（呼吸器）	4 年次	14時間
	谷口 哲	助手	外科学総論 系統別講義（循環器系）	3 年次 4 年次	2 時間 4 時間
07年度	福田 幾夫	教授	発展現代医学 最新医学の現状 基本的診察知識（外科的治療と周術期管理） 系統講義（循環器と疾患） 医療リスクマネジメント 基本的診察知識（Pre BSL）	3 年次 2 年次 3 年次 4 年次 4 年次 4 年次	2 コマ 1 コマ 2 コマ 8 コマ 12コマ 5 コマ
	鈴木 保之	准教授	基本的診察知識（外科的治療と周術期管理） 循環器と疾患（先天性心疾患の外科）	3 年次 4 年次	1 コマ 1 コマ
	皆川 正仁	講師	虚血性心疾患の外科	4 年次	1 コマ
	山田 芳嗣	助教	基本的診察知識（外科的治療と周術期管理）	3 年次	1 コマ
	對馬 敬夫	講師	系統別講義（呼吸器） 発展現代医学Ⅱ	4 年次 4 年次	8 コマ 1 コマ
	谷口 哲	助教	循環器と疾患	4 年次	2 コマ

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	福田 幾夫	教授	5 年次	1520時間
	鈴木 保之	助教授	5 年次 2 年次	1520時間 4 時間
	皆川 正仁	講師	5 年次 2 年次	1520時間 4 時間
	山田 芳嗣	助手	5 年次 2 年次	1520時間 4 時間
	大徳 和之	助手	5 年次 2 年次	1520時間 4 時間
	福井 康三	講師	5 年次 2 年次	1520時間 2 時間
	對馬 敬夫	講師	5 年次 2 年次	1520時間 2 時間
	谷口 哲	助手	5 年次 2 年次	1520時間 4 時間
	木村 大輔	助手	5 年次 2 年次	1520時間 4 時間
	須藤 武道	助手	5 年次	190時間
07年度	福田 幾夫	教授	5 年次	760
	鈴木 保之	准教授	5 年次 2 年次	760 3
	皆川 正仁	講師	5 年次 2 年次	1200 2
	大徳 和之	助教	5 年次 2 年次	1200 2
	山田 芳嗣	助教	5 年次 2 年次	760 4
	青木 哉志	助教	5 年次	540
	對馬 敬夫	講師	5 年次	1200
	谷口 哲	助教	5 年次	760
	木村 大輔	助教	5 年次	1200
	須藤 武道	助教	5 年次	760

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	谷口 哲	助手
07年度	福田 幾夫	教授
	青木 哉志	助教
	木村 大輔	助教
	須藤 武道	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	須藤 武道
07年度	1名	須藤 武道

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	福田 幾夫	教授	循環呼吸病態科学	1, 3 年	30時間
	對馬 敬夫	講師	再生再建外科学講義	1 ～ 4 年次	30時間

07年度	福田 幾夫	教授	心臓血管外科学講義	1～4	60
			循環呼吸器病態科学講義	1～4	60
	鈴木 保之	准教授	再生再建外科学講義	1～4	60
	對馬 敬夫	講師	外科系講義	1～4	60

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鈴木 保之	助教授	循環呼吸器病態学実験実習	1～4 年次	60時間
	山田 芳嗣	助手	再生再建外科学演習	1～4 年次	60時間
	大徳 和之	助手	循環呼吸器病態科学実験実習	1～4 年次	60時間
	福井 康三	講師	循環呼吸器病態科学演習	1～4 年次	60時間
	木村 大輔	助手	再生再建外科学実験実習	1～4 年次	120時間
07年度	福田 幾夫	教授	再生再建外科学演習	1～4	30
			再生再建外科学実験実習	1～4	60
	鈴木 保之	准教授	心臓血管外科学演習	1～4	30
	皆川 正仁	講師	心臓血管外科学実験実習	1～4	60
	對馬 敬夫	講師	胸部外科学演習	1～4	30
	木村 大輔	助教	胸部外科学実験実習	1～4	30

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	3 名
07年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	山田 芳嗣	助手	2 年	外科学講義 呼吸器疾患	2 時間
	大徳 和之	助手	2, 3 年	成人看護方法論	2 時間
	谷口 哲	助手	3 年	外科学	2 時間
07年度	大徳 和之	助教	2 年	成人心疾患の看護	2 コマ
	谷口 哲	助教	2 年	成人心疾患の看護	1 コマ

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	福田 幾夫	教授	系統別講義（循環器）	90%
			外科学総論	90%
			臨床診断学	90%
	福井 康三	講師	系統別講義（循環器系）	90%
	對馬 敬夫	講師	系統別講義（呼吸器）	60%
07年度	福田 幾夫	教授	発展現代医学	99%
			最新医学の現状	99%
			基本的診察知識（外科的治療と周術期管理）	99%
			系統講義（循環器と疾患）	99%
			医療リスクマネジメント	99%
			基本的診察知識（Pre BSL）	99%
	皆川 正仁	講師	虚血性心疾患の外科	95%
	對馬 敬夫	講師	系統別講義（呼吸器）	70%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	福田 幾夫	教授	臨床診断学 系統別講義（循環器系） 臨床実習	A：4.4，B：4.3 A：4.1，B：3.9 A：3.9，B：4.0
	皆川 正仁	講師	循環器と疾患	4.0
	福井 康三	講師	系統別講義（循環器系）	A：3.3，B：3.0
	對馬 敬夫	講師	系統別講義（呼吸器）	4.3
07年度	福田 幾夫	教授	呼吸器外科心臓血管外科臨床実習 系統講義（循環器と疾患）	A：4.3，B：4.4 A：4.2，B：4.2
	皆川 正仁	講師	虚血性心疾患の外科	4.2
	對馬 敬夫	講師	系統別講義（呼吸器）	4.0

2) 専門教育の評価

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年次	38週	1520	4.3	4.1

19. 消化器外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

前回の目標を引き続き、更なる充実を求める。すなわち、グローバルスタンダードから見て、国際的にも認められる医師・研究者の育成に結びつくような医学教育に努める。また、EBMを踏まえた上で近年求められている患者側にたった医療を提供できる質の高い医師を養成するために、研修医も含めた卒後臨床教育の充実を図る。

到達度；合格点には達して入るが、更なる充実が必要と考える。

これから2年間の目標：

前回の目標を引き続き、更なる充実を求める。すなわち、グローバルスタンダードから見て、国際的にも認められる医師・研究者の育成に結びつくような医学教育に努める。加えて、専門医の育成に努める。また、EBMを踏まえた上で近年求められている患者側にたった医療を提供できる質の高い医師を養成するために、研修医も含めた卒後臨床教育の充実を図る。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
07年度	袴田 健一	准教授		最新医学の現状 L	6
	吉原 秀一	准教授		最新医学の現状 N	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	吉原 秀一	助教授	基本的診察知識	3 年	2
			系統別講義（消化器系）	4 年	16
			臨床診断学（内科診断学）	4 年	2
	袴田 健一	助教授	医学英語 I	1 年	30
			系統別講義（消化器系）	4 年	4
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（内分泌代謝系）	4 年	2
			系統別講義（消化器系） 内分泌・代謝と疾患	4 年 3 年	2 4
07年度	鳴海 俊治	講師	基本的診察知識	3 年	2
			系統別講義（消化器系）	4 年	4
	川崎 仁司	講師	消化器と疾患	3 年	12
	梅原 豊	助手	チュートリアル	3 年	8
	西澤 雄介	助手	チュートリアル	3 年	16
	袴田 健一	准教授	消化器と疾患（下部消化管シリーズ）	4 年	14
			消化器と疾患（肝胆膵シリーズ） 基本的診療知識	4 年 4 年	10 2
07年度	吉原 秀一	准教授	発展現代医学Ⅱ（外科系）	4 年	2
			基本的診療知識	4 年	2
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	3 年	6
	鳴海 俊治	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系）	2 年	2
			基本的診療知識（外科的治療と周術期管理） 基本的診療知識	3 年 4 年	10 2
	川崎 仁司	講師	消化器と疾患（上部消化管シリーズ）	3 年	8
	豊木 嘉一	助教	チュートリアル	3 年	4
07年度	奈良 昌樹	助教	チュートリアル	3 年	4
	石戸圭之輔	助教	チュートリアル	3 年	4

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	年間担当時間数
06年度	袴田 健一	助教授	2 年次	6
	小田桐弘毅	講師	2 年次	6
	鳴海 俊治	講師	2 年次	6
	川崎 仁司	講師	2 年次	6
	村田 暁彦	助手	2 年次	6
	佐々木睦男, 他教室員一同		5・6 年次	38 週
07年度	袴田 健一	准教授	2 年	6
	小田桐弘毅	講師	2 年	6
	鳴海 俊治	講師	2 年	6
	川崎 仁司	講師	2 年	6
	村田 暁彦	助教	2 年	6
	袴田 健一	准教授	5・6 年	400
	吉原 秀一	准教授	5・6 年	200
	小田桐弘毅	講師	5・6 年	400
	鳴海 俊治	講師	5・6 年	400
	川崎 仁司	講師	5・6 年	400
	豊木 嘉一	助教	5・6 年	400
	村田 暁彦	助教	5・6 年	400
	柴田 滋	助教	5・6 年	400
	小山 基	助教	5・6 年	400
	奈良 昌樹	助教	5・6 年	400
	石戸圭之輔	助教	5・6 年	400
	佐々木睦男	教授	4 年	2

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	小田桐弘毅	講師
	柴田 滋	助手
	小山 基	助手
	西澤 雄介	助手
	豊木 嘉一	助教
07年度	石戸圭之輔	助教

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	吉原 秀一	助教授	医学教育概論	1 年次	2
	袴田 健一	助教授	生命科学倫理学	1 年次	2
07年度	袴田 健一	准教授	生命科学倫理学 がんのベーシックサイエンス	2・3 年 2・3 年	2 2
	吉原 秀一	准教授	医学研究概論Ⅱ	2・3 年	2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	袴田 健一	助教授	医学部 FD 講演会（PBL/C に関する講演会）

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	3 名
07年度	3 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	吉原 秀一	助教授	2 学年	保健学科 疾病論Ⅱ	4
			3 学年	保健学科 成人看護方法論Ⅱ	4
07年度	小田桐弘毅	講師	保健学科 2 年	看護学専攻 疾病論Ⅱ	2
	川崎 仁司	講師	保健学科 2 年	看護学専攻 疾病論Ⅱ	2
	豊木 嘉一	助教	保健学科 2 年	看護学専攻 疾病論Ⅱ	2
	村田 暁彦	助教	保健学科 2 年	看護学専攻 疾病論Ⅱ	2
	鳴海 俊治	講師	理学療法科	外科学（消化管，肝胆膵）	4

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	吉原 秀一	助教授	基本的診察知識	80%
			系統別講義（消化器系）	80%
			臨床診断学（内科診断学）	80%
	袴田 健一	助教授	医学英語Ⅰ	100%
			系統別講義（消化器系）	80%
	小田桐弘毅	講師	系統別講義（内分泌代謝系）	80%
			系統別講義（消化器系） 内分泌・代謝と疾患	80%
07年度	鳴海 俊治	講師	基本的診察知識 系統別講義（消化器系）	80%
	川崎 仁司	講師	消化器と疾患	80%
	梅原 豊	助手	チュートリアル	100%
	西澤 雄介	助手	チュートリアル	100%
	袴田 健一	准教授	消化器と疾患（下部消化管シリーズ）	90%
			消化器と疾患（肝胆膵シリーズ）	90%
			基本的診察知識	90%
	吉原 秀一	准教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 基本的診察知識	90%
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	90%
	鳴海 俊治	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系） 基本的診察知識（外科の治療と周術期管理） 基本的診察知識	90%
			基本的診察知識	90%
	川崎 仁司	講師	消化器と疾患（上部消化管シリーズ）	90%
	豊木 嘉一	助教	チュートリアル	100%
	奈良 昌樹	助教	チュートリアル	100%
	石戸圭之輔	助教	チュートリアル	100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	吉原 秀一	助教授	基本的診察知識 系統別講義（消化器系）	A：4.06， B：4.1 A：3.75， B：3.7
	袴田 健一	助教授	系統別講義（消化器系）	A：4.01， B：4.1
	鳴海 俊治	講師	基本的診察知識	A：4， B：4.0
	川崎 仁司	講師	消化器と疾患	
07年度	袴田 健一	准教授	消化器と疾患	4.1
	吉原 秀一	准教授	基礎的診療知識	4.3
	小田桐弘毅	講師	内分泌代謝と疾患	3.7
	鳴海 俊治	講師	基礎的診療知識	4.5
	川崎 仁司	講師	消化器と疾患	3.4

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年			4.2	4.1

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年			3.9	3.7

20. 整形外科科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 講義内容の見直しを絶えず行ない、学生の学問的興味を維持させるよう努める。
最新のデータを能率良く理解しやすいように丁寧に工夫して行った。講義に PC、Video を取り入れるなどし、学生に理解しやすい講義・実習を考慮した。概ね達成できたと思われる。
2. Problem-oriented learning を継続し、学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。
特に BSL・クリニカルクラークシップにおいて、実施できた。
3. 医学生（STG、クリニカルクラークシップ）の教育および医員に対する手術指導、論文作成指導。
OSCE の指導・監督を行った。SGT 教育では、できるだけ機能解剖学的観点から、整形外科疾患を考えられるよう指導した。クリニカルクラークシップは学会にも参加させ、モチベーションを高めることができた。
4. 医員に対する手術指導、論文作成指導し大学院生の研究指導・協力を行う。
教室スタッフの指導のもと、大学院生が積極的に海外で発表した。

これから2年間の目標：

1. 講義内容の見直しを絶えず行ない、学生の学問的興味を維持させるよう努める。
2. Problem-oriented learning を継続し、学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。
3. 医学生（BSL、クリニカルクラークシップ）の教育および医員に対する手術指導、論文作成指導
4. 医員に対する手術指導、論文作成指導し大学院生の研究指導・協力を行う。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
06年度	藤 哲	教授	テーマ科目	上肢の機能とスポーツ障害・外傷	2
			テーマ科目	四肢再建術	1
07年度	藤 哲	教授	テーマ科目	発展現代医学Ⅱ（外科系） 最新医学の現状Ⅰ	1
	石橋 恭之	准教授	テーマ科目		1
	津田 英一	講師		運動とリハビリテーション	8

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	藤 哲	教授	系統別講義（運動器系）	4	3
	石橋 恭之	助教授	系統別講義（運動器系）	4	3
	横山 徹	講師	系統別講義（運動器系）	医学部 5 年	4
			系統別講義（脳・神経系）	医学部 5 年	2
	津田 英一	講師	系統別講義（運動器系）	4, 5 年次	4
	沼沢 拓也	助手	系統別講義（運動器系）	4	2
	小野 睦	助手	系統別講義（運動器系）	4 年	4
07年度	藤 哲	教授	系統別講義（運動器系）	4	2.5
	石橋 恭之	准教授	系統別講義（運動器系）	4	2
	横山 徹	講師	系統別講義（運動器系）	医学部 5 年	4
			系統別講義（脳・神経系）		2
	津田 英一	講師	系統別講義（運動器系）	4 年次	4
	沼沢 拓也	助教	系統別講義（運動器系）	4	1.5
	小野 睦	助教	系統別講義（運動器系）	4 年	4

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	藤 哲	教授	医学部 5・6 年	260
	石橋 恭之	助教授	医学部 5・6 年	20
	横山 徹	講師	医学部 6 年	8 ヶ月
	津田 英一	助手	5, 6 年次	20
	沼沢 拓也	助手	医学部 5・6 年	20
	小野 睦	助手	医学部 5－6 年	8 ヶ月
	福田 陽	助手	医学部 5・6 年	20
07年度	藤 哲	教授	医学部 5・6 年	260
	石橋 恭之	准教授	医学部 5・6 年	100
	横山 徹	講師	医学部 6 年	8 ヶ月
	津田 英一	助教	5, 6 年次	100
	沼沢 拓也	助教	医学部 5・6 年	100
	小野 睦	助教	医学部 5－6 年	100
	三井 博正	助教	医学部 5－6 年	200

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	石橋 恭之	助教授
	横山 徹	講師
	小野 睦	助手
	福田 陽	助手
07年度	石橋 恭之	准教授
	小野 睦	助教
	三井 博正	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	3名	
07年度	3名	石橋 恭之

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	藤 哲	教授	整形外科総論 整形外科診断学 整形外科治療学	1 年 1 年, 2 年 3 年	30回 30回 15回
	津田 英一	講師	再生医療		1
	沼沢 拓也	助手	医学研究概論	1－4 年	2
07年度	藤 哲	教授	運動機能病態修復学講義	前・後期	30回
	石橋 恭之	准教授	運動機能病態修復学講義	前・後期	30回
	津田 英一	講師	再生医療	前・後期	2 回
	沼沢 拓也	助手	医学研究概論	1－4 年	1.5

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	藤 哲	教授	整形外科総論	1 年	15回
			整形外科診断学	2 年	15回
			整形外科治療学	2 年	30回
			整形外科治療学	3 年	15
07年度	津田 英一	講師	運動機能病態修復学演習 運動機能病態修復学実習	後期 後期	30回 15回
	横山 徹	講師	運動機能病態修復学実習	前期	15回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	藤 哲	教授	大鹿周佐「糖鎖工学を応用したハイブリッド型軟骨スカホールドの作製および軟骨修復に関する研究」
	石橋 恭之	助教授	
	藤 哲	教授	菅原卓：形状記憶合金膜を用いた着脱式微小動脈拍動測定プローブの開発
07年度	藤 哲	教授	近江洋嗣：ウサギ骨延長モデルに対する低用量アンドロネート局所投与は骨密度を増強する。
	石橋 恭之	准教授	
07年度	藤 哲	教授	1. 上里涼子「Effect of exogenous proteoglycans on chondrogenesis of bone marrow mesenchymal stem cells」

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	藤 哲	教授	附属病院リスクマネージメント講習会
07年度	藤 哲	教授	2008.01.29 弘前大学大学院医学研究科教育 FD
	石橋 恭之	准教授	第3回青森県医師臨床研修対策協議会
	津田 英一	講師	医師臨床研修指導医ワークショップ

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	3名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	石橋 恭之	助教授	3年	臨床医科学 整形外科	16
	横山 徹	講師	保健学科2年	保健大学・臨床生理学Ⅲ	4
07年度	石橋 恭之	准教授	3年	臨床医科学 整形外科	16

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	藤 哲	教授	整形外科における機能解剖 マイクロサージャリと骨延長 骨代謝性疾患	約70～80%
	石橋 恭之	助教授	整形外科における機能解剖 スポーツ障害と外傷	約70～90%
07年度	藤 哲	教授	整形外科における機能解剖 マイクロサージャリと骨延長 骨代謝性疾患	約70～80%
	石橋 恭之	准教授	整形外科における機能解剖 スポーツ障害と外傷	約70～90%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	藤 哲	教授	系統別講義（運動器系）	4.1
	石橋 恭之	助教授	系統別講義（運動器）	4.0
	横山 徹	講師	系統別講義（運動器）	3.9

06年度	津田 英一	講師	系統別講義（運動器）	3.8
	沼沢 拓也	助手	系統別講義（運動器）	なし
	小野 睦	助手	系統別講義（運動器）	4.1
07年度	藤 哲	教授	系統別講義（運動器系）	なし
	石橋 恭之	准教授	系統別講義（運動器）	3.9
	津田 英一	講師	系統別講義（運動器）	なし
	沼沢 拓也	助手	系統別講義（運動器）	なし
	小野 睦	助手	系統別講義（運動器）	なし

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	4－5 年	171	1397	4.3	4.3

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	4－5 年	171	1397	4.3	4.5

21. 皮膚科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

目標：太陽紫外線の功罪の分子生物学的機構の理解と研究に努める。

到達度：70%

これから2年間の目標：

授業を受ける学生の理解の向上に努める。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授業科目名	年間担当 時 間 数
06年度	武田 仁志	助手	環境と生活 (D)	紫外線と健康「太陽光線とは」 紫外線と健康「太陽紫外線の警告と防御」 紫外線と健康「太陽紫外線の恩恵」	1 1 1

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	会津 隆幸	助手	チュートリアル講義	3年次	4
	武田 仁志	助手	チュートリアル講義	3年次	4
	中島 康爾	助手	チュートリアル講義	3年次	4
	池永 五月	助手	チュートリアル講義	3年次	4
	中野 創	助教授	系統別講義 平成18年度国試対策セミナー	4年次 6年次	5 1
	松崎 康司	講師	系統別講義	4年次	3
	金子 高英	助手	系統別講義	4年次	2
	武田 仁志	助手	系統別講義	4年次	3
07年度	澤村 大輔	教授	皮膚と疾患 発展現代医学	4 2	3 1
	中野 創	准教授	皮膚と疾患 発展現代医学 平成19年度国試対策セミナー	4 4 6	3 1 1
	松崎 康司	講師	皮膚と疾患	4	3
	金子 高英	講師	皮膚と疾患	4	5
	会津 隆幸	助教	チュートリアル講義	3	4
	中島 康爾	助教	皮膚と疾患	4	1
	池永 五月	助教	皮膚と疾患	4	1

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	武田 仁志	助手	5・6	20
	会津 隆幸	助手	6年次	4週間
07年度	澤村 大輔	教授	5	19週
	中野 創	准教授	5	19週
	金子 高英	講師	5	19週
	会津 隆幸	助教	5 6	19週 8週
	中島 康爾	助教	5	19週

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	会津 隆幸	助手
07年度	会津 隆幸	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	中野 創
07年度	2名	澤村 大輔

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中野 創	助教授	形態機能制御医学講義 物質環境医学講義 感覚器病態修復学講義 遺伝治療 皮膚の遺伝発生学	大学院生	2単位（後期） 2単位（後期） 2単位（後期） 2 2
	松崎 康司	講師	形態機能制御医学演習 物質環境医学演習 感覚器病態修復学講義 医学研究概論Ⅱ	大学院生	2単位（後期）
07年度	澤村 大輔	教授	形態機能制御医学講義 物質環境医学講義 感覚器病態修復学講義		2単位
	中野 創	准教授	生命科学倫理学 形態機能制御医学講義 物質環境医学講義 感覚器病態修復学講義		2単位

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	金子 高英	助手	形態機能制御医学実験実習 物質環境医学実験実習 感覚器病態修復学実験実習	大学院生	1単位（前後期）
07年度	松崎 康司	講師	形態機能制御医学演習 物質環境医学演習 感覚器病態修復学演習		2単位
	金子 高英	講師	形態機能制御医学実験実習 形態機能制御医学実験実習 物質環境医学実験実習 物質環境医学実験実習 感覚器病態修復学実験実習 感覚器病態修復学実験実習		2単位

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
07年度	澤村 大輔	教授	Epistatic Connections between MITF and Endothelin Signaling in Waardenburg Syndrome and Other Pigmentary Disorders.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
06年度	松崎 康司	講師	2年	皮膚科学	7
	会津 隆幸	助手	2年	疾病論Ⅱ	2
07年度	会津 隆幸	助教	医学部保健学 2年	疾病論Ⅲ（皮膚疾患）	2単位
	松崎 康司	講師	2年	皮膚科学	7

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
06年度	松崎 康司	講師	2	
07年度	金子 高英	講師	2	2
	中島 康爾	助教	4	4
	池永 五月	助教	6	6

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	中野 創	助教授	系統別講義	80%
			平成18年度国試対策セミナー	80%
			形態機能制御医学講義	70%
			物質環境医療学講義	70%
			感覚器病態修復学講義	70%
			遺伝治療	70%
			皮膚の遺伝発生学	70%
	松崎 康司	講師	系統別講義	80%
			形態機能制御医学演習	70%
			物質環境医療学演習	70%
07年度	金子 高英	助手	系統別講義	80%
			形態機能制御医学実験実習	70%
			物質環境医療学実験実習	70%
	会津 隆幸	助手	チュートリアル講義	90%
			臨床実習	100%
	武田 仁志	助手	紫外線と健康「太陽光線とは」	70%
			紫外線と健康「太陽紫外線の警告と防御」	70%
			紫外線と健康「太陽紫外線の恩恵」	70%
	中島 康爾	助手	チュートリアル講義	80%
			臨床実習	90%
07年度	池永 五月	助手	チュートリアル講義	90%
			チュートリアル講義	90%
07年度	澤村 大輔	教授	皮膚と疾患	80%
			発展現代医学	80%
			形態機能制御医学講義	80%
			物質環境医療学講義	80%
			感覚器病態修復学講義	80%
			感覚器病態修復学講義	80%

07年度	中野 創	准教授	皮膚と疾患 発展現代医学 平成19年度国試対策セミナー 臨床実習 生命科学倫理学 形態機能制御医学講義 物質環境医療学講義 感覚器病態修復学講義	80% 80% 80% 90% 80% 80% 80%
	松崎 康司	講師	皮膚と疾患 形態機能制御医学演習 物質環境医療学演習 感覚器病態修復学演習	80% 80% 80% 80%
	金子 高英	講師	皮膚と疾患 形態機能制御医学実験実習 形態機能制御医学実験実習 物質環境医療学実習 物質環境医療学実習 感覚器病態修復学実験実習 感覚器病態修復学実験実習	80% 80% 80% 80% 80% 80% 80%
	会津 隆幸	助教	チュートリアル講義 疾病論Ⅲ（皮膚疾患）	90% 90%
	中島 康爾	助教	皮膚と疾患 皮膚疾患患者と看護	80% 90%
	池永 五月	助教	皮膚と疾患	80%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	中野 創	助教授	系統別講義（皮膚・結合識系）	(A) 4.3
	松崎 康司	講師	系統別講義（皮膚・結合識系）	(A) 3.7 (B) 3.6
	金子 高英	助手	系統別講義（皮膚・結合識系）	(A) 3.8 (B) 3.9
	武田 仁志	助手	系統別講義（皮膚・結合識系）	(A) 3.6 (B) 3.7
07年度	澤村 大輔	教授	皮膚と疾患	(A) 4.3 (B) 4.3
	中野 創	准教授	皮膚と疾患	(A) 4.3 (B) 4.3
	松崎 康司	講師	皮膚と疾患	(A) 3.6 (B) 3.7
	金子 高英	講師	皮膚と疾患	(A) 4.2 (B) 4.3
	中島 康爾	助教	皮膚と疾患	(A) 3.3 (B) 3.2
	池永 五月	助教	皮膚と疾患	(A) 3.6 (B) 3.5

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	7		4.5	4.5

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	95		3.7	4.0

22. 泌尿器科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ100%達成した。

これから2年間の目標：

現在のスペースを維持する。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
06年度	大山 力	教授		発癌（発達と老化）	4
07年度	古家 琢也	講師	テーマ科目	最新医学の現状	6

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	回 数 又は期間
06年度	盛 和行	助手	自然系基礎	基礎化学実験（化学）	18
07年度	盛 和行	助教	自然系基礎	基礎科学実験（化学）	13.5

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大山 力	教授	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	6
			医学英語	4	14
			臨床医学早期体験	2	4
	大和 隆	講師	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	6
	古家 琢也	講師	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	4
07年度	米山 高弘	助手	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	4
	大山 力	教授	臨床医学入門実習	1	4
			発展現代医学（外科系）	2	2
			発展現代医学（外科系）	4	2
			医学英語	4	14
			系統別講義（腎・泌尿器系）	4	8
	神村 典孝	講師	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	4
	古家 琢也	講師	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	4
	米山 高弘	助教	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	4
	橋本 安弘	助教	系統別講義（腎・泌尿器系）	4	2

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	大山 力	教授	5・6	130
	大和 隆	講師	5・6	130
	古家 琢也	講師	5・6	130
	米山 高弘	助手	5・6	130
	萩沢 茂	助手	5・6	130
	今井 篤	助手	5・6	130
	畠山 真吾	助手	5・6	60
	岩瀬 郁哉	助手	5・6	130

07年度	大山 力	教授	5・6	130
	神村 典孝	講師	5・6	130
	大和 隆	講師	5・6	30
	古家 琢也	助教	5・6	130
	米山 高弘	助教	5・6	130
	萩沢 茂	助教	5・6	30
	橋本 安弘	助教	5・6	100
	今井 篤	助教	5・6	130
	岡本亜希子	助教	5・6	100

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	大和 隆	講師
	今井 篤	助手
07年度	神村 典孝	講師
	今井 篤	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4名	盛 和行
07年度	2名	盛 和行

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大山 力	教授	医学研究概論（後期）	1・2	2
			最新医学の動向（後期）		4
			生命科学の倫理学（前期）		2
07年度	大山 力	教授	医学研究概論	1	4

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大山 力	教授	泌尿器手術	2	70
07年度	大山 力	教授	泌尿器腫瘍学	2, 3	140
	盛 和行	助教	基礎技術実習	1, 2	3

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	大山 力	教授	N-acetylglucosaminyltransferase-V and β 1, 6 branching N-linked oligosaccharides are associated with good prognosis of patients with bladder cancer. (膀胱癌における N-acetylglucosaminyltransferase-V と β 1, 6分岐 N 結合型糖鎖の研究)
07年度	大山 力	教授	- Low-Dose Instillation Therapy with Bacille Calmette-Guérin Tokyo 172 Strain After Transurethral Resection: Historical Cohort Study. - Carotid intima media thickness and aortic calcification index closely relate to cerebro- and cardiovascular disorders in hemodialysis patients. - 膀胱癌細胞に抗腫瘍効果を発揮する Bacillus Calmette-Guerin (BCG) 菌体成分の探索。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
06年度	古家 琢也	講師	3	泌尿器科	4
07年度	古家 琢也	講師	3	泌尿器科	4

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	古家 琢也	講師		
07年度	古家 琢也	講師	4	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	大山 力	教授	泌尿器科学	98%
07年度	大山 力	教授	腎・泌尿器系	90%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科目名	評価
06年度	大山 力	教授	系統別講義（腎・泌尿器系）	4.5
07年度	大山 力	教授	腎・泌尿器系	4.5

2) 専門教育の評価

該当なし。

23. 眼科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

75%

これから２年間の目標：

眼科学の楽しさを学生にアピールする。

明るく澆刺とした毎日を過ごせるように自己の体調管理に努める。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
07年度	中澤 満	教授	テーマ科目	最新医学の現状	3 コマ

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中澤 満	教授	眼科学	4	18
	鈴木 幸彦	講師	眼科学	4	2
	石川 太	助手	眼科学	4	1
07年度	中澤 満	教授	眼科学（感覚器と疾患）	4	11 コマ
	鈴木 幸彦	講師	眼科学（感覚器と疾患）	4	2 コマ
	石川 太	助教	眼科学（感覚器と疾患）	4	1 コマ

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	中澤 満	教授	5	152
	鈴木 幸彦	講師	5	76
	石川 太	助手	5	76
	山崎 仁志	助手	5	76
	目時 友美	助手	5	19
	伊藤 忠	助手	5	38
	鈴木 香	助手	5	19
07年度	中澤 満	教授	5	324
	鈴木 幸彦	講師	5	162
	石川 太	助教	5	104
	山崎 仁志	助教	5	162
	目時 友美	助教	5	180
	宮川 靖博	助教	5	80
	伊藤 忠	助教	5	152
	鈴木 香	助教	5	72

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	山崎 仁志	助手
	伊藤 忠	助手
07年度	鈴木 香	助教
	宮川 靖博	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4名	中澤 満
07年度	2名	中澤 満

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中澤 満	教授	眼科学	1, 2 年	2
07年度	中澤 満	教授	大学院講義	1	1 コマ

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中澤 満	教授	眼科学	1, 2	1
	鈴木 幸彦	講師	眼科学	1, 2	1

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	2 名
07年度	5 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	鈴木 幸彦	講師	3	臨床検査	2
	石川 太	助手		教育学部	7
				眼科学	1
	山崎 仁志	助手	2	無散瞳眼底カメラ	3
07年度	鈴木 幸彦	講師	保健 3	眼科学	2 コマ
	山崎 仁志	助教	保健 2	眼底撮影検査	1 コマ
	目時 友美	助教	教育 2	臨床医科学眼科	7 コマ

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	鈴木 幸彦	講師	1	0

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	中澤 満	教授	眼科学	90ないし95%
	鈴木 幸彦	講師	眼科学	90ないし95%
	石川 太	助手	眼科学	90ないし95%
07年度	中澤 満	教授	眼科学	約97%
	鈴木 幸彦	講師	眼科学	90%以上
	石川 太	助教	眼科学	90%以上

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	中澤 満	教授	眼科学	4.1
	鈴木 幸彦	講師	眼科学	
	石川 太	助手	眼科学	3.6
07年度	中澤 満	教授	眼科学	4.0
	鈴木 幸彦	講師	眼科学	3.5
	石川 太	助教	眼科学	3.9

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
眼科学	5	142.5	551	3.9	3.9

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5	144	1152	4.0	4.0

24. 耳鼻咽喉科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- 講義 1. できるだけポイントを絞って、理解しやすいように行う。80 %
 2. 理解度の確認のため、小テストを講義中に行う。70 %
 3. 教育評価の結果を講義に反映させる。70 %
 実習 1. 見学のみの実習を可能な限り廃し、診療に参加できる体制を整える。90 %
 2. 診療を通じて、病歴、検査、診断、治療に至る思考過程を養う。80 %
 3. 可能な限り、救急疾患への対応を学ばせる。70 %
 4. 教育評価の結果を講義に反映させる。70 %

これから2年間の目標：

- 講義 1. できるだけポイントを絞って、理解しやすいように行う。
 2. 理解度の確認のため、小テストを講義中に行う。
 3. 教育評価の結果を講義に反映させる。
 4. 講義内容の見直しを行う。
 実習 1. 見学のみの実習を可能な限り廃し、診療に参加できる体制を整える。
 2. 診療を通じて、病歴、検査、診断、治療に至る思考過程を養う。
 3. 可能な限り、救急疾患への対応を学ばせる。
 4. 教育評価の結果を講義に反映させる。

(1) 教 育

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当 時 間 数
07年度	松原 篤	准教授	テーマ	最新医学の現状	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	新川 秀一	教授	系統別講義（感覚器系）	4	26
	松原 篤	助教授	系統別講義（感覚器系）	4	6
	欠畑 誠治	助教授	系統別講義（感覚器系）	4	4
07年度	新川 秀一	教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	4	26
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	2	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4	2
	松原 篤	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	4	4
	欠畑 誠治	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	4	6
	佐々木 亮	助教	チュートリアル教育	3	8

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	新川 秀一	教授	5 年 6 年	36 4
	松原 篤	助教授		
	欠畑 誠治	助教授		
	石井 賢治	助手		
	南場 淳司	助手		
	丸屋信一郎	助手		
	二井 一則	助手		

07年度	新川 秀一	教授	6 年 5 年	4 36
	松原 篤	准教授		
	欠畑 誠治	准教授		
	南場 淳司	助教		
	二井 一則	助教		
	佐々木 亮	助教		

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	欠畑 誠治	助教授
	南場 淳司	助手
07年度	欠畑 誠治	准教授
	南場 淳司	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	1名	欠畑 誠治
07年度	2名	欠畑 誠治, 丸屋信一郎

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	新川 秀一	教授	感覚器病態修復学	1 年	60 (4 単位)
			神経細胞組織化学	1 年	60 (4 単位)
07年度	新川 秀一	教授	感覚器病態修復	1	60
			耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1	60

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	松原 篤	准教授	耳鼻咽喉・頭頸部外科学実験	1	40
	欠畑 誠治	准教授	感覚器病態修復学実験	1	40

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	新川 秀一	教授	The direct effects of cholesterol on outer hair cell motility
	欠畑 誠治	助教授	
07年度	新川 秀一	教授	Simvastatin inactivates β 1-integrin and extracellular signal-related kinase signaling and inhibits cell proliferation in head and neck squamous cell carcinoma cellsCancerSci
	丸屋信一郎	助教	

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	松原 篤	非常勤講師	2・3年	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科（教育学部）	14
			2年	臨床生理学Ⅲ・平衡機能検査（保健学科）	4
			2年	臨床実習・生理学部門（保健学科）	14
	欠畑 誠治	非常勤講師	3年	成人看護学演習（保健学科）	4
07年度	松原 篤	非常勤講師	2年	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科（教育学部）	14
			2年	臨床生理学Ⅲ・平衡機能検査（保健学科）	4
			2年	臨床実習・生理学部門（保健学科）	14

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	新川 秀一	教授	2	0
	松原 篤	助教授	2	0
07年度	新川 秀一	教授	4	0
	松原 篤	准教授	2（信州大学）	0

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	新川 秀一	教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）	4年生：95%以上
	松原 篤	助教授	系統別講義（耳鼻咽喉科）	90%以上
	欠畑 誠治	助教授	系統別講義（感覚器系）	100%
07年度	新川 秀一	教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	90%以上
	松原 篤	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	90%以上
	欠畑 誠治	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	90%以上

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	新川 秀一	教授	感覚器系（耳鼻咽喉科学）講義	(A) 3.6
	松原 篤	助教授	系統別講義（耳鼻咽喉科）	4.2
	欠畑 誠治	助教授	系統別講義（感覚器系）	4.4
07年度	新川 秀一	教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	(A) 3.0 (B) 2.4
	松原 篤	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	(A) 4.0 (B) 3.9
	欠畑 誠治	准教授	感覚器と疾患（耳鼻科疾患）	(A) 4.1 (B) 4.2

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	38週		3.7	3.8

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5年	38週		4.2	4.3

25. 放射線科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

80－90%

これから２年間の目標：

- １）学生教育の充実、とくに研究室研修、クリニカルクラークシップの充実
- ２）卒後臨床研修の受入体制の充実
- ３）大学院教育の実習強化
- ４）社会活動への参加

(1) 教 育 実 績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	青木 昌彦	准教授	テーマ科目	最新医学の現状	4.5 時間
	三浦 弘行	講師	テーマ科目	最新医学の現状	4.5

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	阿部 由直	教授	系統別講義（放射線医学）	4	18
			侵襲と生体応答（コア B-2）（放射線学分野）	2	8
			臨床実地見学実習	2	6
	小野 修一	助教授	放射線科学	4	1
	青木 昌彦	助教授	放射線治療各論	4	2
	三浦 弘行	講師	放射線医学	4	2
	長畑 守雄	助手	放射線医学	4	1
07年度	阿部 由直	教授	系統別講義（放射線医学）	4	13.5
			侵襲と応答	2	6
			臨床実地見学実習	2	4.5
	小野 修一	准教授	系統講義「放射線医学」	4	1.5
	青木 昌彦	准教授	系統講義「放射線医学」	4	7.5
	三浦 弘行	講師	系統講義「放射線医学」	4	4.5
	長畑 守雄	助手	系統講義「放射線医学」	4	3
	畑山 佳臣	助教	「チュートリアル」授業	3	6 時間

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	阿部 由直	教授	5 - 6	114
	小野 修一	助教授	5	38
	青木 昌彦	助教授	5	76
	三浦 弘行	講師	5	38
	長畑 守雄	助手	5	38
	大畑 崇	助手	5	38

07年度	阿部 由直	教授	5	114
	小野 修一	准教授	5	128
	青木 昌彦	准教授	5	114
	三浦 弘行	講師	5	30
	畑山 佳臣	助教	5	60

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	近藤 英宏	助手
07年度	三浦 弘行	講師

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	6 名	小野 修一, 青木 昌彦
07年度	3 名	小野 修一, 青木 昌彦

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	阿部 由直	教授	生命科学倫理 がんのベーシックサイエンス	前期	1.5
				後期	4.5

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	阿部 由直	教授	放射線科学	1 - 4	40
	小野 修一	助教授	放射線科学	1, 2, 3	100
	青木 昌彦	助教授	放射線医学	1 - 4	40
	三浦 弘行	講師	放射線医学	1, 2, 3	40
07年度	阿部 由直	教授	放射線医学講座	1, 2	20
	小野 修一	准教授	放射線科学	1, 2	100

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	阿部 由直	教授	平均肺線量 (MLD) は放射線肺臓炎の評価に有用である。
07年度	阿部 由直 小野 修一	教授 准教授	肺癌胸膜播種の CT 診断 - 原発巣所見との対比 -

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	阿部 由直	教授	系統別講義（放射線医学）	80-90%
			侵襲と生体応答（コア B-2）（放射線学分野）	90-
			臨床実地見学実習	100
			臨床実習（放射線医学）	99
	小野 修一	助教授	放射線科学	100%
	青木 昌彦	助教授	放射線治療各論	90%
07年度	三浦 弘行	講師	系統別講義（放射線医学）	
	長畑 守雄	助手	放射線医学（神経放射線診断学）	70
	大畑 崇	助手	系統別講義（放射線医学）	70
	阿部 由直	教授	系統講義「放射線科学」	80-90%
	小野 修一	准教授	系統講義「放射線科学」	98%
	青木 昌彦	准教授	系統講義「放射線科学」	90%
	長畑 守雄	助手	系統講義「放射線科学」	70

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	阿部 由直	教授	系統別講義（放射線医学）	3.9
			侵襲と生体応答（コア B-2）（放射線学分野）	3.4
			臨床実習（放射線医学）	4.0
	小野 修一	助教授	系統別講義（放射線医学）	4.2
	青木 昌彦	助教授	放射線治療各論	4.3
	三浦 弘行	講師	系統別講義（放射線医学）	3.6
	長畑 守雄	助手	放射線医学（神経放射線診断学）	3.5
07年度	大畑 崇	助手	系統別講義（放射線医学）	3.8
	阿部 由直	教授	系統講義「放射線科学」	3.4
	小野 修一	准教授	系統講義「放射線科学」	4.2
	青木 昌彦	准教授	系統講義「放射線科学」	4.1

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
放射線医学講座	5			4.0	4.0

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
放射線医学（BSL）	5			4.3	

26. 産科婦人科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

分担当に関しては責任をもって講義，実習を行った。臨床実習期間が14日間に増やされたことにより，これまで以上に充実した教育が可能となった。

これから2年間の目標：

引き続き，産婦人科に興味を持ち理解を深めるように工夫する。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	藤井 俊策	助教授	テーマ科目	最新医学の現状	3

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	水沼 英樹	教授	系統別講義（生殖系）	4 年	10
			臨床診断学（内科診断学）	4 年	2
			系統別講義（加齢医学）	4 年	2
	藤井 俊策	助教授	系統別講義（生殖系）	4 年	1
			系統別講義（生殖系）	3 年	3
	樋口 毅	講師	系統別講義（生殖系）	4 年	8
07年度	横山 良仁	講師	系統別講義（生殖系）	4 年	8
	二神 真行	助手	チュートリアル		4
	水沼 英樹	教授	妊娠・分娩，女性生殖器和疾患	4 年	14
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4 年	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	2 年	2
			発展臨床医学Ⅱ先端医学・東洋医学	4 年	2
	藤井 俊策	准教授	妊娠・分娩，女性生殖器和疾患	4 年	8
	樋口 毅	講師	妊娠・分娩，女性生殖器和疾患	4 年	8
	横山 良仁	講師	妊娠・分娩，女性生殖器和疾患	4 年	8
	福井 淳史	助教	チュートリアル教育	4 年	4

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	水沼 英樹	教授	5・6 年生	実習期間を通じて
	藤井 俊策	助教授	5・6 年生	実習期間を通じて
	樋口 毅	講師	5・6 年生	実習期間を通じて
	横山 良仁	講師	5・6 年生	実習期間を通じて
	二神 真行	助手	5・6 年生	実習期間を通じて
	山本 善光	助手	5・6 年生	実習期間を通じて
	木村 秀崇	助手	5・6 年生	実習期間を通じて
07年度	水沼 英樹	教授	5・6 年生	実習期間を通じて
	藤井 俊策	准教授	5・6 年生	実習期間を通じて
	樋口 毅	講師	5・6 年生	実習期間を通じて
	横山 良仁	講師	5・6 年生	実習期間を通じて
	福井 淳史	助教	5・6 年生	実習期間を通じて
	二神 真行	助教	5・6 年生	実習期間を通じて

	山本 善光	助教	5・6 年生	実習期間を通じて
	木村 秀崇	助教	5・6 年生	実習期間を通じて

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	横山 良仁	講師
07年度	福井 淳史	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	6 名	藤井 俊策, 樋口 毅, 横山 良仁
07年度	3 名	横山 良仁, 樋口 毅, 福井 淳史

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	水沼 英樹	教授	医学研究概論	1 年	2
			最新医学の動向	大学院生	2
			婦人科腫瘍学	大学院生	4
			腫瘍制御学	大学院生	4
07年度	藤井 俊策	助教授	生殖医療と倫理	大学院生	1
			遺伝発生学	大学院生	1
			再生医療	大学院生	1
07年度	水沼 英樹	教授	医学研究概論Ⅱ	1・2 年	2
			婦人科腫瘍学	大学院生	4
			腫瘍制御学	大学院生	4
07年度	藤井 俊策	准教授	生殖医療と倫理	大学院生	2
			遺伝発生学	大学院生	2
			再生医療	大学院生	2
07年度	横山 良仁	講師	卵巣癌に対する抗血管新生療法を目指して	大学院生	2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	藤井 俊策	助教授	フローサイトメトリー	大学院生	1
	横山 良仁	講師	卵巣癌治療薬の開発	4 年	380時間
07年度	福井 淳史	助教	産科婦人科	1～4 年	通年

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	水沼 英樹	教授	加齢マウス体外受精卵の胚発生に対する赤血球の抗酸化作用
	藤井 俊策	助教授	
	水沼 英樹	教授	骨細胞外マトリックスにおけるグリコサミノグリカン糖鎖の変化と骨の脆弱化～加齢・骨粗鬆症モデル動物における検討～
	樋口 毅	講師	
07年度	水沼 英樹	教授	PPAR α リガンドと PPAR γ リガンドの卵巣癌に対する抗腫瘍効果とその作用機序の解明
	横山 良仁	講師	
	水沼 英樹	教授	選択的 COX-2阻害剤と核内受容体 PPAR γ リガントの卵巣癌に対する抗腫瘍効果とその作用機序の解明
	横山 良仁	講師	
07年度	水沼 英樹	教授	HeLa 細胞において retinoic acid-inducible gene-1 は interferon- γ 刺激により発現し, CXCL11 発現を調節する
	藤井 俊策	准教授	
	水沼 英樹	教授	妊娠高血圧症候群胎盤の絨毛間腔におけるプロテオグリカン発現やグリコサミノグリカン構造の変化
	横山 良仁	講師	
07年度	藤井 俊策	准教授	Fukuhara R, Fujii S, Nakamura R, Yuzawa E, Kimura H, Fukui A and Mizunuma H (2008) Erythrocytes counteract the negative effects of female ageing on mouse preimplantation embryo development and blastocyst formation. Hum Reprod 23, 2080-2085.
	横山 良仁	講師	Inhibitory effect of meloxicam, a selective cyclooxygenase-2 inhibitor, and ciglitazone, a peroxisome proliferator-activated receptor gamma ligand, on the growth of human ovarian cancer. Peroxisome proliferator-activated receptor alpha and gamma inhibit growth of human ovarian cancer.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	1 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1 名
07年度	2 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	水沼 英樹	教授	系統別講義（生殖系）	60%
	藤井 俊策	助教授	系統別講義（生殖系）	27%
	樋口 毅	講師	系統別講義（生殖系）	60%
	横山 良仁	講師	系統別講義（生殖系）	70%
07年度	水沼 英樹	教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	60%
	藤井 俊策	准教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	50%
	樋口 毅	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	60%
	横山 良仁	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	75%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	水沼 英樹	教授	系統別講義（生殖系）	4.1
	藤井 俊策	助教授	系統別講義（生殖系）	4.2
	樋口 毅	講師	系統別講義（生殖系）	3.2
	横山 良仁	講師	系統別講義（生殖系）	4.4
07年度	水沼 英樹	教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4.2
	藤井 俊策	准教授	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4.2
	樋口 毅	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	3.2
	横山 良仁	講師	妊娠・分娩，女性生殖器と疾患	4.6

2) 専門教育の評価 該当なし。

27. 麻酔科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- ①麻酔科を理解してもらえよう更に内容のレベルアップに努める。
→PBLを基本としたマンツーマンでの学生教育は学生の評価が高かった。
- ②臨床実習ではPBLを基本に、シミュレータも併用した教育を行う。
→麻酔シミュレーターを用いた教育を行っていたがシステムが老朽化し、故障が多くなったため中止した。しかし、教育上大きな問題とはならなかった。
- ③臨床研修医指導医ワークショップでのタスクフォースの一員として、県内の臨床研修のより一層の充実に寄与する。
→毎年、数名ずつワークショップに参加するとともに、タスクフォースとしても参加し県内の臨床研修のより一層の充実に寄与した。
- 以上より、到達度は90%程度と思われる。

これから2年間の目標：

- ①麻酔科を理解してもらえよう更に内容のレベルアップに努める。
- ②臨床実習ではPBLを基本に、画像を多く用いた教育を行う。
- ③臨床研修医指導医ワークショップへ教員を参加させるとともに、タスクフォースの一員としても、県内の臨床研修のより一層の充実に寄与する。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	石原 弘規	助教授	テーマ科目	メンタルヘルス	1 回
	佐藤 哲観	講師	テーマ科学	人間の尊厳、他	6
07年度	石原 弘規	准教授	メンタルヘルス (A)	ストレスの生体へ及ぼす影響	1 回
	佐藤 哲観	講師	テーマ科学	人間の尊厳 (C)	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	廣田 和美	教授	系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	4 回
			基本的診療知識	3 年生	3
	石原 弘規	助教授	系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	2 回
			基本的診療知識	3 年生	2 回
	橋本 浩	講師	系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	4
			基本的診療知識	3 年生	2
	橋本 浩	講師	臨床実地見学実習	2 年生	24
07年度	佐藤 哲観	講師	系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	6 回
	櫛方 哲也	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	3 回
			系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	1 回
	北山 真任	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	1 回
			系統別講義（麻酔・蘇生系）	4 年生	1 回
	廣田 和美	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系）	2 年次	2 時間
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4 年次	2 時間
07年度	櫛方 哲也	講師	基本的診療知識（外科系）	4 年次	2 時間
			医学英語	4 年次	2 時間
	佐藤 哲観	講師	基本的診療知識（外科系）	4 年次	12時間
			発展現代医学Ⅱ（東洋医学）	4 年次	2 時間

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	工藤 剛	助手	基礎科学実験 (化学)	2	
	北山 真任	助手	チュートリアル教育	3	16
07年度	木村 太	助教	チュートリアル教育	3	4
	北山 真任	助教	チュートリアル教育	3	16
	工藤 剛	助教	基礎化学実習	2	18

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	廣田 和美	教授	5, 6	300
	石原 弘規	助教授	5	約60時間
	橋本 浩	講師	5, 6	500
	佐藤 哲観	講師	5, 6	120
	櫛方 哲也	助手	6	300
	北山 真任	助手	5	320
	北山 真任	助手	5	320
07年度	廣田 和美	教授	5, 6	300
	石原 弘規	准教授	5, 6	200
	櫛方 哲也	講師	5, 6	300
	佐藤 哲観	講師	5, 6	360
	木村 太	助教	5, 6	300
	北山 真任	助教	5, 6	320
	北山 真任	助教	5, 6	320

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	櫛方 哲也	助手
	北山 真任	助手
07年度	北山 真任	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2 名	工藤美穂子, 工藤 剛
07年度	1 名	工藤美穂子

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	廣田 和美	教授	医学研究概論	1, 2	1
	佐藤 哲観	講師	がん疼痛治療	1, 2	1
07年度	廣田 和美	教授	医学研究概論	1 年次	2 時間
	佐藤 哲観	講師	生命科学倫理学	1 ~ 2	2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	廣田 和美	教授	DPC 講演会
	石原 弘規	助教授	DPC 講演会
07年度	廣田 和美	教授	DPC 講演会

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	1名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1名
07年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	石原 弘規	助教授	4時間	4時間（青森大学薬学部）
07年度	石原 弘規	准教授	8時間	8時間

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	廣田 和美	教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識	90%以上 90%以上
	石原 弘規	助教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識	90%以上 90%以上
	橋本 浩	講師	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識 臨床実地見学実習	90%以上 90%以上
	佐藤 哲観	講師	系統別講義（麻酔・蘇生系）	90%以上
	櫛方 哲也	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	90%以上
	北山 真任	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	90%以上
07年度	廣田 和美	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	約93% 約96%
	櫛方 哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語	約97% 約94%
	佐藤 哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（東洋医学）	約98%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	廣田 和美	教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識	平均3.6
	石原 弘規	助教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識	平均3.7
	橋本 浩	講師	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識	平均3.6
	佐藤 哲観	講師	系統別講義（麻酔・蘇生系）	平均4.8
	櫛方 哲也	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	平均4.2
	北山 真任	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	平均3.5
07年度	廣田 和美	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 発展現代医学Ⅱ（外科系）	3.3
	櫛方 哲也	講師	基本的診療知識（外科系） 医学英語	4.1
	佐藤 哲観	講師	基本的診療知識（外科系） 発展現代医学Ⅱ（東洋医学）	4.5

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
麻酔学講座	5 - 6 年生	各グループ 2 週間		5	5

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習 (麻酔科)	5 年				4.0

28. 脳神経外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ達成した。

これから２年間の目標：

学生教育の充実及び、研修医教育、卒後専門医教育など臨床を介しての教育によりいっそう力を入れていく。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	嶋村 則人	講師	テーマ科目	最新医学の現状（G）	6
07年度	大熊 洋揮	教授	テーマ科目	最新医学の現状（J）	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大熊 洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系）	4	6
			医学英語	4	7
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系）	4	4
			内分泌・代謝と疾患	3	2
			医学英語	4	7
	中野 高広	講師	系統別講義（脳・神経系）	4	4
嶋村 則人	講師	系統別講義（脳・神経系）	4	4	
菊池 潤	助手	チュートリアル教育	3	8	
棟方 聡	助手	チュートリアル教育	3	8	
07年度	大熊 洋揮	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系）	2	2
			神経と疾患	4	8
	中野 高広	講師	神経と疾患	4	4
	浅野研一郎	講師	内分泌代謝と疾患	3	2
			医学英語Ⅲ	4	14
			神経と疾患	4	4
	嶋村 則人	講師	神経と疾患	4	4
小笠原ゆかり	助教	チュートリアル教育	3	16	
竹田 哲司	助教	チュートリアル教育	3	16	

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	大熊 洋揮	教授	5	19週間
	浅野研一郎	講師	5	19週間
	中野 高広	講師	5	19週間
	嶋村 則人	講師	5	19週間
	菊池 潤	助手	5	19週間
	棟方 聡	助手	5	19週間
	小笠原ゆかり	助手	5	19週間
	竹田 哲司	助手	5	19週間

07年度	大熊 洋揮	教授	5	19週間
	中野 高広	講師	5	19週間
	浅野研一郎	講師	5	19週間
	嶋村 則人	講師	5	19週間
	菊池 潤	助教	5	19週間
	小笠原ゆかり	助教	5	19週間
	竹田 哲司	助教	5	19週間
	奈良岡征都	助教	5	19週間

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	浅野研一郎	講師
07年度	浅野研一郎	講師

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
07年度	1 名	菊池 潤

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大熊 洋揮	教授	脳循環制御学講義	1	24
	浅野研一郎	講師	脳循環制御学講義	1	24
07年度	大熊 洋揮	教授	脳血管障害学講義	1	48
			機能的脳神経外科講義	1	48
	浅野研一郎	講師	悪性脳腫瘍	1～2	2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大熊 洋揮	教授	脳循環制御学演習	1	48
	中野 高広	講師	脳循環制御学実験実習	2	48
	嶋村 則人	講師	脳循環制御学実験実習	2	48
07年度	大熊 洋揮	講師	脳循環制御学実験演習	2	48
			脳血管障害学演習	1	48
			機能的脳神経外科学演習	1	48

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	嶋村 則人	講師	2・3	疾病論Ⅲ	2
			2	脳神経外科学概要	6
	中野 高広	講師	2・3	疾病論Ⅲ	2
			2	脳神経外科学概要	4
	浅野研一郎	講師	2	脳神経外科学概要	4
			2	脳神経外科学概要	4

07年度	中野 高広	講師	2	疾病論Ⅲ	2
			2	脳神経外科学概要	4
	浅野研一郎	講師	2	脳神経外科学概要	6
	嶋村 則人	講師	2	疾病論Ⅲ	2
			2	脳神経外科学概要	4

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	大熊 洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系）	80%
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系）	86%
	中野 高広	講師	系統別講義（脳・神経系）	84%
	嶋村 則人	講師	系統別講義（脳・神経系）	89%
07年度	大熊 洋揮	教授	神経と疾患	96%
	中野 高広	講師	神経と疾患	96%
	浅野研一郎	講師	神経と疾患	95%
	嶋村 則人	講師	神経と疾患	95%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	大熊 洋揮	教授	系統別講義（脳・神経系）	4.3
	浅野研一郎	講師	系統別講義（脳・神経系）	3.9
	中野 高広	講師	系統別講義（脳・神経系）	
	嶋村 則人	講師	系統別講義（脳・神経系）	4.0
07年度	大熊 洋揮	教授	神経と疾患	4.4
	中野 高広	講師	神経と疾患	3.3
	浅野研一郎	講師	神経と疾患 内分泌代謝と疾患	4.0 4.5
	嶋村 則人	講師	神経と疾患	4.3

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
脳神経外科学講座	5 年	90	720	4.2	3.5

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	19週間		4.7（平均）	4.8（平均）

29. 歯科口腔外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

（講座・木村 博人）

- 共通教育，専門教育，大学院教育において講義，実習を積極的に担当する。
- 講義，実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
- 講義内容の見直しを図り，出席率の向上に努める。
- BSLにおける実習指導，研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
- 医学部保健学科および学外コ・メディカルの講義，実習に積極的に協力する。
- 学位審査の機会があれば積極的に努める。
- 医学部学生の課外活動の指導に努める。

達成度 （90％）

（小林 恒）

- 講義内容の見直しを図り，興味のわく講義内容とするよう努める。
- BSLにおける実習指導を懇切丁寧に行う。

達成度 （80％）

（佐藤 寿）

- BSL指導を積極的に行う。

達成度 （80％）

（楠美昭則）

- BSLの指導を積極的に行う。

- 大学院生の指導についても，教授を補佐し積極的に手法および論文作成について行う予定である。

達成度 （60％）

（榎 宏剛）

- BSLの指導を積極的に行う。

達成度 （80％）

これから2年間の目標：

（講座・木村 博人）

- 専門教育，大学院教育において講義・実習を積極的に担当する。
- 講義・臨床実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
- 講義内容に最新の情報を取り入れて，出席率の向上に努める。
- BSLにおける実習指導，研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
- 医学部保健学科および他大学や県内の医療職教育施設における講義依頼に対し協力する。
- 学位審査の機会があれば積極的に努める。
- 医学部学生の課外活動の指導に努める。

（小林 恒）

- 講義内容の見直しをはかり，最新の情報をふまえて，興味のわく講義内容とする。
- BSLにおける実習指導を積極的に行う。

（佐藤 寿）

- 共通教育，専門教育の担当時間内における内容の充実を図る。

（成田 憲司）

- 基礎医学の知識に基づいた歯科口腔外科学の臨床教育を，わかりやすく行うこと。

（榎 宏剛）

- BSLの指導を積極的に行う。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	木村 博人	教授		最新医学の現状（K）	8

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	木村 博人	教授	系統別講義（歯口腔系） チュートリアル	4 年次 3 年次	14 8
	小林 恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）	4 年次	4
07年度	木村 博人	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系）	2 年次	2
			発展現代医学Ⅱ（外科系）	4 年次	2
			顎口腔と疾患	4 年次	16
	小林 恒	准教授	顎口腔と疾患 チュートリアル	4 年次 3 年次	4 8
	成田 憲司	助教	チュートリアル	3 年次	8

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	木村 博人	教授	5 年次	114
	小林 恒	助教授	〃	171
	織田 光夫	助手	〃	85
	佐藤 寿	助手	〃	160
	楠美 昭則	助手	〃	150
	榊 宏剛	助手	〃	160
	成田 憲司	助手	〃	65
	佐藤 寿	助手	6 年次（クリニカルクラークシップ）	20
	榊 宏剛	助手	〃	20
07年度	木村 博人	教授	5 年次	114
	小林 恒	准教授	〃	171
	佐藤 寿	助教	〃	160
	成田 憲司	助教	〃	150
	楠美 昭則	助教	〃	140
	榊 宏剛	助教	〃	160

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	小林 恒	助教授
	佐藤 寿	助手
07年度	小林 恒	准教授
	佐藤 寿	助教

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4 名	榊 宏剛

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	木村 博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3	40
	小林 恒	助教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3	40
	楠美 昭則	助手	大学院共通基礎科目	1・2	2

07年度	木村 博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3	40
	小林 恒	准教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3	40
	楠美 昭則	助教	大学院共通基礎科目	1・2	2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	木村 博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3	40
	小林 恒	助教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3	40
07年度	木村 博人	教授	発生・分化再生科学領域移植再生医学骨・軟骨移植・再生医学	1～3	40
	小林 恒	准教授	器官病態科学領域腫瘍科学腫瘍制御学	1～3	40
	楠 宏剛	助教	医学研究基礎技術実習		1

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	木村 博人	教授	Expression of vascular endothelial growth factor by photodynamic therapy with mono-L-aspartyl chlorine e6 (NPe6) in oral squamous cell carcinoma

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	楠 宏剛	助手	歯科医師臨床研修指導歯科医講習会（東北大学歯学部附属病院主催）
	成田 憲司	助手	平成18年度歯科医師臨床研修指導歯科医養成講習会（山形県歯科医師会主催）
07年度	木村 博人	教授	研修医プログラム責任者講習会

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	4 名
07年度	3 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	木村 博人	教授	3 年次	保健学科・成人看護学演習	4
	小林 恒	助教授	3 年次	教育学部・臨床医科学Ⅲ -1	15
07年度	木村 博人	教授	2 年次	保健学科・成人看護方法論Ⅲ	4
	小林 恒	准教授	3 年次	教育学部・臨床医科学Ⅲ -1	15

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	木村 博人	教授	28	28
	小林 恒	助教授	20	4
	佐藤 寿	助手	2	2
	長内 隆	歯科技工士	3	3
07年度	木村 博人	非常勤講師	26	24
	小林 恒	非常勤講師	4	4
	佐藤 寿	非常勤講師	2	2

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	木村 博人	教授	系統別講義（歯口腔系）	90.8%
	小林 恒	助教授		

07年度	木村 博人	教授	顎口腔と疾患	90.8%
	小林 恒	准教授	顎口腔と疾患	〃

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	木村 博人	教授	系統別講義（歯口腔系）	A：4.0
	小林 恒	助教授	系統別講義（歯口腔系）	A：3.8
07年度	木村 博人	教授	顎口腔と疾患	A：4.0
	小林 恒	准教授	顎口腔と疾患	A：3.8

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
歯科口腔外科学臨床実習	5 年次	週5日×19週		4.2	4.3

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
歯科口腔外科学臨床実習	5 年次	週5日×19週	760	4.0	4.4

30. 形成外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

新しく割り当てられた講義もあり，目標はほぼ達成出来たと思われる。

これから2年間の目標：

常に新しい形成外科の知識，技術を取り入れ，教育に生かすよう努める。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	横井 克憲	講師	テーマ科目	最新医学の現状（E）	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	横井 克憲	講師	チュートリアル	3 年	8
	漆館 聡志	助手	Pre SGT	5 年	14
07年度	横井 克憲	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系）	2.4 年	4
	漆館 聡志	助教	チュートリアル教育 Pre BSL	3 年 5 年	8 14

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	横井 克憲	講師	5 年，6 年	19週，12週
	漆館 聡志	助手		
	渡辺 庸介	助手		
	三上 誠	助手		
07年度	横井 克憲	講師	5. 6 年	12週，19週
	漆館 聡志	助教	5. 6 年	12週，19週
	渡辺 庸介	助教	5. 6 年	12週，19週
	三上 誠	助教	5. 6 年	12週，19週

4) OSCE

	担当者名	職名
06年度	漆館 聡志	助手
	渡辺 庸介	助手
07年度	漆館 聡志	助教
	渡辺 庸介	助教

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	横井 克憲	講師	再生医学医療セミナー		2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	漆館 聡志	助手	8	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
07年度	横井 克憲	講師	発展現代医学Ⅱ（外科系）2年次	94.1%

【学生による授業評価】

1) 授業評価 該当なし。

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5-6 年	19週		4.1	4.0

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5. 6 年	12週, 19週	31週	4.6	4.5

31. 救急・災害医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

医学部学生・研修医などに外傷の初期治療，急性中毒，心肺蘇生法，災害医学，緊急被ばく医療などについての教育はできた。特に5年次の心肺蘇生法は3日間，一人5～10分間心肺蘇生を実践し体得させられた。また，災害医療は4年次でMCCにてシミュレーション実習を弘前消防署の協力のもと実施できた。

これから2年間の目標：

過去2年間同様，医学部学生・研修医などに外傷の初期治療，急性中毒，心肺蘇生法，災害医学，緊急被ばく医療などの救急医学について教育し，今後，青森ならではの教育として被ばく患者への対応についても教育していく。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	浅利 靖	教授		最新医学の現状 (D)	
07年度	大川 浩文	講師		最新医学の現状	2

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	浅利 靖	教授	救急医学 加齢と侵襲Ⅱ	4 年	7
				3 年	2
07年度	大川 浩文	講師	救急医学 加齢と侵襲Ⅱ	4 年	2
				3 年	1
07年度	浅利 靖	教授	救急医学 加齢と侵襲Ⅱ	4 年次	7
				3 年次	2
07年度	大川 浩文	講師	救急医学 加齢と侵襲Ⅱ	4 年次	1
				3 年次	1

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	浅利 靖	教授	5 年・6 年	90 コマ (90 分 / コマ)
	大川 浩文	講師	5 年・6 年	80 コマ
07年度	浅利 靖	教授	5 年・6 年	90 コマ (90 分 / コマ)
	大川 浩文	講師	5 年・6 年	80 コマ

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	浅利 靖	教授
	大川 浩文	講師
07年度	浅利 靖	教授
	大川 浩文	講師

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	浅利 靖	教授	倫理的問題点		1
07年度	浅利 靖	教授	倫理的問題点		2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	浅利 靖	教授	救急医学	80%
	大川 浩文	講師	救急医学	80%
07年度	浅利 靖	教授	4 年次救急医学 3 年次加齢と侵襲Ⅱ	80% 70%
	大川 浩文	講師	4 年次救急医学 3 年次加齢と侵襲Ⅱ	80% 70%

【学生による授業評価】

1) 授業評価 該当なし。

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	90 日		—	—
クリニカルクラークシップ	6 年	60 日			

32. 臨床検査医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

学部教育の講義および臨床実習を担当し、それらを通じて臨床医として身につける基本的かつ専門的な技術、知識の教育を目標通り行うことができた。研究室研修における研究と発表の指導を行い、大学院生の研究を指導した。また、検査部技師の研究に対しても積極的に指導を行い、技師の科研費獲得に寄与した。各教育内容を見直し、最新の知識を盛り込むよう努めた。

これから2年間の目標：

1. 講義、実習を可能な限り担当する。
2. 大学院と学部学生への講義内容の改善を絶えず行う。
3. 新たな教育法や講義の導入を心がける。
4. 臨床医、研究者として身に付けるべき基本的かつ専門的な技術、知識の教育を行う。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	対象学年	年間担当時間数
06年度	保嶋 実	教授	系統別講義（検査医学）	4 年	8
07年度	保嶋 実	教授	系統別講義（検査医学）	4 年	12

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	保嶋 実	教授	5, 6 年	57
	富田 泰史	助教	5 年	57
07年度	保嶋 実	教授	5 年	57
	杉本 一博	准教授	5 年	12

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
07年度	1 名	杉本 一博, 保嶋 実

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	保嶋 実	教授	Role of vasopressin V1a receptor in hypertension, diabetes mellitus and platelet function

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1名
07年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
06年度	保嶋 実	教授	2, 4年	検査管理総論	6
07年度	保嶋 実	教授	2, 4年	検査管理総論	6

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	保嶋 実	教授	2	0
07年度	保嶋 実	教授	2	0

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	保嶋 実	教授	系統別講義（検査医学）	70%
07年度	保嶋 実	教授	系統別講義（検査医学）	90%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科目名	評価
06年度	保嶋 実	教授	系統別講義（検査医学）	3.6
07年度	保嶋 実	教授	系統別講義（検査医学）	3.5

2) 専門教育の評価

2006年度

授業科目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
検査医学臨床実習	5, 6年	19	57	4.1	4.2

2007年度

授業科目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
検査医学臨床実習	5年	19	57	4.2	4.0

33. 臨床薬理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

臨床薬理学講義「（1）薬物動態学・薬力学について（2）臨床試験の倫理性・科学性と治験について（3）薬物有害反応の基本的概念と薬害について（4）薬効の個体差の背景となる薬理遺伝学について（5）薬物動態に影響を及ぼす各種病態・特殊患者等について」を行った。

薬理学および臨床薬理学実習「（1）β遮断薬を用いた薬効評価と適応疾患に関しての考察（薬理学との共同実習）（2）薬物療法に関するケーススタディを通して薬物選択のポイントの理解と薬効の個体差の背景となる薬理遺伝学について（BSL）」を行った。

これから2年間の目標：

21世紀教育に積極的に関与する。

臨床薬理学講義を充実させる。

薬理学および臨床薬理学実習を充実させる。

出席率の向上を図り、授業評価の改善を得る。

（1）教 育

【21世紀教育・共通教育】

1）講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	立石 智則	教授	テーマ科目健康	生活習慣と健康D	4

2）実習 該当なし。

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	立石 智則	教授	チュートリアル	3 年	2
			系統講義（消化器系）	4 年	1
			系統講義（臨床薬理）	4 年	6
	杉本 勝良	助手	チュートリアル	3 年	4
07年度	立石 智則	教授	チュートリアル	3 年	4
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症系）	3 年	1
			侵襲と加齢Ⅱ	3 年	2
			系統講義（消化器系）	4 年	1
			系統講義（臨床薬理）	4 年	8
			チュートリアル	3 年	4

2）基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	立石 智則	教授	治療の薬理学的基礎実習	2 年	3
			治療の薬理学的基礎実習	3 年	3
07年度	立石 智則	教授	治療の薬理学的基礎実習	3 年	3

3）臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	立石 智則	教授	5 年	16
	杉本 勝良	助手	5 年	8
07年度	立石 智則	教授	5 年	19
	杉本 勝良	助教	5 年	19

4）OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
07年度	2 名	立石 智則

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	立石 智則	教授	最新医学の動向		1
07年度	立石 智則	教授	前期金曜日 後期金曜日		1 1

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	立石 智則	教授	12	12
07年度	立石 智則	教授	15	15
	杉本 勝良	助教	12	12

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	立石 智則	教授	臨床薬理 SGT	3.7
07年度	立石 智則	教授	系統講義（臨床薬理）	3.5

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床薬理	5 学年	2 日	15時間	3.8	3.7

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年生	1.5 日		3.8	3.7

34. 小児外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- 1）専門教育科目の講義では学生が理解できるように種々の工夫を行った。その結果、学生の出席率も良く、授業評価も極めて良好であった。
- 2）BSLは、短期間であるが独自の内容を含んでおり、学生のアンケート評価も良好であり、クリニカルクラークシップの希望者も多かった。

これから2年間の目標：

- 1）専門教育においては、可能な限り講義と実習を担当する。
- 2）講義の内容には常に最新の話題を加え、学生が理解しやすいように工夫する。また、毎年の学生評価結果より、できるだけ学生の要望に応じたい。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	棟方 博文	教授	テーマ科目	最新医学の現状（E）	3 回
07年度	須貝 道博	講師		最新医学の現状	3 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	棟方 博文	教授	系統別講義（成長発達系）	4 年	10 回
	須貝 道博	講師	基本的診察知識	4 年	1 回
07年度	棟方 博文	教授	発展現代医学Ⅱ（外科系） 小児疾患・成長と発達	2, 4 年 4 年	2 回 10回
	須貝 道博	講師	基本的診察知識	4 年	1 回

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	棟方 博文	教授	5 年, 6 年	18回
	須貝 道博	講師	5 年, 6 年	18回
07年度	棟方 博文	教授	5 年, 6 年（クリニカルクラークシップを含む）	66 日
	須貝 道博	講師	5 年, 6 年（クリニカルクラークシップを含む）	66 日

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	須貝 道博	講師
07年度	須貝 道博	講師

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	棟方 博文	教授	生命科学倫理学 (担当代表)	1, 2 年	13回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	棟方 博文	教授	3 回 (270分)	3 回 (青森県立保健大学)
07年度	棟方 博文	教授	3 回 (270分)	3 回 (青森県立保健大学)

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	棟方 博文	教授	系統別講義 (成長発達系)	90%
07年度	棟方 博文	教授	発展現代医学Ⅱ (外科系)	99%
	棟方 博文	教授	小児疾患・成長と発達	85%
	須貝 道博	講師	基本的診察知識	70%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	棟方 博文	教授	系統別講義 (成長発達系)	(A)4.4, (B)4.3
	須貝 道博	講師	基本的診察知識	(A)3.6, (B)3.3
07年度	棟方 博文	教授	小児疾患・成長と発達	A: 4.3, B: 4.2
	須貝 道博	講師	基本的診察知識	A: 3.6, B: 3.7

2) 専門教育の評価 2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 ～ 6 年	36 日	288時間	4.4	4.0

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 ～ 6 年	36 日	288時間	4.3	4.4

35. 医学医療情報学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- （羽 田）「医療管理学」の分担責任を果たす。到達度は70%程度と考えている。
- （佐々木）消化器内視鏡所見読影の基礎はもとより，消化管疾患の診断プロセスを理解してもらう。達成度医学科学生の理解度は30%程度と考えられる。
- （松 谷）前回の目標は「学力低下問題への取り組み」であったが「ゆとりの世代」の学生は予想以上に手強く暗中模索のみで終わった感がある（未達成）。

これから2年間の目標：

- （羽 田）医療（診療行為）と法律・法令等の関係について理解を促す。
- （佐々木）消化器画像診断の基礎と実践を理解してもらう。
- （松 谷）引き続き「学力低下問題への取り組み（方策と実践）」とする。
（個人レベルだけではなく大学組織としてのシステム化など）

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	佐々木賀広	准教授	テーマ科目	最新医学の現状（F）	4
07年度	羽田 隆吉	教授	テーマ科目	生活習慣と健康	8

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
07年度	松谷 秀哉	講師	自然系基礎 情報系基礎 情報系基礎	基礎科学実験（物理） 情報Ⅰ 情報Ⅱ	78 30 30

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	羽田 隆吉	教授	医療管理学	4 年次	14

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	松谷 秀哉	講師	統合基礎医学実習 A （生理学実習）	2 年次	48

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	佐々木賀広	准教授	医学科5 年次	19
07年度	佐々木賀広	准教授	5 年次	20時間
	松谷 秀哉	講師	5 年次	36時間

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	佐々木賀広	准教授	Correlation between endoscopic mucosal pattern and histological atrophy or intestinal metaplasia as a risk factor for gastric cancer

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	羽田 隆吉	教授	3年次	保健学科 コンピュータ概論 (医療情報システム)	3回
	佐々木賀広	助教授	3年次	保健学科 コンピュータ概論 (医用画像)	2回
07年度	松谷 秀哉	講師	3年次	医療情報学	8
			3年次	医用情報学演習	20
			2年次	医用情報機器工学	14
			2年次	医用情報機器工学実習	30

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	羽田 隆吉	教授	30	15回(国立弘前病院附属看護学校 2年次『臨床英語』)
07年度	羽田 隆吉	教授	30	15回(国立弘前病院附属看護学校 2年次『臨床英語』)

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	羽田 隆吉	教授	医療管理学	50～60%
07年度	松谷 秀哉	講師	情報Ⅰ	80%
			情報Ⅱ	65%
			基礎科学実験(物理)	100%
			統合基礎医学実習A	95%
			医療情報学	90%
			医用情報学演習	95%
			医用情報機器工学 医用情報機器工学実習	95%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	羽田 隆吉	教授	医療管理学	(A) 3.5

07年度	松谷 秀哉	講師	情報Ⅰ	3.1
			情報Ⅱ	3.6
			基礎科学実験（物理）	4.1
			医用情報学演習	3.8
			医用情報機器工学	3.3
			医用情報機器工学実習	3.5

2) 専門教育の評価 該当なし。

36. 総合診療医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

外来教育の充実（８０％）

これから２年間の目標：

クリニカル・クラークシップの充実

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	加藤 博之	教授		人間の尊厳（C）	6
07年度	加藤 博之	教授		人間の尊厳（C）	6

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	加藤 博之	教授	症候・病態からのアプローチ	3	28
			Pre SGT	4	44
	大沢 弘	講師	系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	4	10
			Pre SGT	4	40
07年度	加藤 博之	教授	国試対策セミナー	6	2
			Pre SGT	4	39
	大沢 弘	講師	症候・病態からのアプローチ	3	28
			Pre BSL	4	42
07年度	大沢 弘	講師	チュートリアル教育	3	14
			系統別講義（腎・尿路，男性生殖器と疾患）	4	10
	大串 和久	講師	Pre BSL	4	40
			国試対策セミナー	6	2
07年度	大串 和久	講師	基本的診療知識（外科的治療と周術期管理）	3	2
			基本的診療知識	4	2
	大串 和久	講師	Pre BSL	4	9

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	加藤 博之	教授	5	192
			6	160
	大沢 弘	講師	5	192
			6	160
07年度	大串 和久	助手	5	36
			6	40
	加藤 博之	教授	5	192
			6	160
07年度	大沢 弘	講師	5	192
			6	160
	大串 和久	講師	5	114
			6	160

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	加藤 博之	教授
	大沢 弘	講師
07年度	加藤 博之	教授
	大沢 弘	講師
	大串 和久	講師

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

- 1) 講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。
- 3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	加藤 博之	教授	地域医療支援センター主催 地域医療教育 FD（4回参加） FD 講演会「マーサー大学における医学の新教育法」 FD 講演会「Active Learner をめざして」
	大沢 弘	講師	地域医療支援センター主催 地域医療教育 FD（4回参加） 第2回家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップ 第6回臨床研修指導医のための EBM 講習会 学内クリニカルクラークシップ FD 講習会
	大串 和久	助手	第2回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ 第3回若手指導医のための指導スキルアップセミナー 学内クリニカルクラークシップ FD 講習会
07年度	加藤 博之	教授	地域医療支援センター主催 地域医療教育 FD（4回参加）
	大沢 弘	講師	第3回東北ブロック医師臨床研修指導医講習会世話人養成講習会

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	加藤 博之	教授	10	4
07年度	加藤 博之	教授	18	8

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	加藤 博之	教授	症候・病態からのアプローチ	67 %
	大沢 弘	講師	系統別講義（腎・尿路、男性生殖器等と疾患）	65 %

07年度	加藤 博之	教授	症候・病態からのアプローチ Pre BSL チュートリアル教育	60% 100% 100%
	大沢 弘	講師	系統別講義（腎・尿路、男性生殖器と疾患） Pre BSL	65% 100%
	大串 和久	講師	基本的診療知識（4年次）	80%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	加藤 博之	教授	症候・病態からのアプローチ	A 4.6, B 4.5
	大沢 弘	講師	系統別講義（腎・尿路、男性生殖器と疾患）	A 4.3, B 4.3
07年度	加藤 博之	教授	症候・病態からのアプローチ	A 4.7, B 4.7
	大沢 弘	講師	系統別講義（腎・尿路、男性生殖器と疾患）	A 3.9, B 3.8
	大串 和久	講師	基本的診療知識（4年次）	A 3.9, B 3.8

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
SGT	5 年	38	228	4.5	4.4

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	38	228	4.0	4.0

37. 薬剤学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	早狩 誠	教授	チュートリアル	第3学年	8
07年度	早狩 誠	教授	基礎的診療知識：薬物治療の基本原則 (薬理学各論)	4年次	3.0時間

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	藤田 祥子		第4学年	36

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	早狩 誠	教授

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	早狩 誠	教授	1 学年	薬理学	14

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	早狩 誠	教授	30	30
07年度	早狩 誠	教授	22.5	22.5

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	早狩 誠	教授	保健学科「薬理学」	90%以上
07年度	早狩 誠	教授	基礎的診療知識：薬物治療の基本原則（薬理学各論）	80－90%

【学生による授業評価】

- 1) 授業評価 該当なし。
- 2) 専門教育の評価 該当なし。

38. 脳神経病理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

現在、発展生命科学Ⅰ（3年次）、病理と病態（3年次）、発展生命科学Ⅲ（3年次）、応用病理（4年次）の中で脳神経系に関する講義・実習を担当しており、設定した目標は充分達成されたものとする。

これから2年間の目標：

専門性を発揮し、講義・実習に参加してゆく。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	若林 孝一	教授	テーマ科目	発達と老化	2
			導入科目	基礎ゼミナール	10
07年度	若林 孝一	教授	テーマ科目	最新医学の現状	6
			導入科目	基礎ゼミナール	10
	森 文秋	准教授	導入科目	基礎ゼミナール	20

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	若林 孝一	教授	医の原則Ⅰ	1年次	30
			基礎人体科学演習	1年次	30
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年次	20
			発展生命科学Ⅲ	3年次	4
			病理と病態	3年次	2
			チュートリアル	3年次	16
	丹治 邦和	助手	チュートリアル	3年次	16
07年度	若林 孝一	教授	医の原則Ⅰ	1年次	30
			基礎人体科学演習	1年次	10
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	3年次	10
			発展生命科学Ⅲ	3年次	4
			病理と病態	3年次	2
			チュートリアル	3年次	16
			研究室研修	3年次	30
			応用病理	4年次	2
	森 文秋	准教授	基礎人体科学演習	1年次	2
			チュートリアル	3年次	16
	丹治 邦和	助教	研究室研修	3年次	90
			チュートリアル	3年次	16
	丹治 邦和	助教	研究室研修	3年次	90
			チュートリアル	3年次	16

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	若林 孝一	教授	人体の病理と病態実習	3年次	18
			人体の病理と病態実習	4年次	18
	丹治 邦和	助手	人体の病理と病態実習	3年次	12
			人体の病理と病態実習	4年次	12
	朱 剛	助手	人体の病理と病態実習	3年次	12
			人体の病理と病態実習	4年次	12

07年度	若林 孝一	教授	脳解剖学実習	3 年次	10
			人体と病理と病態実習	3 年次	18
	森 文秋	准教授	人体と病理と病態実習	3 年次	18
	丹治 邦和	助教	人体と病理と病態実習	3 年次	12

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4 名	若林 孝一, 丹治 邦和
07年度	2 名	丹治 邦和, 森 文秋, 若林 孝一

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	若林 孝一	教授	医学研究概論	1-2 年次	2
			神経科学研究セミナー		2
			病態神経科学講義		60
			病態神経科学演習		60
	丹治 邦和	助手	神経科学研究セミナー	1-2 年次	2
07年度	若林 孝一	教授	病態神経科学講義	1 年次	60
			神経病理学講義	1 年次	60
			分子病態学講義	1 年次	60
			共通科目	1-2 年次	2
	森 文秋	准教授	神経科学研究セミナー	1-2 年次	2
	丹治 邦和	助教	神経科学研究セミナー	1-2 年次	2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	若林 孝一	教授	病態神経科学実験実習	1-2 年次	30
			神経病態学		30
			神経細胞生物学		30
	丹治 邦和	助手	医学研究基礎技術実習	1-2 年次	2
07年度	森 文秋	准教授	病態神経科学演習	1 年次	30
			病態神経科学実験実習	1 年次	60
			神経病理学演習	1 年次	30
			神経病理学実験実習	1 年次	60
			分子病態学演習	1 年次	30
			分子病態学実験実習	1 年次	60
				1 年次	60

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
07年度	若林 孝一	教授	平成19年度大学院教育FD (2008.1.29)

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	若林 孝一	教授	10	0
07年度	若林 孝一	教授	8	0

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	若林 孝一	教授	医の原則Ⅰ	95-100%
			基礎人体科学演習	95-100%
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	95-100%
			発展生命科学Ⅲ	95-100%
			病理と病態	95-100%
			チュートリアル	95-100%
07年度	若林 孝一	教授	医の原則Ⅰ	95-100%
			基礎人体科学演習	95-100%
			発展生命科学Ⅰ：脳の科学	95-100%
			発展生命科学Ⅲ	95-100%
			病理と病態	95-100%
			チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
			応用病理	95-100%
	森 文秋	准教授	基礎人体科学演習	95-100%
			チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%
	丹治 邦和	助教	チュートリアル	95-100%
			研究室研修	95-100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	若林 孝一	教授	発展生命科学Ⅰ：脳の科学	A:4.5, B:4.5
07年度	若林 孝一	教授	発展生命科学Ⅰ	A:4.5, B:4.4
	森 文秋	准教授	基礎人体科学演習	A:3.8, B:3.6

2) 専門教育の評価 該当なし。

39. 脳血管病態学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

100%

これから２年間の目標：

与えられる教育活動の機会を積極的に担当する。また，方法，内容について常に見直す。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	佐藤 敬	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
07年度	佐藤 敬	教授	導入科目	基礎ゼミナール	30
	吉田 秀見	講師	基礎教育科目	生物学の基礎Ⅱ（A）	10

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	佐藤 敬	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	6
	吉田 秀見	講師	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	18
	今泉 忠淳	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	18
07年度	佐藤 敬	教授	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	18
	今泉 忠淳	助教	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	18
	松宮 朋穂	助教	基礎教育科目	基礎科学実験（生物）	18
	吉田 秀見	講師	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	18

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	佐藤 敬	教授	基礎人体科学演習	1	24
			発展生命科学Ⅰ，脳の科学	3	2
	吉田 秀見	講師	チュートリアル教育	3	14
07年度	佐藤 敬	教授	発展生命科学Ⅰ，脳の科学	3	2
			基礎人体科学演習	1	4
			チュートリアル教育	3	14
	吉田 秀見	講師	基礎人体科学演習	1	60
			発展生命科学Ⅰ	3	2
	今泉 忠淳	助教	医学英語Ⅲ	4	12
			チュートリアル	3	8
07年度	吉田 秀見	講師	発展生命科学Ⅰ	3	2
			チュートリアル	3	16
	松宮 朋穂	助教	チュートリアル	3	8
			チュートリアル	3	8

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2 名	吉田 秀見
	4 名	今泉 忠淳
07年度	3 名	吉田 秀見, 今泉 忠淳, 松宮 朋穂

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	佐藤 敬	教授	医学研究概論	1	2
	吉田 秀見	講師	神経科学研究セミナー	1～2	2
	今泉 忠淳	助手	神経科学研究セミナー	1～2	2
07年度	吉田 秀見	講師	神経科学研究セミナー	1～2	2
	今泉 忠淳	助教	神経科学研究セミナー	1～2	2

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	佐藤 敬	教授	Double-stranded RNA stimulates the expression of monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) in BEAS-2B bronchial epithelial cells. (當麻景章)
	今泉 忠淳	助手	
07年度	佐藤 敬	教授	① Expression of synphilin-1 in human vascular endothelial cells. (田茂和歌子)
	吉田 秀見	講師	② Edaravone inhibits the expression of vascular endothelial growth factor in human astrocytes exposed to hypoxia. (石川 玲)
	今泉 忠淳	助教	③ Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon- γ and regulates CXCL11 expression in HeLa cells. (湯澤 映)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	佐藤 敬	教授	地域医療 FD
	吉田 秀見	講師	クリニカルクラークシップ講習会
	今泉 忠淳	助手	地域医療 FD
07年度	佐藤 敬	教授	地域医療 FD
	今泉 忠淳	助教	大学院教育 FD

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1 名
07年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	佐藤 敬	教授	基礎ゼミナール	99%
			基礎科学実験 (生物)	100%
			基礎人体科学演習	99%

	吉田 秀見	講師	基礎科学実験（化学） チュートリアル 研究室研修 発展生命科学Ⅰ，脳の科学	100% 98% 100% 78%
	今泉 忠淳	助手	チュートリアル教育	100%
07年度	佐藤 敬	教授	医学英語Ⅲ 発展生命科学Ⅰ	85% 90%
	吉田 秀見	講師	生物学の基礎Ⅱ（A） 基礎科学実験（化学） チュートリアル 発展生命科学Ⅰ	83% 100% 100% 97%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	吉田 秀見	講師	チュートリアル教育	平均4.3
	今泉 忠淳	助手	チュートリアル教育	前期4.00, 後期4.57
07年度	佐藤 敬	教授	医学英語Ⅲ	3.7
	吉田 秀見	講師	生物学の基礎Ⅱ（A） チュートリアル	— 4.3
	今泉 忠淳	助教	チュートリアル	総合4.57

2) 専門教育の評価 該当なし。

40. 脳神経生理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

当研究室に興味をもち、実験に参加する学部学生もいるようになり、実験、研究の実際を伝えることができた。

これから2年間の目標：

今後も、学部学生には神経科学研究のおもしろさを伝え、大学院生または研究生獲得を目指していく。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	上野 伸哉	教授	導入	基礎ゼミナール	30
07年度	上野 伸哉	教授	導入	基礎ゼミナール	30

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	上野 伸哉	教授		生物学実習	18
07年度	上野 伸哉	教授		基礎科学実験（生物）	18

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	上野 伸哉	教授	医学英語Ⅱ	2年	30
			チュートリアル	3年	16
			発展生命科学Ⅰ	3年	4
	森山 朋子	助手	チュートリアル	3年	16
07年度	上野 伸哉	教授	医学英語Ⅱ	2年	30
			チュートリアル	3年	16
			発展生命科学Ⅰ	3年	6
	右田 啓介	助教	チュートリアル	3年	8

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	上野 伸哉	教授	基礎人体科学演習	1年	120
			研究室研修	3年	270
07年度	上野 伸哉	教授	基礎人体科学演習	1年	120
			研究室研修	3年	270

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	4名	上野 伸哉
07年度	1名	上野 伸哉, 右田 啓介, 山田 順子

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	森山 朋子	助手		大学院1-2年	2
07年度	上野 伸哉	教授	医学研究概論（前期） 脳神経科学研究セミナー	1～2 1～2	2 2

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	上野 伸哉	教授	スライスパッチ法	大学院1	4

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
07年度	上野 伸哉	教授	チュートリアル教育シナリオ作成 講師

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1 名
07年度	1 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
07年度	上野 伸哉	教授	16	

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	上野 伸哉	教授	医学英語Ⅱ	3.7
07年度	上野 伸哉	教授	医学英語Ⅱ	3.6

2) 専門教育の評価 該当なし。

41. 脳神経内科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

全国標準レベルの卒前，卒後，生涯教育システムを確立し，弘前大学医学部神経内科として発展の基盤を形成する。

これから2年間の目標：

これまでの形成された基盤の上に優秀な神経内科医の育成を目標とする。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	富山 誠彦	講師	医学	最新医学の現状	6
07年度	富山 誠彦	准教授	全学	パーキンソン病	1.5
	瓦林 毅	講師		最新医学の現状 (K)	1.5

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	東海林幹夫	教授	系統別講義（脳神経系） 基礎英語Ⅱ	4年生 2年生	14 30
	富山 誠彦	講師	系統別講義（脳神経系）	4年生	8
	村上千恵子	助手	浸襲と加齢	3年生	2
			系統別講義（脳神経系） チュートリアル	4年生 2年生	2 8
07年度	東海林幹夫	教授	系統別講義（脳神経系） 系統別講義（加齢と侵襲） 基礎医学英語Ⅱ 現代発展医学	4年生 3年生 2年生 2年生，4年生	6 3 21 3
	富山 誠彦	准教授	系統別講義・脳神経系	4年	6
	瓦林 毅	講師	神経内科学，老年医学，チュートリアル	3年生，4年生	9
	村上千恵子	助教	加齢と侵襲	3年生	1
			神経内科系統講義	4年生	2

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	東海林幹夫	教授	5年生 6年生	456 48
	富山 誠彦	講師	5年生	760
	瓦林 毅	助手	5年生	104
	村上千恵子	助手	5年生	760
07年度	東海林幹夫	教授	5年生 6年生	300 92
	富山 誠彦	准教授	5年生，6年生	100
	瓦林 毅	講師	5年	120
	村上千恵子	助教	BSL	760
			クリニカルクラークシップ	400

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	富山 誠彦	講師
	瓦林 毅	助手
07年度	富山 誠彦	准教授
	瓦林 毅	講師

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2 名	富山 誠彦
07年度	1 名	渡辺 光法

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	東海林幹夫	教授	最新医学の動向	大学院生	2
07年度	東海林幹夫	教授	医学研究概論	大学院生	1.5

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	東海林幹夫	教授	実験指導	2 年生	100
07年度	東海林幹夫	教授	実験と論文指導	大学院 2 年, 1 年	120

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	東海林幹夫	教授	2	
07年度	東海林幹夫	教授	1.5 (群馬大学)	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	東海林幹夫	教授	系統別講義 (脳神経系)	90%
	富山 誠彦	講師	系統別講義 (脳神経系)	90%
07年度	東海林幹夫	教授	系統講義, 脳神経系	95%
	富山 誠彦	准教授	系統別講義・脳神経系	90%
	瓦林 毅	講師	神経学各論	90%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	東海林幹夫	教授	系統別講義（脳神経系）	2.9
	富山 誠彦	講師	系統別講義（脳神経系）	3.5
07年度	富山 誠彦	准教授	系統別講義・脳神経系	3.8
	瓦林 毅	講師	神経学各論	4.0

2) 専門教育の評価

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5 年	一週間	40時間	4.5	

42. 分子生体防御学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

- ・大学院教育に関しては講義を可能なかぎり担当した。
- ・事情のため、学部教育も担当した。
- ・研究室研修の学部生や大学院生の研究活動を積極的にサポートした。

これから２年間の目標：

- ・大学院教育において、講義を可能なかぎり担当する。
- ・研究室研修の学部生や大学院生の研究活動を積極的にサポートする。
- ・他研究室の大学院生とも積極的に共同研究を進める。
- ・チュートリアル等の学部学生の講義も可能な限り担当する。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	丸山 敦史	助手	チュートリアル	3年	1クール
	原田 伸彦	助手	チュートリアル	3年	1クール
07年度	三村 純正	講師	チュートリアル	3	10
	丸山 敦史	助教	チュートリアル	3	8
	原田 伸彦	助教	チュートリアル	3	10
			医学英語Ⅰ	1	22
	伊東 健	教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 物質と代謝	2	12

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	丸山 敦史	助教	統合基礎医学実習 A (生化学実習) 酵素	2	12

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2名	伊東 健, 丸山 敦史, 原田 伸彦
07年度	1名	三村 純正

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	伊東 健	教授	生命科学と倫理 最新医学の動向	大学院 1 年生 大学院 1 年生	1.5時間 1.5時間
07年度	伊東 健	教授	遺伝発生医学セミナー	1 ～ 3 年	1.5

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
07年度	伊東 健	教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 物質と代謝	93.3%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
07年度	伊東 健	教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 物質と代謝	3.3

2) 専門教育の評価 該当なし。

43. 糖鎖工学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 学部教育，大学院教育において，講義，実習を可能な限り担当する。
2. 実習，講義の内容と講義様式の改善を絶えず行う。
3. 自主的に学ぶ気持ちを大切に，自学を助ける。
4. 大学院生と研究について討論し，助言する。

（達成度について）

ほぼ達成されたと思うが，2,3については，さらに工夫が必要である。

これから２年間の目標：

1. 21世紀，学部，大学院教育において，講義，実習を可能な限り担当する。
2. 実習，講義の内容と講義様式の改善を絶えず行う。
3. 助教，助手および大学院生の研究指導を行う。

（1）教育実績

【21世紀教育】

1）講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	今 淳	助教授		生物学の基礎Ⅱ（A）	10
	柿崎 育子	助手		基礎ゼミナール	4

2）実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	山口 真範	助手	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	12
07年度	山口 真範	助教	基礎教育科目	基礎科学実験（化学）	12

【学部教育】

1）講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	今 淳	助教授	コア B-1 個体の構成と機能（5） 生体物質の代謝 チュートリアル教育	2年・3年次 編入生	16
				2年・3年次 編入生	8
	柿崎 育子	助手	コア B-1 個体の構成と機能（5） 生体物質の代謝 発展生命科学Ⅱ 基礎人体科学演習	2年・3年次 編入生	10
				2年・3年次 編入生 1年	2 60
07年度	遠藤 正彦	教授(併)	コア B-1 個体の構成と機能（5） 生体物質の代謝	2年・3年次 編入生	6
	今 淳	准教授	コア B-1 個体の構成と機能（5） 生体物質の代謝 発展生命科学Ⅱ	2年・3年次 編入生	6
				3年	2
	柿崎 育子	助教	コア B-1 個体の構成と機能（5） 生体物質の代謝 発展生命科学Ⅱ チュートリアル教育	2年・3年次 編入生 3年 3年	6 2 8
	山口 真範	助教	コア B-1 個体の構成と機能（5） 生体物質の代謝 チュートリアル教育	2年・3年次 編入生 3年	2 8

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	今 淳 柿崎 育子 山口 真範	助教授 助手 助手	統合基礎医学実習 A (生化学実習)	2 年・3 年次 編入生	60
07年度	今 淳 柿崎 育子 山口 真範	准教授 助教 助教	統合基礎医学実習 A (生化学実習)	2 年・3 年次 編入生	54

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2 名	今 淳
07年度	1 名	柿崎 育子

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	今 淳	助教授	骨・軟骨移植・再生医学講義・再生医学医療セミナー (皮膚の再生と抗加齢)	1～4 年	6
07年度	今 淳	准教授	大学院共通科目 再生医学医療セミナー 抗加齢・再生医学講義 抗加齢・再生医学演習	1 年 1 年 1 年	2 30 60

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	柿崎 育子	助手	医学研究概論	1・2 年	2

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	今 淳	助教授	Inhibitory effect of 4-methyl esculetin on hyaluronan synthesis slows the development of human pancreatic cancer in vitro and in nude mice.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
06年度	今 淳	助教授	弘前大学医学部 FD 講演会 Problem-Based Learning について (Active Learner をめざして)
07年度	柿崎 育子	助教	平成 19 年度 弘前大学大学院医学研究科教育 FD (平成 20 年 1 月 29 日実施)

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	今 淳	助教授	45	45
	柿崎 育子	助手	16	0
07年度	今 淳	准教授	30	
	柿崎 育子	助教	16	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	今 淳	助教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝 統合基礎医学実習 A (生化学実習) チュートリアル教育	90~95% 100% 95~100%
	柿崎 育子	助手	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝 統合基礎医学実習 A (生化学実習) 発展生命科学Ⅱ 基礎人体科学演習	95% 100% 95% 99%
07年度	遠藤正彦	教授(併)	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝	98%
	今 淳	准教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝 発展生命科学Ⅱ 統合基礎医学実習 A (生化学実習)	98% 95% 99%
	柿崎 育子	助教	発展生命科学Ⅱ チュートリアル教育 統合基礎医学実習 A (生化学実習)	95% 95% 99%
	山口 真範	助教	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝 チュートリアル教育 統合基礎医学実習 A (生化学実習)	98% 95% 99%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	今 淳	助教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝	4.0
	柿崎 育子	助手	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝	3.6
07年度	今 淳	准教授	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝	(A) 4.2 (B) 4.2
	柿崎 育子	助教	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝	(A) 4.2 (B) 4.2
	山口 真範	助教	コア B-1 個体の構成と機能 (5) 生体物質の代謝	(A) 4.1 (B) 4.0

2) 専門教育の評価

2006年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A (生化学実習)	2 年・3 年次 編入生	10 日	60 時間	3.9	3.7

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
統合基礎医学実習 A (生化学実習)	2 年・3 年次 編入生	9 日	54	—	—

44. 附属動物実験施設

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	八木澤 誠	助教授		基礎科学実験（生物）	18

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	八木澤 誠	助教授	チュートリアル教育	3	16

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習 該当なし。

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	八木澤 誠	助教授	3	家畜福祉衛生学	30

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	八木澤 誠	助教授	基礎科学実験（生物）	100%
			チュートリアル教育	95%
			家畜福祉衛生学	90%

【学生による授業評価】

- 1) 授業評価 該当なし。
- 2) 専門教育の評価 該当なし。

45. 医学教育センター

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	松谷 秀哉	講師	自然系基礎 技能系科目	基礎科学実験（物理） 情報 I	81 15

【学部教育】

1) 講義 該当なし。

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	松谷 秀哉	講師	統合基礎医学実習 A（生理学実習）	2	12

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	松谷 秀哉	講師	5	18

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	年間担当時間数
06年度	松谷 秀哉	講師	3	コンピュータ概論演習	15
			2	医用情報機器工学	6
			2	医用情報機器工学実習	15

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	松谷 秀哉	講師	情報Ⅰ	80%
			基礎科学実験（物理）	100%
			コンピュータ概論演習	90%
			医用情報機器工学	95%
			医用情報機器工学実習	95%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	松谷 秀哉	講師	情報Ⅰ	4.1
			基礎科学実験（物理）	3.7
			コンピュータ概論演習	4.9
			医用情報機器工学	3.1
			医用情報機器工学実習	3.5

2) 専門教育の評価 該当なし。

46. 手術部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

担当者定年退職のため評価は不可能。目標等の申し送りは受けていない（辞令発令前に前任者異動のため）。

これから2年間の目標：

OSCEにおける手術室での安全教育、外科手術における感染コントロールなどを教育してゆく。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義 該当なし。

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
07年度	橋本 浩	准教授	5, 6年	1000

4) O S C E

	担当者名	職名
07年度	橋本 浩	准教授

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
07年度	橋本 浩	准教授	手術室での実習と安全管理	90%以上

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
07年度	橋本 浩	准教授	手術室での実習と安全管理	なし

2) 専門教育の評価 該当なし。

47. 検査部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

学生からの講義評価＞3.0と実習評価＞4.0を獲得できたため、概ね達成できた。

これから2年間の目標：

引き続き学生からの講義評価＞3.0と実習評価＞4.0の獲得を目指す。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	杉本 一博	講師	代謝性・肝胆疾患	4年生	1
07年度	杉本 一博	講師	検査医学	4年生	5

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	杉本 一博	講師	5-6年生 1年生	54 11
07年度	杉本 一博	講師	5-6年生 2年生	15 x 3=45 1 x 10=10

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	6名	杉本 一博
07年度	1名	杉本 一博

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	杉本 一博	講師	代謝性・胆肝疾患	3.3
07年度	杉本 一博	講師	検査医学	3.3

2) 専門教育の評価 2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
BSL	5 年生	19 x 5=95	47.5	4.2	4.0

48. 放射線部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義 該当なし。

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	工藤亮裕, 他	技師長	保健学科学生3年	140日
	工藤 亮裕	技師長	医学部2年	12日

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

- 1) 授業評価 該当なし。
- 2) 専門教育の評価 該当なし。

49. 輸血部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

8割程度は達成できたと思う

これから2年間の目標：

1. 臨床血液学，輸血学に興味を持たせる講義・実習を行うよう努力する
2. 血液学・輸血学を通じて，一般臨床医学の考え方について学習させる

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	玉井 佳子	講師	系統別講義（血液）	3年	14時間
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3年	2時間
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	4年	2時間
			国試対策セミナー	6年	2時間
07年度	玉井 佳子	講師	血液（成人）と疾患	4年	18時間
			血液（成人）と疾患	3年	20時間
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	4年	2時間
			発展現代医学Ⅰ（内科系）	2年	2時間
			侵襲と加齢Ⅰ（感染症）	3年	2時間
			国試対策セミナー	6年	4時間

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	玉井 佳子	講師	5, 6年	輸血部 247時間 第一内科 95時間
07年度	玉井 佳子	講師	5, 6年	輸血部 247時間 消化器血液内科 95時間

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
06年度	玉井 佳子	講師	3年	生理（腹部超音波検査）実習	14時間
07年度	玉井 佳子	講師	3年	保健学科検査技術科臨床実習（生理検査部門腹部超音波実習）	14時間

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	玉井 佳子	講師	系統別講義（血液） 侵襲と加齢Ⅰ（感染症） 侵襲と加齢Ⅰ（感染症） 国試対策セミナー	80% 90% 90% 70%
07年度	玉井 佳子	講師	血液（成人）と疾患 血液（成人）と疾患 発展現代医学Ⅰ（内科系） 発展現代医学Ⅰ（内科系） 侵襲と加齢Ⅰ（感染症） 国試対策セミナー	70% 70% 90% 90% 90% 80%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科目名	評価
06年度	玉井 佳子	講師	系統別講義（血液） 臨床実習評価（輸血部）	評価項目（A）4.6 評価項目（B）4.6 評価項目（A）4.9 評価項目（B）4.9
07年度	玉井 佳子	講師	血液（成人）と疾患 4年 臨床実習（輸血部）	評価項目（A）4.7 評価項目（B）4.7 評価項目（A）5.0 評価項目（B）5.0

2) 専門教育の評価 該当なし。

50. 集中治療部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ達成した。

これから2年間の目標：

学生からの反応を大切に講義に反映させる。

医学生の講義，臨床実習において，できるだけ分かりやすく教える。

臨床実習では，学生が自発的に参加，勉強できるよう実習内容を検討する。

卒後まで良いコミュニケーションをとれる教員－学生関係を構築できるよう努力する。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	坪 敏仁	助教授		運動と科学	2
07年度	坪 敏仁	准教授		運動の科学	3

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	坪 敏仁	助教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	4年生 3年生	3回 1回
			系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	4年生	1回
	吉田 仁	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	4年生 3年生	2回 1回
07年度	吉田 仁	助教	基本的診療知識（外科系）	4年次	2

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	坪 敏仁	助教授	3-4	30
	吉田 仁	助手	5, 6年生	1年間
	橋場 英二	助手	5, 6年生	96
07年度	坪 敏仁	准教授	5, 6年次	80
	吉田 仁	助教	5, 6年次	1年間
	橋場 英二	助教	5, 6年次	300

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	坪 敏仁	助教授	カテコラミンの無気肺血流に及ぼす影響
07年度	坪 敏仁	准教授	A new method to estimate regional pulmonary flow using TEE. Anesth Analg 2008;106:530-4

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	坪 敏仁	助教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	90%以上 90%以上
	吉田 仁	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	ほぼ100%
	橋場 英二	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	90%以上 90%以上
07年度	吉田 仁	助教	基本的診療知識（外科系）	ほぼ100%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	坪 敏仁	助教授	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	平均3.1
	吉田 仁	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系）	平均4.2
	橋場 英二	助手	系統別講義（麻酔・蘇生系） 基本的診療知識（外科的治療の基本と周術期管理）	平均3.8
07年度	吉田 仁	助教	基本的診療知識（外科系）	A 3.6, B 3.5

2) 専門教育の評価 該当なし。

51. 周産母子センター

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	尾崎 浩士	助教授	系統別講義 生殖系	4 年	5
	田中 幹二	助手	系統別講義 生殖系	4 年	6

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	尾崎 浩士	助教授	5, 6年	40週
	田中 幹二	助手	5, 6年	40週

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	2 名	尾崎 浩士, 田中 幹二

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
06年度	尾崎 浩士	講師	1	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	尾崎 浩士	助教授	系統別講義 生殖系	60%
	田中 幹二	助手	系統別講義 生殖系	70%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	尾崎 浩士	助教授	系統別講義 生殖系	4.3
	田中 幹二	助手	系統別講義 生殖系	4.6

2) 専門教育の評価 該当なし。

52. 病理部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

病院業務である病理診断学を通じて、卒前・卒後教育への参画を行うことを目標としている。学生実習において標本作製、迅速診断などを通して、病理部の重要性を十分認識させることができたが、臨床実習では十分には参画できなかった。一方、卒後研修医の指導と大学院生の研究指導は十分実行でき、特に指導した学位論文は誌上に公開された。

以上より、設定した目標に対する到達度は、80%と判断される。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で、病院業務である病理診断学を通じて、卒前・卒後教育への参加を積極的に行う。2008年4月から、病理部での5年次学生の臨床実習（BSL）を開始したので、教育のさらなる参画を進める。学生実習における病理部の重要性を病理診断、標本作製、迅速診断などで認識させる。卒後研修医の指導や大学院生などの研究指導をさらに充実させる。

以上のことを、目標としたい

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義

	担当者名	職名	区 分	授 業 科 目 名	年間担当時間数
06年度	鎌田 義正	助教授	基礎教育科目	生物学の基礎Ⅱ	10

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態	3年次	6

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態	3年次	8
07年度	鎌田 義正	准教授	人体の病理と病態実習	3年次	12

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指 導 者 名
06年度	1名	鎌田 義正
07年度	1名	鎌田 義正

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	1名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	1名
07年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
06年度	鎌田 義正	助教授	衛生技術学科3年	病理部臨地実習	56
07年度	鎌田 義正	准教授	3年次	検査技術科学専攻臨地実習	56

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態	97%
07年度	鎌田 義正	准教授	人体の病理と病態実習	96%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科目名	評価
06年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態	4.4
07年度	鎌田 義正	准教授	人体の病理と病態実習	4.1

2) 専門教育の評価 該当なし。

53. 光学医療診療部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

自己免疫，腸管免疫，感染防御について physiology と病態，治療を関連付けた内容にする。評価が A3.6である。70%の到達である。

これから2年間の目標：

自己免疫，腸管免疫について physiology と病態，治療を関連付ける分子病態・制御を中心的内容にする。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	石黒 陽	助教授	侵襲と加齢Ⅱ	3年生 4年生	8時間 8時間
07年度	石黒 陽	准教授	加齢と侵襲Ⅱ	3年	8時間

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	石黒 陽	助教授	5年	76時間
07年度	石黒 陽	准教授	5年	38週

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	石黒 陽	助教授

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	大山 力	教授	研究の基礎と臨床	大学院 1年	2時間
	伊藤 悦郎	教授	遺伝発生セミナー	大学院 2年	2時間
07年度	石黒 陽	教授	大学院共通科目 遺伝発生学セミナー	2年	2時間

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
06年度	石黒 陽	助教授	・ ペーチェット病患者と潰瘍性大腸炎患者末梢血単核球における <i>Streptococcus sanguis</i> 細胞壁に対するサイトカイン応答 ・ 潰瘍性大腸炎患者における熱ショック蛋白70kd による抗炎症効果と難治性病態への関与
07年度	石黒 陽	准教授	治療抵抗性潰瘍性大腸炎における Transforming growth factor- β 受容体の発現抑制 (島谷孝司)

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
06年度	石黒 陽	助教授	侵襲と加齢Ⅱ 3年後期	40%
			侵襲と加齢Ⅱ 4年後期	20%
07年度	石黒 陽	准教授	侵襲と加齢Ⅱ	40%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
06年度	石黒 陽	助教授	侵襲と加齢Ⅱ	3.5
			侵襲と加齢Ⅱ	3.6
07年度	石黒 陽	准教授	侵襲と加齢Ⅱ	3.6

2) 専門教育の評価

2007年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総時間数	学生による評価 A	学生による評価 B
臨床実習	5 年	38週		4.7	4.7

54. リハビリテーション部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

整形外科領域に加えリハビリテーション医学領域での臨床教育を実施した

これから2年間の目標：

過去の研究および教育実績を総括しさらに洗練する

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
06年度	中村 吉秀	講師	系統別講義（運動器系）	4	6
	湯川 昌広	助手	系統別講義（運動器系）	4	4
07年度	中村 吉秀	講師	整形外科学	5	5
			基本的診療知識	3	3
			基本的診療知識	4	4
	湯川 昌広	助教	系統別講義（運動器系）	4	2
			基本的診療知識	3	2
			基本的診療知識	4	2

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
06年度	中村 吉秀	講師	3, 4	324
	湯川 昌広	助手	3, 4	931
07年度	中村 吉秀	講師	5	18
	湯川 昌広	助教	5	18

4) O S C E

	担当者名	職名
06年度	湯川 昌広	助手

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0名
07年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0名
07年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
06年度	中村 吉秀	講師	系統別講義（運動器系）	70%
07年度	中村 吉秀	講師	基本的診療知識	90%

【学生による授業評価】

1) 授業評価

	担当者名	職名	科目名	評価
06年度	中村 吉秀	講師	系統別講義（運動器系）	3.7
	湯川 昌広	助手	系統別講義（運動器系）	なし
07年度	中村 吉秀	講師	基本的診療知識	3.8/5.0

2) 専門教育の評価 該当なし。

55. 医療安全推進室

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 授業の双方向性をより高める。：質問時間を設ける等により双方向性は向上した。
2. 講義内容の見直しを絶えず計る。：レジメの内容の更新を行った。
3. 出席率の向上を計る。：出欠確認により出席率が改善した。

これから2年間の目標：

授業の理解を深めるために、ビジュアル機器の活用、レジメの事前配布などの工夫を一層進める。

(1) 教育実績

【21世紀教育】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	福井 康三	准教授	循環器と疾患 医療リスクマネジメント	4 年次 4 年次	3 4.5

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	年間担当時間数
07年度	福井 康三	准教授	臨床見学実地研修	2 年次	6

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対 象 学 年	年間担当時間数
07年度	福井 康三	准教授	5 年次	38 週

4) O S C E 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

	研修登録医の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
06年度	0 名
07年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

	担当者名	職名	年間担当時間数	うちコ・メディカルの年間担当時間数
07年度	福井 康三	准教授	8	8

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
07年度	福井 康三	准教授	医療リスクマネジメント	99%
			循環器と疾患	89%

【学生による授業評価】

1) 授業評価 該当なし。

2) 専門教育の評価 該当なし。

(別 表)

【医学部医学科学生について】

資料 1 医学部前期・後期入学者の進級状況

入学年度	前 期			後 期		
	入学者数	留年数	退学者数	入学者数	留年数	退学者数
06年度	50	0	1	5	0	0
07年度	50	1	0	—	—	—

資料 2 国際交流

国際交流として学部学生による外国の大学や施設での研修・実習、および海外からの学生の本学での研修が行われており、これらの活動については国際交流研究委員会が中心となって相手先との打合せや交流学生へ援助の決定などを行っている。一方、海外からの本学部への留学生については学務委員長を中心とする学務委員会が対応している。研究留学については研究科の項で言及する。

(1) 学部留学生

	留学生数	国 籍	私費又は国費
06年度	8名	中国 7名 カナダ 1名	私 費
07年度	10名	中国 10名	私 費

(2) 姉妹校などの交流

1) テネシー大学メンフィス校との学生交流

本医学部は1978年12月14日に米国テネシー州メンフィスにあるテネシー大学保健学科センターと国際交流協定を結んでいる。この協定により、訪問交流の促進、医学教育・研究の情報交換、両大学の共同研究プロジェクトの推進、医学情報等の交換、それに学生・研究生・レジデントなどの相互交流が行われている。5・6年目の学部学生から毎年1～2名がメンフィスに派遣され、有意義な研修を行っている。しかし最近メンフィスから本学に研修に訪れる学生がおらず、相互交流という点で十分とはいえないのが現状である。

	派 遣		受 入	
	学生数	期 間	学生数	期 間
06年度	—	—	—	—
07年度	—	—	—	—

2) 極東総合医科大学との交流

1995年12月14日にロシア国ハバロフスク医科大学と本学との間に学術交流に関する合意書と研究者及び学生交流に関する覚書が取り交わされ、平成8年度から毎年2名の学生の相互研修を行ってきている。なお、ハバロフスク医科大学は極東総合医科大学と改称され、国際交流の合意書の更新が2000年（平成12年9月17日）に行われた。今後は特に問題の生じない限り自動的に更新されることになった。

	派 遣		受 入	
	学生数	期 間	学生数	期 間
06年度	—	—	—	—
07年度	—	—	—	—

3) 三沢米軍病院におけるエクスターンシップ

米軍三沢基地病院（第35医療大隊）の協力を得て、弘前大学医学部専門課程3、4次学生（新カリキュラムでは医学部5、6年生に相当）を対象として同病院における学生の研修受け入れが行われており、平成7年度から1～2名派遣している。アメリカの医療の実態を見学すると共に、アメリカ人医師から直接学習できるよい機会となっている。

	派遣学生数	派 遣 期 間
06年度	4名	1名＝8／8～8／19，1名＝8／11～8／24，1名＝8／21～8／31 1名＝8／25～9／2
07年度	5名	1名＝7／22～7／31，1名＝7／23～8／3，1名＝8／7～8／23 1名＝8／20～8／29，1名＝8／20～8／31

医学部における学生の国際交流は全体として極めて活発とはいえないものの、これが現状で行える最大限ともいえる。その主な理由は国際間の大学における単位の相互互換ができないからである。第二に、カリキュラム日程の相違や、国際交流活動の主たる時期である夏季休業中に試験や東日本医科大学体育大会の組まれていることがあげられよう。第三に学生の意欲の問題である。積極的に海外に出かけ、海外の医学生がどのように勉強しているかに関心を寄せる学生がかつては少なかった。しかし、本学部における教育として医学英語に力を入れており、今後の国際交流が一層盛んになることを期待したい。

資料 3 日本学生支援機構奨学生

	学 生 数	奨 学 生 数		計	比 率
		第一種	第二種		
06年度	575	66	161	227	39.5%
07年度	568	59	121	180	31.7%

資料 4 医学部（医学科）授業時間割

【平成18年度】

[1～3年次]

[前 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	1		医の原則Ⅰ	基礎人体科学演習		(基礎ゼミナール)
	2	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	
	3	チュートリアル				
火	1	(英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ)	(情報処理演習)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	(テーマ科目)	(テーマ科目)	基礎科学実験(物理・化学・生物)		
	3	発展生命科学Ⅰ(脳科学／脳解剖学実習)／発展生命科学Ⅱ／統合基礎医学実習B				
水	1	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅰ)			
	2	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	臨 床 実 地 見 学 実 習		
	3	疾患・病態からのアプローチ	病理と病態	侵襲と加齢Ⅰ	発展生命科学Ⅲ	
木	1	(英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ)		(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	基礎科学実験(物理・化学・生物)		
	3	基本的診療知識	病理と病態	発展生命科学Ⅲ／病理学実習		
金	1	(多言語Ⅰ)	(英語Ⅱ)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	
	3	チュートリアル				

[後 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	1			基礎人体科学演習		医学英語ⅠA 医学英語ⅠB
	2	侵襲と生体応答		人体解剖学実習		
	3	チュートリアル				
火	1		(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2			人体解剖学実習／組織学実習		
	3	循環器と疾患	消化器と疾患	研究室研修		
水	1	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅰ)			
	2			人体解剖学実習		
	3	内分泌・代謝と疾患	血液（成人）と疾患	研究室研修		
木	1		(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	医学英語ⅡA 医学英語ⅡB	医用統計学	統合基礎医学実習B		
	3	侵襲と加齢Ⅱ（1）	侵襲と加齢Ⅱ（2）	研究室研修		
金	1	(多言語Ⅰ)	(英語Ⅱ)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	侵襲と生体応答		医の原則Ⅱ		
	3	チュートリアル		病理学実習		

[3 年次編入学生]

[前 期]

曜日・学年	時限	1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	3	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	
火	3	発展生命科学Ⅰ（脳科学／脳解剖学実習）／発展生命科学Ⅱ／統合基礎医学実習 B				
水	3	疾患・病態からのアプローチ	病理と病態	侵襲と加齢Ⅰ	発展生命科学Ⅲ	
木	3	基本的診療知識	病理と病態	発展生命科学Ⅲ／病理学実習		
金	3	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	

[後 期]

曜日・学年	時限	1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	3	侵 襲 と 生 体 応 答		人 体 解 剖 学 実 習		
火	3	循環器と疾患	消化器と疾患	人体解剖学実習／組織学実習		
水	3	内分泌・代謝と疾患	血液（成人）と疾患	人 体 解 剖 学 実 習		
木	3	侵襲と加齢Ⅱ（Ⅰ）	侵襲と加齢Ⅱ（Ⅱ）	統 合 基 礎 医 学 実 習 B		
金	3	侵 襲 と 生 体 応 答		病 理 学 実 習		

[4～6年次]

[前 期]

時間 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	4	系統別講義 〔呼吸器系〕	系統別講義 〔脳・神経系〕	人体の病理と病態実習		
	5	臨 床 実 習				
	6	臨 床 実 習				
火	4	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔循環器系〕	医学英語 A 医学英語 B	系統別講義 〔血液系〕	系統別講義 〔代謝内分泌系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	臨 床 実 習				
水	4	社会と医学Ⅰ	社会と医学Ⅱ	人体の病理と病態実習		
	5	臨 床 実 習				
	6	臨 床 実 習				
木	4	系統別講義 〔代謝内分泌系〕	系統別講義 〔呼吸器系〕	系統別講義 〔成長発達系〕	系統別講義 〔消化器系〕	系統別講義 〔血液系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	臨 床 実 習				
金	4	系統別講義 〔成長発達系〕	系統別講義 〔消化器系〕	系統別講義 〔脳・神経系〕	系統別講義 〔循環器系〕	系統別講義 〔感覚器系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	臨 床 実 習				

[後 期]

時間 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	4	系統別講義 〔精神系〕	系統別講義 〔放射線医学〕	系統別講義 〔運動器系〕	系統別講義 〔検査医学〕〔臨床薬理〕	系統別講義 〔感覚器系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
火	4	系統別講義 〔感覚器系〕	系統別講義 〔精神系〕	系統別講義 〔皮膚・結合組織系〕	系統別講義 〔腎・泌尿器系〕	系統別講義 〔麻酔・蘇生系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
水	4	社会と医学Ⅰ	社会と医学Ⅰ	社会と医学Ⅰ・Ⅱ実習		
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
木	4	内科診断学 医療管理学	系統別講義 〔歯口腔系〕〔救急医学〕	系統別講義 〔皮膚・結合組織系〕	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔麻酔・蘇生系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
金	4	系統別講義 〔免疫・感染症系〕	系統別講義 〔加齢医学〕〔機能回復〕	系統別講義 〔運動器系〕	系統別講義 〔腎・泌尿器系〕	系統別講義 〔免疫・感染症系〕
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				

【平成19年度】

〔1～3年次〕

[前 期]

時間 曜日・学年		1・2 (8:40 ～ 10:10)	3・4 (10:20 ～ 11:50)	5・6 (12:40 ～ 14:10)	7・8 (14:20 ～ 15:50)	9・10 (16:00 ～ 17:30)
月	1	医の原則Ⅰ		基礎人体科学演習		(基礎ゼミナール)
	2	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	
	3	チュートリアル				
火	1	(英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ)	(情報処理演習)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	発展現代医学Ⅰ(内科系)		基礎科学実験(物理・化学・生物)		
	3	発展生命科学Ⅰ(脳科学)／脳解剖学実習／発展生命科学Ⅱ				
水	1	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅰ)			
	2	臨 床 実 地 見 学 実 習				
	3	疾患・病態からのアプローチ	病理と病態	侵襲と加齢Ⅰ	発展生命科学Ⅲ	
木	1	(英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ)		(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	発展現代医学Ⅱ(外科系)		基礎科学実験(物理・化学・生物)		
	3	基本的診療知識	病理と病態	病理学実習		
金	1	(多言語Ⅰ)	(英語Ⅱ)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	
	3	チュートリアル				

[後 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	1			基礎人体科学演習		医学英語ⅠA 医学英語ⅠB
	2	侵襲と生体応答		人体解剖学実習／組織学実習		
	3	チュートリアル				
火	1		(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	(実践社会医学)		人体解剖学実習／組織学実習		
	3	循環器と疾患	消化器と疾患	研究室研修		
水	1	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅰ)			
	2		医の原則Ⅱ	人体解剖学実習／組織学実習		
	3	内分泌・代謝と疾患	血液(成人)と疾患	研究室研修		
木	1		(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	医学英語ⅡA 医学英語ⅡB	医用統計学	統合基礎医学実習B		
	3	侵襲と加齢Ⅱ(1)	侵襲と加齢Ⅱ(2)／侵襲と加齢Ⅱ(1)	研究室研修		
金	1	(多言語Ⅰ)	(英語Ⅱ)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)	(21世紀教育科目)
	2	侵襲と生体応答				
	3	チュートリアル		病理学実習		

[3年次編入学生]

[前 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	3	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	
火	3	発展生命科学Ⅰ（脳科学）／脳解剖学実習／発展生命科学Ⅱ				
水	3	疾患・病態からのアプローチ	病理と病態	侵襲と加齢Ⅰ	発展生命科学Ⅲ	
木	3	基本的診療知識	病理と病態	病理学実習		
金	3	個 体 の 構 成 と 機 能			統 合 基 礎 医 学 実 習 A	

[後 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	3	侵襲と生体応答		人体解剖学実習／組織学実習		
火	3	循環器と疾患	消化器と疾患	人体解剖学実習／組織学実習		
水	3	内分泌・代謝と疾患	血液(成人)と疾患	人体解剖学実習／組織学実習		
木	3	侵襲と加齢Ⅱ(1)	侵襲と加齢Ⅱ(2)/侵襲と加齢Ⅱ(1)	統合基礎医学実習B		
金	3	侵襲と生体応答		病理学実習		

[4～6年次]

[前 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	4	呼吸器と疾患	消化器と疾患	循環器と疾患	感覚器と疾患	医学英語Ⅲ A 医学英語Ⅲ B
	5	臨 床 実 習				
	6	クリニカル・クラークシップ				
火	4	妊娠・分娩, 女性生殖器と疾患	神経と疾患	基本的診療知識	腎・尿路, 男性生殖器と疾患	放射線診断
	5	臨 床 実 習				
	6	クリニカル・クラークシップ				
水	4	内分泌・代謝と疾患	発展現代医学Ⅰ	健康医学／発展臨床医学Ⅰ		
	5	臨 床 実 習				
	6	クリニカル・クラークシップ				
木	4	精神と疾患	小児疾患・成長と発達	皮膚と疾患		
	5	臨 床 実 習				
	6	クリニカル・クラークシップ				
金	4	運動器と疾患		応用病理	血液（成人）と疾患	
	5	臨 床 実 習				
	6	クリニカル・クラークシップ				

[後 期]

時限 曜日・学年		1・2 (8:40～10:10)	3・4 (10:20～11:50)	5・6 (12:40～14:10)	7・8 (14:20～15:50)	9・10 (16:00～17:30)
月	4	呼吸器と疾患	消化器と疾患	循環器と疾患	基本的診療知識	感覚器と疾患
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
火	4	妊娠・分娩, 女性生殖器と疾患	神経と疾患		腎・尿路, 男性生殖器と疾患	放射線治療
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
水	4		発展現代医学Ⅱ	医療・リスクマネジメント		
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
木	4	精神と疾患	救急医学	臨床検査	顎口腔と疾患	
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				
金	4	小児疾患・成長と発達	法と医療	臨床薬理学	発達臨床医学Ⅱ	内分泌・代謝と疾患
	5	臨 床 実 習				
	6	総 合 試 験				

資料5 専門教育科目及び単位配当表

【平成16・17・18・19年度入学者】

授 業 科 目			単 位	年 次 別 単 位 数											
				1		2		3		4		5		6	
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
専 門 基 礎 科 目	医 学 英 語 I		1		1										
	医 学 英 語 II		1				1								
	医 学 英 語 III		1							1					
	医 用 統 計 学		1				1								
	基 礎 人 体 科 学 演 習		4	2	2										
	臨 床 医 学 入 門 実 習		1	1											
	臨 床 実 地 見 学 実 習		1			1									
	コ ア 基 本 医 の 原 則 I		1	1											
	科 目 医 の 原 則 II		1			1									
	目 医 療 リスク マネージメント		1								1				
専 門 科 目	チ ュ ー ト リ ア ル		6					3	3						
	計		19	4	3	1	3	3	3	1	1				
	医 学 個 体 の 構 成 と 機 能		6			6									
	ア 侵 襲 と 生 体 応 答		4				4								
	科 病 理 と 病 態		2					2							
	目 消 化 器 と 疾 患		3						1	1	1				
	人 体 循 環 器 と 疾 患		3						1	1	1				
	ア 内 分 泌 ・ 代 謝 と 疾 患		3						1	1	1				
	科 血 液 (成 人) と 疾 患		2						1	1					
	目 呼 吸 器 と 疾 患		2							1	1				
専 門 科 目	ア 神 経 と 疾 患		2							1	1				
	科 腎 ・ 尿 路 , 男 性 生 殖 器 と 疾 患		2							1	1				
	目 妊 娠 ・ 分 娩 , 女 性 生 殖 器 と 疾 患		2							1	1				
	ア 感 覚 器 と 疾 患 (眼 科 疾 患 ・ 耳 鼻 科 疾 患)		2							1	1				
	科 精 神 と 疾 患		2							1	1				
	目 小 児 疾 患 ・ 成 長 と 発 達		2							1	1				
	ア 皮 膚 と 疾 患		1							1					
	科 運 動 器 と 疾 患		1							1					
	目 顎 口 腔 と 疾 患		1								1				
	ア 応 用 病 理		1							1					
専 門 科 目	科 臨 床 検 査		1								1				
	目 放 射 線 診 断		1							1					
	ア 放 射 線 治 療		1								1				
	科 臨 床 薬 理 学		1								1				
	目 救 急 医 学		1								1				
	ア 全 身 に お よ ぶ 生 理 的 変 化 , 病 態 , 診 断 , 治 療		1					1							
	科 侵 襲 と 加 齢 II		2						2						
	目 診 療 症 候 ・ 病 態 か ら の ア プ ロ ー チ		1					1							
	ア 基 本 的 診 療 知 識		3					1		1	1				
	科 基 本 的 診 療 技 能		1								1				
専 門 科 目	目 医 学 ・ 医 療 と 社 会		2							2					
	ア 法 と 医 療		1								1				
	科 発 展 生 命 科 学 I (脳 科 学)		2					2							
	目 発 展 生 命 科 学 II		1					1							
	ア 発 展 生 命 科 学 III		1					1							
	科 発 展 臨 床 医 学 I		1							1					
	目 発 展 臨 床 医 学 II		1								1				
	ア 発 展 臨 床 医 学 III		1											1	
	科 発 展 現 代 医 学 I		1							1					
	目 発 展 現 代 医 学 II		1								1				
専 門 科 目	ア 統 合 基 礎 医 学 実 習 A		4			4									
	科 統 合 基 礎 医 学 実 習 B		2				2								
	目 人 体 解 剖 学 実 習		6				6								
	ア 組 織 学 実 習		1				1								
	科 病 理 学 実 習		2					1	1						
	目 脳 解 剖 学 実 習		2					2							
	ア 社 会 医 学 実 習		1											1	
	科 診 療 技 能 実 習 I (前 期 OSCE)		1								1				
	目 診 療 技 能 実 習 II (後 期 OSCE)		1											1	
	ア 臨 床 実 習 I		40										40		
専 門 科 目	科 臨 床 実 習 II (ク リ ニ カ ル ・ ク ラ ー ク シ ッ プ)		10											10	
	目 総 合 教 育 演 習 I (C B T)		1								1				
	ア 総 合 教 育 演 習 II (総 合 試 験)		1												1
	科 特 別 教 育 科 目 (研 究 室 研 修 等)		3						3						
	目 計		141			10	13	12	10	20	22		40	13	1
	ア 合 計		160	4	3	11	16	15	13	21	23		40	13	1

【平成15年度以前入学者】

授 業 科 目			単 位	年 次 別 単 位 数											
				1		2		3		4		5		6	
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
専門基礎科目	医学概論		2	1		1									
	医学英語		3		1	1			1						
	医用統計学		2			2									
	基礎人体科学演習		4	2	2										
	計		11	3	3	2	2		1						
専門基礎医学科目	基礎医学科目	人体の構造と機能Ⅰ	2			1	1								
		同 実 習	8					8							
		人体の構造と機能Ⅱ	3			2	1								
		同 実 習	2				2								
		代謝と栄養	3			2	1								
		同 実 習	1				1								
		感染と生体防御機構Ⅰ	2			1	1								
		同 実 習	1				1								
		感染と生体防御機構Ⅱ	1					1							
		同 実 習	1					1							
		治療の薬理学的基礎	2					1	1						
		同 実 習	1						1						
		人体の病理と病態	3					1	2						
		同 実 習	3							3					
		社会と医学Ⅰ	3							1	2				
		同 Ⅱ	1							1					
		同 実 習	2								2				
		免疫学・遺伝子科学	1					1							
	臨床医学科目	臨床医学科目	消化器系	3						1	2				
			代謝内分泌系	3						1	2				
			循環器系	3						1	2				
			呼吸器系	2							2				
			血液系	2							2				
			免疫・感染症系	2								2			
			生殖系	3						1	1	1			
			腎・泌尿器系	2								2			
			脳・神経系	2								2			
			精神系	2								2			
			感覚器系	3							1	2			
			運動器系	2								2			
			皮膚・結合組織系	2								2			
			成長発達系	3						1	2				
			歯口腔系	1								1			
			検査医学	1								1			
			放射線医学	1								1			
			麻酔・蘇生系	2								2			
		加齢医学	1								1				
		機能回復	1								1				
		臨床薬理	1								1				
		救急医学	1								1				
		臨床医学科目	臨床医学入門実習	1	1										
			臨床実地見学実習	2	1	1									
			外科学総論	1					1						
			内科診断学	1							1				
			医療管理学	1								1			
			基本的診療技能実習	1								1			
			臨床総合演習	1										1	
			臨床実習	50									40		10
			研究室研修	6					3	3					
			計	147	2	1	6	8	14	15	21	29	40		11
合 計			158	5	4	8	10	14	15	22	29	40		11	

(別表) 大学院生について

資料1 領域別入学定員

【06年度】

領 域	入学定員	収容定員
分 子 細 胞 科 学	64名	256名
脳 神 経 科 学		
発生・分化再生科学		
器 官 病 態 科 学		
健 康 科 学		
計	64名	256名

【07年度】

領 域	入学定員	収容定員
分子遺伝情報科学	55名	247名
脳 神 経 科 学		
腫 瘍 制 御 科 学		
循 環 病 態 科 学		
機能再建・再生科学		
総合医療・健康科学		
感 覚 統 合 科 学		
病 態 制 御 科 学		
成 育 科 学		
計	55名	247名

資料2 学位授与数

	06年度	07年度
課 程 修 了 者 (甲)	45名	34名
論 文 審 査 (乙)	4名	2名
計	49名	36名

資料3 入学状況

06年度			07年度			計
分 子 細 胞 科 学	現員	4名 (3)	分子遺伝情報科学	現員	1名 <1>	
			脳 神 経 科 学	現員	4名	
脳 神 経 科 学	現員	4名 (2) <1>	腫 瘍 制 御 科 学	現員	6名 (2)	
			循 環 病 態 科 学	現員	3名 <1>	
発生・分化再生科学	現員	1名	機能再建・再生科学	現員	8名 (1)	
			総合医療・健康科学	現員	15名 (7)	
器 官 病 態 科 学	現員	14名 (3)	感 覚 統 合 科 学	現員	2名	
			病 態 制 御 科 学	現員	7名 (1)	
健 康 科 学	現員	12名 (4)	成 育 科 学	現員		
計	定員	64名	計	定員	55名	119名
	現員	35名 (12) <1>		現員	46名 (11) <2>	81名 (23) <3>

※ 現員数については、入学者数を記入した。() 内数字女子、< > 内数字は外国人留学生で内数。

資料4 ティーチングアシスタント及びリサーチアシスタント数

	ティーチングアシスタント	リサーチアシスタント	計
06年度	35名	29名	64名
07年度	18名	18名	36名

資料5 外国人留学生数

		06年度	07年度
留 学 生 数		8名	7名
国別 留学生数	バ ン グ ラ デ シ ュ	1名	—
	中 国	7名	7名
留学生 費用別	国 費	0名	1名
	私 費	8名	6名

資料6 留学国別留学者数

	06年度	07年度
計	0名	0名

資料7 留学期間別留学者数

	06年度	07年度	計
計	0名	0名	0名

資料8 大学院修了者の就職状況

2006年度

専 攻	修了者数	就 職 者 数				
		大学教員	医 師	医 員	そ の 他	計
生 理 系	3名	1名	1名		1名	3名
病 理 系	5名	2名	3名			5名
社 会 医 学	6名	5名	1名			6名
内 科	16名		12名	3名	1名	16名
外 科	15名	2名	11名	2名		15名
計	45名	10名	28名	5名	2名	45名

2007年度

専 攻	修了者数	就 職 者 数				
		大学教員	医 師	医 員	そ の 他	計
分子細胞科学	7名		6名		1名	7名
脳 神 経 科 学	2名		2名			2名
発生分化再生科学	3名	1名	2名			3名
器官病態科学	17名	4名	8名	3名	2名	17名
健 康 科 学	3名	2名	1名			3名
細菌学(主科目)	1名	1名				1名
内科学第三(主科目)	1名		1名			1名
計	34名	8名	20名	3名	3名	34名

資料9 大学院講義

2006年度

前期：4月10日（月）～7月28日（金）の間の 月曜日・金曜日

科目名	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	系代表
医学研究概論		佐藤 敬, 黒田直人, 中根明夫 正村和彦, 加地 隆, 鬼島 宏 中路重之, 下山則彦, 土田成紀 若林孝一, 古川賢一, 泉井 亮 藏田 潔, 柿崎育子, 早狩 誠	月	17:00～18:30	立石 智則
生命科学倫理学		五十嵐靖彦, 中根明夫, 原田竹雄 中野 創, 伊東 健, 袴田健一 高橋良博, 大山 力, 藤井俊策 藏田 潔, 浅利 靖, 黒田直人 廣田和美	金	17:00～18:30	木村 博人

後期：10月2日（月）～2月5日（月）の間の 月曜日・金曜日

科目名	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	系代表
医学研究概論		下山 克, 長内智宏, 西川俊昭 須田俊宏, 兼子 直, 伊藤悦朗 上地正実, 吉原秀一, 沼沢拓也 松崎康司, 大山 力, 中澤 満 丸屋信一郎, 水沼英樹, 廣田和美	月	17:00～18:30	廣田 和美
最新医学の動向		楠美智己, 森山朋子, 伊東 健 中澤 満, 東海林幹夫, 梅原 豊 土屋順彦, 片山揚誠, 藏田 潔 須田俊宏, 兼子 直, 差波拓志 立石智則, 大山 力	金	17:00～18:30	大山 力

2007年度

前期：4月9日（月）～7月27日（金）の間の 月曜日・金曜日

科目名	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	科目代表
医学研究概論		佐藤 敬, 黒田直人, 上野伸哉 田中真奈実, 中路重之, 正村和彦 加地 隆, 東海林幹夫, 土田成紀 下山則彦, 中根明夫, 若林孝一 藏田 潔, 古川賢一	月	17:00～18:30	鬼島 宏
生命科学倫理学		五十嵐靖彦, 中根明夫, 鬼島 宏 立石智則, 袴田健一, 大山 力 阿部由直, 佐藤哲観, 中野 創 尾崎浩士, 東海林幹夫, 浅利 靖	金	17:00～18:30	棟方 博文

後期：10月1日（月）～2月1日（金）の間の 月曜日・金曜日

科目名	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	科目代表
医学研究概論		清水徹男, 長内智宏, 上地正実 須田俊宏, 兼子 直, 伊藤悦朗 下山 克, 吉原秀一, 沼沢拓也 松崎康司, 大山 力, 中澤 満 丸屋信一郎, 水沼英樹, 廣田和美	月	17:00～18:30	中路 重之
最新医学の動向		阿部由直, 土田成紀, 鬼島 宏 鈴木 聡, 伊東重豪, 袴田健一	金	17:00～18:30	阿部 由直

研 究 活 動

研究活動に関する自己点検・評価（記載説明）

自己点検・評価の対象

各講座、診療科、動物実験施設、教員定員のある診療部を対象とし、研究単位ごとにまとめたものです（以下同様）。

基礎講座は各講座を研究単位、臨床講座は診療科又は診療部を合わせて研究単位とし、さらに動物実験施設、教員定員のある診療部のうち一部はそれぞれを研究単位としている。

〔A〕研究単位人員と研究テーマの記載要領

各研究単位の評価年度の研究人員と研究テーマについて記載している。

I. 研究者人員

それぞれの研究単位の評価年度における教授、准（助）教授、講師、助教、助手、医員、大学院学生、研究生の実数を記載する（看護部は除く）。たとえば、併任教授 1、准（助）教授 1 であれば、教授 0、准（助）教授 1 と記入している。

なお、講座・診療科と診療部の所属が実質的に区別されていない研究者については、その人員を講座・診療科に加えて記載している。

II. 研究者テーマ

それぞれの研究単位における研究テーマを評価年度について 10 項以内を記載している。

〔B〕研究業績の記載要領

評価年度内の研究業績を対象とする。

I. 発表論文について

1. 論文の分類、その他

- (1) すでに発表された論文のみを記載。
- (2) 論文を原著、総説、著書、その他に分類し、英文、和文に分けている。
- (3) 英文以外の外国語で書いた論文はその他に入れている。
- (4) ここでいう原著とは、レフェリー制をとっている定期刊行物 (Journal) に掲載された学術論文、あるいはその Journal が原著として扱っている論文を指す。
- (5) ここでいう総説とは、定期刊行物 (Journal) に掲載された学術論文で、原著、症例報告、その他報告書以外のものを指す。
- (6) 原著、総説、著書は、当該研究単位（講座・部門等）に所属する者にアンダーラインを引いて、以下の 3 つのカテゴリーに分けて記載（著書については単著、編集、分担執筆を区別）

A：当該研究単位が主たる発表機関である（筆頭研究単位になっている）

筆頭著者の所属が異動あるいは重複している場合は、現在の所属にかかわらず、筆頭著者の論文に記載した研究単位（Suzuki Y^{1), 2)} であれば 1 の研究単位）が主たる発表機関となる。

B：当該研究単位が副発表機関である（第 2 以下に記載されている）

C：所属研究者が他研究機関で行ったもので、当該研究者は著者として記載されてい

るが、当該研究単位は発表機関としては記載されていない。

なお、同一論文の重複を明らかにするために、BとCについては 当学科内の他研究単位がA（またはB）記載する論文には論文題名の冒頭に（*）を付記する。
併任教員のみによる論文は記載していない。

2. 記載方法

a) 原著

著者名全員，論文題名，発表雑誌，発表年，巻数，ページ（始め～終わり）の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

b) 総説

原著と同じ方法で記載している。

c) 著書

（単著），（編集）

著者（編者）名全員，書名，発行所，発行所地名，発表年の順に記載している。
標記スタイルは「弘前医学」に従う。

（分担）

著者名全員，著述文表題，編者名，書名，ページ（始め～終わり），発行所，発行所地名，発表年の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

d) その他（症例報告等）

これには定期刊行雑誌や紀要などの症例報告，その他報告書等が含まれる。学会抄録は Proceedings (Journal) で発表されていてもここには記載していない。記載方法は a) と同じ。

3. 発表論文のまとめ

それぞれの研究単位における論文業績のまとめである。

上記の英文原著，総説については，それぞれA，Bのみ，雑誌名と Impact Factor（本報告書の表紙に指定した年の JCR を使用，図書館），論文数を発表年別に記載，和文原著，総説については，それぞれA，Bのみ，雑誌名を発表年別に記載，著書については，単著，編集，分担執筆に分けて発表年別に記載している。

II. 学会，研究会等での発表業績について

1. 記載対象

国際レベル，全国レベルの学術集会での発表のみを対象とし，以下の3つのカテゴリーに分けて記載している。

A. 特別（招待）講演

B. シンポジウム，パネルディスカッション，ワークショップでの講演

C. 一般講演（ポスター発表を含む）

2. 記載方法

発表者，発表題名，集会の名称，開催地，開催年を記載，Proceedings (Journal) がある場合は，上記の下に，I-2, a) (原著) の記載方法に従って記載，国内学会の一般講演については，各年度の発表件数のみを記載している。

III. 学術賞について

当該年度に当該研究単位，所属研究者に与えられた学術賞について，賞の名称受賞者名，受賞研究課題を記載している（学内の賞，民間の賞を含む）。

IV. 共同研究について

国内外の研究機関と共同で行った研究について，その相手研究機関名，研究課題，当該研究単位の代表研究者名を記載している。

ここでいう共同研究には民間等との共同研究など，プロジェクトとして，あるいは正式な契約を交わして行われるものを含む。

V. 研究助成の獲得について

当該年度に当該研究単位，所属研究者が獲得した研究助成金に関し，文部科学省科学研究費，その他省庁からの研究費，学内の研究助成，民間の研究助成に分け，助成名称，研究種目，研究課題，研究代表者名，配分額（単位：千円）について記載している。

VI. 研究に関する社会活動について

1. 国際的な研究連携，国際交流，その他

a) 国際学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間

c) 外国からの留学生，研究生の受け入れ状況

留学生（研究生）名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

研究者名，研究機関，国名，滞在期間（継続）

2. 国内，地域研究機関との連携，その他

a) 全国レベルの学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

b) 地方レベルの学術集会の主催状況

主催代表者名，集会名，開催地

c) 国内機関からの内地留学受け入れ状況

留学者名，研究機関，国名，滞在期間

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

留学者名，研究機関，国名，滞在期間

VII. その他

特許の取得など，研究に関する特記事項を記載する。

[C] 研究単位の目標設定に対する到達度と理念・これから2年間の目標の記載要領

I. 2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度

2年前の自己点検評価報告書作成時に設定した，研究単位のこれから2年間の目標に対する到達度について記載している。なお，設定目標については，「自己点検評価報告書＝2004年度－2005年度＝」に掲載されている。

II. 理念，これから2年間の目標

各研究単位の理念，これから2年間の目標について記載している。

第2章 研 究 活 動

1. 神経解剖・細胞組織学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

到達度は全体で70%程度。論文公表については，準備中のものが多く2007年度中には実現できなかった。

理念：

現行の研究課題に関する成果の公表を確実に実施するとともに，新たな課題への発展を模索し，研究活動の一層の活性化を図る。

これから2年間の目標：

研究単位として年間1編以上の原著論文を公表し，国内外での学会発表を年1回以上行う。また，研究資金を年間1件以上獲得する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 0，助手 3，医員 0，大学院学生 1，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	正村 和彦	
	助 教	専 任	浅野 義哉	
	助 教	専 任	目黒 玲子	
	助 手	専 任	小田桐紗織	
研究課題	1. 非ヘム鉄の組織学，理論と応用 2. ラット中枢神経系の非ヘム鉄局在の組織化学的観察 3. 脳の鉄代謝及びストレス応答に関する研究 4. 胃粘膜壁細胞のストレス応答に関する研究 5. 海馬のシナプスにおける非ヘム鉄の蓄積の形態学			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 0，講師 0，助教 2，助手 1，医員 0，大学院学生 1，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	助 教	専 任	浅野 義哉	1 年
	助 教	専 任	目黒 玲子	1 年
	助 手	専 任	小田切沙織	1 年
研究課題	1. 脳神経系における鉄代謝			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Asano Y, Meguro R, Odagiri S, Li C, Iwatsuki H, Shoumura K. Visualization of non-heme ferric and ferrous iron by highly sensitive non-heme iron histochemistry in the stress-induced gastric lesions in the rat. Histochem. Cell Biol., 2006,125:515-525.

和文 なし

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Meguro R, Asano Y, Odagiri S, Li C, Iwatsuki H, Shoumura K. Nonheme-iron histochemistry for light and electron microscopy: a historical, theoretical and technical review. Arch Histol Cytol 2007;70(1):1-19

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Histochem Cell Biol	2.239	1	2.239
Total		1	2.239

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch Histol Cytol	1.392	1	1.392
Total		1	1.392

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
な し		
計	0	0

2. 著書数（A，Bのみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他（A，Bのみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

C. 2件

2007年度

C. 3件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2007年度

弘前大学大学院医学研究科感染生体防御学講座，細菌感染の形態学的研究，浅野義哉

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

目黒玲子，若手研究 B 700 千円 中枢神経系における鉄陽性ニューロン及びグリアの鉄代謝と鉄輸送経路の解明

2007年度

研究代表者として

若手研究 B 中枢神経系における鉄陽性ニューロン及びグリアの鉄代謝と鉄輸送経路の解明，目黒玲子，700 千円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2007年度

研究代表者として

第 25 回唐牛記念医学研究基金助成金，浅野義哉，金属キレーター・クリオキノールの神経変性疾患治療効果についての病理学的研究：鉄の動態に注目して，100 万円

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2006年度

大学院学生 1 名（中国からの私費留学生）李 成泰

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

2. 生体構造医科学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2 年前に設定した、これから 2 年間の目標に対する到達度：

8 割。

- ・科学研究費の継続的獲得の不調。研究棟の改修にともなう実験的研究の障害。
- ・しかし、世界でも最高級の外国人研究者を特別講演者として招待して、国際フォーラムを開催したり、また長年の研究分野の総括的な仕事を研究仲間とともに Proceedings としてまとめることができたこと、全国学会やシンポジウムの開催への参加・協力は、他の研究者や若い人たちへの影響も含め評価できる。

また、発表した論文や総説が国内外に少なからぬ影響を与えた。

- ・肉眼臨床解剖学的研究を含め、他の研究室との共同研究や新聞紙上での発表等を含む社会的貢献の点でもある程度の成果をあげた。
- ・改修工事により実験設備などの点で若干の改善点があった。

理念：

教室内の個々の研究者の独自の研究を発展させるとともに、教室の中心テーマである松果体などの神経内分泌系や生殖系の構造と機能・医学的意義と生物学的時間との関連の解明に関する研究も進展させ、成果をあげたい。研究成果を学会発表、論文発表という形で研究者に対して情報提供するとともに、各種メディアを通して社会に対して、また教育の場にフィードバックしたい。

これから 2 年間の目標：

独立行政法人化に伴う厳しい財政事情、人的制約の下、研究費獲得等の研究基盤の整備、実験的研究継続・発展のため引き続き努力をする。困難をのりこえ、実験成果に関して論文作成・学会や新聞紙上等での発表を行う。同時に、長期間研究を行ってきた分野生殖医学・生物学や発生遺伝学、およびバイオリズム、発達や加齢・老化、進化等の時間生物学に関する実験データを整理統合し、解説・仮説・問題提起・方向性の提示等を含むレビュー的論文等に総括する。国内外の研究者・学生・一般人に対してそれらの情報提供をする努力をする。肉眼解剖学的研究も含め、他の研究室との協同研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2006 年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	加地 隆	2006.4.1-2007.3.31
	助教授	専 任	外崎 敬和	2006.4.1-2007.3.31
	助 手	専 任	渡邊 誠二	2006.4.1-2007.3.31
研究課題	1. 松果体の構造と機能の加齢による変化 2. 母親の松果体ホルモンが仔に及ぼす質的・量的影響 — 奇形発現・出産仔数とも関連して 3. 頭蓋内手術などのストレスを含む外部環境が松果体の構造と機能に及ぼす影響 4. 新生仔期女性ホルモン投与が雄性生殖器官の発達に及ぼす影響 — 免疫機構とも関連して 5. 人体の肉眼的構造と機能、臨床的意義 6. 視床下部下垂体中葉系の MSH 神経内分泌調節機構：MSH の新しい機能について (ア) サイトカイン (IL-1 β) の知覚過敏・発熱に対する視床下部弓状核 MSH ニューロン・下垂体中葉 MSH 細胞の修飾機構 (イ) 冷環境に対する下垂体中葉 MSH の分泌調節機構とその機能 7. 核置換による加齢卵子救済の検討 8. XY 精子の分離 9. 巨核球分化における転写因子の発現 10. 精漿 ICSI の臨床応用			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	加地 隆	2007.4.1-2008.3.31
	准教授	専 任	外崎 敬和	2007.4.1-2008.3.31
	助 教	専 任	渡邊 誠二	2008.4.1-2008.3.31
研究課題	1. 松果体の構造と機能 2. 副腎髄質の微細構造と機能・種差 3. 新生仔期性ホルモン投与に関する実験形態学的研究 一とくに生殖と免疫機構と関連して 4. 時間生物学 (バイオリズム, 成長・発達・加齢・老化, 進化) 5. 視床下部・下垂体中葉系の MSH 神経内分泌調節機構: MSH の新しい機能について (ア) サイトカイン (IL-1 β) の知覚過敏・発熱に対する視床下部弓状核 MSH ニューロン・下垂体中葉 MSH 細胞の修飾機構 (イ) 冷環境に対する下垂体中葉 MSH の分泌調節機構とその機能 6. 人体の肉眼解剖学的研究 7. 核置換による加齢卵子救済の検討 8. 卵子の老化メカニズムの解析 9. 巨核球分化における転写因子の発現 10. 蛍光グルコースによる細胞内グルコース代謝の研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kachi T, Tanaka D, Watanabe S, Suzuki R, Tonosaki Y, Fujieda H. Physiological pineal effect on female reproductive function of laboratory rats: prenatal development of pups, litter size and estrous cycle in middle age. Chronobiol Int. 2006;23:289-300.
- B.1. Momose A, Tsushima M, Mizuno H, Kajihara S, Saitoh H, Mikuni T, Tonosaki Y, Kachi T, Funyu T. Impact of upper extremity abduction on arteriovenous fistula (AVF) blood flow. Nephrol Dial Transplant. 2006;21:2033-4.
- B.2. Xu G, Kanezaki R, Toki T, Watanabe S, Takahashi Y, Terui K, Kitabayashi I, Ito E. Physical association of the patient-specific GATA-1 mutants with RUNX1 in acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down syndrome. Leukemia. 2006;20:1002-8.

2007年度

- A.1. Kajihara S, Sakamoto T, Kachi T. A qualitative and quantitative electron microscopic study of differences in adrenomedullary adrenaline cells between golden hamsters and rats, with special reference to the Golgi apparatus. Arch Histol Cytol, 2007;70:147-161.

和文

2007年度

- A.1. 渡邊誠二. 核置換卵子の染色体異常. 日本生殖医療エンジニアリング, 2007;2:4

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Kachi T. Pineal structures and functions in mammalian body mechanisms coping with exogenous and endogenous changes. Hirosaki Med J, 2007;59(Suppl):S262-S277.
- A.2. Kachi T, Kachi H. Experimental studies on morphological changes of the epididymis and testis in neonatally estrogenized mice revisited. Hirosaki Med J, 2007;59(Suppl):S278-S287.
- A.3. Tonosaki Y, Sugiura Y, Roubos EW. New functions of classical hormone, α -melanophore-stimulating hormone. Hirosaki Med J, 2007;59(Suppl):S202-S209.

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Chronobiol Int	2.472	1	2.472
Nephrol Dial Transplant	2.976	1	2.976
Leukemia	6.612	1	6.612
Total		3	12.06

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch Histol Cytol	1.392	1	1.392
Hirosaki Med J	0	3	0
Total		4	1.392

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
日本生殖医療エンジニアリング		1
計	0	1

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- B.1. Tanaka A, Tanaka I, Nagayoshi M, Awata S, Kusunoki H, Watanabe S. The efficacy of preimplantation genetic screening in assisted reproductive technology (IVF). 13th International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy. USA. 2006.5.28-31.
- C.1. Tonosaki Y, Watanabe S, Kachi T. New functions of classical hormone, melanotropin: α -MSH antagonizes interleukin-1 β -induced hyperalgesia and Fos-expression in the paraventricular and arcuate nucleus of the rat. The 10th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. (Hirosaki, Japan, 2006.11.21-22) Abstracts of the 10th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, "Emerging Theories of Host Defense". 2006, p.63.

2007年度

- A.1. Watanabe S, Studies on the mechanism of the oocyte aging. Canada-Japan Bilateral Program on Human Reproduction and Reproductive Biology. Hirosaki 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 渡邊誠二. マウス卵 ICSI によるアッセイで明らかになったヒト精子染色体異常の特性. 第 47 回日本哺乳動物卵子学会 ランチョンセミナー. 東京 2006.5.27.
A.2. 渡邊誠二. 核置換卵の染色体異常. 日本生殖医療エンジニアリング研究会. 東京 2007.2.25
C. 4 件

2007年度

- B.1. 外崎敬和. 古典的ホルモン MSH の新しい機能. 日本動物学会第 78 回大会関連集会「第 10 回ホメオスタシス研究会」. 弘前 2007.9.20. (抄録) 日本動物学会第 78 回要旨集, 2007;p.131.
B.2. 渡邊誠二. タキソール処理 IVM 卵の染色体と発生. 第 25 回受精着床学会. 仙台 2007
C. 11 件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. 北海道大学大学院医学研究科本間研一教授と「ラット血中メラトニンレベルに関する実験的研究」 加地
2. 北九州セントマザー産婦人科医院 「核置換による加齢卵子救済の検討」 渡邊
3. 同上, 九州工業大学 「XY 精子の分離」 渡邊
4. 弘前大学医学部小児科学 「巨核球分化における転写因子の発現」 渡邊
5. 弘前大学医学部産婦人科学 「ICSI の応用」 渡邊

2007年度

1. 北海道大学大学院医学研究科本間研一教授と「ラット血中メラトニンレベルに関する実験的研究」 加地
2. 北九州セントマザー産婦人科医院「核置換による老化卵子救済法の検討」 渡邊

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として 渡邊誠二
若手研究 B「マウスおよびヒト加齢卵子におけるオーロラ蛋白およびミトコンドリアの機能変化の解析」, 1,000 千円

2007年度

研究代表者として 渡邊誠二
若手研究 B「マウスおよびヒト加齢卵子におけるオーロラ蛋白およびミトコンドリアの機能変化の解析」, 1,000 千円
他研究単位との研究分担者として
基盤研究 (C) 土岐 力 分担者: 渡邊誠二
「急性巨核球性白血病の表現型における転写因子 BACH1 および GATA-1 の機能解析」

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として 加地 隆
学術国際振興基金、外国人研究者の招聘旅費・滞在費の助成
スウェーデン、カロリンスカ研究所の Jan-Ake Gustafsson 教授の招聘, 450 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

2006年度

第10回弘前国際医学フォーラム(会長:佐藤 敬教授)の実行委員の1人として参加 加地

2007年度

第10回弘前国際医学フォーラム(会長:佐藤 敬教授)の Proceedings の出版(加地:実行委員)

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

スウェーデン, カロリンスカ研究所の Jan-Ake Gustafsson 教授を国際フォーラムの特別講演者として招聘するための交渉・連絡・接待・座長役を務めた。また, フォーラム前日に公開セミナーを主催した。
加地

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2007年度

第10回ホメオスタシス研究会
オルガナイザー:高橋明義(北里大), 外崎敬和(弘前大)
弘前, 2007.9.20
第78回日本動物学会 石黒誠一
弘前, 2007.9月(渡邊誠二:実行委員)

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

2006年度

- ・研究成果の一般向け紹介

1. 新聞（東奥日報），2006.4.8，および FM 放送（アップルウェーブ），2006.12.3と10，加地
2. 新聞（日経産業新聞），2007.3.7，渡邊

3. 統合機能生理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

- 1) Impact Factor 3以上の雑誌に研究室の教官が first author として少なくとも年1編の論文を発表 100%
- 2) 国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表 50%
- 3) 研究室として科学研究費補助金に2件以上採択 100%

理念：

過去2年間に生理学2講座が統合され，2つの研究グループから構成されることになった。研究に関するさまざまな最新のコンセプトと方法とを導入して世界のトップランナーの一員としての役割を果たす。

これから2年間の目標：

- 1) Impact Factor 3以上の雑誌に研究室の教員が first author として少なくとも年1編の論文を発表
- 2) 国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表
- 3) 研究室として科学研究費補助金に2件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 2，助教授 2，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 1，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	泉井 亮	2006.4.1～2006.8.31
	教 授	専 任	蔵田 潔	1年
	助教授	専 任	山田 勝也	2006.4.1～2007.3.31
	助教授	専 任	相澤 寛	1年
	助 手	専 任	木村 良一	2006.4.1～2007.3.31
	助 手	専 任	西澤 雄介	1年
研究課題	【生理学第一講座】			
	1. インスリン分泌の細胞機構			
	2. 膵ランゲルハンス島における細胞機能協同			
	3. 中枢神経における血糖調節機構			
	4. 消化酵素の分泌機構			
	5. 神経活動依存的脳血流調節機構の分子基盤			
	6. 中脳黒質網様部における脳内酵素ならびにグルコース検知機構			
	7. グルコース取り込みのリアルタイム解析法の開発			
	8. 低酸素誘発性あえぎ呼吸を制御する中枢機構の分子基盤			
	9. 非侵襲的心拍・呼吸検知装置の開発研究			
	10. 脳神経系におけるオリゴデンドロサイトおよびシュワン細胞の特徴解析			
	【生理学第二講座】			
	1. ニューロン活動解析による運動前野における運動学習機構の研究			
	2. 脳磁図によるヒト脳の認知機構の研究			
	3. 眼球運動解析による脳内プログラミング機構の研究			
	4. 盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定			
	5. 報酬強化学習における脚橋被蓋核の位置付けの検討			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 2，講師 0，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	蔵田 潔	1年
	准教授	専 任	山田 勝也	1年
	准教授	専 任	相澤 寛	1年
	助 教	専 任	石戸圭ノ輔	1年

研究課題	1. ニューロン活動解析による運動前野における運動学習機構の研究 2. 脳磁図によるヒト脳の認知機構の研究 3. 盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定 4. 新規蛍光ブドウ糖開発による脳内ブドウ糖輸送の研究 5. 神経活動依存的脳血流調節に関する研究 6. 中脳黒質網様部の神経-グリア相互作用を含めた多面的研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Misaki N, Mao X, Lin YF, Wu J, Suga S, Liu Q, Chang Y, Wang H, Wakui M, Wu J. Iptakalim modulated ATP-sensitive K⁺ channels in dopamine neurons from rat substantia nigra pars compacta. **J Pharmacol Exp Therap** 322:871-878(2007).
- A.2. Wu J, Hu J, Chen YP, Takeo T, Suga S, DeChon J, Liu Q, John PA, Hu G, Wang H, Wakui M. Iptakalim modulated ATP-sensitive K⁺ channels in dopamine neurons from rat substantia nigra pars compacta. **J Pharmacol Exp Therap** 319:155-164(2006).
- A.3. Kudo T, Wu J, Ogawa Y, Suga S, Hasegawa N, Suda T, Mizukami H, Yagihashi S, Wakui M. Novel mechanism of chronic exposure of oleic acid-induced insulin release impairment in rat pancreatic β -cells. **J Pharmacol Exp Therap** 318:1203-1210(2006).
- A.4. Yamada K, Saito M, Matsuoka H, Inagaki N. A real-time imaging method of glucose uptake in single, living mammalian cells. **Nature Protocols** 2:753-762(2007).
- B.1. Miyake A, Yamada K, Kosaka T, Miki T, Seino S, Inagaki N. Disruption of Kir6.2-containing ATP-sensitive potassium channels impairs maintenance of hypoxic gasping in mice. **Eur. J. Neurosci.** 25:2349-2363(2007).
- B.2. Saito T, Yamada K, Wang Y, Tanaka Y, Ohtomo K, Ishikawa K, Inagaki N. Expression of ABCA2 protein in both non-myelin-forming and myelin-forming Schwann cells in the rodent peripheral nerve. **Neurosci. Lett.** 414:35-40(2007).

2007年度

- A.1. Kurata, K. Laterality of movement-related activity reflects transformation of coordinates in the ventral premotor cortex and the primary motor cortex of monkeys. **J. Neurophysiol.** 2007;98:2008-2021.
- C.1. Sakai H, Tanaka Y, Tanaka M, Ban N, Yamada K, Matsumura Y, Sasaki M, Kita T, Inagaki N. (2007) ABCA2 deficiency results in abnormal sphingolipid metabolism in mouse brain. **J. Biol. Chem.** 282:19692-19699.

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 大脳小脳連関 Brain Medical 70:47-52,2007

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Pharmacol Exp Therap	4.098	3	12.294
Nature Protocols	0	0	0
Eur J Neurosci	3.949	1	3.949
Neurosci Lett	1.898	1	1.898
Total		5	18.141

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J. Neurophysiol.	0	1	3.684
Total		1	3.684

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
Brain Medical	1	
計	1	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	1	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- A.1. Kurata K: From visual to motor space in the ventral premotor cortex. NTT Communication Sciences Laboratories Symposium 'Implicit interaction among sensory, perceptual, and motor processes -from the viewpoints of prediction and postdiction-', NTT Communication Sciences Laboratories, Atsugi, Aug 30-31, 2006.
- A.2. Kurata K: Control of gain for visuomotor transformation in the ventral premotor cortex of monkeys. Neural Control of Movement, Seville, Spain, 2007.
- B.1. Wakui M. Hirosaki Medical Journal 59:(2007): Proceedings of the 9th Hirosaki International Forum.

(2) 全国学術集会

2006 年度

- A.1. Kurata K: Gain Control of Visuomotor Transformation in the Ventral Premotor Cortex of Monkeys. The 29th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Kyoto, July 20, 2006.
- C. 3 件

2007 年度

- C. 2 件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

第25回 唐牛記念医学研究基金助成金A賞 受賞者名：山田 勝也
受賞研究課題「神経活動依存的局所脳血流調節の分子基盤」

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. 国際共同研究
Jie Wu 博士
Division of Neurology, Barrow Neurological Institute (USA)
「 β 細胞のインスリン分泌に対するイブタカリウムの調節機構」
「ラットの脳スライス標本を用いた海馬 CA1 エリアの神経伝達、可塑性、神経間ネットワークの同期化の研究」
2. 学内共同研究
内科学第三講座（須田俊宏教授）、病理学第一講座（八木橋操六教授）
3. 秋田大学医学部機能制御医学講座細胞制御学分野（博士研究指導）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題 1. 「マウス心拍呼吸の非侵襲的解析手法の確立」
研究課題 2. 「ミエリン形成および非ミエリン形成シュワン細胞における ABCA2 蛋白の発現解析」
研究課題 3. 「低酸素誘発性あえぎ呼吸の中枢制御機構の分子基盤」
備考：課題 1 は 2005 年度の国内特許（第 368593 号）に続き、2006 年度に米国特許（No.7174854）を取得した。
論文指導した佐藤伸一（課題 1）、齊藤隆志（課題 2）、三宅あかり（課題 3）の 3 名の論文は国際誌に受理され、三宅を除き 2006 年度学位取得した。
4. 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・栄養内科（稲垣暢也教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」特定領域
「遺伝子改変マウスを用いたあえぎ呼吸の中枢制御機構に関する研究」基盤 C
「新たな膜輸送機構の分子基盤」学術創生研究
「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」CREST
5. 東京農工大 工学府生命工学専攻細胞機能工学（松岡英明教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題「グルコース取り込みのリアルタイム解析法の確立」基盤 C
研究課題「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」CREST
6. 神戸大学大学院医学研究科 細胞分子医学（清野 進教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」特定領域
「遺伝子改変マウスを用いたあえぎ呼吸の中枢制御機構に関する研究」基盤 C
7. 自然科学研究機構生理学研究所 脳形態解析研究部門（粕山俊彦助教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題「中脳黒質網様部のグルコース感受性およびその生理的役割」基盤 C
8. 北海道大学大学院医学研究科 機能形態学講座（渡辺雅彦教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」特定領域
9. 岩手大学 農学部獣医学科 細胞システム学（山本欣郎教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題 北東北三大学連携推進研究プロジェクト
「低酸素・高二酸化炭素に対する生体調節機構の解明」
10. 秋田大学医学部保健学科（吉崎克明教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題 北東北三大学連携推進研究プロジェクト
「低酸素・高二酸化炭素に対する生体調節機構の解明」
11. 自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター細胞生理研究部門（富永真琴教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題「遺伝子改変マウスの脳波解析」
12. (株)ペプチド研究所（山本敏弘研究室長）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題「リアルタイムグルコース取り込み可視化」基盤 C
13. 弘前大学医学部高度先進医学研究センター（伊東 健教授）
当該研究単位の代表研究者：山田勝也
研究課題「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」特定領域
14. 弘前大学医学部神経精神医学講座（脳磁図による高次認知機能に関する研究）
15. 京都大学理学部物理学講座（ニューロン活動の統計学的分析に関する研究）

2007年度

1. 弘前大学医学部神経精神医学講座（脳磁図による高次認知機能に関する研究）
2. 京都大学理学部物理学講座（ニューロン活動の統計学的分析に関する研究）
3. 秋田大学医学部機能制御医学講座細胞制御学分野
研究課題
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
「ABCA2 蛋白の脳神経系における発現および機能解析」
「新たな膜輸送機構の分子基盤」（学術創成研究費）
4. 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・栄養内科（稲垣暢也教授）
研究課題
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
「グルコース取り込みのリアルタイム解析法の確立」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
「ABCA2 蛋白の脳神経系における発現および機能解析」
「新たな膜輸送機構の分子基盤」（学術創成研究費）
5. 東京農工大学 工学府生命工学専攻細胞機能工学（松岡英明教授）
研究課題
「グルコース取り込みのリアルタイム解析法の確立」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
6. 神戸大学大学院医学研究科 細胞分子医学（清野進教授）
研究課題
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
7. 北海道大学大学院医学研究科 機能形態学講座（渡辺雅彦教授）
研究課題
「神経活動依存的な大脳皮質血流調節機構の分子基盤」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
8. 岩手大学 農学部獣医学科 細胞システム学（山本欣朗教授）
研究課題
「低酸素・高二酸化炭素に対する生体調節機構の解明」（北東北3大学）
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
9. 秋田大学医学部保健学科（吉崎克明教授）
研究課題
「低酸素・高二酸化炭素に対する生体調節機構の解明」（北東北3大学）
10. 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 細胞生理研究室
研究課題
「黒質網様部ニューロンの示す自発発火活動パターンのスライスパッチクランプ法による解析」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
「ドーパミン受容体欠損マウスを利用した黒質網様部ニューロンの自発発火活動の解析」（大学共同利用機関法人自然科学研究機構）
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
「中脳黒質網様部の新たな情報伝達機構，エネルギー基質低下感知機構，およびその生理的意義」
「遺伝子改変マウスの脳波解析」
11. ㈱ペプチド研究所（山本敏弘研究室長）
研究課題 「グルコース取り込みのリアルタイム解析法の確立」
（当該研究単位の代表研究者：山田勝也）
12. 守秘義務があるため非公開
研究課題 「組織内における細胞外グルコース濃度計測」
13. 独立行政法人 科学技術振興機構（CREST）
研究課題 「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」
（当該研究単位の代表研究者：松岡英明）

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

① 基盤研究 C

研究課題 「インスリン分泌を誘起する膵β細胞の新しいアドレナリン受容体の遺伝子解析」
代表者：泉井 亮，配分額 2006年度 1,300 千円

② 基盤研究 C

研究課題 「中脳黒質網様部のグルコース感受性およびその生理的役割」
代表者：山田勝也，配分額 2006年度 1,300 千円

- ③ 特定領域研究「脳の高次機能学（領域代表者：木村 實教授）」 新規
公募班員・研究代表者
視覚空間マップにもとづく眼と手の協調運動における運動前野の役割
課題番号 18020002
3,200 千円
- ④ 基盤研究（C） 継続
空間座標の二次元的変化に対する到達運動学習への大脳運動前野腹側部の関与
研究代表者
課題番号 17500269
1,200 千円

他研究単位との研究分担者として

学術創成研究費

研究課題「新たな膜輸送機構の分子基盤」（代表者：稲垣暢也）
分担者：山田勝也，配分額 2006 年度 0 千円

2007 年度

研究代表者として

- 1) 特定領域研究「脳の高次機能学（領域代表者：木村實教授）」
視覚空間マップにもとづく眼と手の協調運動における運動前野の役割
研究代表者 蔵田 潔
課題番号 18020002 3,400 千円
- 2) 基盤研究 C
研究課題「活動依存的脳血流調節における皮質細血管の役割と分子機構」
代表者：山田勝也，配分金 2007 年度 2,990 千円

他研究単位との研究分担者として

- 1) 基盤研究（B）「脳の高次機能学」
統合失調症における感覚記憶内の時間軸異常に関する研究
研究代表者：矢部博興（弘前大学大学院医学研究科）
研究分担者：蔵田 潔
3,100 千円
- 2) 学術創成研究費
研究課題「新たな膜輸送機構の分子基盤」（代表者：稲垣暢也）
研究分担者：山田勝也
配分額（なし）

（2）その他の省庁からの研究費

2006 年度

他研究単位との研究分担者として

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（CREST）
研究課題「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」（代表者：松岡英明）
分担者：山田勝也，配分額 2006 年度 0 千円

2007 年度

他研究単位との研究分担者として

独立行政法人 科学技術振興機構（CREST）
研究課題 「疾患モデル細胞の高効率創製と機能解析」
（代表者：松岡英明）
配分額（なし）

（3）学内の研究助成

2006 年度

研究代表者として

- 1) 平成 17 年度 弘前大学学長指定重点研究計画
認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出
研究代表者 6,000 千円

他研究単位との研究分担者として

北東北三大学連携推進研究プロジェクト
研究課題「低酸素・高二酸化炭素に対する生体調節機構の解明」（代表者：山本欣郎）
分担者：山田勝也，配分額 2006 年度 330 千円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

北東北三大学連携推進研究プロジェクト

研究課題「低酸素・高二酸化炭素に対する生体調節機構の解明」

(代表者：山本欣朗) 配分額 2007年度 670千円

弘前大学学長指定重点研究

研究課題「脳保護に向けたストレス応答機構のケミカルバイオロジー研究」

(代表者：伊東健) 経費 2007年度 1,000千円

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として

第25回唐牛記念医学研究基金助成金A賞

研究課題「神経活動依存的局所脳血流調節の分子基盤」

代表者：山田勝也, 配分額 2006年度 3,000千円

2007年度

研究代表者として

財団法人 光化学技術研究振興財団

研究課題「蛍光指示グルコースを用いた細胞間メタボリックコミュニケーションの解析」

(代表者：山田勝也) 経費 2007年度 2,000千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

Mark Dunn 博士 (英国) 弘前大学国際フォーラムに招聘

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3ヵ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況

2006年度

Division of Neurology, Barrow Neurological Institute (通年)

Jie Wu 博士 (木村助手)

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

2006年度

① 新聞発表

JPET 誌に掲載された脂肪酸に関する研究が 2006 年 6 月 12 日付の東奥日報誌上で紹介された。

Nature Protocols 誌に掲載された蛍光ブドウ糖に関する研究（山田）が、2007 年 3 月 30 日付
陸奥新報紙上で紹介された。

② 特許

国際特許取得

US patent No. 71748541, 取得年月日 2007/02/13

課題名「Body temperature holding device with heart rate and respiration rate detecting function for small animals and heart rate and respiration rate measuring system for small animals using the device. (小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システム)」

発明者名：佐藤紳一，山田勝也，稲垣暢也

なお同原理を実現した装置は（株）ユニークメディカル社より製品化され、現在市販されている。

2007年度

特許

「小動物用心拍・呼吸数検出機能付き体温保持装置及びそれを用いた小動物用心拍・呼吸数測定システム」

発明者名：佐藤紳一，山田勝也，稲垣暢也

特許第 4015115 号 2007.9.21 登録

新聞掲載

「蛍光ブドウ糖で細胞の活動判定」2007 年 4 月 2 日付 東奥日報

「蛍光ブドウ糖の「教科書」作る」2007 年 4 月 21 日付 朝日新聞

「脳血流の仕組み探る」2007 年 12 月 13 日付 東奥日報

「弘大「蛍光ブドウ糖」研究に期待」2008 年 3 月 6 日付 東奥日報

「最先端技術の蛍光ブドウ糖実用化を研究 / 弘大が産学連携」

2008 年 3 月 6 日付 陸奥新報

4. ゲノム生化学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度：

- 1 グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットを用いて、ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性を短期間の投与で評価できる方法を開発した。
 - 2 遺伝子多型ラットでペルオキシソーム増殖剤に対する発がん感受性が異なる機序について、核内受容体の co-activators, ヒストンのアセチル化, ペルオキシソーム酵素などが係わることを明らかにした。
 - 3 弘前ヘアレスラットの原因遺伝子として、5種類の塩基性ヘアケラチン遺伝子群の欠失を明らかにし、発毛異常の機序の解明を進めている。
 - 4 卵巣がんの増殖、転移におけるカルボニル還元酵素の役割を明らかにした。
 - 5 ラット肝自然発生腫瘍のマーカーとして、数種類の候補タンパク質を明らかにした。
- 具体的に掲げた5課題について、その目標を達成した。

理念：

- (1) スタッフ、大学院学生、その他の人々の英知と創造力を結集して、学術的に意義のある国際的評価を得られる質の高い研究を行なう。
- (2) 学内及び外国を含む学外との共同研究を積極的に行ない、教室の研究を深め、また新たな展開を図るように努める。
- (3) 教室の研究成果を社会に還元するよう努め、また、研究成果の活用を通して、社会及び地域に貢献することを目指す。
- (4) これらの研究活動を通して教室員の研究能力の向上を図り、研究者としての倫理観と良心を備えたすぐれた研究者の養成、人材の育成に努める。

これから2年間の目標：

- (1) グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットを用いて、ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性を短期間の投与で評価できる方法を開発したので、この方法のヒトへの応用を検討する。
- (2) 遺伝子多型ラットでペルオキシソーム増殖剤に対する発がん感受性が異なる機序を解明する。
- (3) 弘前ヘアレスラットに免疫系の異常があるか検討し、原因遺伝子と異常との関連を解明する。
- (4) 弘前ヘアレスラットにおける乳腺退縮の機序を解明し、原因遺伝子との関連を明らかにする。
- (5) その他の教室の研究テーマを継続し、その進展に全力で取り組む。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	土田 成紀	1 年
	助教授	専 任	山田 俊幸	1 年
	助 手	専 任	清水 武史	1 年
研究課題	1. グルタチオントランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 2. グルタチオントランスフェラーゼのがんにおける機能 3. 細胞増殖と分化, ストレス応答の制御機構 4. Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 5. 弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明 6. がん転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割 7. ETS ファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用が血球分化に及ぼす影響 8. ホメオドメインタンパク質 HOXC13 の発現制御と翻訳後修飾の解析			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	土田 成紀	1年間
	准教授	専 任	山田 俊幸	1年間
	助 教	専 任	清水 武史	1年間
研究課題	1. グルタチオントランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 2. ラット肝前がん病変のマーカーの開発 3. 弘前ヘアレスラットの原因遺伝子の解明 4. Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 5. がん転移と血管新生におけるカルボニル還元酵素の役割			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kudo T, Asano J, Shimizu T, Nanashima N, Fan Y, Akita M, Oikawa K, Hayakari M, Yokoyama Y, Suto K, Tsuchida S. Different susceptibility to peroxisome proliferator-induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase genes. *Cancer Sci* 2006;97:703-9.
- C.1. Suzuki M, Yamada T, Kihara-Negishi F, Sakurai T, Hara E, Tenen DG, Hozumi N, Oikawa T. Site-specific methylation by a complex of PU.1 and Dnmt3a/b. *Oncogene* 2006;25:2477-88.
- C.2. Nakazawa Y, Suzuki M, Manabe N, Yamada T, Kihara-Negishi F, Sakurai T, Tenen DG, Iwama A, Mochizuki M, Oikawa T. Cooperative interaction between ETS1 and GFI1 transcription factors in the repression of *Bax* gene expression. *Oncogene* 2007;26:3541-50.

2007年度

- A.1. Yamada T, Shimizu T, Suzuki M, Kihara-Negishi F, Nanashima N, Sakurai T, Fan Y, Akita M, Oikawa T, Tsuchida S. Interaction between the homeodomain protein HOXC13 and ETS family transcription factor PU.1 and its implication in the differentiation of murine erythroleukemia cells. *Exp. Cell Res.* 2008;314(4):847-58.
- A.2. Fan Y, Shimizu T, Yamada T, Nanashima N, Akita M, Asano J, Tsuchida S. Development of glutathione S-transferase-P-negative foci accompanying nuclear factor-erythroid 2-related factor 2 expression during early stage of rat hepatocarcinogenesis. *Cancer Sci.* 2008;99(3):497-501.
- B.1. Yokoyama Y, Xin B, Shigeto T, Umemoto M, Kasai-Sakamoto A, Futagami M, Tsuchida S, Al-Mulla F, Mizunuma H. Clofibrate, a peroxisome proliferator-activated receptor alpha ligand, inhibits growth of human ovarian cancer. *Mol. Cancer Ther.* 2007;6(4):1379-86.
- B.2. Igarashi M, Yoshida M, Watanabe M, Yamada T, Sakurai T, Endo Y, Miyajima N, Maekawa A, Oikawa T, Sugano S, Nakae D. Involvement of mutation-based inhibition of β -catenin phosphorylation at ser33 in the malignant progression of lung (pre)neoplastic lesions induced by *N*-nitrosobis(2-hydroxypropyl)amine in male Fischer 344 rats. *Lung* 2007;185(5):271-8.
- B.3. Sakurai T, Kondoh N, Arai M, Hamada J, Yamada T, Kihara-Negishi F, Izawa T, Ohno H, Yamamoto M, Oikawa T. Functional roles of Fli-1, a member of the Ets family of transcription factors, in human breast malignancy. *Cancer Sci* 2007;98(11):1775-84.

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 清水武史, 浅野純平, 七島直樹, 范 洋, 秋田美季, 山田俊幸, 土田成紀. ペルオキシソーム増殖剤によるグルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットでの肝二頭酵素誘導の差異に係わる要因. 第26回日本分子腫瘍マーカー研究会誌 2006;pp.34-5.

2007年度

- A.1. 清水武史, 七島直樹, 范 洋, 秋田美季, 山田俊幸, 土田成紀. Glutathione S-transferase (GST) A4-4はペルオキシソーム増殖剤 (PP) によるラット肝前がん病変の陽性マーカーとなる. 第27回日本分子腫瘍マーカー研究会誌 2007;pp.40-1.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cancer Sci	3.829	1	3.829
Total		1	3.829

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Exp Cell Res	3.777	1	3.777
Cancer Sci	3.869	2	7.738
Mol Cancer Ther	5.137	1	5.137
Lung	1	1	1
Total		5	17.652

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
な し		
計	0	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日本分子腫瘍マーカー研究会誌	1	1
計	1	1

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Yamada T, Shimizu T, Asano J, Akita M, Nanashima N, Fan Y, Oikawa T, Tsuchida S. Involvement of homeobox protein HOXC13 in differentiation of mouse erythroleukemia cells. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, June, 2006.

- C.2. Asano J, Nanashima N, Shimizu T, Hayakari M, Nakano H, Fan Y, Akita M, Yamada T, Tsuchida S. Activation of peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α by peroxisomal thiolase-mediated acetyl-CoA production and steroid receptor coactivator in rat livers. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, June, 2006.
- C.3. Nanashima N, Asano J, Akita M, Shimizu T, Yamada T, Fan Y, Tsuchida S. Nuclear localization of STAT5A modified with *O*-linked *N*-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki Hairless Rat (HHR). 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, June, 2006.
- C.4. Akita M, Nanashima N, Asano J, Fan J, Shimizu T, Sato T, Yamada T, Tsuchida S. Altered expression of basic keratin isoforms in Hirosaki hairless rat. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, June, 2006.
- C.5. Kusumi T, Tsuchida S, Nishi T, Tanaka M, Sato F, Kusumi A, Kudo H, Kijima H. Transplantable osteosarcoma cells. 97th Annual Meeting of American Association for Cancer Research, Washington, DC, April, 2006.

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 土田成紀. ラット肝発がんにおけるグルタチオントランスフェラーゼの役割. 第21回日本薬物動態学会年会 シンポジウム「Phase II 代謝酵素と薬効・毒性」2006年11月, 東京
- C. 10件

2007年度

- B.4. 清水武史, 七島直樹, 范 洋, 秋田美季, 山田俊幸, 土田成紀. Glutathione S-transferase (GST) A4-4 はペルオキシソーム増殖剤 (PP) によるラット肝前がん病変の陽性マーカーとなる, 第27回日本分子腫瘍マーカー研究会 平成19年10月2日, 東京.
- C. 11件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

七島直樹 第11回弘前大学医学部学術奨励賞 (平成18年度)
Nuclear localization of STAT5A modified with *O*-linked *N*-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki hairless rat (弘前ヘアレスラットの乳腺における *O*-グリコシド型 *N*-アセチルグルコサミンで修飾された STAT5A の核局在と早期退縮)

Ⅳ. 共同研究

2006年度

清水武史, 東北化学薬品株式会社との共同研究, ラット肝における自然発生腫瘍識別のための新規分子マーカーの開発

2007年度

清水武史, 東北化学薬品株式会社, 営業第二グループ, 第二営業部, ペルオキシソーム増殖剤の発がん性の早期検出法の開発

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2007年度

研究代表者として
土田 成紀
内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究
「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」
1,150万円

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として
土田 成紀
学長重点研究 遺伝子多型ラットを用いた化学物質発がん性の短期検出法.
240万円

山田俊幸, 第 24 回唐牛記念医学研究基金研究助成金
「白血病における ETS ファミリー転写因子とホメオドメインタンパク質の相互作用の役割」
350 万円
清水武史
平成 18 年度 学術国際振興基金助成金, 地域産業科学技術の活性化推進事業, ラット肝における自然発生
腫瘍識別のための新規分子マーカーの開発
50 万円

2007 年度

清水武史
平成 19 年度 学術国際振興基金助成金, 地域産業科学技術の活性化推進事業, ペルオキシソーム増殖剤の
発がん性の早期検索法の開発
500 千円

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

2006 年度

范 洋 (中国) 大学院学生

2007 年度

范 洋 (中国) 大学院学生

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006 年度

日本生化学会東北支部第 72 回例会・シンポジウム, 2006 年 5 月 13, 14 日, 弘前市 (ホテルニューキャッスル)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

5. 病態薬理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

（設定した目標）

1. Impact factor のついた学術雑誌に年3報以上の英文論文を発表。
2. 大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
3. 助教，技官への研究助言
4. 国際学会，全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
5. 科学研究費あるいは他省庁の研究費に1件以上採択

（到達度）

1. IF 値2以上の英文国際誌に5報を含む7報を発表したので，到達度は100%と考えられる。
2. 大学院生3名をFirst Author とする論文を3報，卒業年次内に発表したので，100%の到達度と考えられる。
3. 助教の研究助言の成果としてClinical Science (IF 値3.9) に発表できたので，到達度100%と考えられる。
4. 国際学会にて3件発表し，全国レベルの学会（日本骨代謝学会）で所属の大学院生が優秀ポスター発表賞を受賞したので，これも到達度は100%と考えられる。
5. 厚生労働省の科研費を獲得。文部科学省の科研費は残念ながら今回は獲得できなかったもので，到達度は80%。

理念：

1. 常に新しいテーマを模索すること。
2. 臨床を視野に入れた基礎研究を指向する。
3. 研究成果を教育に反映させる。
4. 共同研究を推進する。

これから2年間の目標：

1. Impact factor のついた学術雑誌に年3報以上の英文論文を発表。
2. 大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
3. 助手，技官への研究助言
4. 国際学会，全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
5. 科学研究費あるいは他省庁の研究費に1件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 4，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	元村 成	12 ヶ月
	助教授	専 任	古川 賢一	12 ヶ月
	助 手	専 任	瀬谷 和彦	12 ヶ月
	助 手	専 任	木村 正臣	12 ヶ月
研究課題	1. 房室結節伝導の生理薬理 2. カルシウム拮抗薬の薬理 3. 抗不整脈薬の薬理 4. 後縦靭帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム 5. 血管平滑筋細胞の Ca^{2+} シグナリング 6. 天然生理活性物質の薬理作用の解析 7. 心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明 8. 心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索 9. 重症心不全に合併した上室頻拍に対するアミオダロンの効果 10. 左房起源心房頻拍および心房粗動の発生機序と興奮様式			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	元村 成	12 ヶ月
	准教授	専 任	古川 賢一	12 ヶ月
	助 教	専 任	瀬谷 和彦	12 ヶ月
	助 教	専 任	木村 正臣	12 ヶ月
研究課題	1. 後縦靭帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム 2. 血管平滑筋細胞の Ca^{2+} シグナリング 3. 房室結節伝導の生理薬理 4. 不整脈発症に関連する遺伝子発現変異と治療薬の作用点の解析 5. カルシウム拮抗薬の薬理 6. 冠循環の生理薬理 7. 天然生理活性物質の薬理作用の解析 8. 心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明 9. 心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索 10. 異所性骨化のメカニズム解析			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Ashikaga K, Kobayashi T, Kimura M, Owada S, Sasaki S, Iwasa A, Furukawa K-I, Motomura S, Okumura K. Effects of amiodarone on electrical and structural remodeling induced in a canine rapid pacing-induced persistent atrial fibrillation model. *European J Pharmacology* 2006;536:148-153.
- A.2. Iwasawa T, Iwasaki K, Okada A, Ueyama K, Motomura S, Harata S, Inoue I, Toh S, Furukawa K-I. Pathophysiological role of endothelin in ectopic ossification of human spinal ligaments induced by mechanical stress. *Calcified Tissue International* 2006;79:422-430.
- A.3. Tsukahara S, Ikeda R, Goto Shin, Yoshida K, Mitsumori R, Tajima A, Yokoyama T, Toh S, Furukawa K-I, Inoue I. Tumor necrosis factor- α stimulated gene-6 inhibits osteoblastic differentiation of human mesenchymal stem cells induced by OS and BMP-2. *Biochemical Journal* 2006;398:595-603.
- A.4. Seya S, Motomura S, Furukawa K-I. Cardiac mitochondrial cGMP stimulates cytochrome c release. *Clinical Science* 2007;112:113-121.

2007年度

- A.1. Daitoku K, Seya K, Furukawa K-I, Motomura S. Assessment of the Effects of L- and N-Type Ca^{2+} Channel Blocking Drugs Using Canine Blood-Perfused Papillary Muscle Preparations. *Tohoku J. Exp. Med.* 2007;212:415-422.
- A.2. Abe K, Kushibiki T, Matsue H, Furukawa K-I, Motomura S. Generation of Antitumor Active Neutral Medium-Sized α -Glycan in Apple Vinegar Fermentation. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 2007;71:2124-2129.
- A.3. Seya S, Motomura S and Furukawa K-I. Cardiac mitochondrial cGMP stimulates cytochrome c release. *Clinical Science* 2007;112:113-121.
- A.4. Sawada T, Kishiya M, Kanemaru K, Seya K, Yokoyama T, Ueyama K, Motomura S, Toh S, Furukawa K-I. Possible role of extracellular nucleotides in ectopic ossification of human spinal ligaments. *Journal of Pharmacological Sciences*, 2008;106:152-161.
- A.5. Kageyama K, Hanada K, Nigawara T, Furukawa K-I, Terui K, Ogura E, Motomura S, Suda T. Inhibitory effects of glucocorticoids on urocortin-mediated increases in interleukin-6 gene expression in rat aortic smooth muscle cells. *Peptides* 2007;28:1059-1067.
- A.6. Kanemaru K, Seya K, Miki I, Motomura S, Furukawa K-I. Calcification of Aortic Smooth Muscle Cells Isolated from Spontaneously Hypertensive Rats. *J Pharmacol Sci* 2008;106:280-286.
- A.7. Kishiya M, Sawada T, Kanemaru K, Kudo H, Numazawa T, Yokoyama T, Tanaka S, Motomura S, Ueyama K, Harata S, Toh S, Furukawa K-I. A Functional RNAi Screen for Runx2-Regulated Genes Associated with Ectopic Bone Formation in Human Spinal Ligaments. *J Pharmacol Sci* 2008;106:404-414.
- A.8. Yokoyama J, Higuma T, Tomita H, Abe N, Oikawa K, Fujiwara T, Yokota T, Yokoyama H, Kimura M, Sasaki S, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Impact of telmisartan on coronary stenting in patients with acute myocardial infarction compared with enalapril. *International Journal of Cardiology* 2008 Jan 9.

和文 なし

(2) 総説

英文

2006年度

- A.1. Furukawa K-I, Shinoda H. Current topics in pharmacological research on bone metabolism. Journal of Pharmacological Science 2006;100:187.
A.2. Furukawa K-I. Molecular Basis of Ectopic Bone Formation Induced by Mechanical Stress. Journal of Pharmacological Science 2006;100:201-204.

和文

2006年度

- A.1. 古川賢一. 脊柱靱帯骨化症の薬物治療法開発を目指して難病と在宅ケア 12(3):11-14,2006.

2007年度

- A.1. 木村正臣, 奥村 謙. 不整脈のアブレーション治療／心房頻拍・非定型的心房粗動アブレーション, CARDIAC PRACTICE 2008;19(2):153-161
A.2. 木村正臣. QRS 幅の狭い頻拍, モニター心電図 Q&A, ナーシングケア Q&A. 2008;22:113-114
A.3. 木村正臣. QRS 幅の広い頻拍, モニター心電図 Q&A, ナーシングケア Q&A. 2008;22:115-117
A.4. 木村正臣, 奥村 謙. ジギタリス薬, 循環器薬の使い方, 診断と治療. 2007;95(10):1739-1743

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 木村正臣, 奥村 謙. 抗不整脈薬(Ⅲ群薬), 山口 轍(監修), 刈尾一臣, 筒井裕之(編集), 心血管病薬物マニュアル 235-239, 株式会社中山書店(東京都) 2008 年
A.2. 木村正臣. 用語解説. 奥村 謙(編集), ペースメーカ・ICD・CRT ブック, 株式会社メジカルビュー社(東京都), 2008 年

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
European Journal of Pharmacology	2.477	1	2.477
Calcified Tissue International	2.487	1	2.487
Biochemical Journal	4.224	1	4.224
Clinical Science	2.641	1	2.641
Journal of Pharmacological Science	1.792	2	3.584
Total		6	15.413

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clinical Science	3.9	1	3.9
International Journal of Cardiology	2.878	1	2.878
Journal of Pharmacological Sciences	2.408	3	7.224
Peptides	2.368	1	2.368
Bioscience, Biotechnology and Biochemistry	1.247	1	1.247
Tohoku Journal of Experimental Medicine	1.133	1	1.133
Total		8	18.75

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
CARDIAC PRACTICE ナースングケア Q&A 診断と治療		1 2 1
計	0	4

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	2

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Sawada T, Furukawa K-I, Kishiya M, Motomura S, Toh S. The effects of extracellular nucleotide to cultured human fibroblast like cell from cervical ligamentum flavum. 52nd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, Chicago, IL, USA, 2006

2007年度

- C.1. Kishiya M, Sawada T, Kanemaru K, Numasawa T, Yokoyama T, Motomura S, Toh S, Furukawa K-I. A functional RNAi screening for Runx2-regulated genes corresponding to ectopic bone formation in human spinal ligaments. Bone Research Society Annual Meeting, Aberdeen, UK, 2007
- C.2. Kishiya M, Sawada T, Kanemaru K, Numasawa T, Yokoyama T, Motomura S, Toh S, Furukawa K-I. Gene profiling using oligo DNA microarray -Runx2 inhibition by RNA interference in fibroblast like cell derived Paraspinal ligament. 53rd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Diego, CA, USA, 2007
- C.3. Numasawa T, Kishiya M, Sawada T, Yokoyama T, Ono A, Wada K, Furukawa K-I, Toh S. Osteogenic differentiation of skin-derived precursor cells and spinal ligament cells in the patients with ossification of the longitudinal ligaments of the spine. 53rd Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Diego, CA, USA, 2007
- C.4. Kimura M, Owada S, Sasaki K, Horiuchi D, Sasaki S, Iwasa A, Okumura K. Oral Amiodarone is highly effective and safe in patients with acutely decompensated congestive heart failure and with refractory supraventricular tachyarrhythmias. The 3rd Asia Pacific Atrial Fibrillation Symposium, Taipei, Taiwan, 2007

(2) 全国学術集会

2006年度

- C. 10 件

2007年度

- C. 日本薬理学会 5 件
日本薬学会 1 件
日本骨代謝学会 1 件
計 7 件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

日本骨代謝学会ポスター発表賞（筆頭著者 岸谷正樹：病態薬理学講座大学院生 責任著者 古川賢一）

IV. 共同研究

2007年度

1. 東北大学大学院薬学研究科（大島吉輝教授），名城大学薬学部（丹羽正武教授）：ブドウ科植物に含まれる機能性成分の薬理作用の解明
2. 弘前大学教育学部（北原晴男教授）：ニンニクに含まれる心臓保護作用を持つ成分の探索

V. 研究助成

（1）文部科学省科学研究費

なし

（2）その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究“脊柱靱帯骨化症” 分担者 古川賢一 100万円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究“脊柱靱帯骨化症” 分担者 古川賢一 100万円

（3）学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

学長指定重点研究“循環器疾患の予後を左右する石灰化の病院解明とその薬物治療の標的探索”

代表者：元村 成 250万円

他研究単位との研究分担者として

学長指定重点研究“循環器疾患の予後を左右する石灰化の病院解明とその薬物治療の標的探索”

分担者：古川賢一 250万円

（4）民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

第57回日本薬理学会北部会 事務局長

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

6. 分子病態病理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

いくつかの研究成果を国際的な雑誌に掲載することができた。Impact factor については，さらに高い点の雑誌を目標としたが，やや低いものに留まった。

その他，和文，英文いくつかも掲載発表でき，ほぼ満足できた。

消化管の悪性腫瘍や乳癌などの悪性腫瘍における分子病理学的なアプローチの手法をほぼ完成させ，日常臨床において最新の診断および治療の情報を提供することが可能となった。

糖尿病における膵β細胞脱落機構の解明をメインテーマとして研究してきた。科学研究費などの研究費の獲得，研究の進行，国内学会での発表については，一定の目標を達成していると考ええる。また，現時点（2008/9）では2本の筆頭論文が accept され，一定の目標は達成されていると考ええる。

症例の集積を行えたが，それらの解析と展開は不十分であった。

理念：

基礎研究では疾病の病態の解明や治療に影響を与えるような研究成果を得るように努める。

人体病理では，臨床病理学的な研究を並行させ，新しい知見を蓄積する。

悪性腫瘍の分子病態を明らかにし，悪性腫瘍の成り立ちについて理解を深め，新しい治療法の開発，そして治療法に直結する病理診断を確立する。

日常診療，教育に時間がさかれ，研究に使える時間は少ない。

そのなかで，効率よく研究し，臨床に還元できる仕事をめざす。

個々の臨床症例を大切に研究と，独自性のある研究を行って行きたい。

これから2年間の目標：

基礎的な研究では継続的に英文論文を国際誌に1～2報目指す。

人体病理に関しては，学会発表とともに症例報告，臨床研究を数編報告する。

現在臨床応用されている分子標的治療薬について確実に再現性良く診断可能となった現在，次の目標は新規治療標的創出のための，悪性腫瘍の分子病態の解明である。

悪性腫瘍の分子病態には，細胞分化と細胞増殖のおきな二つの病態があり，特に細胞機能と増殖の二つの特徴を有する神経内分泌細胞腫瘍に注目して，分化と増殖にかかわる分子病態を明らかにする。

現在遂行中のプロジェクトを確実に終了し，英文での論文発表を行う。

研究費の獲得，国際学会での発表を行う。

集積した虫垂粘液腫瘍および深在性真菌症症例の解析を行い，展開して行きたい。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 2, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	八木橋操六	2006年4月～2007年3月
	助教授	専 任	和田 龍一	2006年4月～2007年3月
	助 手	専 任	水上 浩哉	2006年4月～2007年3月
	助 手	専 任	矢島 信久	2006年4月～2007年3月
研究課題	1. 糖尿病とその合併症の病理学的研究 2. 腫瘍分子病態病理の解明 3. 腫瘍組織における分子発現と診断応用 4. 膵疾患の病理学的研究 5. 虚血・再灌流障害の成因と治療に関する研究 6. 血管内皮細胞の病態病理 7. 虫垂粘液性腫瘍の臨床病理学的研究 8. 深在性真菌症の診断に関する研究			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	八木橋操六	2007年4月～2008年3月
	准教授	専 任	和田 龍一	2007年4月～2008年3月
	助 教	専 任	水上 浩哉	2007年4月～2008年3月
	助 教	専 任	矢島 信久	2007年4月～2008年3月
研究課題	1. 糖尿病とその合併症の病理学的研究 2. 膵疾患の病理学的研究（慢性膵炎、膵腫瘍） 3. 消化器，頭頸部癌の臨床病理学研究 4. 内分泌腫瘍の病理学的研究 5. 腫瘍組織における分子の発現と診断応用 6. 腫瘍の分子レベルでの分子病態病理の解明 7. 血管内皮細胞の病態病理 8. 深在性真菌症の診断に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Mizukami H, Yajima N, Wada R, Matsumoto K, Kojima M, Kloppel G, Yagihashi S. Pancreatic malignant fibrous histiocytoma, inflammatory myofibroblastic tumor, and inflammatory pseudotumor related to autoimmune pancreatitis: characterization and differential diagnosis. Virchows Archiv 2006;448:552-560.
- A.2. Shikama Y, Mizukami H, Sakai T, Yagihashi N, Okamoto K, Yagihashi S. Spindle cell metaplasia arising in thyroid adenoma: characterization of its pathology and differential diagnosis. J Endocrinol Invest 2006;29:168-71,2006.
- A.3. Baba M, Nukada H, McMorran D, Takahashi K, Wada R, Yagihashi S. Prolonged ischemic conduction failure after reperfusion in diabetic nerve. Muscle Nerve 2006;3:350-5.
- A.4. Baba M, Kimura K, Suda T, Yagihashi S; Aomori Diabetic Study (ADNS) Group. Three-year inhibition of aldose reductase on development of symptomatic neuropathy in diabetic patients. J Peripher Nerv Syst 2006;11:176-178.
- A.5. Sugai M, Kimura N, Umehara M, Munakata H, Yajima N, Yagihashi S, Kloppel G. A case of pancreatoblastoma prenatally diagnosed as intraperitoneal cyst. Pediatr Surg Int 2006;22:845-847.
- A.6. Kudo T, Wu J, Ogawa Y, Suga S, Hasegawa N, Suda T, Mizukami H, Yagihashi S, Wakui M. Novel mechanism of chronic exposure of oleic acid-induced insulin release impairment in rat pancreatic beta-cells. J Pharmacol Exp Ther 2006;318:1203-10.
- A.7. Ho EC, Lam KS, Chen YS, Yip JC, Arvindakshan M, Yamagishi S, Yagihashi S, Oates PJ, Ellery CA, Chung SS, Chung SK. Aldose reductase-deficient mice are protected from delayed motor nerve conduction velocity, increased c-Jun NH2-terminal kinase activation, depletion of reduced glutathione, increased superoxide accumulation, and DNA damage. Diabetes 2006;55:1946-1953.
- B.1. Hashimoto A, Mizukami H, Yamashita T. Ganglioside GM3 promotes cell migration by regulating MAPK and c-Fos/AP-1. Oncogene. 2006;25:3948-55.

2007年度

- A.1. Wada R, Nakano N, Yajima N, Yoneyama T, Wakasaya Y, Murakami C, Yamato K, Yagihashi S. Granulomatous prostatitis due to *Cryptococcus neoformans*: diagnostic usefulness of special stains and molecular analysis of 18S rDNA. *Prostate Cancer Prostatic Dis.* 2008;11(2):203-6.
- A.2. Yamagishi S, Ogasawara S, Mizukami H, Yajima N, Wada R, Sugawara A, Yagihashi S. Correction of protein kinase C activity and macrophage migration in peripheral nerve by pioglitazone, peroxisome proliferator activated-gamma-ligand, in insulin-deficient diabetic rats. *J Neurochem.* 2008;104(2):491-9.
- A.3. Takeda I, Maruya S, Shirasaki T, Mizukami H, Takahata T, Myers JN, Kakehata S, Yagihashi S, Shinkawa H. Simvastatin inactivates beta1-integrin and extracellular signal-related kinase signaling and inhibits cell proliferation in head and neck squamous cell carcinoma cells. *Cancer Sci.* 2007;98(6):890-9.
- B.1. Imaizumi T, Yagihashi N, Kubota K, Yoshida H, Sakaki H, Yagihashi S, Kimura H, Satoh K. Expression of retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) in macrophages: possible involvement of RIG-I in atherosclerosis. *J Atheroscler Thromb* 2007;14:51-55.
- B.2. Takeda I, Maruya S, Shirasaki T, Mizukami H, Takahata T, Myers JN, Kakehata S, Yagihashi S, Shinkawa H. Simvastatin inactivates beta1-integrin and extracellular signal-related kinase signaling and inhibits cell proliferation in head and neck squamous cell carcinoma cells. *Cancer Sci.* 2007;98:890-9.

和文

2006年度

- A.1. 工藤和洋, 和田龍一, 板橋智映子, 八木橋操六: 陰囊平滑筋肉腫の1例. *診断病理* 2006;23:242-245.
- A.2. 辻井麻里, 和田龍一, 中田ゆかり, 小林正和, 山崎彩子, 成田純子, 八木橋操六: 検査じょうほう室. 病理組織標本におけるグラム染色法の特徴. 菌体の染色と形態観察におけるテイラー法の有用性. *検査と技術* 2006;34:1435-1438.
- A.3. 四釜育与, 八木橋信夫, 板橋智映子, 和田龍一, 八木橋操六: 乳腺 matrix-producing carcinoma の1例 術前組織型推定のための特徴的画像所見と細胞診所見について. *乳癌の臨床* 2006;21:293-296.
- A.4. 長沼孝雄, 中村洋子, 大高昌子, 成田純子, 矢嶋信久, 八木橋操六, 鎌田義正, 松本一仁: 乳腺紡錘細胞癌の1例. *日本臨床細胞学会青森県支部報* 2006;23:25-29
- B.1. 鈴木千恵子, 木村珠喜, 新井 陽, 前田哲也, 富山誠彦, 神成一哉, 馬場正之, 板橋智映子, 和田龍一: 化学療法のみで治癒した多発性ノカルジア脳膿瘍の1例. *脳と神経* 2006;58:505-508.
- B.2. 斎藤千世子, 檜山美佐江, 長澤茂行, 横山慶一, 貝森光大, 真里谷靖, 今井 督, 矢嶋信久, 和田龍一: 肺癌と胸腺腫の同時性多発性腫瘍の2例. *日本臨床細胞学会青森県支部報* 2006;23:47-51.
- B.3. 井上智夫, 西村真実, 林 央周, 沼上佳寛, 緑川 宏, 嶋村則人, 矢嶋信久, 西嶋美知春. 短期間に増大する頭部皮下腫瘍を契機に診断された hemangiopericytoma の1手術例. *Neurological Surgery* 2007;35:275-80.

2007年度

- A.1. 小笠原早織, 山岸晋一郎, 水上浩哉, 岡本花織, 菅原亜希子, 八木橋操六. 実験的糖尿病ラットの末梢神経障害における PKC 活性変化とメチル型ビタミン B12 の効果. *Diabetes Frontier* 2007;18:436-437.
- B.1. 額田 均, McMorran D, 馬場正之, 和田龍一, 八木橋操六. ラット末梢神経の虚血・再灌流障害に対する FK506 (タクロリムス) の効果. *末梢神経* 2007;18:259-262.
- B.2. 貝森光大, 矢嶋信久, 山岸晋一郎, 八木橋操六, 真里谷靖, 横山慶一, 永澤茂行, 赤坂治枝, 三上泰徳, 西田 淳, 間瀬 豊. 過去十年間の青森県立中央病院における切除腫瘍の臨床病理学的検討 (第四報) solid pseudopapillary tumor の二例. *青森県立中央病院医誌* 2007;52:99-105.
- B.3. 貝森光大, 矢嶋信久, 山岸晋一郎, 八木橋操六, 真里谷靖, 永澤茂行, 沼尾 宏, 田辺和彦, 石田 均, 西田 淳, 赤坂治枝, 久留島徹大, 三上泰徳. 過去十年間の青森県立中央病院における切除腫瘍の臨床病理学的検討 (第五報) 膵管内乳頭粘液性腫瘍の六例. *青森県立中央病院医誌* 2007;52:106-114.
- B.4. 真里谷靖, 貝森光大, 矢嶋信久, 八木橋操六, 桧山美佐江, 瀬川 恵, 三上泰徳, 畑山一郎, 三上稔之, 石川和子, 黒滝日出一. 過去十年間の青森県立中央病院における切除腫瘍の臨床病理学的検討 (第六報) β -catenin 遺伝子点突然変異を認めた solid pseudopapillary tumor の一例. *青森県立中央病院医誌* 2007;52:115-118.
- B.5. 佐藤 譲, 馬場正之, 八木橋操六, 須田俊宏, 富永真琴, 大門 真, 渡辺 毅, 岡 良知, 豊田隆謙. 糖尿病神経障害の発症頻度と臨床診断におけるアキレス腱反射の意義. —東北地方 15,000 人の実態調査—. *糖尿病* 2007;50:799-806.
- B.6. 加藤 健, 渡辺 毅, 馬場正之, 八木橋操六, 豊田隆謙. 東北糖尿病合併症フォーラムプロジェクト会. 糖尿病神経障害患者に対するエパルレスタットの治療効果. 東北地方 1000 人の VAS を用いたアンケート調査を中心に. *新薬と臨床* 2007;56:880-889.
- B.7. 矢口順子, 矢嶋信久. 原因不明の貧血症の1例. *健生病院医報* 2008;31:36-38.
- B.8. 真里谷靖, 貝森光大, 矢嶋信久, 瀬川 恵, 手代森隆一, 桧山美佐江, 斎藤千世子, 森田隆幸. 過去十年間の青森県立中央病院における切除腫瘍の臨床病理学的検討 (第八報) 浸潤性膵管癌で同定された K-ras 遺伝子変異. *青森県立中央病院医誌* 2008;52:180-185.

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Yagihashi S, Yamagishi S, Wada R. Implication of proinflammatory reactions in pathogenesis of microvascular complications in diabetes. *Hiroaki Med J* 2007;59(Suppl):S101-108.

- A.2. Yagihashi S, Yamagishi S, Wada R. Pathology and pathogenetic mechanisms of diabetic neuropathy: correlation with clinical signs and symptoms. *Diabetes Res Clin Pract* 2007;77(Suppl 1):S184-189.

和文

2006年度

- A.1. 八木橋操六, 山岸晋一郎, 和田龍一. 糖尿病性神経障害の発症にかかわるポリオール代謝亢進の分子機構. *臨床薬理の進歩* 2006;26:54-61.
A.2. 八木橋操六, 和田龍一, 水上浩哉, 矢嶋信久. 2型糖尿病の膵病理. *病理と臨床* 24:698-706, 2006
A.3. 八木橋操六. 糖尿病性神経障害の病態生理. *Current Therapy* 2006;24:956-961.
A.4. 八木橋操六. 糖尿病性ポリニューロパシー. *総合臨床* 2006;55:2191-2196.
A.5. 八木橋操六. 糖尿病性神経障害—展望—忘れたた合併症から注目すべき病態へ. *肥満と糖尿病* 2006;5:847-852.
A.6. 和田龍一, 八木橋操六. 糖尿病の病理. 神経障害. *病理と臨床* 2006;24:734-739.
A.7. 杉本一博, 八木橋操六. C-ペプチド：抗糖尿病性神経障害, 腎症薬? ホルモンと臨床 2006;54:1159-1163.
A.8. 和田龍一, 板橋智映子, 矢嶋信久. 乳癌の診断 3) 病理診断の進歩. *臨床腫瘍プラクティス* 2006;2:148-151.

2007年度

- A.1. 八木橋操六. ポリオール代謝ルネサンス. ポリオール代謝の新しい展開と臨床応用に向けて. *糖尿病合併症* 2007;21:25-32.
A.2. 八木橋操六, 杉本一博. 末梢神経疾患の治療. 糖尿病性多発神経障害 (ポリニューロパシー). *Clinical Neuroscience* 2007;25:817-820.
A.3. 八木橋操六. 糖尿病合併症研究の進歩. 糖尿病性神経障害の早期診断と治療の進歩. 境界型糖尿病での神経障害の実態と治療指針. *医学のあゆみ* 2007;22:1201-1206.
A.4. 八木橋操六. 糖尿病性神経障害におけるミトコンドリアの役割. *Diabetes Frontier* 2007;18:57-61.
A.5. 八木橋操六. 糖尿病性神経障害の自覚症状をどう捉えるか. *プラクティス* 2007;24:17-20.
A.6. 八木橋操六. COMPLICATION II 神経障害 神経障害の臨床から アキレス反射が出ないということは? *プラクティス* 2007;24:143-145.
A.7. 八木橋操六. 神経障害 IGT 神経障害 (Prediabetic neuropathy) の意味するもの. *プラクティス* 2007;24:276-278.
A.8. 八木橋操六. 合併症の診療のポイント 糖尿病性神経障害 簡便な神経障害の診かた. *Medical Practice* 2007;24:65-69.
A.9. 和田龍一, 八木橋操六. 糖尿病モデル動物 神経障害. *Diabetes Frontier* 2007;18:391-398.
B.1. 杉本一博, 八木橋操六, 須田俊宏, 保嶋 実. 糖尿病性神経障害の病態と対策 2型糖尿病性神経障害と心血管危険因子. *糖尿病合併症* 2007;21:116-119.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 八木橋操六. 糖尿病合併症 糖尿病性神経障害. *日本臨床, 内分泌症候群* (第2版) 2006;155-160.
A.2. 八木橋操六. 糖尿病末梢神経障害進展の病理学的解釈 糖尿病性細小血管症. 羽田勝計, 荒木栄一編, 文光堂, 東京, 2006;174-180.

2007年度

- A.1. 八木橋操六. 第22章 糖尿病. ルービン病理学—臨床医学への基盤—. 鈴木利光, 中村栄男, 深山光久, 山川光徳, 吉野正監訳, p1010-1018, 西村書店, 東京, 2007
A.2. 八木橋操六. 第6章 糖尿病合併症の病理. 糖尿病学. 基礎と臨床. 門脇 孝, 石橋 俊, 佐倉 宏, 戸部一之, 野田光彦編, p1110-1116, 西村書店, 東京, 2007
A.3. 八木橋操六. 第50章 糖尿病神経障害の病因, ジョスリン糖尿病学 (第2版), 金沢康德, 春日雅人, 柏木厚典, 門脇 孝, 河盛隆造, 田嶋尚子監訳, p935-949, メディカルサイエンス・インターナショナル, 東京, 2007
A.4. 八木橋操六. 第14章 糖尿病の病理学. 最新糖尿病学—基礎と臨床—. 垂井清一郎, 門脇 孝, 花房俊昭編集, p244-253, 朝倉書店, 東京, 2006
A.5. 杉本一博, 八木橋操六. 糖尿病神経障害. 自律神経障害. 糖尿病. 最新の治療 2007-2009. 河盛隆造, 岩本安彦編集, 190-192 ページ, 南江堂, 東京, 2007

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Virchows Archiv	2.224	1	2.224
J Endocrinol Invest	1.496	1	1.496
Muscle Nerve	2.458	1	2.458
J Peripher Nerv Syst	1.698	1	1.698
Pediatr Surg Int	0.548	1	0.548
J Pharmacol Exp Ther	4.098	1	4.098
Diabetes	8.028	1	8.028
Oncogene	6.872	1	6.872
Total		8	27.422

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Prostate Cancer Prostatic Dis	2.024	1	2.024
J Neurochem.	4.451	1	4.451
Cancer Sci	3.165	1	3.165
Hirosaki Med J	0	1	0
Diabetes Res Clin Pract	1.823	1	1.823
J Atheroscler Thromb	2.835	1	2.835
Cancer Sci	3.165	1	3.165
Total		7	17.463

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
診断病理	1	
検査と技術	1	
Current Therapy	1	
総合臨床	1	
肥満と糖尿病	1	
病理と臨床	1	
ホルモンと臨床	1	
臨床腫瘍プラクティス	1	
Diabetes Frontier		3
末梢神経 18		1
青森県立中央病院医誌		4
糖尿病		1
新薬と臨床 56		1
健生病院医報		1
糖尿病合併症		2
Clinical Neuroscience		1
医学のあゆみ		1
プラクティス		3
Medical Practice		1
計	8	19

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	2	5
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし和文 (論文数) なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- B.1. Yagihashi S, Yamagishi S, Mizukami H, Ogasawara S, Sugawara A. Implication of proinflammatory processes in pathogenesis of microvascular complications of diabetes and the effect of proliferator-activated receptor (PPAR)- γ ligand. Symposium IV. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, November 20-22, 2006
- B.2. Yagihashi S. New Concept of Polyol Pathway and its Implication in the Pathogenesis of Diabetic Neuropathy. 7th International Symposium on Diabetic Neuropathy, Symposium Lecture, Emerging Treatment of Diabetic Neuropathy, Cape Town, November 29-December 2, 2006
- B.3. Yagihashi S, Ogasawara S, Sugawara A, Okamoto K, Yamagishi S, Mizukami H. Homocysteine and experimental diabetic neuropathy: Effects of methylcobalamin. 7th International Symposium on Diabetic Neuropathy, Cape Town, November 29-December 2, 2006

2007 年度

- A.1. Yagihashi S. Lecture. Diabetic Neuropathies: Popular but forgotten complications. The Croucher Foundation Congress, Advanced Study Institute on Recent Advances in Diabetes and its Complications. Hong-Kong, China, September 3-7, 2007
- C.1. Yamagishi SI, Ogasawara S, Sugawara A, Chung S, Chung SK, Yagihashi S. Glycemic control is crucial for the treatment with aldose reductase inhibitors (ARI): Lessons from diabetic AR-deficient mice. Diabetic Complications 2007, Role of Aldose Reductase and Related Pathways, in Kona, Hawaii, March 24-28, 2007
- C.2. Yagihashi S, Yamagishi S, Ogasawara S, Sugawara A, Chung S, Chung SK. Escape phenomenon from polyol pathway to other metabolic cascades may operate in unprotected nerve conduction delay in severely hyperglycemic AR-deficient mice. 17th Neurodiab Meeting, Utrecht, Netherlands, September 14-16, 2007

(2) 全国学術集会

2006 年度

- A.1. 八木橋操六. 会長講演 ポリオール代謝の新しい展開と臨床応用に向けてーポリオール代謝ルネッサンスー. 第 21 回 日本糖尿病合併症学会, 弘前市, 2006 年 10 月 6-7 日
- B.1. 八木橋操六. 糖尿病性神経障害の国際的戦略はいま. 第 49 回日本糖尿病学会, 東京, 2006 年 5 月 25-27 日
- C. 22 件

2007 年度

- B.1. 八木橋操六. 糖尿病性神経障害の克服に向けて. 糖尿病神経障害の成因と診断, 第 42 回 糖尿病学の進歩 シンポジウム. 高松市, 2007 年 2 月 15 日
- B.2. 八木橋操六. 糖尿病多発神経障害の臨床病期分類の疫学調査についての現状と展望. 第 14 回糖尿病性神経障害を考える会, 東京, 2007 年 8 月 30-31 日
- B.3. 八木橋操六. メイラード反応と糖尿病神経障害. 第 17 回日本メイラード学会, シンポジウム. メイラード反応と糖尿病合併症. 神戸市, 2007 年 12 月 1 日
- C. 14 件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006 年度

- 1. 八木橋操六: Professor Sookja Chung and Stephen Chung, Department of Anatomy and Physiology, University of Hong-Kong
- 2. 水上浩哉, 八木橋操六: 脂肪負荷 GK ラット膵島に対するピタバスタチンの効果について (興和創薬)

2007 年度

- 1. 国際共同研究: Professor Chung SS, and Chung SK: Role of polyol pathway in ischemic and reperfusion injury
- 2. National Institute of Health, 膵 β 細胞 SIP1 の膵島移植における役割について, Dr. Richard Proia
- 3. 北海道大学・大学院先端生命科学研究所附属次世代ポストゲノム研究センター, 新規 2 型糖尿病動物モデル膵 β 細胞グルコシルトランスフェラーゼ欠損マウスの解, 山下 匡

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

八木橋操六：文科省科学研究費補助金（萌芽） 全身性炎症反応症候群（SIRS）におけるポリオール代謝の役割の解明と新規治療法の開発，研究費 180 万円

水上浩哉：若手（B），2 型糖尿病でみられる膵 β 細胞脱落への低酸素の関与とその制御，130 万円

2007年度

研究代表者として

八木橋操六：萌芽研究，全身性炎症反応症候群（SIRS）におけるポリオール代謝の役割の解明と新規治療法の開発，研究費 170 万円

和田龍一：基盤研究，内皮細胞活性化因子 S1P を標的とした糖尿病合併症の実験的分子標的治療

水上浩哉：若手研究（B），新規 2 型糖尿病動物モデル膵 β 細胞グルコシルトランスフェラーゼ欠損マウスの解析，1,700,000 円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

八木橋操六：厚生労働省科学研究費 難治性ニューロパチーの新規治療法の開発班（分担研究）糖尿病性神経障害の成因と治療に関する研究，研究費 80 万円

2007年度

研究分担者として

厚生労働省科学研究費 難治性ニューロパチーの新規治療法の開発，糖尿病性神経障害の成因と治療に関する研究，研究費 80 万円

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

第 23 回唐牛記念医学研究基金助成金（B），水上浩哉，2 型糖尿病での膵島線維化に対する膵星細胞の関与，100 万円

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2006年度

Professor Aaron Vinik, East Virginia University, USA 5 月 27-29 日

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006年度

第21回日本糖尿病合併症学会主催，弘前市，10月6,7日

2007年度

第18回日本末梢神経学会学術集会総会，弘前市 8月23,24日

b) 地方レベルの学会の主催

2007年度

第21回北日本病理研究会，弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

7. 病理生命科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

2004年8月に鬼島教授が採用となり，この3年余は，病理診断システムおよび学部教育・大学院教育の整備・再構築に重点が置かれた。研究面でも，ゼロからの立ち上げの時期となり，最近ようやく成果が出始めた時期といえる。当講座からの論文も徐々に始めている。これら，講座再立ち上げの時期であることに鑑み，総合して判断すると，この2年間の達成度は，80％といえる。

理念：

- A. 遺伝子発現の特異的制御を用いた病態解析学と，医療としての病理診断学とを融合する。
- B. 将来の臨床応用を見据えた基礎的探索・研究，たとえば遺伝子治療の基礎的研究を行う。

これから2年間の目標：

2004年8月に鬼島教授が着任し，これまでの3年間余は，研究面では講座再立ち上げの苦しい時期といえた。今後，特にこの2年間は，研究面を一層充実する時期と位置づけられる。科学研究費をはじめとする，研究費獲得にも力を入れたい。具体的な研究内容としては，(1) 腫瘍の発育・進展の解明，(2) 腫瘍の増殖抑制と転移制御，(3) 機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御および細胞機能特性の解明，(4) 病的状態における生物時計（概日リズム）の重要性の解明を遂行する。講座所属の教員・大学院生のみならず，講座を越え大学全体を共同研究の視野に入れながら，幅広い研究を行いたい。また，研究結果は，着実に英文論文として，実績を重ねて行く。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 2，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	鬼島 宏	12 ヶ月
	講 師	専 任	楠美 智巳	12 ヶ月
	助 手	専 任	佐藤 冬樹	12 ヶ月
研究課題	1. ヒト腫瘍の病理形態学的検討 2. 消化器疾患の病理形態学的検討 3. ヒト腫瘍の増殖・分化に関わる因子の解明 4. ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御 5. 機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御と細胞機能特性の解明 6. 泌尿器科疾患の病理形態学的検討 7. 骨・軟部疾患の病理形態学的検討 8. 骨・軟骨形成のメカニズムの解明 9. 癌細胞増殖に関わる時間遺伝子 DEC の機能 10. 時間遺伝子の概日リズムにおける制御機構の解明			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 3，研究生(含：講座外大学院生) 5			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	鬼島 宏	12 ヶ月
	講 師	専 任	楠美 智巳	12 ヶ月
	助 教	専 任	佐藤 冬樹	12 ヶ月
研究課題	1. ヒト腫瘍の病理形態学的検討 2. 消化器疾患の病理形態学的検討 3. ヒト腫瘍の増殖・分化に関わる因子の解明 4. ヒト腫瘍の増殖抑制と転移制御 5. 機能性核酸を用いた遺伝子発現の特異的制御と細胞機能特性の解明 6. 泌尿器科疾患の病理形態学的検討 7. 骨・軟部疾患の病理形態学的検討 8. 骨・軟骨形成のメカニズムの解明 9. 癌細胞増殖に関わる時間遺伝子 DEC の機能 10. 時間遺伝子の概日リズムにおける制御機構の解明			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kondo J, Sato F, Fujimoto K, Kusumi T, Imanaka T, Kawamoto T, Uk B, Noshiro M, Kato Y, Sato T, Kijima H. ⁵⁷Arg in the bHLH transcription factor DEC2 is essential for the suppression of CLOCK/BMAL2-mediated transactivation. **Int J Mol Med**. 2006;17:1053-1056.
- A.2. Kusumi T, Ishibashi Y, Tsuda E, Kusumi A, Tanaka M, Sato F, Toh S, Kijima H. Osteochondritis dissecans of the elbow: Histopathological assessment of the articular cartilage and subchondral bone with emphasis on their damage and repair. **Pathol Int**. 2006;56:604-612.
- A.3. Sato F, Imaizumi T, Sashinami H, Yoshida H, Kusumi T, Mori F, Wakabayashi K, Nakane A, Satoh K, Kijima H. Upregulation of vascular endothelial growth factor by heat-killed *Listeria monocytogenes* in macrophages. **Biochem Biophys Res Commun**. 2007;354:608-612.
- B.1. Deguchi R, Watanabe K, Koga Y, Kijima H, Takagi A. Interaction between *Helicobacter pylori* and immune response to CagA: CagA antibody may down regulate bacterial colonization and tyrosine phosphorylation. **Aliment Pharmacol Ther**. 2006;Suppl 4:127-131.
- B.2. Hosono A, Yamaguchi U, Makimoto A, Endo M, Watanabe A, Shimoda T, Kaya M, Mitsunori T, Sonobe H, Kusumi T, Yamaguchi T, Hasegawa T. Utility of immunohistochemical analysis for cyclooxygenase-2 (COX-2) in the differential diagnosis of osteblastoma and osteosarcoma. **J Clin Pathol**. 2007;60:410-414.
- B.3. Kohno T, Ishibashi Y, Tsuda E, Kusumi T, Tanaka M, Toh S. Immunohistochemical demonstration of growth factors at the tendon-bone interface in anterior cruciate ligament reconstruction using a rabbit model. **J Orthop Sci**. 2007;12:67-73.
- B.4. Tsuda E, Ishibashi Y, Tazawa K, Sato H, Kusumi T, Toh S. Pretibial cyst formation after anterior cruciate ligament reconstruction with a hamstring tendon autograft. **Arthroscopy** 2006;22:691.e1-6.

2007年度

- A.1. Morohashi S, Kusumi T, Sato F, Odagiri H, Chiba H, Yoshihara S, Hakamada K, Sasaki M, Kijima H. Decreased expression of claudin-1 correlates with recurrence status in breast cancer. **Int J Mol Med** 2007; 20:139-143.
- A.2. Sato F, Bhawal UK, Kawamoto T, Fujimoto K, Imaizumi T, Imanaka T, Kondo J, Koyanagi S, Noshiro M, Yoshida H, Kusumi T, Kato Y, Kijima H. Basic-helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 negatively regulates vascular endothelial growth factor expression. **Genes Cells** 2008;13:131-144.
- B.1. Kudo K, Abe Y, Hu DL, Kijima H, Nakane A. Colonization and differentiation of transplanted embryonic stem cells in the irradiated intestine of mice. **Tohoku J Exp Med** 2007;212:143-150.
- B.2. Hatakeyama M, Imaizumi T, Terasaki F, Mori F, Tanji K, Sato F, Kijima H, Suma H, Wakabayashi K, Yoshida H, Fukuda I, Satoh K. Interferon-gamma upregulates retinoic acid-inducible gene-I in human pericardial mesothelial cells. **Acta Cardiol** 2007;62:553-557.
- B.3. Liu Y, Kudo K, Abe Y, Aoki M, Hu DL, Kijima H, Nakane A. Hypoxia expression in radiation-induced late rectal injury. **J Radiat Res** 2008;49:261-268.
- B.4. Fujimoto K, Hamaguchi H, Hashiba T, Nakamura T, Kawamoto T, Sato F, Noshiro M, Bhawal UK, Suardita K, Kato Y. Transcriptional repression by the basic helix-loop-helix protein Dec2: multiple mechanisms through E-box elements. **Int J Mol Med** 2007;19:925-932.
- B.5. Bhawal UK, Tsukinoki K, Mori Y, Muto N, Sasahira T, Sato F, Sugiyama M, Kuniyasu H. Methylation and intratumour heterogeneity of 14-3-3 sigma in oral cancer. **Oncol Reports** 2007;18:817-824.

和文

2006年度

- A.1. 鬼島 宏, 木村宣美, Victor L Carpenter. 土持ゲーリー法一. Teaching Portfolio (ティーチング・ポートフォリオ)と自己評価報告書(教育活動)との対比. 21世紀フォーラム 2007;2:1-15.
- B.1. 辻 剛俊, 佐々木賀広, 福田真作, 菊池英純, 佐々木聡, 千葉裕樹, 吉村徹郎, 三上達也, 棟方昭博, 鬼島 宏. 有茎性大腸ポリープの形状変数と栄養動脈径の相関. 日本大腸肛門病学会雑誌 2007;60:22-26.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 千葉裕樹, 相澤 弘, 諸橋聡子, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 鬼島 宏. 胆嚢癌の病理的進展様式. 肝胆膵 2006; 53:185-192.
- A.2. 楠美智巳, 楠美昭則, 佐藤冬樹, 鬼島 宏. 高齢者骨疾患の病理. 日本臨牀 2006;64:1578-1582.
- A.3. 鬼島 宏. 胆道・膵臓の病理と細胞診. 日本臨床細胞学会青森県支部会報 2006;23:7-15.

2007年度

- A.1. 鬼島 宏. 1日24時間を刻む「時計遺伝子」. 病理と臨床 2007;25:820-821.
 A.2. 大橋大成, 楠美智巳, 佐藤冬樹, 袴田健一, 佐々木睦男, 鬼島 宏. 乳頭部の基本構造と腫瘍の病理解剖学的特徴. 肝・胆・膵 2007;54:719-725.
 A.3. 工藤康之, 神 寛之, 大橋大成, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 鬼島 宏. 組織像から見た胆嚢腺筋腫症. 胆と膵 2007;28:841-846.
 A.4. 大橋大成, 神 寛之, 赤坂治枝, 工藤康之, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 鬼島 宏. 胆道生検の読み方. G.I.Research 2008;16:63-72.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 鬼島 宏 (分担執筆). 外科病理学 第4版 (向井 清, 真鍋俊明, 深山正久 編集). 文光堂 2006年10月.
 A.2. 鬼島 宏 (分担執筆). 臨床医学小辞典 (伊藤澄信, 下 正宗, 奈良信雄 監修). 同文書院 2007年2月.

2007年度

- A.1. 鬼島 宏 (分担執筆). 正常画像と比べてわかる 病理アトラス (下正宗 編集). 羊土堂 2008年2月.
 A.2. 楠美智巳, 佐藤冬樹, 鬼島 宏, 井内康輝. 上皮型中皮腫, 二相性中皮腫と鑑別すべき腺がん. 亀井敏昭, 石川雄一, 三浦溥太郎, 井内康輝, 森永謙二, 編. アスベストと中皮腫. 東京: 篠原出版新社 2007;226-30.

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Kusumi T, Nishikawa S, Tanaka M, Ogawa T, Jin H, Sato F, Toh S, Hasegawa T, Kijima H. Authors reply. Low-grade fibromyxoid sarcoma arising in the big toe. Pathol Int 2007;57:459-460.
 B.1. Rokunohe D, Nakano H, Ikenaga S, Umegaki N, Kaneko T, Matsuhashi Y, Tando Y, Toyoki Y, Hakamada K, Kusumi T, Harada K, Sawamura D. Reduction in epidermal Langerhans cells in patients with necrolytic migratory erythema. J Dermatol Sci 2008;50:76-80.

和文

2006年度

- B.1. 佐久間俊行, 後町成輔, 堂脇昌一, 飛田浩輔, 大谷泰雄, 今泉俊秀, 鬼島 宏, 峯 徹哉. 肝外胆管原発腺・扁平上皮がんの2例. 胆道 2006;20:76-81.
 C.1. 足立 孝, 川島雅之, 青島宏枝, 鬼島 宏. 胸腺嚢腫から発生した胸腺癌の1手術例. 日本臨床外科学会雑誌 2006;67:1257-1260.
 C.2. 常盤香代子, 朴沢重成, 小嶋清一郎, 小林健二, 渡邊謙一, 峯 徹哉, 鬼島 宏, 今井 裕, 宮地勇人. 結核性リンパ節が十二指腸に穿破し, 潰瘍を形成したと思われる十二指腸結核の1例. 日本消化器病学会雑誌 2006;103:948-954.
 C.3. 高野 歆, 久保田稯, 平間公昭, 楠美智巳, 甲状腺乳頭癌の内頸静脈と腕頭静脈内腫瘍塞栓症の1手術例. 臨床外科 2007;65:729-734.

2007年度

- A.1. 松谷英樹, 川崎仁司, 柴田 滋, 宮本慶一, 佐々木睦男, 伊東重豪, 鬼島 宏. Docetaxel/S-1による術前化学療法が著効した高度リンパ節転移を伴う胃癌の1切除例. 癌と化学療法 2007;34:1643.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Mol Med	2.09	1	2.09
Pathol Int	0.925	1	0.925
Biochem Biophys Res Commun	3	1	3
Aliment Pharmacol Ther	3.434	1	3.434
J Clin Pathol	2.17	1	2.17
J Orthop Sci	0.614	1	0.614
Arthroscopy	1.42	1	1.42
Total		7	13.653

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Mol Med	1.847	1	1.847
Genes Cells	3.299	1	3.299
Tohoku J Exp Med	1.133	1	1.133
Acta Cardiol	0.495	1	0.495
J Radiat Res	1.26	1	1.26
Int J Mol Med	1.847	1	1.847
Oncol Reports	1.597	1	1.597
Total		7	11.478

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
21 世紀フォーラム	1	
日本大腸肛門病学会雑誌	1	
肝・胆・膵	1	1
日本臨床細胞学会青森県支部会報	1	
病理と臨床		1
G.I.Research		1
計	4	3

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	2	2

3. その他（A, B のみ）

英文

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pathol Int	1.371	1	1.371
J Dermatol Sci	2.5	1	2.5
Total		2	3.871

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
胆道 癌と化学療法	1	1
計	1	1

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- C.1. Hatanaka H, Nagata J, Tokunaga T, Takagi A, Mine T, Yamazaki H, Nakamura M, Ueyama Y, Kijima H. Gene expression of angiogenic and antioinhibitory factors in human esophageal cancer. 97th Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Washington DC, USA, April 3, 2006. (97th Annual Meeting Proceedings, 2006; 47:658)
- C.2. Uesato R, Ohshika S, Ishibashi Y, Kon A, Kusumi T, Kijima H, Takagaki K, Toh S. Effect of exogenous cartilage proteoglycan on chondrogenesis of bone marrow. 53rd Annual Meeting of Orthopaedic Research Society. Feb 11-14, 2007, San Diego, CA, USA.
- C.3. Kusumi A, Sakaki H, Kusumi T, Nakagawa H, Kubota K, Oda M, Narita K, Satoh H, Kimura H. The influence of serial passage on cyclic tensile strain-induced osteoprotegerin synthesis from normal human osteoblasts in vitro. 10th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. Nov 21-22, 2006, Hirosaki

- C.4. Sato F, Kawamoto T, Bhawal UK, Fujimoto K, Kondo J, Imanaka T, Noshiro M, Kusumi T, Sato T, Honma S, Honma K, Kato Y, Kijima H. Mutation analysis of the bHLH transcription factor DEC1 and DEC2 in circadian regulation. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBBM Congress, June 20, 2006, Kyoto, Japan.

2007年度

- A.1. Kijima H, Sato F, Kusumi T, Kato Y. Functional analysis of the basic helix-loop-helix transcription factor DEC in circadian rhythm regulation (Invited lecture). 12th World Congress on Advances in Oncology and 10th International Symposium on Molecular Medicine and Cancer Chemoprevention Symposium, Hersonissos, Crete, Greece, 11-13, 2007 (presentation, October 12).
- C.1. Yamamoto S, Kijima H, Hara T, Chino O, Shimada H, Tanaka M, Inokuchi S, Makuuchi H. Mucin expression and cell proliferation of esophageal Barrett's adenocarcinoma. 12th World Congress on Advances in Oncology and 10th International Symposium on Molecular Medicine and Cancer Chemoprevention Symposium, Hersonissos, Crete, Greece, October 11-13, 2007 (presentation, October 12).

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 鬼島 宏. 胆嚢管の解剖学的特性と胆嚢管癌の病理学的特徴. (ワークショップ) 胆嚢管癌診断の進歩. 第42回日本胆道学会学術集会, 仙台, 2006年9月15日.
- B.2. 千葉裕樹, 辻 剛俊, 三上達也, 佐々木賀広, 福田真作, 鬼島 宏, 棟方昭博. Hyperplastic polyposis の経過観察例. (ワークショップ) 稀なポリポース及びそれに合併した大腸癌. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 弘前, 2006年9月29日. (日本大腸肛門病学会雑誌 2006;59:521)
- C. 17件

2007年度

- B.1. 鬼島 宏. 食道生・EMR 標本から得られる情報. (パネルディスカッション) 第61回日本食道学会学術集会, 横浜, 2007年6月21日.
- B.2. 鬼島 宏. 胆管・膵管腫瘍の細胞診. (タスクフォース) 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台, 2007年11月30日.
- C.1. 千葉裕樹, 佐々木賀広, 相澤 弘, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 棟方昭博, 鬼島 宏. 大腸癌 claudin-1, claudin-4, E-cadherin 発現の臨床病理学的検討. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月13日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:243)
- C.2. 相澤 弘, 千葉裕樹, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 鬼島 宏. 大腸癌における粘液形質発現の臨床病理学的検討. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月13日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:245)
- C.3. 楠美智巳, 古家琢也, 佐藤冬樹, 千葉裕樹, 相澤 弘, 諸橋聡子, 大橋大成, 大山 力, 鬼島 宏. 前立腺癌の内分泌治療後の組織学的変化:免疫組織化学法による残存癌判定. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月14日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:309)
- C.4. 佐藤冬樹, 今泉忠淳, 楠美智巳, 鬼島 宏. *Listeria monocytogenes* による血管内皮増殖因子 (VEGF) の発現亢進とその機序の解明. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月15日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:314)
- C.5. 諸橋聡子, 楠美智巳, 佐藤冬樹, 鬼島 宏. 乳癌における Claudin-1 の免疫組織化学的検討. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月15日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:332)
- C.6. 熊谷紀史, 近藤 潤, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 鬼島 宏. 膵癌細胞における Claudin-1 の発現解析とその制御. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月13日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:358)
- C.7. 六本木麻美, 諸橋聡子, 佐藤冬樹, 楠美智巳, 鬼島 宏. ヒト乳癌細胞における Claudin-1 の発現と浸潤能との関連解析. 第96回日本病理学会総会, 大阪, 2007年3月13日. (第96回日本病理学会会誌 2007;1:358)
- C.8. Kondo J, Sato F, Kusumi T, Sato T, Kijima H. Claudin-1 expression is correlated with MMP-2 and TNF-alpha in human pancreatic cancer cells. 第66回日本癌学会学術総会, 横浜, 2007年10月4日. (Proceedings of 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 2006;131-132)
- 8件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. 独立行政法人 産業技術総合研究所 (つくば市) 田中真奈実 ブラディオン・プロジェクト Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用:癌の早期診断および治療, 治療後の長期予後モニターシステム開発
2. 東海大学 医学部 消化器外科 幕内博康 および 救命救急医学 猪口貞樹 ヒト消化器癌の発育・増殖進展に関わる病理形態学的解析

3. 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 口腔生化学講座 加藤幸夫 時計遺伝子 DEC ノックアウトマウスの解析
4. 神奈川歯科大学 顎顔面診断科学講座 Bhawal UK 口腔癌における時計遺伝子 DEC の発現
5. 九州大学 大学院薬学研究院 薬剤学分野 小柳 悟 血小板由来増殖因子 (PDGF) における DEC の機能

2007 年度

1. 独立行政法人 産業技術総合研究所 (つくば市) 田中真奈実 ブラディオン・プロジェクト Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用：癌の早期診断および治療、治療後の長期予後モニタリングシステム開発
2. 東海大学 医学部 消化器外科 幕内博康 および 救命救急医学 猪口貞樹 ヒト消化器癌の発育・増殖進展に関わる病理形態学的解析
3. 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 口腔生化学講座 加藤幸夫 時計遺伝子 DEC ノックアウトマウスの解析
4. 神奈川歯科大学 顎顔面診断科学講座 梶木恵一, Bhawal UK 口腔癌における時計遺伝子 DEC の発現
5. 九州大学 大学院薬学研究院 薬剤学分野 小柳 悟 血小板由来増殖因子 (PDGF) における DEC の機能
6. 弘前大学脳血管病態学講座 今泉忠淳 時計遺伝子 DEC とレチノイン酸誘導因子 RIG-I の分子制御機構

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006 年度

研究代表者として

平成 17～18 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 膀胱癌における高転移能の病態解明とその制御
鬼島 宏 3,100 千円

他研究単位との研究分担者として

科学研究費補助金 基盤研究 (C) メカニカルストレスと骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた骨形成・骨再生の総合的基礎研究
楠美昭則 (代表) 2,300 千円

2007 年度

研究代表者として

基盤研究 (C) 離断性骨軟骨炎の病態：罹患関節による相違と病変の組織学的機序解明
代表者・楠美智巳 1,040 千円

他研究単位との研究分担者として

基盤研究 (C) 骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた加齢によるメカニカルストレス誘導骨形成・骨代謝の解析
代表者・楠美昭則 2,880 千円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2007 年度

1 名 (大学院生, 中国医科大学)

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

8. 感染生体防御学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度：

前回、「研究基盤を充実させ、業績を伸ばす一方、新たな研究分野を模索する。」という目標を立てた。研究基盤の充実は順調に進んでいる。業績は上向きになっているので、やや満足といったところであるが、さらに目標に向かって精進が必要である。新たな研究分野については、細菌の病原因子と宿主細胞との相互作用を分子レベルで解明することを研究の主眼とし、その成果が上がりつつある。従って、この点については到達度が高いと判断している。

理念：

研究は第三者から評価されて、はじめて生きるものである。

そのような意味合いも心に留め、斬新でユニークな、オンリーワンの研究を目指す。

これから2年間の目標：

研究基盤を充実させ、業績を伸ばす一方、新たな研究分野を模索する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 3, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	中根 明夫	18年4月～19年3月
	助教授	専 任	胡 東良	18年4月～19年3月
	助 手	専 任	差波 拓志	18年4月～19年3月
	助 手	専 任	長内 理大	18年4月～19年3月
	助 手	専 任	成田 浩司	18年4月～19年3月
	助 手	専 任	佐々木早苗	研究休職
研究課題	1. 免疫系・神経系・内分泌系ネットワークを利用した細菌感染症の制御 2. リステリアの病原因子の網羅的解析 3. 黄色ブドウ球菌感染防御機構の解析 4. 黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの分子構造と生物活性機序の解析 5. リステリアの次世代ワクチンの開発 6. リステリアの次世代ワクチンの開発 7. プロテオグリカンの免疫調節機序の解析とその応用 8. エキノコックスの石灰小体に関する研究 9. 線虫を用いた細菌感染における自然免疫機構の解析 10. 天然性抗菌物質の探索と応用			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 0, 講師 0, 助教 3, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	中根 明夫	19年4月～20年3月
	准教授	専 任	胡 東良	19年4月～20年3月
	助 教	専 任	差波 拓志	19年4月～20年3月
	助 教	専 任	長内 理大	19年4月～20年3月
	助 教	専 任	成田 浩司	19年4月～20年3月
研究課題	1. 免疫系・神経系・内分泌系ネットワークを利用した細菌感染症の制御機序の解析 2. リステリアの病原因子の網羅的解析 3. 黄色ブドウ球菌感染防御機構の解析 4. ブドウ球菌エンテロトキシンの分子構造と生物活性の解析 5. リステリア感染モデルを用いた次世代ワクチンの開発 6. 黄色ブドウ球菌感染に対するワクチンの開発 7. 細菌感染ならびに炎症における先天免疫病原体認識機構の解析 8. 線虫を用いた細菌感染における自然免疫機構の解析 9. エキノコックスの石灰小体に関する研究 10. プロテオグリカンの免疫系に対する作用の解析			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Sashinami H, Yamamoto T, Nakane A. The cytokine balance in the maintenance of a persistent infection with *Salmonella enterica* serovar Typhimurium in mice. Cytokine 2006;33(4):212-8.
- A.2. Sashinami H, Sakuraba H, Ishiguro Y, Munakata A, Nishihira J, Nakane A. The role of macrophage migration inhibitory factor in lethal *Listeria monocytogenes* infection in mice. Microb Pathog 2006;41(2-3):111-8.
- A.3. Sashinami H, Takagaki K, Nakane A. Salmon cartilage proteoglycan modulates cytokine responses to *Escherichia coli* in mouse macrophages. Biochem Biophys Res Commun 2006;351(4):1005-10.
- A.4. Hu D-L, Omoe K, Narita K, Cui J-C, Shinagawa K, Nakane A. Intranasal vaccination with a double mutant of staphylococcal enterotoxin C provides protection against *Staphylococcus aureus* infection. Microbs Infect 2006;8(14-15):2841-8.
- A.5. Sato H, Suzuki K, Osanai A, Aoki M. *Paragonimus westermani* and some rare intestinal trematodes recovered from raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) introduced recently on Yakushima Island, Japan. J Vet Med Sci 2006;68(7):681-7.
- B.1. Ishiguro Y, Ohkawa T, Sakuraba H, Yamagata K, Hiraga H, Yamaguchi S, Fukuda S, Munakata A, Nakane A, Nishihira J. Macrophage migration inhibitory factor has a proinflammatory activity via the p38 pathway in glucocorticoid-resistant ulcerative colitis. Clin Immunol 2006;120(3):335-41.
- B.2. Imaizumi T, Sashinami H, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Nakane A, Wakabayashi K, Oyama C, Satoh K. *Listeria monocytogenes* induces the expression of retinoic acid-inducible gene-1. Microbiol Immunol 2006;50(10):811-5.
- B.3. Liu Y, Nakahara T, Miyakoshi J, Hu D-L, Nakane A, Abe T. Nuclear accumulation and activation of nuclear factor κ B after split-dose irradiation in LS174T cells. J Radiat Res 2007;48(1):13-20.
- B.4. Sato F, Imaizumi T, Sashinami H, Yoshida H, Kusumi T, Mori F, Wakabayashi K, Nakane A, Satoh K, Kijima H. Upregulation of vascular endothelial growth factor by heat-killed *Listeria monocytogenes* in macrophages. Biochem Biophys Res Commun 2007;359(3):406-12.
- B.5. Arita M, Suematsu T, Osanai A, Inaba T, Kamiya H, Kita K, Sisido M, Watanabe Y, Ohtsuki T. An evolutionary 'intermediate state' of mitochondrial translation systems found in *Trichinella* species of parasitic nematodes: co-evolution of tRNA and EF-Tu. Nucleic Acids Res. 2006;34:5291-9.

2007年度

- A.1. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A. Blockade of TGF- β accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis. Biochem Biophys Res Commun 2007;359(3):406-12.
- A.2. Hu D-L, Zhu G, Mori F, Omoe K, Okada M, Wakabayashi K, Kaneko S, Shinagawa K, Nakane A. Staphylococcal enterotoxin induces emesis through increasing serotonin release in intestine and it is downregulated by cannabinoid receptor 1. Cell Microbiol 2007;9(9):2267-77.
- A.3. Narita K, Hu D-L, Tsuji T, Nakane A. Intranasal immunization of mutant toxic shock syndrome toxin 1 elicits systemic and mucosal immune response against *Staphylococcus aureus* infection. FEMS Immunol Med Microbiol 2008;52(3):389-96.
- A.4. Narita K, Hu D-L, Tsuji T, Nakane A. Protective effect of intranasal vaccination with nontoxic mutant toxic shock syndrome toxin 1 against *Staphylococcus aureus* infections. Hirosaki Med J 2008;59(2-4):71-82.
- B.1. Kudo K, Abe Y, Hu D-L, Kijima H, Nakane A. Colonization and differentiation of transplanted embryonic stem cells in the irradiated intestine of mice. Tohoku J Exp Med 2007;212(2):143-50.
- B.2. Liu Y, Kudo K, Abe Y, Aoki M, Hu D-L, Kijima H, Nakane A. Hypoxia expression in radiation-induced late rectal injury. J Radiat Res 2008;49(3):261-8.

和文

2007年度

- A.1. 胡 東良, 銭 愛東, 単 曉風, 成田浩司, 差波拓志, 長内理大, 阿部由紀子, 平賀寛人, 工藤幸清, 劉 勇, 中根明夫. 日本と中国における急性胃腸炎起因微生物の汚染調査. 弘前医学 2007;59(1):1-6.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 胡 東良, 重茂克彦, 品川邦汎, 中根明夫. 乳房炎の次世代ワクチン—特に黄色ブドウ球菌に対するワクチンについて—. 獣医畜産新報 2006;59(6):473-8.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文

2007 年度

- A.1. Sashinami H, Kageyama K, Suda T, Nakane A. Urocortin 2 suppresses host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via up-regulation of IL-10. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S67-76.
- A.2. Hu D-L, Omoe K, Narita K, Shinagawa K, Nakane A. Vaccination with a nontoxic mutant of staphylococcal enterotoxin C elicits Th2 immune response for protection against *Staphylococcus aureus* infection. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S210-8.
- A.3. Hu D-L, Suga Y, Omoe K, Abe Y, Shinagawa K, Waki M, Nakane A. Staphylococcal enterotoxin A modulates intracellular Ca²⁺ signal pathway in human intestinal epithelial cells. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S219-26.
- A.4. Narita K, Hu D-L, Tsuji T, Nakane A. Protective effect of intranasal vaccination with nontoxic mutant TSST-1 against *Staphylococcus aureus* infection. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S227-34.
- A.5. Sashinami H, Takagaki K, Nakane A. Salmon cartilage proteoglycan modulates cytokine responses to *Escherichia coli* in mouse macrophages. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S235-43.
- A.6. Hiraga H, Sashinami H, Hu D-L, Ishiguro Y, Wakabayashi K, Munakata A, Nakane A. All-trans-retinoic acid (ATRA) increases host resistance to *Listeria monocytogenes* infection. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S244-52.
- B.1. Imaizumi T, Mori F, Yagihashi N, Kitamura H, Sashinami H, Suzuki K, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Tanji K, Sasaki H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Tanaka H, Takanashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Ito E, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) and diseases. *Hrosaki Med J* 2007;59(suppl):S137-42.

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，B のみ）

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cytokine	2.012	1	2.012
Microb Pathog	2.303	1	2.303
BBRC	3	1	3
Microbs Infect	3.154	1	3.154
J Vet Med Sci	0.663	1	0.663
Clin Immunol	3.217	1	3.217
Microbiol Immunol	1.502	1	1.502
J Radiat Res	1.364	1	1.364
BBRC	3	1	3
Nueceic Acids Res	6.317	1	6.317
Total		10	26.532

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochem Biophys Res Commun	2.749	1	2.749
Cell Microbiol	5.293	1	5.293
FEMS Immunol Med Microbiol	1.928	1	1.928
Hirosaki Med J	0	1	0
Tohoku J Exp Med	1.133	1	1.133
J Radiat Res	1.26	1	1.26
Total		6	12.363

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
獣医畜産新報 弘前医学	1	1
計	1	1

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. Sashinami H, Kageyama K, Suda T, Nakane A. Suppressive effect of urocortin 2 via up-regulation of IL-10 on host resistance against infection with *Listeria monocytogenes*. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.1. Hu D-L, Omoe K, Narita K, Shinagawa K, Nakane A. Vaccination with a nontoxic mutant of staphylococcal enterotoxin C elicits Th2 immune response for protection against *Staphylococcus aureus* infection. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.2. Hu D-L, Suga S, Omoe K, Abe Y, Shinagawa K, Wakui M, Nakane A. Staphylococcal enterotoxin A modulates intracellular Ca²⁺ signal pathway in human intestinal epithelial cells. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.3. Sashinami H, Takagaki K, Nakane A. Salmon cartilage proteoglycan modulates cytokine responses to *Escherichia coli* in mouse macrophages. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.4. Narita K, Hu D-L, Tsuji T, Nakane A. Protective effect of intranasal vaccination with nontoxic mutant TSST-1 against *Staphylococcus aureus* infection. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.5. Hiraga H, Sashinami H, Hu D-L, Ishiguro Y, Wakabayashi K, Munakata A, Nakane A. All-trans-retinoic acid (atRA) increases host resistance to *Listeria monocytogenes* infection. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.6. Imaizumi T, Mori F, Yagihashi N, Sashinami H, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Sasaki H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Takanashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic-acid inducible gene-1 (RIG-I) and diseases. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- C.7. Maruyama A, Tsuakamoto S, Nishikawa K, Ishii T, Nakane A, Yamamoto M, Itoh K. Nrf2-mediated up-regulation of CD36 gene expression enhances the phagocytotic activity of RAW264.7 cells against *Staphylococcus aureus*. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.

2007年度

- C.1. Liu Y, Abe Y, Shinozaki N, Kudo K, Kijima H, Hu D-L, Nakane A. Radiation-induced hypoxia expression in mouse radiation proctitis. The 100th anniversary of Tohoku University The 5th Japan-US cancer therapy symposium & the 5th S.Takahashi memorial international joint symposium. Sendai, Japan. Sep. 7-9, 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 中根明夫. リステリアと黄色ブドウ球菌: 病原分子を基盤としたワクチン開発にむけて. 動物衛生シンポジウム「人獣共通感染症」, つくば, 2006.
- B.2. 胡 東良, 重茂克彦, 品川邦汎, 中根明夫. ブドウ球菌エンテロトキシン A の嘔吐メカニズムとその制御機構. 第80回日本細菌学会, 大阪, 2007.
- C. 18件

2007年度

- B.1. 胡 東良, 重茂克彦, 品川邦汎, 中根明夫. ブドウ球菌エンテロトキシンの嘔吐誘導機序. 第54回日本毒素シンポジウム, 大阪, 2007.9.
- B.2. 重茂克彦, 近藤祐子, 今西健一, 胡 東良, 斎藤直之, 加藤秀人, 中根明夫, 内山竹彦, 品川邦汎. 新型ブドウ球菌エンテロトキシン群嘔吐活性の霊長類モデル. 第54回日本毒素シンポジウム, 大阪, 2007.9.
- B.3. Nakane A. Redundant factors in primary host defense against *Listeria monocytogenes*. International Symposium "Listeria monocytogenes- virulence mechanism and host defense" 第81回日本細菌学会総会, 京都, 2008.

- B.4. 胡 東良, 重茂克彦, 品川邦汎, 中根明夫, ブドウ球菌エンテロトキシンの嘔吐誘導活性とスーパー抗原活性の関連性. 第81回日本細菌学会総会, 京都, 2008.3.
- C. 17件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

胡 東良, 第12回弘前大学医学部学術賞特別賞受賞

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. 農業技術研究機構動物衛生研究所「人獣共通感染症の制圧のための技術開発」
2. 中国大連翔大生物技術研究センター「ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究」
3. 北東北国立3大学連携推進研究「感染症学と免疫学の融合によるワクチン開発研究プロジェクト」
4. 弘前大学と青森県の共同研究「ナノヒバ油のミスト分散による抗菌・防虫技術の開発」
5. アンデス電気「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」

2007年度

1. 農業技術研究機構動物衛生研究所「人獣共通感染症の制圧のための技術開発」
2. 中国大連翔大生物技術研究センター「ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究」
3. 北東北国立3大学連携推進研究「感染症学と免疫学の融合によるワクチン開発研究プロジェクト」
4. 弘前大学と青森県の共同研究「ナノヒバ油のミスト分散による抗菌・防虫技術の開発」
5. アンデス電気「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

中根明夫, 基盤研究(B)「黄色ブドウ球菌エンテロトキシンAの催吐活性にスーパー抗原活性は必要か」
7,930千円

中根明夫, 萌芽研究「感染性腸炎・炎症性腸疾患におけるペプチドグリカン認識タンパク質(PGRP)の役割」
2,100千円

胡 東良, 基盤研究(C)「ブドウ球菌エンテロトキシンの催吐シグナル伝達と分子メカニズムの究明」
1,600千円

差波拓志, 若手研究(B)「肥満と免疫～アディポカインが感染制御に与える影響の解明」1,800千円

長内理大, 若手研究(B)「石灰小体はエキノкокスの発育にどのように係わるのか?」1,200千円

中根明夫, 都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカン応用研究プロジェクト」「プロテオグリカンの免疫調節作用に基づく商品としての応用開発研究」2,000千円

中根明夫, タンパク3000プロジェクト「新型黄色ブドウ球菌エンテロトキシンについて」500千円

2007年度

研究代表者として

中根明夫, 基盤研究(B)「黄色ブドウ球菌エンテロトキシンAの催吐活性にスーパー抗原活性は必要か」
11,050千円

中根明夫, 萌芽研究「感染性腸炎・炎症性腸疾患におけるペプチドグリカン認識タンパク質(PGRP)の役割」
1,200千円

中根明夫, 都市エリア産学官連携促進事業一般型「QOLの向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発」7,001千円

胡 東良, 基盤研究(C)「ブドウ球菌エンテロトキシンの催吐分子メカニズムと細胞レセプターの究明」
2,080千円

差波拓志, 若手研究(B)「肥満と免疫～アディポカインが感染制御に与える影響の解明」1,600千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

中根明夫, 農業・生物系特定産業技術研究機構・動物衛生研究所平成18年度委託プロジェクト研究「人獣共通感染症の制圧のための技術開発」「リステリアの細胞内増殖と宿主細胞応答機構解明とそれに基づく感染制御への応用」2,700千円

中根明夫, JST シーズ発掘試験研究 「藍由来抗アレルギー活性・抗菌活性物質の実用化研究」 2,000 千円

2007 年度

研究代表者として

中根明夫, 農業・生物系特定産業技術研究機構・動物衛生研究所平成 18 年度委託プロジェクト研究 「人獣共通感染症の制圧のための技術開発」「リステリアの細胞内増殖と宿主細胞応答機構解明とそれに基づく感染制御への応用」 3,300 千円

中根明夫, 平成 19 年度あおもりウェルネスランド構想推進事業 (医療・健康福祉関連産業ビジネスモデル構築事業)「感染症病原体の簡易迅速検出センサーチップ製品化のビジネスモデル構築」 2,406 千円

(3) 学内の研究助成

2006 年度

他研究単位との研究分担者として

中根明夫, 平成 18 年度戦略的経費「弘前大学と青森県の共同研究：ナノヒバ油のミスト分散による抗菌・防虫技術の開発」 1,300 千円

中根明夫, 平成 18 年度弘前大学長指定重点研究「ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」 400 千円

2007 年度

他研究単位との研究分担者として

中根明夫, 平成 19 年度戦略的経費「弘前大学と青森県の共同研究：ナノヒバ油のミスト分散による抗菌・防虫技術の開発」 1,000 千円

中根明夫, 青森県国民健康保険団体連合会支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」「青森ヒバから抽出される Hinokitiol の生物活性について」 2,000 千円

(4) 民間の研究助成

2006 年度

研究代表者として

中根明夫, 平成 18 年度学術国際振興基金助成事業・地域産業科学技術の活性化推進事業「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」 500 千円

中根明夫, 平成 18 年度学術国際振興基金助成事業・学術の国際交流推進事業「弘前国際医学フォーラム第 10 回学術集会」 500 千円

中根明夫, ヤクルト本社「黄色ブドウ球菌エンテロトキシン無毒変異体の経鼻免疫による黄色ブドウ球菌感染の予防」 300 千円

中根明夫, アンデス電気「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」 420 千円

2007 年度

研究代表者として

中根明夫, 財団法人日本ワックスマン財団学術研究助成「黄色ブドウ球菌腸管毒素の二元的機能に関する研究」 1,000 千円

中根明夫, 平成 19 年度学術国際振興基金助成事業・地域産業科学技術の活性化推進事業「インフルエンザ型別認識マルチセンサーチップの開発と高感度化」 500 千円

中根明夫, ヤクルト本社「毒素性ショック症候群毒素無毒変異体の粘膜免疫による黄色ブドウ球菌感染の予防」 300 千円

中根明夫, アンデス電気「感染症診断用マルチセンサーチップの開発」 420 千円

胡 東良, 平成 19 年度学術国際振興基金助成事業・外国人研究者との共同研究の助成「黄色ブドウ球菌スーパー抗原毒素の分子疫学調査と感染予防対策」 1,000 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

2006 年度

中根明夫, 弘前国際医学フォーラム第 10 回学術集会 (事務局長)

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国人からの留学生, 研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

2006年度

中根明夫，平成18年5月7日から5月9日
中国・吉林農業大学，視察・共同研究打合せ（学術国際振興基金）
中根明夫，平成18年8月12日から8月15日
中国・大連翔大生物技術研究センター，共同研究
胡 東良，平成18年5月2日から5月9日
中国・吉林農業大学，視察・共同研究打合せ（学術国際振興基金）
胡 東良，平成18年8月5日から8月19日
中国・大連翔大生物技術研究センター，共同研究

2007年度

胡 東良，中国・吉林農業大学と大連民族学院視察・共同研究打合せ（学術国際振興基金）2007年9月14日から9月24日

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2006年度

佐々木早苗，平成18年4月1日から平成19年3月31日
スタンフォード大学

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

2006年度

長岐正彦，中根明夫ら，特許名称「抗真菌活性を示す機能性イソプレノイド類の開発」出願番号：特願2006-42553

長岐正彦，中根明夫，市川博章，特許名称「機能性イソプレノイド類の混用試験：抗菌作用に対する相乗効果について」出願番号：特願2007-75438

2007年度

特許出願：長岐正彦，市川博章，中根明夫，特許名称「イソプレノイド系化合物を含む抗菌剤」特願2007-75438

9. 社会医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

1. 「岩木健康増進プロジェクトにおけるライフスタイルと健康に関する総合的研究」との目標は，岩木健康増進プロジェクトの継続充実という形でほぼ到達できた。
2. 「食物繊維の基礎的な消化吸収動態と大腸内における代謝を明らかにする。方法としては，これまで同様内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いた小腸液灌流法と呼気水素測定法を用いて行う。食物繊維の体重コントロールに及ぼす効果についても検討したい」との目標は，ラフィノース（不消化性オリゴ糖）の消化吸収実験の公表等でほぼ達成できたと思われる。
3. 「好中球活性酸素種産生能，サイトカイン等の動態に影響を及ぼす物質（薬物，ビタミン等），運動負荷（合宿，減量，マラソン等）とその機序の研究を進める」との目標は，スポーツ現場における研究でこれを継続，その結果を公表することではほぼ達成できたと思われる。
4. 「院内がん登録，地域がん登録の充実」との目標は，弘前大学医学部附属病院のみならず，県内主要病院を巻き込んだ院内がん登録の普及活動の展開ができほぼ達成できたと思われる。

理念：

青森県，日本における社会医学研究のリーダーとなる。

これから2年間の目標：

1. 岩木健康増進プロジェクトにおけるライフスタイルと健康に関する総合的研究
2. 競技スポーツから健康スポーツまでを包括したスポーツ医学研究の展開。
3. 好中球活性酸素種産生能，サイトカイン等の動態に影響を及ぼす物質（薬物，ビタミン等），運動負荷（合宿，減量，マラソン等），ライフスタイルとその機序の研究。
4. 院内がん登録，地域がん登録の充実。
5. 食物繊維の基礎的な消化吸収動態と大腸内における代謝を明らかにする。方法としては，これまで同様内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いた小腸液灌流法と呼気水素測定法を用いて行う。食物繊維の体重コントロールに及ぼす効果についても検討したい。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 3，医員 0，大学院学生 16，研究生 5			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	中路 重之	2006年4月から2007年3月
	助教授	専 任	梅田 孝	2006年4月から2007年3月
	助 手	専 任	高橋 一平	2006年4月から2007年3月
	助 手	専 任	菅原 典夫	2006年4月から2007年3月
	助 手	専 任	松坂 方士	2006年4月から2007年3月
研究課題	1. 癌の疫学（主要癌と食生活，喫煙，飲酒との関連） 2. 公衆栄養（とくに食物繊維） 3. 地域保健（青森県での全般的健康問題の把握，分析及び短命への対応策の構築） 4. スポーツ医学（競技スポーツ選手の減量，合宿時の調査） 5. 免疫学的体力・適応力（特に好中球の活性酸素種産生能を指標としたもの）			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 0，助教 3，助手 0，医員 0，大学院学生 28，研究生 3			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	中路 重之	平成19年4月～20年3月
	准教授	専 任	梅田 孝	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	高橋 一平	平成19年4月～12月11日
	助 教	専 任	松坂 方士	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	檀上 和真	平成19年12月12日～平成20年3月31日

研究課題	1. 癌の疫学（主要癌と食生活，喫煙，飲酒との関連） 2. 公衆栄養（とくに食物繊維） 3. 地域保健（青森県での全般的健康問題の把握，分析及び短命への対応策の構築） 4. スポーツ医学（競技スポーツ選手の減量，合宿時の調査） 5. 免疫学的体力・適応力（特に好中球の活性酸素種産生能を指標としたもの）

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Takahashi I, Umeda T, Mashiko T, Chinda D, Oyama T, Sugawara K, Nakaji S. Effects of rugby sevens matches on human neutrophil-related nonspecific immunity. *Br J Sports Med* 2007;41(1):13-8.
- A.2. Mochida N, Umeda T, Yamamoto Y, Tanabe M, Kojima A, Sugawara K, Nakaji N. The main neutrophil and neutrophil-related functions may compensate for each other following exercise-a finding from training in university judoists. *Luminescence* 2007;22(1):20-8.
- A.3. Yaegaki M, Nakaji S, Umeda U, Takahashi I, Sugawara N, Matsuzaka M, Mochida N, Yamamoto Y, Kojima A, Tanabe M. Change in the capability of reactive oxygen species from neutrophils following weight reduction in female judoists. *Br J Sports Med* 2007;(5):322-7.
- A.4. Yoshioka Y, Umeda T, Nakaji S, Kojima A, Tanabe M, Mochida N, Sugawara K. Gender differences in the psychological response to weight reduction in judoists. *Int J Sport Nutr Exerc Metab* 2006;16(2):187-98.
- C.1. Basaki K, Abe Y, Aoki M, Kondo H, Hatayama Y, Nakaji N. Prognostic factors for survival in stage III non-small-cell lung cancer treated with definitive radiation therapy: impact of tumor volume. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 2006;64(2):449-54.
- C.2. Dima VF, Vasiliu V, Laky D, Coman N, Inoescu MD, Dima SV, Nakaji S. A modified approach to the adoptive immunotherapy of walker-256 carcinosarcoma with a combination of activated macrophage and photodynamic therapy. *Laser Therapy* 2006;15(4):151-60.
- C.3. Fukuda S, Saito H, Nakaji S, Yamada M, Ebine N, Tsushima E, Oka E, Kumeta K, Tsukamoto T, Tokunaga S. Pattern of dietary fiber intake among the Japanese general population. *Eur J Clin Nutr*. 2007;61:99-103.
- C.4. Sugawara N, Nakai K, Nakamura T, Ohba T, Suzuki K, Kameo S, Satoh C, Satoh H. Developmental and neurobehavioral effects of perinatal exposure to polychlorinated biphenyls in mice. *Arch Toxicol* 2006;80:286-292.

2007年度

- A.1. Yaegaki M, Umeda T, Takahashi I, Matsuzaka M, Sugawara N, Shimaya S, Tanabe M, Kojima A, Mochida N, Yamamoto Y, Nakaji S. Change in the capability of reactive oxygen species production by neutrophils following weight reduction in female judoists. *Br J Sports Med* 2007;41(5):322-7.
- A.2. Takahashi I, Matsuzaka M, Hatakeyama R, Lee S, Saito H, Niki S, Numazawa S, Miyake R, Suzukawa K, Umeda T, Danjo K. The differences in daily dietary fiber intake and intake pattern among the general population in northern Japan, calculated by the modified Proskey and Southgate methods. *J Phys Fit Nutr Immunol* 2007;17(3):181-189.
- A.3. Danjo K, Matsuzaka M, Takahashi I, Kamitani H, Hirakawa Y, Kogawa T, Yamai K, Okumura T, Kudo U, Kitagawa N, Nakaji S, Umeda T. The debate on the preventive effect of dietary fiber against colon cancer: Quo vadis?. *J Phys Fit Nutr Immunol* 2007;17(3):190-195.
- A.4. Umeda T, Yamai K, Takahashi I, Kojima A, Yamamoto Y, Tanabe M, Totsuka M, Nakaji S, Sugawara N, Matsuzaka M. The effects of a two-hour judo training session on the neutrophil immune functions in university judoists. *Luminescence* 2008;23:49-53.
- A.5. Danjo K, Sakamoto J, Iwane S, Tamura K, Nakaji S, Fukuda S, Murakami H, Shimoyama T, Takahashi I, Umeda T. Effects of Cellulose Supplementation on Fecal Consistency and Fecal Weight. *Dig Dis Sci* 2007;53(3):712-8.
- B.1. Nakajima H, Kaneita Y, Yokoyama E, Harano S, Tamaki T, Ibuka E, Kaneko A, Takahashi I, Umeda T, Nakaji S, Ohida T. Association between sleep duration and hemoglobin A(1c) level. *Sleep Med* 2008;9(7):745-752.
- B.2. Hasan KN, Shoji M, Sugimoto K, Tsutaya S, Matsuda E, Kudo R, Nakaji S, Suda T, Yasujima M. Association of novel promoter single nucleotide polymorphisms in vasopressin V1a receptor gene with essential hypertension in nonobese Japanese. *J Hum Hypertens* 2007;21(10):825-7.
- B.3. Fukuda S, Saito H, Nakaji S, Yamada M, Ebine N, Tsushima E, Oka E, Kumeta K, Tsukamoto T, Tokunaga S. Pattern of dietary fiber intake among the Japanese general population. *Eur J Clin Nutr* 2007;61(1):99-103.
- B.4. Du Y, Danjo K, Robinson PA, Crabtree JE. In-Cell Western analysis of *Helicobacter pylori*-induced phosphorylation of extracellular-signal related kinase via the transactivation of the epidermal growth factor receptor. *Microbes Infect* 2007;9:838-46.

和文

2006年度

- A.1. 中路重之, 福田真作, 欠畑誠治. がんの疫学 頭頸部がん 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:228-34.
- A.2. 中路重之, 八重垣誠, 高橋一平. がんの疫学 乳がん. 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:121-7.
- A.3. 中路重之, 菅原典夫, 松坂方士. がんの疫学 肝細胞がん. 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:328-35.
- A.4. 中路重之, 小山隆男, 嶋谷 泉. がんの疫学 肺がん. 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:4-12.
- A.5. 中路重之, 福田真作, 高橋一平. がんの疫学 悪性リンパ腫. 臨床腫瘍プラクティス 2007;1:4-12.
- A.6. 梅田 孝, 益子俊志, 山本洋祐, 斎藤一雄, 小嶋新太, 田辺 勝, 片桐朝美, 戸塚 学, 対馬栄輝. 競技スポーツ選手のためのメディカルチェックと健康管理及びコンディショニングの現状について—大学ラグビー選手を具体例として—. 日本レーザー治療学会誌 2007;15(2):76-83.
- A.7. 倉掛重精, 梅田 孝, 中路重之, 熊江 隆, 岡村典慶, 明石秀伸, 村田洋介, 藤崎晶子, 寺町芳子, 海老根直之. 冬期のマラソンが選手の生体に及ぼす影響 (1). 体力・栄養・免疫学雑誌 2006;16(1):23-31.

2007年度

- A.1. 梅田 孝, 益子俊志, 山本洋祐, 斎藤一雄, 小嶋新太, 田辺 勝, 片桐朝美, 戸塚 学, 対馬栄輝. 競技スポーツ選手のためのメディカルチェックと健康管理及びコンディショニングの現状について—大学ラグビー選手を具体例として—. 日本レーザー治療学会誌 2007;15(2):82-89.
- B.1. 倉掛重精, 梅田 孝, 中路重之, 熊江 隆, 岡村典慶, 明石秀伸, 村田洋介, 海老根直之, 藤崎晶子, 寺町芳子. 冬期のマラソンが選手の生体に及ぼす影響 (2) —完走者と非完走者の血液成分の比較—. 体力・栄養・免疫学雑誌 2007;17(2):100-12.

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Matsuzaka M, Fukuda S, Takahashi I, Shimaya S, Oyama T, Yaegaki M, Shimoyama T, Sakamoto J, Nakaji S, Umeda T. The decreasing burden of gastric cancer in Japan. Tohoku J Exp Med 2007;212(3):207-19.

和文

2007年度

- A.1. 中路重之. 青森県民の寿命からみた長生きへのヒント. 弘前医学 2007;58(1-4):61-68.
- A.2. 中路重之, 鎌田梨沙, 横山良仁. がんの疫学 卵巣がん. 臨床腫瘍プラクティス 2007;3(2):108-117.
- A.3. 中路重之, 福田真作, 高橋一平. がんの疫学 悪性リンパ腫. 臨床腫瘍プラクティス 2007;3(1):4-9.
- A.4. 中路重之, 今井 篤, 大山 力. がんの疫学 前立腺がん・精巣腫瘍. 臨床腫瘍プラクティス 3(3):237-245.
- A.5. 中路重之, 玉井佳子, 檀上和真. がんの疫学 (10) 白血病. 臨床腫瘍プラクティス 2007;3(4):341-50.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 古川照美, 富永真己, 木藤江里子, 藤嶋聡子, 菅原典夫, 高橋一平, 松坂方士, 木田和幸, 西沢義子, 梅田 孝, 中路重之. 子どもの生活習慣形成時期における母親と子の生活リズム, 食生活状況との関連. 弘前大学医学部保健学科紀要 2007;6:47-54.

2007年度

- A.1. 平成18年度 青森県がん医療・施設調査報告書
- A.2. 平成18年度 岩木健康増進プロジェクト 成人の健康調査報告書
- A.3. 古川照美, 富永真己, 木田和幸, 西沢義子, 木藤江里子, 藤嶋聡子, 菅原典夫, 高橋一平, 松坂方士, 梅田 孝, 中路重之. 子供の生活習慣形成時期における母親と子の生活リズム, 食生活状況との関連. 弘前大学医学部保健学科紀要 2007;6:47-54.
- A.4. 平成19年度 岩木健康増進プロジェクト 成人の健康調査報告書
- A.5. 青森県高校柔道 報告書
- A.6. 青森県中学柔道 報告書

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Sports Med	2.233	2	4.466
Luminescence	0.874	1	0.874
Int J Sport Nutr Exerc Metab	1.019	1	1.019
Total		4	6.359

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Sports Med.	2.233	1	2.233
Luminescence	0.874	1	0.874
J Phys Fit Nutr Immunol	0	2	0
Tohoku J Exp Med	1.012	1	1.012
Dig Dis Sci	1.448	1	1.448
Sleep Med	2.926	1	2.926
J Hum Hypertens	2.96	1	2.96
Eur J Clin Nutr	2.116	1	2.116
Total		9	16.676

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨床腫瘍プラクティス	5	4
日本レーザー治療学会誌	1	1
体力・栄養・免疫学雑誌	1	1
弘前医学		1
計	7	7

2. 著書数（A，Bのみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他（A，Bのみ）

英文 なし和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
平成18年度 青森県がん医療・施設調査報告書		1
平成18年度 岩木健康増進プロジェクト 成人の健康調査報告書		1
弘前大学医学部保健学科紀要		1
平成19年度 岩木健康増進プロジェクト 成人の健康調査報告書		1
青森県高校柔道 報告書		1
青森県中学柔道 報告書		1
計	0	6

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Takahashi I, Ueda H, Umeda T, Hatakeyama R, Numazawa S, Yaegaki M, Shimaya S, Matsuzaka M, Sugawara N, Miyake R, Nakaji S. Expiratory carbon monoxide in a Japanese population. International scientific meeting Breath Analysis in Physiology and Medicine Organised by International Association for Breath Research, IABR 4-5 September 2006 Prague. Czech Republic.
- C.2. Shimaya S, Matsuzaka M, Yaegaki M, Oyama T, Takahashi I, Umeda T, Sasaki D, Oka E, Shimoyama T, Nakaji S. The prevalence of irritable bowel syndrome among the general population in Japan. Digestive Disease Week 2006, 20-25 May, 2006. Los Angeles Convention Center, Los Angeles, USA.
- C.3. Shimaya S, Matsuzaka M, Yaegaki M, Oyama T, Takahashi I, Umeda T, Sasaki D, Oka E, Shimoyama T, Nakaji S. The recovery rate and oro-ileal transit time of an orally ingested non-digestible oligosaccharide (raffinose) in the human terminal ileum. 14th United European Gastroenterology Week 21-25 October, 2006 ICC Berlin, Berlin, Germany.
- C.4. Nakaji S. Effects of diode laser irradiation on superficial blood flow in college sumo wrestlers: a preliminary study. First IPTA Congress, 2006 Suwa City, Nagano, Japan.

2007年度

- C.1. Yamai K, Umeda T, Suda Y, Kudoh U, Kudoh H, Takahashi K, Nishino K, Matsuzaka M, Takahashi I, Nakaji S. Relationship between expiratory gases and obesity in a Japanese population. Breath Analysis Summit 2007: Clinical Applications of Breath Testing Scientific Meeting of the International Association for Breath Research (IABR). Nov 1-3, 2007. Ohio, Cleveland. USA.
- C.2. Yamai K, Umeda T, Yaegaki M, Urushidate S, Mikami M, Tsuya R, Kumeta K, Matsuzaka M, Takahashi I, Nakaji S. Relationship between expiratory carbon monoxide and irritable bowel syndrome in a Japanese population. Breath Analysis Summit 2007: Clinical Applications of Breath Testing Scientific Meeting of the International Association for Breath Research (IABR). Nov 1-3, 2007. Ohio, Cleveland. USA.
- C.3. Yamai K, Umeda T, Kamitani H, Hirakawa Y, Hatayama R, Numazawa S, Sato J, Matsuzaka M, Takahashi I, Nakaji S. Relationship between expiratory carbon monoxide and diabetes mellitus in a Japanese population. Breath Analysis Summit 2007: Clinical Applications of Breath Testing Scientific Meeting of the International Association for Breath Research (IABR). Nov 1-3, 2007. Ohio, Cleveland. USA.
- C.4. Yamai K, Umeda T, Tanabe M, Suzukawa K, Miyake R, Seo R, Kojima A, Matsuzaka M, Takahashi I, Nakaji S. Relationship between expiratory gases and habitual physical activity in a Japanese population. Breath Analysis Summit 2007: Clinical Applications of Breath Testing Scientific Meeting of the International Association for Breath Research (IABR). Nov 1-3, 2007. Ohio, Cleveland. USA.
- C.5. Fukuoka Y, Ueda H, Takahashi I, Okubo Y, Onishi M, Okumura T, Kitagawa N, Matsuzaka M, Umeda T, Nakaji S. Relationship between expiratory parameters and ethanol consumption. Breath Analysis Summit 2007: Clinical Applications of Breath Testing Scientific Meeting of the International Association for Breath Research (IABR). Nov 1-3, 2007. Ohio, Cleveland. USA.
- C.6. Fukuoka Y, Ueda H, Takahashi I, Lee S, Miyazawa M, Sato M, Oshita Y, Nishimura M, Matsuzaka M, Umeda T, Nakaji S. Relationship between expiratory parameters and cigarette smoking. Breath Analysis Summit 2007: Clinical Applications of Breath Testing Scientific Meeting of the International Association for Breath Research (IABR). Nov 1-3, 2007. Ohio, Cleveland. USA.
- C.7. Shimoyama T, Danjo K, Mizuki I, Nakaji S, Fukuda S. Infection of *Helicobacter pylori* was not associated with body mass index of healthy subjects in a mass survey. 15th UEGW 2007 (United European Gastroenterology Week) Paris.
- C.8. Endo T, Danjo K, Shimoyama T, Takahashi R, Sakamoto J, Fukuda S. Dose presence of antibody to *Helicobacter hepaticus* associate with clinical of chronic hepatitis C? 15th UEGW 2007 (United European Gastroenterology Week). Oct 27-28, 2007. Paris, France.

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 中路重之: 地方における職域のメンタルヘルス対策, 第22回日本ストレス学会学術集会, 招待講演, 弘前, H18.11.18
- C. 23件

2007年度

- A.1. 中路重之: 「基調講演 消化器がんにならないための生活」, 第93回日本消化器病学会総会 市民公開講座, 青森市文化会館, 2007.4.22
- A.2. 中路重之: 「医師不足の実態について」, 日本予防医学会第4回講演会: 日本そして青森の医療の将来像について, 弘前大学みちのくホール, 2007.7.7
- A.3. 中路重之: 「大腸癌診療のこれから—大腸癌の疫学的特徴と予防」, 第40回神奈川大腸疾患研究会, 横浜市かなっくホール, 2007.6.28
- C. 21件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

中路重之, 体力・栄養・免疫学会賞(第6回) H18.8.27

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. 大学マラソン選手の健康管理とコンディショニングに関する研究: 当該講座, 東洋大学, 埼玉医科大学
2. 大学柔道選手の健康管理とコンディショニングに関する研究: 当該講座, 日本体育大学
3. 大学柔道選手の健康管理とコンディショニングに関する研究: 当該講座, 日本体育大学
4. 岩木健康増進プロジェクト: 当該講座, 弘前市

2007年度

岩木健康増進プロジェクト: 当該講座, 弘前市

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

中路重之(研究代表者), 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(A), 研究課題「アレルギー疾患と腸内細菌叢の関連: 地域住民での検討」, 平成18-21年度, 24,300千円

中路重之(研究代表者), 文部科学省科学研究費補助金・萌芽研究, 研究課題「呼吸テストによる腸内細菌叢のパターン化に関する研究」, 平成18-20年度, 2,600千円

他研究単位との研究分担者として

梅田 孝(研究代表者), 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(B), 研究課題「高齢者の日常生活活動及び身体機能と免疫機能の関連の実態とこれに対する介入研究」, 平成18-20年度, 10,700千円

古川照美(研究代表者), 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C), 研究課題「親子に対する生活習慣改善プログラムの展開と評価」, 平成18-20年度, 3,600千円

福田真作(研究代表者), 文部科学省科学研究費補助金・萌芽研究, 研究課題「ヒト生体内での消化吸収動態による食物繊維の正確な定義」, 平成18-20年度, 1,800千円

2007年度

研究代表者として

文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(A), 研究課題「アレルギー疾患と腸内細菌叢の関連: 地域住民での検討」, 平成18-21年度, 24,300千円

文部科学省科学研究費補助金・萌芽研究, 研究課題「呼吸テストによる腸内細菌叢のパターン化に関する研究」, 平成18-20年度, 2,600千円

文部科学省大学改革推進等補助金・現代的教育ニーズ取組支援プログラム, 事業名「地域医療型クリニカルクラークシップ教育」, 平成18～20年度, 15,000千円

研究分担者として

文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(B), 研究課題「高齢者の日常生活活動及び身体機能と免疫機能の関連の実態とこれに対する介入研究」, 平成18-20年度, 梅田 孝, 10,700千円

他研究単位との研究分担者として

文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C), 研究課題「親子に対する生活習慣改善プログラムの展開と評価」, 平成18-20年度, 古川照美, 3,600千円

文部科学省科学研究費補助金・萌芽研究, 研究課題「ヒト生体内での消化吸収動態による食物繊維の正確な定義」, 平成18-20年度, 福田真作, 1,800千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

中路重之(研究代表者), 文部科学省大学改革推進等補助金, 現代的教育ニーズ取組支援プログラム, 事業名「地域医療型クリニカルクラークシップ教育」, 平成18-20年度, 20,000千円

中路重之(研究代表者), 青森県による受諾研究, 「青森県がん医療水準基礎調査」, 平成18年度, 4,458千円

2007年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），文部科学省大学改革推進等補助金，現代的教育ニーズ取組支援プログラム，事業名「地域医療型クリニカルクラークシップ教育」，平成18-20年度，20,000千円

中路重之（研究代表者），青森県による受託研究，「青森県がん医療水準基礎調査」，平成19年度，2,940千円

中路重之（研究代表者），青森県による受託研究，「小・中学校及び高等学校喫煙・飲酒状況」，平成19年度，200千円

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），弘前大学医学部附属病院院内がん登録整備事業，青森医学振興会助成事業，平成18年度，1,500千円

2007年度

研究代表者として

弘前大学医学部附属病院院内がん登録整備事業，青森医学振興会助成事業，平成19年度，1,500千円

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として

中路重之（研究代表者），三沢市立三沢病院による受託研究，「院内がん登録システムの構築」，平成18年度，2,000千円

梅田 孝（研究代表者），協和発酵工業（株）ヘルスケア商品開発センターによる受託研究，「柔道選手における通常練習期，強化合宿期及び減量期のグルタミン摂取が筋組織及び好中球機能に及ぼす効果に関する調査」，平成18-19年度，4,104千円

他研究単位との研究分担者として

佐藤 敬（研究代表者），青森県国民健康保険団体支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」：青森県住民における生活習慣の特徴と脳卒中危険因子の実態及び青森県産農産物中の降圧物質，平成18年度，2,000千円

2007年度

研究代表者として

三沢市立三沢病院による受託研究，「院内がん登録システムの構築」，平成19年度，1,000千円

研究分担者として

協和発酵工業（株）ヘルスケア商品開発センターによる受託研究，「柔道選手における通常練習期，強化合宿期及び減量期のグルタミン摂取が筋組織及び好中球機能に及ぼす効果に関する調査」，平成18-19年度，梅田 孝，4,104千円

他研究単位との研究分担者として

青森県国民健康保険団体支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」：青森県住民における生活習慣の特徴と脳卒中危険因子の実態及び青森県産農産物中の降圧物質，平成19年度，佐藤 敬，1,500千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2006年度

Prof. David Baxter, Otago University, Australia, 2日

2007年度

Prof. David Baxter, Otago University, Australia, 2日

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

2007 年度

高橋一平（助教），オタゴ大学（オーストラリア）平成 19 年 12 月 11-20 年 3 月

檀上和真（平成 19 年 12 月 12 日付助教），Leeds Institute of Molecular Medicine, St James's University Hospital, United Kingdom, 36 ヶ月（平成 16 年 5 ～平成 19 年 6 月）

f) その他

なし

(2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2007 年度

日本予防医学会第 4 回講演会（大会長：中路重之）7 月 4 日（弘前大学 50 周年記念会館）

b) 地方レベルの学会の主催

2007 年度

1. 世話人：第 35 回青森スポーツ医学研究会 講演：小嶺忠敏氏（前国見高校サッカー部監督）講演「サッカーを通じた人間教育」（県民福祉プラザ 9.8）

2. 司会：中路重之「地域医療を考えるシンポジウム「青森県の医療における弘前大学の役割について」（熊坂宮古市長迎えて，シティ弘前ホテル）

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

10. 法医学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度：

- ア) 国内学術雑誌に対して各教員が年平均1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。(0/1)
- イ) 国内学術雑誌に対して各教員が年平均3編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。(1/3)
- ウ) 国際学術雑誌に対して各教員が1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。(0/1)
- エ) 国際学術雑誌に対して各教員が1編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。(0/1)
- オ) 国際学会に対して、各教員がchief presenterとして1編以上co-presenterとして1編以上を発表する。(0/2)
- カ) 全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年3演題以上を発表する。(3/3)
- キ) 研究助成を各教員1件以上確保する。(1/1)

理念：

法医学は基礎医学ではなく、実践医学あるいは応用医学に位置づけられる。すなわち、実務への応用が法医学研究の直接且つ究極の目的であり、鑑定事例に対して問題意識をもつことから研究のアイディアがスタートする。法医学の研究領域は多様であることが当然で、どのような分野に関連していても問題はない。一方、法医学が裁判医学・法廷医学と別称されるように、国家医学としての機能を果たしてこそこの学問の存在意義が認められるのであるから、我が国の社会秩序維持・国民の安全確保を旨とした司法活動に直接関わる研究を行うことこそが責務と言える。すなわち、日々担当する眼前の鑑定業務を疎かにする姿勢は厳に慎むべきであり、国内の司法・捜査関係者への邦文による情報提供が求められている。このような動機に基づき、当法医学講座では鑑定水準の向上を目指すことを第一優先事項として研究に取り組むものとする。

これから2年間の目標：

- ア) 国内学術雑誌に対して各教員が年平均1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。(0/1)
- イ) 国内学術雑誌に対して各教員が年平均3編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。
- ウ) 国際学術雑誌に対して各教員が1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。
- エ) 国際学術雑誌に対して各教員が1編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。
- オ) 国際学会に対して、各教員がchief presenterとして1編以上co-presenterとして1編以上を発表する。
- カ) 全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年3演題以上を発表する。
- キ) 研究助成を各教員1件以上確保する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	黒田 直人	1年
	講 師	専 任	北 武	1年
研究課題	1. 死体解剖診断学 2. 法医血清学 3. 血液蛋白を指標とする人血証明 4. 精液蛋白を指標とするヒト精液証明 5. 機能食品の抗腫瘍作用について			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	黒田 直人	19.04.01 ~ 20.03.31
	講 師	専 任	北 武	19.04.01 ~ 20.03.31
	助 教	専 任	美作宗太郎	19.04.01 ~ 20.03.31
研究課題	1. 死体解剖診断学 2. 法医解剖症例研究 3. 小児虐待の定量的評価法に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- C.1. Mimasaka S, Ohtsu Y, Tsunenari S, Matsukawa A, Hashiyada M, Takahashi S, Funayama M. Sudden death of a young woman due to aortic dissection caused by Turner's syndrome. *Pathol. Int* 2007;57:219-223.
- C.2. Koreeda A, Yonemitsu K, Mimasaka S, Ohtsu Y, Tsunenari S. An accidental death due to Freon 22 (monochlorodifluoromethane) inhalation in a fishing vessel. *Forensic Sci Int* 2007;168:208-211.
- C.3. Mimasaka S, Funayama M, Hashiyada M, Nata M, Tsunenari S. IL-6 and IL-8 are significant cytokines after trauma: studying among eleven postmortem cytokines using a multiplex immunoassay. *Injury* 2007;38:1047-1051, .
- C.4. Koreeda A, Yonemitsu K, Kohmatsu H, Mimasaka S, Ohtsu Y, Oshima T, Fujiwara K, Tsunenari S. Immunohistochemical demonstration of the distribution of chloroquine (CQ) and its metabolites in CQ-poisoned mice. *Arch Toxicol* 2007;81:471-478.
- C.5. Mimasaka S, Oshima T, Tsunenari S. A rare case of sudden death due to thrombus from the internal iliac vein. *J. Forensic and Legal Med* 2008;15:101-103.

和文

2006年度

- A.1. 北 武, 黒田直人. 混合凝集反応法による腐敗死体の ABO 式血液型検査; 法医学の実際と研究 2006;49:185-90.
- C.1. 死体検案における救急医療の問題点; 茨城県救急医学会雑誌 2006;28:117-8.

2007年度

- A.1. 美作宗太郎, 北 武, 黒田直人. 肉眼所見から診断可能であった脂肪塞栓症の一例. 法医学の実際と研究 2007;50:17-22.
- C.1. 美作宗太郎, 大島 徹, 恒成茂行. 5. CPAOA と死亡の事例への対応. Ⅲ. 初期対応と診察方法. 小児科臨床 2007;60(4):673-679.
- C.2. 米満孝聖, 是枝亜子, 幸松宏恵, 大津由紀, 美作宗太郎, 恒成茂行. ジフェンヒドラミンが関与した2自殺事例. 中毒研究 2007;20:137-140.
- C.3. 川口英敏, 川口陸奥男, 米満孝聖, 美作宗太郎. 大災害時における警察医会の役割—熊本県警察医会の取り組み—. 日本警察医会雑誌 2007;2:65-69.
- C.4. 美作宗太郎, 恒成茂行. 被虐待児における損傷の客観的な評価法. 子どもの虐待とネグレクト 2007;9:314-321.

(2) 総説

なし

(3) 著書

英文

なし

和文

2007年度

- C.1. 美作宗太郎, 恒成茂行. 12. 関係機関からの紹介例への対応—臨床法医学診断を中心に—. 市川光太郎編. 児童虐待へのアプローチ. 中外医学社. pp.146-155, 2007.

(4) その他

英文

なし

和文

2007年度

- C.1. 美作宗太郎. 被虐待児に対する損傷検査法の開発. 上原記念生命科学財団研究報告集. 21, pp121-123, 2007.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

和文 (論文数)

雑誌名	2006年度	2007年度
法医学の実際と研究	1	
計	1	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑誌名	2006年度	2007年度
茨城県救急医学会雑誌 法医学の実際と研究	1	1
計	1	1

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

C. 3件

2007年度

C. 9件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2007年度

研究代表者として

- 平成19年度・科学研究費 (若手 B) ・2,500,000円 美作宗太郎
助成名称: 科学研究費補助金

2. 研究種目：基盤研究（C）「頭部外傷・新生児等の脆弱脳に対する自動浮遊固定装置の開発に関する法
医 病理学的研究」 黒田直人 配分額：260 千円（間接経費を含む）。

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

11. 消化器血液内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

1. 英文学術誌へ論文を投稿するよう指導する。
諸事情により，採択数が少なかった。
到達度：50%
2. 国際学会，全国レベルの学会における発表数の増加に心掛けるとともに，その研究結果については可能な限り学術誌へ投稿するように指導する。
発表数は例年通りであったが，論文化されたものは少なかった。
到達度：70%
3. 科学研究費補助金の採択数を維持する。
継続1件であり，新規の採択はなかった。
到達度：50%

理念：

臨床講座として消化器病，血液病，膠原病についての臨床研究をさらに発展させるとともに，関連する基礎講座との連携により基礎的な研究を推進させる。

これから2年間の目標：

1. 英文学術誌へ論文を投稿するよう指導する。
2. 国際学会，全国レベルの学会において発表した研究結果については，可能な限り学術誌へ投稿するように指導する。
3. 科学研究費補助金の採択数を向上させる。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 3，助手 5，医員 6，大学院学生 9，研究生 5			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	棟方 昭博	平成18年4月～19年3月
	助教授	専 任	福田 眞作	平成18年4月～19年3月
	講 師	専 任	坂本 十一	平成18年4月～19年3月
	講 師	専 任	下山 克	平成18年4月～19年3月
	講 師	専 任	伊東 重豪	平成18年4月～19年3月
	助 手	専 任	山形 和史	平成18年4月～19年3月
	助 手	専 任	遠藤 哲	平成18年4月～19年3月
	助 手	専 任	三上 達也	平成18年4月～19年3月
	助 手	専 任	吉村 徹郎	平成18年4月～19年3月
	助 手	専 任	辻 剛俊	平成18年4月～19年3月
研究課題	1. 消化器疾患の光学的定量法による診断に関する研究 2. <i>Helicobacter pylori</i> に関する研究 3. 消化器疾患の内視鏡的治療に関する研究 4. 炎症性腸疾患の成因に関する研究 5. 大腸癌集団検診に関する研究 6. 食物繊維による大腸癌の予防に関する研究 7. 消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究 8. 消化管機能性疾患の病態生理に関する研究 9. 慢性肝炎からの発癌予防に関する研究 10. 定量的出血時間に関する研究			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 6, 助手 0, 医員 6, 大学院学生 7, 研究生 5			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	福田 眞作	平成19年8月～20年3月
	准教授	専 任	福田 眞作	平成19年4月～7月
	准教授	専 任	坂本 十一	平成19年11月～20年3月
	講 師	専 任	坂本 十一	平成19年4月～10月
	講 師	専 任	伊東 重豪	平成19年4月～12月
	講 師	専 任	下山 克	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	山形 和史	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	遠藤 哲	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	三上 達也	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	高畑 武功	平成19年4月～12月
	助 教	専 任	吉村 徹郎	平成19年4月～20年3月
	助 教	専 任	佐藤 研	平成19年11月～20年3月
研究課題	1. 消化器疾患の光学的定量法による診断に関する研究 2. <i>Helicobacter pylori</i> に関する研究 3. 消化器疾患の内視鏡的治療に関する研究 4. 炎症性腸疾患の成因に関する研究 5. 大腸癌集団検診に関する研究 6. 食物繊維による大腸癌の予防に関する研究 7. 消化器悪性腫瘍に対する化学療法に関する研究 8. 消化管機能性疾患の病態生理に関する研究 9. 慢性肝炎からの発癌予防に関する研究 10. 定量的出血時間に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Fukuda S, Takahashi I, Umeda T, Fujimaki Y, Oyama T, Nakaji S, Tsukamoto T, Shimoyama T. Effect of diode laser irradiation on interleukin-8 production by human neutrophils. *Laser Therapy* 2006;14:37-40.
- A.2. Ishiguro A, Takahata T, Saito M, Yoshiya G, Tamura Y, Sasaki M, Munakata A. Influence of methylated *p15^{INK4b}* and *p16^{INK4a}* genes on clinicopathological features in colorectal cancer. *J Gastroenterol Hepatol* 2006; 21:1334-1339.
- A.3. Fukuda S, Shimoyama T, Tanaka M, Nakasato F, Fukushi M, Munakata A. Duration of the metronidazole-containing regimen for eradication of *Helicobacter pylori* infection in Northern Japan. *Jpn J Infect Dis* 2006; 59:367-9.
- A.4. Fukuda S, Saito H, Nakaji S, Yamada M, Ebine N, Tsushima E, Oka E, Kumeta K, Tsukamoto T, Tokunaga S. Pattern of dietary fiber intake among the Japanese general population. *Eur J Clin Nutr* 2007;61:99-103.
- B.1. *Ishiguro Y, Ohkawara T, Sakuraba H, Yamagata K, Hiraga H, Yamaguchi S, Fukuda S, Munakata A, Nakane A, Nishihira J. Macrophage migration inhibitory factor has a proinflammatory activity via the p38 pathway in glucocorticoid-resistant ulcerative colitis. *Clin Immunol* 2006;120:335-41.
- B.2. Fukuda Y, Tao Y, Tomita T, Hori K, Fukunaga K, Noguchi T, Hayashi T, Shimoyama T, Tahahashi R. A traditional Japanese medicine mitigates TNBS-induced colitis in rats. *Scand J Gastroenterol* 2006;41:1183-9.
- B.3. *Sashinami H, Sakuraba H, Ishiguro Y, Munakata A, Nishihara J, Nakane A. The role of macrophage migration inhibitory factor in lethal *Listeria monocytogenes* infection in mice. *Microb Pathog* 2006;41 (2-3):111-8.
- B.4. *Matsuzaka M, Fukuda S, Takahashi I, Shimaya S, Oyama T, Yaegaki M, Shimoyama T, Sakamoto J, Nakaji S, Umeda T. The Decreasing Burden of Gastric Cancer in Japan. *Tohoku J. Exp. Med.*, 2007;212:207-19.

2007年度

- A.1. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A. Blockade of TGF- β accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2007; 359:406-12.
- A.2. Kikuchi H, Itoh J, Fukuda S. Chronic nicotine stimulation modulates the immune response of mucosal T cells to Th1-dominant pattern via nAChR by upregulation of Th1-specific transcriptional factor. *Neuroscience letters* 2008;432:217-21.

- B.1. *Takahata T, Ookawa K, Suto K, Tanaka M, Yano H, Nakashima O, Kojiro M, Tamura Y, Tateishi T, Sakata Y, Fukuda S. Chemosensitivity determinants of irinotecan hydrochloride in hepatocellular carcinoma cell lines. *Basic Clin Pharmacol Toxicol* 2008;102:399-407.
- B.2. *Danjo K, Sakamoto J, Iwane S, Tamura K, Nakaji S, Fukuda S, Murakimi H, Shimoyama T, Takahashi I, Umeda T. Effects of Cellulose Supplementation on Fecal Consistency and Fecal Weight. *Dig Dis Sci* 2008; 53 (3):712-8.
- B.3. *Sasaki Y, Fukuda S, Mikami T, Hada R. Endoscopic quantification of mucosal surface roughness for grading severity of ulcerative colitis. *Digestive Endoscopy* 2008;20:67-72.

和文

2006年度

- A.1. 石澤知子, 玉井佳子, 高見秀樹, 山形和史, 三上達也, 佐々木聡, 福田眞作, 榑方昭博. 観血的内視鏡手技と抗血小板薬休薬状況の検討. *Gastroenterol Endosc* 2006;48:1102-8.
- A.2. 佐藤 研, 富士嗣海, 瀧本美耶子, 中畑 元, 佐々木大輔. 当科心療内科外来の紹介患者の検討—消化器心身症を中心に—. *日本心療内科学会誌* 2006;10(3):142-6.
- A.3. 櫻庭裕丈, 石黒 陽, 山形和史, 藤田 均, 平賀寛人, 蝦名佐都子, 島谷孝司, 川口章吾, 佐藤裕紀, 榑方昭博. 潰瘍性大腸炎の腸管粘膜固有層単核球における多剤耐性遺伝子の発現の検討. *消化器と免疫* 2006;42:108-9.
- A.4. 瀧本美耶子, 佐藤 研, 富士嗣海, 榑方昭博, 佐々木大輔. 心療内科外来を受診した過敏性腸症候群患者における QOL と自己効力感の検討. *消化器心身医学* 2006;13(1):42-8.
- A.5. 辻 剛俊, 佐々木賀広, 福田眞作, 菊池英純, 佐々木聡, 千葉裕樹, 吉村徹郎, 三上達也, 榑方昭博, 鬼島 宏. 有茎生ポリープの形状変数と栄養動脈径の相関. *日本大腸肛門病学会雑誌* 2007;60:22-6.
- B.1. *玉井佳子, 高見秀樹, 山形和史, 山口公平, 太田 健, 榑方昭博. 治療抵抗性／再発急性骨髄性白血病と高リスク骨髄異形成症候群に対する G-CSF プライミング療法—変法 CAG 療法を中心に—. *血液・腫瘍科* 2006;53(1):108-14.

2007年度

- A.1. 下山 克, 高橋良樹, 中林夏子, 大村武雄, 佐野由香里, 福田眞作, 榑方昭博. モノクローナル抗体を用いた慢性 C 型ウイルス肝炎, 胆膵疾患患者における *Helicobacter hepaticus* 感染率についての検討. *日本ヘリコバクター学会誌* 2007;8(2):32-3.
- A.2. 辻 剛俊, 三上達也, 福田眞作, 菊池英純, 斎藤大輔, 吉村徹郎, 佐々木賀広, 榑方昭博, 佐々木博海, 村田有志. 大腸ポリープ切除後早期出血の危険因子とクリップの残存率の検討. *Gastroenterol Endosc* 2008;50:199-205.
- A.3. 下山 克, 富士道夫. “青森県臨床 *H.pylori* 研究会” の活動と二次除菌療法に向けた啓蒙活動. *Helicobacter Research* 2007;11(3):76-79.
- A.4. 下山 克, 高橋良樹, 中林夏子, 大村武雄, 佐野由香里, 福田眞作, 榑方昭博. モノクローナル抗体を用いた慢性 C 型ウイルス肝炎, 胆膵疾患患者における *Helicobacter hepaticus* 感染率についての検討. *日本ヘリコバクター学会誌* 2007;8(2):32-33.
- B.1. *石黒 陽, 平賀寛人, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 山口佐都子, 藤田 均, 川口章吾, 佐藤裕紀, 山形和史, 福田眞作, 榑方昭博. 潰瘍性大腸炎における P-glycoprotein 発現 CD8 α β T 細胞の意義. *消化器と免疫* 2007;44:60-1.

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Tamai Y, Komatsu-Ishizawa T, Takami H, Nakajima H, Fukuda S, Munakata A. The management of antiplatelet therapy for endoscopic procedures –The optimal cessation period of antiplatelet therapy for Japanese –. *Digestive Endoscopy* 2007;19(4):161-6.
- B.1. *Matsuzaka M, Fukuda S, Takahashi I, Shimaya S, Oyama T, Yaegaki M, Shimoyama T, Sakamoto J, Nakaji S, Umeda T. The decreasing burden of gastric cancer in Japan. *Tohoku J Exp Med* 2007;212(3):207-19.

和文

2006年度

- A.1. 三上達也, 福田眞作, 榑方昭博. どう関わる? 悪性腫瘍 15 大腸癌. *総合臨床* 2006; 増刊号 :1072-5.
- A.2. 辻 剛俊, 山形和史, 福田眞作, 菊池英純, 佐々木聡, 榑方昭博. 生活習慣と虚血性腸炎. *成人病と生活習慣病* 2006;36:670-4.
- A.3. 三上達也, 福田眞作, 榑方昭博. 下血. *成人病と生活習慣病* 2006;36:1049-52.
- A.4. 下山 克. 集団検診における便中抗原を用いた *Helicobacter pylori* 感染診断. *Helicobacter Research* 2006; 10:421-5.
- A.5. 山形和史, 石黒 陽, 榑方昭博. 潰瘍性大腸炎の疫学と診断. *カレントセラピー* 2006;24(6):16-21.
- A.6. 山形和史, 石黒 陽, 川口章吾, 榑方昭博. 潰瘍性大腸炎, クロウン病の治療指針. *Modern Physician* 2006; 26(9): 1454-9.

- A.7. 辻 剛俊, 山形和史, 福田眞作, 菊池英純, 佐々木聡, 棟方昭博. 生活習慣病と虚血性大腸炎. 成人病と生活習慣病 2006;36(6):670-4.
- A.8. 坂本十一, 遠藤 哲, 須藤俊之. 肝細胞がん患者にどう対応するか 5. 非切除治療の適応と, その進め方 1) 局所治療の変遷と最新治療—ラジオ波焼灼療法 (RFA) の進め方. 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:367-72.
- A.9. 三上達也, 福田眞作, 棟方昭博. 大腸癌. 総合臨牀 2006;55:484-7.
- A.10. 三上達也, 福田眞作, 棟方昭博. 下血. 成人病と生活習慣病 2006;36:1049-52.
- A.11. 三上達也, 福田眞作, 花畑憲洋, 辻 剛俊, 西谷大輔, 吉村徹郎, 棟方昭博. ダブルバルーン内視鏡による診断—腫瘍性疾患. 臨床消化器内科 2007;22:295-9.
- B.1. *中路重之, 福田眞作, 欠畑誠治. 頭頸部がん. 臨床プラクティス 2006;2:228-34.
- B.2. *佐々木大輔, 福土嗣海, 佐藤 研, 滝本美耶子, 中畑 元, 棟方昭博. 高齢者の過敏性腸症候群. 日本臨牀 2006;64(8):1516-20.

2007 年度

- A.1. 三上達也, 福田眞作, 棟方昭博. 大腸ポリープ. 総合臨牀 2007;56 (増刊号) :274-7.
- A.2. 三上達也, 福田眞作, 花畑憲洋, 辻 剛俊, 西谷大輔, 吉村徹郎, 棟方昭博. ダブルバルーン内視鏡による診断, (2) 腫瘍性疾患. 臨床消化器内科 2007;22(3):295-9.
- A.3. 山形和史, 石黒 陽, 櫻庭裕丈, 川口章吾, 佐藤裕紀, 福田眞作, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎: 薬物療法を選択する時 (5-ASA / ステロイド / 免疫抑制剤など). 消化器の臨床 2007;10(6):565-72.
- A.4. 下山 克. *Helicobacter* 研究の年間レビュー: 病態・生理研究の進歩. *Helicobacter Research* 2007;11(2):28-33.
- A.5. 吉村徹郎, 福田眞作. 特発性血小板減少性紫斑病と *Helicobacter pylori* 感染. *Medical Practice* 2007;24(12):2197
- B.1. *石黒 陽, 山形和史, 佐藤裕紀, 櫻庭裕丈, 福田眞作, 棟方昭博. AZA/6-MP の炎症性腸疾患に対する緩解維持効果. 臨床消化器内科 2007;22(12):1573-80.
- B.2. *玉井佳子, 三上達也, 棟方昭博. 内視鏡診療と治療—内視鏡診療で注意すべき薬剤—. カレントセラピー 2007;25:61-5.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006 年度

- A.1. 棟方昭博, 福田眞作. 腹痛の病態生理. イヤーノートシリーズ—selected articles 2007—. 東京: Medic Media; 2006. p299-306. (分担)
- A.2. 石黒彩子, 宇野良治. EMR-5: non-lifting sign —粘膜下注入法による位置づけと評価方法. 大腸 EMR・ESD の基本手技 コツとピットフォール, 適応の決め手. 東京: メジカルビュー社; 2006. p31-4. (分担)
- A.3. 福田眞作, 棟方昭博. 大腸がんの症状. 小平進編. インフォームドコンセントのための図説シリーズ—大腸がん (改訂版) — 東京: 医薬ジャーナル; 2006. p24-7. (分担)
- A.4. 福田眞作, 山形 亮, 棟方昭博. 一腸炎・下痢症—. *Medical Practice* 編. 内科外来診療実践ガイド—縮刷版—. 東京: 文光堂; 2006. p135-7. (分担)
- A.5. 福田眞作, 辻 剛俊, 三上達也. 吸収不良症候群の診断と分類. 棟方昭博, 小池和彦, 田尻久雄編. 一消化器疾患の診断基準・病型分類・重症度の用い方—. 東京: 日本メディカルセンター; 2006. p159-63. (分担)
- A.6. 福田眞作. 大腸がん. 水島 豊, 菅世智子編. 市民のための老年病学. 弘前: 弘前大学出版会; 2007. p144-7. (分担)
- A.7. 佐藤 研, 福土嗣海, 佐々木大輔. 特殊なケースとその対応 高齢者への対応. 佐々木大輔編. 過敏性腸症候群 脳と腸の対話を求めて. 東京: 中山書店; 2006. p169-74. (分担)
- A.8. 坂本十一, 遠藤 哲, 須藤俊之. 局所治療の変遷と最新治療—ラジオ波焼灼療法 (RFA) の進め方. 臨床腫瘍プラクティス. 東京: ヴァンメディカル; 2006. p367-72. (分担)
- A.9. 吉村徹郎. 胃食道逆流症. 市民のための老年病学. 弘前: 弘前大学出版会; 2006. (分担)
- A.10. 遠藤 哲, 坂本十一. 下痢. 富野康日己編. 症候から迫る内科診療—典型例と非典型例によるアプローチ—. 東京: 中外医学社; 2007. p76-83. (分担)
- A.11. 三上達也, 福田眞作, 棟方昭博. S 状結腸を越えられない時. 桑山 肇編. 消化器内視鏡挿入法 35 の基本とコツ. 東京: ヴァンメディカル; 2007. p60-1. (分担)
- B.1. *石黒 陽, 山形和史, 島谷孝司, 棟方昭博. 診断困難例 Case 26: 術前診断が困難であった colitic cancer 症例. colitic cancer —診断と治療の現況—. 東京: 日本メディカルセンター; 2006. p234-6. (分担)

2007 年度

- A.1. 三上達也, 福田眞作, 棟方昭博. 消化器 大腸ポリープ. 総合臨牀 2007 年増刊号, DATA で読み解く 内科疾患. 大阪: 永井書店; 2007. p1108-11. (分担)
- A.2. 山形和史, 棟方昭博. 大腸ポリープ. 今日の診断基準. 東京: 南江堂; 2007. p211-2. (分担)
- A.3. 山形和史, 棟方昭博. 消化管ポリポーシス. 今日の診断基準. 東京: 南江堂; 2007. p213-5. (分担)
- A.4. 山形和史, 石黒 陽, 福田眞作. 腸管. 病気と薬 パーフェクト BOOK2008. 東京: 南山堂; 2008. p330-2. (分担)

(4) その他

英文

2006年度

- B.1. Suto K, Fukuda S, Yamaguchi-Ebina S, Sawaya M, Kumamoto H, Endo T, Sakamoto J, Tohno H, Nakahata H, Tanaka M, Matsukawa M, Munakata A. A Case of Focal Nodular Hyperplasia with Marked Telangiectatic Sinusoidal change –A FNH Subtype and its possible histogenesis–. The Medical Journal of Hirosaki City Hospital. 2006;15(1):3-8.

和文

2006年度

- A.1. 佐藤 研, 福土嗣海, 瀧本美耶子, 中畑 元, 棟方昭博, 佐々木大輔. 認知行動療法により症状の改善をみたダンピング症候群の1例. 消化器心身医学 2006;13(1):49-54.
- A.2. 滝本美耶子, 佐藤 研, 福土嗣海, 棟方昭博, 佐々木大輔. 臨床動作法が有用であった筋痛を主訴とする慢性疼痛(心身症)の1例. 心療内科 2006;10(1):35-38.
- A.3. 佐藤 研, 福土嗣海, 瀧本美耶子, 中畑 元, 棟方昭博, 佐々木大輔. 急性腸炎罹患後に症状の改善をみた過敏性腸症候群の1例 – Postinfectious IBS 症例との比較 –. 心療内科 2006;10(1):44-7.
- A.4. 辻 剛俊, 大川恵三, 佐々木博海, 大澤忠治, 八木橋信夫. 繰り返す急性膵炎で診断しえた非露出腫瘍型の早期十二指腸乳頭部癌の1例. 内科 2006;97(5):939-41.
- A.5. 花畑憲洋, 三上達也, 福田眞作, 西谷大輔, 山口佐都子, 佐々木聡, 石黒 陽, 佐々木賀広, 村田暁彦, 鬼島 宏, 東野 博, 棟方昭博. ダブルバルーン小腸内視鏡にて観察しえた Meckel 憩室の1例. 胃と腸 2006;41:1321-5.
- A.6. 吉谷 元, 鈴木一広, 嶋谷 泉, 平賀寛人, 中里文佳, 對馬清人, 田中宗雄, 小山隆男, 高畑武功, 棟方昭博. 経過中に multiple lymphomatous polyposis を大腸に認めた悪性リンパ腫の一例. 青森県立中央病院医誌 2006;51:126-31.
- A.7. 花畑憲洋, 三上達也, 福田眞作, 辻 剛俊, 佐々木賀広, 村田暁彦, 田中正則, 棟方昭博. 腹膜刺激症状を呈した重症偽膜性腸炎の2例. 日本大腸肛門病会誌 2007;60:151-5.
- A.8. 福土嗣海, 佐藤 研, 瀧本美耶子, 中畑 元, 佐々木大輔, 石岡弘子. 心身医学的なアプローチにより良好な経過を得ている瘻性斜頸の1例. 心療内科 2007;11(2):124-8.
- B.1. 須藤晃司, 福田眞作, 山口佐都子, 沢谷 学, 熊本秀樹, 東野 博, 中畑 久, 松川昌勝, 遠藤 哲, 坂本十一, 篠原 敦, 松尾国弘, 淀野 啓, 棟方昭博. 肝門部 HCC に対する RFA : 症例報告. 弘前市立病院医誌 2006;15(1):9-12.
- B.2. *玉井佳子, 高見秀樹, 棟方昭博. R-CHOP 療法が奏効したアジア型血管内リンパ腫 (Asian variant intravascular lymphoma: AIVL) 症例. 臨床腫瘍プラクティス 2007;3(1):90-93.

2007年度

- A.1. 花畑憲洋, 三上達也, 福田眞作, 西谷大輔, 佐々木聡, 高畑武功, 伊東重豪, 佐々木賀広, 鬼島 宏, 棟方昭博. 早期胃癌を合併したマントル細胞リンパ腫の1例. Gastroenterological Endoscopy 2007;49(7):1674-80.
- A.2. 石黒 敦, 棟方正樹, 設楽紘平, 鈴木一広, 高畑武功, 伊東重豪, 坂田 優, 棟方昭博. S-1 単剤および肝動注化学療法が奏功している切除不能進行胆嚢癌の1例. 癌と化学療法 2007;34:1127-1130.
- A.3. 石黒 敦, 棟方正樹, 設楽紘平, 鈴木一広, 高畑武功, 伊東重豪, 青木昌彦, 坂田 優, 棟方昭博. S-1 併用化学放射線療法により QOL の改善が得られた膵頭部癌の1例. 癌と化学療法 2007;34:937-940.
- A.4. 西谷大輔, 三上達也, 福田眞作, 花畑憲洋, 佐々木聡, 蝦名佐都子, 石黒 陽, 佐々木賀広, 棟方昭博. 多量の乳糜腹水にて発症し小腸間膜脂肪織炎が疑われた1例. 日本消化器病学会雑誌 2007;104(8):1212-7.
- A.5. 西谷大輔, 斎藤大輔, 太田 健, 花田直之, 田中宗雄, 長谷川裕子, 品川博樹, 河津俊太郎, 福田眞作. びまん性食道痙攣の1例. 青森労災病院医誌 2007;17(2):17-9.
- A.6. 花田直之, 田中宗雄, 西谷大輔, 長谷川裕子, 品川博樹, 河津俊太郎, 福田眞作. 放射線療法が奏効した食道癌肉腫の1例. 青森労災病院医誌 2007;17(2):20-3.
- A.7. 田中宗雄, 遠藤 哲, 坂本十一, 佐藤 研, 島谷孝司, 櫻庭裕丈, 花田直之, 西谷大輔, 長谷川裕子, 品川博樹, 河津俊太郎, 福田眞作. 胆管腫瘍との鑑別に苦慮した Hepatic peribiliary cysts の1例. 青森労災病院医誌 2008;18(1):11-3.
- B.1. *宮田昌之, 遠藤 博, 杉浦嘉泰, 日下部崇, 栗田啓司, 三上達也, 大沢 弘. 偽性腸閉塞を呈した mitochondrial myopathy の1例. 日本内科学会雑誌 2007;96:179-185.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，B のみ）

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Laster Therapy	0	1	0
J Gastroenterol Hepatol	1.718	1	1.718
Jpn J Infect Dis	0.776	1	0.776
Eur J Clin Nutr	2.163	1	2.163
Clin Immunol	3.217	1	3.217
Tohoku J Exp Med	0.927	1	0.927
Scand J Gastroenterol	1.79	1	1.79
Microb Pathog	2.303	1	2.303
Total		8	12.894

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochemical and Biophysical Reseach Communications	2.855	1	2.855
Neuroscience letters	2.092	1	2.092
Digestive Endoscopy	0	1	0
Basic Clin Pharmacol Toxicol	0	1	0
Dig Dis Sci	1.448	1	1.448
Digestive Endoscopy	0	1	0
Tohoku J Exp Med	1.012	1	1.012
Total		7	7.407

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
Gastroenterol Endosc	1	1
日本心療内科学会誌	1	
日本大腸肛門病学会雑誌	1	
消化器と免疫	1	1
消化器心身医学	1	
血液・腫瘍科	1	
総合臨床	2	1
成人病と生活習慣病	4	
Helicobacter Research	1	1
カレントセラピー	1	1
Modern Physician	1	1
臨床腫瘍プラクティス	1	
臨床消化器内科	1	2
臨床プラクティス	1	
日本臨牀	1	
日本ヘリコバクター学会誌		1
消化器の臨床		1
計	19	10

2. 著書数（A，B のみ）

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	12	4

3. その他（A, B のみ）

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
The Medical Journal of Hirosaki City Hospital	0	1	0
Total		1	0

和文（発表論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
消化器心身医学	1	
心療内科	3	
内科	1	
胃と腸	1	
日本大腸肛門病会誌	1	
青森県立中央病院医誌	1	
弘前市立病院医誌	1	
臨床腫瘍プラクティス	1	
Gastroenterological Endoscopy		1
癌と化学療法		2
Helicobacter Research		1
日本ヘリコバクター学会誌		1
日本消化器病学会雑誌		1
青森労災病院医誌		3
日本内科学会雑誌		1
計	10	10

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- C.1. Oyama T, Shimoyama T, Fukuda S, Nakaji S, Munakata A. Does atrophic gastritis affect the accordance between stool antigen test and serology to determine *Helicobacter pylori* infection in the mass survey? AGA 2006. Los Angeles, USA, 2006.
- C.2. Fukuda S, Shimoyama T, Munakata A. Applicability of a *Helicobacter pylori* stool antigen test to determine the results of eradication therapy. AGA 2006. Los Angeles, USA 2006.
- C.3. Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S, Munakata A. Serological analysis of *Helicobacter hepaticus* infection in Japanese patients with chronic hepatitis C using new monoclonal antibodies. AGA 2006. Los Angeles, USA 2006.
- C.4. Fukushi T, Sato K, Sasaki D. Psychological features and effects of treatments in bulimia nervosa (BN). 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan. Tokyo, Japan. 2006.
- C.5. Yoshimura T, Kajihara H, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A. Clinical utility of personal cholangio-pancreatography for diagnosis of cholangio-pancreato-disease. 7th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association. Edinburgh, Scotland, 2006.
- C.6. Yoshimura T, Kajihara H, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A. Applicability of a *Helicobacter pylori* stool antigen test to determine the results of eradication therapy. 7th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association Edinburgh, Scotland. 2006.
- C.7. Shimoyama T, Takahashi R, Ohmura T, Sakamoto J, Fukuda S, Munakata A. Prevalence of antibody to *Helicobacter hepaticus* infection and its influence on hepatitis in patients with chronic hepatitis. 7th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association. Edinburgh, Scotland. 2006
- C.8. Shimoyama T, Nishiya D, Fukuda S, Nakaji S, Munakata A. Severe atrophic gastritis causes disagreement of stool antigen test and serology to determine *Helicobacter pylori* infection in the mass survey. UEGW 2006. Berlin, Germany, 2006.
- C.9. Shimaya S, Matsuzaka M, Takahashi I, Umeda T, Oyama T, Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S, Nakaji S. The recovery rate and oral-ileal transit time of orally ingested non-digestive oligosaccharide (Raffinose) in the human terminal ileum. UEGW 2006. Berlin, Germany, 2006.
- C.10. Shimoyama T, Takahashi R, Ohmura T, Sakamoto J, Fukuda S, Munakata A. Detection of antibody to *H. hepaticus* antigen and its influence on clinical features of hepatitis C. 6th Japan-China-Korea Joint Conference on *Helicobacter* infection. Busan, 2006.
- C.11. Mikami T, Fukuda S, Shimoyama T, Hanabata N, Iwamura H, Munakata A. Withdrawing method of the stiffening tube incidentally inserted into the descending colon. The 5th Japan- Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy. Japan. 2006.

2007 年度

- C.1. Shimoyama T, Takahashi R, Fukuda S. *Aspergillus oryzae*-fermented grain germ increases short chain fatty acids in the colon of rats with loperamide-induced constipation. 108th AGA. Washington DC, USA. 2007.
- C.2. Kikuchi H, Itoh J, Fukuda S, Munakata A. Nicotine regulates the immune response of human lamina propria T-cells (LPT). 108th AGA. Washington DC, USA. 2007.
- C.3. Hiraga H, Ishiguro Y, Shimaya K, Kawaguchi S, Fujita H, Sato Y, Sakuraba H, Yamagata K, Yamaguchi S, Fukuda S, Munakata A. Vitamin A-deficiency exacerbates acute intestinal inflammation by impaired macrophage activation. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.4. Sakuraba H, Ishiguro Y, Kawaguchi S, Sato Y, Hiraga H, Yamaguchi S, Yamagata K, Shimaya K, Fukuda S. Cyclosporin A prevented apoptosis-mediated epithelial injury through transforming growth factor- β related pathway. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.5. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Fujita H, Sakuraba H, Shimaya K, Sato Y, Yamagata K, Fukuda S. HSP-70 has an anti-inflammatory effects and reduced in refractory ulcerative colitis patients. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.6. Shimaya K, Ishiguro Y, Kawaguchi S, Sato Y, Hiraga H, Yamaguchi S, Sakuraba H, Yamagata K, Fukuda S. TSP-1 was reduced in refractory cases with UC, that potentiates to restore SMAD-2/3 phosphorylation and TNF- α repression. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.7. Ishiguro Y, Kawaguchi S, Fujita H, Sakuraba H, Shimaya K, Sato Y, Yamagata K, Fukuda S. MDR1 positive CD8 β low T cells in refractory UC. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.8. Shimoyama T, Nakaji S, Fukuda S, Munakata A. Infection of *Helicobacter pylori* was not associated with BMI in a mass survey. Asian Pacific Digestive Week 2007. Kobe. 2007.
- C.9. Shimoyama T, Danjo K, Mizuki I, Nakaji S, Fukuda S. Infection of *Helicobacter pylori* was not associated with body mass index of healthy subjects in a mass survey. 15th UEGW. Paris. 2007.
- C.10. Shimoyama T, Takahashi R, Aoki N, Noguchi T, Fukuda S, Fukuda Y. Effect of *probiotics-Koji* on colonic mucosal immune responses in mice with TNBS-induced colitis. 15th UEGW. Paris. 2007.
- C.11. Endo T, Danjo K, Shimoyama T, Takahashi R, Sakamoto J, Fukuda S. Dose presence of antibody to *Helicobacter hepaticus* associate with clinical of chronic hepatitis C? 15th UEGW. Paris. 2007.
- C.12. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Fujita H, Hiraga H, Yamaguchi S, Kawaguchi S, Sato Y, Shimaya K, Fukuda S, Nakane A, Munakata A. Cyclosporin A prevented apoptosis-mediated epithelial injury through transforming growth factor- β related pathway. The 1st Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology (JUCC). Tokyo. 2007.
- C.13. Shimoyama T, Nakabayashi N, Mizuki I, Sano Y, Abe D, Ohmura T, Takahashi R, Fukuda S. Identification of *Helicobacter hepaticus* infection in patients with biliary and pancreatic diseases by PCR and western blot using a specific monoclonal antibody to *H. hepaticus*. 7th China-Korea-Japan Joint Conference on Helicobacter infection. Kyoto. 2007.
- C.14. Yoshimura T, Shimoyama T, Yamai K, Fukuda S. Efficacy of the second-line *Helicobacter pylori* eradication therapy containing omeprazole or lansoprazole in a Japanese population. 7th China-Korea-Japan Joint Conference on Helicobacter infection. Kyoto. 2007.

(2) 全国学術集会

2006 年度

- A.1. 棟方昭博. 会長講演：大腸内視鏡と私のかかわり. 第61回日本大腸肛門病学会. 弘前. 2006.
- B.1. 辻 剛俊, 福田眞作, 吉村徹郎, 三上達也, 棟方昭博, 佐々木賀広. Crohn 病の長期成績と予後. 第61回日本大腸肛門病学会総会. 弘前. 2006.
- B.2. 千葉裕樹, 辻 剛俊, 三上達也, 佐々木賀広, 福田眞作, 鬼島 宏, 棟方昭博. Hyperplastic polyposis の経過観察例. 第61回日本大腸肛門病学会総会. 弘前. 2006.
- B.3. 佐々木賀広, 福田眞作, 羽田隆吉. 画像解析による下部食道嚢状血管下端の決定. 第72回日本消化器内視鏡学会総会. 札幌. 2006.
- B.4. 佐々木賀広, 福田眞作, 羽田隆吉. 潰瘍性大腸炎における表面化凹凸の定量化—治療効果判定としての画像解析. 第72回日本消化器内視鏡学会総会. 札幌. 2006.
- B.5. 下山 克, 西谷大輔, 福田眞作. 実地医家のための Hp 除菌療法—随伴症状と問題点を含めて—便中 *Helicobacter pylori* 抗原検出法を用いた効率のよい除菌, 潰瘍治療戦略. 第48回日本消化器病学会大会. 札幌. 2006.
- B.6. 玉井佳子, 石澤知子, 福田眞作. 観血的内視鏡の手技時の抗血小板薬休薬期間と出血・血栓塞栓発症状況調査ならびに手技前の適切な抗血小板薬休薬期間の設定に関する研究. 第66回日本消化器内視鏡学会総会. 札幌. 2006.
- B.7. 下山 克, 福田眞作, 棟方昭博. 除菌判定に便中抗原測定法を用いた *Helicobacter pylori* 感染潰瘍の治療戦略. 第12回日本ヘリコバクター学会. 神戸. 2006.
- B.8. 下山 克, 福田眞作, 棟方昭博. モノクローナル抗体を用いた慢性 C 型肝炎, 胆膵疾患患者における *Helicobacter hepaticus* 感染率についての検討. 第12回日本ヘリコバクター学会. 神戸. 2006.
- B.9. 三上達也, 福田眞作, 棟方昭博. 思い出の症例：臨床の原点, 原発性早期食道悪性黒色腫の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会総会. 札幌. 2006.
- B.10. 下山 克, 高橋良樹, 中林夏子, 大村武雄, 福田眞作, 棟方昭博. モノクローナル抗体を用いた慢性 C 型肝炎, 胆膵疾患患者における *Helicobacter hepaticus* 感染率についての検討. 第12回日本ヘリコバクター学会. 神戸. 2006.

- B.11. 下山 克, 福田眞作. 便中 *Helicobacter pylori* 抗原検出法を用いた効率のよい除菌, 潰瘍治療戦略. 第48回日本消化器病学会総会. 札幌. 2006.
- B.12. 石黒 陽, 山形和史, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法—当科における6-MPの治療成績—. 第48回日本消化器病学会大会. 札幌. 2006.
- B.13. 石黒 陽, 平賀寛人, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 山口佐都子, 藤田 均, 川口章吾, 佐藤裕紀, 山形和史, Atsushi Mizoguchi, 棟方昭博. Cytokine Induced Neutrophil Chemoattractant (CINC)-1のregulatory cytokine誘導とTNBS腸炎に対する防御の効果. 第43回日本消化器免疫学会総会. 弘前. 2006.
- C. 19件

2007年度

- B.1. 平賀寛人, 石黒 陽, 棟方昭博. ビタミンAによるマクロファージの機能調節と生体防御. 第93回日本消化器病学会総会. 青森. 2007.
- B.2. 島谷孝司, 櫻庭裕丈, 石黒 陽. 潰瘍性大腸炎における新たな治療標的・マーカーとしてのP-glycoprotein発現CD8αβT細胞. 第93回日本消化器病学会総会. 青森. 2007.
- B.3. 下山 克, 高橋良樹, 福田眞作. Loperamide 惹起ラット便秘モデルの腸管短鎖脂肪酸バランスの変動に及ぼすSynbiotics 麹(強力わかもと®)の効果. 第49回日本消化器病学会大会. 神戸. 2007.
- B.4. 三上達也, 佐々木賀広, 福田眞作. 胃癌・非胃癌背景粘膜模様のパターン分析—ハイリスク群の絞込みを目指して—. 第74回日本消化器内視鏡学会総会. 神戸. 2007.
- B.5. 佐藤裕紀, 平賀寛人, 石黒 陽. 粘膜バリア機能におけるVitamin Aの役割. 第49回日本消化器病学会大会. 神戸. 2007.
- B.6. 吉村徹郎, 下山 克, 福田眞作, 棟方昭博. 一般住民健診における*Helicobacter pylori*感染者と非感染者でのBMIを末梢血好中球活性酸素種産生の比較. 第13回日本ヘリコバクター学会. 大津. 2007.
- C. 24件

III. 学術賞

2006年度

- 第19回日本消化器病学会奨励賞. 小松知子. Study for determination of the optimal cessation period of therapy with anti-platelet agents prior to invasive endoscopic procedures.
- 第12回日本ヘリコバクター学会「上原*H.pylori*賞優秀賞」. 下山 克. モノクローナル抗体を用いた慢性C型肝炎, 胆膵疾患患者における*Helicobacter hepaticus*感染率についての検討.

2007年度

- 第44回日本消化器免疫病学会優秀演題賞. 石黒 陽, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 藤田 均, 山口佐都子, 川口章吾, 佐藤裕紀, 福田眞作, 棟方昭博. MDR1 positive CD8β low T cells in refractory UC.
- 第12回弘前大学医学部学術賞奨励賞. Hirotake Sakuraba, Yoh Ishiguro, Kazufumi Yamagata, Akihiro Munakata, Akio Nakane. Blockade of TGF-β accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis.

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

- 萌芽研究. ヒト生体内での消化吸収動態による食物繊維の正確な定義. 福田眞作. 700千円.
- 基盤研究C. 腸管粘膜T細胞の局所性免疫寛容機構の細胞内情報伝達の解析. 伊東重豪. 1,100千円
- 萌芽研究. 抗ヘリコバクター・ヘパティカス抗体測定系の開発と肝胆疾患との関連. 下山 克. 1,600千円.
- 若手研究B. 重症潰瘍性大腸炎の内科治療効果判定による多剤性遺伝子(MDR)の役割. 山形和史. 500千円.

他研究単位との研究分担者として

- 基盤研究(A). アレルギー疾患と腸内細菌叢の関連: 地域住民での検討. 代表: 中路重之. 3,100千円.

2007年度

研究代表者として

- 文部科学省科学研究費萌芽研究. 抗ヘリコバクター・ヘパティカス抗体測定系の開発と肝胆疾患との関連. 下山 克. 1,000千円.

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

1. 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 潰瘍性大腸炎の難治例治療と緩解維持, 棟方昭博. 1,500 千円.
2. 診療報酬における医師技術評価に関する研究; 時間と総合負荷の関係. 消化器部門・生理検査部門. 棟方昭博. 200 千円.
3. 平成19年度厚生労働省がん研究助成. ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌機序の解明と感染・再感染予防の研究. 下山 克 (代表: 兵庫医大 福田能啓). 500 千円.

2007年度

他研究単位との研究分担者として

1. 平成19年度厚生労働省がん研究助成金. ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌機序の解明と感染・再感染予防の研究. 下山 克 (代表: 兵庫医大 福田能啓). 500 千円.

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として

1. 喫煙科学研究財団 研究助成金. ニコチン受容体サブユニット発現動態による T 細胞免疫応答の分子疫学的解析. 2,000 千円

2007年度

研究代表者として

1. 平成17-19年度喫煙科学研究財団研究助成金. ニコチン受容体サブユニット発現動態による T 細胞免疫応答の分子疫学的解析. 伊東重豪. 2,000 千円/年.

他研究単位との研究分担者として

1. 三菱ウェルファーマ株式会社. ウルソ錠 100mg 特別調査ー原発性胆汁性肝硬変患者における長期使用に関する調査ー. 坂本十一.
2. 第一三共株式会社. 0歳以上の C 型慢性肝炎患者に対するフェロン特別調査. 坂本十一.

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

2006年度

檀上和真. St James's University Hospital. イギリス. 2004.5 ~ (継続)

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006年度

1. 棟方昭博（会長）．第65回大腸癌研究会．弘前．
2. 棟方昭博（会長）．第43回日本消化器免疫学会総会．弘前．
3. 棟方昭博（会長）．第61回日本大腸肛門病学会総会．弘前．

2007年度

1. 福田眞作（事務局長）．第93回日本消化器病学会総会．青森．

b) 地方レベルの学会の主催

2007年度

1. 福田眞作（会長）．第140回日本消化器内視鏡学会東北支部例会．仙台．
2. 佐藤 研（事務局長）．第65回日本心身医学会東北地方会．弘前．

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

2006年度

1. 島谷孝司，石黒 陽，山形和史，櫻庭裕丈，藤田 均，平賀寛人，山口佐都子，川口章吾，佐藤裕紀，棟方昭博．潰瘍性大腸炎腸管局所における TGF- β 受容体の検討．厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 平成18年度第1回総会．東京．2006．
2. 島谷孝司，石黒 陽，櫻庭裕丈，佐藤裕紀，川口章吾，平賀寛人，山口佐都子，藤田 均，山形和史，棟方昭博．難治性潰瘍性大腸炎における多剤耐性遺伝子発現に関する検討．厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班 平成18年度第2回総会．東京．2006．
3. 下山 克．最新文献紹介．*Helicobacter Research* 2006;10(6):83-85．

2007年度

1. 島谷孝司，櫻庭裕丈，川口章吾，佐藤裕紀，山形和史，平賀寛人，石黒 陽，福田眞作，棟方昭博．潰瘍性大腸炎における血小板由来 TSP-1 の機能について．厚生労働省科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」平成19年度第1回総会．東京．2007．
2. 川口章吾，石黒 陽，山形和史，櫻庭裕丈，島谷孝司，佐藤裕紀，福田眞作．腸管上皮細胞における RIG-I の発現調節．厚生労働省科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」平成19年度第2回総会．東京．2008．

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

80%

理念：

近未来の医療の進歩に有用となる情報を世界に向けて発信すること。
大学のスタッフとしてバランスのとれた研究活動，教育，臨床を行う。

これから2年間の目標：

原著英文論文を1年に10編以上報告すること。とくに原著論文，英文論文，Impact Factor3以上の質の高い論文を刊行する。
研究代表者として科学研究費補助金の採択。
教官，医員，大学院生の研究指導を行う。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 2，講師 2，助手 5，医員 5，大学院学生 15名，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	奥村 謙	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助教授	専 任	長内 智宏	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助教授	専 任	高梨 信吾	H18.4.1 ～ H19.3.31
	講 師	専 任	花田 裕之	H18.4.1 ～ H19.3.31
	講 師	専 任	中村 典雄	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助 手	専 任	岩佐 篤	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助 手	専 任	横山 仁	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助 手	専 任	樋熊 拓未	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助 手	専 任	佐々木真吾	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助 手	専 任	藤本 幸士	H18.4.1 ～ H19.3.31
	助 手	専 任	小林 孝男	H18.7.1 ～ H19.9.30
研究課題	1. Coupling factor 6の循環器疾患における役割に関する研究 2. 冠攣縮性狭心症の成因に関する研究 3. 急性心筋梗塞の成因と治療に関する臨床的研究 4. 冠細小動脈におけるアルドステロンの収縮作用機序に関する研究 5. 呼気濃縮液の臨床的有用性に関する研究 6. 呼気ガスによる気道炎症の評価に関する研究 7. 胸水の診断に関する研究 8. 肺癌の進展に関する組織学的研究 9. 腎疾患と脂肪酸代謝に関する臨床的研究 10. 脂肪酸乳剤による実験腎炎の治療効果についての研究			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 2，講師 2，助教 6，助手 0，医員 4，大学院学生 14，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	奥村 謙	H19.4.1 ～ H20.3.31
	准教授	専 任	長内 智宏	H19.4.1 ～ H20.3.31
	准教授	専 任	高梨 信吾	H19.4.1 ～ H20.3.31
	講 師	専 任	花田 裕之	H19.4.1 ～ H20.3.31
	講 師	専 任	中村 典雄	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	佐々木真吾	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	樋熊 拓未	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	及川 広一	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	大和田真玄	H19.4.1 ～ H20.3.31 (H19.11.1 ～ H19.12.31を除く)

研究課題	1. 虚血性心疾患の病態と治療に関する研究 2. 冠動脈攣縮の発生機序に関する研究 3. 不整脈の病態と治療に関する研究 4. Coupling factor 6の循環器疾患における役割に関する研究 5. 循環器疾患における内因性一酸化窒素合成酵素阻害物質の役割に関する研究 6. 心停止患者治療法に関する研究 7. 呼吸濃縮液の臨床的有用性に関する研究 8. 呼吸ガスによる気道炎症の評価に関する研究 9. 腎疾患と脂肪酸代謝に関する臨床的研究 10. 脂肪酸乳剤による実験腎炎の治療効果についての研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Yokoyama J, Kushibiki M, Fujiwara T, Tamura Y, Maeda N, Higuma T, Sasaki S, Yoshimachi F, Matsunaga T, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Feasibility and safety of thrombectomy with TVAC™ aspiration catheter system for patients with acute myocardial infarction. Heart and Vessels 2006;21:1-7.
- A.2. Abe N, Osanai T, Fujiwara T, Kameda K, Matsunaga T, Okumura K. C-reactive protein-induced upregulation of extracellular matrix metalloproteinase inducer by in macrophages: inhibitory effect of fluvastatin. Life Science 2006;78:1021-1028.
- A.3. Ashikaga K, Kobayashi T, Kimura M, Owada S, Sasaki S, Iwasa A, Furukawa K, Motomura S, Okumura K. Effects of amiodarone on electrical and structural remodeling induced in a canine rapid pacing-induced persistent atrial fibrillation model. Eur J Pharmacol 2006;536:148-153.
- A.4. Osawa H, Nakamura N, Shirato K, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Yamabe H, Okumura K. Losartan, an angiotensin-II receptor antagonist, retards the progression of advanced renal insufficiency. Tohoku J Exp Med 2006;209:7-13.
- A.5. Tomita H, Sasaki S, Osanai T, Nakano T, Higuma T, Yokoyama J, Hanada H, Yasujima M, Okumura K. Mutational analysis of Kir6.1 in Japanese patients with coronary spastic angina. Int J Mol Med 2006;18:589-591.
- A.6. Abe N, Matsunaga T, Kameda K, Tomita H, Fujiwara T, Ishizaka H, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased level of pericardial insulin-like growth factor-1 in patients with left ventricular dysfunction and advanced heart failure. J Am Coll Cardiol 2006;48:1387-1395.
- A.7. Nakamura M, Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Osanai T, Okumura K. Hypoxic conditions stimulate the production of angiogenin and vascular endothelial growth factor by human renal proximal tubular epithelial cells in culture. Nephrol Dial Transplant 2006;21:1489-1495.
- A.8. Morimoto T, Takanashi S, Hasegawa Y, Fujimoto K, Okudera K, Hayashi A, Taima K, Okumura K. Level of antibodies against mycobacterial glycolipid in the effusion for diagnosis of tuberculous pleural effusion. Respir Med 2006;100:1775-80.
- A.9. Okudera K, Kamata Y, Takanashi S, Hasegawa Y, Tsushima T, Ogura Y, Nakanishi K, Sato H, Okumura K. Small adenocarcinoma of the lung: prognostic significance of central fibrosis chiefly because of its association with angiogenesis and lymphangiogenesis. Pathol Int 2006;56:494-502.
- A.10. Kumasaka R, Nakamura N, Shirato K, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Nakamura M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Nephrotic syndrome associated with interferon-β-1b therapy for multiple sclerosis. Clin Exp Nephrol 2006;10:222-225.
- A.11. Tanaka M, Osanai T, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Satoh K, Magota K, Okumura K. Effect of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells: enhanced release of asymmetric dimethylarginine. J Hypertens 2006;24:489-497.
- A.12. Kameda K, Matsunaga T, Abe N, Hanada H, Ishizaka H, Owada S, Tomita H, Oikawa K, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased pericardial fluid level of matrix metalloproteinase-9 activity in patients with acute myocardial infarction : possible role in the development of cardiac rupture. Circ J 2006;70:673-678.
- A.13. Yamabe H, Shimada M, Kaizuka M, Nakamura M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Nakamura N, Osawa H, Okumura K. Roxithromycin inhibits transforming growth factor-β production by cultured human mesangial cells. Nephrology 2006;11:524-530.
- A.14. Fujita T, Nakamura N, Kumasaka R, Shimada M, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Comparison of lipid and fatty acid metabolism between minimal change nephritic syndrome and membranous nephropathy. In vivo 2006;20:891-894.
- A.15. Kumasaka R, Nakamura N, Yamabe H, Osawa H, Shirato K, Shimada M, Murakami R, Fujita T, Okumura K, Hamazaki K, Hamazaki T. Fatty acid composition of plasma and kidney in rats with anti-Thy1.1 nephritis. In vivo 2007;21:77-80.

- A.16. Nakamura N, Yaegaki M, Sugawara T, Shirato K, Kumasaka R, Nakamura M, Shimada M, Fujita T, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Acute tubulointerstitial nephritis with antineutrophil cytoplasmic antibody. *Hong Kong J Nephrol* 2006;8:33-35.
- A.17. Nakamura N, Fujita T, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Systemic lupus erythematosus and blood type. *Lancet* 2006;368(9540):1022.
- A.18. Yokoyama J, Sutoh N, Higuma T, Horiuchi D, Katoh C, Yokota T, Echizen T, Sasaki S, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Efficacy and safety of low-dose pioglitazone after primary coronary angioplasty with the use of bare metal stent in patients with acute myocardial infarction and with type 2 diabetes mellitus or impaired glucose tolerance. *Heart Vessels* 2007;22:146-151.
- B.1. Nozawa T, Inoue H, Hirai T, Iwasa A, Okumura K, Lee JD, Shimizu A, Hayano M, Yano K. D-dimer level influences thromboembolic events in patients with atrial fibrillation. *Int J Cardiol* 2006;109:59-65.
- B.2. Inoue H, Nozawa T, Hirai T, Iwasa A, Okumura K, Lee JD, Shimizu A, Hayano M, Yano K. Accumulation of risk factors increases risk of thromboembolic events in patients with nonvalvular atrial fibrillation. *Circ J* 2006;70:651-656.
- B.3. Tsuneda T, Yamashita T, Fukunami M, Kumagai K, Niwano S, Okumura K, Inoue H. Rate control and quality of life in patients with permanent atrial fibrillation –the quality of life and atrial fibrillation (QOLAF) study- *Circ J* 2006;70:965-970.
- B.4. Yamashita T, Ogawa S, Aizawa Y, Atarashi H, Inoue H, Ohe T, Okumura K, Ohtsu H, Kato T, Kamakura S, Kumagai K, Kurachi Y, Kodama I, Koretsune Y, Saikawa T, Sakurai M, Sugi K, Nakaya H, Hrai M, Hrayama A, Fukatani M, Mitamura H, Yamazaki T, Watanabe E ; on behalf of the J-RHYTHM II Investigators Randomized study of angiotensin II type 1 receptor blocker vs dihydropyridine calcium antagonist for the treatment of paroxysmal atrial fibrillation in patients with hypertension. *Circ J* 2006;70:1318-1321.

2007 年度

- A.1. Okumura K. Extracellular Matrix Remodeling as a cause of persistent Atrial Fibrillation: Another therapeutic Target. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2007;10:1083-5.
- A.2. Kumasaka R, Nakamura N, Yamabe H, Osawa H, Shirato K, Shimada M, Murakami R, Fujita T, Okumura K, Hamazaki K, Hamazaki T. Fatty Acid Composition of Plasma and Kidney in Rats with Anti-Thy1.1 Nephritis. *In vivo* 2007;21:77-80.
- A.3. Tomohiro Osanai and Ken Okumura. Therapeutic Challenge to Adiposity of the Heart. *Circ.Res.*2007;100:1106-1108.
- A.4. Kushibiki M, Yamada M, Oikawa K, Tomita H, Osanai T, Okumura K. Aldosterone causes vasoconstriction in coronary arterioles of rats via angiotensin II type-1 receptor: Influence of hypertension. *Eur J Pharmacol* 2007;572:182-18.
- A.5. Fujiwara T, Matsunaga T, Kameda K, Abe N, Ono H, Higuma T, Yokoyama J, Hanada H, Osanai T, Okumura K. Nicorandil suppresses the increases in plasma level of matrix metalloproteinase activity and attenuates left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction. *Heart Vessels* 2007;22:303-309.
- A.6. Murakami R, Murakami S, Tsushima R, Ueda C, Mikami K, Ebina T, Kumasaka R, Nakamura N, Okumura K. Glycaemic control and serum intact parathyroid hormone levels in diabetic patients on haemodialysis therapy. *Nephrology Dialysis Transplantation* 2008;23:315-320.
- B.1. Komatsu T, Tachibana H, Sato Y, Ozawa M, Nakamura M, Okumura K. Efficacy of Amiodarone for Preventing the Recurrence of Symptomatic Paroxysmal and Persistent Atrial Fibrillation After Cardioversion. *Circ J* 2007;71:46-51.
- B.2. Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Takanashi S, Wakabayashi K, Takahashi R, Hattori N, Satoh K. Parkin is expressed in vascular endothelial cells. *Neurosci Lett* 2007;419:199-201.
- B.3. Aoki M, Abe Y, Kondo H, Hatayama Y, Kawaguchi H, Fujimori A, Suzuki K, Seino M, Morita T, Souma M, Tsushima T, Takanashi S. Clinical outcome of stereotactic body radiotherapy of 54 Gy in nine fractions for patients with localized lung tumor using a custom-made immobilization system. *Radiat Med* 2007;25:289-294.

和文

2006 年度

- A.1. 中村典雄, 熊坂隆一郎, 藤田 雄, 島田美智子, 村上礼一, 大沢 弘, 山辺英彰, 奥村 謙. 腎機能障害における多価不飽和脂肪酸代謝についての検討—腎不全における脂質栄養の観点から. *腎臓* 2006;28(3):203-208.
- A.2. 大沢 弘, 中村典雄, 白戸研一, 菅原俊之, 島田美智子, 熊坂隆一郎, 藤田 雄, 村上礼一, 山辺英彰, 奥村 謙. ネフローゼ症候群, M蛋白血症, 非ホジキンリンパ腫の合併が認められた慢性C型肝炎の1例「記憶に残る症例シリーズ」⑧. *内科専門医会誌* 2006;18(1):70-73.
- C.1. 田村 弦, 高梨信吾, 佐々木昌博, 小林 仁, 山内広平, 進藤千代彦, 飛田 渉, 井上洋西. 日本人の若年者(10歳から20歳)の呼吸機能検査の基準値. *日呼吸会誌* 2006;44(12):916-922.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 花田裕之, 奥村 謙. 急性心不全におけるホスホジエステラーゼ (PDE) III阻害薬オルプリノンの血行動態ならびに体液性因子に対する効果. 循環器科 2006;59:198-205.
- A.2. 佐々木真吾, 小林孝男, 木村正臣, 足利敬一, 堀内大輔, 岩佐 篤, 奥村 謙. 植込み型除細動器. Heart View 2006;10:108-113.
- A.3. 奥村 謙. 失神へのアプローチ. Modern Physician 2006;26:612.
- A.4. 奥村 謙, 岩佐 篤, 佐々木真吾, 小林孝男, 木村正臣, 堀内大輔. 大規模臨床試験から学んだこと. Heart View 2006;9:56-61.
- A.5. 岩佐 篤, 奥村 謙. 心房頻拍のカテーテルアブレーション. Modern Physician 2006;26:1602-1607.
- A.6. 佐々木真吾, 岩佐 篤, 奥村 謙. 循環器疾患 洞機能不全症候群 Medicinia 医学書院 2006;43:20-23.
- A.7. 中村典雄. 脳血管障害. シンポジウム「糖尿病性腎症と血管合併症を考える. 東北腎不全研究会誌. 2006, 16:18-19.
- A.8. 中村典雄, 奥村 謙. 透析患者にみられる不整脈. 循環器症候群 (第2版) I ~その他の循環器疾患を含めて~. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.4, 2007;458-462.
- A.9. 佐々木真吾. 洞不全症候群 medicinia 増刊 Common Disease インストラクションマニュアル 患者に何をどう説明するか
- A.10. 佐々木真吾. 特集 不整脈診療の基本と新しい対応各種病態での抗不整脈薬の使い方 虚血性心疾患 月間「臨床と研究」平成18年10月号特集企画
- B.1. 花田裕之, 奥村 謙. メタボリックシンドローム 循環器症候群 (第2版) 日本臨床 2007年9月
- B.2. 花田裕之. ガイドライン2005における心電図診断の役割 救急医療ジャーナル 86, 24-30, 2007年8月
- C.1. 奥村 謙編 シミュレーション内科学 心筋梗塞・狭心症をさぐる 疾患編 23 最近になって胸痛が起こりやすくなった 永井書店 2006年5月
- C.2. 野々木宏編 ECC 超急性期をのりこえる 再灌流療法に年齢制限はあるか? 中山書店 2007年3月
- C.3. 奥村 謙編 シミュレーション内科学 心筋梗塞・狭心症をさぐる 疾患編 15 心筋梗塞後, 左室機能が低下した多枝病変例に対する治療方針 永井書店 2006年5月

2007年度

- A.1. 奥村 謙. 実地医家の治療の実際: 合併する心室性不整脈治療のコツ Medical Practice 2007;24:883-887.
- A.2. 奥村 謙. 心房粗動 Pharma Medica 2007;25:17-21.
- A.3. 岩佐 篤, 佐々木真吾, 木村正臣, 小林孝男, 足利敬一, 堀内大輔, 奥村 謙. Entrainment Pacing および CARTO マッピングがリエントリー局在の同定に有用であった開心術後の心房粗動の1例 臨床心臓電気生理 2007;30:91-97.
- A.4. 奥村 謙, 佐々木真吾, 木村正臣, 大和田真玄, 堀内大輔. 心房細動の病型に基づく薬物治療 Heart View 2007;11:92-99.
- A.5. 奥村 謙, 佐々木真吾, 木村正臣, 大和田真玄, 堀内大輔. 心房細動治療—日本の指針— 循環器科 2007;61:442-451.
- A.6. 中村典雄, 奥村 謙. 透析患者にみられる不整脈 別冊日本臨床 2007:458-462.
- A.7. 奥村 謙. 合併する心室性不整脈治療のコツ Medical Practice 2007;24:883-887.
- A.8. 奥村 謙. 心電図, 胸部X線で診断する 新・心臓病診療プラクティス10心筋症を識る・診る・治す 2007;183-186.
- A.9. 奥村 謙. リズムコントロールとレートコントロールの選択 心房細動: アップストリーム治療とダウンストリーム治療 心房細動の発作予防と薬物療法コントロール 2007;165-169.
- A.10. 奥村 謙. 3次元マッピング法と新たな臨床心電学の構築 心電図 2007;27:579-580.
- A.11. 奥村 謙. 抜歯の際に抗凝固薬, 抗血小板薬を中止しなくてはならない? 新・心臓病診療 プラクティス9弁膜症を解く 文光堂 2007:111-113.
- A.12. 奥村 謙. 心房細動の包括的管理 Pharma Medica 2007;25:91-96.
- A.13. 奥村 謙. 目時典文. 心原性脳塞栓のクリティカルケア—心房細動の管理重要性— clinician 2007;54:65-69.
- A.14. 小林孝男, 佐々木真吾, 奥村 謙. 肥大型心筋症ハンドブック 不整脈の治療 (上室性 / 心室性) 日本医事新報社 2007:273-283.
- A.15. 高梨信吾. 好酸球性肺炎 総合臨床 2007;56:172-177.
- B.1. 花田裕之, 奥村 謙. メタボリックシンドローム 循環器症候群 (第2版) 日本臨床 2007年9月
- B.2. 花田裕之. ガイドライン2005における心電図診断の役割 救急医療ジャーナル 86, 24-30, 2007年8月

(3) 著書

英文

2007年度

- C.1. 花田裕之監訳 ACLS プロバイダーマニュアル G2005 日本語版 シナジー社 2007年8月

和文

2006年度

- A.1. 奥村 謙. ペースメーカー 今日の治療指針2006 医学書院 2006年, P249-250.
- A.2. 奥村 謙. 頻脈性不整脈. 臨床心臓病学. 2006年, P477-486.
- A.3. 奥村 謙. 総論 冠動脈造影法. シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P24-33.
- A.4. 奥村 謙. 持続性胸痛から AMI が疑われるが心筋マーカーに異常を認めない. シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P107-113.
- A.5. 横山 仁, 奥村 謙. AMI 患者はすべて緊急冠動脈造影検査と PCI の適応か? シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P128-131.
- A.6. 佐々木真吾, 堀内大輔, 小林孝男, 木村正臣, 足利敬一, 岩佐 篤, 奥村 謙. AMI 急性期にはどんな不整脈が見られるか? シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P132-139.
- A.7. 樋熊拓未, 奥村 謙. 心筋梗塞後, 左室機能が低下した多枝病変例に対する治療方針. シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P171-179.
- A.8. 岩佐 篤, 奥村 謙. 心筋梗塞により左室機能が著明に低下し, 突然死のリスクが高い, 予防策は? シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P187-193.
- A.9. 花田裕之, 奥村 謙. 半年前より重労働時に胸痛を自覚していたが最近になって置きやすくなった. シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P225-230.
- A.10. 長内智宏, 奥村 謙. 虚血性心疾患の二次予防. シミュレーション内科: 心筋梗塞・狭心症を探る. 奥村 謙 編. 永井書店. 2006年, P249-253.
- A.11. 奥村 謙. 電気生理学的検査. 内科学 I. 金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男 編. 医学書院. 2006年, P643-651.
- A.12. 奥村 謙. 必要な心臓電気生理学的知識. カテーテルアブレーションー基本から最新治療までー 2006年, P30-43.
- A.13. 中村典雄, 小林 正: インスリンおよび消化管ホルモアナログ. 「看護のための最新医学講座 (第2版) 8巻 糖尿病と合併症」南條輝志男編, 2006年, P96-105, 中山書店, 東京.
- A.14. 中村典雄: 慢性腎不全. 「市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにー」水島 豊, 管世智子編, 2007年, P71-74, 弘前大学出版会, 弘前.

2007年度

- A.1. 奥村 謙. ステップで判読心電図 南光堂 2007
- A.2. 奥村 謙. ペースメーカー・ICD・CRT ブック メジカルビュー社 2007
- A.3. 奥村 謙, 井上 博. EPS 臨床心臓電器生理検査 第2版 医学書院 2007:5-489
- A.4. 奥村 謙, 小松 隆. 発作性心房細動と自律神経 Annual Review 循環器 2007:107-114

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. Nakamura N, Fujita T, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Systemic lupus erythematosus and blood type. Lancet 2006;368:1022.

和文

2006年度

- A.1. 大沢 弘, 中村典雄, 白戸研一, 菅原俊之, 島田美智子, 熊坂隆一郎, 藤田 雄, 村上礼一, 山辺英彰, 奥村 謙. ネフローゼ症候群, M 蛋白血症, 非ホジキンリンパ腫の合併が認められた慢性 C 型肝炎の 1 例. 内科専門医会誌 2006;18:70-73.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Heart Vessels	0.829	2	1.658
Life Sci	2.158	1	2.158
Eur J Pharmacol	2.432	1	2.432
Tohoku J Exp Med	0.7	1	0.7
Int J Mol Med	3.19	1	3.19
J Am Coll Cardiol	9.133	1	9.133
Nephrol Dial Transpl	2.84	1	2.84
Resp Med	1.511	1	1.511

Pathol Int	1.073	1	1.073
J Hypertens	4.871	1	4.871
Circ J	1.797	1	1.797
Nephrology	0.278	1	0.278
In vivo	0.811	2	1.622
Int J Cardiol	2.095	1	2.095
Circ J	1.797	3	5.391
Total		19	40.749

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Cardiobasc Electrophysiol	3.475	1	3.475
Nephritis	1.143	1	1.143
Circ Res	9.721	1	9.721
Eur J Pharmacol	2.376	1	2.376
Heart Vessels	1.043	1	1.043
Nephrology Dialysis Transplantation	3.167	1	3.167
Circ J	2.373	1	2.373
Neurosci Lett	2.085	1	2.085
Total		8	25.383

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
腎臓	1	
内科専門医会誌	1	
循環器科	1	1
Heart View	2	1
Modern Physician	2	
Medicina	2	
東北腎不全研究会誌	1	
日本臨床	1	
臨床と研究	1	
Medical Practice		2
Pharma Medica		2
臨床心臓電気生理		1
別冊日本臨床		1
新・心臓病診療プラクティス		2
心電図		1
clinician		1
肥大型心筋症ハンドブック		1
総合臨床		1
心房細動の発作予防と薬物療法コントロール		1
計	12	15

2. 著書数（A, Bのみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	1
編 集	0	0
分担執筆	0	8

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	3	0
編 集	8	0
分担執筆	3	17

3. その他（A, Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Lancet	21.713	1	21.713
Total		1	21.713

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
内科専門医会誌	1	
計		

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. Okumura K. Entrainment and three dimensional mapping of idiopathic left ventricular tachycardia. Cardiotim, Nice, France, 2006年6月.
- B.2. Okumura K. Drug treatment of paroxysmal and persistent atrial fibrillation: Efficacy and clinical significance. 2nd Asian Pacific AF Symposium. Tokyo, Japan, 2006年11月.
- B.3. Okumura K. Effect and limitation of rhythm control strategy for paroxysmal and persistent atrial fibrillation. International Society for Heart Research. Chiba, Japan, 2006年12月.
- B.4. Tomohiro Osanai. Salt intake and vasoconstrictor coupling factor 6 in end-stage renal disease. 24th Annual Meeting of the International Society of Blood Purification, Nara (Japan), September 8-10, 2006.
- C.1. Tomohiro Osanai. Vasoconstrictor coupling factor 6 activates c-src by intracellular acidosis and inhibits prostacyclin synthesis in resistance arterioles vascular smooth muscle cells. Scientific Session 2006 (American Heart Association), Chicago (USA), November 12-15, 2006.
- C.2. Morimoto T, Takanashi S, Fujimoto K, Okudera K, Hayashi A, Taima K, Nakagawa H, Okumura K. Nitrite/nitrate levels in exhaled breath condensate are increased but exhaled nitric oxide levels were not in COPD. European Respiratory Society, Munchen, Germany
- C.3. Fujita T, Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Shimada M, Murakami R, Kumasaka R, Okumura K: Thrombin enhances the production of monocyte chemoattractant protein 1 (MCP-1) and macrophage inflammatory protein 2 (MIP-2) in cultured rat glomerular epithelial cells (GEC): The inhibition by argatroban and prednisolone. 39th Annual Meeting and Scientific Exposition, Renal Week 2005, The American Society of Nephrology, 2006, 11, San Diego, California, U.S.A.

2007年度

- C.1. Tomohiro Osanai. Coupling factor 6 activates c-src by intracellular acidosis and enhances calcium signaling in resistance arterioles vascular smooth muscle cells. Scientific Session 2007 (American Heart Association), Orland (USA), November 4-7, 2007.
- C.2. Morimoto T, Takanashi S, Fujimoto K, Sugawara M, Nakamura K, Mikuniya M and Okumura K CXCL-10 Level in Exhale Breath Condensate Correlate the Emphysematous Score in COPD. American Thoracic Society San-Francisco USA

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 奥村 謙. 冠攣縮性狭心症の診断と治療. 第54回日本心臓病学会学術集会. 鹿児島. 2006年9月.
- B.2. 奥村 謙. 難治性不整脈薬物療法: アミオダロンの導入・管理を中心に. 第54回日本心臓病学会学術集会. 鹿児島. 2006年9月.
- B.3. 奥村 謙. 上室性不整脈の薬物治療ガイドラインの問題点. 第71回日本循環器学会学術集会. 神戸. 2007年3月.
- C. 17件

2007年度

- A.1. 奥村 謙, 不整脈の非薬物治療ガイドライン改訂の概説
第22回日本不整脈学会学術大会, 広島, 2007年6月
- A.2. 奥村 謙, 心不全・心筋梗塞の生命予後と RA 系阻害薬
第55回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2007年9月
- A.3. 奥村 謙 AF アブレーションの今後
第72回日本循環器学会, 福岡, 2008年3月
- A.4. 奥村 謙 ガイドラインに学ぶ
第72回日本循環器学会, 福岡, 2008年3月
- A.5. 奥村 謙 薬物療法でのみ誘発される Brugada 型心電図は予後不良なのか? 第72回日本循環器学会, 福岡, 2008年3月
- A.6. 日本循環器学会総会 ミートザエキスパートセッション: How to Use Invasive Hemodynamics to Make Therapeutic Decision 英語口述発表 Invasive hemodynamics are useful for the management of the patients with mechanical circulatory support by extracorporeal circulation.
- A.7. 一般演題 ポスター発表 1題 Importance of Mechanical Circulatory Support and Immediate Reperfusion in Patients with Acute Coronary Syndrome and Metabolic Phase of Ventricular Fibrillation

C. 7件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

平成18年度科学研究費補助金

研究種目：基礎研究（C）

研究課題：「冠攣縮性狭心症の成因に関する臨床分子生物学的研究」

研究代表者：奥村 謙

配分額：1,700（千円）

平成18年度科学研究費補助金

研究種目：基盤研究（C）（2）

研究課題：「Coupling factor 6の心疾患における病態生理学的役割に関する研究」

研究代表者：長内智宏

配分額：1,600（千円）

平成18年度科学研究費補助金

研究種目：若手（B）

研究課題：「虚血性心疾患における内因性顆粒球コロニー刺激因子の動態と制御因子に関する研究」

研究代表者：樋熊拓未

配分額：1,100（千円）

2007年度

研究代表者として

平成19年度科学研究費補助金

研究種目：基礎研究（C）

研究題目：「冠攣縮性狭心症の成因に関する臨床分子生物学的研究」

研究代表者：奥村 謙

分配額：1,700（千円）

研究種目：基盤研究（C）（2）

研究題目：新規昇圧物質カップリングファクター 6の網羅的機能解析と心血管病態形成機序の解明

研究代表者：長内智宏

分配額：1,800（千円）

研究種目：若手（B）

研究課題：虚血性心疾患における内因性顆粒球コロニー刺激因子の動態と抑制因子に関する研究

研究代表者：樋熊拓未

分配額：1,400（千円）

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

循環器病研究委託事業

研究種目：16公-3

研究課題：「無症候性 Brugada 症候群の予後に関する研究」

研究代表者：奥村 謙

配分額：900（千円）

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2007年度

主催者：奥村 謙

集会名：日本不整脈学会カテーテル・アブレーション秋季大会2007

開催地：青森市

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

第84回日本呼吸器学会東北地方会（会長：高梨信吾）

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2007年度

留学者名：樋熊拓未

研究機関：京都大学大学院医学研究科内科系内科学講座循環器内科学

国名：日本（内地留学）

期間：平成19年5月14日～平成19年8月31日

VII. その他

なし

13. 内分泌代謝内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：
80%

理念：

内分泌代謝学の臨床レベルを日本でトップレベルにする。

これから2年間の目標：

内分泌代謝学の啓蒙，若手研究者の育成，内分泌代謝専門医の育成
教科書の改訂

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 4，助手 4，医員 15，大学院学生 8，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	須田 俊宏	
	助教授	専 任	玉澤 直樹	
	講 師	専 任	小川 吉司	
	講 師	専 任	松井 淳	
	講 師	専 任	丹藤 雄介	
	講 師	専 任	蔭山 和則	
	助 手	専 任	崎原 哲	
	助 手	専 任	二川原 健	
	助 手	専 任	村上 宏	
	助 手	専 任	照井 健	
	助 手	専 任	柳町 幸	
研究課題	1. 視床下部－下垂体－副腎系の基礎的，臨床的研究 2. 下垂体における ACTH 分泌機構とストレス反応メカニズム 3. 2 型糖尿病におけるコレステロール逆転送系調節機構の異常解明 4. 超速効型インスリンアナログ製剤による大血管障害予防効果の検討 5. 若年発症2型糖尿病患者の臨床的背景についての疫学的研究 6. 膵炎発症メカニズムの解析 7. 膵外分泌不全の病態と治療に関する研究			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 4，助教 4，助手 0，医員 15，大学院学生 8，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授		須田 俊宏	
	准教授		玉澤 直樹	
	講 師		小川 吉司	
	講 師		松井 淳	
	講 師		丹藤 雄介	
	講 師		蔭山 和則	
	助 教		崎原 哲	
	助 教		二川原 健	
	助 教		柳町 幸	

研究課題	1. 視床下部－下垂体－副腎系の調節機序 2. ストレス応答機構の解明 3. クッシング症候群およびサブクリニカルクッシング症候群の診断と治療 4. 摂食行動における視床下部－下垂体－副腎皮質機能の関与 5. Urocortin の作用とその作用機序 6. 臍β細胞の機能調節 7. 糖尿病治療薬に関する臨床研究 8. 糖尿病と大血管障害（動脈硬化症） 9. 慢性膵炎患者における消化吸収障害の評価 10. 臍外分泌不全の病態と治療に関する研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. K. Kageyama, K. Hanada, T. Moriyama, T. Nigawara, S. Sakihara, T. Suda. G-protein-coupled receptor kinase 2 involvement in desensitization of CRF receptor type 1 by CRF in murine corticotrophs. *Endocrinology* 2006; 147:441-450.
- A.2. T. Nigawara, Y. Iwasaki, M. Asai, M. Yoshida, M. Kanbayashi, H. Sashinami, K. Hashimoto, T. Suda. Inhibition of 11-β HSD eliminates impaired glucocorticoid suppression and induce apoptosis in corticotroph tumor cells. *Endocrinology* 2006;147:769-772.
- A.3. K. Kageyama, R. Kimura, S. Suga, Y. Ogawa, T. Suda, M. Wakui. Modulation of Ca²⁺ influx by CRF family of peptides via CRF receptors in rat pancreatic β-cells. *Peptides* 2006;27:1814-1819.
- A.4. K. Kageyama, K. Hanada, T. Nigawara, T. Moriyama, K. Terui, S. Sakihara, T. Suda. Urocortin induces interleukin-6 gene expression via cyclooxygenases-2 activity in aortic smooth muscle cells. *Endocrinology* 2006;147:4454-4462.
- A.5. T. Kudo, J. Wu, Y. Ogawa, S. Suga, N. Hasegawa, T. Suda, H. Mizukami, S. Yagihashi, M. Wakui. Novel mechanism of chronic exposure of oleic acid-induced insulin release impairment in rat pancreatic b-cells. *The Journal of pharmacology and experimental therapeutics.* 2006;318:1203-1210.
- A.6. K. Kageyama, K. Terui, S. Tsutaya, E. Matsuda, M. Shoji, S. Sakihara, T. Nigawara, S. Takayasu, T. Moriyama, M. Yasujima, T. Suda. Gene analysis of the calcium channel 1 subunit and clinical studies for two patients with hypokalemic periodic paralysis. *J. Clin. Invest.* 2006;29:928-933.
- A.7. Tamasawa N, Matsui J, Murakami H, Tanabe J, Matsuki K, Ogawa Y, Ikeda Y, Takagi A, Suda T. Glucose-stimulated insulin response in non-diabetic patients with lipoprotein lipase deficiency and hypertriglyceridemia. *Diabetes Res Clin Pract.* 2006;72(1):6-11.
- A.8. Terui K, Shoji M, Yamashiki J, Hirai Y, Ishiguro A, Tsutaya S, Kageyama K, Yasujima M, Suda T. A novel mutation of the thiazide-sensitive sodium-chloride cotransporter gene in a Japanese family with Gitelman syndrome. *Clinical Nephrology* 2006;65(1):57-60.
- B.1. S. Takayasu, T. Sakurai, S. Iwasaki, H. Teranishi, A. Yamanaka, C. C. Williams, H. Iguchi, A. Dohmae, J. Xie, T. Suda, T. Motoike, T. Ohuchi, M. Yanagisawa, J. Sakai. A neuropeptide ligand of the G protein-coupled receptor GPR103 regulates feeding, behavioral arousal and blood pressure in mice. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2006 May 9;103(19):7438-43.

2007年度

- A.1. K. Kageyama, K. Hanada, T. Nigawara, K. Furukawa, K. Terui, E. Ogura, S. Motomura, T. Suda. Inhibitory effects of glucocorticoids on urocortin-mediated increases in interleukin-6 gene expression in rat aortic smooth muscle cells. *PEPTIDES* 28:1059-1067,2007.
- A.2. Kageyama K, Hanada K, Moriyama T, Imaizumi T, Satoh K, Suda T. Differential regulation of CREB and ERK phosphorylation through corticotropin-releasing factor receptors type 1 and 2 in AtT-20 and A7r5 cells. *Mol Cell Endocrinol* 2007;263(1-2):90-102.
- A.3. Kageyama K, Hanada K, Iwasaki Y, Sakihara S, Nigawara T, Kasckow J, Suda T. Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide stimulates corticotropin-releasing factor, vasopressin, and interleukin-6 gene transcription in hypothalamic 4B cells. *J Endocrinol* 2007;195:199-211.
- A.4. Ogura E, Kageyama K, Hanada K, Kasckow J, Suda T. Effects of estradiol on regulation of corticotropin-releasing factor gene and interleukin-6 production via estrogen receptor type b in hypothalamic 4B cells. *Peptides*, 2008;29:456-64.
- A.5. Kageyama K, Ikeda T, Nigawara T, Sakihara S, Suda T. Expression of adrenocorticotrophic hormone, prolactin and transcriptional factors in clinically nonfunctioning pituitary adenoma. *Endocrine J* 2007;54:961-8.
- A.6. Guan JZ, Tamasawa N, Murakami H, Matsui J, Tanabe J, Matsuki K, Yamashita M, Suda T. HMG-CoA Reductase Inhibitor, Simvastatin Improves Reverse Cholesterol Transport in Type 2 Diabetic Patients with Hyperlipidemia. *J Atheroscler Thromb.* 2008 Feb;15(1):20-5.

- A.7. Ogawa Y, Goto T, Tamasawa N, Matsui J, Tando Y, Sugimoto K, Tomotsune K, Kimura M, Yasujima M, Suda T. Serum cystatin C in diabetic patients. Not only an indicator for renal dysfunction in patients with overt nephropathy but also a predictor for cardiovascular events in patients without nephropathy. *Diabetes Res Clin Pract.* 2008 Feb;79(2):357-61.
- B.1. Kawahara M, Iwasaki Y, Sakaguchi K, Taguchi T, Nishiyama M, Nigawara T, Tsugita M, Kambayashi M, Suda T, Hashimoto K. Predominant role of 25OHD in the negative regulation of PTH expression: clinical relevance for hypovitaminosis D. *Life Sci* 82:677-683,2008.
- B.2. Yasumasa Iwasaki, Shinobu Takayasu, Mitsuru Nishiyama, Makoto Tugita, Takafumi Taguchi, Masato Asai, Masanori Yoshida, Machiko Kambayashi, and Kozo Hashimoto Is the metabolic syndrome an intracellular Cushing state? Effects of multiple humoral factors on the transcriptional activity of the hepatic glucocorticoid-activating enzyme (11beta-hydroxysteroid dehydrogenase type 1) gene *Mol. Cell. Endocrinol.* 2008 Mar 26;285(1-2):10-8.
- C.1. Asaba K, Iwasaki Y, Asai M, Yoshida M, Nigawara T, Kambayashi M, Hashimoto K. High glucose activates pituitary proopiomelanocortin gene expression: possible role of free radical-sensitive transcription factors. *Diabetes Metab Res Rev* 23:317-323,2007.

和文

2006年度

- A.1. 蔭山和則, 花田小巻, 高安 忍, 二川原健, 崎原 哲, 岩崎泰正, 森山貴子, 須田俊宏. 視床下部4B細胞におけるCRF遺伝子転写活性作用とその抑制機構について. *ACTH Related Peptides* 2006;17:17-19.
- A.2. 崎原 哲, 蔭山和則, 二川原健, 須田俊宏. 視床下部CRF発現ニューロンにおけるレプチンの作用について. *ACTH Related Peptides* 2006;217:7-31.
- A.3. 玉澤直樹, 須田俊宏, 池島 進, 平井裕一. 糖尿病患者における感染症治療の実際. *糖尿病と感染症・生体防御 糖尿病合併症.* 21(1);52-55:2006 (査読あり)
- A.4. 奈良岡真紀, 小川吉司, 友常 健, 工藤貴徳, 長谷川範幸, 玉澤直樹, 須田俊宏. 二相性インスリンアナログ製剤の有用性について — NPHからノボラピッド30ミックスへの変更症例についての検討—. *診断と治療.* 94:2169-2173,2006.
- A.5. 松井 淳, 中村光男. 目でみる臨床栄養学 UP DATE. 医歯薬出版, 2007, pp.41-48.
- A.6. 丹藤雄介, 柳町 幸, 松橋有紀, 田中 光, 志津野江里, 松本敦史, 田村綾女. 胆石性膵炎の病態・診断・治療. *肝胆膵* 52:5,697-702,2006.
- A.7. 丹藤雄介, 中村光男. Common Disease インストラクションマニュアル—患者に何をどう説明するか—慢性膵炎. *Medicina* 43:12,217-220,2006.
- A.8. 二川原健, 須田俊宏. Cushing症候群とpreclinical Cushing症候群. *日本内科学会雑誌*, 95巻4号, p.642-649.
- A.9. 二川原健, 須田俊宏. ACTH単独欠損症. *日本臨床別冊 新領域別症候群 内分泌症候群 第2版, I*, p.58-62.
- A.10. 二川原健, 須田俊宏. 内分泌・代謝性疾患に伴う神経障害 Cushing症候群. *Clinical Neuroscience*, 24巻1号, p.48-49.
- A.11. 須田俊宏, 二川原健. 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH). *日本医師会雑誌*, 135巻 特別2「最新臨床検査のABC」, p.S225-S226.
- A.12. 須田俊宏, 二川原健. コルチゾール. *日本医師会雑誌*, 135巻 特別2「最新臨床検査のABC」, p.S255-S256.

2007年度

- A.1. クッシング病, クッシング症候群 川嶋祥子, 須田俊宏. DATAで読み解く内科疾患 総合臨床, p.716-722, 2007.
- A.2. クッシング病 森山貴子, 須田俊宏. 内分泌・糖尿病科 科学評論社, 25:315-320,2007.
- A.3. 玉澤直樹, 須田俊宏. 脂質代謝異常—高脂血症・低脂血症— III. 脂質代謝関連検査法 アポEフェノタイプ分析法とその臨床的意義, *日本臨床*, 65(Suppl 7):218-223,2007.
- A.4. 池島 進, 平井裕一, 玉澤直樹, 須田俊宏. 感染症合併糖尿病患者の臨床的検討—当科入院加療を要した症例について—, *感染症誌*, 81:720-725,2007.
- A.5. 玉澤直樹, 須田俊宏, 池島 進, 平井裕一. 糖尿病と感染症・生体防御 S7. 糖尿病患者における感染症治療の実際. *糖尿病合併症*, 21(1):52-55,2007.
- A.6. 松井 淳, 村上 宏, 須田俊宏. メタボリックシンドロームと polycystic ovary syndrome (PCOS). *診断と治療*, 96(2008),265-270.
- A.7. 松本恒太, 田辺壽太郎, 柳町 幸, 村上 宏, 丹藤雄介, 松井 淳, 小川吉司, 玉澤直樹, 須田俊宏. スルフォニルウレア (SU) 剤およびグルニド剤使用中の2型糖尿病患者において K⁺チャンネル開口薬ニコランジルの使用は血糖コントロールに影響しない. *心臓*, 39(8):715-719,2007.
- A.8. 佐藤江里, 田村綾女, 丹藤雄介, 須田俊宏, 中村光男, 山岸昌一. Spontaneously Diabetic Torii (SDT) ラットにおけるセルレイン誘導急性浮腫膵炎と Receptor for Advanced Glycation Endproducts (RAGE) の発現. *弘前医学*, 59:110-117,2008.
- B.1. 松本敦史, 野木正之, 鈴木理恵, 柿崎綾女, 佐藤江里, 松橋有紀, 田中 光, 柳町 幸, 丹藤雄介, 小川吉司, 須田俊宏, 中村光男. Benzoyl-L-Tyrosyl-[1-13C] Alanine を用いた膵外分泌呼吸検査法の信頼性. *13C 医学* 2008;18:26-27.
- B.2. 鈴木理恵, 松本敦史, 野木正之, 柿崎綾女, 佐藤江里, 松橋有紀, 田中 光, 柳町 幸, 丹藤雄介, 小川吉司, 中村光男. Benzoyl-L-Tyrosyl-[1-13C] Alanine 呼吸試験による膵性糖尿病患者の膵外分泌機能評価. *13C 医学* 2008;18:28-29.

- B.3. 田中 光, 松川昌勝, 中畑 久, 東野 博, 田村綾女, 佐藤江里, 松本敦史, 松橋有紀, 柳町 幸, 長谷川範幸, 丹藤雄介, 小川吉司, 須田俊宏, 中村光男. 低アルブミン血症が感染症患者に及ぼす影響に関して. 消化と吸収 2007;30:44-47.

(2) 総説

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 丹藤雄介, 平野聖治, 田村綾女, 佐藤江里, 柳町 幸, 小川吉司, 須田俊宏, 中村光男. 高齢者栄養アセスメントにおける亜鉛欠乏の位置づけ. 老年消化器病, 2007;19:99-101.
- A.2. 丹藤雄介, 松橋有紀, 中村光男. 消化器薬の使い方 Update - 膵疾患 (急性膵炎・慢性膵炎) 治療薬. *Medicina*, 2007;44:1675-1677.
- A.3. 丹藤雄介, 柳町 幸, 中村光男, 渡辺 拓. 膵機能不全症に対する食事・栄養療法のエビデンス. *EBM ジャーナル*, 2007;8:816-819.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 須田俊宏. クッシング病の診断 機能性下垂体腫瘍. 千原和夫編, 最新医学社, 2006, p.67-73.
- A.2. 須田俊宏. 甲状腺機能低下症 市民のための老年病学. 水島 豊, 管世智子編, 弘前大学出版会, 2006, p.29-31.
- A.3. 照井 健, 須田俊宏. クッシング症候群 臨床病態学. 春日雅人編, ヌーベルヒロカワ社, 2006, p.347-349.
- A.4. 須田俊宏. 下垂体性小人症 今日の治療指針. 山口 徹, 北原光夫, 福井次夫, 医学書院, 2006, p.545-546.
- A.5. 須田俊宏編集. 臨床内分泌・代謝学 (弘前大学出版会, 2007年3月)
- A.6. 二川原健, 須田俊宏. Cushing 症候群と preclinical Cushing 症候群. 日本内科学会雑誌, 2006;135:225-226.

2007年度

- A.1. 須田俊宏. (臨床内分泌・代謝学 編) 弘前大学出版会, 2007.
- A.2. 二川原健, 須田俊宏. プレクリニカルクッシング病. 内分泌代謝専門医ガイドブック編: 成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津 章 診断と治療社, p.77-78, 2007.
- A.3. 須田俊宏. Addison 病, 副腎不全, クッシング症候群. 今日の診断基準. 南江堂, p.335-342, 2007.
- A.4. 二川原健, 須田俊宏, 小田桐恵美. コルチゾール. 臨床検査ガイド. 文光堂, p.427-431, 2007.
- A.5. 二川原健, 須田俊宏 (編集 金澤康徳, 武谷雄二, 関原久彦, 山田信博) Pre (sub) -clinical Cushing 病の診断基準 - preclinical Cushing 症候群との比較を含めて - in: *Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌* 2008. 中外医学社, 東京, 2008.
- A.6. 丹藤雄介, 松橋有紀, 中村光男. 膵性糖尿病はどのように治療するのか? 跡見 裕, 上村直実, 白鳥敬子, 正木尚彦編. 臨床に直結する肝・胆・膵疾患治療のエビデンス. p.272-274, 文光堂, 東京, 2007.

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Moriyama T, Kageyama K, Nigawara T, Koyanagi M, Fukuda I, Yashiro H, Suda T. Diagnosis of a Case of Ectopic Parathyroid Adenoma on the Early Image of ^{99m}Tc-MIBI Scintigram. *Endocrine J* 2007;54:437-40.
- A.2. Sakihara S, Kageyama K, Nigawara T, Kidani Y, Suda T. Ampulla (takotsubo) cardiomyopathy caused by secondary adrenal insufficiency in ACTH isolated deficiency. *Endocrine J* 2007;54:631-6.
- A.3. Kageyama K, Ikeda H, Sakihara S, Nigawara T, Terui K, Tsutaya S, Matsuda E, Shoji M, Yasujima M, Suda T. A case of thyrotropin-producing pituitary adenoma, accompanied by an increase in anti-thyrotropin receptor antibody after tumor resection. *J Endocrinol Invest*, 2007;30:957-61.
- A.4. Kageyama K, Hanada K, Iwasaki Y, Sakihara S, Nigawara T, Kasckow J, Suda T. Involvement of a negative glucocorticoid response element of corticotropin-releasing factor gene promoter in hypothalamic cells. *Hiroaki Med J* 59(Suppl.):S62-S66, 2007.
- A.5. Sashinami H, Kageyama K, Suda T, Nakane A. Urocortin 2 suppresses host resistance to *Listeria monocytogenes* infection via up-regulation of IL-10. *Hiroaki Med J* 59(Suppl.):S67-S76, 2007.
- A.6. Sakihara S, Kageyama K, Nigawara T, Hanada K, Suda T. Leptin can suppress the transcription of corticotropin-releasing factor in the immortalized hypothalamic neuron. *Hiroaki Med J* 59(Suppl.):S193-S198, 2007.

- A.7. Nigawara T, Sakihara S, Kageyama K, Terui K, Fukuda Y, Kawashima S, Takayasu S, Moriyama T, Kawahara M, Korekawa A, Yamashita M, Kohsaka A, Kakizaki Y, Suda T. Changes in glucose tolerance parameters after surgical treatment of adrenal preclinical Cushing's syndrome. *Hirosaki Med J* 59(Suppl.):S199-S201,2007.
- B.1. H. Sashinami, K. Kageyama, T. Suda, A. Nakane. Urocortin 2 suppress host resistance to listeria monocytogenes infection via up-regulation of IL-10. *Hirosaki Medical Journal*, 59(suppl.):S67-76,2007.
- B.2. K. Hasan, M. Shoji, K. Sugimoto, S. Tsutaya, E. Katsuda, R. Kudo, J. Saito, S. Nakaji, T. Suda, M. Yasujima. V1a vasopressin receptor gene single nucleotide polymorphism and essential hypertension, type 2 diabetes mellitus and platelet aggregation. *Hirosaki Medical Journal*, 59(suppl.):S119-127,2007.
- C.1. Y. Iwasaki, M. Tsugita, Y. Taniguchi, T. Nigawara, S. Takayasu, M. Kawahara, T. Suda, K. Hashimoto. Effects of proinflammatory cytokines on intracellular glucocorticoid metabolism. *Hirosaki Medical Journal*, 59(suppl.):S58-61,2007.
- C.2. Ikeda H, Takayasu S. A growth hormone-secreting adenoma with incomplete nerve bundle formation. *Neuropathology*. 2008 Jun;28(3):317-21. Epub 2008 Jan 9.

和文

2007年度

- A.1. 崎原 哲, 二川原健, 田辺寿太郎, 川嶋祥子, 是川あゆみ, 山下真紀, 蔭山和則, 須田俊宏. 副腎癌術後の多発性肝転移に対して EDP/M による化学療法が奏効した症例. *ACTH RELATED PEPTIDES*, 18:81-82, 2007.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Endocrinology	5.151	3	15.453
Peptides	2.511	1	2.511
J Pharmacol Exp Ther	4.335	1	4.335
J Clin Invest	14.204	1	14.204
Diabetes Res Clin Pract	1.730	1	1.730
Clinical Nephrol	1.316	1	1.316
Proc Natl Acad Sci U S A	10.452	1	10.452
Total		1	50.001

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Peptides	2.368	2	4.736
Mol Cell Endocrinol	2.971	1	2.971
J Endocrinol	2.636	1	2.636
Endocrine J	1.572	1	1.572
J Atheroscler Thromb	2.881	1	2.881
Diabetes Res Clin Pract	2.368	1	2.368
Life Sci	2.257	1	2.257
Mol. Cell. Endocrinol	2.971	1	2.971
Total		9	22.392

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
ACTH Related Peptides	2	
糖尿病と感染症・生体防御	1	
診断と治療	1	1
肝胆膵	1	
Medicina	1	1
日本内科学会雑誌	1	
日本臨床 (別冊)	1	
Clinical Neuroscience	1	
日本医師会雑誌	2	

総合臨床		1
日本臨床		1
内分泌・糖尿病科		1
感染症誌		1
糖尿病合併症		1
心臓		1
弘前医学		2
13C 医学		1
消化と吸収		1
EBM ジャーナル		1
計	11	13

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	1	1
分担執筆	18	5

3. その他 (A, B のみ)

英文

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Endocrine J	0	2	0
J Endocrinol Invest	0	1	0
Total		3	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
ACTH RELATED PEPTIDES		1
計	0	1

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. Kazunori Kageyama. Involvement of a negative glucocorticoid response element on corticotropin-releasing factor gene promoter in hypothalamic cells. The 10th meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2006.
- B.2. Nigawara T, Sakihara S, Kageyama K, Terui K, Kawashima S, Takayasu S, Moriyama T, Tanabe J, Kawahara M, Korekawa A, Yamashita M, Kohsaka A, Kakizaki Y, and Suda T. Changes in glucose tolerance parameters after surgical treatment of adrenal preclinical Cushing's syndrome. The 10th Hirosaki International Forum of Medical Science. November 21, 2006, Hirosaki.
- C.1. S. Takayasu, T. Suda, et al. G protein coupled receptor GPR103 : purification of its native peptide ligand, a regulator of appetite, arousal, and blood pressure via the central nervous system. 88th Annual Meeting of the Endocrine Society Abstp69, 2006 Boston.
- C.2. S. Sakihara, K. Kageyama, J. Kasckow, T. Suda. Leptin can suppress the transcription of CRF in the immortalized hypothalamic neuron. 88th Annual Meeting of thr Endocrine Society, Abst 170, 2006, Boston.
- C.3. Matsuki K, Tamasawa N, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Ogawa Y, Suda T. 66th Scientific sessions American Diabetes Association, Washington,DC. June 9-13, 2006. Relationship between plasma HDL/ApoAI level and Apo E secretion from monocyte-derived macrophages in type 2 diabetic patients.
- C.4. Tanabe J, Tamasawa N, Matsuki K, Murakami H, Matsui J, Sugimoto K, Ogawa Y, Suda T. 66th Scientific sessions American Diabetes Association, Washington,DC. June 9-13, 2006. Effect of PPARα and/or PPARγ agonist on glucose and lipid metabolism in the Zucker Diabetic Fatty Rat.
- C.5. Matsui J, Ogawa Y, Tamasawa N, Matsuki K, Tanabe J, Murakami H, Suda T. XIV International symposium on atherosclerosis, June 18-22, 2006 Fiera di Roma - Rome, Italy. Comparison of effects of glymeperide and glybenclamide on lipid metabolism in patients with type 2 diabetes.

- C.6. Matsuki K, Tamasawa N, Takayasu S, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Suda T. XIV International symposium on atherosclerosis, June 18-22, 2006 Fiera di Roma - Rome, Italy. Reduced cholesterol efflux may be the cause of reduced plasma HDL-C levels in a patient with sphingomyelinase deficiency.
- C.7. Murakami H, Tamasawa N, Matsui J, Tanabe J, Matsuki K, Suda T. XIV International symposium on atherosclerosis, June 18-22, 2006 Fiera di Roma - Rome, Italy. ABCA1-independent apolipoprotein E secretion by macrophages derived from a patient with Tangier disease.

2007年度

- A.1. Kageyama K, Hanada K, Nigawara T, Suda T. Glucocorticoids inhibit urocortin-induced interleukin-6 gene expression in rat aortic smooth muscle cells. ENDO 07 June 4, 2007, Toronto, Canada
- A.2. Hanada K, Kageyama K, Iwasaki Y, Sakihara S, Nigawara T, Kasckow J, Suda T. Involvement of regulatory elements on corticotropin-releasing factor gene promoter in hypothalamic cells. ENDO 07 June 4, 2007, Toronto, Canada
- A.3. Moriyama T, Kageyama K, Hanada K, Iwasaki Y, Sakihara S, Nigawara T, Kasckow J, Suda T. Hypothalamic cAMP agonists stimulate corticotropin-releasing factor, vasopressin, and interleukin-6 gene promoters in hypothalamic 4B cells. ENDO 07 June 4, 2007, Toronto, Canada
- A.4. K. Kageyama, K. Hanada, Y. Iwasaki, S. Sakihara, T. Nigawara, J. Kasckow, T. Suda. Involvement of negative glucocorticoid response element on corticotrophin-releasing factor gene promoter in hypothalamic cells. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science. Symposium 3-2, Hirosaki 2007.
- A.5. S. Sakihara, K. Kageyama, T. Nigawara, K. Hanada, T. Suda. Leptin can suppress the transcription of corticotrophin-releasing factor in the immortalized hypothalamic neuron. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science. P-9, Hirosaki 2007.
- A.6. T. Nigawara, S. Sakihara, K. Kageyama, K. Terui, Y. Fukuda, S. Kawashima, S. Takayasu, T. Moriyama, M. Kawahara, A. Korekawa, M. Yamashita, A. Kohsaka, Y. Kakizaki, T. Suda. Changes in glucose tolerance parameters after surgical treatment of adrenal preclinical Cushing's syndrome. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science. P-10, Hirosaki 2007.
- B.1. H. Sashinami, K. Kageyama, T. Suda, A. Nakane. Urocortin 2 suppress host resistance to listeria monocytogenes infection via up-regulation of IL-10. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science. Symposium 3-3, Hirosaki 2007.
- B.2. K. Hasan, M. Shoji, K. Sugimoto, S. Tsutaya, E. Katsuda, R. Kudo, J. Saito, S. Nakaji, T. Suda, M. Yasujima. V1a vasopressin receptor gene single nucleotide polymorphism and essential hypertension, type 2 diabetes mellitus and platelet aggregation. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science. Symposium 5-2, Hirosaki 2007.
- C.1. Y. Iwasaki, M. Tsugita, Y. Taniguchi, T. Nigawara, S. Takayasu, M. Kawahara, T. Suda, K. Hashimoto. Effects of proinflammatory cytokines on intracellular glucocorticoid metabolism. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science. Symposium 3-1, Hirosaki 2007.
- C.5. Tanabe J, Tamasawa N, Yamashita M, Matsuki K, Murakami H, Matsui J, Sugimoto K, Suda T. 67th Scientific Sessions, American Diabetes Association (ADA), June 22-26, 2007. Chicago, IL. PPARalpha agonist increases HDL particle size through the expression of hepatic ABCG1 mRNA in the Zucker Diabetic Fatty Rat
- C.6. Matsuki K, Tamasawa N, Yamashita M, Tanabe J, Murakami H, Matsui J, Suda T. 67th Scientific Sessions, American Diabetes Association (ADA), June 22-26, 2007. Chicago, IL. Metformin improves HDL-mediated cholesterol efflux through the inhibition of HDL glycation

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 弘前大学医学部附属病院 内分泌・代謝・感染症内科 玉澤直樹, 須田俊宏, 青森県立中央病院内分泌内科 池島 進, 平井内科医院 平井裕一. シンポジウム: 糖尿病と感染症・生体防御, 糖尿病患者における感染症治療の実際. 第21回日本糖尿病合併症学会 平成18年10月6日(金) ホテルニューキャッスル 弘前.
- A.2. 二川原健, 平田結喜緒, 橋本浩三, 須田俊宏. Cushing 病および subclinical Cushing 病の診断基準について(シンポジウム), 第79回日本内分泌学会学術総会 平成18年5月19日 神戸市.
- A.3. 二川原健, 須田俊宏: Cushing 病と pre-(sub-) clinical Cushing 病の診断における深夜血中コルチゾール値と overnight 0.5mg dexamethasone 抑制試験の比較検討, 第17回間脳下垂体腫瘍学会 平成19年2月23日 山形市.
- A.4. 是川あゆ美, 二川原健, 崎原 哲, 蔭山和則, 照井 健, 川嶋祥子, 高安 忍, 森山貴子, 川原昌之, 山下真紀, 須田俊宏. 副腎性 preclinical Cushing 症候群の術前後における耐糖能変化, 第17回臨床内分泌代謝 update 平成19年3月10日 東京都.
- B.1. 須田俊宏. 視床下部-下垂体-副腎系の機能検査 第53回日本臨床検査医学会学術総会 2006年11月10日 弘前市.
- B.2. 小川吉司, 後藤 尚, 玉澤直樹, 松井 淳, 杉本一博, 丹藤雄介, 保嶋 実, 須田俊宏. ワークショップ 16 腎症-進展の危険因子, 糖尿病患者における血清シスタチンC 測定の意味-顕性腎症患者の腎機能指標および腎症前期患者の心血管リスク予測因子-, 第21回日本糖尿病合併症学会, ホテルニューキャッスル(弘前市) 平成18年10月7日(土)
- B.3. 松井 淳, 山下真紀, 松木恒太, 田辺壽太郎, 村上 宏, 丹藤雄介, 小川吉司, 玉澤直樹, 須田俊宏. 「肥満・脂質と合併症-病態2」 2型糖尿病における肝脂肪化の臨床的背景-環境因子及びアポ E phenotype からみた脂質代謝異常の関与について-第21回日本糖尿病合併症学会, 弘前文化センター, 弘前.

- B.4. 丹藤雄介. 13C 呼気検査による膵機能検査 ―臨床的に何が必要とされているのか―第22回13C 医学応用研究会, 第9回日本呼気病態生化学研究会 合同研究会 10月27―28日 東邦大学医療センター大森病院 臨床講堂 (東京).
- B.5. 柳町 幸, 丹藤雄介, 中村光男. 消化器疾患の病態栄養と治療 膵機能不全患者における栄養障害の特徴と治療, シンポジウム, 第92回日本消化器病学会総会, 2006.
- C. 20件

2007年度

- A.1. 「クッシング病関連の新しい診断基準について」, 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会 山形 2月23日, 2007
- C. 38件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

名称: 第10回 弘前大学医学部 学術特別賞

受賞者: 蔭山和則

演題: Corticotropin-releasing factor (CRF) 関連ペプチドの新たな作用とその作用機序についての解明

名称: 弘前大学医学部えんれい会 学術論文指導者賞受賞

受賞者: 蔭山和則

演題: Corticotropin-releasing factor (CRF) 受容体の統御機構

2007年度

名称: 日本神経内分泌学会 第23回川上賞受賞

受賞者: 蔭山和則

演題: CRF family peptides とその受容体の役割と統御機構についての解明

Ⅳ. 共同研究

2006年度

研究機関名: 高知大学 (岩崎泰正, 橋本浩三), 東京医科歯科大学 (平田結喜緒), 浜松医大 (沖 隆) と

研究課題: 1. ACTH 測定法に関する研究

2. クッシング病診断基準に関する研究

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

研究種目: 基盤研究 C

研究課題: 新しい CRF family peptides とストレス応答機構の機能的解析

140万円

2007年度

研究代表者として

研究種目: 基盤研究 C

研究課題: 継続 新しい CRF family peptides とストレス応答機構

2,340,000円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

○厚生労働科学研究費補助金 間脳下垂体機能障害に関する調査研究, 90万円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

○厚生労働科学研究費補助金 間脳下垂体機能調節異常調査研究, 1,100,000円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2007年度

研究代表者として

研究種目：平成19年度 社団法人 日本女医会

研究課題：「非代償期慢性膵炎患者の安静時エネルギー消費量の変動」

30万円

研究種目：平成19年度 財団法人 膵臓病研究財団研究奨励賞

研究課題：「Benzoyl-L-Tyrosyl- (l-13C) Alanine を用いた呼気試験の膵外分泌機能評価における有用性についての検討」

70万円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2007年度

第17回日本間脳下垂体腫瘍学会 副会長

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

14. 老年科学講座 (資料なし)

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

これから2年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

(2) 総説

(3) 著書

(4) その他

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，Bのみ）

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
計	0	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他 (A, B のみ)

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

(2) 全国学術集会

Ⅲ. 学術賞

Ⅳ. 共同研究

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

(2) その他の省庁からの研究費

(3) 学内の研究助成

(4) 民間の研究助成

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

f) その他

- a) 全国レベルの学会の主催
- b) 地方レベルの学会の主催
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
- d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

VII. その他

15. 腫瘍内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

オリジナルな研究を行う。

これから2年間の目標：

質の高い研究を行い，研究論文は全て英文で発表する。

【研究人員及び研究課題】

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教授	専任	西條 康夫	平成20年1月～3月
	講師	専任	伊東 重豪	平成20年1月～3月
	助教	専任	高畑 武功	平成20年1月～3月
研究課題	1. 固形癌に対する化学療法 2. 癌幹細胞の同定と解析 3. 肺幹細胞の同定と解析 4. ニコチン受容体サブユニット発現動態による T 細胞免疫応答の解析 5. 炎症性腸疾患粘膜における SOCS 分子の発現 6. 銅トランスポーター遺伝子と白金系抗癌剤薬物耐性に関する研究 7. 大腸癌における癌関連遺伝子多型と臨床病理学的因子・予後との関係 8. 悪性リンパ腫における癌関連遺伝子多型と臨床病理学的因子・予後との関係 9. 間葉系幹細胞の癌細胞増殖および薬剤耐性に与える影響			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Takenori Takahata, Keizou Ookawa, Koji Suto, Masanori Tanaka, Hirohisa Yano, Osamu Nakashima, Masamichi Kojiro, Yoshihiro Tamura, Yuh Sakata, Shinsaku Fukuda. Chemosensitivity determinantsof CPT-11 in hepatocellular carcinoma cell lines, Basic Clin Pharmacol Toxicol 2007;102:39-407.
- A.2. Gen Yoshiya, Takenori Takahata, Naoyuki Hanada, Kazuhiro Suzuki, Atsushi Ishiguro, Masato Saito, Mutsuo Sasaki, Shinsaku Fukuda. Influence of cancer-related gene polymorphisms on clinicopathological features in colorectal cancer, J Gastroenterol Hepatol 2008;23(6):948-953
- B.1. Sakakibara T, Saijo Y, Fukuhara T, Gomi K, Inoue A, Ishimoto O, Sugawara S, Nukiwa T. Adenocarcinoma with epidermal growth factor receptor gene mutations in three siblings.J Thorac Oncol. 2008;3:311-3.
- B.2. Ikuko Takeda, Shin-ichiro Maruya, Takashi Shirasaki, Hiroki Mizukami, Takenori Takahata, Jeffrey N, Myers, Seiji Kakehata, Soroku Yagihashi, Hideichi Shinkawa. Simvastatin inactivates beta1-integrin and extracellular signal-related kinase signaling and inhibits cell proliferation in head and neck squamous cell carcinoma cells, Cancer Sci 2007;98(6):890-899.
- C.1. Zaini J, Andarini S, Tahara M, Saijo Y, Ishii N, Kawakami K, Taniguchi M, Sugamura K, Nukiwa T, Kikuchi T. OX40 ligand in dendritic cells can costimulate NKT and CD4+ helper T cell antitumor immunity. J. Clin. Invest. 117:3330-3338,2007.
- C.2. Kanehira M, Xin H, Hoshino K, Maemondo M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Matsumoto K, Nakamura T, Nukiwa T, and Saijo Y. Targeted delivery of NK4 to the multiple lung tumors by bone marrow-derived mesenchymal stem cells. Cancer Gene Ther. 14:894-903,2007.

- C.3. Xin H, Kanehira M, Mizuguchi H, Hayakawa T, Kikuchi T, Nukiwa T, and Saijo Y. Targeted-delivery of CX3CL1 to multiple lung tumors by mesenchymal stem cells. *Stem Cells*. 25:1618-1625,2007.
- C.4. Kugathasan S, Sauberman L, Smith L, Kou D, Itoh J, Binion D, Levine A, Blumberg R, and Fiocchi C. Mucosal T-cell immunoregulation varies in early and late Crohn's disease. *Gut* 2007;56:1696-1705.

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 西條康夫. 肺がん伸展期病態と対症療法 モダンフィジシャン 28:2008-6,2008.
- A.2. 肺癌と幹細胞 医学のあゆみ 224:999-1003,2008.
- C.1. 西條康夫. 肺癌における化学療法と問題点 アニムス 47:21-24,2007.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文

2007年度

- B.1. 松谷英樹, 川崎仁司, 柴田, 宮本, 佐々木常雄, 鬼島 宏, 伊東重豪, Docetaxel/S-1による術前化学療法が著効した高度リンパ節転移を伴う胃癌の1切除例. *癌と化学療法* 2007;34:1643-1646.
- B.2. 花畑憲洋, 三上達也, 福田真作, 西谷大輔, 佐々木聡, 高畑武功, 伊東重豪, 佐々木賀広, 鬼島 宏, 棟方昭博. 早期胃癌を合併したマンツル細胞リンパ腫の1例. *Gastroenterological Endoscopy* 2007;49:1674-1680.
- B.3. 石黒 敦, 棟方正樹, 設楽紘平, 鈴木一広, 高畑武功, 伊東重豪, 坂田 優, 棟方昭博. S-1単剤および肝動注化学療法が奏功している切除不能進行胆嚢癌の1例. *癌と化学療法* 2007;34:1127-1130.
- B.4. 石黒 敦, 棟方正樹, 設楽紘平, 鈴木一広, 高畑武功, 伊東重豪, 青木昌彦, 坂田 優, 棟方昭博. S-1併用化学放射線療法により QOLの改善が得られた膵頭部癌の1例. *癌と化学療法* 2007;34:937-940.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Basic Clin Pharmacol Toxicol	1.788	1	1.788
J Gastroenterol Hepatol	1.785	1	1.785
J Thorac Oncol	0	1	0
Cancer Sci	3.869	1	3.869
Total		4	7.442

和文 (論文数)

雑 誌 名	2007年度
癌と化学療法	3
Gastroenterological Endoscopy	1
モダンフィジシャン	1
医学のあゆみ	1
計	6

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2007年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2007年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2007年度
癌と化学療法	2
日本消化器内視鏡学会雑誌	1
計	3

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2007年度

- C.1. Kikuchi H, Itoh J, Fukuda S, Munakata A. Nicotine regulates the immune response of human lamina propria T cells. Digestive disease week 2007; Washington DC, May 19-24
- C.2. Takenori Takahata, Masaki Munakata, Yuh Sakata, Kazuhiko Nakagawa, Taketo Mukaiyama and Kunihiro Ishitani, Kazuo Tamura. Abnormality of growth hormone and insulin-like growth factor I axis in advanced cancer patients, J Clin Oncol 2007, 25(18S), 721s, (2007 ASCO Annual Meeting Proceedings #19671)

(2) 全国学術集会

2007年度

C. 19件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2007年度

研究代表者として

西條康夫, 萌芽研究 130万円 肺幹細胞の効率的分離法の開発と肺幹細胞の解析

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2007年度

研究代表者として

伊東重豪, 平成 17-19 年度 喫煙科学研究財団 研究助成金 2,000,000 円 / 年

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

1名

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

なし

VII. その他

なし

16. 神経精神医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

100%到達した。

理念：

情報を世界に発信する。

これから2年間の目標：

神経精神疾患の個別化治療の開発

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 3，助手 4，医員 1，大学院学生 5，研究生 6			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	兼子 直	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	助教授	専 任	矢部 博興	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	講 師	専 任	栗林 理人	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	講 師	専 任	岡田 元宏	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	講 師	専 任	古郡 規雄	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	助 手	専 任	三浦 淳	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	助 手	専 任	菊池 淳宏	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	助 手	専 任	松岡 貴志	H18. 4. 1 ～ H19. 3. 31
	助 手	専 任	藤井 学	H19. 2. 1 ～ H19. 3. 31
研究課題	1. 臨床精神神経薬理学分野 ・抗うつ薬，抗不安薬，抗精神病薬の薬物動態，薬物相互作用の機序および薬遺伝学 ・統合失調症，うつ病の個別化治療の開発 ・精神科治療薬の薬物相互作用と臨床効果 ・精神科治療薬の遺伝子多型と臨床効果 2. 臨床てんかん学分野 ・てんかんの責任遺伝子，分子病態研究 ・てんかんの社会精神医学的研究 ・てんかんの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発 3. 神経伝達物質遊離機構に関する研究分野 ・各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する解析 4. 精神生理学的研究分野 ・感覚記憶の時間周波数統合機能の神経基盤に関する研究 ・聴覚性感覚記憶内部の時間軸に関する研究 ・統合失調症患者における感覚記憶の統合機能障害に関する研究 5. 児童思春期精神医学分野 ・児童思春期分裂病の臨床的研究 ・児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野 6. コンサルテーション・リエゾン精神医学分野 ・修正型電気けいれん療法の有効性と安全性 ・臓器移植における精神医学的介入 ・緩和医療における精神医学的介入 7. 摂食障害患者の臨床的研究を中心とした心身医学分野			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助手 4, 医員 1, 大学院学生 5, 研究生 6			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	兼子 直	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	准教授	専 任	矢部 博興	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	講 師	専 任	栗林 理人	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	講 師	専 任	古郡 規雄	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	助 手	専 任	三浦 淳	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	助 手	専 任	菊池 淳宏	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	助 手	専 任	松岡 貴志	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
	助 手	専 任	菅原 典夫	H19. 4. 1 ~ H20. 3. 31
研究課題	1. 臨床精神神経薬理学分野 ・抗うつ薬, 抗不安薬, 抗精神病薬の薬物動態, 薬物相互作用の機序および薬遺伝学 ・統合失調症, うつ病の個別化治療の開発 ・精神科治療薬の薬物相互作用と臨床効果 ・精神科治療薬の遺伝子多型と臨床効果 ・生物学的精神医学 2. 臨床てんかん学分野 ・てんかんの責任遺伝子, 分子病態研究 ・てんかんの社会精神医学的研究 ・てんかんの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発 3. 神経伝達物質遊離機構に関する研究分野 ・各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する解析 4. 精神生理学的研究分野 ・事象関連電位（主にミスマッチ陰性電位）を用いた記憶痕跡に関する研究 ・事象関連電位（主にミスマッチ陰性電位）と精神的臨床症状との関連性に関する研究 5. 児童思春期精神医学分野 ・児童思春期分裂病の臨床的研究 ・児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野 6. コンサルテーション・リエゾン精神医学分野 ・電気けいれん療法の有効性と安全性の検討 ・透析患者の精神医学的介入 ・緩和ケアにおける精神医学的介入			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Mori F, Hirose S, Wakabayashi K, and Kaneko S. Involvement of Ca^{2+} -induced Ca^{2+} releasing system in interleukin-1 β -associated adenosine release. Eur J Pharmacol 2006;532:246-252.
- A.2. Yasui-Furukori N, Uno T, Kaneko S, and Tateishi T. Autho's reply: Hydroxylation of lansoprazole in poor metabolizers of CYP2C19. Br J Clin Pharmacol 2006;61(3):361-362.
- A.3. Yasui-Furukori N, and Kaneko S. Digitalis intoxication induced by paroxetine co-administration. Lancet 2006;367:788.
- A.4. Yasui-Furukori N, Saito M, Nakagami T, Kaneda A, Tateishi T, and Kaneko S. Association between multidrug resistance 1 (MDR1) gene polymorphisms and therapeutic response to bromperidol in schizophrenic patients: A preliminary study. Prog Neuro-Psychoph & Biol Psychiat 2006;3:286-291.
- A.5. Matsuoka T, Yabe H, Shinozaki N, Sato Y, Hiruma T, Asai R, Hara E, and Kaneko S. The development of memory trace depending on the number of the standard stimuli. Clin EEG Neurosci 2006;37(3):223-229.
- A.6. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Mori F, Ueno S, Wakabayashi K, and Kaneko S. Effects of interleukin-1 β on hippocampal glutamate and GABA releases associated with Ca^{2+} -induced Ca^{2+} releasing systems. Epilepsy Res 2006;71:107-116.
- A.7. Todd J, Michie PT, Schall U, Karayanidis F, Yabe H, and Näätänen R. Deviant Matters: Duration, Frequency, and Intensity Deviants Reveal Different Patterns of Mismatch Negativity Reduction in Early and Late Schizophrenia. Biol Psychiatry 20:in press.
- B.1. Wakabayashi K, Mori F, Hasegawa M, Kusumi T, Yoshimura I, Takahashi H, and Kaneko S. Co-localization of β -peptide and phosphorylated tau in astrocytes in a patient with corticobasal degeneration. Neuropathology 2006;26:66-71.
- B.2. Uno T, and Yasui-Furukori N. Effect of grapefruit juice in relation to human pharmacokinetic study. Curr Clin Pharmacol 2006;1:157-161.

- B.3. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, and Suzuki T. Intestinal CYP3A4 is not involved in the enantioselective disposition of lansoprazole. *Xenobiotica* 2006;36(1):95-102.
- B.4. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, and Suzuki T. Enantioselective disposition of rabeprazole in relation to cyp2c19 GENOTYPE. *Br J Clin Pharmacol* 2006;61(3):315-320.
- B.5. Uno T, Shimizu M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, and Tateishi T. Different effects of fluvoxamine on rabeprazole pharmacokinetics in relation to CYP2C19 genotype status. *Br J Clin Pharmacol* 2006;61(3):309-314.
- B.6. Shimizu M, Uno T, Niioka T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, and Tateishi T. Sensitive determination of omeprazole and its two main metabolites in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography: Application to pharmacokinetic study in relation to CYP2C19 genotypes. *J Chromatogr B* 2006;832:241-248.
- B.7. Niioka T, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Kaneko S, and Tateishi T. Identification of a shingle time-point for plasma lansoprazole measurement that adequately reflects area under the concentration-time curve. *Ther Drug Monit* 2006;28(3):321-325.
- B.8. Shimizu M, Uno T, Yasui-Furukori N, Sugawara K, and Tateishi T. Effects of clarithromycin and verapamil on rabeprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. *Eur J Clin Pharmacol* 2006;62:597-603.
- B.9. Niioka T, Uno T, Yasui-Furukori N, Shimizu M, Sugawara K, and Tateishi T. Identification of the time-point which gives a plasma rabeprazole concentration that adequately reflects the area under the concentration-time curve. *Eur J Clin Pharmacol* 2006;62:855-861.
- B.10. Ujiie Y, Fukasawa T, Yasui-Furukori N, Suzuki A, Tateishi T, and Otani K. Rifampicin markedly decreased olasma concentration and hypnotic effect of brotizolam. *Ther Drug Monit* 2006;28(3):299-302.
- B.11. Fukusawa T, Yasui-Furukori N, Suzuki A, Ishii G, Inoue Y, Tateishi T, and Otani K. Effects of caffeine on the kinetics of fluvoxamine and its major metabolite in plasma after a single oral dose of the drug. *Ther Drug Monit* 2006;28(3):308-311.
- B.12. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, and Suzuki T. Intestinal CYP3A4 is not involved in the enantioselective disposition of lansoprazole. *Xenobiotica* 2006;36(1):95-102.
- B.13. Kojima T, Mukai W, Fuma D, Ueda Y, Okada M, Sakaki Y, and Kaneko S. Determination of genomic breakpoints in an epileptic patient using genotyping array. *Biochem Biophys Res Commun* 2006;341(3):792-796.
- B.14. Yamauchi T, Kaneko S, Yagi K, and Sase S. Treatment of partial seizure with gabapentin: Double-blind, placebo-controlled, parallel-group study. *Psychiatr Clin Neurosci* 2006;60:507-515.
- B.15. Ito M, Yamakawa K, Sugawara T, Hirose S, Fukuma G, and Kaneko S. Phenotypes and genotypes in epilepsy with febrile seizures plus. *Epilepsy Res* 2006;70S:S199-S205.

2007 年度

- A.1. Yasui-Furukori N, Saito M, Inoue Y, Niioka T, Sato Y, Tsuchimine S, and Kaneko S. Terbinafine increases the plasma concentration of paroxetine after a single oral administration of paroxetine in healthy subjects. *Eur J Clin Pharmacol* 2007;63(1):51-56.
- A.2. Yasui-Furukori N, Saito M, Niioka T, Inoue Y, Sato Y, and Kaneko S. Effects of itraconazole on pharmacokinetics of paroxetine: The role of gut transporters. *Ther Drug Monit* 2007;29(1):45-48.
- A.3. Yasui-Furukori N, Saito M, Nakagami T, Niioka T, Sato Y, Fujii A, and Kaneko S. Different serum concentrations of steady-state valproic acid in two sustained-release formulations. *Psychiatr Clin Neurosci* 2007;61:308-312.
- A.4. Iwashima K, Yasui-Furukori N, Kaneda A, Saito M, Nakagami T, Sato S, and Kaneko S. No association between CYP2D6 polymorphisms and personality trait in Japanese. *Brit J Clin Pharmacol* 2007;64(1):96-99.
- A.5. Yasui-Furukori N, Kaneda A, Iwashima K, Saito M, Nakagami T, Tsuchimine S, and Kaneko S. Association between cytochrome P450 (CYP) 2C19 polymorphisms and harm avoidance in Japanese. *Am J Med Genet Part B (Neuropsychiatr Genet)* 2007;144B:724-727.
- A.6. Katagai H, Yasui-Furukori N, Kikuchi A, and Kaneko S. Effective electroconvulsive therapy in a 92-year-old demented patients with psychotic feature. *Psychiatr Clin Neurosci* 2007;61:568-570.
- A.7. Yasui-Furukori N, Tsuchimine S, Saito M, Nakagami T, Sato Y, and Kaneko S. Association between major Multidrug Resistance (MDR1) gene polymorphisms and plasma concentration of prolactin during risperidone treatment in schizophrenia patients. *Prog Neuro-psychopharmacol Biol* 2007;31:1230-1234.
- A.8. Allqvist A, Miura J, Bertilsson L, and Mirghani AR. Inhibition of CYP3A4 and CYP3A5 catalyzed metabolism of alprazolam and quinine by ketoconazole as racemate and four different enantiomers. *Eur J Clin Pharmacol* 2007;63:173-179.
- B.1. *Kidachi R, Kikuchi A, Nishizawa Y, Hiruma T, and Kaneko S. Personality types and coping style in hemodialysis patients. *Psychiatr Clin Neurosci* 2007;61:339-347.
- B.2. *Hu Dong L, Zhu G, Mori F, Omoe K, Okada M, Wakabayashi K, Kaneko S, Shinagawa K, and Nakane A. Staphylococcal enterotoxin induces emesis through increasing serotonin release in intestine it is downregulated by cannabinoid receptor 1. *Cell Microbiol* 2007;9(9):226-227.
- B.3. Huang Ming C, Okada M, Makatsu F, Oguni H, Ito M, Morita K, Nagafuji H, Hirose S, Sakaki Y, Kaneko S, Ohno H, and Kojima T. Mutation screening of AP3M2 in Japanese epilepsy patients. *Brain Dev* 2007;29:462-467.
- B.4. Osaka H, Ogiwara I, Mazaki F, Okumura N, Yamashita S, Iai M, Yamada M, Kurosawa K, Iwamoto H, Yasui-Furukori N, Kaneko S, Fujiwara T, Inoue Y, and Yamakawa K. Patients with a sodium channel 1 gene mutation show wide phenotypic variation. *Epilepsy Res* 2007;75(1):46-51.

- B.5. Singh B, Monteil A, Bidaud I, Sugimoto Y, Suzuki T, Hamano S, Oguni H, Osawa M, Alonso ME, Delgado-Escueta AV, Inoue Y, Yasui-Furukori N, Kaneko S, Lory P, and Yamakawa K. Mutational analysis of CACNA1G in idiopathic generalized epilepsy. Mutation in brief #962. Online. Hum Mutat 2007;28(5):524-525.
- B.6. Sakumoto N, Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Yasui-Furukori N. Dopamine D(2) receptor gene polymorphisms predict well the response to dopamine antagonists at therapeutic dosages in patients with schizophrenia. Psychiatry Clin Neurosci. 2007 Apr; 61(2):174-80.
- B.7. Niioka T, Miura M, Uno T, Yasui-Furukori N, Hayakari M, Tateishi T, Suzuki T. Estimation of the area under the concentration-time curve of racemic lansoprazole by using limited plasma concentration of lansoprazole enantiomers. Eur J Clin Pharmacol. 2008 May;64(5):503-9.

和文

2006年度

- A.1. 北川理映子, 古郡規雄, 菊池淳宏, 片貝 宏, 兼子 直. 特集: 電気けいれん療法 (ECT) の治療経験—症例を中心に—精神科病棟での修正型電気けいれん療法 (m-ECT) の可能性について. 臨床精神医学 2006;35(9):1291-1296.
- A.2. 矢部博興. 臨床神経生理学的検査マニュアル 8. 事象関連電位検査, C. 事象関連電位検査報告書の書き方. 神経内科 2006;65(Suppl.4):384-395.
- B.1. 加藤拓彦, 小山内隆生, 和田一丸. 精神科作業療法を継続している入院統合失調症患者における社会医学的側面—結婚と就労を中心に—. Hirosaki Med J 2006;57:71-78.
- B.2. 廣瀬伸一, 岡田元宏, 朱 剛, 上野伸哉, 吉田淑子, 福岡五龍, 齊藤 亮, 高野行夫, 兼子 直, 満留昭久. ヒトてんかんと同じ遺伝子異常をもつモデル動物. 脳と精神の医学 2006;17(2):157-160.
- B.3. 和田一丸, 田村和義, 田中 真, 石田美由希, 葛西未来, 加藤拓彦, 小山内隆男, 上谷英史. 入院精神疾患患者における退院と患者—家族関係に関する調査. 精神治療学 2006;21(9):1005-1009.
- B.4. 三浦 淳. 双極性感情障害の躁病におけるオランザピンの有用性. 最新精神医学 2006;11(6):563-564.
- C.1. 菱川泰夫, 兼子 直, 近藤 毅, 酒井明夫, 上田 均, 阿部佐倉, 稲村 茂, 田代哲男, 樋口 久. 統合失調症に対する aripiprazole の長期安全性試験—青森・岩手・秋田地区多施設共同非盲検試験—. 臨床精神薬理 2006;9:121-123.
- C.2. 渡邊直樹, 岩佐博人, 中路重之, 鳥谷部牧子. 特集: 自殺予防のための多角的: 医学—心理—社会を軸として職域におけるストレス対策と自殺予防活動. ストレス科学 2006;21(1):20-34.

2007年度

- A.1. 岩佐博人, 兼子 直. ミオクロニー発作. Clin Neurosci 2007;25(3):303-305.
- A.2. 兼子 直. てんかんの分子病態解明への展望. Medical Science Digest 2007;33(4):782-783.
- A.3. 兼子 直, 藤井 学, 吉田秀一. てんかんの遺伝子研究から見えてくる個別化治療の可能性. 臨床精神薬理 2007;10(4):617-623.
- A.4. 藤井 学, 三浦 淳, 菊池淳宏, 古郡規雄, 栗林理人, 兼子 直. 拒食・拒薬により著しい脱水状態となり, 肺血栓塞栓症を発症して統合失調症の1例. 精神科 2007;10(6):505-510.
- A.5. 古郡規雄, 兼子 直. 徐放性バルプロ酸ナトリウム製剤の体内薬物動態の比較検討. Pharma Medica 2007;25(1):127-131.
- A.6. 三浦 淳, 兼子 直. 気分障害治療における抗てんかん薬. 精神科 2007;11(5):344-349.
- A.7. 兼子 直, 朱 剛. 青森県の精神医療の現状と課題. 精神科 2007;11(3):224-227.
- A.8. 藤井 学, 古郡規雄, 兼子 直. 妊娠中の向精神薬治療. 臨床精神医学 2007;36(増刊号):299-303.
- A.9. 矢部博興, 松岡貴志, 朝井 廉, 兼子 直. ミスマッチ陰性電位研究における二つの重要課題. 臨床脳波 2007;49(12):735-739.
- A.10. 佐藤 靖, 古郡規雄, 兼子 直. 第二世代抗精神病薬による肥満, 糖尿病発症の遺伝的側面. 臨床精神薬理 2007;10:1433-1438.
- A.11. 菊池淳宏. ECTにおける発作後せん妄の検討. 第11回統合失調症研究会記録集 2007;10-14.
- A.12. 古郡規雄, 鈴木昭之. Gabapentin の薬物動態. 臨床精神薬理 2007;10(4):659-665.
- A.13. 岩佐博人. 新規抗てんかん薬ラモトリギンについて. Medical Science Digest 2007;33(4):807-811.
- A.14. * 小山内隆生, 加藤拓彦, 和田一丸. 入院統合失調症患者における社会精神医学的側面—退院と精神科作業療法に対する意識を中心に—. 弘前医学 2007;58(1-4):25-34.
- A.15. 岩佐博人. チャネロパチーとしてのてんかん症候群. 小児科 2007;48(&):913-922.
- C.1. 山内俊雄, 兼子 直, 八木和一, 荒川明雄. てんかん部分発作に対する gabapentin の長期投与試験—多施設共同非盲検試験—. 臨床精神薬理 2007;10(10):1893-1908.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 古郡規雄. 向精神病薬と高プロラクチン血症. CLINIC magazine 2006;33(1):26-27.
- A.2. 和田一丸, 兼子 直. (疾患を有する妊婦・授乳婦への薬物治療) てんかん患者. 薬事 2006;48(2):47-50.
- A.3. 兼子 直, 古郡規雄. 高プロラクチン血症の原因と問題点. こころのりんしょう à-la-carte 2006;25

(1):119-124.

- A.4. 三浦 淳, 古郡規雄, 兼子 直. 特集 / 新しい抗うつ薬 SSRI の薬物動態, 臨床効果, 副作用 4. 新しい抗うつ薬の臨床効果, 副作用と遺伝子多型. 臨床薬理 2006;37(5):273-277.

2007年度

- A.1. * 和田一丸, 兼子 直. てんかん. 臨床と研究 2007;84(2):57-61.
A.2. 中神 卓, 古郡規雄. 新規抗うつ薬の薬物相互作用. Mebio 2007;24(2):100-107.
A.3. 古郡規雄. 高プロラクチン血症の臨床的意義. 精神科 PSYCHIATRY 2007;10(1):39-44.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 兼子 直. Genetics of epilepsy てんかんの遺伝学. てんかん学用語事典 Dictionary Epileptology, 2006;75-76. 総頁158.
A.2. 兼子 直, Heinz Nau. 改訂版 パルプロ酸の臨床薬理 より良い使い方を求めて. 2006.9.26改訂版第1刷発行, 総頁183, 株ライフ・サイエンス, 東京
A.3. 兼子 直. Gabapentin in World Medical Literature. 兼子直監修, ガバペンチン海外文献要約集, 2006;Elsevier Japan K.K., 総頁43.
A.4. 矢部博興 (保坂隆編集), Part D 各種疾患に対する精神科用薬の使い方, 3. 認知症 これから始める向精神薬療法スペシャルテクニクー 一般臨床医のための指針, 診断と治療社, 東京, 109-118, 2006.
A.5. 矢部博興 (黒岩義之編集), 一事象関連電位検査報告書の書き方ー臨床神経生理学的検査マニュアル, 神経内科特別増刊号, 東京, 384-395, 2006.
B.1. 石澤幸男, 高畑武功, 古郡規雄, 宇野 司, 立石智則. 日本人高齢者における CYP2C19変異遺伝子頻度とオメプラゾール薬物動態を指標とした生体内 CYP2C19活性の検体. 海老原昭夫, 佐久間昭, 藤村昭夫編, 『臨床の薬理の進歩2006』, 臨床薬理研究振興財団発行, 総頁219. 2006;No.27.82-88.

2007年度

- A.1. 兼子 直. うつ病. 市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにー. 2007.1.29, 51-53.
A.2. * 和田一丸, 兼子 直. てんかん. コア・ローテーション精神科改訂2版, 総頁426. 224-230.
A.3. 兼子 直. チャネロパチー. KEY WORD 精神第4版2007. (株)先端医学社. 総頁240. 194-196.
B.1. 森園修一郎, 菊池淳宏, 近藤 剛, 兼子 直. 急性期における身体管理. 佐藤光源, 丹羽真一, 井上新平編集. 統合失調症の治療ー臨床と基礎ー. (株)朝倉書店. 2007.10.25. 376-382.

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. Saito M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, and Kaneko S. Effect of terbinafine on paroxetine metabolisms in humans. Int J Neuropsychopharmacol 2006;9(suppl.1):S251.
A.2. Yasui-Furukori N, Kaneda A, Iwashima K, Saito M, Nakagami T, Tsuchimine S, and Kaneko S. Association between CYP2C19 polymorphisms and harm avoidance in Japanese. Int J Neuropsychopharmacol 2006;9(suppl.1):S260.
A.3. Iwashima K, Kaneda A, Yasui-Furukori N, Saito M, Sato Y, and Kaneko S. Association between CYP2D6 polymorphisms and presenility trait in Japanese. Int J Neuropsychopharmacol 2006;9(suppl.1):S260.
A.4. Sato Y, Yasui-Furukori N, Nakagami T, Saito M, Furukori H, and Kaneko S. Comparison of glucose tolerance during treatments with risperidone and olanzapine in the same patients with schizophrenia. Int J Neuropsychopharmacol 2006;9(suppl.1):S285.
A.5. Kaneko S and Okada M. Epilepsy and ion channel. Neurosc Res 2006;55(Suppl.1):S23.
A.6. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Wakabayashi K, and Kaneko S. Interleukin-1 β leads overload response of Ca^{2+} mobilisation resulting in an imbalance between glutamatergic and GABAergic transmission in the hippocampus. 6th Asian & Oceanian Epilepsy Congress (Kuala Lumpur, Malaysia 16-19 Nov.2006) Abstract Book.29.
B.1. Murasaki M, Yagi K, Yamauchi T, Kameyama S, Kaneko S, Lucas M, and Tonner F. Multicentre, Double-blind, randomised, placebo-controlled, parallel-group study of add-on levetiracetam in Japanese patients with uncontrolled partial seizures. 6th Asian & Oceanian Epilepsy Congress (Kuala Lumpur, Malaysia 16-19 Nov.2006) Abstract Book.62-63.

2007年度

- B.1. Suzuki T, Duron R, Alonso M, Martinez-Juarez I, Bailly J, Inoue Y, Yoshimura I, Kaneko S, Ochoa A, Jara Prado A, Fujimoto S, Ito M, Hamano S, Sugita K, Ueda Y, Osawa M, Oguni H, Yamakawa K, and Delgado-Escueta A. Juvenile myoclonic epilepsy: Novel mutations in myoclonin1/EFHC1 in families. 27th International Epilepsy Congress 2007, Singapore, 8th-12th July 2007, Abstract Book, 86.

- C.2. Wang J, Kurahashi H, Hamachi A, Yonetani M, Inoue T, Ogawa A, Yasumoto S, Hirose S, and Kaneko S. Microdeletional mutations of SCN1A in individuals with severe Myoclonic epilepsy in infancy (SME1) and borderline SME1. 27th International Epilepsy Congress 2007, Singapore, 8th-12th July 2007, Abstract Book,123.

和文

2006年度

- A.1. 兼子 直. 統合失調症における長期予後とドーパミン関連遺伝子多型の関係について. 厚生労働省科学研究費こころの健康科学研究事業「ゲノム医学を活用した統合失調症及び気分障害に対する個別化治療法の開発」平成17年度総括・分担研究報告書, 主任研究者・染矢俊幸, 平成18(2006)年3月. 2006;14-16.
- A.2. 古郡規雄, 岩島久美子, 齊藤まなぶ, 金田絢子, 中神 卓, 兼子 直. 統合失調症における長期予後とドーパミン関連遺伝子多型の関係について. 精神薬療基金研究年報 2006;38:76-80.
- A.3. 岡田元宏, 朱 剛, 上野伸哉, 吉田淑子, 兼子 直. ヒトてんかんと同じ遺伝子異常をもつ組換え動物の作出 (第二報). 精神薬療基金研究年報 2006;38:191-196.
- A.4. 兼子 直. てんかんと妊娠 (第39回日本てんかん学会ランチョンセミナー). 第39回日本てんかん学会ランチョンセミナー記録集 2006;1-8.
- A.5. 兼子 直. 巻頭言 今, 求められていること. てんかん研究 2006;24(2):57.
- A.6. 兼子 直. シンポジウム1 1. Introduction てんかんの分子遺伝学的研究. てんかん研究 2006;24(3):173.
- A.7. 朱 剛, 岡田元宏, 吉田淑子, 若林孝一, 兼子 直. IL-1 β のてんかん原生機序:海馬アデノシン遊離に対する効果の検討. てんかん研究 2006;24(3):110.
- A.8. 岡田元宏, 吉田淑子, 朱 剛, 上野伸哉, 兼子 直. 細胞内カルシウム放出機構 (CICR) に対する抗てんかん薬ゾニサミドの効果. 細胞内カルシウム放出機構 (CICR) に対する抗てんかん薬ゾニサミドの効果. てんかん研究 2006;24(3):110.
- A.9. 三浦 淳. 寄稿 臨床薬理学海外研修を終えて. JPMA News Letter 2006;No.115:28-31.
- A.10. 兼子 直. 新しい抗てんかん薬ガバペンチンについて (第40回日本てんかん学会ランチョンセミナー). Medical Tribune 2006;37(46):22-23.
- A.11. 遊坐敦子. リストカット. 月刊 ぜんかれん 2006;No.478:56.
- A.12. 古郡規雄. 日本人の薬物代謝酵素 CYP2D6 の遺伝子多型は12種類以上 CYP2D6 の代謝活性正常者は76.7% (第27回日本臨床薬理学会年回事後リポート IRB など国内試験の環境改善で議論:弘前大・古郡規雄氏のグループが解析). Japan Medicine 2006;9: 総頁16.

2007年度

- A.1. 兼子 直. 統合失調症への抗精神病薬の適切な使い方についてーエビデンスに基づく検証ー. 臨床精神薬理 2007;10(5):129-141.
- A.2. 兼子 直. 非定型抗精神病薬の副作用に関する薬理遺伝学研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 分担研究報告書, 総頁245,13-16.
- A.3. 岡田元宏, 朱 剛, 吉田淑子, 上野伸哉, 岸 昭宏, 鏡石佳史, 斎藤 亮, 高野行夫, 廣瀬伸一, 兼子 直. ヒト機能性疾患と遺伝子異常をもつ組換え動物の作出 (第二法). 精神薬療研究年報 2007;36:37-43.
- A.4. 兼子 直, 岩佐博人, 古郡規雄, 岡田元宏, 土嶺章子, 佐々木智美, 藤井 学, 吉田秀一, 廣瀬伸一, 伊藤正利, 小国弘量, 大澤真木子, 前澤真理子, 小島俊男, 金井数明, 和田一丸. てんかんの責任遺伝子探索と遺伝子多型に基づいた個別化治療の開発. 精神・神経疾患研究委託費 (16指-3) てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究 (藤原班) 報告書, 総頁156.87-93.
- A.5. 兼子 直. (MR用) てんかんデキストーはじめての一步. 兼子直監修. 大日本製薬(株), 総頁51.2007.
- A.6. 兼子 直. 大学医師会コーナー 教室紹介ー神経精神医学講座. 弘前医師会報 2007;第314号:28-29.
- A.7. 兼子 直. てんかんの治療 新たな治療法開発への展望. Epilepsy Guidance 2007;10.
- A.8. 兼子 直. 書評 Benjamin J. Sadoc, 他編: Sadoc's Synosis of Psychiatry; Behavioral Sciences/Clinical Psychiatry, 10th ed. 精神医学 2007;49(12):735-739.
- B.1. 廣瀬伸一, 岡田元宏, 朱 剛, 上野伸哉, 吉田淑子, 福岡五龍, 斎藤 亮, 高野行夫, 兼子 直, 満留昭久. ヒトてんかん遺伝子導入モデル動物を用いたてんかんの病態解明. てんかん治療研究振興財団研究年報 2007;18:49-54.
- B.2. 廣瀬伸一, 岡田元宏, 朱 剛, 上野伸哉, 吉田淑子, 福岡五龍, 斎藤 亮, 高野行夫, 兼子 直, 満留昭久. ChRNA4異常を持つ遺伝子改変モデル動物の神経科学的解析. 精神・神経疾患研究委託費 (16指-3) てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究 (藤原班) 報告書, 総頁156.81-86.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Pharmacol	2.477	1	2.477
Br J Clin Pharmacol	2.777	1	2.777
Lancet	23.407	1	23.407
Prog Neuro-Psychoph & Biol Psychiat	2.769	1	2.769
Clin EEG Neurosci	0.581	1	0.581
Epilepsy Res	2.663	1	2.663
Biol Psychiatry	7.154	1	7.154
Neuropathology	1.167	1	1.167
Curr Clin Pharmacol	0	1	0
Xenobiotica	1.427	2	2.854
Br J Clin Pharmacol	2.777	2	5.554
J Chromatogr B	2.391	1	2.391
Ther Drug Monit	2.78	3	8.34
Eur J Pharmacol	2.477	2	4.954
Biocheml Bioph Res Co	3	1	3
Psychiatr Clin Neurosci	0.98	1	0.98
Epilepsy Res	2.663	1	2.663
Total		22	73.731

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Clin Pharmacol	2.029	2	4.058
Ther Drug Monit	3.032	1	3.032
Psychiat Clin Neurosci	1.132	2	2.264
Brit J Clin Pharmacol	2.718	1	2.718
Am J Med Genet (Part B)	4.463	1	4.463
Prog. Neuro-Psychopharmacol Biol	2.584	1	2.584
Psychiat Clin Neurosci	1.132	2	2.264
Cell Microbiol	5.070	1	5.070
Brain Dev	1.598	1	1.598
Epilepsy Res	2.088	1	2.088
Hum Mutat	6.473	1	6.473
Eur J Clin Pharmacol	2.029	1	2.029
Total		15	38.641

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
臨床精神医学	1	1
神経内科	1	
Hirosaki Mad J	1	1
脳と精神の医学	1	
精神治療学	1	
最新精神医学	1	
薬事	1	
こころのりんしょう <i>à-la-carte</i>	1	
臨床薬理	1	
Clin Neurosci		
Medical Science Digest		1
臨床精神薬理		2
精神科		1
Pharma Medica		3
臨床脳波		1
臨床精神薬理		1
統合失調症研究会記録集		3
小児科		1
計	9	16

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	1	0
分担執筆	5	4

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Neuropsychopharmacology	3.981	4	15.924
Neurosci Res	2.184	1	2.184
Total		5	18.108

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
厚生労働省科学研究費こころの健康科学研究事業「ゲノム医学を活用した統合失調症及び気分障害に対する個別化 ch 医療法の開発」平成 17 年度総括・分担報告書	1	
精神薬療基金研究年報	2	
第 39 回日本てんかん学会ランチョンセミナー記録集	1	
てんかん研究	4	
JPMA News Letter	1	
Medical Tribune	1	
月間 ぜんかれん	1	
Japan Medical	1	
臨床精神薬理		1
厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 分担研究報告書		1
精神薬療研究年報		1
精神・神経疾患研究委託費 (16 指 -3) 報告書		2
てんかんテキストはじめての一步ー		1
弘前医師会報		1
Epilepsy Guidance		1
精神医学		1
てんかん治療研究振興財団研究年報		1
計	12	10

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. Matsuoka T, Yabe H, Asai R, Hara E, and Kaneko S. The development of memory trace as reflected by the MMN. 14th Biennial Meeting of the International Pharmacology-EEG Society. Japan 2006.
- B.2. Yabe H. Temporal integration function in auditory sensory memory. In: Novelty detection in the auditory system. The second Shanghai International Conference on Physiological Biophysics -Audition and Vision 2006, Shanghai, China 2006.
- B.3. Yabe H. Memory trace as reflected by Mismatch negativity. In: Neurology. 14th Biennial Meeting of the International Pharmacology-EEG Society (IPEG), Awaji island, Japan 2006.
- B.4. Matsuoka T., and Yabe H. The development of memory trace as reflected by the MMN. In: ERP approach to Memory and Inhibitory function. 14th Biennial Meeting of the International Pharmacology-EEG Society (IPEG), Awaji island, Japan 2006.
- C.1. Saito M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, and Kaneko S. Effect of terbutaline on paroxetine metabolisms in humans. XXV CINP Congress. Chicago, USA, 2006.07.09-13.
- C.2. Yasui-Furukori N, Kaneda A, Iwashima K, Saito Mu, Nakagami T, Tsuchimine S, and Kaneko S. Association between CYP2C19 polymorphisms and harm avoidance in Japanese. XXV CINP Congress. Chicago, USA,

2006.07.09-13.

- C.3. Iwashima K, Kaneda A, Yasui-Furukori N, Saito M, Sato Y, and Kaneko S. Association between CYP2D6 polymorphisms and personality trait in Japanese. XXV CINP Congress. Chicago, USA, 2006.07.09-13.
- C.4. Sato Y, Yasui-Fururiko N, Nakagami T, Saito M, Furukori H, and Kaneko S. Comparison of glucose tolerance during treatments with risperidone and olanzapine in the same patients with schizophrenia. XXV CINP Congress. Chicago, USA, 2006.07.09-13.

2007年度

- C.1. Yabe H. Human cognitive function and complex signal technology. 2007 IEEE/ICME International Conference on Complex Medical Engineering-CME2007, 2007IEEE/ICME International Exhibition on Complex, 2007.5.23-27, Beijing, CHINA.
- C.2. Medina M, Suzuki T, Duron R, Alonso M, Martinez-Juarez I, Bailey J, Inoue Y, Yoshimura I, Kaneko S, Ochoa A, Jara Prado A, Fujimoto S, Ito M, Hamano S, Sugita K, Ueda Y, Osawa M, Oguni H, Yamakawa K, and Delgado-Escueta A. Juvenile myoclonic epilepsy: Novel mutations myoclonin EFC1 in families, singletons and sporadics. 27th International Epilepsy Congress, 2007.7.8-12, Shingapore, SHINGAPORE.
- C.3. Wang J, Kurahashi H, Hamachi A, Yonetani M, Inoue T, Ogawa A, Yasumoto S, Hirose S, and Kaneko S. Microdeletional mutations of SCN1A in individuals with severe myoclonic epilepsy in infancy (SMEI) and borderline. 27th International Epilepsy Congress, 2007.7.8-12, Shingapore, SHINGAPORE.

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 兼子 直. シンポジウム：てんかん発作発現前の脳可逆性変化とてんかん原性. 第29回日本神経科学大会. 京都市. 2006.7.19-21
- B.1. 矢部博興. シンポジウム：MMN 研究の重要問題. In; ミスマッチ陰性電位で何が分かるか 第36回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜市, 2006
- B.2. 朝井 廉, 矢部博興, 晝間臣治, 松岡貴志, 朝井春子, 田中秀明, 平田幸一, 兼子 直. シンポジウム：統合失調症患者に認められる時間統合機能の特異的障害について. In; ミスマッチ陰性電位で何が分かるか 第36回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜市, 2006
- B.3. 矢部博興. シンポジウム：前注意的な音探知システムの基盤にある聴覚性感覚記憶について In: ヒトの知覚とリズム 第21回生命情報科学シンポジウム, 横浜市, 2006
- B.4. 古郡規雄, 兼子 直. COMTを中心とした臨床薬理遺伝学から, 第28回日本生物学的精神医学会, 名古屋, 2006年9月.
- C. 20件

2007年度

- B.1. 矢部博興. シンポジウム：逆問題・信号処理, Memory-based response としての mismatch negativity. 第22回日本生体磁気学会大会, 2007.6.21-23, 岡崎市.
- B.2. 晝間臣治, 矢部博興, 松岡貴志, 朝井 廉, 兼子 直. シンポジウム17：統合失調症の MMN 研究, 2) 統合失調症における聴覚性 MMN の異常. 第37回日本臨床神経生理学会学術大会, 2007.11.21-23, 宇都宮市.
- C. 26件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

- 日本臨床精神神経学会学術症例賞
- 日本臨床薬理振興財団学術論文賞

2007年度

- 第17回日本臨床精神神経学会学術症例賞
- 日本臨床薬理振興財団学術論文賞

Ⅳ. 共同研究

2007年度

- てんかん, 熱性けいれんの遺伝子解析
- 神経精神疾患責任遺伝子解析と変位蛋白機能解析
- 中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

- 基盤研究 (S) (平成 16－20年度)
てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の確立、
1,580万円 (代表：兼子 直)
- 特定領域研究 (平成 18－19年度)
機能性精神疾患の **two hit model** 仮説の構築、410万円 (代表：兼子 直)
- 文部省科学研究費基盤研究 (B) (課題番号 15390346) 平成 15年－18年 (個人：矢部博興)
- 統合失調症患者における聴覚性感覚記憶内の時間圧縮現象の研究、700万円 (代表：矢部博興)
- 文部省科学研究費萌芽研究 (課題番号 17659346)
平成 17年－19年、感覚記憶内の時間圧縮に基づく聴覚情景地図の作成、330万円 (個人：矢部博興)
- 基盤研究 (C) 180万円 (代表：古郡規雄)

他研究単位との研究分担者として

- 文部省科学研究費基盤研究 (C) 一般 (課題番号 17590891) 平成 17年－19年
基底核が早期情報処理障害にもたらす影響の病態解明－脳波・脳磁図 **mismatch negativity (MMN)**
を用いた検討－ 490万円 (個人：矢部博興)
- 文部省科学研究費特定領域研究 (A)「統合脳」(課題番号 18020002) 平成 18年－19年
ヒトおよびサルにおける運動の不変的表現から最終指令への変換を担う大脳皮質機構 395万円
(個人：矢部博興)
- 基盤研究 (S) 1,768万円 (代表：古郡規雄)

2007年度

研究代表者として

- 基盤研究 (S) (平成 16－20年度)
てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の確立、
13,600,000円 (代表：兼子 直)
- 特定領域研究 (平成 18－19年度)
機能性精神疾患の **two hit model** 仮説の構築、4,100,000円 (代表：兼子 直)
- 文部省科学研究費基盤研究 (B) (課題番号 15390346) 平成 15年－18年 (個人：矢部博興)
- 統合失調症患者における聴覚性感覚記憶内の時間圧縮現象の研究、7700,000円 (代表：矢部博興)
- 文部省科学研究費萌芽研究 (課題番号 17659346)
平成 17年－19年、感覚記憶内の時間圧縮に基づく聴覚情景地図の作成、330万円 (個人：矢部博興)
- 基盤研究 (C) 1,800,000円 (代表：古郡規雄)

他研究単位との研究分担者として

- 文部省科学研究費基盤研究 (C) 一般 (課題番号 17590891) 平成 17年－19年
基底核が早期情報処理障害にもたらす影響の病態解明－脳波・脳磁図 **mismatch negativity (MMN)**
を用いた検討－ 4,900,000円 (個人：矢部博興)
- 文部省科学研究費特定領域研究 (A)「統合脳」(課題番号 18020002) 平成 18年－19年
ヒトおよびサルにおける運動の不変的表現から最終指令への変換を担う大脳皮質機構 3,950,000円
(個人：矢部博興)
- 基盤研究 (S) (代表：古郡規雄)

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

- 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費：てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究、
110万円 (代表：兼子 直)
- 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費：統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究、
427,500円 (代表：兼子 直)
- 平成 18年度厚生労働省科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業」：
ゲノム医学を活用した統合失調症および気分障害に対する気分障害に対する個別化治療の開発、
500万円 (代表：兼子 直)

2007年度

他研究単位との研究分担者として

- 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費：てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究,
700,000万円（代表：兼子 直）
- 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費：統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究,
427,500円（代表：兼子 直）
- 平成18年度厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業」:
ゲノム医学を活用した統合失調症および気分障害に対する気分障害に対する個別化治療の開発,
5,000,000円（代表：兼子 直）

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

- 国際学術研究助成金 100万円（代表：古郡規雄）

2007年度

研究代表者として

- 国際学術研究助成金 100万円（代表：古郡規雄）

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として

- 統合失調症研究会助成金 50万円（代表：古郡規雄）

2007年度

研究代表者として

- 統合失調症研究会助成金 500,000円（代表：古郡規雄）
- 臨床薬理振興財団 3,000,000円（代表：古郡規雄）

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

17. 小児科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

小児科学の発展に寄与する臨床研究および分子生物学を基盤とする基礎研究を行い，実際の臨床に研究成果を還元することを大きな目標に設定したが，約60～70%の達成度であった。

理念：

先進的な基礎研究および臨床研究を行い，小児科学の発展のために寄与することである。

これから2年間の目標：

- 1．小児白血病の発症機序の理解を深めるために，Down 症候群の白血病発症機構の解析を進める。
- 2．小児の血液疾患の病因を理解するために，原因の候補となる遺伝子の変異の有無について解析を進める。
- 3．血液腫瘍性疾患に関する多施設共同の治療研究を行う。
- 4．小児心疾患における心筋傷害マーカー，神経体液因子の動態を検討し，心不全，心筋疾患，冠動脈疾患，不整脈症例における重症度判定，予後規定，治療効果判定への有用性を評価する。
- 5．胎児心疾患の診断と治療に関する技術向上。心疾患の出生前診断をより確実に行うことで出生後の治療成績や予後の改善に寄与できることが期待できる。
- 6．小児期発症難治性腎疾患へのより効果的かつ副作用の少ない免疫抑制療法の臨床的研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 2，助手 4，医員 7，大学院学生 4，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	伊藤 悦朗	1年
	助教授	専 任	高橋 徹	1年
	講 師	専 任	田中 完	1年
	講 師	専 任	土岐 力	1年
	助 手	専 任	藤田 浩史	1年
	助 手	専 任	照井 君典	1年
	助 手	専 任	高橋 良博	1年
	助 手	専 任	遠野千佳子	1ヶ月
	助 手	専 任	佐々木伸也	6ヶ月
	助 手	専 任	大谷 勝記	5ヶ月
研究課題	1．Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構 2．血球分化の分子機構の解析-BACH 転写因子を中心に 3．小児白血病の多施設共同の治療研究 4．小児心疾患における心筋傷害マーカー 5．川崎病冠動脈障害の診断と管理・治療 6．心疾患の出生前診断 7．尿沈査細胞に発現する腎疾患の病態に関与する各種機能分子の検討とその病態に関わる機序の研究 8．小児期発症難治性腎疾患，リウマチ性疾患に対する新しい視点からの免疫抑制療法の臨床研究 9．Retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) の腎組織上への発現と意義に関する研究 10．小児難治性てんかんの治療			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 6, 大学院学生 3, 研究生 1			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	伊藤 悦朗	1年
	准教授	専 任	高橋 徹	1年
	講 師	専 任	田中 完	1年
	講 師	専 任	土岐 力	1年
	助 教	専 任	藤田 浩史	1年
	助 教	専 任	照井 君典	1年
	助 教	専 任	佐々木伸也	1年
	助 教	専 任	工藤 耕	1年
研究課題	1. Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構 2. 血球分化の分子機構の解析 -BACH 転写因子を中心に 3. 小児白血病の多施設共同の治療研究 4. 小児血液疾患の原因遺伝子の分子生物学的解析 5. 小児心疾患における心筋傷害マーカー 6. 胎児心疾患の診断と治療 7. 尿沈査細胞に発現する腎疾患の病態に関与する各種機能分子の検討とその病態に関わる機序の研究 8. 小児期発症難治性腎疾患, リウマチ性疾患に対する新しい視点からの免疫抑制療法の臨床研究 9. Retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) の腎組織上への発現と意義に関する研究 10. 小児難治性てんかんの治療			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Xu G, Kato K, Toki T, Takahashi Y, Terui K, Ito E. Development of Acute Megakaryoblastic Leukemia From a Minor Clone in a Down Syndrome Patient With Clinically Overt Transient Myeloproliferative Disorder. **J Pediatr Hematol Oncol.** 2006;28:696-698.
- A.2. Kanezaki R, Toki T, Xu G, Narayanan R, Ito E. Cloning and Characterization of the Novel Chimeric Gene p53/FXR2 in the Acute Megakaryoblastic Leukemia Cell Line CMK11-5. **Tohoku J Exp Med.** 2006;209(3):169-80.
- A.3. Xu G, Kanezaki R, Toki T, Watanabe S, Takahashi Y, Terui K, Kitabayashi I, and Ito E. Physical association of the patient-specific GATA1 mutants with RUNX1 in acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down syndrome. **Leukemia** 2006;20:1002-1008.
- A.4. Suzuki K, Tanaka H, Tsugawa K, Ito E. Effective treatment with cyclosporine A of a child with systemic lupus erythematosus resistant to cyclophosphamide pulse therapy. **Tohoku J Exp Med.** 2006;208(4):355-9.
- A.5. Tanaka H, Tsugawa K, Suzuki K, Nakahata T, Ito E. Long-term mizoribine intermittent pulse therapy for young patients with flare of lupus nephritis. **Pediatr Nephrol.** 2006;21(7):962-6.
- A.6. Tanaka H, Tsugawa K, Suzuki K, Ito E. Renal biopsy findings in children receiving long-term treatment with cyclosporine a given as a single daily dose. **Tohoku J Exp Med.** 2006;209(3):191-6.
- B.1. Nagayama J, Tomizawa D, Koh K, Nagatoshi Y, Hotta N, Kishimoto T, Takahashi Y, Kuno T, Sugita K, Sato T, Kato K, Ogawa A, Nakahata T, Mizutani S, Horibe K, Ishii E. Japan Infant Leukemia Study Group. Infants with acute lymphoblastic leukemia and a germline MLL gene are highly curable with use of chemotherapy alone: results from the Japan Infant Leukemia Study Group. **Blood.** 2006 Jun 15;107(12):4663-5.

2007年度

- A.1. Tono C, Takahashi Y, Terui K, Sasaki S, Kamio T, Tandai S, Sato T, Kudo K, Toki T, Tachibana N, Yoshioka T, Nakahata T, Morio T, Nishikomori R, Ito E. Correction of immunodeficiency associated with NEMO mutation by umbilical cord blood transplantation using a reduced-intensity conditioning regimen. **Bone Marrow Transplant.** 2007;39:801-804.
- A.2. Tanaka H, Tsugawa K, Suzuki K, Oki ES, Nonaka K, Kimura S, Ito E. Treatment of difficult cases of systemic-onset juvenile idiopathic arthritis with tacrolimus. **Eur J Pediatr.** 2007;166(10):1053-5.
- A.3. Suzuki K, Imaizumi T, Tsugawa K, Ito E, Tanaka H. Expression of retinoic acid-inducible gene-I in lupus nephritis. **Nephrol Dial Transplant.** 2007;22(8):2407-2409.
- A.4. Tanaka H, Oki E, Tsugawa K, Suzuki K, Tsuruga K, Ito E. Long-term intermittent pulse therapy with mizoribine attenuates histologic progression in young patients with severe lupus nephritis: report of two patients. **Nephrology (Carlton).** 2007;12(4):376-379.

- A.5. Tanaka H, Oki E, Tsugawa K, Nonaka K, Suzuki K, Ito E. Effective treatment of young patients with pediatric-onset, long-standing lupus nephritis with tacrolimus given as a single daily dose: an open-label pilot study. **Lupus**. 2007;16(11):896-900.
- A.6. Tanaka H, Tsugawa K, Nakahata T, Suzuki K, Ito E. Leukocytapheresis for the treatment of refractory systemic-onset juvenile idiopathic arthritis. **Clin Rheumatol**. 2007;26(6):1014-1016.
- A.7. Tanaka H, Tsugawa K, Oki E, Suzuki K, Ito E. Mizoribine intermittent pulse therapy for induction therapy for systemic lupus erythematosus in children: an open-label pilot study with five newly diagnosed patients. **Clin Rheumatol**. 2008;27:85-89.
- A.8. Tsugawa K, Oki E, Suzuki K, Imaizumi T, Ito E, Tanaka H. Expression of mRNA for functional molecules in urinary sediment in glomerulonephritis. **Pediatr Nephrol**. 2008;23:395-401.
- B.1. Kanegane H, Watanabe S, Nomura K, Xu G, Ito E, Miyawaki T. Distinct clones are associated with the development of transient myeloproliferative disorder and acute megakaryocytic leukemia in a patient with Down syndrome. **Int J Hematol**. 2007;86:250-252.
- B.2. Narumi Y, Aoki Y, Niihori T, Neri G, Cave H, Verloes A, Nava C, Kavamura MI, Okamoto N, Kurosawa K, Hennekam RC, Wilson LC, Gillesen-Kaesbach G, Wiczorek D, Lapunzina P, Ohashi H, Makita Y, Kondo I, Tsuchiya S, Ito E, Sameshima K, Kato K, Kure S, Matsubara Y. Molecular and clinical characterization of cardio-facio-cutaneous (CFC) syndrome: overlapping clinical manifestations with Costello syndrome. **Am J Med Genet A**. 2007;143:799-807.
- B.3. Fuchizawa T, Adachi Y, Ito Y, Higashiyama H, Kanegane H, Futatani T, Kobayashi I, Kamachi Y, Sakamoto T, Tsuge I, Tanaka H, Alison H, Banham AH, Ochs HD, Miyawaki T. Developmental changes of *FOXP3*-expressing CD⁴⁺CD²⁵⁺ regulatory T cells and their impairment in patients with *FOXP3* gene mutations. **Clin Immunol**. 2007;125:237-246.
- B.4. Saito M, Nishikomori R, Kambe N, Fujisawa A, Tanizaki H, Takeichi K, Imagawa T, Iehara T, Takada H, Matsubayashi T, Tanaka H, Kawashima H, Kawakami K, Kagami S, Okafuji I, Yoshioka T, Adachi S, Heike T, Miyachi Y, Nakahata T. Disease-associated *CIAS1* mutations induce monocyte death, revealing low-level mosaicism in mutation-negative cryopyrin-associated periodic syndrome patients. **Blood** 2008;111:2132-2141.
- B.5. Ishikawa A, Yoshida H, Metoki N, Toki T, Imaizumi T, Matsumiya T, Yamashita K, Taima K, Satoh K. Edaravone inhibits the expression of vascular endothelial growth factor in human astrocytes exposed to hypoxia. **Neurosci Res**. 2007;59(4):406-412.

和文

2006年度

- A.1. 田中 完. 小児膠原病と免疫抑制薬. 炎症と免疫 2006;14:544-551.
- A.2. 照井君典, 伊藤悦朗. ダウン症候群に伴う急性巨核芽球性白血病の分子生物学的特徴. 血液・腫瘍科 2007;54:210-215.

2007年度

- A.1. 高橋良博, 照井君典, 遠野千佳子, 佐々木伸也, 工藤 耕, 神尾卓哉, 丹代 諭, 小友勇人, 北澤淳一, 伊藤悦朗. 単一施設における造血器腫瘍に対する非血縁者間臍帯血移植22例の検討. 日本小児血液学会雑誌 2007;21:72-77.
- A.2. 北澤淳一, 高橋良博, 立花直樹, 伊藤悦朗. 過去4年間の青森県における小児特発性血小板減少性紫斑病発症状況について. 弘前医学 2007;58:11-16.

(2) 総説

英文

2007年度

- B.1. Imaizumi T, Mori F, Yagihashi N, Kitamura H, Sashinami H, Suzuki K, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Tanji K, Sakai H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Tanaka H, Takanashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Ito E, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene-1 (RIG-I) and diseases. *Hiroaki Med J* 2007;59(Suppl):S137-S142.

和文

2006年度

- A.1. 伊藤悦朗. 急性巨核球性白血病とGATA1遺伝子変異. 臨床血液 2006;47:1415-1422.
- A.2. 伊藤悦朗, 土岐 力. Down症候群に伴う急性巨核球性白血病の分子機構. 日本臨床 2007;65(増刊):136-140.
- A.3. 伊藤悦朗. Down症候群にみられる急性巨核球性白血病とGATA1遺伝子変異. 血液フロンティア 2007;17:491-497.
- A.4. 田中 完. 小児の急性腎炎症候群. 今日の治療指針2007. 私はこう治療している. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 編. p.979-980. 医学書院, 東京, 2007.
- A.5. 田中 完. ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対するネオオラル食前1日1回投与法の効果. *Annual Review 腎臓* 2007. 御手洗哲也, 東原英二, 秋澤忠男, 五十嵐隆, 金井好克 編. p.261-267. 中外医学社, 東京, 2007.

2007年度

- A.1. 照井君典, 伊藤悦朗. ダウン症候群に伴う急性巨核芽球性白血病の分子生物学的特徴. 血液腫瘍科 54 (2):210-215,2007.
- A.2. 田中 完. 若年者のループス腎炎を対象としたミゾリピンパルス療法. 炎症と免疫 2008;16:107-114.
- A.3. 造血器腫瘍 基礎・臨床領域における最新の研究動向 基礎編造血器腫瘍研究 白血病 分子生物学的研究 Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の分子機構 (解説 / 特集) 日本臨床 65(1):136-140(2007).

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 伊藤悦朗. 白血病 iv) その他の類縁疾患. 新小児がんの診断と治療. 別所文雄, 杉本 徹, 横森欣司編. 診断と治療社. 217-220, 2007.
- A.2. 高橋 徹. 一般的症候 低体温. 小児科診療2007 Suppl.13-16 (分担)
- A.3. 田中 完. 夜尿症. 小児科講義録. 佐地 勉, 有坂 治, 大澤真木子, 近藤直実, 竹村 司 編. pp.670-671, メジカルビュー社, 東京, 2008.
- A.4. 田中 完. 非腎炎性血尿 (ナットクラッカー現象, 腎・尿路結石). 小児科講義録. 佐地 勉, 有坂 治, 大澤真木子, 近藤直実, 竹村 司 編. pp.672-673, メジカルビュー社, 東京, 2008.

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. Nahatata T, Tsugawa K, Waga S, Tanaka H. Acute renal failure with encephalopathy following *Salmonella enteritidis* infection. **Pediatr Nephrol** 2006;21:1209-1210.
- A.2. Tanaka H, Tsugawa K, Tsuruga K, Shimada J, Suzuki K, Ito E. Single-dose daily administration of cyclosporin A for relapsing nephrotic syndrome: report of a case showing poor response. **Clin Nephrol** 2006;66:219-220.
- A.3. Suzuki K, Tsugawa K, Tanaka H. Tacrolimus for the treatment of focal segmental glomerulosclerosis resistant to cyclosporine A. **Pediatr Nephrol** 2006;21:1913-1914.

2007年度

- A.1. Tanaka H, Tsugawa K, Oki E, Suzuki K, Waga S, Ito E. Long-term mizoribine intermittent pulse therapy, but not azathioprine therapy, attenuated histologic progression in a patient with severe lupus nephritis. **Clin Nephrol** 2007;68:198-20

和文

2007年度

- A.1. 沖 栄真, 津川浩二, 鈴木康一, 田中 完. 少量タクロリムス療法が有効であった再燃を繰り返す全身性エリテマトーデス症例. 日本腎臓学会誌 2007;49:1020-1024.
- A.2. 野中航仁, 田中 完, 沖 栄真, 津川浩二, 鈴木康一, 伊藤悦朗. 成長障害を契機に発見された慢性甲状腺炎 (橋本病) の1例. 小児内科 2007;39:2239-2242.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Leukemia	6.146	1	6.146
J Pediatr Hematol Oncol.	1.463	1	1.463
Pediatr Nephrol.	2.007	3	6.021
Tohoku J Exp Med.	0.903	3	2.709
Clin Nephrol	2.718	1	2.718
Blood	10.37	1	10.37
Total		10	29.427

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Bone Marrow Transplant.	3	1	3
Eur J Pediatr	1.227	1	1.227
Nephrol Dial Transplant	3.167	1	3.167
Nephrology	1.241	1	1.241
Lupus	2.248	1	2.248
Clin Rheumatol	1.644	2	3.288
Pediatr Nephrol	1.936	1	1.936
Int J Hematol	1.491	1	1.491
Am J Med Genet A	2.440	1	2.440
Clin Immunol	3.551	1	3.551
Blood	10.896	1	10.896
Neurosci Res	2.121	1	2.121
Total		13	36.606

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
炎症と免疫	1	
血液・腫瘍科	1	1
日本小児血液学会雑誌		1
弘前医学		1
日本臨床		1
計	2	4

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	4

3. その他（A, B のみ）

英文

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Nephrol	1.32	1	1.32
Total		1	1.32

和文

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
臨床血液	1	
日本臨床	1	
血液フロンティア	1	
今日の治療指針 2007	1	
Annual Review 腎臓 2007	1	
日本腎臓学会誌		1
小児内科		1
計	5	2

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- C.1. Tono C, Takahashi Y, Terui K, Sasaki S, Toki T, Tachibana N, Yoshioka T, Nakahata T, Morio T, Nishikomori R, and Ito E. Correction of immunodeficiency associated with NEMO mutation by unrelated cord blood transplantation using a reduced-intensity conditioning regimen. 33th Annual Meeting of European Group for

2007年度

- A.1. Sato T, Toki T, Kanezaki R, Xu G, Terui K, Kamio T, Kiyoi H, Mano H, Ito E. Activating *JAK3* mutations in transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down syndrome. **ASH meeting**, December 8-11, 2007, Atlanta, Georgia
- B.1. Kato K, Yoshimi A, Ito E et al. Cord blood transplantation from unrelated donor for children with acute lymphoblastic leukemia in Japan: The impact of methotrexate on the clinical outcome. **ASH meeting**, December 8-11, 2007, Atlanta, Georgia
- C.1. Suzuki K, Tsugawa K, Oki E, Ito E, Tanaka H. Dense deposit disease initially presenting as endocapillary proliferative glomerulonephritis. **The 5th Japan-Korea Pediatric Nephrology Seminar**, Osaka, Japan, 2007.
- B.2. Tsugawa K, Tanaka H, Suzuki K, Oki E, Imaizumi T, Ito E. Expression of retinoic acid-inducible gene I in lupus nephritis. **The 14th Congress of the International Pediatric Nephrology Association**, Budapest, Hungary, 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 伊藤悦朗. ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の分子機構に関する最近の進歩. 第48回日本小児血液学会 大阪 11月25日～26日, 2006
- B.1. 伊藤悦朗, 徐 剛, 金崎理香, 照井君典, 土岐 力. TAM 発症の分子機構 第51回日本未熟児新生児学会 埼玉市 11月26日～28日, 2006

2007年度

- C. 15件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

○優秀ポスター演題賞

「一過性骨髄増殖症のマイナークローンから発生したダウン症関連急性巨核球性白血病」
第69回日本血液学会総会・第49回日本臨床血液学会総会

Ⅳ. 共同研究

2007年度

- 1. 東北大学大学院医学系研究科・生物化学分野 五十嵐和彦教授 BACH 転写因子に関する研究
- 2. 東北大学大学院医学系研究科・生物化学分野 山本雅之教授 GATA1 転写因子に関する研究
- 3. Case Western Reserve University School of Medicine, Mary J. Laughlin, MD, Molecular Mechanisms Underlying Graft vs. Host Disease
- 4. 小児ネフローゼ症候群に対するネオオラル1日1回投与法と2回投与法の比較検討. 有用性と安全性の確認を目的とした東北地区多施設治療研究 (代表世話人, 福島県立医科大学保健学科教授 鈴木順造).
- 5. 小児期ループス腎炎に対するミゾリビンパルス療法の検討 (代表世話人, 福島県立医科大学保健学科教授 鈴木順造).

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

1) 特定領域研究

ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の多段階発症の分子機構 配分額9,400千円 (研究代表者 伊藤悦朗)

2) 基盤研究 (B) (2)

GATA-1 転写因子による白血病の分子機構 配分額4,100千円 (研究代表者 伊藤悦朗)

3) 特別研究員奨励費 配分額1,000千円 (特別研究員 徐 剛 受け入れ教授 伊藤悦朗)

4) 平成17-18年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C)

「BACH1 転写因子による赤芽球・巨核球における標的遺伝子の異なる発現調」 1,400千円 (研究代表者 土岐 力)

2007年度

研究代表者として

- 1) 特定領域研究（代表 伊藤悦朗）
「ダウン症候群に伴う急性巨核球性白血病の多段階発症の分子機構」 配分額9,400千円
- 2) 基盤研究（B）（2）（代表 伊藤悦朗）
「GATA-1転写因子による白血病の分子機構」 配分額 4,400千円
- 3) 特別研究員奨励費（代表 伊藤悦朗） 配分額 600千円
- 4) 平成19-20年度 基盤研究（C）（土岐 力）
「急性巨核球性白血病の表現型における転写因子 BACH1 および GATA-1 の機能解析」 配分額2,860千円

（2）その他の省庁からの研究費

2007年度

他研究単位との研究分担者として

- 平成19年度 成育医療研究委託事業
小児期特異的血液疾患の分子遺伝学的解析（分担 伊藤悦朗，主任研究者 石井榮一）
配分額1,000千円

（3）学内の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

- ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究
平成17年度弘前大学学長指定重点研究（研究代表者 大山 力） 配分額500千円

（4）民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2006年度

日本学術振興会外国人特別研究員 1名 徐 剛（中国）

2007年度

日本学術振興会外国人特別研究員 1名 徐 剛（中国）

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

（2）国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

日本小児科学会青森地方会 3回
青森小児血液腫瘍研究会 1回
平成17年度青森県小児保健協会総会・学術集会 1回
平成17年度青森県小児保健協会夏期懇談会 1回

2007年度

第145回日本小児科学会青森地方会（会長 伊藤悦朗）弘前市
第146回日本小児科学会青森地方会（会長 伊藤悦朗）青森市
第26回青森小児血液腫瘍研究会（会長 伊藤悦朗）青森市
平成19年度青森県小児保健協会総会・学術集会（会長 伊藤悦朗）青森市
平成19年度青森県小児保健協会夏期懇談会（会長 伊藤悦朗）弘前市
第59回北日本小児科学会（会長 伊藤悦朗）弘前市
第18回東北小児腎臓病研究会（当番世話人 田中 完）弘前市
青森県小児神経談話会（世話人 藤田浩史）弘前市
第104回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同東北地方会（会長 伊藤悦朗）青森市
第51回東北小児白血病研究会（会長 伊藤悦朗）青森市
第1回弘前大学造血幹細胞移植研究会（会長 伊藤悦朗）弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

18. 胸部心臓血管外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：
達成した。

理念：

患者に負担の少ない胸部外科・心臓血管外科治療の研究開発

これから2年間の目標：

コンピュータおよび内視鏡支援による外科治療の研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 3，助手 5，医員 2，大学院学生 1，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	科 長	福田 幾夫	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	助教授		鈴木 保之	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	講 師		福井 康三	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	講 師		對馬 敬夫	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	講 師		皆川 正仁	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	助 手		山田 芳嗣	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	助 手		大徳 和之	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	助 手		谷口 哲	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	助 手		木村 大輔	2006/4/1 ～ 2007/3/31
	助 手		須藤 武道	2006/4/1 ～ 2007/3/31
研究課題	1. 血流の可視化による病的大動脈内の血流の研究 2. 心臓手術における脳合併症の予防 3. 手術後の凝固系機能の変動と手術後静脈血栓塞栓症の予防・治療の研究 4. 体外循環侵襲による肺の障害の研究 5. 外科医療の効率化の研究 6. 肺癌の浸潤，転移に関与する分子生物学的因子の検討 7. 転移性肺腫瘍の外科治療成績と予後因子の解析 8. 外科感染症の研究			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 3，助教 5，助手 0，医員 1，大学院学生 3，研究生 2			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授		福田 幾夫	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	准教授		鈴木 保之	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	講 師		對馬 敬夫	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	講 師		皆川 正仁	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	講 師		大徳 和之	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教		山田 芳嗣	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教		谷口 哲	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教		木村 大輔	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教		須藤 武道	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教		青木 哉志	2007.4.1 ～ 2008.3.31

研究課題	1. 血流の可視化による病的大動脈内の血流の研究 2. 心臓手術における脳合併症の予防 3. 手術後の凝固系機能の変動と手術後静脈血栓塞栓症の予防・治療の研究 4. 体外循環侵襲による肺の障害の研究 5. 外科医療の効率化の研究 6. 肺癌の浸潤、転移に関与する分子生物学的因子の検討 7. 転移性肺腫瘍の外科治療成績と予後因子の解析 8. 外科感染症の研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Minakama M, Fukuda I, Wada M, Kaiqiang J, Daitoku K, Itoh K, Fukui K. Preoperative evaluation of the right gastroepiploic artery using abdominal ultrasonography. Ann Thorac Surg 2006;82:1131-1133.
- A.2. Wakayama F, Fukuda I, Suzuki Y, Kondo N. Neutrophil elastase inhibitor, Sivelestat, attenuates acute lung injury after cardiopulmonary bypass in the rabbit endotoxemia model. 2007;83:153-160.
- A.3. Suzuki Y, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I. Infective endocarditis with congenital heart disease. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2006;54:297-300.
- A.4. Yasuyuki Suzuki, Fuminori Wakayama, Norihiro Kondo, Wakako Tamo, Satoshi Taniguchi, Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Effect of Sivelestat Sodium Hydrate (ELASPOL) for Lung Injury and Acute Respiratory Distress Syndrome after Cardiovascular Surgery Hirosaki Med.J 57:79-86,2006.
- A.5. Ikuo Fukuda, Kozo Fukui, Masahito Minakawa, Masayuki Koyama, Ikko Ichinoseki and Yasuyuki Suzuki. Rescue Surgical Embolectomy for Fatal Pulmonary Embolism in Patient With Intracranial Hemorrhage. Ann Thorac Surg 2006;81:735-737.
- A.6. Kozo Fukui, Masaharu Hatakeyama, Kazuo Ito, Masahito Minakawa, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. Systolic anterior motion of the mitral valve despite the sliding leaflet technique for repair of the mitral valve. Jpn J Thorac Cardiovasc Sug 2006;54:249-252.
- A.7. K. Okudera, Y. Kamata, S. Takanashi, Y. Hasegawa, T. Tsushima, Y. Ogura, K. Nakanishi, H. Sato and K. Okumura. Small adenocarcinoma of the lung: Prognostic significance of central fibrosis chiefly because of its association with angiogenesis and lymphangiogenesis. Pathology International. 2006;56:494-502.
- B.1. Kameda K, Matsunaga T, Abe N, Fujiwara T, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased pericardial fluid level of matrix metalloproteinase-9 activity in patients with acute myocardial infarction -Possible role in the development of cardiac rupture-. Cir J 2006;70:673-678.
- B.2. Hatakeyama M, Imaizumi T, Sakaki H, Yoshida H, Tanaka H, Kimura H, Fukuda I, Satoh K. IL-1 induces the expression of vascular endothelial growth factor in human pericardial mesothelial cell. Heart Vessels 2007;22:123-127.
- B.3. Abe N, Matsunaga T, Kameda K, Tomita H, Fujiwara T, Ishizaka H, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased level of pericardial insulin-like growth factor-1 in patients with left ventricular dysfunction and advanced heart failure. J Am Coll Cardiol 2006;48:1387-1395.

2007年度

- A.1. Hatakeyama M, Imaizumi T, Terasaki F, Mori F, Tanji K, Sato F, Kijima H, Suma H, Wakabayashi K, Yoshida H, Fukuda I, Satoh K. Interferon-g upregulates retinoic acid-inducible gene-I in human pericardial mesothelial cells. Acta Cardiol 2007;62:551-555.
- A.2. Minakawa M, Fukuda I, Yamazaki J, Fukui K, Yanaoka H, Inamura T. Effect of cannula shape on aortic wall and flow turbulence: hydrodynamic study during extracorporeal circulation in mock thoracic aorta. Artif Organs. 2007;31:880-886.
- A.3. Kazuyuki Daiotku, Kazuhiko Seya, Ken-Ichi Furukawa, Shigeru Motomura. Assessment of the Effects of L- and N- Type Ca2+ Channel Blocking Drugs Using Canine Blood-Perfused Papillary Muscle Preparations. Tohoku J. Exp. Med.2007;212:415-422.
- B.1. Saito S, Fujiwara T, Matsunaga T, Minagawa K, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased Adiponectin synthesis in the visceral adipose tissue in men with coronary artery disease treated with pravastatin: A role of the attenuation of oxidative stress. Atherosclerosis. 2007;26:378-383.
- B.2. Masahiko Aoki, Yoshinao Abe, Hidehiro Kondo, Yoshiomi Hatayama, Hideo Kawaguchi, Akira Fujimori, Katsumasa Suzaki, Morio Seino, Takeshi Morita, Makoto Souma, Takao Tsushima, Shingo Takanashi. Clinical outcome of stereotactic body radiotherapy of 54Gy in nine fractions for patients with localized lung tumor using a cotome-made immobilization system. Radiat Med 2007;25:289-294.

和文

2006年度

- A.1. 大徳和之，一関一行，小山正幸，福井康三，福田幾夫，野田 浩．再発する肺塞栓症に対し下大静脈フィルターを腎静脈上部に追加留置した1例．日本血管外科学会誌 2006;15:378-382.
- A.2. 福井康三，金澤 潤，川村知紀，山内早苗，渡辺健一，谷口 哲，大徳和之，皆川正仁，鈴木保之，福田幾夫．感染性心内膜炎に起因する左室右房交通症．胸部外科 2007;15:378-382.
- A.3. 鈴木保之，大徳和之，對馬敬夫，福井康三，福田幾夫．胸部外科疾患に対する包括医療制度の影響．日本医療マネジメント学会雑誌 2006;7:304-308.
- A.4. 大徳和之，福井康三，田茂和歌子他．急性B型大動脈解離による大動脈狭窄に対するステント挿入．胸部外科，2006;59:445-448.
- A.5. 畠山正治，福田幾夫，谷口 哲，大徳和之，皆川正仁，鈴木保之，福井康三．腋窩動脈送血による術中大動脈解離の1例．日心血外会誌 2007;36:127-131.
- B.1. 稲村隆夫，柳岡英樹，山崎純一，福田幾夫，皆川正仁，福井康三．カニューレ出口形状による大動脈弓内の血流への影響．日本機械学会論文集 B. 2006;72:1249-1256.
- B.2. 櫛型哲也，橋本 浩，橋場英二，福井康三，伊東和雄，廣田和美．SAMによる循環虚脱に対し塩酸ランジオール少量投与が有効であった1症例．麻酔 2006;55:95-96.
- B.3. 羽隅 透，佐藤信之，太田伸一郎，佐藤雅美，遠藤千頭，近藤 丘，鈴木弘行，大泉弘幸，千田雅之，對馬敬夫，佐久間勉，齋藤泰紀．原発性非小細胞肺癌完全切除例の遠隔転移巣に対する外科治療成績の検討．日本呼吸器外科学会雑誌．2007;21(1):11-16.

2007年度

- A.1. 谷口 哲，渡辺健一，山内早苗，川村知紀，皆川正仁，大徳和之，鈴木保之，福井康三，福田幾夫，大畑 崇．当院における下大静脈フィルターの適応と治療成績 Therapeutic Research 2007;28:1138-1141.
- B.1. 齊藤陽子，辻 敏朗，三浦弘行，阿部由直，福井康三，福田幾夫，井澤純子，濱田圭登．頭部MRAと頸部造影MRAにおける頭蓋底レベルの動脈径の評価．臨床放射線 2007;52:353-357.

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Daitoku K, Yamauchi S, Minakawa M, Fukui K, Suzuki Y, Fukuda I. Regarding "radiation-induced valvular disease is the logical consequence of irradiation". Gen Thorac Cardiovasc Surg 2007;55:341-341.

和文

2006年度

- A.1. 福田幾夫．急性肺塞栓症に対する外科治療の現状と展望．臨床画像 2006;22:302-312.

2007年度

- A.1. 福田幾夫．最近の急性肺血栓塞栓症の外科治療．メディカル・サイエンス・ダイジェスト 2007;33:983-986.
- A.2. 福田幾夫，福井康三，大徳和之，皆川正仁．心筋梗塞後左室自由壁破裂の治療．冠疾患学会誌 2007;13:242-245.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 福田幾夫．虚血性心疾患の外科療法（分担執筆）．シミュレーション内科：心筋梗塞・狭心症を探る．2006.5.25 永井書店，東京
- A.2. 福田幾夫．OPCABG時代におけるon-pump CABGの位置づけーOn-pump CABGの適応と問題点（分担執筆）．胸部外科において何が標準術式となりうるか．2007.2.15 日本胸部外科学会
- A.3. 福井康三．疾患と栄養：心不全，心臓悪液質．新臨床 栄養学（分担執筆）2007;434-439.

2007年度

- A.1. 龍野勝彦，重松 宏，幕内晴朗，四津良平，安達秀雄編．福田幾夫．心臓血管外科テキスト 2007年9月1日発行．中外医学社．東京
- A.2. 對馬敬夫．肺がん．水島 豊，菅世智子編．市民のための老年病学．弘前大学出版会，弘前，2007，p.132-135.

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Ikuo Fukuda, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki. Management of an aorto-caval fistula from a ruptured aortic false aneurysm using a covered stent graft. *Interact CardioVasc Thorac Surg* 2007;6:682-684.
- A.2. Daitoku K, Fukuda I, Kitagawa R, Minakawa M, Suzuki Y, Fukui K. Aortic valve replacement in a patient with myelodysplastic syndrome and interstitial pneumonia. *Circ J*. 2007;71:1826-1828.
- B.1. Moriyama T, Kageyama k, Nigawara T, Koyanagi M, Fukuda I, Yasuhiro H, Suda T. Diagnosis of a case of ectopic parathyroid adenoma on the early image of 99m Tc-MIBI scintigram. *Endocrine J* 2007;54:437-440.

和文

2007年度

- A.1. 須藤武道, 川村知紀, 山内早苗, 渡辺健一, 谷口 哲, 大徳和之, 皆川正仁, 福井康三, 鈴木保之, 福田幾夫. 統合失調症患者に合併した肺動脈塞栓症(隔離室症候群)の治療経験. *Therapeutic Research* 2007;28:987-9881.
- A.2. 山内早苗, 山田芳嗣, 対馬敬夫, 北川理映子, 須藤武道, 木村大輔, 福田幾夫. Cushing 症候群を呈した胸腺カルチノイド 胸部外科 2008;61(2):143-146.
- A.3. 境 雄大, 山田芳嗣. 横行結腸浸潤を伴う4型胃癌穿孔に対して1期的に胃全摘術・横行結腸切除を施行した1例 臨床外科学会雑誌 2008;69:360-364.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Ann Thorac Surg	2.32	3	6.96
Pathology International	1.108	1	1.108
Cir J	2.135	1	2.135
Heart Vessels	1.056	1	1.056
J Am Coll Cardiol	9.701	1	9.701
Total		7	20.96

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Cardiol	0.519	1	0.519
Artif Organs	1.903	1	1.903
Atherosclerosis	3.811	1	3.811
Radiat Med	0	1	0
Total		4	6.233

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日本血管外科学会誌	1	
胸部外科	1	
日本医療マネジメント学会雑誌	1	
日本機械学会論文集 B.	1	
Therapeutic Research		1
臨床放射線		1
計	4	2

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	3	2

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
胸部外科		2
日本心臓血管外科学会雑誌		1
Therapeutic Research		1
臨床外科学会雑誌		1
計	0	5

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- B.1. Ikuo Fukuda, Kozo Fukui, Masahito Minakawa, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki. Early extubation after total arch replacement. Xth Aortic Surgery Symposium 2006/04/28 New York
- B.2. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Hiroshi Hashimoto, Masaharu Hatakeyama, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui. Xth Aortic Surgery Symposium 2006/04/28 New York
- C.1. Daitoku K, Fukuda I, Taniguchi S, Minakawa M, Suzuki Y, Fukui K. Endovascular treatment of aorto-bronchial fistula due to pseudoaneurysm of the distal aortic arch. ISMICS 2006/06/09 San Francisco
- C.2. Kaiqiang Ji, Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki. The effect of blockade of Angiotensin II receptors on the impaired left ventricular function of pressure-overloaded hypertrophied rat heart. International Academy of Cardiovascular Sciences 2006/07/16 Sapporo
- C.3. Minakawa M, Fukuda I, Hatakeyama M, Daitoku K, Suzuki Y, Fukui K. Mitral valve surgery under ventricular fibrillation in the high risk patients with ischemic mitral regurgitation. Cardiac Surgery Update and Progress 2006/02/25 Lech, Austria
- C.4. Suzuki Y, Kawamura T, Yamauchi S, Watanabe K, Taniguchi S, Daitoku K, Minakawa M, Fukui K, Fukuda I. 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science 2006/11/21 Hirosaki

2007 年度

- B.1. Fukuda I, Taniguchi S, Fukui K, Minakawa M, Daitoku K, Suzuki Y. Management of pulmonary thromboembolism: Is there no place for pulmonary embolectomy? World Congress of the International Union of Phlebology 2007/06/20 Kyoto, Japan
- C.1. Taniguchi S, Fukuda I, Watanabe K, Yamauchi S, Kawamura T, Aoki C, Minakawa M, Daitoku K, Fukui K, Suzuki Y. Diagnosis and treatment of venous thromboembolism during pregnancy. World Congress of the International Union of Phlebology 2007/06/19 Kyoto, Japan
- C.2. Sato K, Watanabe K, Fukuda I, Taniguchi S, Sakai T, Sudo Y, Hasegawa Y. Evaluation of the treatment and history of 1537 patients with varicose veins of the lower limbs at Hirosaki City Hospital. World Congress of the International Union of Phlebology. 2007/06/20 Kyoto, Japan
- C.3. Yasuyuki Suzuki, Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Dynamic cardiomyoplasty using artificial muscle. 2nd Meeting of the International Federation for Artificial Organs. 2007/10/30 Osaka, Japan
- C.4. Minakawa M, Fukuda I, Aoki C, Daitoku K, Suzuki Y, Fukui K. Sternum closure using bioresorbable devices in adult cardiac surgery. 16th Asian Society for Cardiovascular Thoracic Surgery. 2008/03/13 Singapore, Singapore
- C.5. Yasuyuki Suzuki, Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. PMEA-coated bypass circuits reduce activation of coagulation system and inflammatory response in congenital cardiac surgery. The Third International Conference on Pediatric Mechanical Circulatory Support Systems and Pediatric Cardiopulmonary Perfusion at the Hotel, Hershey, Hershey, Pennsylvania, USA, May 17, 2007.

(2) 全国学術集会

2006 年度

- B.1. 福田幾夫, 鈴木保之, 谷口 哲, 福井康三, 皆川正仁. 急性肺血栓塞栓症に対する手術適応と問題点. 第31回日本外科学会連合学会総会 第31回日本外科学会連合学会総会 第31回日本外科学会連合学会総会 2006/06/22 金沢
- C. 20件

2007 年度

- A.1. 福田幾夫. 高位大動脈閉塞に対する手術 (直接再建か腋窩-大腿動脈バイパスか). 第6回日本血管外科学会教育セミナー 2007/05/23 名古屋
- A.2. 福田幾夫. 三尖弁疾患の治療戦略. 第60回日本胸部外科学会総会 Postgraduate Course 講演

2007/10/17 仙台

- B.1. 皆川正仁, 福田幾夫, 福井康三, 大徳和之, 谷口 哲, 鈴木保之, 青木哉志. 高齢者全弓部置換術の工夫と遠隔予後. 第35回日本血管外科学会総会シンポジウム. 2007/05/25 名古屋
- B.2. 福田幾夫, 皆川正仁, 福井康三, 大徳和之, 谷口 哲, 青木哉志, 鈴木保之. Conversion to ON-PUMPゼロには適応が重要である. 第12回日本冠動脈外科学会総会シンポジウム. 2007/07/14 東京
- B.3. 皆川正仁, 福田幾夫, 青木哉志, 谷口 哲, 大徳和之, 福井康三, 鈴木保之. 冠動脈バイパス術と弁膜症同時手術例の検討. 第12回日本冠動脈外科学会総会シンポジウム. 2007/07/14 東京
- C. 39件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

○学術国際振興基金助成金 第10回国際化教育奨励賞 福田幾夫

2007年度

- 小山内聡史, 稲村隆夫, 柳岡英樹, 福田幾夫, 皆川正仁.
体外循環時における大動脈弓内流れの数値シミュレーション
第48回日本脈管学会総会 Young Investigator Award 優秀演題賞. 2007/10/26 松本
- 渡辺健一, 谷口 哲, 山内早苗, 川村知紀, 青木哉志, 皆川正仁, 大徳和之, 鈴木保之, 福井康三, 福田幾夫.
当科における重症肺塞栓症の傾向と脳外科領域静脈血栓症予防の試み.
第27回日本静脈学会総会優秀ポスター演題賞 2007/06/19 京都
- 第11回弘前大学医学部医学科国際化教育奨励賞 皆川正仁 2007/02
- 平成19年度弘前大学学生表彰 渡辺健一 2007/02/21

Ⅳ. 共同研究

2006年度

- 1. 「固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査」大鵬薬品工業 研究代表者 對馬敬夫
- 2. 「非小細胞肺癌転移巣に対する外科治療の有効性評価－Phase II trial」東北肺癌外科研究グループ (JNETS) 研究担当者 對馬敬夫

2007年度

- 1. 固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査, 大鵬薬品工業株式会社, 平成15年～
- 2. 非小細胞肺癌転移巣に対する外科治療の有効性評価 (Phase II trial), 東北呼吸器外科研究グループ, 平成16年～

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として
基盤研究 (B) (2) 体外循環中の送血方法が病的動脈壁に与える影響の臨床的検討 (福田幾夫).
1,000千円
萌芽研究「人工筋肉を用いた心補助装置の開発」(鈴木保之)

2007年度

研究代表者として
萌芽研究: 人工筋肉を用いた心補助装置の開発 (鈴木保之)

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2007年度

研究代表者として
福田幾夫. 大血管内の血流のシミュレーション・システムの開発.
エドワーズライフサイエンス株式会社 2,000,000円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

1名

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

2006年度

1名

2007年度

1名

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

2006年度

Program for Leaders in Healthcare Education in Harvard Medical (福田幾夫)

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

第2回青森血栓塞栓症セミナー 2006/10/14 弘前

第46回弘前癌治療懇話会 2006/09/21 弘前

2007年度

第15回日本血管外科学会東北地方会 2007/09/14 青森

第154回東北外科集談会 2007/09/15 青森

第80回日本胸部外科学会東北地方会 2007/09/15 青森

第75回日本小児外科学会東北地方会 2007/09/15 青森

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

19. 消化器外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

1. 国際学会での発表や全国学会での発表を倍増
到達度；発表は出来ていると思うが，更なる増加が必要。
2. 有資格者の外科学会専門医・指導医，消化器外科学会専門医・指導医などの資格取得の徹底
到達度；微増してはいるが，まだまだ。
3. 英文論文の倍増
到達度；まだまだであった。

理念：

グローバルスタンダードな医師を育成するにあたり，国際学会，全国学会等での発表，論文発表を通して育成を行う。また，資格習得も行う。

これから2年間の目標：

1. 国際学会での発表や全国学会での発表を倍増
2. 有資格者の外科学会専門医・指導医，消化器外科学会専門医・指導医などの資格取得の徹底
3. 英文論文の倍増

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 2，講師 3，助手 6，医員 11，大学院学生 6，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	佐々木睦男	2006.4～2007.3.31
	助教授	専 任	吉原 秀一	2006.4～2007.3.31
	助教授	専 任	袴田 健一	2006.4～2007.3.31
	講 師	専 任	小田桐弘毅	2006.4～2007.3.31
	講 師	専 任	鳴海 俊治	2006.4～2007.3.31
	講 師	専 任	川崎 仁司	2006.4～2007.3.31
	助 手	専 任	豊木 嘉一	2006.4～2007.3.31
	助 手	専 任	村田 暁彦	2006.4～2007.3.31
	助 手	専 任	柴田 滋	2006.4～2007.3.31
	助 手	専 任	小山 基	2006.4～2007.3.31
	助 手	専 任	梅原 豊	2006.4～2007.3.31
	助 手	専 任	西澤 雄介	2006.4～2007.3.31
研究課題	1. 肝不全に対する人口肝臓の開発 2. 成人間生体肝移植後肝再生調節機構の解明 3. がんの遺伝子診断・遺伝子治療 4. 抗がん剤治療の基礎研究 5. 低侵襲大腸手術の研究 6. 直腸癌に対する機能温存手術 7. 脾液中の複合糖質についての研究 8. 炎症性腸疾患に対する複合糖質の有効性 9. 胆道・脾領域の難治性消化器癌に対する QOL の向上を目的とした術式の開発 10. 肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断法の開発			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 2, 講師 3, 助教 6, 助手 0, 医員 12, 大学院学生 8, 研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	佐々木睦男	H19.4.1 ～ H20.3.31
	准教授	専 任	吉原 秀一	H19.4.1 ～ H20.3.31
	准教授	専 任	袴田 健一	H19.4.1 ～ H20.3.31
	講 師	専 任	小田桐弘毅	H19.4.1 ～ H20.3.31
	講 師	専 任	鳴海 俊治	H19.4.1 ～ H20.3.31
	講 師	専 任	川崎 仁司	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	豊木 嘉一	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	村田 暁彦	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	柴田 滋	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	小山 基	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	奈良 昌樹	H19.4.1 ～ H20.3.31
	助 教	専 任	石戸圭之輔	H19.4.1 ～ H20.3.31
研究課題	1. 肝不全に対する人工肝臓の開発 2. 成人間生体肝移植後肝再生調節機構の解明 3. がんの遺伝子診断・遺伝子治療 4. 抗がん剤治療の基礎研究 5. 低侵襲大腸手術の研究 6. 直腸癌に対する機能温存手術 7. 膵液中の複合糖質についての研究 8. 炎症性腸疾患に対する複合糖質の有効性 9. 胆道・膵領域の難治性消化器癌に対する QOL の向上を目的とした術式の開発 10. 肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断の開発			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Ono H, Totsuka E, Hakamada K, Ishizawa Y, Nishimura A, Umehara M, Nara M, Takiguchi M, Takahashi K, Murata A, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M. Attenuation of Graft Injury in Porcine Liver Transplantation from Non-Heart Beating Donor by FR167653. Hepato-Gastroenterology 2005;52:885-892.
- A.2. Nishimura A, Umehara Y, Umehara M, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Sasaki M. Plasma Exchange-based Plasma Recycling Dialysis System as a Potential Platform for Artificial Liver Support. Artif Organs 2006;30(8):629-633.
- A.3. Morohashi H, Kon A, Nakai M, Yamaguchi M, Kakizaki I, Yoshihara S, Sasaki M, Takagaki K. Study of hyaluronan synthase inhibitor, 4-methylumbelliferone derivatives on human pancreatic cancer cell (KP1-NL) Biochem Biophys Res Commun 2006;345(4):1454-9.
- A.4. Nakazawa H, Yoshihara S, Kudo D, Morohashi H, Kakizaki I, Kon A, Takagaki K, Sasaki M. 4-methylumbelliferone, a hyaluronan synthase suppressor, enhances the anticancer activity of gemcitabine in human pancreatic cancer cells. Cancer Chemother Pharmacol 2006;57(2):165-70.
- A.5. Hashimoto N, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Aoki K, Kamata Y, Sasaki M. Heterotopic gastrointestinal mucosa and pancreatic tissue in a retroperitoneal tumor. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2006;13(4):351-4.
- A.6. Morohashi S, Odagiri H, Morohashi H, Kimura Y, Sasaki M. Complete Remission of Recurrent Breast Cancer with Multiple Liver Metastases after Oral Capecitabine and InjectedTYastuzumab. BreastCancer 2007;14(3):297-301.
- C.1. Morohashi H, Yoshihara S, Nakai M, Yamaguchi M, Kakizaki I, Kon A, Sasaki M, Takagaki K. Inhibitory effect of 4-methylethylethylurea on hyaluronan synthesis slows the development of human pancreatic cancer in vitro and in nude mice. Int.J.Cancer 2007;120:2740-2709.

2007年度

- A.1. Morohashi S, Kusumi T, Sato F, Odagiri H, Chiba H, Yoshihara S, Hakamada K, Sasaki M, Kijima H. Decreased expression of claudin-1 correlates with recurrence status in breast cancer. Int J Mol Med 2007;20(2):139-143.
- A.2. Narumi S, Hakamada K, Toyoki Y, Noda H, Sato T, Morohashi H, Mitsui T, Yoshihara S, Sasaki M. Endovascular treatment of life-threatening pseudoaneurysm of the hepatic artery after pancrea-

ticoduodenectomy. Hepatogastroenterology 2007;54(79):2152-2154.

- A.3. Morohashi S, Odagiri H, Morohashi H, Kimura Y, Sasaki M. Complete Remission of Recurrent Breast Cancer with Multiple Liver Metastases after Oral Capecitabine and Injected TYastuzumab. BreastCancer 2007;14(3):297-301.

和文

2006年度

- A.1. 山田恭吾, 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 木村憲央, 吉原秀一, 佐々木睦男. 膵漿液性嚢胞腺腫の診断—術前画像所見による確定診断可能例と困難例の検討— 胆と膵 2005;26(4):413-419.
- A.2. 小田桐弘毅. 【エビデンスに基づいた最新癌治療】乳腺補助内分泌療法 日本放射線専門医会誌 2006;155:11-13.

2007年度

- A.1. 松谷英樹, 川崎仁司, 柴田 滋, 宮本慶一, 佐々木睦男, 伊東重豪, 鬼島 宏. Docetaxel/S-1による術前化学療法が著効した高度リンパ節転移を伴う胃癌の1切除例 癌と化学療法 2007;34(10):1643-1646.
- A.2. 宮本慶一, 木村昭利, 中井 款, 佐々木睦男. 1期的縫合閉鎖に大網被覆を加え良好な結果を得た特発性食道破裂の2例 日本腹部救急医学会雑誌 2007;27(7):1001-1004.
- A.3. 石戸圭之輔, 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 石澤義也, 浅野研一郎, 大熊洋輝, 鎌田義正, 佐々木睦男. c-kit 陽性を示した脳硬膜原発 mesenchymal chondrosarcoma 膵転移の1例 膵臓 2007;22(4):494-502.
- A.4. 袴田健一, 石戸圭之輔, 豊木嘉一, 鳴海俊治, 佐々木睦男. 膵頭十二指腸切除術後標準的栄養管理法に関する再考 日本臨床栄養学会雑誌 2007;28(2):277-283.
- A.5. 中井 款, 川崎仁司, 柴田 滋, 松谷英樹, 宮本慶一, 佐々木睦男. 硬口蓋悪性黒色腫術後4年で発症した転移性胃悪性黒色腫の1例 手術 2007;61(1):103-106.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 佐々木睦男, 袴田健一. 胆嚢ポリープ 講義録消化器学. 上西紀夫 他編. メジカルビュー社, 東京. p.547-550, 2006.
- A.2. 石戸圭之輔, 小山 基, 村田暁彦, 久留島徹大, 佐藤利行, 諸橋 一, 木村憲央, 佐々木睦男. 大腸カルチノイドの臨床的検討と治療方針 外科治療 2006;94(3):330-4.
- A.3. 小山 基, 森田隆幸, 村田暁彦, 西澤雄介, 池永照史郎一期, 佐々木睦男. 【最新 炎症性腸疾患手術】Crohn 病 (CD) の腸病変に対する開腹手術 手術 2006;60(2):161-7.
- A.4. 袴田健一, 吉原秀一, 佐々木睦男. 【手術—ここ30年の変化】肝内結石症治療の変遷 手術 2006;60(10):1516-22
- A.5. 袴田健一, 石戸圭之輔, 佐々木睦男. 【肝細胞がん患者にどう対応するか】外科的治療の進め方 肝切除の術式をどう選び, どう行うか 臨床腫瘍プラクティス 2006;2(4):358-61.
- A.6. 西村顕正, 橋爪 正, 柴崎 至, 遠藤正章, 袴田健一, 佐々木睦男. 集学的治療が有効であった直腸カルチノイド多発肝転移の1例 日本臨床外科学会雑誌 2006;67(3):679-82.

2007年度

- A.1. 大橋大成, 楠美智己, 佐藤冬樹, 袴田健一, 佐々木睦男, 鬼島 宏. 乳頭部の基本構造と腫瘍の病理解剖学的特長 肝・胆・膵 2007;54(6):719-725.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 川崎仁司. IIがんと闘う・39胃がん, 水島 豊, 菅世知子:市民のための老年病学:140-143, 弘前大学出版, 日本, 2007 (分担)

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 佐々木睦男. 霊長類劇症肝炎モデルに対するハイパフォーマンス膜を介した摘出肝異種交差灌流 平成14年度, 15年度科学研究費補 (基盤研究 (C)(2)), 研究成果報告書平成16年5月.

- A.2. 袴田健一. 弘前大学医学部附属病院 PPPD (全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除術) Clinical Path Report 消化器Ⅱ 2004;13:22-29.
- A.3. 吉原秀一, 石戸圭之輔, 工藤大輔, 一戸和成, 佐々木睦男. 肝内結石症実験モデルの作成 厚生省特定疾患消化器系疾患調査研究班肝内結石症分科会 平成12年度研究報告書
- A.4. 吉原秀一, 豊木嘉一, 石戸圭之輔, 工藤大輔, 佐々木睦男. 肝内結石症実験モデルの作成 厚生科学研究費補助金特定疾患対策研究事業肝内結石症調査研究班 平成13年度総括・分担研究報告書
- A.5. 佐々木睦男. 酸性ムチンによる結石の生成 厚生労働科学研究補助金(特定疾患対策研究事業) 平成15年度分担研究報告書
- A.6. 佐々木睦男. ムチン分解による結石生成の抑制 厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 平成15年度分担研究報告書
- A.7. 佐々木睦男. ムチン分解による結石生成の抑制 厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 平成16年度分担研究報告書
- A.8. 佐々木睦男. ムチン分解による結石治療の可能性 厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 平成17年度分担研究報告書
- A.9. 諸橋 一, 豊木嘉一, 袴田健一, 鳴海俊治, 佐藤利行, 木村憲央, 西村顕正, 吉原秀一, 佐々木睦男. 胆嚢管原発の膵内分泌細胞癌の1例 胆道 2005;19(4):489-94.
- A.10. 山田恭吾, 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 梅原 豊, 張 同輝, 吉原秀一, 佐々木睦男. 卵巣様間質を伴う胆管嚢胞腺腫の1症例 肝・胆・膵 2006;52(5):813-9.
- A.11. 中井 款, 川崎仁司, 柴田 滋, 松谷英樹, 宮本慶一, 佐々木睦男. 硬口蓋悪性黒色腫術後4年で発症した転移性胃悪性黒色腫の1例 手術 2007;61(1):103-106.
- C.1. 山田恭吾, 杉山 譲, 清野景好, 小堀宏康, 佐々木睦男. 術前に胆嚢穿孔と診断し得た特発性胆嚢穿孔の1例 胆と膵 2005;26(5):487-90.
- C.2. 板橋幸弘, 馬場俊明, 加藤 智, 佐々木睦男. 大量下血による出血性ショックより救命しえた空腸 angiodysplasia の1例 日本消化器外科学会雑誌 2006;39(8):1414-7.
- C.3. 西村顕正, 橋爪 正, 柴崎 至, 遠藤正章, 袴田健一, 佐々木睦男. 集学的治療が有効であった直腸カルチノイド多発肝転移の1例 日本臨床外科学会雑誌 2006;67(3):679-82.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepato-Gastroenterology	0.756	1	0.756
Artif Organs	1.903	1	1.903
Biochem Biophys Res Commun	2.855	1	2.855
Cancer Chemother Pharmacol	2.363	1	2.363
J Hepatobiliary Pancreat Surg	1.182	1	1.182
Breast Cancer	0	0	0
Total		5	9.059

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Mol Med	1.847	0	0
Hepatogastroenterology	0.904	0	0
Total		0	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
胆と膵	1	
外科治療	1	
手術	2	1
臨床腫瘍プラクティス	1	
日本臨床外科学会雑誌	1	
日本放射線専門医会誌	1	
癌と化学療法		1
日本腹部救急医学学会雑誌		1
膵臓		1
肝・胆・膵		1
日本臨床栄養学会雑誌		1
計	7	6

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文

雑 誌 名	2006年度	2007年度
胆道 肝・胆・膵	1 1	
計	2	0

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Kenichi Hakamada, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Mutsuo Sasaki. Efficacy of postoperative gemcitabine in the treatment of resectable pancreatic adenocarcinoma. 16th World Congress of International Association of Surgeons & Gastroenterologists. Madrid, Spain, 平 18.5.25~28.
- C.2. Yoshikazu Toyoki, Kenichi Hakamada, Akitoshi Murata, Shunji Narumi, Motoi Koyama, Yutaka Umehara, Mutsuo Sasaki. Hepatic resection for metastasis from colorectal cancer: What are prognostic factors? 16th World Congress of International Association of Surgeons & Gastroenterologists. Madrid, Spain, 平 18.5.25~28.
- C.3. Norihisa Kimura, Kenichi Hakamada, Yutaka Umehara, Yoshikazu Toyoki, Mutsuo Sasaki. 「Transplantation」 A mechanism of hyperbilirubinemia after small-for-size graft liver transplantation. 35th World Congress of International College of Surgeons. Pattaya, Thailand, 平 18.10.25~29.
- C.4. Kenichi Hakamada, Norihisa Kimura, Mutsuo Sasaki. A balanced pancreaticoduodenectomy for advanced pancreatic cancer. 35th World Congress of International College of Surgeons. Pattaya, Thailand, 平 18.10.25~29.
- C.5. Kenichi Hakamada, Norihisa Kimura, Osamu Matsuura, Mutsuo Sasaki. Impact of routine ultrasound on prevention of bile duct injury during laparoscopic cholecystectomy. 20th World Congress of International Society of Digestive Surgery. Rome, Italy, 平 18.11.29~12.2.
- C.6. Norihisa Kimura, Kenichi Hakamada, Akitoshi Kimura, Yutaka Umehara, Yoshikazu Toyoki, Mutsuo Sasaki. Expression of hepatic bile transport systems in endotoxin-induced hepatic failure during liver regeneration after partial hepatectomy in rats. 20th World Congress of International Society of Digestive Surgery. Rome, Italy, 平 18.11.29~12.2.
- C.7. Keinosuke Ishido, Kenichi Hakamada, Shunji Narumi, Yoshikazu Toyoki, Yoshiya Ishizawa, Norihisa Kimura, Mutsuo Sasaki. A case of hemolymphangioma of the pancreas with invasion to the duodenum. 20th World Congress of International Society of Digestive Surgery. Rome, Italy, 平 18.11.29~12.2.
- C.8. Keinosuke Ishido, Kenichi Hakamada, Shunji Narumi, Yoshikazu Toyoki, Yoshiya Ishizawa, Norihisa Kimura, Mutsuo Sasaki. Gastrointestinal stromal tumor of the pancreas: a case report. 20th World Congress of International Society of Digestive Surgery. Rome, Italy, 平 18.11.29~12.2.
- C.9. Hiroki Odagiri. Breast conserving surgery and immediate reconstruction with lateral tissue flap and latissimus dorsi flap through a single lateral incision. 13th European Society of Surgical Oncology. Venecia, Italy, 平 18.11.30~12.2.
- C.10. Kentaro Takahashi, Yutaka Umehara, Minoru Umehara, Akimasa Nishimura, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Kenichi Hakamada, Syuichi Yoshihara, Mutsuo Sasaki. A plasma exchange-based plasma recycling dialysis as an artificial liver support. 第6回 World Congress of the international Society for Apheresis. 横浜, 平 19.3.2~4.
- C.11. Kentaro Takahashi, Yutaka Umehara, Minoru Umehara, Akimasa Nishimura, Yoshikazu Toyoki, Shunji Narumi, Kenichi Hakamada, Syuichi Yoshihara, Mutsuo Sasaki. A plasma exchange-based plasma recycling dialysis as an artificial liver support. 第1回 Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association. 福岡, 平 19.3.22~23.
- C.12. Shunji Narumi, Kenichi Hakamada, Yoshikazu Toyoki, Yutaka Umehara, Masateru Maruyama, Masaki Nara, Syuichi Yoshihara, Mutsuo Sasaki. Strategy for treatment of pseudoaneurysm after pancreaticoduodenectomy. 第1回 Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association. 福岡, 平 19.3.22~23.
- C.13. Shunji Narumi, Kenichi Hakamada, Yoshikazu Toyoki, Yutaka Umehara, Mutsuo Sasaki. Massive biliary

hemorrhage after intraoperative removal of self-expandable metallic stent. 第17回 Asian-Pacific Association for Study of Liver Disease 2007. Kyoto, 平19.3.27～30

2007年度

- C.1. 宮本慶一, 川崎仁司, 柴田 滋, 鬼島 宏, 佐々木睦男. Decreased expression of E-cadherin and claudin-1 correlates with recurrence status and poor prognosis in esophageal cancer 第3回 International congress on gastrointestinal oncology ギリシャ 19.6.14～16
- C.2. 中井 款, 吉原秀一, 諸橋 一, 山口真範, 柿崎育子, 今 淳, 佐々木睦男. 「gastrointestinal」Effect of 4-methyl esculetin (hyaluronan synthase suppressor) on pancreatic cancer ギリシャ 平19.6.14～16
- C.3. Motoi Koyama, Takayuki Morita, Akihiko Murata, Shunji Narumi, Mutsuo Sasaki. Postoperative surveillance and long-term outcome after total colectomy with ileorectal anastomosis for familial adenomatous polyposis. 第17回 World congress of the international association of surgeons, gastroenterologists and oncologists (IASGO) ルーマニア 平19.9.5～
- C.4. Y.Toyoki, K.Hakamada, S.Narumi, M.Nara, K.Ishido, M.Sasaki. Surgical management of hilar cholangiocarcinoma: single center experience 8th AHPBA annual meeting. フロリダ 平20.3.26～30

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 梅原 豊, 橋本直樹, 工藤大輔, 佐々木睦男. ビデオシンポジウム「膵頭十二指腸切除における切除法ー私はこうしているー」膵癌 R0切除と QOL 維持を志向した膵頭十二指腸切除術 自施設における標準切除術式. 第18回日本肝胆膵外科関連会議・東京(日本肝胆膵外科学会・日本膵切研究会・日本胆道癌研究会). 東京, 平18.5.10～12.
- B.2. 小山 基, 森田隆幸, 村田暁彦, 西澤雄介, 佐々木睦男. シンポジウム「わが国の消化管ポリポーシス研究ー基礎と臨床ー」家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸手術の治療戦略ー APC 遺伝子変異部位からの検討ー. 第12回日本家族性腫瘍学会. 大阪, 平18.6.16～17.
- B.3. 村田暁彦, 小山 基, 西澤雄介, 橋本直樹, 加藤雅志, 佐々木睦男, 森田隆幸. パネルディスカッション「機能温存手術の評価」高齢者直腸癌症例の手術方針. 第61回日本消化器外科学会総会. 横浜, 平18.7.13～15.
- B.4. 高橋研太郎, 梅原 豊, 梅原 実, 西村顕正, 木村憲央, 袴田健一, 吉原秀一, 佐々木睦男. シンポジウム「肝疾患とアフレスシス」ブタ劇症肝炎モデルに対する血漿交換排液浄化循環透析の有効性. 第26回日本アフレスシス学会. 滋賀, 平18.7.28～29.
- B.5. 袴田健一, 佐々木睦男. シンポジウム2「適正な周術期栄養管理を求めて」膵頭十二指腸切除術後標準的栄養管理法に関する再考. 第28回日本臨床栄養学会総会・第27回日本臨床栄養協会総会 第4回大連合大会. 東京, 平18.9.1～3.
- B.6. 小山 基, 村田暁彦, 西澤雄介, 吉田 淳, 丸山将輝, 佐々木睦男, 森田隆幸. ワークショップ「直腸癌の再建術式と術後排便機能」超低位直腸癌に対する肛門温存手術の再建術式と術後排便機能ー内肛門括約筋切除 (ISR) の検討ー. 第61回日本大腸肛門病学会総会. 弘前, 平18.9.29～30.
- C. 42件

2007年度

- B.1. 木村憲央, 袴田健一, 池永照史朗一期, 梅原 豊, 豊木嘉一, 木村昭利, 鳴海俊治, 佐々木睦男. ワークショップ「肝再生ー今日の問題と未来ー」肝切除後肝不全時のビリルビン・胆汁酸輸送の二段階障害機構と包括的病態診断の可能性 第107回日本外科学会定期学術集会 大阪 平19.4.11～13
- B.2. 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 奈良昌樹, 石戸圭之輔, 佐々木睦男. シンポジウム「膵頭十二指腸切除の教育」自施設における消化器外科専門医としての膵頭十二指腸切除研修: 肝胆膵専門医養成との違いについて 第19回日本肝胆膵外科学会学術集会 横浜 平19.6.6～8
- B.3. 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 奈良昌樹, 佐々木睦男. ワークショップ「ビデオワークショップ 消化器癌手術における dangerous pointー私はこうしているー」膵頭鉤部 StageIVa 膵癌切除の critical point: 下膵十二指腸動脈根部周囲へのアプローチ 第62回日本消化器外科学会定期学術総会 東京 平19.7.18～20
- B.4. 小山 基, 村田暁彦, 西澤雄介, 太田 栄, 諸橋 一, 佐々木睦男, 森田隆幸. ワークショップ「下部直腸・肛門管癌の治療戦略」当教室における下部直腸・肛門管癌に対する治療戦略 第62回日本消化器外科学会定期学術総会 東京 平19.7.18～20
- B.5. 村田暁彦, 小山 基, 西澤雄介, 太田 栄, 諸橋 一, 佐々木睦男, 森田隆幸. パネルディスカッション「直腸癌における TME の治療成績」下部直腸癌における TME と腹膜外側方郭清の成績 第62回日本消化器外科学会定期学術総会 東京 平19.7.18～20
- B.6. 高橋研太郎, 梅原 豊, 梅原 実, 西村顕正, 豊木嘉一, 鳴海俊治, 袴田健一, 吉原秀一, 佐々木睦男. ワークショップ「急性肝不全に対する血液浄化法の有効性と限界」ブタ劇症肝炎モデルに対する血漿交換排液浄化循環透析の有効性の検討 第18回日本急性血液浄化学会学術集会 大分 平19.10.5～6
- B.7. 小山 基, 村田暁彦, 木村 寛, 佐々木睦男, 森田隆幸. シンポジウム「下部直腸癌に対する限界の自然肛門温存術式」当教室における内肛門括約筋切除を伴う肛門温存術の手術手技と術後成績 第62回日本大腸肛門病学会学術集会 東京 平19.11.1～3
- B.8. 鳴海俊治, 袴田健一, 豊木嘉一, 奈良昌樹, 三浦卓也, 吉原秀一, 佐々木睦男. ワークショップ「ドキッとした症例・困難症例の報告」胆嚢管クリップが術中に自然滑脱した症例 第20回日本内視鏡外科学会 仙台 平19.11.19～21
- B.9. 小山 基. シンポジウム「ドレーン法」当教室における下部消化管手術のドレーン管理 第2回東北消化

器外科周術期研究会 仙台 平19.11.4

B.10. 小山 基, 森田隆幸, 村田暁彦, 橋爪 正, 伊藤誠司, 渡部修一, 猪野 満, 佐々木睦男. パネルディスカッション「stage II 大腸癌の補助化学療法の適応」 stage II 大腸癌における再発危険因子の検討 第69回日本臨床外科学会総会 横浜 平19.11.29～12.1

B.11. 石戸圭之輔, 川崎仁司, 柴田 滋, 宮本慶一, 吉川 徹, 佐々木睦男. シンポジウム「進行食道癌に対する治療選択」 cT4食道癌に対する術前化学放射線療法の検討 第184回日本消化器病学会東北支部例会 仙台 平20.2.22～23

C. 48件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

基盤 (C) 一般 肝切除・部分肝移植後の肝再生と肝不全に関する網羅的病態解析プログラムの開発 研究
代表者 袴田健一 配分額6,000千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

シーズ発掘試験研究 新しい血液浄化法「血漿交換排液浄化循環透析法」の開発
～ブタ薬剤性急性肝不全モデルにおける従来法（血漿交換＋持続的血液濾過透析）との比較検討～
研究代表者 梅原 豊 配分額2,000千円

(3) 学内の研究助成

研究代表者として

弘前都市エリア産学官連携促進事業 研究代表者 吉原秀一 配分額3,500千円
学術国際振興基金助成事業 代表者 袴田健一 配分額 450千円

他研究単位との研究分担者として

移植医療センター
ABO 血液型不適合移植に於ける免疫順応と血液糖鎖抗原に関する研究
配分額3,000千円

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

弘前大学医学部 FD 講演会 講師 ハワイ大学 町 淳二教授

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2007 年度

第184回日本消化器病学会東北支部例会 平 20.2.22 ～ 23（仙台市）

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

20. 整形外科科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

1. Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。(100%)
2. 大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究への指導。(50%)
3. 国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究を進める。(100%)
4. 科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究を進める。(30%) 科研費が獲得できなかった。若干の他研究費を獲得した。
5. 工学部との共同研究の推進 (50%)

理念：

整形外科治療成績の向上に寄与するような臨床研究および基礎研究の推進若手研究者の育成

これから2年間の目標：

1. Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。
2. 大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究への指導。
3. 国際学会，全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究を進める。
4. 科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究を進める。
5. 工学部との共同研究の推進

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 2, 助手 4, 医員 9, 大学院学生 12, 研究生 3			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	藤 哲	1年
	助教授	専 任	石橋 恭之	1年
	講 師	専 任	横山 徹	1年
	講 師	専 任	津田 英一	1年
	助 手	専 任	小野 睦	1年
	助 手	専 任	沼沢 拓也	1年
	助 手	専 任	福田 陽	1年
研究課題	1. 骨延長における治療期間短縮への基礎的 / 臨床的研究 2. 医療用マイクロマシンの開発 3. 膝前十字靭帯損傷の治療と予防 4. 変形性膝関節症の発生要因の疫学調査および予防に関する研究 5. 膝関節軟骨修復に関する基礎的研究：プロテオグリカンの軟骨培養における効果 6. 膝関節バイオメカニクス 7. 弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析 8. 特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発 9. 頸椎症性脊髄症発症における遺伝的素因と環境因子の解明 10. 脊椎靭帯骨化症の遺伝子研究			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 5, 大学院学生 9, 研究生 3
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職
	専任/併任の別
	氏 名
	評価年度内での在籍期間
	教 授
	専 任
	藤 哲
	1年
	助教授
	専 任
	石橋 恭之
	1年
	講 師
	専 任
	横山 徹
	1年 2008.3.31 異動
	講 師
	専 任
	津田 英一
	1年
	助 教
	専 任
	小野 睦
	1年
	助 教
	専 任
	沼沢 拓也
	1年
	助 教
	専 任
	三井 博正
	1年
	助 教
	専 任
	福田 陽
	1年 2008.3.31 異動
研究課題	1. 骨延長における治療期間短縮への基礎的 / 臨床的研究 2. 医療用マイクロマシンの開発 3. 膝前十字靱帯損傷の治療と予防 4. 膝関節軟骨修復に関する基礎的研究：プロテオグリカンの軟骨培養における効果 5. 膝関節バイオメカニクス 6. 弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析 7. 特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発 8. 脊髄症の手術治療 9. 脊椎・脊髄腫瘍の診断と治療 10. 頸椎後縦靱帯骨化症の異所性骨化機序の解明

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kohno T, Ishibashi Y, Tsuda E, Kusumi T, Tanaka M, Toh S. Immunohistochemical demonstration of growth factors at the tendon-bone interface in anterior cruciate ligament reconstruction using a rabbit model. J Orthop Sci (2007)12:67-73.
- A.2. Kazutomo Miura, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Hideki Sato, Satoshi Toh. Results of arthroscopic fixation of osteochondral dissecans lesion of the knee with cylindrical autogenous osteochondral plugs. Am J Sports Med (2006)34:714-720.
- A.3. Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. The future of double-bundle ACL reconstruction: Incorporation of ACL anatomical data into the navigation system. Orthopedics (2006) 29:s108-s112.
- A.4. Tsuda E, Ishibashi Y, Tazawa K, Sato H, Kusumi T, Toh S. Pretibial cyst formation after anterior cruciate ligament reconstruction with a hamstring tendon autograft. Arthroscopy (2006)22:691.e1-26.
- A.5. Yuji Yamamoto, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Hideki Satoh, Satoshi Toh. Osteochondral Autograft Transplantation for Osteochondritis Dissecans of the Elbow in Juvenile Baseball Players: Minimum 2-Year Follow-up. Am J Sports Med (2006)34:714-720.
- A.6. Tomoyuki Sasaki, Yasuyuki Ishibashi, Hiroshi Katano, Akira Nagumo, Satoshi Toh. In vitro elution of vancomycin from calcium phosphate cement. J Arthroplasty (2006)20:1055-1059.
- A.7. Takeuchi K, Yokoyama T, Aburakawa S, Ono A, Numasawa T, Kumagai G, Toh S. Postoperative changes at the lower end of cervical laminoplasty: for preservation of the c7 spinous process in laminoplasty. J Spinal Disord Tech.19:402-406,2006.
- A.8. Sugawara T, Hirota K, Watanabe M, Mineta T, Makino E, Toh S, Shibata T. Shape memory thin film actuator for holding a fine blood vessel. Sensors and Actuators A 130-131:461-467,2006.
- A.9. Omi H, Itoh S, Ikoma T, Asou Y, Nishikawa S, Tanaka J. Toh S. BIOCOMPATIBILITY AND OSTEOCONDUCTIVITY OF Hydroxyapatite/POLYSaccharides Nanocomposites MICROPARTICLES.Key Engineering Materials.309-311:561-564,2006.
- A.10. Takeuchi K, Yokoyama T, Ito J, Wada K, Itabashi T, Toh S. Tonsillar herniation and the cervical spine: a morphometric study of 172 patients. J Orthop Sci 12:55-60,2007.
- A.11. Ono A, Suetsuna F, Ueyama K, Yokoyama T, Aburakawa S, Numasawa T, Wada K, Toh S. Surgical outcomes in adult patients with syringomyelia associated with Chiari malformation type I: the relationship between scoliosis and neurological findings. J Neurosurg Spine 6:216-221,2007.
- B.1. Kusumi T, Ishibashi Y, Tsuda E, Kusumi A, Tanaka M, Sato F, Toh S, Kijima H. Osteochondritis dissecans of the elbow: Histopathological assessment of the articular cartilage and subchondral bone with emphasis on their damage and repair. Pathol Int (2006)56:604-612.

- B.2. Imaeda T, Toh S, Wada T, Uchiyama S, Okinaga S, Kusunose K, Sawaizumi T. for the Impairment Evaluation Committee, Japanese Society for Surgery of the Hand. Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Quick Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (QuickDASH-JSSH) questionnaire. *J Orthop Sci* 11:248-253.2006.
- B.3. Tsukahara S, Ikeda R, Goto S, Yoshida K, Mitsumori R, Sakamoto Y, Tajima A, Yokoyama T, Toh S, Furukawa KI, Inoue I. Tumor necrosis factor-alpha stimulated gene-6 inhibits osteoblastic differentiation of human mesenchymal stem cells induced by OS and BMP-2. *Biochem J*.2006.
- B.4. T. Imaeda, H. Hirata, S. Toh, Y. Nakao, J. Nishida, M. Ijichi, A. Nagano. COMPARATIVE RESPONSIVENESS OF JAPANESE VERSIONS OF THE DASH AND SF-36 QUESTIONNAIRES AND PHYSICAL MEASUREMENT TO CLINICAL CHANGES AFTER CARPAL TUNNEL RELEASE. *Hand Surgery* 11:27-33,2006.
- B.5. *Iwasawa T, Iwasaki K, Sawada T, Okada A, Ueyama K, Motomura S, Harata S, Inoue I, Toh S, Furukawa KI. Pathophysiological Role of Endothelin in Ectopic Ossification of Human Spinal Ligaments Induced by Mechanical Stress. *Calcif Tissue Int* 2006.
- B.6. Imaeda T, Uchiyama S, Toh S, Wada T, Okinaga S, Sawaizumi T, Nishida J, Kusunose K, Omokawa S. for the Clinical Outcomes Committee of the Japanese Orthopaedic Association and the Impairment Evaluation Committee of the Japanese Society for Surgery of the Hand.: Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Carpal Tunnel syndrome Instrument. *J Orthop Sci* 12:14-21,2007.

2007年度

- A.1. Tsukada H, Ishibashi Y, Tsuda E, Fukuda A, Toh S. Anatomical analysis of the anterior cruciate ligament femoral and tibial footprints. *J Orthop Sci* (2008)13:122-129.
- A.2. Tsuda E, Ishibashi Y, Fukuda A, Tsukada H, Toh S. Validation of computer-assisted double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction. *Orthopaedics* (2007)30:s136-s140.
- A.3. Atsushi Ono, Futoshi Suetsuna, Tomoyuki Irie, Toru Yokoyama, Takuya Numasawa, Kanichiro Wada and Satoshi Toh. Clinical significance of the redundant nerve roots of the cauda equine documented on magnetic resonance imaging. *J Neurosurg Spine*. 2007;7:27-32.
- A.4. Atsushi Ono, Futoshi Suetsuna, Kazumasa Ueyama, Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Kazunari Takeuchi, Takuya Numasawa, Kanichiro Wada and Satoshi Toh. Cervical spinal motion before and after surgery in patients with Chiari malformation type I associated with syringomyelia. *J Neurosurg Spine*. 2007;7:473-477.
- A.5. *Nakamura Y, Nakata Y, Akita M, Toh S. Original Cementless Femoral Stem for Dysplastic Hip- Clinical Results of HPF Stem *J Arthroplasty* 22:553-559,2007.
- A.6. Takeuchi K, Yokoyama T, Ono A, Numasawa T, Wada K, Kumagai G, Toh S. Limitations of activities of daily living accompanying reduced neck mobility after cervical laminoplasty. *Arch Orthop Trauma Surg*. 2007 Aug;127(6):475-80.
- A.7. Omi H, Kusumi T, Kijima H, Toh S. Locally administered low-dose alendronate increases bone mineral density during distraction osteogenesis in a rabbit model. *J Bone Joint Surg Br*. 2007 Jul;89(7):984-8.
- A.8. Takeuchi K, Yokoyama T, Ono A, Numasawa T, Wada K, Kumagai G, Ito J, Ueyama K, Toh S. Cervical Range of Motion and Alignment After Laminoplasty Preserving or Reattaching the Semispinalis Cervicis Inserted Into Axis. *J Spinal Disord Tech*. 2007;Dec;20(8):571-576.
- A.9. Takeuchi K, Yokoyama T, Ono A, Numasawa T, Wada K, Itabashi T, Toh S. Limitation of activities of daily living accompanying reduced neck mobility after laminoplasty preserving or reattaching the semispinalis cervicis into axis. *Eur Spine J*. 2008;17:415-420.
- A.10. *Sawada T, Kishiya M, Kanemaru K, Seya K, Yokoyama T, Ueyama K, Motomura S, Toh S, Furukawa KI. *J Pharmacol Sci*. 2008 Jan;106(1):152-61. Epub 2008 Jan 11
- A.11. *Kishiya M, Sawada T, Kanemaru K, Kudo H, Numasawa T, Yokoyama T, Tanaka S, Motomura S, Ueyama K, Harata S, Toh S, Furukawa KI. A Functional RNAi Screen for Runx2-Regulated Genes Associated With Ectopic Bone Formation in Human Spinal Ligaments *J Pharmacol Sci*. 2008;106:404-414.
- B.1. *Imaizumi T, Arikawa T, Sato T, Uesato R, Matsumiya T, Yoshida H, Ueno M, Yamasaki S, Nakajima T, Hirashima M, Sakata K, Ishibashi Y, Toh S, Ohyama C, Satoh K. Involvement of retinoic acid-inducible gene-I in inflammation of rheumatoid fibroblast-like synoviocytes. *Clin Exp Immunol* (2008) 15:240-244.
- B.2. Pegoli L, Parolo C, Ogawa T, Toh S, Pajardi. Arthroscopic evaluation and treatment by tendon interpositional arthroplasty of first carpometacarpal joint arthritis. *Hand Surg*. 2007;12(1):35-9.
- B.3. Uchiyama S, Imaeda T, Toh S, Kusunose K, Sawaizumi T, Wada T, Okinaga S, Nishida J, Omokawa S; for the Clinical Outcomes Committee of the Japanese Orthopaedic Association; the Impairment Evaluation Committee of the Japanese Society for Surgery of the Hand. Comparison of responsiveness of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the carpal tunnel syndrome instrument to surgical treatment with DASH, SF-36, and physical findings. *J Orthop Sci*. 2007 May;12(3):249-53.
- B.4. T. Mineta, N. Kida, S. Nomura, E. Makino, T. Sugawara, S. Toh, T. Shibata: Pulsation Sensor Integrated with Microvascular Holding Actuator for Thrombosis Monitoring, *Sensors and Actuators A*, (2008)Vol.143,Issue 1,2:14-19.

和文

2006年度

- A.1. 塚田晴彦, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 陳 俊輔, 藤 哲. 膝前十字靱帯再建術における術後感染の検討. *東北膝研究会誌* (2007) 17:17-22.

- A.2. 佐藤英樹, 石橋恭之, 津田英一, 藤 哲, 塚本利昭. アマチュア野球選手における投球障害肩の治療経験. 日本臨床スポーツ医学会誌. (2007) 15:113-121.
- A.3. 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 膝蓋腱を用いた解剖学的前十字靱帯再建術の Navigation 評価. 関節鏡 (2007) 31:1-5.
- A.4. 福田 陽, 石橋恭之, 田澤浩司, 津田英一, 塚田晴彦, 藤 哲. 自家骨軟骨移植術におけるドナー部障害の検討. 東日本整災会誌 (2006) 18:128-131.
- A.5. 三浦一志, 西川真史, 藤 哲. 手指ばね指に対する鏡視下腱鞘切開術の治療成績. 日手会誌 23:229-232,2006
- A.6. 熊谷玄太郎, 岡田晶博, 横山 徹, 油川修一, 斎藤 啓, 沼沢拓也, 藤 哲. 胸部転移性脊椎腫瘍における術前 MRI 所見と臨床症状との関連. 東北整災誌 50:10-12,2006.
- A.7. 西川真史, 藤 哲, 神 裕道, 和田雅之, 湯川昌広, 岩崎弘英. 手のスポーツ障害に対する関節鏡の応用. 整スボ会誌 25:1-14,2006
- A.8. 沼沢拓也, 横山 徹, 油川修一, 小野 睦, 藤 哲. 高齢者 (75 歳以上) 重症頸髄症の術後評価—患者立脚型アウトカム評価の有用性. 臨整外 41:645-651,2006.
- A.9. ** 中村吉秀, 中田義博, 秋田 護, 藤 哲. 圧壊を生じた広範囲病巣を呈する大腿骨頭壊死症に対する血管柄付き腸骨移植術と大腿骨頭前方回転骨切り術の合併手術. Hip Joint 32:158-161,2006.
- A.10. 菅原 卓, 峯田 貴, 牧野英司, 藤 哲, 柴田隆行. 形状記憶合金薄膜を用いた着脱式微小動脈拍動センサー: 実験的研究. 日本マイクロ会誌. 20:17-25,2007.
- A.11. 沼沢拓也, 横山 徹, 油川修一, 小野 睦, 和田簡一郎, 陳 俊輔, 藤 哲. 【脊椎感染症の予防と対策】脊椎手術における術後感染管理—予防的抗菌薬非使用における前向き研究. 骨・関節・靱帯, 19 巻, 2006, 8 号, 711-715.
- A.12. 小野 睦, 末綱 太, 植山和正, 横山 徹, 油川修一, 沼沢拓也, 藤 哲. 成人における Chiari I 型奇形を伴う脊髓空洞症の手術成績について—特に脊柱側弯と神経症状との関係—. 脊柱変形, 2006, 21 巻1 号, 111-115.
- A.13. 富田 卓, 植山和正, 三戸明夫, 岡田晶博, 横山 徹, 油川修一, 沼沢拓也. 骨切りを併用した modified PLIF による脊柱再建術. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌, 2006, 5 巻, 1 号, 7-10.
- A.14. 横山 徹, 小野 睦, 沼沢拓也, 和田簡一郎, 大塚博徳, 山本祐司, 長尾秋彦, 岡村良久. 【腰痛に対するスポーツ整形外科的アプローチ—スポーツ復帰のための治療の実例】腰痛とスポーツ復帰について—腰部筋横断面積の検討. 臨床スポーツ医学, 2006, 23 巻, 11 号, 1311-1314.
- B.1. 三浦一志, 長尾秋彦, 佐藤英樹, 藤 哲. ばね指に対する関節鏡を用いた腱鞘切開術—手術手技と術後成績. 関節鏡 32:49-53,2007.

2007 年度

- A.1. 林 慶充, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲, 佐藤秀一. 2 次元動作解析法及び三次元動作解析法を用いたジャンプ—着地動作中における下肢アライメントと関節キネマティクスの評価—. 日本臨床スポーツ医学会誌 (2008) 16:24-29.
- A.2. * 中村吉秀, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲, 片野 博. 広範囲病巣を呈する大腿骨頭壊死症に対する血管柄付き腸骨移植術の臨床成績 Hip Joint 33:433-438,2007.
- A.3. * 中村吉秀, 片野 博, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲. AML ステムを使用したセメントレス全人工股関節置換術の長期成績と問題点. 術後 10 年以上の成績から—日本人工関節学会誌 37:258-259,2007.
- A.4. * 中村吉秀, 藤 哲. 大腿骨頭回転骨切り術と血管柄付き腸骨移植の合併手術による大腿骨頭壊死の治療. 日本マイクロ会誌. 2008;21:12-19.
- A.5. 和田簡一郎, 沼沢拓也, 横山 徹, 小野 睦, 藤 哲, 植山和正: 脊椎インストゥルメンテーション手術の感染管理. 脊椎インストゥルメンテーション学会誌 2007;6:44-48.
- A.6. 和田簡一郎, 横山 徹, 小野 睦, 沼沢拓也, 藤 哲, 植山和正: 脊特発性側弯症における踵骨音響的骨評価値と脊柱側弯進行の関係. 脊柱変形 2007;22:8-11.

(2) 総説

英文

2007 年度

- A.1. Satoshi Toh, Yoshihide Nakamura, Hiromichi Jin, Masahiro Yukawa, Kouichi Arai. A quarter century of advancement in vascularized bone grafts in the orthopaedic field. The Journal of the School of Medicine University of Belgrade. Medical Investigations 41(2):4-11,2007

和文

2006 年度

- A.1. 津田英一, 石橋恭之. 膝関節固有感覚の評価と前十字靱帯損傷の予防. 運動・物理療法. (2006) 17:221-227.
- A.2. 石橋恭之, 津田英一. 反復性膝蓋骨脱臼に対する distal realignment 法—脛骨粗面前内方移行術 (Fulkerson osteotomy) — (2006) 25:1179-1185.
- A.3. 津田英一, 石橋恭之. 前十字靱帯再建術 — BTB —. (2006) 23:148-154.
- A.4. 西川真史, 小川太郎, 神 裕道, 藤 哲, 成田俊介. 橈骨遠位端骨折に対するわれわれの Interfocal Pinning 治療について. 日整会誌 80:417-421,2006.

- A.5. 藤 哲. 整形外科手術・私のポイントー舟状骨骨折新鮮例に対する screw 固定, 整・災外 50:62-63,2007.
- A.6. 田中利弘, 猪狩勝則, 井上逸朗, 藤 哲. 脊椎後縦靱帯骨化症の感受性遺伝子解析. 骨・関節・靱帯 20:267-272,2007.
- A.7. 竹内和成, 横山 徹, 小野 睦, 沼沢拓也, 和田簡一郎, 熊谷玄太郎. 治療法選択とその根拠 頸椎 頸椎症性脊髄症 第3頸椎椎弓切除を加えた頸半棘筋完全温存による頸椎拡大術 軸性疼痛と可動域制限の傾向調査. 別冊整形外科 2006;50:74-78.
- B.1. 植山和正, 横山 徹. Chiari 奇形に伴う脊髄空洞症の外科的治療. 日本脊椎脊髄病学会誌, 2006, 17 巻, 2 号, 677-685.

2007 年度

- A.1. 石橋恭之, 津田英一. Image-free navigation. OS NOW Instruction (2008) 5:125-138.
- A.2. 石橋恭之, 津田英一. 小児膝関節周囲骨折の治療. 関節外科 (2007) 26:1045-1052.
- A.3. 佐藤英樹, 石橋恭之. 投球障害肩の実態 2. M B Orthop. (2007)20:5-11.
- A.4. 藤 哲. 上肢の骨折・脱臼 手技のコツ & トラブルシューティング: 新鮮舟状骨骨折・月状骨周囲脱臼. OS NOW Instruction (2007)2:179-192
- A.5. 藤 哲. 血管柄付き骨移植術による大腿骨頭壊死症の治療. 日本マイクロ会誌. 2008;21:3-4.
- A.6. * 沢田利匡, 岸谷正樹, 藤 哲, 古川賢一, 金丸幸太, 元村 成. 脊柱靱帯骨化症に対する薬物治療のターゲットの検索分子レベルからみた整形外科疾患一シリーズⅦ. (2008) 整・災外 51:2-3.

(3) 著書

英文

2006 年度

- A.1. Toh S. Fracture of the Scaphoid Fracture of the Hand and Wrist, pp 115-136, eds. David C. Ring & Mark S. Cohen, Informa Health Care, New York, London, 2007.

和文

2006 年度

- A.1. 石橋恭之. 大腿四頭筋拘縮症. 最新整形外科治療大系 17. 膝関節・大腿, 中山書店, 越智光夫編 (2006) 387-391.
- A.2. 石橋恭之, 津田英一. 骨付き膝蓋腱を用いる前十字靱帯再建術の適応と工夫. 全日本出版協会, 宗田大編, (2005) 120-126.
- A.3. 藤 哲. 11 運動器疾患 II 主な疾病と診療 6 骨折 3 関節部骨折 (上肢). 臨床病態学 3 巻 p.105-114, 2006, ヌーベエルヒロカワ, 北村 聖編, 東京
- A.4. 福田 陽, 石橋恭之. 膝の痛み. 菊地臣一. プライマリケアのための整形外科疼痛マニュアル. p.58-67. 金原出版. 東京. 2007.

2007 年度

- A.1. 藤 哲. 第 14 章 手の腫瘍および類似疾患: 軟部腫瘍ーガングリオン. 最新整形外科学体系 15-B 手関節・手指 II 15-B, 三浪明男・越智隆弘編, 中山書店, 東京, 201-205, 2007.
- A.2. 藤 哲. 第 14 章 手の腫瘍および類似疾患: 軟部腫瘍ーグロムス腫瘍, 最新整形外科学体系 15-B 手関節・手指 II 15-B, 三浪明男・越智隆弘編, 中山書店, 東京, 206-210, 2007.
- A.3. 藤 哲. 第 14 章 手の腫瘍および類似疾患: 軟部腫瘍ー血管腫および血管奇形, 最新整形外科学体系 15-B 手関節・手指 II 15-B, 三浪明男・越智隆弘編, 中山書店, 東京, 211-218, 2007.
- A.4. 藤 哲. 第 14 章 手の腫瘍および類似疾患: 軟部腫瘍ー血腫鞘巨細胞腫, 最新整形外科学体系 15-B 手関節・手指 II 15-B, 三浪明男・越智隆弘編, 中山書店, 東京, 219-222, 2007.
- A.5. 藤 哲. 第 6 章 スポーツによる手関節・手指の障害・外傷: 突き指・マレット指, 最新整形外科学体系 23 スポーツ障害, 越智光夫・越智隆弘編, 中山書店, 東京, 215-220, 2007.

(4) その他

英文

2006 年度

- A.1. Akira Nagumo, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Satoshi Toh. A reversed tibial flip autograft technique for correcting over-valgus knee after high tibial closing-wedge osteotomy in total knee arthroplasty. J Arthroplasty. (2006) 21:771-774.
- A.2. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Koji Tazawa, Hideki Sato, Tomomi Kusumi, Satoshi Toh. Pretibial cyst formation after anterior cruciate ligament reconstruction with a hamstring tendon autograft. Arthroscopy (2006) 22:691.e1-e6.

2007 年度

- A.1. Atsushi Ono, Toru Yokoyama, Takuya Numasawa, Kanichiro Wada and Satoshi Toh. Dural damage due to a loosened hydroxyapatite intraspinal spacer after spinous process-splitting laminoplasty. J Neurosurg Spine. 2007;7:230-235.

- A.2. *Nakamura Y, Mitsui H, Toh S, Hayashi Y. Femoral Nerve Palsy Associated with Iliac Hematoma Following Pseudoaneurysm After Revision Hip Arthroplasty. J Arthroplasty. 2008 Dec;23(8):1240.e1-4.Epub 2008 Mar 14.

和文

2006年度

- A.1. 田澤浩司, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 林 慶充, 奈良岡琢哉, 藤 哲, 塚本利昭, 瓜田一貴, 秋元博之, 尾田 敦, 吉田英樹, 岡村良久. 高校生バスケットボール選手を対象とした平衡バランス機能と関節位置覚の検討. 青森スポ研誌. (2006) 15:29-32.
- A.2. 津田英一, 石橋恭之, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 外側設置再建法および解剖学的二重束再建法による前十字靭帯再建術の短期成績. 東北膝研究会誌. (2006) 16:31-35.
- A.3. 藤 哲. 橈骨遠位端骨折—最近の治療戦略—序文. 日整会誌 80:409-410,2006.
- A.4. 藤 哲. AAOS 写真症例 Q&A Upper extremity (翻訳) AAOS 写真症例 Q&A Upper extremity (翻訳) 1-27, 2006, ターギス株式会社, 東京
- A.5. 藤 哲, 大林素子. OSSO TALK しなやか対談 OSSO 1-2, 2006日本イーライリリー株式会社岩本幸英編集, 東京
- A.6. 神 裕道, 湯川昌広, 藤 哲. 有茎筋皮弁後の難治性瘻孔に対して陰圧閉鎖療法が著効した鼠径部放射線潰瘍の1例. 日本骨・関節感染症学会雑誌 20:136-139,2006.
- A.7. 藤 哲. Fighting Vascular Events エリア座談会(青森)間歇的跛行のプライマリドクターとしての役割. 日経メディカル 1 (青森版) 1-4,2007.
- A.8. 藤 哲. AAOS Annual Selection Q&A 30 Upper Extremity (翻訳) AAOS Annual Selection Q&A 30 (翻訳), 1-4, pp14-17, ターギス株式会社, 東京, 2007.
- B.1. 塚本利昭, 伊藤郁恵, 石橋恭之, 対馬栄輝, 佐藤英樹. 投球障害肩および野球肘症例における肩関節内外旋角度と筋力の比較. 青森スポ研誌. (2006) 15:21-24.
- B.2. 三浦和知, 石橋恭之, 工藤正育. 粉碎骨片の修復固定が不能であった脛骨顆間隆起骨折の1例. 青森スポ研誌. (2006) 15:9-12.
- B.3. 前田周吾, 鈴木雅博, 富田 卓, 坪 健二, 石橋恭之. 脛骨顆間隆起骨折に対する関節鏡視下 screw 固定の治療経験. 青森スポ研誌. (2006) 15:5-8.
- B.4. 吉川孔明, 三浦一志, 村上忠誌, 長尾秋彦, 久木田裕史, 塚原 孝, 岡田晶博, 横山 徹, 岡村良久. 胸骨結核性骨髄炎の1例. 東北整形災害外科学会雑誌, 2006, 50巻, 1号, 79-82.

2007年度

- A.1. 木村由佳, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 高位脛骨骨切り術後に矯正骨切りを行った2例. 東北膝研究会誌 (2008) 18:27-30.
- A.2. 田澤浩司, 板橋泰斗, 石橋恭之. 自家骨軟骨移植術のドナー採取による障害に対して外側膝蓋支帯切離術を行い競技復帰できたプロスノーボードクロス選手の1例. 東北膝研究会誌 (2008) 18:1-4.
- A.3. 上里涼子, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 受傷後3日目に膝窩動脈損傷が判明した膝複合靭帯損傷の一例. 東北整災誌 (2008) 52:94-98.
- A.4. 木村由佳, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 両側上腕骨小頭離断性骨軟骨炎と診断した少年野球選手の1例. 東日本整災会誌 (2008) 20:253-257.
- A.5. 上里涼子, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 鏡視下関節唇デブリードマン後に上腕二頭筋長頭腱断裂を来した一例. 青森スポ研誌. (2007) 16:25-28.
- A.6. 塚田晴彦, 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 木村由佳, 藤 哲. 膝後十字靭帯解剖学的二重束再建による後方制動効果に関する生体力学的検討. 青森スポ研誌 (2007) 16:1-6.
- A.7. *中村吉秀, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲, 森川泰仁, 越後谷直樹. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する遠位固定型セメントレス大腿骨ステムの有用性—いわゆるトラブルケース3例, 別冊整形外科 52,148-152,2007.
- A.8. *中村吉秀, 中田善博, 秋田 護, 藤 哲, 森川泰仁, 入江伴幸, 越後谷直樹, 岩澤智宏. 遠位固定型セメントレス大腿骨ステムの有用性—いわゆる非定型的症例4例の報告, 第15回 MX 人工股関節研究会誌 51-54,2007.
- B.1. 瓜田一貴, 塚本利昭, 伊藤郁恵, 小池友和, 佐藤美紀, 対馬栄輝, 石橋恭之, 津田英一. 骨付き膝蓋腱および半腱様筋腱・薄筋腱を用いた膝前縦靭帯再検膝における等速性筋力の比較. 青森スポ研誌 (2007) 16:7-10.
- B.2. 赤石孝一, 片野 博, 横山隆文, 三井博正. 白蓋骨欠損部に L 型 block 骨移植を併用したセメントレスソケットの X 線学的検討 5年以上経過例について. 日本人工関節学会誌 2007;37:186-187.
- B.3. 岩澤智宏, 越後谷直樹, 中村吉秀. 小児麻痺患者に発生した大腿骨頸部骨折の2例 第15回 MX 人工股関節研究会, 67-71,2007.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，B のみ）

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Orthop Sci	0	2	0
Am J Sports Med	2.396	2	4.792
Orthopedics	0	1	0
Arthroscopy	1.42	1	1.42
J Arthroplasty	1.214	1	1.214
J Spinal Disord Tech	1.583	1	1.583
Sensors and Actuators A	1.363	1	1.363
Key Engineering Materials	0.224	1	0.224
J Neurosurg Spine	1.222	1	1.222
Pathol Int	0.925	1	0.925
J Orthop Sci	0	2	0
Biochem J	4.224	1	4.224
Hand Surgery	0	1	0
Calcif Tissue Int	2.487	1	2.487
Total		17	19.454

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Orthop Sci	0.614	1	0.614
Eur Spine J	1.824	1	1.824
J Spinal Disord Tech	1.11	1	1.11
J Neurosurg Spine	1.478	2	2.956
Medical Investigations	0	1	0
Orhopaedics	0.707	1	0.707
J Arthroplasty	1.806	1	1.806
Arch Orthop Trauma Surg.	0.793	1	0.793
J Bone Joint Surg Br	1.79	1	1.79
J Pharmacol Sci	2.242	2	4.484
Sensors and Actuators A	1.434	1	1.434
Clin Exp Immunol	2.747	1	2.747
J Orthop Sci.	0.614	1	0.614
Hand Surgery	0	1	0
Total		16	20.879

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
日本臨床スポーツ医学会誌	3	1
関節鏡	2	
東日本整災会誌	1	
日手会誌	1	
東北整災誌	1	
整スポ会誌	1	
臨整外	1	
Hip Joint	1	1
日本マイクロ会誌	1	2
骨・関節・靱帯	2	
脊柱変形	1	1
日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌	1	1
運動・物理療法	1	
日本脊椎脊髄病学会誌	1	
別冊整形外科	1	
整・災外	1	1
日整会誌	1	
関節外科	1	1

東北膝研究会誌	1	
日本人工関節学会誌		1
OS Now Instruction		2
MB Orthop.		1
計	23	12

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	1	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	4	6

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Arthroplasty	1.214	1	1.214
Arthroscopy	1.42	1	1.42
Total		2	2.634

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Neurosurg Spine	1.478	1	1.478
J Arthroplasty	1.806	1	1.806
Total		2	3.284

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日整会誌	1	
日本骨・関節感染症学会雑誌	1	
東北整形災害外科学会雑誌	1	
東北膝研究会誌	1	2
青森スボ研誌 4	4	
東北整災誌		1
東日本整災会誌		1
青森スボ研誌		3
別冊整形外科		1
MX 人工関節研究会誌		2
日本人工関節学会誌		1
計	8	11

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- A.1. Toh S, Jin H, Yukawa M. Free Hand Screw Insertion for the Scaphoid Fracture. 7th European Trauma Congress. 2006.05.14-17. Ljubljana (Slovenia)
- A.2. Toh S, Jin H, Yukawa M. Recent Approaches for the Treatment of Scaphoid Fractures, 6th Congress of the APFSSH, 2006.11.15-18, Bangkok, タイ
- A.3. Toh S. Recent Approaches for Scaphoid Fracture. 第24回韓国手の外科学会, 2006.12.02, Seoul, Korea
- A.4. Toh S. Distraction lengthening by Callotaxis in the forearm and hand. 第24回韓国手の外科学会, 2006.12.02, Seoul, Korea
- A.5. Toh, S. Vascularized Bone Grafts. 23rd Annual Meeting of American Society for Reconstructive Microsurgery, 第23回アメリカマイクロサージャリー学会, 2007.01.13-16, Rio Grande, Puerto Rico
- A.6. Toh S. Indications of percutaneous screw fixation of the scaphoid fractures. The 10th Triennial Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand, 2007.03.11-15, Sydney, Australia

- A.7. Ishibashi Y. The future of double bundle ACL reconstruction: Incorporation of ACL anatomical data into the navigation system. Expertise in Orthopaedic Navigation, Sevilla, Spain, 2006.
- A.8. Toru Yokoyama, Kazumasa Ueyama, Atsushi Ono, Takuya Numasawa, Kanichiro Wada, Kazunari Takeuchi, Satoshi Toh. Progression of cervical laminoplasty, 中日脊椎手技研究会, 2006, 広州, 中国
- A.9. Kazumasa Ueyama, Toru Yokoyama. Does laminectomy still hold a place in the treatment of cervical stenosis? When is it necessary to add a fixation after laminectomy and/or laminoplasty? 11th International ARGOS Symposium, 2006, Paris, France
- A.10. Kazumasa Ueyama, Toru Yokoyama. Spinal cord injury in cervical stenosis: What to do in the acute period? And at long term? 11th International ARGOS Symposium, 2006, Paris, France
- A.11. Kazumasa Ueyama, Toru Yokoyama. Neurological post operative complications (diagnosis, clinical presentation, investigations, treatment) Cervical, 11th International ARGOS Symposium, 2006, Paris, France
- B.1. Toh S, Jin H, Suzuki M. Management of Simple Syndactyly Long fingers, イタリア手の外科学会学会, 2006.10.12, Milan, Italy
- C.1. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Atsushi Ono, Takuya Numasawa, Mei Wang, Jeffrey M. Toth, Satoshi Toh. Biomechanical Evaluation of the Selected Laminectomy Combined with Cervical Laminoplasty. 22 annual meeting, Cervical Spine Research Society European Section, 2006, Berlin, Germany
- C.2. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Atsushi Ono, Takuya Numasawa, Kazunari Takeuchi, Satoshi Toh. Sensitivity of Neurological Findings for Cervical Compressive Myelopathy. 22 annual meeting, Cervical Spine Research Society European Section, 2006, Berlin, Germany
- C.3. Takuya Numasawa, Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Atsushi Ono, Satoshi Toh. Quality of Life in Aged Patients Over 75 Years with Severe Cervical Spondylotic Myelopathy. 22 annual meeting, Cervical Spine Research Society European Section, 2006, Berlin, Germany
- C.4. Kazunari Takeuchi, Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Atsushi Ono, Takuya Numasawa, Satoshi Toh. Limitation of Activities of Daily Living Accompanying Reduced Neck Mobility after Cervical Laminoplasty. Cervical Spine Research Society European Section, 2006, Berlin, Germany
- C.5. Toru Yokoyama, Shuichi Aburakawa, Atsushi Ono, Takuya Numasawa, Satoshi Toh. Neurological findings for screening cervical myelopathy. North American Spine Society and Japan Spine Research Society combined meeting, 2006, Maui, USA
- C.6. Atsushi Ono, Toru Yokoyama, Futoshi Suetsuna, Kazumasa Ueyama, Shuichi Aburakawa, Takuya Numasawa, Satoshi Toh. Surgical Outcomes of Syringomyelia Associated with Chiari I Malformation in Adults: Relationship Between Scoliosis and Neurologic Symptoms. North American Spine Society, 21st Annual Meeting, 2006, Seattle, USA
- C.7. Mei Wang, Toru Yokoyama, Takuya Numasawa, Satoshi Toh, Linda McGrady, Jeffrey Toth. Biomechanical Evaluation of Modified Cervical Laminoplasty. North American Spine Society, 21st Annual Meeting, 2006, Seattle, USA
- C.8. Toru Yokoyama, Atsushi Ono, Takuya Numasawa, Kanichiro Wada, Kazunari Takeuchi, Satoshi Toh. Can Intraoperative Monitoring with Trans-cranial Train Electrical Stimulated Motor Evoked Potential Detect C5 Root Palsy. Cervical Spine Research Society, 34th annual meeting, 2006, Palm Beach, Florida, USA
- C.9. Nakagawara T, Miura H, Toh S. Vascular Pedicle Island Flaps for Reconstruction of Fingertip and Thumb Injuries. 7th European Trauma Congress, 2006.05.14-17, Ljubljana (Slovenia)
- C.10. Tsuda E, Ishibashi Y, Sato H, Miura K, Toh S. Radiographic Evaluation of Femoral and Tibial Tunnel Placement in Lateralized Single-Bundle and Anatomical Two-Bundle ACL Reconstruction. 12th European Society of Sports Traumatology, Knee Surgery and Arthroscopy, Innsbruck, 2006.5.24-27
- C.11. Takuya Numasawa. QUALITY OF LIFE IN AGED PATIENTS OVER 75 YEARS WITH SEVERE CERVICAL SPONDYLOTIC MYELOPATHY. Euro Spine (2006.10.25-28, Istanbul)
- C.12. Fukuda A, Ishibashi Y, Tsuda E, Tsukada H, Toh S. Treatment for Osteochondral Lesion of the Talus in Competitive Athletes. 12th European Society of Sports Traumatology, Knee Surgery and Arthroscopy, Innsbruck, 2006.5.24-27
- C.13. Yukawa M, Toh S, Nishikawa S, Jin H. ORIF of distal humeral fracture by using ONI transcondylar plate, European Trauma Congress, Ljubljana, 2006 (Yukawa M, Toh S, Nishikawa S, Jin H, ORIF of Distal Humeral Fracture by Using ONI Transcondylar Plate, 7th European Trauma Congress, International Proceedings, 2006, 381-5)
- C.14. Yukawa M, Toh S, Jin H. Surgical Treatment of Fibrolipomatous Hamartoma generated in the Median Nerve. Complete Resection of the Tumor and Nerve Transplantation, Opponensplasty, IFSSH & IFSHT, Sydney, 2007

2007年度

- A.1. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Validation of computer-assisted double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction. Expertise in Orthopaedic Navigation. 2007.9.21-22, Berlin, Germany
- A.2. Toh S: Recent approaches for the scaphoid fractures, 10th Congress of Chinese Medical Association for Surgery of the Hand, 2007.05.23-28, Beijing, China, “招待講演”
- A.3. Toh S, Chen C. Bone lengthening in the forearm and hand. Annual Congress of Taiwan Orthopaedic Association, 2007.10.27-28, Taipei, Taiwan
- A.4. Toh S: Vascularized fibula graft for the congenital pseudoarthrosis of the tibia, III. National Congress on Reconstructive Microsurgery, 2007.11.26-28, Istanbul, Turkey, The Marmara Istanbul Hotel

- A.5. Toh S. Vascularized Iliac bone graft for osteonecrosis of the femoral head. III. National Congress on Reconstructive Microsurgery, 2007.11.26-28, Istanbul, Turkey, The Marmara Istanbul Hotel
- A.6. Toh S. The Microsurgical Approaches for Congenital Arterio-Venous Fistula of the Hand. III. National Congress on Reconstructive Microsurgery, 2007.11.26-28, Istanbul, Turkey, The Marmara Istanbul Hotel
- B.1. Yasuyuki Ishibashi. Computer assisted ACL reconstruction and high tibial osteotomy, Singapore Orthopaedic Association, Singapore, 2007.
- B.2. Yasuyuki Ishibashi. Opening wedge high tibial osteotomy using navigation, Singapore Orthopaedic Association, Singapore, 2007.
- B.3. Yasuyuki Ishibashi. Results of arthroscopic fixation of OCD lesion of the knee by Berlet procedure, Singapore Orthopaedic Association, Singapore, 2007.
- B.4. Yasuyuki Ishibashi. Osteochondral auto-grafts for osteochondritis dissecans of the elbow. International Symposium for Orthopaedic Sports Medicine, Taiwan, 2007.
- B.5. Yasuyuki Ishibashi. Double oblique axial MR arthrography for diagnosis of shoulder sports injuries. International Symposium for Orthopaedic Sports Medicine, Taiwan, 2007.
- B.6. Yasuyuki Ishibashi. Intraoperative navigation evaluation of the anatomical double-bundle ACL reconstruction. International Symposium for Orthopaedic Sports Medicine, Taiwan, 2007.
- B.7. Yasuyuki Ishibashi. Validation of computer-assisted double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction. Switzerland, 2008.
- B.8. Yasuyuki Ishibashi. Navigation evaluation of anterolateral rotatory instability during double-bundle ACL reconstruction, Switzerland, 2008
- B.9. Satoshi Toh, Masahiro Yukawa, Rinko Yamamoto, Koei Iwasaki. Distraction lengthening by callotasis in the forearm, The 15th Triennial Congress of Asia Pacific Orthopaedic Association, 2007.09.09-11, Seoul, Korea,
- B.10. Toh S, Tanaka J. Development of Minimally Invasive Surgery for Scaphoid Fracture from Japan: Percutaneous Screw Fixation and Double Thread Screw Japan (DTJ), 62nd Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand ASSH, 2007.09.27-28, Seattle, WA, USA
- C.1. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Effect of femoral and tibial tunnel placement on postoperative anterior knee laxity in anatomical double-bundle ACL reconstruction. ISAKOS. 2007.5.27-31, Florence, Italy
- C.2. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Akira Fukuda, Harehiko Tsukada, Satoshi Toh. Relationship between kinematics of the knee and hip joints and the lower limb alignment in the coronal plane during a landing task. ISAKOS. 2007.5.27-31, Florence, Italy
- C.3. Atsushi Ono, Futoshi Suetsuna, Kazumasa Ueyama, Toru Yokoyama, Kazunari Takeuchi, Takuya Numasawa, Kanichiro Wada, and Satoshi Toh M.D.¹ Cervical Spinal Motion of Adult Chiari I Malformation Associated with Syringomyelia Before and After Surgery 23rd annual meeting of the European Section of the Cervical Spine Research Society (C.S.R.S.) Leuven, Belgium, May 30th until June 1st 2007.
- C.4. Numasawa T. OSTEOGENIC DIFFERENTIATION OF SKIN-DERIVED CELLS AND SPINAL LIGAMENT CELLS IN PATIENTS WITH OSSIFICATION OF POSTERIOR LONGITUDINAL LIGAMENTS OF THE SPINE. ORS (2007.2.11-14, San Diego)
- C.5. Numasawa T. Do Postoperative Neck Axial Symptoms and Loss of Motion Affect Quality of Life in Cervical Laminoplasty? Euro Spine (2007.10.3-6, Brussels)
- C.6. Numasawa T. High osteogenic differentiation potentials of skin and spinal ligament derived cells in patients with ossification of posterior longitudinal ligament of the spine. ORS combined meeting (2007.10.21-24, Honolulu)

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 藤 哲. 上肢における仮骨延長法による再建, 日本手の外科学会第12回春期教育研修会, 2006.04.22, 浜松
- A.2. 藤 哲. 手関節部外傷の診断と治療, 第107回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2006.10.07, 神戸
- A.3. 藤 哲. ハンドセラピーにおける ADL 評価－ DASH を中心に. 第18回日本ハンドセラピー学会学術集会, 2006.04.22, 浜松
- A.4. 藤 哲. 手関節部スポーツ障害の診断と治療. 第24回中部日本手の外科研究会, 2007.02.09, 神戸市
- B.1. 藤 哲, 神 裕道, 湯川昌広, 陳 雷. 舟状骨骨折の治療－最近の動向, 第55回東日本整形外科学会, 2006.09.15, 東京
- B.2. 藤 哲. 肘関節部骨折の治療の現状. 第34回日本リウマチ・関節外科学会, 2006.11.11, 新潟
- B.3. 石橋恭之. 関節軟骨修復へのプロテオグリカンの応用. 第5回国際バイオ EXPO. 東京, 2006.
- B.4. 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. 膝蓋腱および膝屈筋腱を用いた解剖学的前十字靱帯再建術の術中 Navigation 評価と短期術後成績. 日本整形外科学会. 2006.
- B.5. 石橋恭之, 津田英一, 福田 陽, 塚田晴彦, 藤 哲. Navigation を併用した ACL 二重束再建術と解剖学的計測値の比較検討. 日本膝学会. 沖縄, 2006
- B.6. 和田簡一郎, 沼沢拓也, 横山 徹, 小野 睦, 藤 哲. 脊椎インストゥルメンテーション手術の感染管理. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2006, 第15回, 大阪
- B.7. 秋田 譲, 中村吉秀, 菊池 明, 藤 哲. 進行期股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の治療成績 シンポジウム 第33回日本股関節学会, 2006.10.27-28, 東京

- B.8. 中村吉秀, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲, 片野 博. 大腿骨頭回転骨切り術と血管柄付き腸骨移植の合併手術による大腿骨頭壊死の治療 シンポジウム第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006.10.27-28, 奈良
- B.9. 中村吉秀, 片野 博, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲. AMLステムを使用したセメントレス全人工股関節置換術の長期成績と問題点. 術後10年以上の成績から パネルディスカッション, 第37回日本人工関節学会, 2007.2.2-2.3, 東京
- C. 44件

2007年度

- A.1. 藤 哲. 手・手関節部外傷の診断・治療のポイント, 第20回日本臨床整形外科学会学術集会, 2007.06.14-15, 青森市 ホテル青森
- B.1. *中村吉秀, 片野 博, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲. AMLステムを使用したセメントレス全人工股関節置換術の長期成績と問題点. 術後10年以上の成績から パネルディスカッション 第37回日本人工関節学会, 2007.2.2-2.3
- B.2. *中村吉秀, 三井博正, 菊池 明, 岸谷正樹, 藤 哲. 特発性大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術の長期成績, パネルディスカッション, 第34回日本股関節学会, 2007.10.11-12
- B.3. 藤 哲. 広範囲組織欠損補填に対する Microsurgery を応用した組織移植術, 第40回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2007.06.12-13, 甲府市 甲府富士屋ホテル
- C. 19件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

名称: Best Scientific Paper Award

受賞者: 石橋恭之

演題: Expertise in Orthopedic Navigation

名称: H18年日本脊椎脊髄病学会優秀演題賞

受賞者: 塚原 聡, 宮沢伸彦, 赤川浩之, Sarka Forejtova, Karel Pavelka, 田中利弘, 沼沢拓也, 小野 睦, 油川修一, 横山 徹, 藤 哲, 田嶋 敦, 井ノ上逸朗

演題: Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis 感受性遺伝子の同定

名称: H18年日本整形外科基礎学術集会, 優秀ポスター賞

受賞者: 小野 睦, 横山 徹, 油川修一, 沼沢拓也, 藤 哲

演題: 解剖遺体における頸胸移行部 PVM の棘突起付着部形態のついて 一頸椎椎弓形成術における C7 棘突起温存の意義一

Ⅳ. 共同研究

2006年度

- 藤 哲: 日伊(医学部)政府間科学技術協定に基づく国際共同研究:
大菱形中手骨関節の解剖学的及び機能的特徴についての研究一病態の解明と治療方針の決定(ミラノ大学)
- 研究課題名「頸椎人工環軸関節の開発」.
代表研究者: 横山 徹, 主たる研究機関: 弘前大学大学院医学研究科, 共同研究者: 小野 睦, 沼沢拓也, 和田簡一郎, 藤 哲.
共同研究機関: 弘前大学理工学部教授, 共同研究者: 宮田 寛

2007年度

- 藤 哲: 日伊(医学部)政府間科学技術協定に基づく国際共同研究:
大菱形中手骨関節の解剖学的及び機能的特徴についての研究一病態の解明と治療方針の決定(ミラノ大学)
- 研究課題名「頸椎人工環軸関節の開発」.
代表研究者: 横山 徹, 主たる研究機関: 弘前大学大学院医学研究科, 共同研究者: 小野 睦, 沼沢拓也, 和田簡一郎, 藤 哲.
共同研究機関: 弘前大学理工学部教授, 共同研究者: 宮田 寛

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

1. 日本学術振興会科学研究補助金、基盤研究（B）
膝前十字靱帯断裂の発生要因と予防に関する研究—特に関節位置覚との関連性について—
研究代表者：津田英一
配分額：900,000円
2. 文部科学省科学研究費若手研究 B
「脊柱後縦靱帯骨化症の遺伝子レベルでの原因解明と臨床への応用」
研究代表者：沼沢拓也：
配分額：1,000 千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

- 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金、後縦靱帯骨化症に関する調査研究
代表：中村耕三 分担 藤 哲 1,000 千円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

- 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金、後縦靱帯骨化症に関する調査研究
代表：中村耕三 分担 藤 哲 1,000 千円

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

- 研究種目：平成 18 年度弘前大学学長指定重点研究。
研究課題：頸椎人工環軸関節の開発
研究代表者：横山 徹
配分額：1,400 千円

(4) 民間の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

- 研究種目：都市エリア産学官連携促進事業推進事業
研究課題：軟骨再生における新素材としての軟骨由来 PG の応用、弘前
研究代表者：石橋恭之

2007年度

研究代表者として

1. 石橋恭之：変形性膝関節症および膝前十字靱帯損傷の発生要因の疫学調査および予防に関する研究。
日本整形外科学会プロジェクト研究
2. 津田英一：日本スポーツ治療医学研究会、
「膝前十字靱帯損傷に対する予防トレーニングがスポーツ動作時の動的下肢アライメントに及ぼす
効果の解明」、500 千円

他研究単位との研究分担者として

- 研究種目：都市エリア産学官連携促進事業推進事業
研究課題：軟骨再生における新素材としての軟骨由来 PG の応用、弘前
研究代表者：石橋恭之

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

2006. May 25-27 AOA-JOA Exchange Traveling Fellowship (Dr. Michael P. Bolognesi (Duke University) /Dr. Scott F. M. Duncan (Mayo Clinic)/Dr. Eric P. Hofmeister (Naval Medical Center)/Dr. Rena L. Stewart (Indiana University) 2006. May 25-27
2006.12.7-12 Roberto Adani (Modena, Italy)
2006.11.15 Stedtfeld HW (Germany)

2007年度

- ① Prof. Marco Innocenti: Careggi University Orthopedic Surgery, Italy 2007.10.15
- ② Dr. Sybille Facca: Strasbourg, France 2007.4 日仏トラベリングフェロー 2007.4.12-
- ③ Dr. Andrea Ghezzi: Milano Italy 2007.9 日伊(医学部) 政府間科学技術協定に基づく国際共同研究として 2007.9.18
- ④ Dr. Raffaele Garofalo (Bergamo, Italy) ・ Dr. A. Castagna Nicole Pouliart (Brusel, Belgium) ヨーロッパ肩・肘学会トラベリングフェロー 2007.10.25
- ⑤ Prof. Jae-Hoon Jeong (Seoul, Korea) 2007.11.4
- ⑥ Dr. Lamont Cardon (Berkeley, CA, USA) 2007.8.23-
- ⑦ Prof. Fetto NY, USA

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

2006年度

陳 雷 (中国) 2006.4-2007.3 笹川記念財団
Umberto Napoli (Milan, Italy) 2006.7.31-8.05 政府間科学技術協定に基づく国際共同研究
Angel Arizala Caytano Jr., Cagayan Valley Medical Center, Philippines, 滞在期間: 3か月

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3ヵ月未満) 状況

2006年度

神 裕道 Policlinico Multimedica イタリア (Milano) 政府間科学技術協定に基づく国際共同研究

2007年度

- 1. 津田英一 GOTS-JOSSM/KOSSM Traveling Fellowship ドイツ, オーストリア, スイス
5/28 ~ 6/24
- 2. 三井博正 H Kiefer et al, BiCONTACT experience exchange, ドイツ, 2007.7.1 ~ 7.8

e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2007年度

藤 哲 第20回日本創外固定・骨延長学会第2007.4.27-28. 弘前
植山和正 (弘前記念病院) 日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2007.8.30-9. 弘前

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

藤 哲 第12回東北マイクロサージャリー懇話会当番幹事 (仙台市) 2006.12.9
藤 哲 第17回青森県リウマチ懇話会 (八戸市) 2006.7.14
藤 哲 平成18年度北海道・東北リウマチのケア研修会 (青森市) 2006.09.02
藤 哲 第33回青森県スポーツ医学研究会 (青森市) 2006.8.26
藤 哲 第10回青森県骨粗鬆症研究会 (青森市) 2006.9.08
藤 哲 第30回骨を語る会 (弘前市) 2007.2.16
藤 哲 第13回骨軟骨シンポジウム (青森市) 2007.3.9

2007年度

藤 哲 平成19年度青森地区リウマチ教育研修会（青森市）2007.9.2
藤 哲 第18回青森県リウマチ懇話会（八戸市）2007.7.6
藤 哲 第34回青森県スポーツ医学研究会（青森市）2007.9.8
藤 哲 第11回青森県骨粗鬆症研究会（青森市）2007.9.14
藤 哲 第31回骨を語る会（弘前市）2008.3.14
藤 哲 第14回骨軟骨シンポジウム（青森市）2008.2.29

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2006年度

竹内章晃（北大形成外科）2006.04-2006.08

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

2006年度

熊谷玄太郎；弘前大学整形外科教室大学院3年
慶応大学脊損グループ共同研究員

2007年度

熊谷玄太郎；弘前大学整形外科教室大学院3年
慶応大学脊損グループ共同研究員

VII. その他

なし

21. 皮膚科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

目標：苦痛のない治療を目指す。具体的にはアトピー性皮膚炎の光線治療，遺伝子治療，皮膚癌に対する光力学療法の分子生物学的機序の解明。

到達度：70%

理念：

皮膚科学の発展に貢献し，それを地域に還元する。

これから2年間の目標：

遺伝性疾患の病態の解析と新規治療法の開発の研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 1，講師 1，助手 5，医員 11，大学院学生 6，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専 任	中野 創	平成22年3月31日
	講 師	専 任	松崎 康司	平成22年3月31日
	助 手	専 任	金子 高英	平成23年3月31日
	助 手	専 任	会津 隆幸	平成18年3月31日
	助 手	専 任	武田 仁志	平成21年3月31日
	助 手	専 任	中島 康爾	平成21年3月31日
	助 手	専 任	池永 五月	平成21年3月31日
研究課題	1. 表皮細胞の生物学 2. 遺伝性皮膚疾患の遺伝子診断 3. 転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発 4. 皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検 5. 悪性黒色腫におけるリンパ節への微小転移に対する PCR 法を用いた解析 6. 表皮の分化にかかる転写因子の発現の解析 7. 角化異常における RKIP の発現および役割について			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 2，助教 4，助手 0，医員 12，大学院学生 7，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	澤村 大輔	平成29年1月31日
	准教授	専 任	中野 創	平成22年3月31日
	講 師	専 任	松崎 康司	平成23年3月31日
	講 師	専 任	金子 高英	平成25年9月30日
	助 教	専 任	会津 隆幸	平成22年4月30日
	助 教	専 任	武田 仁志	平成24年4月30日
	助 教	専 任	中島 康爾	平成21年4月30日
	助 教	専 任	池永 五月	平成25年4月30日
研究課題	1. 遺伝性疾患の病態の解析 2. 表皮細胞における紫外線の遺伝子発現の及ぼす影響 3. 転移性悪性黒色腫に対する新しい治療法の開発 4. 皮膚外科学におけるあらたな手術手技の開発 5. 皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検 6. 表皮の分化にかかる転写因子の発現の解析 7. 皮膚の防御能に関する研究			

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kaneko T, Tamai K, Matsuzaki Y, Yamazaki T, Nakano H, Kon K, Hashimoto I, Hanada K, Kaneda Y, Uitto J. Interferon-gamma down-regulates expression of the 230-kDa bullous pemphigoid antigen gene (BPAG1) in epidermal keratinocytes via novel chimeric sequences of ISRE and GAS. *Exp Dermatol* 2006;15(4):308-314.(学位論文)
- A.2. Kondo N, Takeda H, Kaneko T, Aizu T, Moritsugu R, Kon A, Nakano H, Hanada K. A method for rapid evaluation of photoaging by measuring fluorescence intensity of green fluorescent protein due to elastin promoter activity. *J Dermatol Sci*, 2006;Suppl(2),31-37.
- A.3. Nakano H, Nakano A, Toyomaki Y, Ohashi S, Harada K, Moritsugu R, Takeda H, Kawada A, Mitsuhashi Y, Hanada K. Novel ferrochelatase mutations in Japanese patients with erythropoietic Protoporphyria: High frequency of the splice site modulator IVS3-48C polymorphism in the Japanese population. *J Invest Dermatol*, 2006;126:2717-2719.
- A.4. Nakano H, Ikenaga S, Aizu T, Kaneko T, Matsuzaki Y, Tsuchida S, Hanada K, Arima Y. Human metallothionein gene expression is upregulated by beta-thujaplicin: possible involvement of protein kinase C and reactive oxygen species. *Biol Pharm Bull* 2006;29:55-9.
- B.1. Nanashima N, Asano J, Hayakari M, Nakamura T, Nakano H, Yamada T, Shimizu T, Akita M, Fan Y, and Tsuchida S. Nuclear Localization of STAT5A Modified with O-Linked N-Acetylglucosamine and Early Involution in the Mammary Gland of Hirosaki Hairless RAT*. *Journal of Biological Chemistry* 2005;280(52):43010-43016.
- B.2. Iwata T, Nakano H, Nakano A, Toyomaki A, Katsuto Tamai, Tomita Y. Dominant dystrophic epidermolysis bullosa caused by a novel G2037R mutation and by a known G2028R mutation in the type VII collagen gene (COL7A1). *J Dermatol*, 2006;33(8):550-556.
- B.3. Jiang Q, Matsuzaki Y, Li K, Uitto J. Transcriptional regulation and characterization of the promoter region of the human ABCC6 gene. *J Invest Dermatol*, 2006;126:325-335.
- C.1. Tanimura S, Arita K, Iwao F, Kasai M, Fujita Y, Kawasaki H, Abe R, Sawamura D, Kimura T, Shimizu H. Two cases of folliculosebaceous cystic hamartoma the clinical and histopathologic differential points between folliculosebaceous cystic hamartoma and sebaceous trichofolliculoma. *Clin Exp Dermatol*, 2006;31:68-70.
- C.2. Yanagi T, Sawamura D, Nishie W, Abe M, Shibaki A, Shimizu H. Multiple apocrine hidrocystoma showing plane pigmented macules. *J Am Acad Dermatol*, 2006;54:S53-S54.
- C.3. Goto M, Sawamura D, Ito K, Abe M, Nishie W, Sakai K, Shibaki A, Akiyama M, Shimizu H. Fibroblasts show more potential target cells than keratinocytes for COL7A1 gene therapy of dystrophic epidermolysis bullosa. *J Invest Dermatol*, 2006;126:766-7772.
- C.4. Ota M, Sawamura D, Yokota Y, Ueda M, Horiguchi Y, Kodama K, Goto M, Shimizu H. A unique monoclonal antibody 29A staining the cytoplasm of amniotic epithelial in the placenta and cutaneous basement membrane zone. *J Dermatol Sci*, 2006;42:23-29.
- C.5. Onozuka T, Sawamura D, Goto M, Yokota K, Shimizu H. Possible role of endoplasmic reticulum stress in the pathogenesis of Darier's disease. *J Dermatol Sci*, 2006;41:217-220.
- C.6. Sawamura D, Sato-Matsumura K, Shibata S, Tashiro A, Frue M, Goto M, Akiyama M, Nakamura H, Shimizu H. COL7A1 mutation G2037E causes epidermal retention of type VII collagen. *J Hum Genet*, 2006;51:418-420.
- C.7. Sawamura D, Niizeki H, Miyagawa S, Shinkuma S, Shimizu H. A novel indel COL7A1 mutation 8068del17insGA causes dominant dystrophic epidermolysis bullosa. *Br J Dermatol*, 2006;154:995-997.
- C.8. Arita K, Akiyama M, Aizawa T, Umetsu Y, Segawa I, Goto M, Sawamura D, Demura M, Kawano K, Shimizu H. A Novel N14Y mutation in Connexin26 in keratitis-ichthyosis-deafness syndrome: analyses of altered gap junctional communication and molecular structure of N terminus of mutated Connexin26. *Am J Pathol*, 2006;169(2):416-423.
- C.9. Yasukawa K, Sawamura D, Jung Sung-Yong, Goto M, Nakamura H, Kim S-C, Shimizu H. Epidermolysis bullosa simplex in Oriental; genetic studies in 19 patients. *Br J Dermatol*, 2006;155:313-317.
- C.10. Ujiie H, Sawamura D, Shimizu H. Development of lichen planus and psoriasis on lesions of vitiligo vulgaris. *Clin Exp Dermatol*, 2006;31:375-377.
- C.11. Sawamura D, Mochitomi Y, Kanzaki T, Nakamura N, Shimizu H. Glycine substitution mutations of different amino acids at the same codon in COL7A1 cause different modes of dystrophic epidermolysis bullosa inheritance. *Br J Dermatol*, 2006;155:834-837.
- C.12. Nakamura H, Sawamura D, Goto M, Nakamura H, Kida M, Ariga T, Sakiyama Y, Tomizawa K, Mitsui M, Tamaki T, Shimizu H. Analysis of the COL7A1 in non-Herlitz junctional epidermolysis bullosa and amelogenesis imperfecta. *Int J Mol Med*, 2006;18:333-337.
- C.13. Goto M, Sawamura D, Nishie W, Sakai K, McMillan JR, Akiyama M, Shimizu H. Targeted skipping of a single exon harboring a premature termination codon mutation: Implications and potential for gene correction therapy for selective dystrophic epidermolysis bullosa patients. *J Invest Dermatol*, 2006;126:2614-2620.

- C.14. Yokota K, Yamanaka Y, Furuya K, Sawamura D. Hailey-Hailey disease associated with affective disorder. *J Dermatol Sci*, 2006;43(2):150-151.
- C.15. Akiyama M, Sakai K, Sugiyama-Nakagiri Y, Yamanaka Y, McMillan JR, Sawamura D, Niizeki H, Miyagawa S, Shimizu H. Compound heterozygous mutations including a de novo missense mutation in ABCA12 led to a case of harlequin ichthyosis with moderate clinical severity. *J Invest Dermatol*, 2006;126(7):1518-1523.
- C.16. Mayuzumi M, Akiyama M, Nishie W, Ukae S, Abe M, Sawamura D, Hashimoto T, Shimizu H. Childhood epidermolysis bullosa acquisita with autoantibodies against the noncollagenous 1 and 2 domains of type VII collagen: case report and review of the literature. *Br J Dermatol*, 2006;155(5):1048-1052.
- C.17. Akiyama M, Sakai K, Wolff G, Hausser I, McMillan J, Sawamura D, Shimizu H. A novel ABCA12 mutation 3270delT causes harlequin ichthyosis. *Br J Dermatol*, 2006;155(5):1064-1066.
- C.18. Nishizawa A, Nakanishi Y, Sasajima Y, Yamazaki N, Yamamoto A. Muir-torre syndrome with intriguing squamous lesions: a case report and review of the literature. *Am J Dermatopathol* 2006;28(1):56-9.

2007 年度

- A.1. Kitamura H, Matsuzaki Y, Kimura K, Nakano H, Imaizumi T, Satoh K, Hanada K. Cytokine modulation of retinoic acid-inducible gene-1 (RIG-1) expression in human epidermal keratinocytes. *J Dermatol Sci* 2007;45:127-134.
- A.2. Nakano H, Toyomaki Y, Ohashi S, Nakano A, Jin H, Munakata T, Akita N, Tamai K, Mitsuhashi Y. Novel COL7A1 mutations in a Japanese family with transient bullous dermolysis of the newborn associated with pseudosyndactyly. *Br J Dermatol* 2007;157(1):179-82.
- A.3. Nakajima K, Nakano H, Takiyoshi N, Rokunohe A, Ikenaga S, Aizu T, Kaneko T, Mitsuhashi Y, Sawamura D. Papillon-Lefèvre syndrome and malignant melanoma: a high incidence of melanoma development in Japanese palmoplantar keratoderma patients. *Dermatol* 2008;217(1):58-62.
- A.4. Murai T, Tamai K, Nakano H, Hanada K, Hashimoto I and Sawamura D. Novel COL7A1 mutations of Hallopeau-Siemens type recessive dystrophic epidermolysis bullosa. *Hirosaki Med J* 2007;59:15-22.
- A.5. Mayama M, Tamai K, Fukai K, Nakagawa T, Harada K, Nakano H, Hanada K, Hashimoto I and Sawamura D. Genotype and Phenotype Correlation of Dystrophic Epidermolysis Bullousa. *Hirosaki Med J* 2007;59:33-40.
- A.6. Harada K, Tamai K, Nakano H, Sasaki C, Hanada K, Hashimoto I and Sawamura D. Inhibitory Effect of TGF-β on Expression of 230kD Bullous Pemphigoid Antigen. *Hirosaki Med J* 2007;59:7-14.
- A.7. Umegaki N, Tamai K, Nakano H, Moritsugu R, Yamazaki T, Hanada K, Katayama I, Kaneda Y. Differential regulation of karyopherin alpha 2 expression by TGF-beta1 and IFN-gamma in normal human epidermal keratinocytes: evident contribution of KPNA2 for nuclear translocation of IRF-1. *J Invest Dermatol* 2007;127(6):1456-1464.
- A.8. Nishizawa A, Toyomaki Y, Nakano A, Takeuchi S, Matsuzaki Y, Takeda H, Kaneko T, Mitsuhashi Y, Nakano H. A novel H1 domain mutation in the keratin 2 gene in a Japanese family with ichthyosis bullosa of Siemens. *Br J Dermatol* 2007;156(5):1042-4.
- C.1. Yamane N, Sawamura D, Nishie W, Abe M, Kodama K, Adachi K, Nakamura H, Ishii N, Hashimoto T, Shimizu H. Anti-p200 pemphigoid in a 17-year-old girl successfully treated with systemic corticosteroid and dapsone. *Br J Dermatol* 2007;156(5):1075-8.
- C.2. Nishie W, Sawamura D, Goto M, Ito K, Shibaki A, McMillan JR, Sakai K, Nakamura H, Olasz E, Yancey KB, Akiyama M, Shimizu H. Humanization of autoantigen. *Nat Med* 2007;13(3):378-83.
- C.3. Sawamura D, Goto M, Sakai K, Nakamura H, McMillan JR, Akiyama M, Shirado O, Oyama N, Satoh M, Kaneko F, Takahashi T, Konno H, Shimizu H. Possible Involvement of Exon 31 Alternative Splicing in Phenotype and Severity of Epidermolysis Bullosa Caused by Mutations in PLEC1. *J Invest Dermatol* 2007;127(6):1537-40.
- C.4. Akiyama M, Sakai K, Arita K, Nomura Y, Ito K, Kodama K, McMillan JR, Kobayashi K, Sawamura D, Shimizu H. A Novel GJB2 Mutation p.Asn54His in a Patient with Palmoplantar Keratoderma, Sensorineural Hearing Loss and Knuckle Pads. *J Invest Dermatol* 2007;127(6):1540-3.
- C.5. Tsubota A, Akiyama M, Sakai K, Goto M, Nomura Y, Ando S, Abe M, Sawamura D, Shimizu H. Keratin 1 Gene Mutation Detected in Epidermal Nevus with Epidermolytic Hyperkeratosis. *J Invest Dermatol* 2007;127(6):1371-4.
- C.6. McMillan JR, Akiyama M, Tanaka M, Yamamoto S, Goto M, Abe R, Sawamura D, Shimomura M, Shimizu H. Small-Diameter Porous Poly (epsilon-Caprolactone) Films Enhance Adhesion and Growth of Human Cultured Epidermal Keratinocyte and Dermal Fibroblast Cells. *Tissue Eng* 2007;13(4):789-98.
- C.7. Yamanaka Y, Akiyama M, Sugiyama-Nakagiri Y, Sakai K, Goto M, McMillan JR, Ota M, Sawamura D, Shimizu H. Expression of the keratinocyte lipid transporter ABCA12 in developing and reconstituted human epidermis. *Am J Pathol* 2007;171:43-52.
- C.8. Motoda N, Akiyama M, Aoyagi S, Sawamura D, Shimizu H. Low-grade Myxofibrosarcoma Invaded into the Underlying Skeletal Muscle. *J Dermatol* 2007;34(8):561-4.
- C.9. Ota M, Nakazawa D, Sawamura D. Sarcoidosis manifesting as a periorbital purplish rash. *Am J Med* 2007;120(10):e3-4.
- C.10. Yamanaka Y, Akiyama M, Sugiyama-Nakagiri Y, Sakai K, Goto M, McMillan JR, Ota M, Sawamura D, Shimizu H. Expression of the keratinocyte lipid transporter ABCA12 in developing and reconstituted human epidermis. *Am J Pathol* 2007;171:43-52.
- C.11. Yamane N, Sawamura D, Nishie W, Abe M, Kodama K, Adachi K, Nakamura H, Ishii N, Hashimoto T, Shimizu H. Anti-p200 pemphigoid in a 17-year-old girl successfully treated with systemic corticosteroid and dapsone. *Br J Dermatol* 2007;156(5):1075-8.

- C.12. Yasukawa K, Sawamura D, Goto M, Nakamura H, Shimizu H. Histone deacetylase inhibitors preferentially augment transient transgene expression in human dermal fibroblasts. *Br J Dermatol* 2007;157:662-669.
- C.13. Hoshina D, Sawamura D, Nomura T, Tanimura S, Abe M, Onozuka T, Kodama K, Akiyama M, Shimizu H. Epidermolysis bullosa acquisita associated with psoriasis vulgaris. *Clin Exp Dermatol* 2007;32(5):516-8.
- C.14. Akiyama M, Sakai K, Sato T, McMillan JR, Goto M, Sawamura D, Shimizu H. Compound heterozygous ABCA12 mutations including a novel nonsense mutation underlie harlequin ichthyosis. *Dermatology* 2007;215(2):155-9.
- C.15. Natsuga K, Abe R, Ujiie H, Shibaki A, Sawamura D, Nishio M, Fujimoto K, Koike T, Shimizu H. Non-Hodgkin lymphoma preceded by recalcitrant eczema. *Eur J Haematol* 2007;79(4):369-70.
- C.16. Sakai K, Akiyama M, Sugiyama-Nakagiri Y, McMillan JR, Sawamura D, Shimizu H. Localization of ABCA12 from Golgi apparatus to lamellar granules in human upper epidermal keratinocytes. *Exp Dermatol* 2007;16:920-926.
- C.17. Natsuga K, Sawamura D, Homma E, Nomura T, Abe M, Muramatsu R, Mochizuki T, Koike T, Shimizu H. Amicrobial pustulosis associated with IgA nephropathy and Sjogren's syndrome. *J Am Acad Dermatol* 2007;57(3):523-6.
- C.18. Motoda N, Akiyama M, Aoyagi S, Sawamura D, Shimizu H. Low-grade myxofibrosarcoma invaded into the underlying skeletal muscle. *J Dermatol* 2007 Aug;34(8):561-4.
- C.19. Abe M, Sawamura D, Goto M, Nakamura H, Nagasaki A, Nomura Y, Kawasaki H, Isogai R, Shimizu H. ITGB4 missense mutation in a transmembrane domain causes non-lethal variant of junctional epidermolysis bullosa with pyloric atresia. *J Dermatol Sci* 2007;47(2):165-7.
- C.20. Makino T, Nagasaki A, Furuichi M, Matsui K, Watanabe H, Sawamura D, Shimizu H, Shimizu T. Novel mutation in a fumalate hydratase gene of a Japanese patient with multiple cutaneous and uterine leiomyomatosis. *J Dermatol Sci* 2007;48(2):151-3.
- C.21. Abiko Y, Saitoh M, Nishimura M, Yamazaki M, Sawamura D, Kaku T. Role of beta-defensins in oral epithelial health and disease. *Med Mol Morphol* 2007;40(4):179-184.
- C.22. Akiyama M, Sakai K, Ogawa M, McMillan JR, Sawamura D, Shimizu H. Novel duplication mutation in the patatin domain of adipose triglyceride lipase (PNPLA2) in neutral lipid storage disease with severe myopathy. *Muscle Nerve* 2007;36:856-859.

和文

2006年度

- A.1. 皆川智子, 金子高英, 武田仁志, 中野 創, 花田勝美, 山岸晋一郎, 八木橋操六, 板井恒二, 矢口 直, 船越 樹. Verrucous skin lesions on the feet in diabetic neuropathy の2例. *臨皮*, 2006;60(4):321-326.
- A.2. 中野 創. 骨髄性プロトポルフィリン症. *Visual Dermatology*, 2006;5(6):566-567.
- A.3. 武田仁志, 中野 創, 花田勝美. 腸性肢端皮膚炎. *Visual Dermatology*, 2006;5(6):570-572.
- A.4. 中野 創, 玉井克人. 栄養障害型先天性表皮水疱症. *Visual Dermatology* 2006;5(8):788-790.
- C.1. 高橋 聡 (国立がんセンター中央病院 皮膚科), 山本明史, 山崎直也, 吉野公二, 並川健二郎, 西澤 綾, 岩田浩明. 悪性黒色腫における色素法, RI 法併用による Sentinel node biopsy の有用性について. *日本皮膚科学会雑誌* 2006;116(2):179-184 (2006.02)

2007年度

- B.1. 永井弥生, 荻野幸子, 石川 治, 是枝 哲, 宮地良樹, 藤本晃英, 竹原和彦, 宮脇さおり, 橋本公二, 六戸亜希子, 花田勝美. アイビーセラー ME-01 の臨床効果および基礎的検討. *臨牀と研究* 2007;84(2):289-294.

(2) 総説

和文

2006年度

- A.1. 松崎康司, 花田勝美. 自家感作性皮膚炎. *Clinical Derma*. 2006;8(1):3-6.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 中野 創. 凍瘡. 皮膚疾患最新の治療2007-2008, 瀧川雅浩, 渡辺晋一編, 南江堂, 2006年, 102頁. (2006年12月25日発行)
- A.2. 金子高英. 各論2 (上肢) 右拇指 (MP 関節部) → 右腋窩. 手術に役立つリンパ流アトラス, 清原祥雄, 山崎直也編, 秀潤社, 東京, 2006年, 76-77頁.
- A.3. 金子高英. 各論5 (陰股部) 右大陰唇 ~ 小陰唇 → 右鼠径. 手術に役立つリンパ流アトラス, 清原祥雄, 山崎直也編, 秀潤社, 東京, 2006年, 150-151頁.
- A.4. 金子高英. 各論6-1 (下肢 [P 領域]) 右踵 → 右膝窩 ~ 右鼠径. 手術に役立つリンパ流アトラス, 清原祥雄, 山崎直也編, 秀潤社, 東京, 2006年, 178-179頁.

- C.1. 澤村大輔. 表皮水疱症の病態・治療に関する最新情報. 斎田俊明, 飯塚一編, 皮膚疾患の最新医療, 東京, 先端医療技術研究所, 2006;191-194 頁.
- C.2. 澤村大輔. 分子生物学的検査・遺伝子診断. 片山一郎, 土田哲也, 橋本 隆, 古江増隆, 渡辺晋一編, 皮膚科学, 東京, 文光堂, 2006;128-140 頁.
- C.3. 澤村大輔. 遺伝子治療はどこまで可能になったか. 宮地良樹編, What's new in 皮膚科学, 東京, メディカルレビュー社, 2006;160-161 頁.
- C.4. 澤村大輔. 表皮水疱症. 加藤直子, 清水 宏編, 皮膚科必携ポケットブック, 東京, 中外医学社, 2006;279-281 頁.

2007 年度

- A.1. 中野 創. 表皮水疱症. 今日の治療指針 2007 年版(ポケット版), 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編, 医学書院, 2007 年, 840-841 頁. (2007 年 1 月 1 日発行)
- A.2. 武田仁志. 老人性皮膚癢痒症. 市民のための老年病学, 水島 豊, 菅世智子編, 弘前大学出版会, 弘前, 2007 年, 79-81 頁
- A.3. 金子高英. 皮膚のがん. 市民のための老年病学, 水島 豊, 菅世智子編, 弘前大学出版会, 弘前, 2007 年, 155-157 頁
- B.1. 西江 渉, 澤村大輔, 清水 宏. 新しい水疱性類天疱瘡モデル. What's new in 皮膚科学 2008-2009 2007;28-29.

(4) その他

英文

2006 年度

- A.1. Kambe Y, Nakano H, Kaneko T, Aizu T, Ikenaga S, Harada K, Nakajima K, Moritsugu R, Hanada K. Giant pilomatricoma associated with hypercalcemia and elevated levels of parathyroid hormone-related protein. Br J Dermatol 2006;155:208-210.
- A.2. Ikenaga S, Nakano H, Umegaki N, Moritsugu R, Aizu T, Kuribayashi M, Hanada K. A case of bullous dermatitis artefacta possibly induced by a deodorant spray. J Dermatol 2006;33(1):40-42.
- C.1. Aya Nishizawa, Yukihiko Nakanishi, Yuko Sasajima, Naoya Yamazaki, Akifumi Yamamoto. Syringoid eccrine carcinoma with apparently aggressive transformation: case report and review of the literature. International Journal of Dermatology, 2006;45:1218-1221.

和文

2006 年度

- A.1. 佐藤可代, 棟方貴子, 秋田尚見, 柳谷文彦. トラニラストが有効であった顔面播種状粟粒性狼瘡の 1 例. 臨皮, 60(3):259-261. (2006 年 3 月発行)
- A.2. 大嶋英恵, 金子高英, 北村英夫, 神戸有希, 花田勝美. Mucinous carcinoma of the skin の 1 例. 臨皮, 2006;60(6):475-478. (2006 年 5 月発行)
- A.3. 大嶋英恵, 花田勝美, 大石祐子. トラニストが奏効した汎発性環状肉芽腫腫の 1 例. 臨皮, 2006;60(7):558-561.
- A.4. 大嶋英恵, 武田仁志, 花田勝美. Multicentric reticulohistiocytosis の 1 例. 臨皮, 2006;60(9):838-840.
- A.5. 六戸亜希子, 板井恒二, 原田 研, 花田勝美, 渡辺庸介. 乳癌手術 11 年後に出現した alopecia neoplastica の 1 例. 臨皮, 2006;60(10):951-954. (2006.9.1. 発行)
- A.6. 中島康爾, 池永五月, 金子高英, 中野 創, 花田勝美, 野村和夫. 子宮内膜症. Visual Dermatol, 2006;5(12):1208-1209.
- A.7. 六戸亜希子, 板井恒二, 六戸大樹, 武田仁志, 花田勝美. 表在型基底細胞癌に対する 5% イミキモドの使用経験. 臨皮, 2006;60(11):1068-1070. (2006.10.1. 発行)
- C.1. 渡邊晴二, 望月 隆, 柳原 誠, 石崎 宏, 青木良子, 向井弘圭, 澤村大輔. 食道拡張術により嚥下障害が改善した劣性栄養障害型表皮水疱症の 1 例. 皮膚臨床, 2006;48:525-529.
- C.2. 澤村大輔. リコンビナント VII 型コラーゲンに関する研究. 厚生労働省科学研究費難治性疾患対策研究事業 難治性重症型先天性表皮水疱症の画期的治療法の開発に関する研究. 平成 17 年度研究報告書, 2006;10-13.
- C.3. 秋山真志, 中桐頼子, 坂井香織, McMillan JR, 後藤真希, 澤村大輔, 清水 宏. ABCA12 遺伝子変異により道化師様魚鱗癬が発症する. 角化症研究会記録集, 2006;20:40-42.

2007 年度

- A.1. 皆川智子, 松崎康司, 武田仁志, 六戸大樹, 北村英夫, 中島康爾, 会津隆幸, 中野 創, 花田勝美, 野村和夫, 貝森光大. 下腹部に生じた広範囲な転移性皮膚癌の 2 例, 皮膚臨床, 2007;49(5)579-582. (2007 年 5 月発行)
- A.2. 澤村大輔. 遺伝性水疱症の最前線. 日皮会誌 2007;117(13):2102-2103.
- A.3. 中島康爾. 【マイナー科の疾患 ER でどこまで診るか】 よく見る疾患への対応 日焼け. ER マガジン 2007;4(3):401-402.
- A.4. 中島康爾, 池永五月, 金子高英, 中野 創, 花田勝美, 野村和夫. 【皮膚病変の裏に潜むもの】 実は皮膚病ではなかった 子宮内膜症. Visual Dermatology 2007;5(12):1208-1209.
- A.5. 金子高英. 【マイナー科の疾患 ER でどこまで診るか】 よく見る疾患への対応 蕁麻疹. ER マガジン 2007; 4(3):398-399.
- A.6. 金子高英. 糖尿病と皮膚疾患・創傷治療 Diabetic foot の臨床と課題 早期の皮膚病変を中心に. 糖尿病

合併症 2007;21(2):147-149.

A.7. 松崎康司. 【マイナー科の疾患 ER でどこまで診るか】 よく見る疾患への対応 虫さされ ER マガジン 2007;4(3):400-401.

B.1. 鈴木 圭, 皆川智子, 中島康爾, 会津隆幸, 野村和夫, 貝塚満明. 家族内溶連菌感染により膿痂疹, せつ腫症, 結節性紅斑, 急性糸球体腎炎を生じた4症例. 青森県立中央病院医誌 2007;52(4):191-194.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Invest Dermatol	4.535	2	9.07
Exp Dermatol	2.449	1	2.449
J Dermatol	0	2	0
J Dermatol Sci	2.636	1	2.636
Journal Of Biological Chemistry	5.808	1	5.808
Total		7	19.963

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Dermatol Sci	2.636	1	2.636
Br J Dermatol	3.334	2	6.668
Dermatol	1.854	1	1.854
J Invest Dermatol	4.535	1	4.535
Total		5	15.693

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨皮	1	
Visual Dermatology	3	
Clinical Derma	1	
臨床と研究		1
計	5	1

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	4	4

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Dermatol	3.334	1	3.334
Total		1	3.334

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨皮	6	
Visual Dermatology	1	1
皮膚臨床		1
日皮会誌		1
ER マガジン		3
糖尿病合併症		1
青森県立中央病院医誌		1
計	7	8

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Sato K, Akasaka E, Nakano H, Hanada K, Imokawa G. Endothelin-1 signalling triggers dual stimulatory actions of phosphorylation and production of mitf in human melanocytes leading to its potent melanogenic effects. 67th Annual Meeting of the SID. 2006/5/3-5/7. 米 Philadelphia
- C.2. Kitamura H, Matsuzaki Y, Kimura K, Nakano H, Imaizumi T, Satoh K, Hanada K. Cytokine modulation of retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) expression in human epidermal keratinocytes in vivo and in vitro. 67th Annual Meeting of the SID. 2006/5/3-5/7. 米 Philadelphia
- C.3. Akasaka E, Sato K, Nakano H, Hanada K, Imokawa. GROLE OF RKIP IN ENDOTHELIN-INDUCED ACTIVATION OF MAPK CASCADE IN NORMAL HUMAN MELANOCYTES. 67th Annual Meeting of the SID. 2006/5/3-5/7. 米 Philadelphia

2007年度

- B.1. Akasaka E, Sato-Jin K, Kaneko T, Nakano H, Munakata T, Sawamura D. A case of indurative and elevated erythma on the face of 14-year old girl. 6th Professor Mihm's dermatopathology in Morioka, Japan. 2007/8/4
- C.1. Jin K, Nishimura E.K, Akasaka E, Nakano H, Hanada K, Sawamura D, David E. Fisher3, Genji Imokawa. Biphasic signalings leading to mitf protein expression in endothelin-1 stimulated human melanocytes. 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology. Los Angeles, California, U.S.A. 2007/5/9-12
- C.2. Kimura K, Matsuzaki Y, Kitamura H, Nakano H, Imaizumi T, Satoh K, Hanada K, Sawamura D. Effect of ultraviolet B irradiation and viral infection on retinoic acid-inducible gene-I expression. 2007 European Society for Dermatological Research. Zurich, 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 金子高英. Diabetic foot の臨床と課題. 第21回日本糖尿病合併症学会. 2006/10/6-7. 弘前市.
- B.2. 皆川智子, 武田仁志, 金子高英, 中野 創, 花田勝美(弘前大), 山岸晋一郎, 八木橋操六(同1病理), 矢口 直(むつ総合皮膚科), 船越 樹(大間病院内科). Verrucous skin lesions on the feet in diabetic neuropathy (VSLDN) の2例. 第21回日本糖尿病合併症学会. 2006/10/6-7. 弘前市.
- C. 6件

2007年度

- B. 澤村大輔. 遺伝性水疱症の最前線. 第106回日本皮膚科学会総会. 2007/4/20-22. 横浜市.
- C. 7件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

科学研究費補助金，萌芽研究，スキンケアロボットの開発，花田勝美，500千円

2007年度

研究代表者として

1. 科学研究費補助金（特定領域研究）

熱傷における温度セルセンサーを介する表皮細胞の冷却機構.

代表：澤村大輔，分担：中野 創，松崎康司

2. 科学研究費補助金（若手 B）

音響力学による新しい皮膚癌治療法の開発

代表：松崎康司 1,000千円

3. 科学研究費補助金（基盤研究 B）（一般）

水疱性類天疱瘡における自己抗体病原性の直接証明とエピトープデコイ療法の開発

代表：澤村大輔 8,500千円

他研究単位との研究分担者として

1. 科学研究費補助金（特定領域研究）

熱傷における温度セルセンサーを介する表皮細胞の冷却機構.

代表：澤村大輔，分担：中野 創，松崎康司

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006年度

花田勝美，第70回日本皮膚科学会東部支部学術大会，2006年10月14日から10月15日

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

花田勝美. 第116回弘前大学皮膚科集談会. 2006年5月14日.

花田勝美. 日本皮膚科学会青森地方会第334回例会. 2006年6月11日. 弘前市

花田勝美. 日本皮膚科学会青森地方会第335回例会. 2006年9月10日.

花田勝美. 日本皮膚科学会青森地方会代336回例会. 2006年12月10日. 青森市

2007年度

澤村大輔. 日本皮膚科学会青森地方会第339回例会, 2007年2月9日, 弘前市

会津隆幸 (事務局長). 日本皮膚科学会青森地方会第338回例会, 2007年6月17日, 弘前市

会津隆幸 (事務局長). 日本皮膚科学会青森地方会第339回例会, 2007年9月2日, 弘前市

会津隆幸 (事務局長). 日本皮膚科学会青森地方会第340回例会, 2007年12月9日, 八戸市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

22. 泌尿器科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

ほぼ100%達成した。

理念：

糖鎖と癌の研究を論文にする。

これから2年間の目標：

特許申請と英文論文（10編）を出す。インパクトファクター 20以上の雑誌を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 2, 助手 5, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	大山 力	1 年
	講 師	専 任	大和 隆	1 年
	講 師	専 任	古家 琢也	1 年
	助 手	専 任	米山 高弘	1 年
	助 手	専 任	萩沢 茂	1 年
	助 手	専 任	岩渕 郁哉	6 ヶ月 (10月～)
	助 手	専 任	今井 篤	1 年
	助 手	専 任	盛 和行	1 年
	助 手	専 任	畠山 真吾	6 ヶ月 (留学中9/25～)
研究課題	1. 前立腺癌の予後因子の研究 2. 癌転移における糖鎖の役割 3. 尿路感染症における糖鎖を介した自然免疫系の意義 4. 血液型不適合移植における血液型糖鎖抗原に関する研究 5. 膀胱癌の予後因子の研究 6. 尿路変向術 7. BCG 菌体成分の抗腫瘍効果の検討 8. BCG の作用機序の解明			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 0, 講師 3, 助教 4, 助手 0, 医員 2, 大学院学生 3, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	大山 力	1 年
	講 師	専 任	神村 典孝	1 年
	講 師	専 任	大和 隆	3 ヶ月 (～6月)
	講 師	専 任	古家 琢也	1 年
	助 教	専 任	米山 高弘	1 年
	助 教	専 任	萩沢 茂	3 ヶ月 (～6月)
	助 教	専 任	橋本 安弘	9 ヶ月 (7月～)
	助 教	専 任	今井 篤	1 年
	助 教	専 任	岡本亜希子	9 ヶ月 (7月～)
	助 教	専 任	盛 和行	1 年
	助 教	専 任	畠山 真吾	1 年：休職中 (留学)
研究課題	1. 前立腺癌の予後因子の研究 2. 癌転移における糖鎖の役割 3. 尿路感染症における糖鎖を介した自然免疫系の意義 4. 血液型不適合移植における血液型糖鎖抗原に関する研究 5. 膀胱癌の予後因子の研究			

研究課題	6. 尿路変向術 7. BCG 菌体成分の抗腫瘍効果の検討 8. BCG の作用機序の解明

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006 年度

- A.1. Hirofumi ISHIMURA, Toshiko TAKAHASHI, Hiroaki NAKAGAWA, Shin-Ichiro NISHIMURA, Yoichi ARAI, Yohei HORIKAWA, Tomonori HABUCHI, Eiji MIYOSHI, Atsushi KYAN, Shigeru HAGISAWA, Chikara OHYAMA. N-acetylglucosaminyltransferase-V and β 1, 6 branching N-linked oligosaccharides are associated with good prognosis of patients with bladder cancer. *Clinical Cancer Research* 2006;12:2506-11.
- A.2. Tadaatsu IMAIZUMI, Hiroshi SASHINAMI, Fumiaki MORI, Tomoh MATSUMIYA, Hidemi YOSHIDA, Akio NAKANE, Koichi WAKABAYASHI, Chikara OHYAMA, Kei SATOH. *Listeria monocytogenes* Induces the Expression of Retinoic Acid-Inducible Gene-1. *Microbiol. Immunol.* 2006;50:811-5.
- A.3. Takuya KOIE, Shingo HATAKEYAMA, Takahiro YONEYAMA, Hirofumi ISHIMURA, Takashi YAMATO, Chikara OHYAMA. Experience and functional outcome of modified ileal neobladder in 95 patients. *International Journal of UROLOGY* 2006;13:1175-9.
- A.4. Hoshi S, Yamaguchi O, Fujioka T, Arai Y, Tomita Y, Habuchi T, Ohyama C, Suzuki T, Orikasa S. The Tohoku Prostate Cancer Study Group-A randomized comparative study of endocrine monotherapy and a combination of estramustine phosphate with the endocrine therapy in patients with untreated stage D prostate cancer. *Int J Clin Oncol.* 2006;11:303-8.
- A.5. Takahashi T, Hagsawa S, Yoshikawa K, Tezuka F, Kaku M, Ohyama C. Predictive value of N-acetylglucosaminyltransferase-V for superficial bladder cancer recurrence. *J Urol.* 2006;175:90-3;Discussion93.

2007 年度

- A.1. Imaizumi T, Yoshida H, Nishi N, Sashinami H, Nakamura T, Hirashima M, Ohyama C, Itoh K, Satoh K. Double-stranded RNA induces galectin-9 in vascular endothelial cells: involvement of TLR3, PI3K, and IRF3 pathway. *Glycobiology.* 2007 Jul;17(7):12C-5C.
- A.2. de Jong J, Stoop H, Gillis AJ, van Gurp RJ, van Drunen E, Beverloo HB, Lau YF, Schneider DT, Sherlock JK, Baeten J, Hatakeyama S, Ohyama C, Oosterhuis JW, Looijenga LH. JKT-1 is not a human seminoma cell line. *Int J Androl.* 2007 Aug;30(4):350-65.
- A.3. Harada O, Suga T, Suzuki T, Nakamoto K, Kobayashi M, Nomiyama T, Nadano D, Ohyama C, Fukuda MN, Nakayama J. The role of trophinin, an adhesion molecule unique to human trophoblasts, in progression of colorectal cancer. *Int J Cancer.* 2007 Sep 1;121(5):1072-8.
- A.4. Li Y, Tabatabai ZL, Lee TL, Hatakeyama S, Ohyama C, Chan WY, Looijenga LH, Lau YF. The Y-encoded TSPY protein: a significant marker potentially plays a role in the pathogenesis of testicular germ cell tumors. *Hum Pathol.* 2007 Oct;38(10):1470-81.
- A.5. Kazuyuki MORI, Kazuaki YOSHIKAWA, Hideki SAITOH, Seiji KUDOH, Akiko OKAMOTO, Atsushi IMAI, Hirofumi ISHIMURA, Shingo HATAKEYAMA, Shigeru HAGISAWA, Ikuya IWABUCHI, Takahiro YONEYAMA, Takuya KOIE, Takashi YAMATO, Hidehiro YOKOMIZU, Takashi NAKA, Ikuya YANO, Chikara OHYAMA. Anti-tumor effect of nano-particulated bacillus calmette-guerin (BCG) cell wall complex on bladder cancer cell line. *Hiroaki Med J.* 2007 Dec;59(Suppl.):S162-6.
- A.6. Tajiri M, Ohyama C, Wada Y. Oligosaccharide profiles of the prostate specific antigen in free and complexed forms from the prostate cancer patient serum and in seminal plasma: a glycopeptide approach. *Glycobiology.* 2008 Jan;18(1):2-8.
- A.7. Kyan A, Kamimura N, Hagsawa S, Hatakeyama S, Koie T, Yoneyama T, Arai Y, Nakagawa H, Nishimura S, Miyoshi E, Hashimoto Y, Ohyama C. Positive expressions of N-acetylglucosaminyltransferase-V (GnT-V) and beta1-6 branching N-linked oligosaccharides in human testicular germ cells diminish during malignant transformation and progression. *Int J Oncol.* 2008 Jan;32(1):129-34.
- A.8. Tsushima M, Terayama Y, Momose A, Funyu T, Ohyama C, Hada R. Carotid intima media thickness and aortic calcification index closely relate to cerebro- and cardiovascular disorders in hemodialysis patients. *Int J Urol.* 2008 Jan;15(1):48-51.
- A.9. Yoneyama T, Ohyama C, Imai A, Ishimura H, Hagsawa S, Iwabuchi I, Mori K, Kamimura N, Koie T, Yamato T, Suzuki T. Low-Dose Instillation Therapy with Bacille Calmette-Guérin Tokyo 172 Strain After Transurethral Resection: Historical Cohort Study. *Urology.* 2008 Feb 14.
- A.10. Koie T, Yoneyama T, Kamimura N, Imai A, Okamoto A, Ohyama C. Frequency of postoperative inguinal hernia after endoscope-assisted mini-laparotomy and conventional retropubic radical prostatectomies. *Int J Urol.* 2008 Mar;15(3):226-9.

和文

2007年度

- A.1. 對馬 惠, 寺山百合子, 蔦谷知加子, 百瀬昭志, 舟生富寿, 大山 力, 羽田隆吉. 血液透析患者における内臓脂肪面積とアヂポサイトカインとの関連 ―高分子量アディポネクチン-レプチン比の有用性について―. 日本透析医学会雑誌 2007;40(7):595-602.
- A.2. 吉川和暁, 盛 和行, 工藤誠治, 劉 星星, 米山高弘, 橋本安弘, 古家琢也, 神村典孝, 高橋信好, 鈴木唯司, 大山 力. 膀胱癌細胞に抗腫瘍効果を発揮する *Bacillus Calmette-Guerin* (BCG) 菌体成分の探索. 弘前医学 2007;59:41-8.
- A.3. 大和 隆, 岡本亜希子, 今井 篤, 石村大史, 畠山真吾, 萩沢 茂, 岩渕郁哉, 米山高弘, 盛 和行, 古家琢也, 大山 力. 筋層浸潤膀胱癌に対する術前化学療法として Gemcitabine + Carboplatin 療法の短期治療成績. 癌と化学療法 2008;35(1):83-6.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 大山 力. I. 老年病を理解する ―排尿障害―. 市民のための老年病学―健やかな老後をあなたに―. 弘前大学出版会; 平成19年1月29日. 75-8.
- A.2. 米山高弘. II. がん闘う ―膀胱がん―. 市民のための老年病学―健やかな老後をあなたに―. 弘前大学出版会; 平成19年1月29日. 75-8.
- A.3. 古家琢也. II. がん闘う ―前立腺がん―. 市民のための老年病学―健やかな老後をあなたに―. 弘前大学出版会; 平成19年1月29日. 75-8.

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- C.1. 橋本安弘, 古家琢也. 超音波診断法 (前立腺) 前立腺を経腹壁的に超音波で診断する際のコツと基本的読影法について教えてください. 臨床泌尿器科 2006;60(増刊号):274-6.
- C.2. 橋本安弘, 古家琢也. 超音波診断法 (前立腺) 前立腺を経腹壁的に超音波で診断する際のコツと基本的読影法について教えてください. 臨床泌尿器科 2006;60(増刊号):277-80.
- C.3. 大山 力. 排尿障害に関する新しい概念 ―下部尿路機能障害と過活動膀胱―. 弘前医師会報 2006;41:23-4.
- C.4. 大山 力. 泌尿器科学と糖鎖生物学. 泌尿器外科 2006;19(臨時):323-7.
- C.5. 古家琢也. 膀胱全摘除術, 自排尿型代用膀胱形成術. 泌尿器ケア 2006;11:38-43.
- C.6. 古家琢也, 米山高弘, 大和 隆, 神村典孝, 大山 力. 当科におけるミニマム創内視鏡下根治的前立腺全摘除術 ―手術手技と治療成績―. 泌尿器外科 2006;19:815-8.
- C.7. 大山 力, 大和 隆, 古家琢也, 米山高弘, 神村典孝. 「ミニマム創内視鏡下手術」ミニマム創内視鏡下前立腺全摘除術の実際. *Urology View* 2006;4:73-9.
- C.8. 大山 力. 膀胱頸室, 膀胱瘤. 今日の治療指針 2007;49:797-8.

2007年度

- C.1. 大山 力, 米山高弘, 神村典孝, 大和 隆, 古家琢也, 萩沢 茂, 岩渕郁哉, 盛 和行. 尿路として利用された腸管の発癌性について. *Urology View* 2007;5(3):86-91.
- C.2. 大和 隆, 米山高弘, 岡本亜希子, 大山 力. 泌尿器科処置「腎盂内注入」. 臨床泌尿器科 2007;4(増刊):44-5.
- C.3. 大和 隆, 今井 篤, 石村大史, 大山 力. 泌尿器科処置「カテーテル留置 (尿道留置)」. 臨床泌尿器科 2007;4(増刊):46-8.
- C.4. 大和 隆, 萩沢 茂, 岩渕郁哉, 古家琢也. 泌尿器科処置「カテーテル留置 (尿道留置)」. 臨床泌尿器科 2007;4(増刊):50-1.
- C.5. 古家琢也. 膀胱全摘除術, 自排尿型代用膀胱形成術. 泌尿器科ケア 2007;11(7):698-703.
- C.6. 松本一仁, 橋本安弘, 小林大樹, 三国恒靖, 方山揚誠, 水上浩哉. 腎オンコサイトーマの診断における組織化学の有用性. 弘前病院紀要 2007;1(1):13-9.
- C.7. 中路重之, 今井 篤, 大山 力. 前立腺がん・精巣腫瘍. 臨床腫瘍ブракテイス 2007;3(3):237-45.
- C.8. 米山高弘, 岡本亜希子, 今井 篤, 石村大史, 萩沢 茂, 岩渕郁哉, 古家琢也, 大和 隆, 大山 力. 膀胱拡大術後40年目に発生した回腸膀胱部腺癌の1例. 泌尿器紀要 2007;53(8):589-91.

- C.9. 古家琢也, 岡本亜希子, 橋本安弘, 神村典孝. 「新しい手術器械の応用」自動吻合器, 自動縫合器. 臨床泌尿器科 2007;61(10):819-22.
- C.10. 大山 力, 大和 隆, 米山高弘, 古家琢也, 盛 和行. 「腹腔鏡下手術時代における開放手術」被膜下前立腺摘除術. 臨床泌尿器科 2007;61(11):883-8.
- C.11. 米山高弘, 山本勇人, 岡本亜希子, 今井 篤, 盛 和行, 橋本安弘, 古家琢也, 神村典孝, 大山 力. 大動脈合併切除を行った Growing teratoma syndrome の1例. 腎移植・血管外科 2007;19:77-80.
- C.12. 石村大史, 岡本亜希子, 今井 篤, 岩瀬郁哉, 米山高弘, 古家琢也, 大和 隆, 神村典孝, 成田 知, 大山 力. 非触知精巣に対する腹腔鏡検査で発見されたミュラー管遺残症の1例. 泌尿器科紀要 2008;54:35-7.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clinical Cancer Research	6.177	1	6.177
International Journal of UROLOGY	0.691	1	0.691
Microbiol. Immunol	1.502	1	1.502
Int J Clin Oncol	0	1	0
J Urol	3.956	1	3.956
Total		5	12.326

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Glycobiology	3.668	2	7.336
Int J Cancer	4.693	1	4.693
Int J Oncol	2.556	1	2.556
Int J Urol	0.691	2	1.382
Urology	2.13	1	2.13
Hum Pathol	2.81	1	2.81
Total		8	20.907

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
な し		
計		

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	3	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨床泌尿器科	3	5
泌尿器外科	2	
泌尿器ケア	1	1
Urology View	1	1
今日の治療指針	1	
弘前医師会報	1	
弘前病院紀要		1
日本透析医学会雑誌		1
臨床腫瘍プラクティス		1
泌尿器紀要		2
弘前医学		1

腎移植・血管外科 癌と化学療法		1 1
計	9	15

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Shingo HATAKEYAMA, Hirofumi ISHIMURA, Akiko OKAMOTO, Atsushi IMAI, Shigeru HAGISAWA, Takahiro YONEYAMA, Takuya KOIE, Takashi YAMATO, Tomonori HABUCHI, Yoichi ARAI, Minoru FUKUDA, Chikara OHYAMA: Carbohydrate structure of prostate-specific and its distinct affinity to Maackia amurensis lectin between cancer and non-cancer source. Annual Conference of The Society for Glycobiology 2006.11.15-18. California, Sheraton Universal Hotel
- C.2. Singo HATAKEYAMA, Hirofumi ISHIMURA, Toshiko TAKAHASHI, Hiroaki NAKAGAWA, Shin-Ichiro NISHIMURA, Yohei HORIKAWA, Eiji MIYOSHI, Atsushi KYAN, Shigeru HAGISAWA, Tomonori HABUCHI, Yoichi ARAI, Chikara OHYAMA: GnT-V expression correlates with patient survival in bladder. Annual Conference of The Society for Glycobiology 2006.11.15-18. California, Sheraton Universal Hotel
- C.3. Kazuyuki MORI, Akiko OKAMOTO, Atsushi IMAI, Hirofumi ISHIMURA, Shingo HATAKEYAMA, Shigeru HAGISAWA, Takahiro YONEYAMA, Takuya KOIE, Takashi YAMATO, Hidehiro YOKOMIZU, Takashi NAKA, Ikuya YANO, Chikara OHYAMA: Anti-tumor effect of nano-particulated bacillus calmette-guerin (BCG) cell wall complex on bladder cancer cell line. The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science 2006.11.21-22. HIROSAKI

2007年度

- C.1. Mori Kazuyuki, Kamimura Noritaka, Yamato Takashi, Koie Takuya, Yoneyama Takahiro, Iwabuchi Ikuya, Hagisawa Shigeru, Hatakeyama Shingo, Ishimura Hirofumi, Imai Atsushi, Okamoto Akiko, Yokomizo Hidehiro, Naka Takashi, Yano Ikuya, Ohyama Chikara: Anti-tumoe effect nano-particulated Bacillus Calmette-Guerin (BCG) complex on bladder cancer cell line. 第102回米国泌尿器科学会 平成19年5月19-24日, アナハイム
- C.2. Inoue Takamitsu, Ohyama Chikara, Hatakeyama Shingo, Tsuchiya Norihiko, Habuchi Tomonori: Natural Killer T Cell Ligand alpha-Galactosylceramide Inhibits Tumor Growth of Murine Renal Cell Carcinoma. 第102回米国泌尿器科学会 平成19年5月19-24日, アナハイム
- C.3. Hatakeyama Shingo, Suk-Mann Wong, Hiroto Kawashima, Jianing Zhang, Jun Nakayama, Minoru Fukuda, Michiko N. Fukuda: Identification of novel novel carbohydrate binding endothelial receptors by a carbohydrate-mimicking peptide. Society Glycobiology. 平成19年11月11-14日, ボストン

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 大山 力：排尿障害事始め。第84回青森県病院薬剤師会弘前地区研修会 平成18年5月18日, 弘前市
- A.2. 大山 力：進行性腎癌の治療戦略。学術講演会 平成18年6月2日, 金沢市
- A.3. 大山 力：前立腺癌の糖鎖バイオマーカー。第5回奈良前立腺研究会 平成18年6月16日, 大阪市
- A.4. 大山 力：膀胱癌の悪性度を反映する糖鎖性バイオマーカー。第15回日本泌尿器科予防医学研究会 平成18年7月7日, 京都市
- A.5. 大山 力：前立腺肥大症と前立腺癌 ～外科的治療の進歩～。学術講演会 平成18年9月21日, 仙台市
- A.6. 大山 力：Surgeon-Scientistとして前立腺癌に挑む ～糖鎖バイオマーカーと低侵襲手術～。第10回信州泌尿器科腫瘍研究会 平成18年11月11日, 松本市
- A.7. 大山 力：泌尿器科領域のトピックス ～排尿障害と前立癌～。日本医師会生涯教育講座 平成19年1月19日, 八戸市
- A.8. 大山 力：膀胱癌診療の諸問題と私たちのアプローチ。第80回日本泌尿器科学会四国地方会 平成19年1月27日, 徳島市
- A.9. 大山 力：Urology meets Glycobiology. 第11回北陸泌尿器科 平成19年2月10日, 金沢市
- A.10. 大山 力：進行性腎癌の治療戦略。腎癌治療セミナー 平成19年2月22日, 岐阜市
- A.11. 大山 力：膀胱癌検診の問題点を考える。第64回日本泌尿器科学会山梨地方会 平成19年3月10日, 甲府市
- C. 16件

2007年度

- A.1. 大山 力：膀胱癌診療の問題点と私たちのアプローチ。第8回愛宕泌尿器科医会, 平成19年4月5日 東京慈恵会医科大学
- A.2. 大山 力：前立腺肥大症と前立腺癌：外科的治療の進歩。ユリフ発売1周年記念学術講演会, 平成19年4月20日 ホテル函館ロイヤル
- A.3. 大山 力：骨盤外科としての弘大泌尿器科の現況。東三河泌尿器科懇話会, 平成19年6月9日 豊橋市

- A.4. 盛 和行：膀胱癌細胞株に対する BCG の直接効果. 第3回尿路上皮癌勉強会, 平成19年7月13日 東京
- A.5. 大山 力：膀胱癌診療の問題点と私たちのアプローチ. 第26回神戸 UG カンファランス, 平成19年9月14日 神戸市
- A.6. 大山 力：膀胱癌の問題点とその対策. 第361回秋の宮 C.C., 平成19年9月20日 湯沢市
- A.7. 古家琢也：弘前大学における回腸新膀胱造設術の手術成績～だれにでも作成可能な手術手技の確立を目指して. 第8回山梨泌尿器科手術手技研究会, 平成19年9月20日 山梨
- A.8. 大山 力：膀胱癌診療の問題点と対策. 第27回阪神泌尿器科医会, 平成19年10月11日 西宮市
- A.9. 盛 和行：BCG 基礎研究. 膀胱癌エキスパートミーティング, 平成19年11月2日 つくば市
- A.10. 橋本安弘：一般泌尿器科について. 白生会胃腸病院「院内勉強会」, 平成19年11月14日 五所川原市
- A.11. 大山 力：泌尿器科入門 ― LUTS から低侵襲手術まで―. あおもり排尿障害セミナー, 平成19年11月15日 青森市
- A.12. 大山 力：膀胱癌；日常診療の諸問題と対策. 第2回鹿児島泌尿器疾患研究会, 平成19年11月16日 鹿児島市
- A.13. 大山 力：「夜間頻尿」と「慢性前立腺炎」の処方箋. 第2回仙台泌尿器科疾患フォーラム 平成19年11月23日 仙台市
- A.14. 古家琢也：ミニマム創前立腺全摘除術～当科における手術法と工夫について～. 第7回愛媛泌尿器鏡視下手術手技研究会 平成19年11月23日 松山市
- A.15. 古家琢也：弘前大学泌尿器科前立腺癌診療指針. Astra Zeneca 泌尿器科セミナー 平成19年11月30日 青森市
- A.16. 大山 力：「細胞解析の昨今」私の FACS 解析. BD バイオフォーラム in 弘前大学 平成19年12月4日 弘前市
- A.17. 大山 力：前立腺癌の基礎と臨床 ―バイオマーカーから低侵襲手術まで―. 第55回東北腎泌尿器科疾患研究会, 平成20年2月14日 福島市
- A.18. 神村典孝：脳卒中と排尿障害. 排尿障害セミナー in 碓ヶ関, 平成20年2月18日 碓ヶ関
- B.1. 米山高弘：「ランチョンミニシンポジウム」腎細胞癌の臨床的予後因子と臨床経過 ～興味ある症例を通して～. 第236回日本泌尿器科学会東北地方会, 平成19年4月28日 山形市
- B.2. 米山高弘：「ランチョンミニシンポジウム」診療科の枠組を超えた腎移植ユニットの構築. 第237回日本泌尿器科学会東北地方会, 平成19年9月22日 青森市
- C. 51件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

- ・ 米山高弘, 今井 篤, 石村大史, 畠山真吾, 古家琢也, 大和 隆, 大山 力：腹腔鏡下腎・副腎摘除術におけるポート位置の工夫（オリンパス賞受賞）. 第20回日本 Endourology・ESWL 学会 平成18年10月4-7日, 大阪市
- ・ 萩沢 茂, 岡本亜希子, 今井 篤, 石村大史, 畠山真吾, 盛 和行, 米山高弘, 古家琢也, 大和 隆, 大山 力：前立腺癌の新規バイオマーカー（iPos 賞受賞）. 第44回日本癌治療学会総会 平成18年10月18-20日, 大阪市
- ・ 米山高弘, 古家琢也, 他：診療科の枠組を超えた「腎移植ユニット」の構築. 平成18年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞 ―診療技術賞―

Ⅳ. 共同研究

2006年度

- ・ 新潟大学医学部泌尿器科学講座
「ABO 不適合腎移植における糖鎖抗原の研究」 代表者：高橋公太
- ・ 北海道大学大学院理学研究科
「泌尿器癌における N-glycan の構造解析」 代表者：大山 力
- ・ The Burnham Institute
「膀胱癌における C2GnT の研究」 代表者：大山 力
- ・ The Burnham Institute
「精子運動能促進因子の研究」 代表者：大山 力
- ・ UCSF カリフォルニア大学サンフランシスコ校
「精巢癌細胞 JKT-1 の分化に関する研究」 代表者：大山 力
- ・ 東北大学医学部泌尿器科学講座
「前立腺癌の再発因子に関する検討」 代表者：荒井陽一
- ・ 札幌医科大学泌尿器科学講座
「慢性前立腺癌治療法に関する臨床研究」 代表者：塚本泰司
- ・ 生化学工業
「前立腺癌のバイオマーカー：C2GnT」 代表者：大山 力
- ・ 大阪母子医療センター研究所
「前立腺特異抗原の糖鎖に関する研究」 代表者：大山 力

- ・ 大阪大学医学部生化学講座
「泌尿器癌における GnT-V 発現に関する研究」 代表者：大山 力
- ・ 滋賀医科大学泌尿器科
「前立腺特異抗原のプロテオミクス研究」 代表者：大山 力
- ・ 神戸薬科大学
「前立腺癌の尿中プロテオグリカンの研究」 代表者：大山 力

2007 年度

- ・ 新潟大学医学部泌尿器科学講座
「ABO 不適合辞腎移植における糖鎖抗原の研究」 代表者：高橋公太
- ・ 北海道大学大学院理学研究科
「泌尿器癌における N-glycan の構造解析」 代表者：大山 力
- ・ The Burnham Institute
「膀胱癌における C2GnT の研究」 代表者：大山 力
- ・ The Burnham Institute
「精子運動能促進因子の研究」 代表者：大山 力
- ・ UCSF カリフォルニア大学サンフランシスコ校
「精巢癌細胞 JKT-1 の分化に関する研究」 代表者：大山 力
- ・ 東北大学医学部泌尿器科学講座
「前立腺癌の再発因子に関する検討」 代表者：荒井陽一
- ・ 札幌医科大学泌尿器科学講座
「慢性前立腺癌治療法に関する臨床研究」 代表者：塚本泰司
- ・ 生化学工業
「前立腺癌のバイオマーカー：C2GnT」 代表者：大山 力
- ・ 大阪母子医療センター研究所
「前立腺特異抗原の糖鎖に関する研究」 代表者：大山 力
- ・ 大阪大学医学部生化学講座
「泌尿器癌における GnT-V 発現に関する研究」 代表者：大山 力
- ・ 滋賀医科大学泌尿器科
「前立腺特異抗原のプロテオミクス研究」 代表者：大山 力
- ・ 神戸薬科大学
「前立腺癌の尿中プロテオグリカンの研究」 代表者：大山 力

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006 年度

研究代表者として

- ・ 大山 力：基盤研究 (B) (2) 2,600 千円
「前立腺特異抗原 (PSA) の糖鎖構造に関する研究」
- ・ 大山 力：萌芽研究 900 千円
「精子運動能を改善する合成ペプチドの同定とその機序解明」
- ・ 萩沢 茂：基盤研究 (C) 1,100 千円
「糖鎖性バイオマーカー C2GnT を用いた前立腺癌の pT・PSA 再発予測」

2007 年度

研究代表者として

- ・ 大山 力：萌芽研究 (H18 ～ 20 年) 1,000 千円
「精子運動能を改善する合成ペプチドの同定とその機序解明」

(2) その他の省庁からの研究費

2006 年度

研究代表者として

- ・ 大山 力：独立法人 科学技術振興機構 (CREST) 900 万円
「糖鎖生合成の動態理解と前立腺癌コントロールへの応用」

2007年度

研究代表者として

- ・大山 力：独立法人 科学技術振興機構（CREST・戦略） 850万円
「糖鎖生成の動態理解と前立腺癌コントロールへの応用」
（代表：阪大 木下タロウ）
- ・大山 力：独立法人 科学技術振興機構（CREST・先端） 300万円
「疾患早期診断のための糖鎖自動分析装置開発」
（代表：北大 西村紳一郎）

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

- ・大山 力：北東北国立3大学連携推進プロジェクト 25千円
「ゲノムと蛋白の双方向アプローチによる前立腺癌の分子マーカーと予防標的分子の探索」
- ・大山 力：弘前大学学長指定重点研究 3,000千円
「ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」

(4) 民間の研究助成

2007年度

研究代表者として

- ・大山 力：公益信託あおもり高度先進医療基金助成金 285万円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

2006年度

- ・大山 力，今井 篤 The Burnham Institute Cancer Center（米国）
（5月20日～26日）

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

2006年度

- ・畠山真吾 The Burnham Institute Cancer Center（米国）
平成18年9月25日～2カ年の予定

2007年度

- ・畠山真吾 The Burnham Institute Cancer Center（米国）
平成18年9月25日～2カ年の予定

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

- ・ 第24回青森県泌尿器科研究会 平成18年6月10日, 青森市
- ・ 第5回青森県 STD 研究会 平成18年10月28日, 青森市
- ・ 第25回青森県泌尿器科研究会 平成18年11月18日, 弘前市
- ・ 第62回腎懇話会 平成18年11月27日, 弘前市
- ・ 第11回青森県前立腺癌研究会 平成19年3月3日, 弘前市

2007年度

- ・ OAB 治療セミナー 平成19年6月5日 青森市
- ・ 男性更年期障害セミナー学術講演会 平成19年6月7日 弘前市
- ・ 下部尿路障害セミナー 平成19年6月19日 弘前市
- ・ 第26回青森県泌尿器科研究会 平成19年6月23日 青森市
- ・ Male LUTS の治療について. 学術講演会 平成19年7月5日 弘前市
- ・ 第237回日本泌尿器科学会東北地方会, 平成19年9月22日 青森市
- ・ 第27回青森県泌尿器科研究会 平成19年11月17日 青森市
- ・ 頻尿・尿もれカンファランス 平成20年2月2日 青森市
- ・ 第12回青森前立腺癌研究会 平成20年3月8日 青森市
- ・ 第3回臨床糖鎖研究会 ー移植医療研究センタージョイント・ミーティングー 平成20年3月27日 弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

2006年度

04722143.7-2404-US2004006085 European Patent office
発明者：大山 力
発明の名称：Method for detecting prognosis of cancer
出願人：Seikagaku Corporation, et al,
出願日：2006.10.25.

23. 眼科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

30% 論文数が少なすぎる。学会発表を行った研究発表は確実に論文化する必要がある。

理念：

1. 網膜色素変性を中心とする網膜硝子体疾患の研究と診療の一大拠点として機能すること
2. 難治性の網膜疾患の治療に努力する。
3. 計画的に研究を行う。
4. 実験プロトコルを作成し、それにしたがって実験を進める
5. いろいろなことに興味を持つ。
6. 積極的に研究する。
7. 難治性網膜疾患の治療研究に努力する。

これから2年間の目標：

1. 研究の継続，とくに研究の継続を阻む様々な困難に打ち勝ち，研究理念の実現のため一步一步前に進むこと
2. 難治性の網膜疾患の治療に努力し，その成績向上に寄与することを目標とする
3. 研究成果をできるだけ発表し論文を作成する。
4. 成果が出次第，学会発表を行う
5. 興味を持ったことについてよく研究し，成果として発表する。
6. 学会発表，原著作成をする。
7. 難治性網膜疾患の治療と成績向上を目標とする。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 1，助手 6，医員 4，大学院学生 2，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	中澤 満	1年
	講 師	専 任	鈴木 幸彦	1年
	助 手	専 任	間宮 和久	1年
	助 手	専 任	石川 太	1年
	助 手	専 任	山崎 仁志	1年
	助 手	専 任	目時 友美	1年
	助 手	専 任	伊藤 忠	1年
	助 手	専 任	鈴木 香	1年
研究課題	1. 遺伝性網膜変性症の遺伝子解析 2. 遺伝性網膜変性症の治療法開発 3. 眼循環の病態解明			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 6，助手 0，医員 5，大学院学生 2(2名とも医員)，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	中澤 満	1年
	講 師	専 任	鈴木 幸彦	1年
	助 教	専 任	石川 太	1年
	助 教	専 任	山崎 仁志	1年
	助 教	専 任	目時 友美	1年
	助 教	専 任	宮川 靖博	1年
	助 教	専 任	伊藤 忠	1年
	助 教	専 任	鈴木 香	1年

研究課題	1. 網膜色素変性の分子病態と薬物治療の開発 2. 新しい眼科手術補助剤に関する基礎研究 3. 網膜静脈閉塞症の病態と治療に関する研究 4. 緑内障の臨床研究 5. 視神経乳頭の形態変化に関する研究 6. 動画による眼底病変の観察 7. 網膜色素変性の遺伝子診断 8. 糖尿病網膜症の病態と治療に関する研究 9. 難治性の網膜疾患に対する治療に関する研究 10. 網膜変性モデル動物に対する、抗緑内障点眼薬の効果について

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Ohguro H, Shimokawa R, Ohguro I, Ishikawa F, Yamazaki H, Nakazawa M. Clinical significance of the ankle-brachial index (ABI) and pulse wave velocity (PWV) in ocular vascular diseases. *Hirosaki Medical J* 57:65-70,2006.
- A.2. Ohguro I, Ohguro H, Ohkuro H, Nakazawa M. Optic disc characteristics assessed by evaluation by clinical optic disc photographs in patients with glaucoma. *Hirosaki Med J* 57(1):27-34,2006.
- A.3. Ito T, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Nakazawa M. Effects of anti-glaucoma drops on MMP and TIMP balance in conjunctival and subconjunctival tissue. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 47(3):823-830,2006.
- A.4. Ishikawa F, Ohguro H, Sato S, Sato M, Yamazaki H, Nakazawa, M. A case of idiopathic retinal vasculitis, aneurysm, and neuroretinitis effectively treated by steroid pulse therapy. *Jpn J Ophthalmology* 50:181-185, 2006.
- A.5. Ohguro I, Ohguro T, Ohta T, Nakazawa M. A case of normal tension glaucoma associated with Buerger's disease. *Tohoku J Exp Med* 209(1):49-52,2006
- A.6. Takaya K, Suzuki Y, Nakazawa M. Massive hemorrhagic retinal detachment during radial optic neurotomy. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 244(2):265-267,2006.
- A.7. Takaya K, Suzuki Y, Nakazawa M. Four cases of hypotony maculopathy caused by traumatic cyclodialysis treated by vitrectomy, cryotherapy, and gas tamponade. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*, 244(7):855-858, 2006.
- A.8. Taira K, Nakazawa M, Takano Y, Ohta T. A case of acute zonal occult outer retinopathy in a fellow eye 5 years after presenting punctate inner choroidopathy in one. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*, 244(7):880-882, 2006.
- A.9. Ishikawa F, Ohguro H, Ohguro I, Yamazaki H, Mamiya K, Metoki T, Ito T, Yokoi Y, Nakazawa M. Study of light-stress effects on retinal functions and morphology in normal and retinal degeneration in rats. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 47:5204-5211,2006.

2007年度

- A.1. Taira K, Nakazawa M, Sato M. A mutation (c. 1142 del G) in the *PRPF31* gene in a family with autosomal dominant retinitis pigmentosa (RP11) and its implications. *Jpn J Ophthalmol* 51:45-48,2007.
- B.1. Ohguro H, Ohguro I, Ishikawa F, Yamazaki H, Yokoi Y, Nakazawa M. Changes in Intraocular Indocyanine Green Concentrations during Macular Hole Surgery. *Ophthalmologica* 221:402-405,2007.
- B.2. Ohguro H, Ohguro I, Ishikawa F, Yamazaki H, Yokoi Y, Nakazawa M. Changes in intraocular indocyanine green concentrations during macular hole surgery. *Ophthalmologica* 221:402-405,2007.
- B.3. Ohguro I, Ohguro H, Nakazawa M. Effects of antogocyanins in blach on the retinal blood flow circulation of patients with normal tension glaucoma in a pilot study. *Hirosaki Medical Jouanal* 59:23-32,2007.

和文

2006年度

- A.1. 大黒幾代, 大黒 浩, 中沢 満, 大黒 博. 緑内障患者における血中エンドセリン - 1 濃度の低下と病態への関与. *弘前医学* 57(2-4):59-64,2006.
- A.2. 中村秀雄, 鈴木幸彦, 鈴木 香, 平 紅, 中澤 満. 超音波カラー Doppler 法による硝子体手術後の眼血流の検討. *日本眼科紀要* 57:890-894,2006.
- A.3. 伊藤 忠, 大黒 浩, 大黒幾代, 石川 太, 中澤 満, 吉田恒一. 無縫合白内障術後の鈍的外傷により虹彩が消失した1例. *臨床眼科* 60:1059-1062,2006.
- A.3. 鈴木 香, 鈴木幸彦, 目時友美, 中澤 満. 前部虚血性視神経症を呈した Behçet 病の1例. *臨床眼科* 60:1267-1271,2006.
- A.4. 横井由美子, 大黒 浩, 大黒幾代, 山崎仁志, 石川 太, 伊藤 忠, 山本陽子, 中澤 満. 発達緑内障に Schwarz 症候群を合併した1例. *眼科* 48:265-268.

- A.5. 鈴木幸彦, 鈴木 香, 中澤 満. 硬膜下血腫と両眼に大量の網膜前出血を合併した乳児の1例. 臨眼 60:1649-1651,2006.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 中澤 満. 網膜色素変性. 疾患の特徴, 患者の特徴, ニーズ. 日本眼科紀要 57(4):251-254,2006.
A.2. 中澤 満. 眼科先端医療 (再生医療, 遺伝子治療, 遺伝子診断など). 実施時のリスクと対処法について教えてください. あたらしい眼科 22(臨時増刊号):245-247,2006.
A.3. 中澤 満. 網膜色素変性の臨床. 日本の眼科 77(11):1385-1389,2006
A.4. 石川 太, 中澤 満. 網膜色素変性に光照射は悪影響があるのか. 臨床眼科 60(10):1723-1728,2006.
A.5. 目時友美, 大黒 浩. 視路疾患に関連する全身検査の診かた 免疫学的検査, 自己抗体検査. 眼科臨時増刊号 視路疾患の診かた pp.1555-1561,2006.

2007年度

- A.1. 中澤 満, 黒滝淳二, 類家浩司. 緑内障乳頭陥凹形成の動的観察. 緑内障セミナー 87. あたらしい眼科 24:1197-1198,2007.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 中澤 満. 網膜色素上皮移植とは? 「視覚と眼球運動のすべて」若倉雅登, 真島行彦編, メジカルビュー社, 東京, pp.206-209,2006.

2007年度

- A.1. 中澤 満. 医師国家試験眼科関連臨床問題解説. 大野重昭, 木下 茂編集, 「標準眼科学 (第10版)」, 医学書院, pp.318-336,2007.
A.2. 中澤 満. 序文. 中澤 満編, 眼科医に必要な「全身疾患と眼」のすべて, 臨床眼科 61 (増刊号), 医学書院, pp11,2007.
A.3. 鈴木幸彦. 眼科専門医に必要な「全身疾患と眼」のすべて 6. 循環器疾患 片頭痛. 臨眼 Vol.61, pp.115-117,2007.
A.4. 山崎仁志. 眼科専門医に必要な「全身疾患と眼」のすべて 5. 神経・筋肉疾患 筋ジストロフィ. 臨床眼科 61(11):94-97,2007.
A.5. 目時友美, 大黒 浩. 網膜, 視神経における免疫異常とその治療にはなにがあるか? 「神経眼科をやさしく理解するための視覚と眼球運動のすべて」, 若倉雅登, 三村治編, メジカルビュー pp.82-87,2007.
A.6. 目時友美. Grönblad-Strandberg 症候群. 「臨床眼科」2007 年増刊号 眼科専門医に必要な「全身疾患と眼」のすべて. 金原出版, 東京都, pp.274-277,2007.
A.7. 伊藤 忠. 結節性動脈周囲炎, 大動脈炎症候群, 側頭動脈炎. 臨床眼科増刊号 2007;61(11):176-8
A.8. 鈴木 香. 眼科専門医に必要な「全身疾患と眼」のすべて 9. 結合組織病および近縁疾患 Buerger 病, 進行性全身性硬化症. 臨眼, Vol.61, pp.186-187,2007.

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 伊藤 忠, 大黒 浩, 大黒幾代, 間宮和久, 石川 太, 目時友美, 山崎仁志, 横井由美子, 中澤 満. イソプロピル ウノプロストン点眼液の網膜保護効果についての検討. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査, 平成17年度総括・分担研究報告書, 323-325,2006.
A.2. 石川 太, 大黒 浩, 大黒幾代, 間宮和久, 目時友美, 山崎仁志, 伊藤 忠, 中澤 満. 正常および網膜変性モデルラットへの光ストレスの影響. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究調査, 平成17年度総括・分担研究報告書, 318-319,2006.

2007年度

- A.1. 鈴木 香, 鈴木幸彦, 中澤 満. 高度の求心性視野狭窄を呈した Adrenal corticotropic hormone (ACTH) 産生下垂体腺腫. 眼紀 Vol.58,pp.572-575,2007.
A.2. 宮川靖博, 佐藤章子. 免疫再構築症候群によるサイトメガロウイルス網膜炎と肝炎を発症した1例. 臨床眼科 61 巻 7 号 1305-1310,2007.

- B.1. 袖山丈明, 村山耕一郎, 舩澤伸介, 樺澤 昌, 島田佳明, 米谷 新, 鈴木幸彦, 中澤 満. 梅毒眼感染症を契機に発見された HIV 感染症患者の 1 例. 臨床眼科 61(6):1053-1057, 2007.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hirosaki Medical Journal	0	2	0
Invest Ophthalmol Vis Sci	3.776	2	7.552
Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol	1.609	3	4.827
Jpn J Ophthalmol	0.77	1	0.77
Tohoku J Exp Med	1.012	1	1.012
Total		9	14.161

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Japanese Journal of Ophthalmology	0.7	1	0.7
Ophthalmologica	0.72	1	0.72
Hirosaki Medical Journal	0	1	0
Total		3	1.42

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
弘前医学	1	
日本眼科紀要	1	
臨床眼科	3	
眼科	1	
計	6	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	1
分担執筆	1	8

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
臨床眼科		2
日本眼科紀要		1
計	0	3

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2007 年度

- C.1. Nakazawa M, Kurotaki J, Ruike H. Optic disc deviation and myopic crescent formation as myopia progressed. Annual Meeting of ARVO, Fort Lauderdale, May 5, 2007.

(2) 全国学術集会

2007 年度

- C.1 中澤 満, 黒滝淳二, 類家浩司. 近視の進行にともなう乳頭移動とコーヌスの形成過程. 第 111 回日本眼科学会総会. 2007.4.21.
 その他 日本緑内障学会 1, 日本眼科手術学会 1, 日本網膜硝子体学会 1, 日本臨床眼科学会 3,

日本眼科学会 3, 北日本眼科学会 2
計 15 件

Ⅲ. 学術賞

2007 年度

日本眼科学会評議員会賞

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2007 年度

研究代表者として

1. 若手研究 B

悪性黒色腫随伴網膜症の分子病態の解析と臨床応用
山崎仁志 1,700 千円

2. 萌芽研究

中澤 満 1,800 千円

(2) その他の省庁からの研究費

2007 年度

研究代表者として

厚生労働省難治性疾患研究事業，網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班
分担研究 中澤 満 2,000 千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2007年度

第 46 回 日本網膜硝子体学会学術総会

b) 地方レベルの学会の主催

2007年度

第 112 回，第 113 回 青森眼科集談会

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

24. 耳鼻咽喉科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

1. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
2. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
3. 低侵襲な鼓室形成術を開発する。
4. 中耳疾患の診断技術を向上させる。
5. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
6. アレルギー性疾患の臨床研究を進め，地域に根ざした予防法や治療法の啓蒙に取り組む。
7. 好酸球性中耳炎の病態解明や治療に関する研究を更に進めていく。

1～5について，原著論文を発表できた（70％）

6～7については，病態解明や治療法の確立などについて研究を進め，2006年度の日耳鼻総会のシンポジストを務めた為，十分に目標を達成したものと考えている

理念：

1. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
2. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
3. 低侵襲な鼓室形成術を開発する。
4. 中耳疾患の診断技術を向上させる。
5. アブミ骨の可能性について解析する。
6. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
7. 好酸球性炎症の病態解明と治療につながる基礎的・臨床的研究を進める。

これから2年間の目標：

1. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
2. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
3. 低侵襲な鼓室形成術を開発する。
4. 中耳疾患の診断技術を向上させる。
5. アブミ骨の可能性について解析する。
6. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
7. 好酸球性炎症の病態解明と治療につながる基礎的・臨床的研究を進める。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 2, 講師 0, 助手 4, 医員 5, 大学院学生 3, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	新川 秀一	1 年間
	助教授	専 任	松原 篤	1 年間
	助教授	専 任	欠畑 誠治	1 年間
	助 手	専 任	石井 賢治	1 年間
	助 手	専 任	南場 淳司	1 年間
	助 手	専 任	丸屋信一郎	1 年間
研究課題	助 手	専 任	二井 一則	1 年間
	1. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。 2. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。 3. 低侵襲な鼓室形成術を開発する。 4. 中耳疾患の診断技術を向上させる。 5. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。			

研究課題	6. アレルギー性炎症, 好酸球性疾患の臨床研究 7. 内耳への遺伝子導入による感音難聴の治療への応用 8. 老人性難聴への人工中耳の臨床応用 9. 中耳手術後上皮化不全に対する治療

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 2, 講師 0, 助教 4, 助手 0, 医員 3, 大学院学生 2, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	新川 秀一	1 年間
	准教授	専 任	松原 篤	1 年間
	准教授	専 任	欠畑 誠治	1 年間
	助 教	専 任	南場 淳司	1 年間
	助 教	専 任	丸屋信一郎	1 年間
	助 教	専 任	二井 一則	1 年間
	助 教	専 任	佐々木 亮	1 年間
研究課題	1. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。 2. 低侵襲な鼓室形成術を開発する。 3. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。 4. 中耳疾患の診断技術を向上させる。 5. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。 6. アレルギー性炎症, 好酸球性疾患の臨床研究 7. 内耳の神経伝達に関する研究 8. 難聴の遺伝子解析 9. 虚血性内耳障害の研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kakehata S, Sasaki A, Oji K, Futai K, Ota S, Makinae K, Shinkawa H. Comparison of Interatympanic and Intravenous Dexamethasone Treatment on Sudden Sensorineural Hearing Loss with Diabetes., *Otology & Neurotology*.2006;27:604-608.
- A.2. Maruya S, Namba A, Matsubara A, Kakehata S, Takeda I, Shirasaki T, Hatayama Y, Nagahata M, Yokoyama J, Shinkawa H. Salivary gland carcinoma treated with concomitant chemoradiation with intraarterial cisplatin and docetaxel., *Int J Clin Oncol* 2006;11:403-406.
- A.3. Takeda I, Maruya S, Shirasaki T, Mizukami H, Takahata T, Jeffrey N. Myers, Kakehata S, Yagihashi S, Shinkawa H. Simvastatin inactivates β 1-integrin and extracellular signal-related kinase signaling and inhibits cell proliferation in head and neck squamous cell carcinoma cells., *Cancer Sci* 2006;vol.98 No.6:890-899.
- A.4. Momiyama J, Hashimoto T, Matsubara A, Futai K, Namba A, Shinkawa H. Leupeptin, a Calpain Inhibitor, Protects Inner Ear Hair Cells from Aminoglycoside Ototoxicity., *TJEM* 2006;VAL.209,(2):75-167.
- A.5. Min Yin, Ishikawa K, Honda K, Arakawa T, Harabuchi Y, Nagabashi T, Fukuda S, Taira A, Himi T, Nakamura N, Tanaka K, Ichinohe M, Shinkawa H, Nakada Y, Sato H, Shiga K, Kobayashi T, Watanabe T, Aoyagi M, Ogawa H, Omori K. Analysis of 95 cases of squamous cell carcinoma of the external and middle ear., *Auris Nasus Larynx* 2006;33:251-257.
- A.6. Kakehata S, Futai K, Sasaki A, Shinkawa H. Endoscopic Transtympanic Tympanoplasty in the Treatment of Conductive Hearing Loss: Early Results., *Otology & Neurotology*, 2006;27:14-19.
- A.7. Abe T, Kakehata S, Kitani R, Maruya SI, Navaratnam D, Santos-Sacchi J, Shinkawa H. Developmental expression of the outer hair cell motor, prestin, in the mouse., *J Membr Biol.* 2007;215(1):49-56.
- B.1. Nakagawa T, Matsubara A, Shinkawa H, Kakazu Y, Nakashima T, Umezaki T, Komune S. Intractable otitis media with eosinophils: Importance of Diagnosis and validity of treatment for hearing preservation., *ORL* 68:. 118-122, 2006.

2007年度

- A.1. Abe T, Kakehata S, Kitani R, Maruya SD, hasakumar N, Joseph S, Shinkawa H. Developmental Expression of the Outer Hair Cell Motor Prestin in the Mouse. *J Membrane Biol* 2007.09;215:49-56.
- A.2. Takeda I, Maruya S, Shirasaki T, Mizukami H, Takahata T, Jeffrey N Myers, Kakehata S, Yagihashi S, Shinkawa H. Simvastatin inactivates β 1-integrin and extracellular signal-related kinase signaling and inhibits cell proliferation in head and neck squamous cell carcinoma cells. *CancerSci* 2007.06;vol98 no.6:890-899.

和文

2006年度

- A.1. 王子佳澄, 松原 篤, 白崎理喜, 安田 京, 永井政男, 新川秀一. 青森県におけるスギ花粉飛散開始予測, 日本耳鼻咽喉科学会会報 2006;109:813-820.
- A.2. 安田 京, 木谷 令, 佐々木亮, 新川秀一. 急性乳様突起炎 9 例の検討. 耳鼻臨床 2006;99:11:913-918.
- A.3. 王子佳澄, 一戸 学, 阿部尚央, 井上 卓, 木谷 令, 新川秀一, 太田修司. 舌根部神経鞘腫の 3 例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 第78巻 第4号 別刷 2006.
- A.4. 南場淳司, 阿部尚央, 木谷 令, 武田育子, 宇佐美真一, 新川秀一. 前庭水管拡大症 2 症例の聴力変動. Otol Jpn 2006;16(3):183-188.
- A.5. 南場淳司, 丸屋信一郎, 新川秀一. ティーエスワン 内服治療が著効であった 進行耳下腺扁平上皮癌症例. 臨床腫瘍ブランクティス Vol.2 No.3 2006.
- A.6. 武田育子, 松原 篤, 去石 巧, 石井賢治, 新川秀一. 口腔内箸異物の 2 例. 日耳鼻 2006;52(3):167-171.
- A.7. 欠畑誠治. 中耳真珠腫の治療ー内視鏡手術ー. Monthly Book ENTONI, 2006;66:49-54.
- A.8. 欠畑誠治. 拡大視処置・手術ー耳科内視鏡取り扱いのコツー. Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, 2006;22:685-689.
- A.9. 欠畑誠治. 私が診断・治療に苦慮した中耳炎ー真珠腫性中耳炎の合併症ー. Monthly Book ENTONI, 2007.

2007年度

- A.1. 石井賢治, 王子佳澄, 飯田健二, 新川秀一. 抑うつ傾向を伴うめまい症例に対するパロキセチンの効果. Equilibrium Res vol.66(1):26-30, 20-30.
- A.2. 石井賢治, 飯田健二, 武田育子, 白崎 隆, 新川秀一. 外リンパ瘻罹患後遅発性に発症した良性発作性頭位眩暈症の一例. Equilibrium Res Vol.66(4):145-149.
- A.3. 佐々木亮, 欠畑誠治, 新川秀一. 顎下部に発生した脂肪肉腫の一例. 耳鼻と臨床 54巻2号別刷

(2) 総説

英文

2006年度

- B.1. He D, Zhen J, Kalinec F, Kakehata S, Santos-Sacchi J, Tuning in to the amazing outer hair cell: membrane wizardry with a twist and shout. Journal of Membrane Biology, 2006;209(2-3):119-34.

和文

2006年度

- A.1. 松原 篤. 小児アレルギー性鼻炎重症例への対応. Johns 2006;23(2):211-214.
- A.2. 松原 篤. 好酸球性中耳炎の治療 update ステロイド以外の保存的治療. MB ENT 2007;73:45-50.

2007年度

- A.1. 松原 篤. 好酸球性中耳炎の保存的治療法. Johns 2007;23(6):905-908.
- A.2. 松原 篤. 好酸球性中耳. アレルギー・免疫 2007;14(9):1188-1194.
- A.3. 松原 篤. 好酸球性中耳炎の最新治療. Johns 2008;24(1):71-75.
- A.4. 二井一則, 欠畑誠治. 外耳道・鎖耳の手術. ENTONI, 2007;80:1-4.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 新川秀一, 欠畑誠治. Laser-assisted myringoplastyーCO₂レーザーを併用した鼓膜形成術. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 1耳疾患 中山書店 編集:神崎
- A.2. 松原 篤. アレルギー性鼻炎における点鼻薬の使い方. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 ②鼻・副鼻腔疾患 中山書店 47頁 東京都
- A.3. 青木昌彦, 阿部由直, 蒲田幸朋, 大熊洋揮, 大山 力, 岡田晶博, 長内智宏, 小田桐弘毅, 柿崎 寛, 加藤博之, 兼子 直, 金子高英, 木村博人, 川崎仁司, 古家琢也, 小林 恒, 坂田 優, 佐藤哲観, 東海林幹夫, 新川秀一, 須田俊宏, 高見秀樹, 武田仁志, 立石智則, 玉井佳子, 玉澤直樹, 対馬敬夫, 中澤 満, 中路重之, 中林典雄, 南場淳司, 袴田健一, 馬場正之, 長谷川善枝, 花田裕之, 樋口 毅, 久永明人, 平野聖治, 福田真作, 水島 豊, 村上 宏, 村上裕子, 横山良仁, 吉村徹郎, 米山高弘. 高齢者の聴覚障害 水島 豊, 菅世智子編. 老年病学 P85-87, 弘前大学出版会 弘前市 2007.1

2007年度

- A.1. 南場淳司, 新川 秀一. 市民のための老年病学
- A.2. 新川秀一. 耳鼻咽喉科専門医, 医学書院, 2007.08
- A.3. 新川秀一. 研修医のための卒後臨床研修ガイドブック, 永井書店, 2007.05
- A.4. 新川秀一. 今日の治療指針 私はこう治療している, 医学書院, 2007

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. 丸屋信一郎, 新川秀一. Apert syndrome. 耳喉頭頸 78巻5号 増刊号 2006
- A.2. 丸屋信一郎, 新川秀一. acute respiratory distress syndrome (ARDS) (急性呼吸窮迫 syndrome). 耳喉頭頸78巻5号 増刊号 2006
- A.3. 丸屋信一郎, 新川秀一. aortitis syndrome (大動脈炎 syndrome). 耳喉頭頸 78巻5号 増刊号 2006

和文

2006年度

- A.1. 新川秀一. 耳科手術に用いる小器具. JOHNS Vol.22 No.6, 2006
- A.2. 新川秀一. 中高年者の難聴. 弘大しらぎく 第49号 2006
- A.3. 新川秀一. 「教育講演, 中耳の Live Surgery」を企画して. Otol Jpn 2006;17(1):34-35.
- A.4. 松原 篤. 好酸球性中耳炎の取り扱い, 日本耳鼻咽喉科学会専門医通信 2006;87:6-7.
- A.5. 南場淳司, 丸屋信一郎, 新川秀一. ティーエスワン内服治療が著効であった進行耳下腺扁平上皮癌症例. 臨床腫瘍プラクティス 2006 vol2(3)311-313.

2007年度

- A.1. 松原 篤. セレスタミンの適応と限界とは? Q&A でわかるアレルギー性疾患. 2007;3(6):595-596.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Otology & Neurotology	1.339	2	2.678
Int J Clin Oncol	0	1	0
Cancer Sci	3.869	1	3.869
TJEM	1.012	1	1.012
Auris Nasus Larynx	0.653	1	0.653
J Membr Biol	2.112	1	2.112
ORL	0.704	1	0.704
Journal of Membrane Biology	2.112	1	2.112
Total		9	13.14

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Membrane Biol	2.112	1	2.112
CancerSci	3.869	1	3.869
Total		2	5.981

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日本耳鼻咽喉科学会会報	1	
耳鼻臨床	1	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1	
Otol Jpn	1	
臨床腫瘍プラクティス	1	
日耳鼻	1	
Monthly Book ENTONI	2	
Journal of Otolaryngology Head and Neck Surgery	1	
Johns	1	2
MB ENT	1	
Equilibrium Res		2
耳鼻と臨床		1
アレルギー・免疫		1
ENTONI		1
計	11	7

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	1	3
編 集	0	0
分担執筆	2	1

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
耳喉頭頸	0	3	0
Total		3	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
JOHNS	1	
弘大しらぎく	1	
Otol Jpn	1	
日本耳鼻咽喉科学会専門医通信	1	
臨床腫瘍プラクティス	1	
Q&A でわかるアレルギー性疾患		1
計	5	1

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Takeda I, Maruya S, Shirasaki T, Myers JN, Shinkawa H. Simvastatin suppresses invasiveness and cell proliferation through down-regulation of β 1-integrin-associated signaling in head and neck squamous cell carcinoma, Annual Meeting, American Association for Cancer Research, Washington
- C.2. Kitani R, Kakehata S, Murakoshi M, Wada H, Abe T, Shinkawa H. The effects of cholesterol on outer hair cell motility, INNER EAR BIOLOGY Workshop, Montpellier, France, 2006.9.
- C.3. Kitani R, Kakehata S, Murakoshi M, Wada H, Shinkawa H. The direct effects of cholesterol on outer hair cell motility, The 2nd Shanghai International Conference on Physiological Biophysics-Audition and Vision, Shanghai, China, 2006.11
- C.4. Kakehata S. LASER assisted myringoplasty, 11th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Busan, Korea, 2006.4
- C.5. Atsushi Namba, Shin-ichiro Maruya, Ikuko Takeda, Takashi Shirasaki, Hideichi Shinkawa. Two Cases of Salivary Gland Carcinoma Treated with Intra-arterial Concomitant Chemoradiation of Cisplatin and Docetaxel Korea-Japan joint meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Busan 2006.4

2007年度

- B.1. Kakehata S, Shibkawa H. Endoscopic transtympanic surgery in the treatment of conductive hearing loss, congenital cholesteatoma and adhesions otitis media. 11th asia-Oceania ORL Head & Neck Congress, Thailand, 2007.11.21-25
- C.1. Futai K, Shinkawa H. Office-based endoscopic procedure for diagnosis in conductive hearing loss cases utilizing otoscan laser-assisted Myringotomy. 11th asia-Oceania ORL Head & Neck Congress, Thailand, 2007.11.21-25
- C.2. Kitani R, Kakehata S, Murakoshi M, Wada H, Maruya S, Abe T, Shinkawa H. The Direct Effects of Cholesterol and M β cd On Outer Hair Cell Motility and capacitance. 31st MidWinter Meeting, USA, 2008.02.16-21

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 欠畑誠治, 木谷 令. 蝸牛外有毛細胞の運動能に対するコレステロールの効果. 第1回 ERA・OAE 研究会, 東京, 2006.7
- B.1. 新川秀一. 専門医の将来についての日本耳鼻咽喉科学会の考え方. 第107回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2006.5.11
- B.2. 松原 篤. 好酸球性中耳炎の治療. 第107回日本耳鼻咽喉科学会総会, 東京, シンポジウム「好酸球性中耳炎・副鼻腔炎の診断と治療」

- B.3. 欠畑誠治. 耳科領域における拡大手術と縮小手術「耳科領域における縮小手術－内視鏡, CO2レーザーの利用－」. 第16回日本頭頸部外科学会総会シンポジウム, 久留米, 2006.1
- B.4. 欠畑誠治. 「Dynamic behavior of the organ Corti」 The direct effects of cholesterol on outer hair cell motility., 第16回日本耳科学会総会, 青森, 2006.10
- B.5. 欠畑誠治. オフィスサージャリー患者満足度向上のための工夫－. 耳領域第20回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会, 福岡, 2006.11
- B.6. 南場淳司. 外来で行うがん化学療法 頭頸部癌に対する Docetaxel weekly 投与を用いた外来化学療法. 日本耳鼻臨床学会, 金沢市, 2006
- C. 52件

2007年度

- C. 10件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

第56回日本耳鼻咽喉科学会東北地方部会連合学術講演会最優秀演題賞（ポスター部門）
佐々木亮「メニエール様の発作を反復した外側半規管低形成症例」

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

萌芽研究：intact OHC を用いた siRNA による至適 prestin 発現密度の直接解析
新川 秀一, 190万円

萌芽研究：ソノボレーション法による *in vivo* コルチ器への prestin 遺伝子導入
－内耳蝸牛増幅機構再生の直接的機能解析－
欠畑誠治, 140万円

基盤研究 B：In vivo patch 法による prestin 導入再生内耳の直接的機能解析
欠畑誠治, 630万円

若手 B：超音波導入法を用いた内耳血管条への遺伝子導入
南場淳司, 190万円

若手研究 B：頭頸部癌における新たな治療標的としてのインテグリン細胞接着分子機能の解明, 丸屋信一郎, 130万円

2007年度

研究代表者として

若手研究 (B) 超音波導入法を用いた内耳血管条への遺伝子導入
南場淳司, 1,500千円

若手研究 (B) 新しいドラッグデリバリーシステムを用いた内耳再生医療へのアプローチ
二井一則, 1,700千円

(2) その他の省庁からの研究費

2007年度

研究代表者として

日本学術振興会科学研究費補助金（萌芽研究）
intact OHC を用いた siRNA による至適 prestin 発現密度の直接解析
新川秀一, 1,900千円

日本学術振興会科学研究費補助金（萌芽研究）
ソノボレーション法による *in vivo* コルチ器への prestin 遺伝子導入
ー内耳蝸牛増幅機構再生の直接的機能解析ー
欠畑誠治, 1,800 千円

日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 B）
In vivo patch 法による prestin 導入再生内耳の直接的機能解析
欠畑誠治, 4,100 千円

日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））
「大規模調査による聴力障害と全身性基礎疾患の関連の解明」
佐々木亮 1,330 千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006 年度

Professor J. Santos-Sacchi, Yale University School of Medicine (10 月)

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006 年度

新川秀一, 第 16 回日本耳科学会総会学術講演会 (青森市)

b) 地方レベルの学会の主催

2006 年度

新川秀一青森県地方部会 年 3 回 (弘前市・青森市・八戸市)

新川秀一, 第 55 回日耳鼻東北地方部会連合学術講演会 (弘前市)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

25. 放射線科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

- 1) 英文論文を中心とした研究成果および臨床成果の確実な報告を行う
- 2) 国際学会への発表を積極的に行う
- 3) 種々の研究費の獲得を
- 4) 日本医学放射線学会専門医および関連学会認定医等の積極的取得を
- 5) 基本に忠実に着実な診療と大胆な発想に基づく研究を

達成度 80%

理念：

患者さんに対し診療行為を明確に説明し，持てる知識と技術を用い適切な診療を提供し，その結果を評価し，最終的に診療結果を診療行為に還元する。このために，ひとつでも多くの診断または治療を経験し体現化する事により診断または治療を確実に習得する事に努め，常に彼我の医療の質を客観的に判断し，よりよい診断または治療を目標に創意工夫と努力を惜しまないことである。

これから2年間の目標：

- 1) 英文論文を中心とした研究成果および臨床成果の確実な報告を行う。
- 2) 国際学会への発表を積極的に行う。
- 3) 種々の研究費の獲得を目指す。
- 4) 基礎と臨床を結びつける研究の方向性を展開する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 2, 講師 1, 助手 4, 医員 3, 大学院学生 5, 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	阿部 由直	全期間
	助教授	〃	小野 修一	〃
	〃	〃	青木 昌彦	〃
	講 師	〃	三浦 弘行	〃
	助 手	〃	長畑 守雄	〃
	〃	〃	大畑 崇	〃
	〃	〃	近藤 英宏	〃
	〃	〃	清野 浩子	2006.4.1-12.31
	〃	〃	畑山 佳臣	2007.1から
研究課題	1) 放射線治療抵抗性癌に対する基礎的臨床的研究 2) 放射線治療の先行予測に関する研究 3) 放射線による正常組織障害の克服 4) 病理を含めた画像診断の研究と臨床的意義 5) 新しい診断技術の開発 6) 三次元から四次元に至る診断法の研究と臨床的意義 7) インターベンション治療の最適化 8) 再生医学を応用した放射線生物学 9) 放射線による正常組織障害の分子生物学的解明 10) 癌放射線治療の基礎的研究			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 2, 講師 2, 助教 3, 助手 0, 医員 1, 大学院学生 5, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	教 授	専 任	阿部 由直	
	准教授	専 任	小野 修一	
	准教授	専 任	青木 昌彦	
	講 師	専 任	三浦 弘行	
	講 師	専 任	長畑 守男	2008.1助教から昇進
	助 教	専 任	場崎 潔	
	助 教	専 任	大畑 崇	
	助 教	専 任	畑山 佳臣	
研究課題	1) 放射線治療抵抗性癌に対する基礎的臨床的研究 2) 放射線治療の先行予測に関する研究 3) 放射線による正常組織障害の克服 4) 病理を含めた画像診断の研究と臨床的意義 5) 新しい診断技術の開発 6) 三次元から四次元に至る診断法の研究と臨床的意義 7) インターベンション治療の最適化 8) 再生医学を応用した放射線生物学 9) 放射線による正常組織障害の分子生物学的解明 10) 癌放射線治療の基礎的研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Aoki M, Abe Y, Hatayama Y, Kondo H, Basaki K. Clinical outcome of hypofractionated conventional conformation radiotherapy for patients with single and no more than three metastatic brain tumors using noninvasive fixation of the skull without whole brain irradiation. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 2006;64:414-418.
- A.2. Basaki K, Abe Y, Aoki M, Kondo H, Hatayama Y, Nakaji S. Prognostic factors for survival in stage III non-small-cell lung cancer treated with definitive radiation therapy: Impact of tumor volume. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 2006;64:449-454.
- A.3. Nagahata M, Abe Y, Ono S, Yamaguchi H, Miura H, Ohata T, Tsushima F, Morimoto K, Seino H : Attenuation values of the intracranial arterial and venous vessels by bolus injection of different contrast agents: a study with a single-detector helical CT scanner. *Radiation Medicine* 25:89-93,2007.
- A.4. Liu Y, Nakahara, T., Miyakoshi J., Hu D-L., Nakane A, Abe Y. Nuclear accumulation and activation of Nuclear Factor κ B after aplit-dose irradiation in LS174T cells. *J Radiat Res* 2007;48:13-20.
- B.1. Taki Y, Kinomura S, Sato K, Goto R, Inoue K, Okada K, Ono S, Kawashima R, Fukuda H: Both global gray matter volume and regional gray matter volume negatively correlate with lifetime alcohol intake in non-alcohol-dependent Japanese men. A volumetric analysis and a voxel-based morphometry. *Alcoholism: Clinical and Experimental Research* 30(6), 1045-1050, 2006.
- B.2. Iwasaki A, Koderia Y, Hirota J, Kubota M, Kimura H, Osanai T, Kudo S, Abe Y. Theoretical considerations for evaluating the degree of random-periodicity of radiographic noise. *Applied Radiation and Isotopes* 2006;64:19-26.
- B.3. Kashiwakura I, Inanami O, Abe Y, Satoh K, Takahashi TA, Kuwabara M. Regeneration of megakaryocytopoiesis and thrombopoietic stem cells. *Radiat Res* 2006;166:345-351.
- B.4. Monzen S, Mori T, Takahashi TK, Abe Y, Inanami O, Kuwabara M, Kashiwakura I. The effect of (-)-epigallocatechin-3-gallate on the proliferation and differentiation of human megakaryocytic progenitor cells. *J Radiat Res* 2006;47:213-220.
- B.5. Iwasaki I, Kubota M, Hirota J, Fujimori A, Suzaki K, Aoki M, Abe Y. Characteristic features of a high-energy x-ray spectra estimation method based on the Waggener iterative perturbation principle. *Med Phys* 2006;33:4056-4063.
- B.6. Maruya S, Namba A, Matsubara A, Kakehata S, Takeda I, Shirakawa T, Hatayama Y, Nagahata M, Yokoyama J, Shinkawa H : Salivary gland carcinoma treated with concomitant chemoradiation with intraarterial cisplatin and docetaxel. *Int J Clin Oncol* 11: 403-406, 2006.
- C.1. Nagahata M, Manabe H, Hasegawa A, Takemura A : Morphological change of unruptured vertebral artery dissection on serial MR examinations: evaluation of the arterial outer contour by basi-parallel anatomical scanning (BPAS)-MRI. *Interventional Neuroradiology* 12(suppl 1): 133-136, 2006.

2007年度

- A.1. K.Kudo, Y.Abe, D-L. Hu, H.Kijima and A.Nakane. Colonization and differentiation of transplanted embryonic stem cells in intestinal injury induced by radiation of mice. Tohoku J Exp Med 2007;212:143-150.
- A.2. K.Kudo, K.Tarusawa, Y.Abe, Y.Liu, D-L.Hu, A.Nakane, H.Kijima. Effect of heparan sulfate on radiation-induced intestinal injury in mouse model irradiated on abdomen. Bull Health Sci Hiroaki 2007;6:93-99.
- A.3. M.Nagahata, Y.Abe, S.Ono, H.Yamaguchi, H.Miura, T.Ohata, F.Tsushima, K.Morimoto, H.Seino. Attenuation values of the intracranial arterial and venous vessels by bolus injection of various contrast agents: a study with a single-detector helical CT scanner. Radiat Med 2007;25:89-93.
- A.4. M.Aoki, Y.Abe, H.Kondo, Y.Hatayama, H.Kawaguchi, A.Fujimori, K.Suzaki, M.Seino, T.Morita, M.Souma, T.Tsushima, S.Takanashi. Clinical outcome of stereotactic body radiotherapy of 54Gy in nine fractions for patients with localized lung tumor using a custom-made immobilization system. Radiat Med 2007;25:289-294.
- B.1. K.Takahashi, S.Monzen, K.Eguchi-Kasai, Y.Abe, I.Kashiwakura, Severe damage of human megakaryocytopoiesis and thrombopoiesis by heavy-ion beam radiation, Radiat Res 2007;168:545-551.

和文

2006年度

- A.1. 小野修一, 三浦弘行, 長畑守雄, 大畑 崇, 森本公平, 対馬史泰, 青木昌彦, 近藤英宏, 畑山佳臣, 川口英夫, 阿部由直, 高梨信吾. 放射線肺臓炎の CT 所見 継時変化の検討一. 臨床放射線 2006;51:85-90.
- A.2. 齋藤陽子, 辻 敏朗, 三浦弘行, 阿部由直, 福井康三, 福田幾夫, 井澤純子, 濱田圭登. 頭部 MRA と頸部造影 MRA における頭蓋骨レベルの動脈径の評価. 臨床放射線 金原出版 2007;52(2):353-357.

2007年度

- A.1. 畑山佳臣, 青木昌彦, 近藤英宏, 川口英夫, 阿部由直. 放射線肺臓炎の発症予測に関する平均肺線量の有用性, 肺癌 2007;47:695-700.
- B.1. 齋藤陽子, 辻 敏朗, 三浦弘行, 阿部由直, 福井康三, 福田幾夫, 井澤純子, 濱田圭登. 頭部 MRA と頸部造影 MRA における頭蓋底レベルの動脈径の評価. 臨床放射線 2007;52:353-357.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 阿部由直, 青木昌彦, 近藤英宏. 肺がん放射線治療の最前線. 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:106-108.
- A.2. 青木昌彦, 阿部由直, 近藤英宏. 頭頸部がん患者診療のポイントー4. 放射線治療の適応ー1)放射線単独療法. 臨床腫瘍プラクティス 2006;2:264-267.
- A.3. 長畑守雄, 阿部由直, 小野修一, 三浦弘行, 大畑 崇, 長畑史子, 森本公平, 清野浩子, 掛端伸也. 椎骨脳底動脈解離に対する新たな MRI 評価法:BPAS-MRI による血管外観表示 脳神経外科速報 16(4):339-344, 2006.

2007年度

- A.1. 長畑守雄, 阿部由直, 小野修一, 三浦弘行, 大畑崇, 長畑史子. MRI で見る脳血管ー脳卒中診療で役立つ画像診断ー, 画像診断 2007;27:1506-1515.
- A.2. 青木昌彦, 阿部由直. 前立腺がんの治療ーライナック放射線治療を効果的に行うために, 臨床腫瘍プラクティス 2007;3:289-293.
- A.3. 小野修一, 阿部由直. わかりやすい呼吸器の放射線診断. リウマチ科 2007;37:460-468.
- A.4. 小野修一, 阿部由直. 胸部救急疾患の CT 救急医学 2008;32(3):332-334.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 阿部由直, 青木昌彦, 近藤英宏, 小川芳弘. 前立腺癌. 山田章吾編『早期のがん治療法の選択ー放射線治療』2006;pp.156-168. 金原出版(東京).
- A.2. 小野修一, 対馬史泰, 三浦弘行, 大畑 崇, 阿部由直. 肺癌・縦隔腫瘍 4. 胸部 甲田英一・伊藤勝陽編 3D ボリュームデータ ーやさしく臨床に直結ー 金原出版 東京 pp109-116,2006.

2007年度

- A.1. 阿部由直. 放射線治療の最近の進歩. 水島 豊, 菅世智子編「市民のための老年病学」弘前大学出版会; 2007.p.125-127.
- A.2. 阿部由直. 放射線の消化管に対する影響. 大西武雄編「放射線医科学」学会出版センター ;2007;P48-50
- A.3. 青木昌彦. がんと闘う「食道がん」. 水島 豊, 菅世智子編, 市民のための老年病学 136-139 弘前大学出版会 2007

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 対馬史泰, 澁谷剛一, 緑川 宏, 小野修一, 阿部由直, 対馬悠子, 小野真樹, 鈴木将史, 阿保 亘. 腫瘍内出血を来した小児縦隔リンパ管腫の一例 青森県立中央病院医誌 51(1):10-13,2006.
- A.2. 近藤英宏, 阿部由直, 青木昌彦, 畑山佳臣, 川口英夫. 弘前大学での全身照射の照射法と合併症 北日本放射線腫瘍学研究会誌 2006;45:25-26.
- B.1. 設楽紘平, 棟方正樹, 石黒 敦, 星 克樹, 岡田理律子, 富岡るみ子, 水戸部須磨子, 坂田 優, 蝦名昭男, 青木昌彦. 化学放射線療法の奏効した気管食道瘻合併(疑)食道癌の1例 癌と化学療法 2006;33:1137-1141.

2007年度

- A.1. 対馬史泰, 小野修一, 掛畑伸也, 清野浩子, 森本公平, 大畑 崇, 長畑守雄, 三浦弘行, 阿部由直, 斎藤陽子, 平尾良範, 鎌田義正. 巨大血腫を伴った甲状腺乳頭癌の1例. 画像診断 2007;27:1506-1515
- A.2. 森本公平, 長畑守雄, 小野修一, 阿部由直, 三浦弘行, 大畑 崇, 緑川 宏, 澁谷剛一, 岩崎真樹, 西嘉美知春. 塞栓部位の決定に3D-CTAが有用であった直接型内頸動脈海綿静脈洞瘻の1例 BRAIN and NERVE 59(12):1363-1366,2007.
- A.3. 石黒 敦, 棟方正樹, 設楽紘平, 鈴木一広, 高畑武功, 伊東重豪, 青木昌彦, 坂田 優, 棟方昭博. S-1併用化学放射線療法により QOL の改善が得られた腭頭部癌の1例 癌と化学療法 2007;3(6):937-940.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Radiat Oncol Biol Phys	4.556	2	9.112
Radiation Medicine	0	1	0
J Radiat Res	1.364	1	1.364
Clin Exp Res	0	1	0
Applied Radiat Isotope	0.757	1	0.757
Radiat Res	3.099	1	3.099
J. Radiat Res	1.364	1	1.364
Med Phys	3.192	1	3.192
Int J Clin Oncol	0	1	0
Total		10	18.888

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Tohoku J Exp Med	1.012	1	1.012
Bull Health Sci Hiroasaki	0	1	0
Radiat Med	0	2	0
Radiat Res	2.602	1	2.602
Total		5	3.614

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨床放射線	2	1
臨床腫瘍プラクティス	1	1
脳神経外科速報	1	
肺癌		1
画像診断		1
リウマチ科		1
救急医学		1
計	4	6

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	2	3

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
青森県立中央病院医誌	1	
北日本放射線腫瘍学研究会誌	1	
画像診断		1
癌と化学療法		1
BRAIN and Nerve		1
計	2	3

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Ono S, Miura H, Nagahata M, Ohata T, Tsushima F, Abe Y: Radiation Lung Injury after Stereotactic Body Radiation Therapy: Its Relationship with the Isodose Areas 92nd annual meeting of RSNA; Radiological Society of North America. (Nov 2006, Chicago IL, USA)
- C.2. M. Aoki, H. Kondo, Y. Hatayama, H. Kawaguchi and Y. Abe : Clinical outcome of stereotactic body radiotherapy of 54 Gy in 9 fractions for patients with localized lung tumors using a simple fixation. 1st Hokkaido International Crosscutting Symposium Molecular Bio-imaging and 4D Image-guided radiotherapy, 2006.Sapporo

2007年度

- C.1. M.Aoki, Y.Abe, Y.Hatayama, H.Kawaguchi, Y.Liu: Stereotactic body radiotherapy for patients with localized lung tumor: an interim report of phase I/II study. The 5th Japan-US Cancer Therapy Symposium and the 5th S.Takahashi Memorial Joint Symposium. September 7-9, 2007, Sendai, Japan
- C.2. Y.Liu, Y.Abe, K.Kudo, M.Aoki, D-L.Hu, A.Nakane, H.Kijima: Radiation-induced hypoxia expression in mouse radiation proctitis. The 5th Japan-US Cancer Therapy Symposium and the 5th S.Takahashi Memorial Joint Symposium. September 7-9, 2007, Sendai, Japan
- C.3. M. Nagahata, Y.Abe, S.Ono, H.Miura, T.Ohata, F.Tsushima, K.Morimoto, H.Seino, T.Tsuji, Y.Kaibara, M.Nakajima. 3D basilar wall extraction (3D-BWEX) method: a new MRI technique to visualize the intracranial vertebrobasilar arterial wall. 32nd European Society of Neuroradiology (ESNR) annual meeting, Genoa, Italy, September, 2007.
- C.4. F. Tsushima, M.Nagahata, S.Ono, H.Seino, K.Morimoto, T.Ohata, H.Miura, Y.Abe, S.Kakehata, K.Shiburani, H.Midorikawa, M.Ogawa. Fractional anisotropy (FA) measurement at the cerebral peduncles: early detection of Wallerian degeneration in patients with acute stroke. 32nd European Society of Neuroradiology (ESNR) annual meeting, Genoa, Italy, September, 2007
- C.5. Nagahata M, Abe Y, Ono S, Aoki M, Miura H, Ohata T, Kondo H, Hatayama Y, Kawaguchi H, Shimamura N, Ohkuma H : Effective patients' head fixation for the neuro-interventional procedure under local anesthesia: usefulness of our new custom-made head-fixing system (Zorro-mask system). 32nd European Society of Neuroradiology (ESNR) annual meeting, Genoa, Italy, September, 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- C. 5 件

2007年度

- A.1. 青木昌彦, 阿部由直, 畑山佳臣, 川口英夫, 近藤宏宏. 肺腫瘍に対する体幹部定位照射: 中等度の線量を用いた線量増加試験—中間報告—第45回日本癌治療学会総会優秀演題講演, 京都, 2007
- B.1. 阿部由直. 生物: 放射線科医が知っておくべき生物—「臨床的生物」第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 平成19年10月27日, 名古屋
- C. 23件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

第45回日本癌治療学会総会優秀演題賞

青木昌彦

肺腫瘍に対する体幹部定位照射：中等度の線量を用いた線量増加試験－中間報告－

Ⅳ. 共同研究

2006年度

(株)日本原燃「放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究」

2007年度

(株)日本原燃「放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究」

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

基盤研究(A)(1)早期の癌に対する放射線治療の現状報告と文献レビューおよび研究方法の提案（代表，山田章吾）

2007年度

他研究単位との研究分担者として

早期の癌に対する標準的放射線治療方法確立のための臨床試験

研究代表者：山田章吾

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として

助成名称：エーザイ 2006年度奨学寄付金による研究，研究種目，研究課題：放射線肺障害の経時変化の研究，研究代表者名：小野修一，配分額（単位：千円）

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2006年度

劉 勇（医学研究科3年）

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006年度

第36回放射線による制癌シンポジウムー基礎と臨床の対話ー 世話人 阿部由直

第45回日本医学放射線学会生物部会学術大会 大会長 阿部由直

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

第45回日本肺癌学会東北支部会 大会長 阿部由直

第32回日本呼吸器内視鏡学会東北支部会 大会長 阿部由直

第40回北日本放射線診断カンファランス 当番世話人 小野修一

第11回北奥羽放射線治療懇話会 事務局 青木昌彦

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

26. 産科婦人科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

Impact factor の付いた論文数が増加し，十分な成果を上げることができた。

理念：

地方大学の特色を十分活かし，活気あふれる教室を形成，運営する。

これから2年間の目標：

今年度の成果を基盤とし，更に上昇するよう努力する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 2，助手 4，医員 0，大学院学生 6，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	水沼 英樹	平成18年4月～平成19年3月
	助教授	専 任	藤井 俊策	平成18年4月～平成19年3月
	講 師	専 任	樋口 毅	平成18年4月～平成19年3月
	講 師	専 任	横山 良仁	平成18年4月～平成19年3月
	助 手	専 任	福井 淳史	平成18年4月～平成19年3月
	助 手	専 任	二神 真行	平成18年4月～平成19年3月
	助 手	専 任	山本 善光	平成18年4月～平成19年3月
	助 手	専 任	木村 秀崇	平成18年4月～平成19年3月
研究課題	1．妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究 2．血球系幹細胞を用いた前胚状卵胞の体外成熟の研究 3．婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究 4．妊娠高血圧症候群の原因の解明と予知法の開発に関する研究 5．多胎妊娠の予防法に関する研究 6．早産の治療法に関する研究			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 2，助教 4，助手 0，医員 0，大学院学生 5，研究生 2			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教授	専 任	水沼 英樹	平成19年4月～平成20年3月
	准教授	専 任	藤井 俊策	平成19年4月～平成20年3月
	講師	専 任	樋口 毅	平成19年4月～平成20年3月
	講師	専 任	横山 良仁	平成19年4月～平成20年3月
	助教	専 任	福井 淳史	平成19年4月～平成20年3月
	助教	専 任	二神 真行	平成19年4月～平成20年3月
	助教	専 任	山本 善光	平成19年4月～平成20年3月
	助教	専 任	木村 秀崇	平成19年4月～平成20年3月
研究課題	1．妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究 2．血球系幹細胞を用いた前胚状卵胞の体外成熟の研究 3．婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究 4．妊娠中毒症の原因の解明と予知法の開発に関する研究 5．多胎妊娠の予防法に関する研究 6．早産の治療法に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Yokoyama Y, Moriya T, Takano T, Shoji T, Takahashi O, Nakahara K, Yamada H, Yaegashi N, Okamura K, Izutsu T, Sugiyama T, Tanaka T, Kurachi H, Sato A, Tase T, Mizunuma H. Clinical outcome and risk factors for recurrence in borderline ovarian tumours. *British Journal of Cancer* 2006;94:1586-1591.
- A.2. Yokoyama Y, Futagami M, Higuchi T, Mizunuma H. Pharmacokinetic analysis of paclitaxel and carboplatin in a patient with advanced ovarian cancer during hemodialysis - case report. *Eur. J. Gynaec. Oncol* 2006;27:437-439.
- A.3. Kasai A, Yokoyama Y, Mizunuma H. A case of cellulitis that complicated lymphedema of the lower limb and produced systemic inflammatory response syndrome (SIRS). *Eur. J. Gynaec. Oncol* 2006;27:419-421.
- B.1. Kudo T, Asano J, Shimizu T, Nagashima N, Fan Y, Akita M, Ookawa K, Hayakari M, Yokoyama Y, Suto K, Tsuchida S. Different susceptibility to peroxisome proliferator-induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase genes. *Cancer Sci* 2006;97:703-709.
- B.2. Fukui A, Ntrivalas E, Gilman-Sachs A, Kwak-Kim J, Lee SK, Levine R, Beaman K. Expression of natural cytotoxicity receptors and a2V-ATPase on peripheral blood NK cell subsets in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures, *Am J Reprod Immunol*. 2006;56(5-6):312-20
- B.3. Futagami M, Sakamoto T, Sakamoto A, Shigetou T, Taniguchi R, Sato S, Tutaya S, Kojima K, Ysujima M, Mizunuma H. A pregnant woman with genetic variants of butyrylcholinesterase and inflammatory bowel disease. *J Obstet Gynaecol*. 2006;Aug;26(6):562-3.

2007年度

- A.1. Yokoyama Y, Xin B, Shigeto T, Umemoto M, Kasai A, Futagami M, Tsuchida S, Al-Mulla F, Mizunuma H. Clofibric acid, a peroxisome proliferator-activated receptor α ligand, inhibits growth of human ovarian cancer. *Mol Cancer Ther* 2007;6:1379-1386.
- A.2. Xin B, Yokoyama Y, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H. Inhibitory Effect of Meloxicam, a Selective Cyclooxygenase-2 Inhibitor, and Ciglitazone, a Peroxisome Proliferator-Activated Receptor Gamma Ligand, on the Growth of Human Ovarian Cancers. *CANCER* 2007;110:791-800.
- A.3. Shigeto T, Yokoyama Y, Xin B, Mizunuma H. Peroxisome proliferator-activated receptor α and γ ligands inhibit the growth of human ovarian cancer. *ONCOLOGY REPORTS* 2007;18:833-840.
- A.4. Tanaka K, Taniguchi R, Higuchi T, Ozaki T, Mizunuma H, Takagaki K. 4-Methylumbelliferone inhibits hyaluronate synthesis in human uterine cervical fibroblasts. *J. Obstet. Gynaecol. Res* 2007;33:772-776.
- A.5. Xin B, Yokoyama Y, Shigeto T, Mizunuma H. Anti-Tumor Effect of Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs on Human Ovarian Cancers. *PATHOLOGY ONCOLOGY RESEARCH* 2007;13:365-369.
- A.6. Yuzawa E, Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Fukuhara R, Kimura H, Fukui A, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K et al. (2008) Retinoic acid-inducible gene-1 is induced by interferon-gamma and regulates CXCL11 expression in HeLa cells. *Life Sci* 82, 670-675.
- A.7. Fukuhara R, Fujii S, Nakamura R, Yuzawa E, Kimura H, Fukui A, Mizunuma H (2008) Erythrocytes counteract the negative effects of female ageing on mouse preimplantation embryo development and blastocyst formation. *Hum Reprod* 23, 2080-2085.
- A.8. Fujii S (2008) Biomarkers for embryo quality. *J Mamm Ova Res* 25, 1.
- A.9. Yokoyama Y, Xin B, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H. Clofibric acid, a peroxisome proliferator-activated receptor α ligand, enhances a suppressive effect of cis-diaminedichloroplatinum on proliferation of ovarian carcinoma cells. *Clin Med: Oncology*, 2007;1:1-6.
- B.1. Hayashi K, Mizunuma H, Fujita T, Suzuki S, Imazeki S, Katanoda K, Matsumura Y, Kubota T, Aso T. Design of the Japan Nurses' Health Study: A Prospective Occupational Cohort Study of Women's Health in Japan. *Industrial Health* 2007;45:679-686.
- B.2. Fujita T, Hayashi K, Katanoda K, Matsumura Y, Lee JS, Takagi H, Suzuki S, Mizunuma H, Aso T. Prevalence of Diseases and Statistical Power of The Japan Nurses' Health Study. *Industrial Health* 2007;45:687-694.
- B.3. Fujimoto T, Nanjyo H, Nakamura A, Yokoyama Y, Takano T, Shoji T, Nakahara K, Yamada H, Mizunuma H, Yaegashi N, Sugiyama T, Kurachi H, Sato A, Tanaka T. Para-aortic lymphadenectomy may improve disease-related survival in patients with multipositive pelvic lymph node stage IIIC endometrial cancer. *Gynecologic Oncology* 2007;107:253-259.
- B.4. Fukui A, Kwak-Kim J, Ntrivalas E, Gilman-Sachs A, Lee SK, Beaman K. Intracellular cytokine expression of peripheral blood natural killer cell subsets in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures. *Fertil Steril* (2008) 89:157-165.
- C.1. Wu R, Fujii S, Ryan NK, Van der Hoek KH, Jasper MJ, Sini I, Robertson SA, Robker RL, Norman RJ (2007) Ovarian leukocyte distribution and cytokine/chemokine mRNA expression in follicular fluid cells in women with polycystic ovary syndrome. *Hum Reprod* 22, 527-535.

和文

2006年度

- A.1. 山本善光, 田中加奈子, 松倉大輔, 田中幹二, 尾崎浩士, 水沼英樹. 妊娠初期における nuchal translucency の計測. 青森県臨床産婦人科医会誌 2006;21:12-15.
- A.2. 藤井俊策, 湯澤 映, 田中加奈子, 中村理果, 福原理恵, 木村秀崇, 福井淳史, 水沼英樹. 生殖における精漿の免疫修飾作用: review. 青森県臨床産婦人科医会誌 2006;21:16-31.
- A.3. 木村秀崇, 藤井俊策, 福原理恵, 湯澤 映, 樋口 毅, 水沼英樹, 坂本知巳. アッシャーマン症候群に対する子宮鏡下手術で子宮穿孔を生じた一例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2006;21:32-35.
- A.4. 藤井俊策, 木村秀崇, 湯澤 映, 福原理恵, 福井淳史, 水沼英樹. 多嚢胞性卵巣症候群に対する腹腔鏡下卵巣多孔術: review. 青森県臨床産婦人科医会誌 2007;21:92-107.
- A.5. 藤井俊策. 産婦人科の魅力をどうアピールするかー広報とイメージ戦略ー. セミナー医療と社会 29:18-22, 2006.

2007年度

- A.1. 樋口 毅, 谷口綾亮, 田中幹二, 水沼英樹. 選択的エストロゲン受容体モジュレーターの影響についての検討 (第2報). Osteoporosis Japan 2007;15:47-51.
- A.2. 谷口綾亮, 樋口 毅, 松倉大輔, 田中幹二, 高垣啓一, 水沼英樹. 骨細胞外マトリックスにおけるグリコサミノグリカン糖鎖の変化と骨の脆弱化ー両側卵巣摘出ラットにおける検討ー. Osteoporosis Japan 2007;15:7-9.
- A.3. 福井淳史, 重藤龍比古, 藤井俊策, 水沼英樹. 子宮腺筋症核出術時に使用したフィブリノゲンシート製剤によると考えられた高度癒着および創癒合不全を腹腔鏡で診断した1例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2007;22:20-25.
- A.4. 二神真行, 横山良仁, 樋口 毅, 水沼英樹, 佐藤重美. 青森県における子宮がん検診の現状ー特に30歳未満の若年者についてー. 日本臨床細胞学会東北支部連合会会報 2008;10-14.
- A.5. 二神真行, 柞木田礼子, 横山良仁, 樋口 毅, 水沼英樹. 骨盤内放線菌症の1例. 青森県臨床産婦人科医会誌 22:81-84, 2007
- A.6. 中村理果, 藤井俊策, 重藤龍比古, 谷口綾亮, 木村秀崇, 福井淳史, 水沼英樹. ストロンチウムによる卵活性化顕微授精により健児を得た一例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2008;22:85-90.
- A.7. 樋口 毅, 柞木田礼子, 阿部和弘, 谷口綾亮, 水沼英樹. 服用時間を変えたりセドロネート投与の骨密度, 骨代謝への影響についての検討. Osteoporosis Japan 2008;16:470-472.
- A.8. 柞木田礼子, 阿部和弘, 谷口綾亮, 樋口 毅, 水沼英樹, 中路重之. 一般女性における脂質系と音響的骨評価値の相関に関する検討. Osteoporosis Japan 2008;16:432-435
- B.1. 中路重之, 鎌田梨沙, 横山良仁. がんの疫学 (8) 卵巣がん. 臨床腫瘍プラクティス 3:108-117, 2007
- B.2. 五十嵐世津子, 藤井俊策, 木村秀崇, 水沼英樹 (2008) 生殖医療を受けている女性の不安. 母性衛生 49, 84-90.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 樋口 毅, 谷口綾亮, 水沼英樹. 閉経後の骨粗鬆症の診断, 治療の考え方. 産婦人科治療 2006;92:375-379.
- A.2. 樋口 毅, 水沼英樹. 外陰・膣異常. 臨床婦人科産科 2006;60:558-561.
- A.3. 福井淳史, 木村秀崇, 藤井俊策, 水沼英樹. ギナトトロピンの臨床応用 排卵誘発. 日本臨牀 2006;64:230-236.
- A.4. 水沼英樹. SERM を使いこなす特集にあたって. 性差と医療 2006;3:722.
- A.5. 水沼英樹. QOL からみた更年期女性のトータルヘルスケア. 産婦人科治療 2006;93:8-14.
- A.6. 横山良仁, 水沼英樹. 産婦人科医不足の現状と研修医・医学部学生の産婦人科に対する意識調査結果. セミナー医療と社会 2006;3:10.
- A.7. 水沼英樹. 特集 (更年期障害の正体にせまる!) そもそも更年期障害とはー西洋医学の観点からー. 武田薬報 2006;3:1-7.
- A.8. 谷口綾亮, 田中幹二, 樋口 毅, 高垣啓一, 水沼英樹. 加齢による骨の変化ーグリコサミノグリカン糖鎖からみた検討ー. Osteoporosis Japan 2006;14:443-446.
- A.9. 樋口 毅, 谷口綾亮, 田中幹二, 水沼英樹. 選択的エストロゲン受容体モジュレーターの影響についての検討. Osteoporosis Japan 2006;14:488-490.
- A.10. 水沼英樹. これからの更年期医療. FUJI Infertility Menopause News 2006;5:1.
- A.11. 谷口綾亮, 樋口 毅, 水沼英樹. 更年期医療における SERM の臨床的意義. 産婦人科治療 2006;93:403-408.
- A.12. 水沼英樹. 骨粗鬆症 Q&A 骨粗鬆症治療薬の選択はどのようにおこなえばよいのでしょうか?. 骨粗鬆症治療 2006;5:64-66.

- A.13. 水沼英樹. 多嚢胞性卵巣症候群の病態生理. 日本産科婦人科学会雑誌 2006;58:1603-1608.
- A.14. 水沼英樹. 骨粗鬆症の予防と治療におけるホルモン補充療法の役割—日本骨粗鬆症学会のガイドラインを考へる—. 日本更年期医学会ニューズレター 2006;12:1.
- A.15. 二神真行, 横山良仁, 樋口 毅, 水沼英樹. 若年者と子宮がん検診. 産婦人科治療 2006;93:642-648.
- A.16. 水沼英樹. ホルモン Q&A Q1.GnRHα 投与による骨密度低下が心配である. 装置がないため骨密度は測定できないが, 投与にあたってどのような点に注意すればよい? また, 骨密度測定に代わる方法はないか? Q2. 更年期症状に対する, エストロゲン, 自律神経調整薬, マイナートランキライザー, 漢方薬の使い方を教えてほしい. HORMONE FRONTIER GYNECOLOGY 2006;13:389-391.
- A.17. 水沼英樹. ホルモン療法. 更年期と加齢のヘルスケア 2006;5:324-329.
- A.18. 水沼英樹. 特集 (EBM から NBM へ—中高年女性クライアントに対する説明) 更年期医学の現状と未来. 産婦人科の実際 2006;55:1987-1992.
- A.19. 樋口 毅, 谷口綾亮, 水沼英樹. 骨粗鬆症と性差. 産科と婦人科 2006;73:1757-1764.
- A.20. 福原理恵, 水沼英樹. 「ピルの副作用と新ガイドライン1. 血栓症1)」ピルと血栓症. 臨床婦人科産科 2006;60:1448-1453.
- A.21. 谷口綾亮, 樋口 毅, 水沼英樹. 特集「女性のライフサイクルの変化と産婦人科医療」閉経後の女性の健康管理. 産科と婦人科 2007;57:57-61.
- A.22. 田中加奈子, 山本善光, 田中幹二, 尾崎浩士, 水沼英樹. 特集「産科出血をとめる—その予知, 予防と対処法—」腹腔妊娠. 産婦人科の実際 2007;56:153-158.
- A.23. 水沼英樹. WHI 以降の日本の実情と課題. 日本産科婦人科学会雑誌 2007;59:891-896.
- A.24. 福原理恵, 藤井俊策, 水沼英樹. I. 妊娠前 3. 女性不妊. 周産期医学必修知識 2006;36:8-10.
- A.25. 藤井俊策. 日常外来で遭遇する痛みへの対応. 日産婦誌 58:N390-N394, 2006.
- A.26. 藤井俊策, 木村秀崇. 内膜症の ART. 臨婦産 60:195-199, 2006.
- A.27. 藤井俊策, 田中加奈子. 卵巣過剰刺激症候群 (OHSS). 産と婦 74:181-187, 2006.
- A.28. 藤井俊策. 一般不妊検査・治療の再評価—臨床的意義と限界— PCT (性交後試験). 産婦実際 56:679-684, 2007.
- A.29. 藤井俊策. 着床障害 (胚盤胞移植). 日産婦誌 2007
- A.30. 藤井俊策, 田中加奈子. 日常外来で遭遇する痛みへの対応. 産婦治療 94, 2007.
- A.31. 藤井俊策, 重藤龍比古. 産婦人科でよくみられる疼痛とその対策. 産婦治療 2007.
- B.1. 西沢良記, 中村利孝, 白木正孝, 太田博明, 福永仁夫, 水沼英樹, 三木隆巳, 茶木 修, 荻野 浩, 市村正一. 新規骨代謝マーカーを用いた塩酸ラロキシフェンの閉経後骨粗鬆症に対する効果判定の検討 (中間報告). Osteoporosis Japan 2006;14:231-235.
- B.2. 折茂 肇, 細井孝之, 水沼英樹, 武藤芳照. 座談会 骨粗鬆症の予防. THE BONE 2006;20:121-133.
- B.3. 中村利孝, 水沼英樹, 野崎雅裕, 岡崎 亮, 荻野 浩. MMJ 座談会 骨粗鬆症の薬物療法最前線. MMJ 日本語版 (7月号) 2006

2007年度

- A.1. 谷口綾亮, 樋口 毅, 水沼英樹. 特集「産婦人科医に必要な骨粗鬆症の知識—特に SERM について—」SERM とは—その特長と作用—. 産婦人科治療 2007;94:955-958.
- A.2. 谷口綾亮, 樋口 毅, 水沼英樹. 特集「話題の薬物療法」骨粗鬆症と選択的エストロゲン受容体モデュレーター. 産科と婦人科 2007;74:572-576.
- A.3. 藤井俊策, 福原理恵, 木村秀崇, 水沼英樹. 特集「一般不妊検査・治療の再評価—臨床的意義と限界—」性交後試験 (PCT). 産婦人科の実際 2007;56:679-684.
- A.4. 水沼英樹. 特集「骨粗鬆症—診断・治療の最前線」ホルモン補充療法の最近の考え方. 日本医師会雑誌 2007;136:266.
- A.5. 水沼英樹. 連載 EBM 講座「ラロキシフェンの骨外作用」. 骨粗鬆症治療 2007;6:48-52.
- A.6. 水沼英樹. 特集「エストロゲンとその代謝酵素の関連疾患」HRT の現状と将来. 産婦人科の実際 2007;56:1167-1172.
- A.7. 田中幹二, 水沼英樹. 連載「産婦人科医師不足の問題点と対策」2. 地元に居着く医学部入試制度・教育—弘前大学医学部の取り組み—. 産婦人科の実際 2007;56:1233-1238.
- A.8. 二神真行, 横山良仁, 樋口 毅, 水沼英樹. 特集「子宮頸部の病変とその対策」30歳未満の子宮がん検診. 産婦人科治療 2007;95:254-259.
- A.9. 水沼英樹. 臨床《6》閉経後女性における β ブロッカーの保護効果: 骨折, 骨密度, および骨の立体および微細構造に及ぼす影響について. 骨粗鬆症治療 2007;6:337.
- A.10. 水沼英樹. 臨床《7》正常から重篤な腎機能低下を有する女性におけるアレンドロネート治療: Fracture Intervention Trial の解析. 骨粗鬆症治療 2007;6:337.
- A.11. 水沼英樹. 新時代の骨粗鬆症学—骨折予防を見据えて—Ⅶ. 骨代謝マーカー「骨代謝マーカーを利用した骨粗鬆症診療の実際」. 日本臨牀 2007;65:227-230.
- A.12. 水沼英樹. 新時代の骨粗鬆症学—骨折予防を見据えて—Ⅸ. 最近の大規模臨床試験 (含む進行中) の概要「CORE Study」. 日本臨牀 2007;65:294-298.
- A.13. 水沼英樹. 新時代の骨粗鬆症学—骨折予防を見据えて—ⅩⅣ. 原発性・続発性骨粗鬆症—診断・治療—「閉経後骨粗鬆症」. 日本臨牀 2007;65:490-494.
- A.14. 水沼英樹. 特集「子宮内膜症の薬物療法」GnRH アゴニスト. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2007;14:301-305.

- A.15. 水沼英樹. ホルモン Q&A 「挙児希望の患者さんに GnRHa 療法を行い骨密度が減少した場合、骨吸収抑制薬の投与を考えています、胎児への影響を考慮する必要があるでしょうか?」. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2007;14:363-365.
- A.16. 谷口綾亮, 樋口 毅, 水沼英樹. 骨粗鬆症治療におけるホルモン補充療法と SERM の意義. クリニカ 2007;34:367-371.
- A.17. 水沼英樹, 石橋清人, 村井 肇. 産婦人科・整形外科から見た骨粗鬆症治療の考え方. Medical Tribune 2007;2部:1-4.
- A.18. 水沼英樹. WHI の功罪－ HRT は今. Chiba Journal of Obstetrics and Gynecology 2008;1:1-5.
- A.19. 樋口 毅, 柞木田礼子, 阿部和弘, 谷口綾亮, 水沼英樹. “特集「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン（2006 年版）の読み方と使い方－エビデンスベースドプラクティスを目指して－」各科からみたガイドラインの使い方, 考え方Ⅲ 婦人科”. 骨粗鬆症治療 2008;7:62-66.
- A.20. 水沼英樹. HRT ガイドライン作成に向けて「ガイドライン作成の経過と概要」. 日本更年期医学会雑誌 2008;16:172-174.
- A.21. 藤井俊策, 福井淳史, 福原理恵, 水沼英樹 (2009) NK 細胞. Hormone Frontier in Gynecology.
- A.22. 藤井俊策, 水沼英樹 (2008) PCOS の疾患概念と新診断基準：何がどう変わったか. Hormone Frontier in Gynecology 15,271-278.
- A.23. 藤井俊策, 谷口綾亮, 木村秀崇 and 福井淳史 (2008) 子宮内膜症の ART 療法. 産婦治療 96,283-287.
- A.24. 藤井俊策 (2008) 妊孕性温存を求められる背景. In 日本産婦人科医会研修委員会 (ed) 研修ノート No83「妊孕性を温存する婦人科治療－温存を求められた場合の情報提供」. 日本産婦人科医会, 東京.
- A.25. 田中加奈子, 山本善光, 田中幹二, 尾崎浩士, 水沼英樹. 産科出血を止める－その予知, 予防と対処法. 産婦人科の実践 2007;56:153-158
- A.26. 樋口 毅, 水沼英樹. 骨粗鬆症における長期の服薬コンプライアンスを維持するために. Osteoporosis Japan 2008;16:413.
- A.27. 柞木田礼子, 樋口 毅, 水沼英樹. 予防と治療「女性ホルモン製剤の使い方」. medicina 2008;45:489-493.
- B.1. 苛原 稔, 松崎利也, 藤井俊策, 水沼英樹, 内田 浩, 吉村泰典, 久具宏司, 武谷雄二, 高橋健太郎, 野田陽一, 松尾隆志, 堂地 勉. 全自動化学発光免疫測定法を原理とした ARCHITECT® アナライザー i2000® による下垂体・性腺ホルモン6項目測定法の臨床的検討. 産婦人科治療 2008;96:106-114.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006 年度

- A.1. 藤井俊策. 不妊症（体外受精を含む）Infertility (including In Vitro Fertilization and Embryo Transfer:IVF-ET). 今日の治療指針 2007. 東京：医学書院；2007.
- A.2. 藤井俊策. 子宮・頸管因子. 柴原浩章, 森本義晴. 京野廣一編. 図説コメディカルのための臨床不妊症学入門. 東京：中外医学社；2007.
- A.3. 藤井俊策, 田中加奈子. 卵巣過剰刺激症候群. 綾部琢哉, 岩下光利, 峯岸 敬, 吉川裕之編. 産婦人科新画像診断. 東京：診断と治療社；2007;181-187.
- A.4. 樋口 毅. 骨粗鬆症. 水島 豊, 菅世智子編. 市民のための老年病学－健やかな老後をあなたに－. p.54-59. 弘前大学出版会；弘前；2007.
- A.5. 福井淳史, 藤井俊策, 水沼英樹. OHSS の病態と対策. 図説 ART マニュアル改訂第二版. 2006, 永井書店. 241-249

2007 年度

- A.1. 水沼英樹. 産婦人科疾患の治療の動向. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢総編集. 今日の治療指針 2007 年版. 東京：医学書院；2007;p.871.
- A.2. 水沼英樹. 骨粗鬆症の治療－骨粗鬆症の治療薬の使い分けを教えてください－. 鈴木光明, 吉村泰典編集. 産婦人科 専門医にきく最新の臨床. 東京：中外医学社；2007;p.407-408.
- A.3. 樋口 毅, 谷口綾亮, 水沼英樹. 更年期障害・老年期障害. 本庄英雄, 島田和幸編集. 必携 女性の医療学－外来で役立つ実践ガイド－. 大阪：永井書店；2007;p.275-283.
- A.4. 水沼英樹. 15 章 妊産婦, 婦人科疾患「月経困難症」. 大田 健, 奈良信雄編集. 今日の診断基準. 東京：南江堂；2007;p.865.
- A.5. 水沼英樹. 15 章 妊産婦, 婦人科疾患「月経前緊張症」. 大田 健, 奈良信雄編集. 今日の診断基準. 東京：南江堂；2007;p.866.
- A.6. 水沼英樹. 15 章 妊産婦, 婦人科疾患「更年期障害, 婦人不定愁訴症候群」. 大田 健, 奈良信雄編集. 今日の診断基準. 東京：南江堂；2007;p.873-874.
- A.7. 水沼英樹. 2－ホルモン補充療法のガイドライン. 佐伯俊昭, 本庄英雄編集. 乳癌リスクからみたホルモン補充療法の治療指針. 東京：金原出版；2007;p.24-28.
- A.8. 水沼英樹. 1. 不妊因子の種類と診断 A. 排卵因子 A-4 多嚢胞性卵巣症候群(PCOS). 日本生殖医学会編集. 生殖医療ガイドライン 2007. 東京：金原出版；2007;p.61-63.
- A.9. 水沼英樹. I. 症候編 10. 産科婦人科系の症候「無月経」. 亀山正邦, 高久史磨. 今日の診断指針 第5版. 東京：医学書院；2007;p.468-470.

- A.10. 藤井俊策, 谷口綾亮, 福井淳史 (2008) 卵管鏡下卵管形成術を施行中の症例です。卵管穿孔を起こしてしまいました。どのように対処すればよいでしょうか。In 倉智博久 (ed) ここが聞きたい一産婦人科手術・処置とトラブル対処法。医学書院, 東京, pp.106-108.
- A.11. 藤井俊策, 小山 基, 鳴海俊治 (2008) 遊離皮弁移植による造腔術を施行中の症例です。直腸穿孔を起こしてしまいました。どのように対処すればよいでしょうか。In 倉智博久 (ed) ここが聞きたい一産婦人科手術・処置とトラブル対処法。医学書院, 東京, pp.109-111.
- A.12. 藤井俊策 (2008) 多嚢胞性卵巣症候群 Polycystic Ovary Syndrome (PCOS) 今日の治療指針 2008。医学書院, 東京。
- A.13. 山本善光, 尾崎浩士, 子宮頸管裂傷, MFIUC 連絡協議会編集, MFIUC マニュアル, 319-323, メディカ出版, 大阪, 2008
- A.14. 樋口 毅, 骨粗鬆症. 水島 豊, 菅世智子編. 市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにー. 弘前: 弘前大学出版会; 2007;p.54-59.
- B.1. 高木 剛, 水沼英樹. 周産期 1. 妊娠中毒症. 和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦. 経静脈治療オーダーマニュアル. 大阪: メディカルレビュー社; 2007;p.352-356.

(4) その他

英文 なし

和文

2006 年度

- A.1. 橋本 浩, 櫛方哲也, 北山眞任, 石原弘規, 廣田和美, 坂井哲博, 二神真行, 保嶋 実, 蔦谷昭司. 術前に遺伝性低コリンエステラーゼ血症を認知できずに全身麻酔導入時スキサメトリウムを使用した1症例. 麻酔 55 巻 8 号 1014-1017 (2006.08)
- B.1. 一戸志津子, 宇野恵子, 宮古まろみ, 桜庭 厚, 須藤俊之, 坂本知巳, 横山良仁, 二神真行, 佐藤重美. 肉腫様成分を認めた子宮頸部腺扁平上皮癌の1例 日本臨床細胞学会青森県支部会報 23:41-46, 2006

2007 年度

- A.1. 藤井俊策 (2008/1) 子宮内膜症患者の ART outcome FUJI Infertility & Menopause News. 富士製薬工業, 東京, p.4.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
British Journal of Cancer	4.115	1	4.115
Eur.J.Gynaec.Oncol	0.591	2	1.182
Cancer Sci	3.829	1	3.829
Am J Reprod Immunol	1.416	1	1.416
J Obstet Gynaecol	0.685	1	0.685
Total		6	11.227

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
CANCER	4.582	1	4.582
Mol Cancer Ther	5.137	1	5.137
ONCOLOGY REPORTS	1.567	1	1.567
J.Obstet.Gynaeclo.Res	0.779	1	0.779
PATHOLOGY ONCOLOGY RESEARCH	1.241	1	1.241
Life Sci	2.389	1	2.389
Hum Reprod	3.769	1	3.769
Clin Med	1.295	1	1.295
Industrial Health	0.911	2	1.822
Gynecologic Oncology	2.319	1	2.319
Fertil Steril	3.277	1	3.277
Total		12	28.177

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
青森県臨床産婦人科医会誌	4	3
セミナー医療と社会	2	
産婦人科治療	6	3
臨床婦人科産科	3	
日本臨牀	1	3
性差と医療	1	
武田薬報	1	
Osteoporosis Japan	3	5
FUJI Infertility Menopause News	1	
骨粗鬆症治療	1	5
日本産科婦人科学会雑誌	4	
日本更年期医学会ニューズレター	1	
HORMONE FRONTIER GYNECOLOGY	1	4
更年期と加齢のヘルスケア	1	
産婦人科の実際	4	4
産科と婦人科	3	1
周産期医学必修知識	1	
THE BONE	1	
MMJ 日本語版	1	
日本臨床細胞学会東北支部連合会会報		1
臨床腫瘍プラクティス		1
母性衛生		1
日本医師会雑誌		1
クリニカ		1
Medical Tribune		1
Chiba Journal of Obstetrics and Gynecology		1
日本更年期医学会雑誌		1
計	41	36

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	5	15

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
麻酔	1	
日本臨床細胞学会青森県支部会報	1	
FUJI Infertility & Menopause News		1
計	2	1

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. 水沼英樹. WHI 報告を受けてのホルモン補充療法のあり方について. 第6回サッポロ卵巣機能に関する国際シンポジウム(小樽市)2006.
- C.1. Futagami M, Yokoyama Y, Sigeto T, Higuchi T, Mizunuma H. Changes in Abnormal Cytodiagnosis of Women Under 30 Years old for Past Fifteen Years in Japan. X VIII FIGO WORLD CONGRESS OF GYNECOLOGY AND OBSTETRICS(Kuala Lumpur) 2006.

- C.2. Taniguchi R, Higuchi T, Tarakida A, Tanaka K, Takagaki K, Mizunuma H. The relationship between bone quality and glycosaminoglycans changes in an ovariectomized rat model of postmenopausal osteoporosis. X VIII FIGO WORLD CONGRESS OF GYNECOLOGY AND OBSTETRICS(Kuala Lumpur)2006.
- C.3. Tarakida A, Higuchi T, Taniguchi R, Tanaka K, Takagaki K, Mizunuma H. Effect of aging on glycosaminoglycan chains in the femur of female rat. X VIII FIGO WORLD CONGRESS OF GYNECOLOGY AND OBSTETRICS (Kuala Lumpur)2006.
- C.4. Fujii S, Kimura H, Mizunuma H. Effects of laparoscopic ovarian drilling for women with clomiphene citrate-resistant polycystic ovarian syndrome. 16th Annual Congress of International Society for Gynecologic Endoscopy(大阪市)2006
- C.5. Kimura H, Fujii S, Yuzawa E, Fukuhara R, Fukui A, Mizunuma H. Laparoscopic surgery in Endometrioma;a comparison of Laparoscopic Ethanol sclerotherapy(EST)versus cystecto-my. 16th Annual Congress of International Society for Gynecologic Endoscopy(大阪市)2007.
- C.6. Taniguchi R, Higuchi T, Kakizaki I, Tanaka K, Kon A, Mizunuma H, Takagaki K. The relationship between bone quality and glycosaminoglycans changes in an ovariectomized rat model of osteoporosis. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology(京都市)2006.
- C.7. Higuchi T. Retrospective observation of post menopausal osteopenia without drug treatment. 3rd Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation, Taipei, Taiwan, 2007, March, 1-5.
- C.8. A Fukui, EI Ntrivalas, A Gilman-Sachs, J Kwak-Kim, KD Beaman, Expression of natural cytotoxicity receptors in peripheral blood NK cell subsets of women with recurrent spontaneous abortions (RSA) or implantation failures, 26th annual meeting of American Society for Reproductive Immunology, Nashville, TN USA, 2006
- C.9. EI Ntrivalas, A Fukui, A Gilman-Sachs, R Levine, J Kwak-Kim, KD Beaman, Detection of a2V-ATPase in T regulatory cells of women with recurrent spontaneous abortions or implantation failures, 26th annual meeting of American Society for Reproductive Immunology, Nashville, TN USA, 2006

2007 年度

- A.1. Mizunuma H. Ovarian function and bone health. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology(Tokyo)2007.
- A.2. Yokoyama Y, Xin B, Shigeto T, Futagami M, Mizunuma H. New medicines for a potential inhibitor of ovarian cancer development. 4TH Canada-Japan Workshop, Hirosaki, Japan 2007
- B.1. Fujii S, Kimura H, Fukui A, Mizunuma H. Laparoscopic ovarian drilling for women with clomiphene-resistant PCOS. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology (Tokyo)2007.
- B.2. Fujimoto T, Nanjo H, Nakamura A, Yokoyama Y, Takano T, Shoji T, Nakahara K, Yamada H, Mizunuma H, Yaegashi N, Sugiyama T, Kurachi H, Sato A, Tanaka T. The relation between the number of positive pelvic lymph node site and the site of initial recurrence in endometrial carcinoma. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology(Tokyo)2007.
- B.3. Takano T, Yaegashi N, Yokoyama Y, Mizunuma H, Shoji T, Sugiyama T, Sato H, Tanaka T, Nakahara K, Kurachi H, Yamada H, Nishiyama H, Sato A. Clinical characteristics of uterine carcinosarcoma in japan tohoku gynecologic cancer unit(tgcu)study. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology(Tokyo)2007.
- B.4. Futagami M, Yokoyama Y, Higuchi T, Mizunuma H. Issues on cervical cancer screening program in Japan. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology(Tokyo)2007.
- C.1. Sigeto T, Yokoyama Y, Xin B, Mizunuma H. Peroxisome Proliferator-Activated Receptor α and γ Ligands Inhibit Growth of Human Ovarian Cancer. Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction & Reproductive Biology(Hirosaki)2007.
- C.2. Fukui A, Kimura H, Fujii S, Mizunuma H. Intracellular cytokine expression of peripheral blood natural killer cell subsets in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures. Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction & Reproductive Biology(Hirosaki)2007.
- C.3. Yuzawa E, Fujii S, Fukuhara R, Kimura H, Fukui A, Imaizumi T, Yoshida H, Matsumiya T, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K, Satoh K, Mizunuma H. Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon-g and regulates CXCL11 expression in HeLa cells. Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction & Reproductive Biology(Hirosaki)2007.
- C.4. Tanaka K, Matsukura D, Taniguchi R, Yamamoto Y, Higuchi T, Ozaki T, Mizunuma H. Development of a novel therapeutic drug for treatment of preterm delivery. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology(Tokyo)2007.
- C.5. Higuchi T, Tarakida A, Abe K, Taniguchi R, Mizunuma H. Retrospective observation of post menopausal osteopenia without drug treatment. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology (Tokyo)2007.
- C.6. Yokoyama Y, Mizunuma H. Clinical outcome and risk factors for recurrence in borderline ovarian tumors: A retrospective study at the Tohoku Gynecologic Cancer Unit. ASCO, Chicago, 2007
- C.7. Fukui A, Kwak-Kim J, Ntrivalas E, Gilman-Sachs A, Lee SK, Beaman K. Intracellular cytokine expression of peripheral blood natural killer cell subsets in women with recurrent spontaneous abortions and implantation failures, Annual meeting of American Society for Reproductive Immunology, Toronto, ON, Canada, 2007
- C.8. Kimura H. Laparoscopic surgery in Endometrioma ; a comparison of Laparoscopic Ethanol sclerotherapy (EST) versus cystectomy.16 th annual congress of international Society for Gynecologic Endoscopy (Osaka), 2007

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 水沼英樹. 骨粗鬆症を巡る最近の話題. 第38回日本結合組織学会(前橋市) 2006.
- A.2. 水沼英樹. 日本における HRT を取り巻く環境. 第21回日本更年期医学会学術集会(京都市) 2006.
- A.3. 藤井俊策. 精子の vehicle としての精漿. 生殖医療懇談会, 東京; 2006.
- A.4. 藤井俊策. PCOS ー排卵と妊娠への選択肢. 産婦人科臨床懇話会セミナー「不妊治療2007」, 東京, 2007.
- B.1. 藤井俊策. 生涯研修プログラム「日常外来で遭遇する痛みへの対応」. 第58回日産婦会, 横浜, 2006.
- B.2. 藤井俊策, 福原理恵, 木村秀崇, 福井淳史, 水沼英樹, 山口英二. 胚の形態学的評価の追跡. 第58回日産婦会, 横浜, 2006.
- B.3. 藤井俊策. 子宮 natural killer 細胞の測定意義. 第51回日本生殖医学会, 大阪, 2006.
- B.4. 藤井俊策. クリニカルカンファレンス「着床障害(胚盤胞移植)」. 第59回日産婦会, 京都, 2007.
- B.5. 藤井俊策. Day 4 桑実胚の移植. 第25回日本受精着床学会, 仙台, 2007.
- B.6. 横山良仁. 東北における産婦人科医療の現状ーどのようにして産婦人科医を増やすか. それぞれの立場から: 大学 日本産科婦人科学会東北連合地方部会, 秋田, 2006.
- B.7. 横山良仁. 卵巣境界悪性腫瘍の長期予後と再発危険因子の検討 日本婦人科腫瘍学会, 岐阜, 2006.
- B.8. 山本善光. シンポジウム どうする? 帝王切開術 第121回日本産科婦人科学会東北連合地方部会総会, 秋田, 2006.
- C. 47件

2007年度

- A.1. 水沼英樹. 生殖医療の基礎知識「排卵生涯を理解する」. 第21回不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座(東京都) 2007.
- A.2. 水沼英樹. 閉経後女性のヘルスケアにおけるホルモン療法の再評価. 生殖と女性医学(東京都) 2008.
- A.3. 藤井俊策. 胚の品質評価について第7回横浜 ART 研究会招請講演(横浜) 2008.
- A.4. 藤井俊策. 内膜症性不妊に対する低侵襲手術 第19回 JMS 不妊診療勉強会(宇都宮) 2008.
- A.5. 樋口 毅. 骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインの実践に向けて「産科婦人科診療での活用」. 第9回日本骨粗鬆症学会(東京) 2007.
- C. 39件

III. 学術賞

2006年度

Travel award, the Annual Meeting of the American Society for Reproductive Immunology, Atsushi Fukui, Expression of natural cytotoxicity receptors in peripheral blood NK cell subsets of women with recurrent spontaneous abortions (RSA) or implantation failures

平成18年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞・診療技術賞
「体外受精・胚移植における4日目桑実胚移植」木村秀崇

IV. 共同研究

2007年度

相手研究機関: University of Ottawa
研究課題: Testing of Novel Treatment Strategies for Ovarian Cancer
研究代表者: Barbara Vanderhyden, Hideki Mizunuma, Yoshihito Yokoyama

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として
横山良仁. 基盤研究(C) 高脂血症治療薬 Clofibrate の抗腫瘍剤への応用を目指した基礎的研究. 400千円
二神真行. 若手研究(B) メラトニンの抗癌剤増強作用に関する臨床応用とそのメカニズムの解析. 1,800千円

2007年度

研究代表者として
樋口 毅. 基盤研究(C) 骨の細胞外マトリックス研究ー糖鎖の変化は骨脆弱性イニシエーターかー 1,200千円

三神真行, 若手研究(B)メラトニンによる抗癌剤の副作用軽減を目指した新しい治療法の開発 (900 千円)
山本善光, 若手研究(B)ラット卵巣動静脈結紮による発育遅延モデル—血管系の発達に及ぼす影響— 500 千円

他研究単位との研究分担者として

水沼英樹, 基盤研究(C)骨の細胞外マトリックス研究—糖鎖の変化は骨脆弱性イニシエーターカー 1,200 千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006 年度

研究代表者として

青森県より 不妊専門相談センター事業の受託研究 1,400 千円

青森県受託研究 産婦人科医療の現状と将来展望に関する調査研究

水沼英樹, 横山良仁 1,000 千円

2007 年度

研究代表者として

青森県より 不妊専門相談センター事業の受託研究 1,100 千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2006 年度

研究代表者として

代謝性骨疾患研究会研究助成, 骨粗鬆症におけるプロテオグリカンの役割 (新たな骨代謝マーカーの探索), 樋口 毅, 1,000 千円

他研究単位との研究分担者として

弘前都市エリア産学官連携促進事業, プロテオグリカンのオーダーメイド, 骨代謝異常における骨組織内のプロテオグリカンの役割について 1,000 千円

2007 年度

研究代表者として

水沼英樹, 平成 19 年度 学術国際振興基金助成 1,000 千円

樋口 毅, プロテオグリカンのオーダーメイド, 骨代謝異常における骨組織内のプロテオグリカンの役割について 1,000 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

2007 年度

Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction & Reproductive Biology

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006 年度

T.J.LIN, M.D. (Mercer University School) 2006.5.17-19

2007 年度

Barbara Vanderhyden (University of Ottawa) 2007.7.30 ~ 2007.8.4

David Pepin (University of Ottawa) 2007.7.29 ~ 2007.9.23

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

2006 年度

1 名

2007 年度

王慧 大連医科大学 中国 2007 年 10 月 1 日から継続

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

2007 年度

Rosalind Franklin University of Medicine and Science / The Chicago Medical School 視察（2007 年 6 月）
福井淳史

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

2006 年度

Clinical Immunology Laboratory, Department of Microbiology and Immunology, Rosalind Franklin University of Medicine and Science / The Chicago Medical School, North Chicago, IL USA へ留学（1 年間）し，免疫学的研究および Reproductive Medicine Program へ参加

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006 年度

第 12 回日本更年期医学会ワークショップ

b) 地方レベルの学会の主催

2006 年度

第 260 回青森県臨床産婦人科医会
第 261 回青森県臨床産婦人科医会
第 262 回青森県臨床産婦人科医会
第 263 回青森県臨床産婦人科医会
第 264 回青森県臨床産婦人科医会
第 36 回青森県周生期医療研究会
第 5 回青森婦人科癌化学療法研究会
第 17 回婦人科骨粗鬆症研究会

2007 年度

第 265 回青森県臨床産婦人科医会
第 266 回青森県臨床産婦人科医会
第 267 回青森県臨床産婦人科医会
第 268 回青森県臨床産婦人科医会
第 269 回青森県臨床産婦人科医会
第 37 回青森県周生期医療研究会
第 6 回青森婦人科癌化学療法研究会
第 18 回婦人科骨粗鬆症研究会

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

2007 年度

公開特許広報：抗腫瘍剤，血管新生抑制剤およびアポトーシス誘導剤（特開 2007-126422）
卵巣癌治療剤（特開 2007-269652）横山良仁

27. 麻酔科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念

①全静脈麻酔法の全国への普及および推進に努める。

→今や全静脈麻酔といえば弘前大学といわれるまでになった。

②超音波ガイド下神経ブロックや中心静脈穿刺を全国での普及推進に努める。

→県内のみならず全国でワークショップを開催し普及に努めた。この間2冊の教科書やマニュアル本を上梓した。

③非侵襲的モニターを開発し，臨床応用する。

→唾液ストレスマーカーセンサーの開発に努め，ある程度の成果を得たが，企業側が撤退したため，そこで終了となった。

④研究においては，単独での研究だけでなく，他講座，他大学や研究所（海外を含む）との共同研究を推進する。

→海外では英国レスター大学，イタリア・フェラーラ大学，米国 GSK 研究所や国内では慶応義塾大学，岡山大学，日本光電工業などと共同研究を行い，成果を上げた。

⑤周術期管理や疼痛管理を向上させる臨床研究および基礎研究を行う。

→疼痛ストレスセンサーとしての唾液アミラーゼ，脈波伝搬時間を用いた非侵襲心拍出量に関する研究を行い，成果を上げた。

以上のように理念に基づき行動できた。

目標

① Impact factor の付いた学術誌に年に5編以上論文を発表する。

②国際学会、全国レベルでの学会で演者またはシンポジストを年間のべ3人以上を目標とする。

③科学研究費補助金に2件以上採択を目指す。

④単独または他大学と共同で著書出版を2年間で1刷以上を目標とする。

→上記目標は，全て100%クリアーした。

理念：

①全静脈麻酔法の全国への普及および推進に努める。

②超音波ガイド下神経ブロックや中心静脈穿刺を全国での普及推進に努める。

③非侵襲的モニターを開発し，臨床応用する。

④研究においては，単独での研究だけでなく，他講座，他大学や研究所（海外を含む）との共同研究を推進する。

⑤周術期管理や疼痛管理を向上させる臨床研究および基礎研究を行う。

これから2年間の目標：

① Medline に収載された英文学術誌に年に5編以上論文を発表する。

②国際学会での発表または全国レベル学会での招聘講演（特別，教育講演など）またはシンポジスト（パネルディスカッション，ワークショップ等も含む）を年間のべ3人以上出す事を目標とする。

③科学研究費補助金に2件以上採択を目指す。

④単独または他大学と共同で著書出版を2年間で1刷以上を目標とする。

⑤国際交流を活性化するためにも，海外の大学（2大学以上）との交流を行う。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 2，助手 2，医員 12，大学院学生 5，研究生 1
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職
	専任/併任の別
	氏 名
	評価年度内での在籍期間
	教 授
	専 任
	廣田 和美
	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助教授
	専 任
	石原 弘規
	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	講 師
	専 任
	橋本 浩
	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	講 師
	専 任
	佐藤 哲観
	2006.4.1 ～ 2007.3.31

	助 手	専 任	櫛方 哲也	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	北山 真任	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	工藤 剛	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	工藤美穂子	2006.4.1 ～ 2007.3.31
研究課題	1. 単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機序の一元化 2. 生理活性物質オレキシンおよびウロテンシンⅡに関する研究 3. 全静脈麻酔中の血中麻酔動態 4. Ca ²⁺ チャンネルと静脈麻酔薬 5. ブドウ糖を指示薬に用いた重症患者の体液量評価 6. 重症患者の体液管理 7. 体外循環中の送血方法が病的大動脈に与える影響の臨床的検討 8. 全身麻酔の作用機序解明—神経伝達物質の動態の面から 9. ペインクリニック 10. 超音波画像ガイドによる末梢神経ブロックに関する研究			

2007 年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 10, 大学院学生 5, 研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	廣田 和美	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	准教授	専 任	石原 弘規	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	講 師	専 任	櫛方 哲也	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	講 師	専 任	佐藤 哲観	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	木村 太	2007.11.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	北山 真任	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	工藤 剛	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	工藤美穂子	2007.4.1 ～ 2008.3.31
研究課題	1. 単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機序の一元化 2. 生理活性物質オレキシンおよびウロテンシンⅡに関する研究 3. ブドウ糖を指示薬に用いる体液量把握の研究 4. 重症患者の体液管理 5. ペンクリニック 6. 難治性疼痛 7. 全身麻酔の作用機序解明—神経伝達物質の動態の面から 8. 超音波画像ガイドによる末梢神経ブロックに関する研究 9. 重症患者に対するより良い全身管理の追求 10. 鎮痛薬ノイロトロピンの脳内ノルアドレナリン神経への関与			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006 年度

- A.1. He Y, Kudo M, Kudo T, Kushikata T, Li E, Hirota K. The effects of benzodiazepines on orexinergic systems in rat cerebrocortical slices. *Anesth Analg* 2007;104:338-40.

2007 年度

- A.1. Hirota K, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Kudo T. Role of the orexinergic system in acute haemorrhage in the rat. *Neurosci Lett*. 432:162-166, 2008
- A.2. Yatsu Y, Tsubo T, Ishihara H, Nakamura H, Hirota K. A new method to estimate regional pulmonary blood flow using transesophageal echocardiography. *Anesth Analg* 106(2):530-534,2008
- B.1. Tsubo T, Fujita A, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Continuous venovenous hemofiltration improves endotoxin induced lung injury in pigs - evaluation with ultrasonography - *Hiroaki Med J* 59(Suppl):S128-S136 (2007)
- B.2. Noto Y, Kudo M, Sato T, Ebina M, Hirota K. Effects of back massage on psychological status and salivary biomarkers. *Hiroaki Med J* 59(Suppl):S188-S192(2007)
- B.3. Hashimoto H, Kushikata T, Kudo M, Hirota K. Does long-term medication with a proton pump inhibitor induce a tolerance to H2 receptor antagonist? *J Gastroenterol* 42(4):275-278(2007)
- B.4. Kitayama M, McDonald J, Barnes TA, Calo' G, Guerrini R, Rowbotham DJ, Lambert DG. In vitro pharmacological characterisation of a novel cyclic nociceptin/orphanin FQ analogue c[Cys(7,10)]N/OFQ(1-

13)NH (2). Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol 375(6):369-376(2007)

- B.5. Shirasaki S, Fujii H, Takahashi M, Sato T, Ebina M, Noto Y, Hirota K. Correlation between salivary alpha-amylase activity and pain scale in patients with chronic pain. Reg Anesth Pain Med 32(2):120-123(2007)

和文

2006年度

- A.1. 蝦名正子, 藤田彩香, 佐藤哲観, 廣田和美. アミトリプチリンの薬疹が疑われ、諸検査で否定的となった2症例. ペインクリニック 2006;27(8):1054-5.

2007年度

- B.1. 坪 敏仁, 石原弘規, 廣田和美. 持続血液透析がエンドトキシンARDS肺に及ぼす影響. ICUとCCU 31(別): S218-S219(2007)

(2) 総説

英文

2006年度

- A.1. Hirota K. Special cases: ketamine, nitrous oxide and xenon. Best Pract Res Clin Anaesthesiol 2006;20(1):69-79.
A.2. Hirota K, Lambert DG. Measurement of [³H] PN200-110 and [¹²⁵I] omega-conotoxin MVIIA binding. Methods Mol Biol 2006;312:147-59.

和文

2006年度

- A.1. 石原弘規. ブドウ糖初期分布容量. 体液・代謝管理 2006;22(1):69-73.
A.2. 廣田和美. プロポフォールを中心とした全静脈麻酔の展望. 日本臨床麻酔学会誌 2007;27:42-9.

2007年度

- A.1. 石原弘規. ケタミンによる麻酔導入：循環動態が悪い時ほどケタミンを選択. LiSA 14(10):966-970(2007)
A.2. 北山真任. 超音波プローブとブロック針の操作法「徹底分析シリーズ」超音波ガイド下神経ブロック：基礎とブロックの実際. LiSA 14(11):1070-1073(2007)
A.3. 廣田和美. 開腹／腹腔鏡手術に役立つ超音波ガイド下区域麻酔法. 日本産婦人科医会報 59(10):12-13(2007)
A.4. 廣田和美. プロポフォールを中心とした全静脈麻酔の展望. 日本臨床麻酔学会誌 27(1):42-49(2007)
A.5. 廣田和美. オレキシンとノルエピネフリン覚醒システム. 麻酔 56(1):9-18(2007)
A.6. 櫛方哲也, 吉田 仁, 安田忠伸, 遠瀬龍二, 廣田和美, 松木明知. 麻酔と睡眠－第1部：睡眠に関する最近の知見－. 麻酔 56(9):1047-1052(2007)
A.7. 櫛方哲也, 吉田 仁, 安田忠伸, 遠瀬龍二, 廣田和美, 松木明知. 麻酔と睡眠－第2部：麻酔と睡眠の関連について－. 麻酔 56(10):1148-1154(2007)
A.8. 櫛方哲也. 内因性睡眠物質から見た麻酔機序－細胞から個体まで－. 麻酔 56(増刊):S113-S121(2007)
B.1. 吉田 仁, 廣田和美. 低カリウム血症：まれな合併症を疑う前に、基本的なチェックを忘れず、結論を急ぎ隠れた所見を見逃すな. LiSA 14(1):64-67(2007)

(3) 著書

英文

2006年度

- A.1. Ishihara H, Giesecke A. Fluid volume monitoring with glucose dilution. Springer, Tokyo, Japan, 2007

2007年度

- A.1. Kushikata T, Yoshida H, Yasuda T. 8. Cytokines and Sleep: Neuro-immune Interactions and Regulations. Pandi-Perumal SR, Cardinali DP, Chrousos GP. (Eds). Neuroimmunology of Sleep, 155-166, New York, Springer(2007) (分担執筆)

和文

2006年度

- A.1. 石原弘規. 3. 周術期に体液バランスはどう変わるか. 高崎眞弓, 弓削孟文, 稲田英一, 岩崎 寛(編). 麻酔科診療プラクティス 20. 臨床麻酔の疑問に答える生理学 2006;162-7, 東京, 文光堂
A.2. 北山真任. 第2章 各論 4. 体幹部ブロック 腹直筋鞘ブロック. 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美 (編). 超音波ガイド下神経ブロック法ポケットマニュアル 2006;85-90, 東京, 克誠堂
A.3. 北山真任. 第2章 各論 4. 体幹部ブロック 腸骨鼠径・腸骨下腹神経ブロック. 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美 (編). 超音波ガイド下神経ブロック法 ポケットマニュアル. 2006;91-96, 東京, 克誠堂
A.4. 櫛方哲也, 廣田和美. ケタミン－薬物動態の基本データと臨床での使用法の要点. 小田 裕(編著). 麻酔薬の薬物動態－基本的な考え方, 臨床で何に気をつけるか－. 2006;58-72, 東京, 真興交易

- A.5. 佐藤哲観, 緩和医療. 水島 豊, 菅世智子(編). 市民のための老年病学 2006;p128-31, 弘前, 弘前大学出版,
- B.1. 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編集). 超音波ガイド下神経ブロック法, ポケットマニュアル. 克誠堂, 東京, 2006年

2007年度

- A.1. 廣田和美. 第1章 総論 1. 持続ブロック 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編)超音波ガイド下区域麻酔法 29-35 東京, 克誠堂(2007)
- A.2. 北山真任. 第2章 各論 1. 腕神経叢ブロック 5 腋窩アプローチ 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編)超音波ガイド下区域麻酔法 76-81 東京, 克誠堂(2007)
- A.3. 北山真任. 第2章 各論 4. 体幹部ブロック 1 腹直筋鞘ブロック 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編)超音波ガイド下区域麻酔法 137-142 東京, 克誠堂(2007)
- A.4. 北山真任. 第2章 各論 4. 体幹部ブロック 2 腸骨鼠径神経ブロック・腸骨下腹神経ブロック 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編)超音波ガイド下区域麻酔法 143-148 東京, 克誠堂(2007)
- A.5. 廣田和美. 第2章 各論 7. 各種手術と神経ブロック法 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編)超音波ガイド下区域麻酔法 205-208 東京, 克誠堂(2007)
- A.6. 櫛方哲也, 廣田和美. 第4章 今後の可能性 神経保護 武田純三(監), 小坂橋俊哉(編)デクスメトミジンの使い方ー基礎と応用ー 234-242 東京, 真興交易(2007)
- A.7. 佐藤哲観, II がん闘う 36. 緩和医療 水島 豊, 菅世智子(編)市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにー 128-131 弘前, 弘前大学出版会(2007)
- B.1. 小松 徹, 佐藤 裕, 瀬尾憲正, 廣田和美(編集). 超音波ガイド下区域麻酔法 東京, 克誠堂(2007)

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. Ishihara H. (Letter to the Editor) Initial distribution volume of glucose early after cardiac surgery. *Anesth Analg* 2006;102:1904.

2007年度

- A.1. Fujita A, Kitayama M, Hirota K. Anaphylactoid shock in a patient following 5% human serum albumin infusion during off-pump coronary artery bypass grafting. *J Anesth* 21(3):396-398(2007)
- A.2. Hirota K, Terui K. Neurotoxicity of local anesthetics. *J Anesth* 21(4):531-532(2007)
- A.3. Kawaguchi Y, Hashimoto H, Kitayama M, Hirota K. (Letter to the editor) Intravenous indigo carmine might cause cerebral ischemia. *Acta Anaesthesiol Scand* 51(6):776-777(2007)
- B.1. Yoshida H, Kushikata T, Kabara S, Takase H, Ishihara H, Hirota K. Flat electroencephalogram caused by carbon dioxide pneumoperitoneum. *Anesth Analg* 105(6):1749-1752(2007)
- B.2. Fujiwara Y, Sato Y, Kitayama M, Shibata Y, Komatsu T, Hirota K. Obturator nerve block using ultrasound guidance. *Anesth Analg* 105(3):888-889(2007)

和文

2006年度

- A.1. 藤田彩香, 蝦名正子, 佐藤哲観, 廣田和美. フェンタニル貼付剤中止後に入眠時不随意運動が出現した1症例. *ペインクリニック* 2006;27(11):1479-81.
- A.2. 川口陽子, 櫛方哲也, 北山真任, 廣田和美. 大量出血を呈した肝切除に対し連続的中心静脈酸素飽和度測定が有用であった2症例ー PreSep Central Venous Oximetry Catheter® の使用経験ー. *麻酔* 2006;55(12):1502-5
- A.3. 吉田 仁, 中村仁美, 小野朋子, 櫛方哲也, 石原弘規, 廣田和美. 全静脈麻酔法を用いることで手術室外での小児術中照射を安全に管理できた1症例. *麻酔* 2006;55(5):614-6
- A.4. 橋本 浩, 櫛方哲也, 北山真任, 石原弘規, 廣田和美, 坂井哲博, 二神真行, 保嶋 実, 蔦谷昭司. 術前に遺伝性低コリンエステラーゼ血症を認知できずに全身麻酔導入時スキサメトニウムを使用した1症例. *麻酔* 2006;55(8):1014-7
- A.5. 佐藤哲観. モルヒネによるせん妄にはフェンタニルへの切り替えを考慮する. *Cancer Pain and Palliative Medicine* 2006;2(1):9
- A.6. 佐藤哲観. がん性疼痛治療におけるオピオイドの上手な使い方. *Cancer Pain and Palliative Medicine* 2006;2(2):2-3
- A.7. 櫛方哲也. 研究室便り. *日本麻酔科学会 NEWSLETTER* 2006;14(2):5
- A.8. 吉田 仁, 佐藤哲観, 橋場英二, 高瀬 肇, 廣田和美. 睡眠調節におけるサイトカインの役割. *臨床麻酔* 2006;30(10):1585-90
- A.9. 櫛方哲也. 初期臨床研修を考える: 麻酔科の取り組みと課題. *臨床麻酔* 2006;30(9):1451-4
- A.10. 廣田和美. 麻酔科医にとってのペインクリニックの必要性 (巻頭言). *ペインクリニック* 2006;27(8):955-6

2007年度

- A.1. 村上晶子, 安田忠伸, 櫛方哲也, 橋本 浩, 廣田和美. グリセリン浣腸による血色素尿の1症例. *麻酔* 56(6):689-691(2007)

- A.2. 中井希紫子, 櫛方哲也, 小野朋子, 大川浩文, 遠瀬龍二, 廣田和美. 救命士による気管挿管実習の際に発見された予期せぬ喉頭蓋嚢胞の1症例. 麻酔 56(10):1217-1219(2007)
- A.3. 廣田和美. 鼎談「日本臨床麻酔学会第26回大会」を語る. 臨床麻酔 31(1):69-90(2007)
- A.4. 佐藤哲観. 文献抄訳 Neuraxial anesthesia and analgesia in patients with preexisting central nervous system disorders. ペインクリニック 28(4):592(2007)
- A.5. 佐藤哲観. 文献抄訳 Opioid use and survival at the end of life : a survey of a hospice population. ペインクリニック 28(5):741(2007)
- A.6. 廣田和美. 印象記 日本麻酔科学会第54回学術集会. 循環制御 28(3):234-236(2007)
- A.7. 中井希紫子, 橋本 浩, 北山真任, 小野朋子, 廣田和美. 当院泌尿器科手術における希釈式自己血輸血の検討. 青森骨盤外科研究会誌 13(1):13(2007)
- A.8. 佐藤哲観. がん疼痛治療の基本. 青森骨盤外科研究会誌 13(1):22(2007)
- B.1. 橋場英二, 櫛方哲也, 橋本 浩, 廣田和美. 術中に僧帽弁前尖収縮期前方運動(SAM)を伴う左室流出路狭窄を呈した弁膜性心筋症の2症例. 麻酔 56(4):429-432(2007)
- B.2. 吉田 仁, 廣田和美. 質疑応答 術中にロビオン®を使用した場合のボルタレン®の使用について. 臨床麻酔 31(1):105-106(2007)
- B.3. 吉田 仁, 廣田和美. 研究室紹介 麻酔科学講座. 医学部ウォーカー (41):5(2007)
- B.4. 橋場英二, 遠瀬龍二, 大川浩文, 坪 敏仁, 石原弘規, 廣田和美. 2006年1月から2007年9月に当院ICU管理を必要とした骨盤内外科疾患の検討. 青森骨盤外科研究会誌 13(1):14(2007)

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Best Pract Res Clin Anaesthesiol	0	1	0
Methods Mol Biol	0	1	0
Anesth Analg	2.452	1	2.452
Total		3	2.452

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anesth Analg	2.131	1	2.131
Neurosci Lett	2.092	1	2.092
Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol	2.779	1	2.779
Reg Anesth Pain Med	2.056	1	2.056
J Gastroenterol	1.927	1	1.927
Hiroaki Med J	0	2	0
Total		7	10.985

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
ペインクリニック	1	
体液・代謝管理	1	
日本臨床麻酔学会誌	1	1
ICU と CCU		1
LiSA		3
日本産婦人科医会報		1
麻酔		4
計	3	10

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	1	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	1	1
分担執筆	5	7

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anesth Analg	2.452	1	2.452
Total		1	2.452

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth	0	2	0
Acta Anaesthesiol Scand	1.863	1	1.863
Anesth Analg	2.131	2	4.262
Total		5	6.125

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
ペインクリニック	2	2
麻酔	3	3
Cancer Pain and Palliative Medicine	2	
日本麻酔科学会 NEWSLETTER	1	
臨床麻酔	2	2
医学部ウォーカー		1
循環制御		1
青森骨盤外科研究会誌		3
計	10	12

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- A.1. 廣田和美. Protective anesthesia: TIVA vs VIMA. The Pusan District Meeting of Anesthesiologists, 釜山(韓国), 2006 年
- A.2. Ishihara H. Fluid volume and hemodynamic monitoring with glucose distribution. Forum on Anaesthesia and Intensive Care that Dedicated to Prof. B. Panning (Hannover, Germany) 2006
- B.1. Minagawa M, Ikuo Fukuda, Hashimoto H, Hatakeyama M, Daitoku K, Suzuki Y, Fukui K. An analysis of aortic flow dynamics during cardiopulmonary bypass. Xth Aortic Surgery Symposium 2006
- C.1. Sato T, Ebina M, Fujita A, Echizen M, Hirota K. The selection of opioid and measures against opioid-induced adverse reactions during the initial introduction period of opioid therapy for cancer pain. Third Asian-Pacific Symposium on Pain Control(3rd APSPC) (Marina Square, Singapore) Sept.1-3(2006)

2007 年度

- C.1. Tsubo T, Fujita A, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Effects of mild hypothermia on acute lung injury in pigs – Evaluation with transesophageal echography-. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists (San Francisco, U.S.A) Oct 15, 2007
- C.2. Kushikata T, Yoshida H, Hirota K. BIS monitor in hypercapnea, another possible application of BIS. The First World Congress of Total Intravenous Anaesthesia- TIVA TCI (Venice, Italy) Sept 27-29, 2007

(2) 全国学術集会

2006 年度

- A.1. 櫛方哲也, 吉田 仁, 廣田和美. 全身麻酔機序への一提言 – 中枢ノルアドレナリン活性を基に-. 第53回日本麻酔科学会(神戸)2006 年
- A.2. 佐藤哲観. がん性疼痛治療におけるオピオイドの上手な使い方 – フェンタニルパッチを中心に-. 第92回日本消化器病学会総会(福岡)2006 年
- A.3. 佐藤哲観. 緩和医療におけるフェンタニル. 第68回日本臨床外科学会総会(広島)2006 年
- B.1. 廣田和美, 櫛方哲也, 工藤美穂子, 工藤 剛, 吉田 仁. オレキシンとノルエピネフリン覚醒システム. 第53回日本麻酔科学会(神戸)2006 年
- B.2. 石原弘規, 大川浩文, 須郷義広, 秋山 剛, 武田 朴(パネルディスカッション). cardiac output trend solely utilizing routine cardiovascular monitors. 第53回日本麻酔科学会(神戸)2006 年
- B.3. 北山真任. 超音波ガイド下神経ブロック法ワークショップ. 第53回日本麻酔科学会(神戸)2006 年

- B.4. 佐藤哲観, 蝦名正子, 藤田彩香, 廣田和美 (パネルディスカッション). 当科における鎮痛薬としてのケタミンの使用状況. 第40回日本ペインクリニック学会(神戸)2006年
- B.5. 北山真任. ランドマーク・神経刺激ブロック法から超音波ガイド下神経ブロックへの発展. 第26回日本臨床麻酔学会(旭川)2006年
- C. 23件

2007年度

- B.1. 櫛方哲也. 内因性睡眠関連物質から見た麻酔機序—細胞から個体まで—. 第54回日本麻酔科学会(札幌市)平成19年5月31日(シンポジウム)
- B.2. 北山真任. 超音波ガイド法による体幹部末梢神経ブロックの実際. 第54回日本麻酔科学会(札幌市)平成19年6月2日(ワークショップ)
- C. 15件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

青森県医師会学術奨励特別賞 石原弘規 ブドウ糖初期分布容量に関する研究に対して 2008.3.19

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室, 代表・廣田和美, 全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
2. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室, 代表・廣田和美, 生理活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用に関する研究
3. 共同研究・米国グラクソスミスクライン株式会社, 代表・廣田和美, UT-HEK293細胞を用いたウロテンシンⅡ受容体リガンドに関する研究

2007年度

1. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室, 代表・廣田和美, 全身麻酔薬の神経伝達物質放出に及ぼす影響と作用機序に関する研究
2. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室, 代表・廣田和美, 生理活性物質ウロテンシンⅡの薬理学的作用に関する研究
3. 共同研究・米国グラクソスミスクライン株式会社, 代表・廣田和美, UT-HEK293細胞を用いたウロテンシンⅡ受容体リガンドに関する研究
4. 慶応義塾大学, 岡山大学, 日本光電工業など. 多施設協同研究による脈波伝搬時間を用いた非侵襲心拍出量に関する研究. 代表研究者: 石原弘規

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

廣田和美, 工藤美穂子, 工藤 剛, 櫛方哲也, 吉田 仁
平成18年度文部科学省科学研究費 410万円(基盤研究(B))
脳内オレキシノーノルアドレナリン神経の興奮と全身麻酔機序
石原弘規, 坪 敏仁, 大川浩文

平成18年度文部科学省科学研究費 220万円(基盤研究(C))
ブドウ糖希釈法による体液量評価の検討—予後改善効果
櫛方哲也, 廣田和美, 工藤美穂子, 吉田 仁

平成18年度文部科学省科学研究費 110万円(基盤研究(C))
麻酔・手術後の睡眠障害の研究, 機構の解明と治療への試み

他研究単位との研究分担者として

福田幾夫(分担 橋本 浩)
平成18年度文部科学省科学研究費 100万円(基盤研究(B))
体外循環中の送血方法が病的大動脈壁に与える影響の臨床的検討

2007年度

研究代表者として

廣田和美 平成19年度文部科学省科学研究費 280万円(基盤研究(B))
脳内オレキシノーノルアドレナリン神経の興奮と全身麻酔機序

廣田和美 平成19年度文部科学省科学研究費 60万円（萌芽研究）
生理活性物質ウロテンシンⅡの全身麻酔および睡眠への関与
石原弘規 平成19年度文部科学省科学研究費 90万円（基盤研究（C））
ブドウ糖希釈法による体液量評価の検討ー予後改善効果
櫛方哲也 平成19年度文部科学省科学研究費 90万円（基盤研究（C））
麻酔・手術後の睡眠障害の研究，機構の解明と治療への試み

（2）その他の省庁からの研究費

なし

（3）学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

廣田和美

平成18年度学術国際振興基金助成金 45万円

他研究単位との研究分担者として

廣田和美

平成18年度弘前大学学長指定重点研究費 40万円

ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究

（分担名 血液型不適合移植の周術期管理）

2007年度

研究代表者として

第10回弘前大学医学部附属病院診療奨励賞

北山真任，廣田和美，櫛方哲也，木村 太，石原弘規，橋本 浩，吉田 仁

携帯型超音波画像診断装置を用いた末梢神経ブロックへの応用技術ーランドマーク法から視覚的穿刺法へー

第11回弘前大学医学部医学科国際化教育奨励賞

丹羽英智 英国エジンバラ大学の医学部学生，研修医教育システムの視察また本医学部の教育への応用

（4）民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

（1）国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2006年度

1. Dr. Phillip Evans, エジンバラ大学医学部，連合王国，7月31日～8月2日
2. Dr. David G Lambert, レスター大学医学部，連合王国，11月19日～24日
3. Dr. Jae-Young Kwon, 釜山大学医学部，韓国，12月2～3日

2007年度

1. Dr Bernhard Panning, ハノーヴァー医科大学，ドイツ，10月13～19日
2. Dr Tae Kyun Kim, 釜山大学医学部，韓国，12月1～2日
3. Dr Girolamo Calo', フェラーラ大学薬理学，イタリア，2月28～3月2日
4. Prof. Li Enyou, ハルビン医科大学付属第一病院麻酔科，中国，3月4～14日
5. Dr He Ying, ハルビン医科大学付属第一病院麻酔科，中国，3月4～14日
6. Dr 李悦, ハルビン医科大学付属第一病院麻酔科，中国，3月4～14日

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

2006 年度

1. 以下の国際学術誌の査読、編集に関わる

British Journal of Anaesthesia

Journal of Anesthesia

Anesthesiology

Anesthesia & Analgesia

J Applied Physiol Medical science Monitor

(2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2007 年度

1. 第 64 回日本麻酔科学会東北地方会 会長

2. 第 32 回日本ペインクリニック学会東北地方会 会長

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

| | |----------| | VII. その他 | |----------|

2006 年度

1. 以下の全国学会または地方会での座長を務めた。（廣田和美）

1) 日本臨床麻酔学会

2) 日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会

28. 脳神経外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

前回掲げた目標に対し，これを達成すべく各研究グループが研究活動に取り組んできた。その結果目標に達したと判断し得る。

理念：

脳神経外科領域において重要な課題でもある，くも膜下出血，悪性脳腫瘍の治療，深部脳腫瘍の手術治療などに焦点を当てて研究活動を行っていく。

これから2年間の目標：

これまでの研究成果を基に，これをさらに発展させ，英文原著論文数および国際学会における発表の増加に結びつけていく。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 3, 助手 4, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	大熊 洋揮	2006年4月～2007年3月
	講 師	専 任	浅野研一郎	2006年4月～2007年3月
	講 師	専 任	中野 高広	2006年4月～2007年3月
	講 師	専 任	嶋村 則人	2006年4月～2007年3月
	助 手	専 任	菊池 潤	2006年4月～2007年3月
	助 手	専 任	棟方 聡	2006年4月～2007年3月
	助 手	専 任	小笠原ゆかり	2006年4月～2007年3月
助 手	専 任	竹田 哲司	2006年4月～2007年3月	
研究課題	1. くも膜下出血後の脳血管攣縮の病態解明			
	2. くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発			
	3. 脳動脈瘤の発生機序の解明			
	4. 解離性脳動脈瘤の疫学的研究			
	5. 悪性脳腫瘍の治療法の開発			
	6. 深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発			
	7. 脳内血腫に対する神経内視鏡併用手術法の開発			
	8. 脳血管内治療における機器と技術研究			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 0, 講師 3, 助教 4, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 4 (助教), 研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	大熊 洋揮	2007年4月～2008年3月
	講 師	専 任	中野 高広	2007年4月～2008年3月
	講 師	専 任	浅野研一郎	2007年4月～2008年3月
	講 師	専 任	嶋村 則人	2007年4月～2008年3月
	助 教	専 任	菊池 潤	2007年4月～2008年3月
	助 教	専 任	小笠原ゆかり	2007年4月～2008年3月
	助 教	専 任	竹田 哲司	2007年4月～2008年3月
助 教	専 任	奈良岡征都	2007年4月～2008年3月	
研究課題	1. くも膜下出血後の脳血管攣縮の病態解明			
	2. くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発			
	3. 脳動脈瘤の発生機序の解明			
	4. 解離性脳動脈瘤の疫学的研究			
	5. 悪性脳腫瘍の治療法の開発			
	6. 深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Shimamura N, Matchett G, Solaroglu I, Tsubokawa T, Ohkuma H, Zhang J. Inhibition of integrin alphavbeta3 reduces blood-brain barrier breakdown in focal ischemia in rats. **J Neurosci Res**. 2006;84:1837-1847
- A.2. Shimamura N, Matchett G, Yatsushige H, Calvert JW, Ohkuma H, Zhang J. Inhibition of integrin alphavbeta3 ameliorates cerebral ischemic damage in the rat middle cerebral artery occlusion model. **Stroke**. 2006; 37:1902-1909.
- A.3. Shimamura N, Matchett G, Tsubokawa T, Ohkuma H, Zhang J. Comparison of silicon-coated nylon suture to plain nylon suture in the rat middle cerebral artery occlusion model. **J Neurosci Methods**. 2006;30:156:161-5

和文

2006年度

- A.1. 大熊洋揮, 菊池 潤, 棟方 聡. Clip 症例および Coil 症例における脳血管攣縮対策, 脳神経外科ジャーナル別刷, 2006;15(12):814-821
- A.2. 浅野研一郎, 竹田哲司, 小笠原ゆかり, 大熊洋揮. EGFR チロシンキナーゼ阻害(AG1478)による悪性グリオーマ治療の可能性について—In-vitro と In-vivo による検討—, **Neuro-Oncol**,2006;16,34-39

2007年度

- A.1. 嶋村則人, 菊池 潤, 棟方 聡, 大熊洋揮. 地域医療におけるクモ膜下出血初期治療の現状と問題点. **Neurosurgical Emergency** 2007;12:142-147
- A.2. 嶋村則人, 大熊洋揮, 菊池 潤, 棟方 聡, 中野高広. 過疎地域におけるクモ膜下出血治療の現状と問題点. **脳卒中の外科** 2008;36:29-32

(2) 総説

英文

2006年度

- A.1. Hiroki Ohkum, Effect of clot removal and the different incidence of vasospasm between clipping and GDC, **Neurol Res**. 2006;Jun;28(4):424-30

和文

2006年度

- A.1. 大熊洋揮. 内頸動脈瘤のクリッピング, 脳神経外科速報 ;17(1):18-28

2007年度

- A.1. 大熊洋揮, 棟方 聡, 嶋村堀人. 前交通動脈瘤—解剖と手術手技. **脳神経外科** 2007;36:27-43

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- B.1. 浅野研一郎, 脳腫瘍の外科, メディカ出版2008年(分担)

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. Asano K, Kikkukawa T, Yagihashi A, Ohkuma H, A case of anaplastic pleomorphic xanthoastrocytoma presenting with tumor bleeding and cerebrospinal fluid dissemination, **Brain Tumor Pathol**, 2006;23,55-63,2006

2007年度

- A.1. Asano K, Kikuchi J, Munakata A, Ohkuma H, Kubo O. An infant case of intracranial peripheral type primitive neuroectodermal tumor with long-term survival. Brain Tumor Pathol 24:55-63,2007

和文

2006年度

- A.1. 嶋村則人. Book & Journal Review 水頭症. 小児の脳神経 31:454-455,2006

2007年度

- A.1. 浅野研一郎. c-kit 陽性を示した脳硬膜原発 mesenchymal chondrosarcoma 脾転移の1例, 脾臓 22:494-502, 2007

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文 なし

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Neurosci Res	3.476	1	3.476
Stroke	5.391	1	5.391
J Neurosci Methods	2.243	1	2.243
Neurol Res	1.573	1	1.573
Total		4	12.683

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
脳神経外科ジャーナル	1	
Neuro-Oncol	1	
脳神経外科速報	1	
Neurosurgical Emergency		
脳卒中の外科		3
脳神経外科		
計	3	3

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
小児の脳神経 脾臓	1	1
計	1	1

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- A.1. Hiroki Ohkuma, Role of Remodeling, 9th International Conference on Cerebral Vasospasm, The Marmara Hotel Istanbul, Turkey, June 27-30, 2006.

- C.1. Norihito Shimamura, Hiroshi Yatsushige, John W Calvert, Mitsuo Y Okada, John Zhang, Austin RT Colohan, Hiroki Ohkuma: Neuroprotective effect of $\alpha V \beta 3$ -integrin inhibitor in rat MCA occlusion model. 74th Annual meeting of American Association of Neurological Surgeons, San Francisco, 2006

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 大熊洋揮. 動脈瘤・手技手術/MC, 第65回社団法人 日本脳神経外科学会総会, 国立京都国際会館, 京都宝ヶ池プリンスホテル, 2006;10.18-20
- B.1. 大熊洋揮. Clip 症例および coil 症例における脳血管攣縮対策, 第26回日本脳神経外科コンgres総会, 東京プリンスホテルパークタワー, 2006;5.12-14
- B.2. 浅野研一郎, 大熊洋揮. 悪性グリオーマ補助療法としての AG1478 による浸潤・髄液播種予防効果の可能性について, 第11回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪, 06;12.8-9
- B.3. 嶋村則人, 菊池 潤, 棟方 聡, 大熊洋揮. 地域医療におけるクモ膜下出血初期治療の現状と問題点. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2007
- C. 8 件

2007年度

- A.1. 浅野研一郎, 地方大学における temozolomide (TMZ) 加療の実態と山積する課題について. 第25回日本脳腫瘍学会2007,12,9(日)~11(火), 東京
- B.1. 嶋村則人, 奈良岡征都, 長畑守雄, 菊池 潤, 大熊洋揮. 高齢者破裂脳動脈瘤における局所麻酔下血管内治療の有益性—クリッピング術との比較検討—. 第13回日本脳神経外科救急学会 東京, 2008年01月18日—2008年01月19日
- B.2. 大熊洋揮. くも膜の限局的切開による破裂脳動脈瘤手術, 第37回日本脳卒中の外科学会, 国立京都国際会館, 2008.3.21
- C. 8 件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006年度

1. Low grade glioma の東北地区発生調査共同研究
2. 青森県小児がん調査委員会
3. 膠芽腫における髄液播種発生調査共同研究

2007年度

1. Low grade glioma の東北地区発生調査共同研究
2. 青森県小児がん調査委員会
3. 膠芽腫における髄液播種発生調査共同研究

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

科学研究費補助金 萌芽研究 「脳動脈瘤に対する局所的遺伝子治療法の開発—実験的検討—」 大熊洋揮 1,200 (千円)

2007年度

研究代表者として

科学研究費補助金 基盤研究 C 「脳循環自動調節のメカニズムに関する分子生物学的研究」 大熊洋揮 1,170 (千円)

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

2006 年度

嶋村則人 :Loma Linda University, Zhang Neuroscience Research Laboratories, CA USA, 2006 4/21-4/22

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006 年度

大熊洋揮 第 11 回弘前脳疾患臨床セミナー 弘前市

大熊洋揮 第 1 回青森県脳腫瘍セミナー 弘前市

大熊洋揮 第 12 回弘前脳疾患臨床セミナー 弘前市

大熊洋揮 第 1 回最新脳神経外科手術セミナー 弘前市

大熊洋揮 第 5 回青森県脳卒中フォーラム 青森市

2007 年度

第 13 回弘前脳疾患臨床セミナー 弘前市

第 2 回青森県脳腫瘍セミナー 弘前市

第 17 回東北脳 SPECT 研究会 弘前市

第 43 回日本脳神経外科学会東北地方会 弘前市

第 14 回弘前脳疾患臨床セミナー 弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

29. 歯科口腔外科学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度：

達成度 (70%)

理念：

大学院大学臨床系講座に所属する教員として、口腔顎顔面領域に発生する難治性疾患の病態解明とそれに対する治療法の開発を目標とし、基礎的・臨床的研究活動に従事する。

また、教員各自の研究テーマをさらに飛躍させ、研究活動を活性化させる。

これから2年間の目標：

- (1) 基礎研究では、口腔癌の新規治療の開発と病的顎骨吸収のメカニズム解明のための研究を推進する。
- (2) 臨床研究では、本院歯科口腔外科における症例動態を分析し、適切な病診連携の在り方を検討する。また、先進医療である口腔インプラントについては、安全かつ安心な術式確立のため、臨床研究を積極的に行う。
- (3) 症例報告では、稀有な症例あるいは新たな手術術式の工夫などを積極的に行う。

以上の目標を達成するため、研究成果は国内外の学会で発表し、直ちに Impact Factor のついた学会雑誌に掲載発表されるよう努力する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 4, 医員 6, 大学院学生 2, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	木村 博人	H.18.04.01. ~ H.19.03.31.
	助教授	専 任	小林 恒	H.18.04.01. ~ H.19.03.31.
	助 手	専 任	佐藤 寿	H.18.04.01. ~ H.19.03.31.
	助 手	専 任	織田 光夫	H.18.04.01. ~ H.18.10.15.
	助 手	専 任	楠美 昭則	H.18.04.01. ~ H.19.03.31.
	助 手	専 任	榊 宏剛	H.18.04.01. ~ H.19.03.31.
	助 手	専 任	成田 憲司	H.18.10.16. ~ H.19.03.31.
研究課題	1. 顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 2. 病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 3. 骨細胞の機能と骨吸収因子に関する分子生物学的研究 4. 口腔粘膜および骨の再生医療研究 5. 悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療法に関する研究 6. 口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連 7. 光線力学療法の腫瘍メカニズムの解明 8. 顎関節滑液分析による関節疾患の成因と治療法に関する研究			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 4, 助手 0, 医員 6, 大学院学生 1, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	木村 博人	H 19.04.01. ~ H 20.03.31.
	准教授	専 任	小林 恒	H 19.04.01. ~ H 20.03.31.
	助 教	専 任	佐藤 寿	H 19.04.01. ~ H 20.03.31.
	助 教	専 任	成田 憲司	H 19.04.01. ~ H 20.03.31.
	助 教	専 任	楠美 昭則	H 19.04.01. ~ H 20.03.31.
	助 教	専 任	榊 宏剛	H 19.04.01. ~ H 20.03.31.
研究課題	1. 顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究 2. 病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性 3. 骨細胞の機能と骨吸収因子に関する分子生物学的研究 4. 口腔粘膜および骨の再生医療研究			

研究課題	5. 悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療法に関する研究 6. 口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連 7. 光線力学療法腫瘍メカニズムの解析 8. 顎関節滑液分析による関節疾患の成因と治療法に関する研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Teh BG, Kobayashi W, Kobayashi M, Kado K, Kimura H. Free omental transfer for osteoradionecrosis of the mandible: Objective sequential evaluation by scintigraphy. Asian J Oral Maxillofac Sur 2006;18:180-4.
- A.2. Kubota K, Sakaki H, Imaizumi T, Nakagawa H, Kusumi A, Kobayashi W, Satoh K, Kimura H. Retinoic acid-inducible gene I is induced in gingival fibroblasts by lipopolysaccharide or poly IC: possible roles in interleukin-1 beta, -6 and -8 expression. Oral Microbiol Immunol 2006;21:399-406.
- B.*1. Hatakeyama M, Imaizumi T, Sakaki H, Yoshida H, Tanaka H, Kimura H, Fukuda I, Satoh K. Interleukin-1 induces the expression of vascular endothelial growth factor in human pericardial mesothelial cells. Heart Vessels 2007;22:123-7.
- B.*2. Kusumi T, Ishibashi Y, Kusumi A, Tanaka M, Sato F, Toh S, Kijima H. Osteochondritis dissecans of the elbow: histopathologic assessment of the articular cartilage and subchondral bone with special emphasis on their damage and repair. Pathol Int 2006;56:604-12.

2007年度

- A.1. Kusumi A, Sakaki H, Kusumi T, Nakagawa H, Kubota K, Oda M, Satoh H, Kimura H. Emerging Theories of Host Defense. The influence of serial passage on cyclic tensile strain-induced osteoprotegerin synthesis from normal human osteoblasts in vitro. Hirosaki University Press. 2007;59(supple)S172-87
- A.2. Nakagawa H, Matsumiya T, Sakaki H, Imaizumi T, Kubota K, Kusumi A, Kobayashi W, Kimura H. Expression of vascular endothelial growth factor by photodynamic therapy with mono-L-aspartyl chlorin e6 (NPe6) in oral squamous cell carcinoma. Oral Oncology.2007;43:544-550
- B.1. Imaizumi T, Yagihashi N, Kubota K, Yoshida H, Sakaki H, Yagihashi S, Kimura H, Satoh K. Expression of retinoic acid-inducible gene-I(RIG-I) in macrophages: possible involvement of RIG-I in atherosclerosis. J Atheroscler Thromb.2007;14:51-55
- B.2. Yoshida H, Imaizumi T, Lee SJ, Yanji K, Sakaki H, Matsumiya T, Ishikawa A, Taima K, Yuzawa E, Mori F, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene- I mediates RANTES/CCL5 expression in U373MG human astrocytoma cells stimulated with double-stranded RNA. Neurosci Res. 2007;58:199-206
- B.3. Imaizumi T, Mechti N, Matsumiya T, Sakaki H, Kubota K, Yoshida H, Kimura H, Satoh K. Expression of interferon-stimulated gene 20 in vascular endothelial cells. Microbiol Immunol 2008;52:30-35

和文

2006年度

- A.1. 成田憲司, 佐藤 寿, 榎 宏剛, 中川 祥, 久保田耕世, 木村博人. 衝突によって生じた口腔粘膜への歯ブラシ刺創の2例. 小児口腔外科 2006;16:44-7.
- A.2. 久保田耕世, 佐藤 寿, 榎 宏剛, 花田真之, 小林 恒, 木村博人. 広範な壊死性潰瘍性口内炎を伴うペーチェット病の1例. 日本口腔外科学会雑誌 2007;53:183-7.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- B.*1. 楠美智巳, 楠美昭則, 佐藤冬樹, 鬼島 宏. 高齢者骨疾患の病理. 日本臨床 2006;64:1578-82.

(3) 著書

英文

2007年度

- A.1. Kusumi A, Sakaki H, Kusumi T, Nakagawa H, Kubota K, Satoh H, Kimura H. Emerging Theories of Host Defense. The influence of serial passage on cyclic tensile strain-induced osteoprotegerin synthesis from normal human osteoblasts in vitro. 弘前医学, 59, 増補. S172-S187, 2007.

和文

2006年度

- A.1. 木村博人, 加齢による口腔機能障害. 夏目長門 編集 言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 第一版 pp.226-233 株式会社医学書院 東京 2006.
- A.2. 木村博人, 高齢者の口腔ケア. 水島 豊, 菅世智子編集. 市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにーⅠ. 老年病を理解する. pp.94-97 弘前大学出版会 2007
- A.3. 小林 恒. 口腔内のがん. 水島 豊, 菅世智子編集. 市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにーⅡ. がんと闘う. pp.176-178 弘前大学出版会 2007

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Satoh H, Kobayashi W, Sakaki H, kimura H. Huge Gingival cyst of the adult: a case report and review of the literature. Asian J Oral Maxillofac Surg. 2007;19:176-8
- A.2. Teh BG, Kobayashi W, Sato H, Kimura H. Mandibular osteoradiomyelitis after successive superselective intra-arterial chemotherapy concurrent with radiotherapy in adovaned oral cancers:report of 2cases. Asian J Oral Maxillofac Surg. 2007;19:210-4

和文

2006年度

- A.1. 楠美昭則. メカニカルストレスと骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた骨形成・骨再生の総合的基礎研究：周期的伸展刺激された細胞による骨形成の in vitro・in vivo 両面からの解析. 平成17年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書, 2007.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Oral Microbiol Immunol	2.089	1	2.089
Heart vessels	1.056	1	1.056
Pathol Int	1.108	1	1.108
Total		3	4.253

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Oral Oncology	2.569	1	2.569
J Atheroscler Thromb	2.835	1	2.835
Neurosci Res.	2.121	1	2.121
Microbiol Immunol	1.295	1	1.295
Total		4	8.82

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
小児口腔外科	1	
日本口腔外科学会雑誌	1	
日本臨床	1	
計	3	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	3	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数) なし

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- C.1. Kusumi A, Sakaki H, Kusumi T, Nakagawa H, Kubota K, Oda M, Narita K, Satoh H, Kimura H. The influence of serial passage on cyclic tensile strain-induced osteoprotegerin synthesis from normal human osteoblasts in vitro. The 10th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan, 2006.
- C.*2. Imaizumi T, Mori F, Yagihashi N, Kitamura H, Sashinami H, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Sakaki H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Takanashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic-acid inducible gene- I (RIG- I) and diseases. The 10th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. Hirosaki, Japan, 2006.

2007 年度

- C.1. Kimura H, Kobayashi W, Sakaki H, Sato H, Narita K, Teh BG, Nakagawa H. Intraosseous mucoepidermoid carcinoma of mandible strongly suspected from the glandular odontogenic cyst: case Report. American association of oral and maxillofacial surgeons 89th annual meeting, scientific and exhibition, Hawaii, 2007
- C.2. Nakagawa H, Sakaki H, Kubota K, Kobayashi W, Kimura H. Consideration of the expression of vegf by photodynamic therapy and examination to clinical application. American association of oral and maxillofacial surgeons 89th annual meeting, scientific sessions and exhibition, Hawaii, 2007.

(2) 全国学術集会

2006 年度

- B.1. 木村 博人. シンポジウム I 「新たな歯科医師臨床研修制度の検証」 「医学部歯科口腔外科の問題点を検証する」 第25回日本歯科医学教育学会総会記念大会, 仙台, 2006.
- B.2. 木村 博人. シンポジウム II 『何を指すかこれからの歯科医療』 「歯科医師卒後臨床研修の現況と今後の課題ーこのままでいいのか研修医制度」 第16回日本有病者歯科医療学会総会, 東京, 2007.
- C. 6 件

2007 年度

- B.1. 楠美昭則, 榑 宏剛, 中川 祥, 久保田耕世, 木村 博人. 周期的伸展刺激負荷されたヒト骨芽細胞の培養継代回数による OPG 産生と sRANKL. 発見制御の影響. 第61回日本口腔科学会学術集会, 神戸. 2007 年, ミニシンポジウム.
- C. 10 件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006 年度

研究代表者として

基盤研究 (C) メカニカルストレスと骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた骨形成・骨再生の総合的基礎研究: 周期的伸展刺激された細胞による骨形成の in vitro・in vivo 両面からの解析 楠美昭則 1,200 (千円)
若手研究 (B) 口腔粘膜における感染防御機構の解明ならびに遺伝子治療の基礎的研究 榑 宏剛 1,300 (千円)
萌芽研究 口腔癌の転移抑制を目指した MMP インヒビター療法開発のための基礎的研究 木村 博人 1,100 (千円)

他研究単位との研究分担者として

特定領域研究 メカニカルストレスおよび局所環境制御による硬組織の形態再建機序モデルの創出 織田 光夫 分担金

2007年度

研究代表者として

基盤研究 (C)：骨芽細胞・骨芽様細胞を用いた加齢によるメカニカルストレス誘導骨形成・骨代謝の解析。楠美昭則, 2,860 千円

若手研究 (B)：新規分化誘導遺伝子 RIG-I の導入による新たな口腔治療法の開発。榎 宏剛, 配分額 1,400 千円

症例研究：入院患者の口腔ケアにおける歯科衛生士—看護師間の協力体制確立に向けた研究。佐々木千香子, 640 千円

他研究単位との研究分担者として

楠美智巳：離断性骨軟骨炎の病態：罹患関節による相違と病変の組織学的機序解明。基盤研究 (C), 1,040 千円。

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

2006年度

木村博人：中国医科大学において講演ならびに臨床研究打ち合わせ 平成 18 年 8 月 29 日～平成 18 年 9 月 3 日 中華人民共和国・瀋陽

(財) 青森県国際交流協会 海外技術研修員研修 (中華人民共和国：高 楊 歯科医師) 平成 18 年 7 月 11 日～平成 19 年 2 月 16 日

研修指導責任者：木村博人

研修指導者：小林 恒, 佐藤 寿

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

30. 形成外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

論文作成が充分には行えなかった。

今後も努力が必要と思われた。

理念：

形成外科の発展に繋がる研究を行う。

これから2年間の目標：

臨床に応用していけるような研究を行うように努力する。

学会発表，論文作成を活発に行うようにする。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 3，医員 3，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	講 師	専 任	横井 克憲	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	漆館 聡志	〃
	助 手	専 任	渡辺 庸介	〃
	助 手	専 任	三上 誠	〃
研究課題	1. 創傷治癒に関する研究 2. 組織移植に関する研究 3. 皮弁生着に関する研究 4. 組織培養に関する研究			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 3，助手 0，医員 3，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	主任教授	併 任	澤村 大輔	2007. 8. 1 ～ 2008. 3. 31
	講 師	専 任	横井 克憲	2007. 4. 1 ～ 2008. 3. 31
	助 教	専 任	漆館 聡志	2007. 4. 1 ～ 2008. 3. 31
	助 教	専 任	渡辺 庸介	2007. 4. 1 ～ 2008. 3. 31
	助 教	専 任	三上 誠	2007. 4. 1 ～ 2008. 3. 31
研究課題	1. 創傷治癒に関する研究 2. 組織移植に関する研究 3. 皮弁生着に関する研究 4. 組織培養に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- B.1. Yotsuyanagi T., Mikami M., Yamauchi M., Higuma Y., Urushidate S., Ezoe K. A new technique for harvesting costal cartilage with minimum sacrifice at the donor site. J.Plast.Reconstr.Aesth.Surg. 2006;59(1):352-359.

2007年度

- B.1. Ezoe K, Yotsuyanagi T, Saito T, Ikeda K, Yamauchi M, Arai K, Urushidate S, Yokoi K. A circumferential incision technique to release wide scar contracture. J Plast Reconstr Aesthet Surg.2007;61(9):1059-1064.

和文

2006年度

- A.1. 漆館聡志, 四ッ柳高敏, 三上 誠, 樋熊有子, 渡辺庸介, 新明康宏, 横井克憲. 腋窩毛巣洞の2例. 2006;49(7):809-814.
- B.1. 山下 建, 四ッ柳高敏, 三上 誠, 樋熊有子, 漆館聡志, 横井克憲. 表皮嚢腫より発生した疣状有棘細胞癌の1例. 2006;49(4):449-453.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J.Plast.Reconstr.Aesth. Sur.	1.07	1	1.07
Total		1	1.07

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Plast Reconstr Aesthet Surg.	0.623	1	0.623
Total		1	0.623

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
形成外科	2	0
計	2	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数) なし

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2007年度

- C.1. Mikami M. Auriculoplasty for microtia -Considerations for postoperative management-. The 9thJapan-Korea Congress of Plartric and Reconstructive Surgery. Okinawa. 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

C. 2件

2006年度

C. 3件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

横井克憲 第22回日本形成外科学会北海道・東北支部学術集会 弘前

2007年度

横井克憲 第84回日本形成外科学会北海道・東北支部東北地方会 弘前

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

31. 救急・災害医学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度：

「Preventable death（防ぎえた死）の撲滅」を講座のテーマとして、救急医療の臨床と教育の充実と救急・災害医学講座の特有の被ばく医療に関しての教育・研究を目標としてきた。この目標は実質2名の講座の状況で十分達成することができた。

理念：

リサーチスピリットを持ち全人的な患者診察のできる救急医の育成を基本理念とする。

これから2年間の目標：

救命救急センターの設立を第一目標として、他の診療科では扱わない救急医学独自の外傷初期医療、中毒診療、災害医学、緊急被ばく医療などの教育・研究を充実させていきたい。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員				
教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 0				
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	浅利 靖	12ヶ月
	講 師	専 任	大川 浩文	12ヶ月
	医 員	専 任	矢口 慎也	12ヶ月
研究課題	1. アドレスマッチングシステム、およびカーネル法を利用した AED の適切な配置地点の検討 2. 青森県における救急医療体制の調査・検証 3. 青森県における災害時医療救護マニュアル作成に関する検討・分析 4. 毒薬物による急性中毒での病態生理の研究 5. 急性中毒初期治療における活性炭の効果および体内動態の研究 6. 放射線災害時の初期トリアージ技術の研究 7. キレート剤の安全性に関わる研究			

2007年度

研究人員				
教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0				
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	浅利 靖	12ヶ月
	講 師	専 任	大川 浩文	12ヶ月
	助 教	専 任	菊池 明	12ヶ月
	助 教	専 任	塚田 晴彦	12ヶ月
研究課題	1. AED 内部データの取り出しと AED の効果の検証体制構築の研究 2. 青森県における汚染傷病者の搬送・治療についての研究 3. 極寒・吹雪の環境下で温暖な医療環境を構築するための研究 4. 毒薬物による急性中毒での病態生理の研究 5. 急性中毒初期治療における活性炭の効果および体内動態の研究 6. 放射線災害時の初期トリアージ技術の研究 7. キレート剤の安全性に関わる研究 8. 心肺蘇生法の効果的な教育についての研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- B.1. Chikara Yonekawa, Hajime Nakae, Kimitaka Tajimi, Yutaka Motohashi, Yasushi Asari, Shigeatsu Endo, Sergio A Perez Barrero, An analysis of ambulance-transported cases of attempted suicide in 3 prefectures (akita, aomori, and iwate) in the northern tohoku area in Japan. JMAJ, 2006;49(11-12);345-350

和文

2006年度

- B.1. 片岡裕介, 浅見泰司, 浅利 靖, 郡山一明. 「需要密度に対する供給高価を最大化する AED の最適配置地点」, 地理情報システム学会雑誌, GIS ー理論と応用, VoL 14, No 2, 2006.
- B.2. 中島 功, 今井 寛, 浅利 靖, 松山重成, 大橋教良, 立花正一. 「宇宙航空研究開発機構無重力環境試験設備における船外活動訓練の救急医療支援体制」, 日本救急医学会関東地方会雑誌, Vol 27, p144-146, 2006
- B.3. 中島 功, 立花正一, 大橋教良, 今井 寛, 浅利 靖, 松山重成. 「ヘルメット潜水を用いた船外活動シミュレーションの救急医療支援」, 日本高気圧環境医学会関東地方会誌, VoL 6, No 2, 2006

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 大川浩文, 石原弘規. 1, 神経・内分泌反応 I. 生体侵襲と生体反応 総論, 救急医学, 2006;31:1003-1007

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 浅利 靖. 1. 救急医療 B. 手技救急外来における各種モニタリング装置の使用法 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢, 総編集, 今日の治療指針 2006, 97-98, 医学書院, 東京, 2006年
- A.2. 浅利 靖. 2. 中毒性疾患 パラコート・ジクワット中毒 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢, 総編集, 今日の治療指針 2006, 110-111, 医学書院, 東京, 2006年
- A.3. 浅利 靖. 第5章環境障害・急性中毒学, B. 中毒各論, 救急救命士標準テキスト編集委員会編集, 救急救命士標準テキスト 改訂第7版, 918-926, へるす出版, 東京, 2007年3月28日
- A.4. 大川浩文, 浅利 靖. 8, 急性中毒(薬物, 農薬など) III. 外傷・中毒・熱傷, 岡元和文(編)救急・集中治療 ER・ICUでの薬の使い方 Q&A プロの実践と秘訣に学ぶ, 879-883, 総合医学社, 東京, 2006
- A.5. 大川浩文, 浅利 靖. 100, 下剤使用の指針 XI. 急性中毒の診断・治療・ケア, 岡本和文(編)救急・集中治療 救急・集中治療ガイドライン 最新の診療指針, 786-787, 総合医学社, 東京, 2006

2007年度

- A.1. 浅利 靖. 2. 中毒性疾患 家庭用防虫剤中毒 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢, 総編集, 今日の治療指針 2007, 116, 医学書院, 東京, 2007年
- A.2. 浅利 靖. 第三編 救急医学 3. 病態別応急処置 IX 熱傷・電撃症, X 中毒 救急隊員標準テキスト編集委員会編集, 救急隊員標準テキスト 改訂第3版, 203-208, へるす出版, 東京, 2007年
- A.3. 浅利 靖. 第5章 26. 放射線/核 石井 昇, 奥寺 敬, 箱崎幸也編集, 災害・健康危機管理ハンドブック 243-249, 診断と治療社, 東京, 2007

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Okawa H. Compression of the left atrium by a reconstructed gastric tube after subtotal oesophagectomy (correspondence), Anaesthesia 62(10):1078-1079(2007)

和文

2006年度

- A.1. 浅利 靖, 大川浩文, 田村有人, 矢口慎也. 救急医療体制に関する調査・検証, 青森県委託研究報告書, 平成19年3月
- A.2. 浅利 靖, 大川浩文, 田村有人, 矢口慎也. 災害時医療救護マニュアル作成に関する調査・検証, 青森県委託研究報告書, 平成19年3月
- A.3. 浅利 靖, 中毒学会の推奨する標準治療って何? ER マガジン, 第3巻第6号, 12月号, 477-480, 2006

2007年度

- A.1. 浅利 靖, 山内真弓, 石原佳奈, 寺西 智, 新潟県中越沖地震災害派遣救援医療チーム報告書, 2007
- A.2. 浅利 靖 平成19年2月14日「八甲田山前嶽山頂付近で発生した雪崩災害」調査報告書, 日本集団災害医学会八甲田雪崩災害特別調査委員会
- A.3. 矢口慎也. 中毒患者の標準治療, エマージェンシー・ケア, 2007;19:35-45
- B.1. (*)中井希紫子, 柳方哲也, 小野朋子, 大川浩文, 遠瀬龍二, 廣田和美, 救命士による気管挿管実習の際に発見された予期せぬ喉頭蓋嚢胞の1例, 麻酔 2007;56:1217-1219

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
JMAJ		1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
地理情報システム学会雑誌 GIS ー理論と応用救急医学	1	
日本救急医学会関東地方会雑誌	1	
日本高気圧環境医学会関東地方会誌	1	
計	3	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	5	3

3. その他 (A, B のみ)

英文

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anaesthesia		1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
青森県委託研究報告書	2	
ER マガジン	1	
報告書		2
計	3	2

Ⅱ．学術集会での発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 浅利 靖, 片岡裕介, 浅見泰司, 郡山一明, 田村有人, 大川浩文, 新井正康. アドレスマッチングシステムとカーネル法を使用した青森県弘前市における AED 最適配置地点の検討, 題第9回日本臨床救急医学会, 盛岡, 2006年
- A.2. 大川浩文, 片岡裕介, 浅見泰司, 矢口慎也, 郡山一明, 浅利 靖. アドレスマッチングシステムと心停止発生確率密度分布から推定した青森県弘前市における AED 最適配置地点の有効性の検証 第34回日本救急医学会総会, 福岡 2006
- A.3. 矢口慎也, 大川浩文, 新井正康, 大沢弘, 田渕博子, 加藤博之, 浅利 靖. 青森県の災害時医療体制の調査・検討 第34回日本救急医学会総会 福岡 2006
- A.4. (*)加藤博之, 大沢 弘, 矢口慎也, 大川浩文, 浅利 靖, 瀧 健治. 高齢者救急における治療方針の決定因子の検討ー若年者を対象としたアンケート調査を通じてー 第34回日本救急医学会総会 福岡 2006
- C. 4 件

2007年度

- B.1. 浅利 靖. 「わが国における中毒医療の現状ー活性炭ー」, 第29回日本中毒学会パネルディスカッション, 東京, 2007
- B.2. 浅利 靖. 「災害医療における集中治療」, 第16回日本集中治療学会東北地方会教育講演, 盛岡, 2007
- C. 3 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

- 1. 青森県における災害時医療救護マニュアル作成に関する検討・分析, 委託研究, 浅利 靖, 1,314千円
- 2. 青森県における救急医療体制の調査・検証, 委託研究, 浅利 靖, 1,606千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ．研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

- c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況
なし
- d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況
なし
- e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況
なし
- f) その他
なし

(2) 国内，地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催
なし
- b) 地方レベルの学会の主催
2006年度
浅利 靖，第15回青森救急医学会，弘前市
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし
- d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況
なし

VII. その他

なし

32. 臨床検査医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

1. 「高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立」については，重要な遺伝子多型を見出しその病態的意義を検討してきている。
2. 「表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発」については，最新の技術を応用し特異的かつ効率的な検査法が確立できそうな段階に到達している。
3. 「病院内感染対策防止策に貢献する検査部医療情報システムの構築」については，感染制御センターとの連携で重要な役割を果たしてきている。

理念：

現研究テーマを変わりなく遂行し発表していく。

これから2年間の目標：

重要な知見が蓄積されてきているので，順次発表していくよう努める。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 1，医員 0，大学院学生 1，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	保嶋 実	1年間
	助教授	専 任	庄司 優	1年間
	助 手	専 任	富田 泰史	1年間
研究課題	1. 高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立 2. 表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発 3. 院内感染対策防止策に貢献する検査部医療情報システムの構築 4. 急性期脳血管障害患者における Brain natriuretic peptide (BNP) の果たす役割の解明 5. 冠攣縮性狭心症の動物疾患モデルの作製と遺伝子レベルでの原因解明 6. 新規の昇圧物質 Coupling factor 6における発現調節機構の解明と動脈硬化関連遺伝子発現の網羅的解析			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 0，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 1，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	保嶋 実	1年間
	准教授	専 任	杉本 一博	3ヶ月間
	助 教	専 任	島田美智子	9ヶ月間
研究課題	1. 高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立 2. 糖尿病性腎症感受性遺伝子多型および変異の検査法同定の確立 3. 病院内感染対策防止策に貢献する検査部医療情報システムの構築 4. 糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 5. 糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Hasan KN, Shoji M, Tsutaya S, Kudo R, Matsuda E, Saito J, Kimura T, Yasujima M : Study of V1a vasopressin receptor gene single nucleotide polymorphisms in platelet vasopressin responsiveness. J Clin Lab Anal

2006;20(3):87-92.

- A.2. Tomita H, Sasaki S, Osanai T, Nakano T, Higuma T, Yokoyama J, Hanada H, Yasujima M, Okumura K : Mutational analysis of Kir6.1 in Japanese patients with coronary spastic angina. *Int J Mol Med* 2006;18(4):589-591.
- A.3. Hasan KN, Shoji M, Sugimoto K, Tsutaya S, Yasujima M : Role of vasopressin V1a receptor in hypertension, diabetes mellitus and platelet function: genetic polymorphism study. *Hirosaki Medical Journal* 2007;58:35-52.
- A.4. Abe N, Matsunaga T, Kameda K, Tomita H, Fujiwara T, Ishizaka H, Hanada H, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Increased level of pericardial insulin-like growth factor-1 in patients with left ventricular dysfunction and advanced heart failure. *J Am Coll Cardiol*. 2006;48:1387-1395.
- A.5. Tanaka M, Osanai T, Murakami R, Sasaki S, Tomita H, Maeda N, Satoh K, Magota K, Okumura K. Effect of vasoconstrictor coupling factor 6 on gene expression profile in human vascular endothelial cells: enhanced release of asymmetric dimethylarginine. *J Hypertens*. 2006;24:489-497.
- B.1. Futagami M, Sakamoto T, Sakamoto A, Shigetou T, Taniguchi R, Sato S, Tutaya S, Kojima K, Yasujima M, Mizunuma H : A pregnant woman with genetic variants of butyrylcholinesterase and inflammatory bowel disease. *J Obstet Gynaecol* 2006;26(6):562-563.

2007年度

- A.1. Sugimoto K, Rashid IB, Shoji M, Suda T, Yasujima M: Early changes in insulin receptor signaling and pain sensation in streptozotocin-induced diabetic neuropathy in rats. *J Pain* 2008;9(3):237-245.
- A.2. Hasan KN, Shoji M, Sugimoto K, Tsutaya S, Matsuda E, Kudo R, Nakaji S, Suda T, Yasujima M: Association of novel promoter single nucleotide polymorphisms in vasopressin V1a receptor gene with essential hypertension in nonobese Japanese. *Journal of Human Hypertension* 2007;21(10):825-827.
- B.1. Kageyama K, Ikeda H, Sakihara S, Nigawara T, Terui K, Tsutaya S, Matsuda E, Shoji M, Yasujima M, Suda T: A case of thyrotropin-producing pituitary adenoma, accompanied by an increase in anti-thyrotropin receptor antibody after tumor resection. *J Endocrinol Invest* 2007;30(11):957-961.
- B.2. Ogawa Y, Goto T, Tamasawa N, Matsui J, Tando Y, Sugimoto K, Tomotsune K, Kimura M, Yasujima M, Suda T: Serum cystatin C in diabetic patients. Not only an indicator for renal dysfunction in patients with overt nephropathy but also a predictor for cardiovascular events in patients without nephropathy. *Diabetes Res Clin Pract* 2008;79(2):357-361.
- B.3. Tanabe J, Tamasawa N, Yamashita M, Matsuki K, Murakami H, Matsui J, Sugimoto K, Yasujima M, Suda T: Effects of combined PPARgamma and PPARalpha agonist therapy on reverse cholesterol transport in the Zucker diabetic fatty rat. *Diabetes Obes Metab* 2008(in press)

和文

2006年度

- B.1. 高島千秋, 庄司 優, 菅原修二, 村野俊夫, 保嶋 実. 血漿 FDP 測定試薬エルピア FDP-P2 の基礎的検討. *日本臨床検査自動化学会会誌* 2006;31(3):317-320.
- B.2. 佐藤淳也, 阿保都子, 成田幸子, 葛西 猛, 保嶋 実, 菅原和信. 経腸栄養剤の細菌汚染と適切な投与器具洗浄方法の検討. *医療薬学* 2006;32(8):740-746.

2007年度

- A.1. 薦谷昭司, 小山有希, 中田良子, 保嶋 実. 低カリウム血症におけるサイアザイド感受性 Na-Cl 共輸送体の遺伝子変異検出頻度に関する検討. *日本臨床化学会東北支部会誌* 2008;17(1):4-8.
- B.1. 齋藤 武, 新岡丈典, 工藤正純, 細井一広, 小島佳也, 保嶋 実. 早狩誠高齢者におけるクレアチンクリアランス予測精度とトラフ濃度予測精度との関係 バンコマイシンとテイコプラニンとの比較. *日本病院薬剤師会雑誌* 2007;43(10):1373-1376.
- C.1. 佐藤裕久, 工藤真理子, 真里谷靖, 保嶋 実, 藤田清貴, 櫻林郁之介: 臨床検査値に異常を及ぼす体液成分一発見から報告の仕方まで免疫グロブリン定量値と血清蛋白分画値に乖離がみられた2症例. *生物物理化学* 2007;51(4):237-241.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 保嶋 実, 庄司 優. 臨床検査医学の進歩 臨床検査における遺伝子解析の意義. *Laboratory and Clinical Practice* 2006;24(2):88-91.
- B.1. 庄司 優, 保嶋 実. 病院検査部が行うコンサルティング業務の実際 弘前大学医学部附属病院検査部におけるコンサルティング業務の実際. *臨床病理* 2007;55(1):41-44.

2007年度

- A.1. 保嶋 実. 二次性高血圧スクリーニングのための臨床検査. *日本臨床検査自動化学会会誌* 2007;32(2):129-134.
- A.2. 保嶋 実. サイアザイド感受性 NaCl 共輸送体遺伝子解析の臨床的意義. *臨床病理* 2007;55(4):338-343.
- A.3. 庄司 優, 保嶋 実. 内分泌疾患の検査診断法の進歩 心血管系疾患におけるバゾプレシン研究の進展.

臨床病理 2007;55(6): 544-548.

A.4. 杉本一博, 八木橋操六, 須田俊宏, 保嶋 実. 糖尿病性神経障害の病態と対策 2型糖尿病性神経障害と心血管危険因子. 糖尿病合併症 2007;21(2):116-119.

A.5. 島田美智子, 保嶋 実. 慢性腎臓病の予防に向けた腎機能検査 尿細管機能検査および Gitelman 症候群における遺伝子変異解析の有用性について. 臨床化学 2008;37(1):29-34.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文

2006年度

B.1. Eto K, Onaka U, Tsuchihashi T, Hirano T, Nakayama M, Masutani K, Hirakata H, Urata H, Yasujima M : A case of Gitelman's syndrome with decreased angiotensin II-forming activity. Hypertens Res 2006;29(7):545-549.

B.2. Kageyama K, Terui K, Tsutaya S, Matsuda E, Shoji M, Sakihara S, Nigawara T, Takayasu S, Moriyama T, Yasujima M, Suda T : Gene analysis of the calcium channel 1 subunit and clinical studies for two patients with hypokalemic periodic paralysis. J Endocrinol Invest 2006;29(10):928-933.

和文

2006年度

A.1. 保嶋 実. 【高血圧 最新の診療】 高血圧患者の危険因子評価とリスクの層別化. 診断と治療 2006;94(3):377-383.

A.2. 保嶋 実. 【高血圧の臨床検査】高血圧の診断・治療に必要な臨床検査 血液検査. Medical Technology 2006;34(9):938-942.

A.3. 保嶋 実. 腎機能検査 ペントシジンを中心に. Medical Technology 2006;34(10):1010-1012.

A.4. 庄司 優, 保嶋 実. 【高血圧 最新の研究動向】 基礎編 遺伝子研究 原因候補遺伝子 血管内皮型 NO 合成酵素遺伝子. 日本臨床 2006;64(5):411-415.

A.5. 庄司 優, 保嶋 実. 【高血圧 最新の研究動向】 臨床編 臓器障害の進展予測検査 BNP. 日本臨床 2006;64(6):133-136.

B.1. 橋本 浩, 柳方哲也, 北山真任, 石原弘規, 廣田和美, 坂井哲博, 二神真行, 保嶋 実, 葛谷昭司. 術前に遺伝性低コリンエステラーゼ血症を認知できずに全身麻酔導入時スキサメトニウムを使用した1症例. 麻酔 2006;55(8):1014-1017.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Clin Lab Anal	1.117	1	1.117
Int J Mol Med	1.854	1	1.854
Hirosaki Medical Journal	0	0	0
J Am Coll Cardiol	9.701	1	9.701
J Hypertens	4.021	1	4.021
J Obstet Gynaecol	0.779	1	0.779
Total		5	17.472

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Pain	3.578	1	3.587
J Human Hypertens	2.244	1	2.244
J Endocrinol Invest	2.021	1	2.021
Diabetes Res Clin Pract	1.823	1	1.823
Diabetes Obes Metab	3.441	1	3.441
Total		7	13.107

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日本臨床検査自動化学会誌	1	1
医療薬学	1	
Laboratory and Clinical Practice	1	
臨床病理	1	2
日本病院薬剤師会雑誌		1
生物物理化学		1
日本臨床化学会東北支部会誌		1
糖尿病合併症		1
臨床化学		1
計	4	8

2. 著書数（A, Bのみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他（A, Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hypertens Res	3.177	1	3.177
J Endocrinol Invest	1.469	1	1.469
Total		2	4.646

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
診断と治療	1	
Medical Technology	2	
日本臨床	2	
麻酔	1	
計	6	0

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Hirofumi Tomita, Norifumi Metoki, Genta Saitoh, Toshihiro Ashitate, Takashi Echizen, Chisato Kato, Michitaka Fukuda, Tomohiro Osanai, Minoru Yasujima, Ken Okumura: Elevated plasma brain natriuretic peptide independent of heart disease is a useful biochemical marker for the severity of acute ischemic stroke" International Stroke Conference 2007, San Francisco, USA, 2007.
- C.2. Hirofumi Tomita, Norifumi Metoki, Genta Saitoh, Toshihiro Ashitate, Daisuke Horiuchi, Yoshiyuki Konta, Michitaka Fukuda, Minoru Yasujima, Tomohiro Osanai, Ken Okumura: Plasma brain natriuretic peptide levels are elevated in patients with acute atherothrombotic brain infarction independent of heart diseases. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (ISH2006), Fukuoka, Japan, 2006.
- C.3. Kazi N Hasan, Masaru Shoji, Kazuhiro Sugimoto, Shoji Tsutaya, Eriko Matsuda, Ryoko Kudo, Junko Saito, Shigeyuki Nakaji, Toshihiro Suda, Minoru Yasujima: V1a vasopressin receptor gene single nucleotide polymorphism and essential hypertension, type 2 diabetes mellitus and platelet aggregation. The 10th International Forum of Medical Science, Aomori, Japan, 2006.
- C.4. Kazuhiro Sugimoto, Irena B. Rashid, Toshihiro Suda, Masaru Shoji, Minoru Yasujima: Altered insulin signaling and thermal nociception depend on the duration of streptozotocin-induced diabetes in rats. Washington, DC, USA. 66rd Scientific sessions of the American Diabetes Association, June 9-13, 2006.

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 保嶋 実. サイアザイド感受性 NaCl 共輸送体遺伝子解析の臨床的意義. 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前市, 2006.
- B.1. 庄司 優, 保嶋 実. 内分泌疾患の検査診断法の進歩 バゾプレシンをめぐるトピックス. 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前市, 2006.
- C. 20件

2007年度

- B.1. 保嶋 実. 現在の腎機能検査は腎障害をどこまで正しく評価できるか尿細管機能検査. 第26回日本臨床化学会夏期セミナー, 三重県志摩市, 2007.
- B.2. 杉本一博. 「新設?! 臨床検査科への対応」検査専門集団の特性を生かした臨床検査科への対応, 第31回日本臨床検査医学会東北支部例会, 岩手県盛岡市, 2008.
- B.3. 薦谷昭司, 保嶋 実. 高血圧感受性遺伝子多型と BMI との関連について. 第39回日本臨床検査医学会東北支部総会, 宮城県仙台市, 2007.
- C. 18件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006年度

研究機関名: 財団法人黎明郷 弘前脳卒中センター
研究課題: 急性期脳血管障害患者における脳循環物質の病態生理学的解明: 脳細胞に及ぼす脳虚血の影響
代表研究者: 富田 泰史

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として
平成15-18年度科学研究費補助金基盤研究C 課題番号15590477 (研究代表者 保嶋 実)
「食塩感受性高血圧におけるナトリウム代謝関連遺伝子多型の病態的意義」
平成17-18年度科学研究費補助金基盤研究C 課題番号17590482 (研究代表者 庄司 優)
「血小板反応性の個体差に関わる分子基盤およびその至適検査マーカーの探求」
平成18年度科学研究費補助金若手研究 (スタートアップ) (研究代表者 富田泰史)
「冠攣縮性狭心症の動物疾患モデルの作製と血管トーン異常の検討」

2007年度

研究代表者として
基盤研究 (C) 課題番号19590546 研究代表者: 保嶋 実 配分額: 143万円
「糖尿病性腎症感受性遺伝子マーカーとしての SLC12A3 遺伝子多型の意義」
他研究単位との研究分担者として
基盤研究 (C) 課題番号18590520 研究代表者: 杉本一博 配分額: 110万円
「メタボリックシンドロームに関連する末梢神経障害の分子機構と病態学的研究」

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

2006年度

Bangladesh より大学院生として Kazi Nadim Hasan を受け入れている。

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

2006年度

①研究者名: Professor Wayne R Alexander

研究機関: Department of Cardiology, Emory University School of Medicine

国名: アメリカ合衆国, 滞在期間: 2007.1.31-2.2

視察・研究参加者: 富田泰史

②研究者名: Professors Oliver Smithies and Nobuyo Maeda

研究機関: Department of Pathology and Laboratory Medicine, The University of North Carolina at Chapel Hill

国名: アメリカ合衆国, 滞在期間: 2007.2.4-2.6

視察・研究参加者: 富田泰史

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2006年度

保嶋 実, 第53回日本臨床検査医学会総会, 弘前市

b) 地方レベルの学会の主催

2006年度

保嶋 実, 内分泌学会東北地方会, 青森市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

33. 臨床薬理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

毎年，impact factor を有する英文学術誌への投稿論文を2報以上作成した。

毎年，国内の主要学会での学会発表2演題以上を発表した。

研究代表者として科学研究費補助金に採択を目指したが，この点については未達成であった。

理念：

臨床薬理学者の研究は最終的には生体のヒトを対象とした試験であり，臨床薬理学者の責務は基礎薬理学者が *in vitro* 実験や動物実験で得た結果をヒトにおいて検討・確認することである。治験の支援や健常者での臨床試験ばかりでなく臨床薬理学者は患者を対象とした新規医薬品に係わる種々の臨床薬理試験を主体的に実施することも今後の検討課題と考えている。各臨床科との共同研究のもと患者における臨床試験の円滑な実施にむけ尽力したい。

これから2年間の目標：

1. Impact factor のついた学術誌に senior author として複数の論文を発表
2. 国際学会，全国レベルの学会等におけるシンポジウムに共同演者として発表
3. 研究代表者・分担者として科学研究費補助金に1件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	立石 智則	H18年4月～H19年3月
	講 師	専 任	宇野 司	H18年4月～H19年3月
	助 手	専 任	杉本 勝良	H18年10月～H19年3月
研究課題	1. 薬物代謝酵素活性における個体差の検討 2. 薬物代謝酵素における活性と遺伝子変異との関連 3. 薬物動態に影響する種々の因子の検討 4. 弘前大学医学部附属病院での治験の推進とその環境整備			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	立石 智則	H19年4月～H20年3月
	講 師	専 任	宇野 司	H19年4月～H19年5月
	助 教	専 任	杉本 勝良	H19年4月～H20年3月
研究課題	1. 薬物代謝酵素活性における個体差の検討 2. 薬物代謝酵素における活性と遺伝子変異との関連 3. 薬物動態に影響する種々の因子の検討 4. 弘前大学医学部附属病院での治験の推進とその環境整備			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Uno T, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T. Lack of dose-dependent effects of itraconazole on the pharmacokinetic interaction with fexofenadine. Drug Metab Dispos. 2006 Nov;34(11):1875-9.

- A.2. Niioka T, Uno T, Yasui-Furukori N, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T. Identification of the time-point which gives a plasma rabeprazole concentration that adequately reflects the area under the concentration-time curve. *Eur J Clin Pharmacol*. 2006 Oct;62(10):855-61.
- A.3. Niioka T, Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T. Pharmacokinetics of low-dose nedaplatin and validation of AUC prediction in patients with non-small-cell lung carcinoma. *Cancer Chemother Pharmacol*. 2007 Apr;59(5):575-80.
- A.4. Uno T, Shimizu M, Sugawara K, Tateishi T. Sensitive determination of itraconazole and its active metabolite in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography with ultraviolet detection. *Ther Drug Monit*. 2006 Aug;28(4):526-31.
- A.5. Shimizu M, Uno T, Sugawara K, Tateishi T. Effects of single and multiple doses of itraconazole on the pharmacokinetics of fexofenadine, a substrate of P-glycoprotein. *Br J Clin Pharmacol*. 2006 Sep;62(3):372-6.
- A.6. Shimizu M, Uno T, Yasui-Furukori N, Sugawara K, Tateishi T. Effects of clarithromycin and verapamil on rabeprazole pharmacokinetics between CYP2C19 genotypes. *Eur J Clin Pharmacol*. 2006 Aug;62(8):597-603.
- A.7. Niioka T, Yasui-Furukori N, Uno T, Sugawara K, Kaneko S, Tateishi T. Identification of a single time-point for plasma lansoprazole measurement that adequately reflects area under the concentration-time curve. *Ther Drug Monit*. 2006 Jun;28(3):321-5.
- A.8. Shimizu M, Uno T, Sugawara K, Tateishi T. Effects of itraconazole and diltiazem on the pharmacokinetics of fexofenadine, a substrate of P-glycoprotein. *Br J Clin Pharmacol*. 2006 May;61(5):538-44.
- A.9. Shimizu M, Uno T, Niioka T, Yasui-Furukori N, Takahata T, Sugawara K, Tateishi T. Sensitive determination of omeprazole and its two main metabolites in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography: Application to pharmacokinetic study in relation to CYP2C19 genotypes. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci*. 2006 Mar 7;832(2):241-8.
- A.10. Uno T, Shimizu M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, Tateishi T. Different effects of fluvoxamine on rabeprazole pharmacokinetics in relation to CYP2C19 genotype status. *Br J Clin Pharmacol*. 2006 Mar;61(3):309-14.
- B.1. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Suzuki T. Intestinal CYP3A4 is not involved in the enantioselective disposition of lansoprazole. *Xenobiotica*. 2006 Jan;36(1):95-102.
- B.2. Miura M, Kagaya H, Tada H, Uno T, Yasui-Furukori N, Tateishi T, Suzuki T. Enantioselective disposition of rabeprazole in relation to CYP2C19 genotypes. *Br J Clin Pharmacol*. 2006 Mar;61(3):315-20.
- B.3. Yasui-Furukori N, Saito M, Nakagami T, Kaneda A, Tateishi T, Kaneko S. Association between multidrug resistance 1 (MDR1) gene polymorphisms and therapeutic response to bromperidol in schizophrenic patients: A preliminary study. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*. 2006 Mar;30(2):286-91.
- C.1. Song T, Sugimoto K, Ihara H, Mizutani A, Hatano N, Kume K, Kambe T, Yamaguchi F, Tokuda M, Watanabe Y. P90 RSK-1 associates with and inhibits neuronal nitric-oxide synthase. *Biochem J*. (2007) 401, 391-398.
- C.2. Sui L, Dong Y, Watanabe Y, Yamaguchi F, Sugimoto K, Tokuda M. Alteration and clinical relevance of PTEN expression and its correlation with survivin expression in epithelial ovarian tumors. *Oncol Rep*. (2006) 15, 773-778.
- C.3. Sui L, Dong Y, Watanabe Y, Yamaguchi F, Sugimoto K, Tokuda M. Clinical significance of Skp2 expression, alone and combined with Jab1 and p27 in epithelial ovarian tumors. *Oncol Rep*. (2006) 15, 765-771.

2007 年度

- A.1. Uno T, Niioka T, Hayakari M, Sugawara K, Tateishi T. Simultaneous determination of warfarin enantiomers and its metabolite in human plasma by column-switching high-performance liquid chromatography with chiral separation. *Ther Drug Monit*. 2007 Jun;29(3):333-9.
- A.2. Uno T, Sugimoto K, Sugawara K, Tateishi T. The effect of CYP2C19 genotypes on the pharmacokinetics of warfarin enantiomers. *J Clin Pharm Ther*. 2008 Feb;33(1):67-73.
- A.3. Sugimoto K, Uno T, Yamazaki H, Tateishi T. Limited frequency of the CYP2C19*17 allele and its minor role in a Japanese population. *Br J Clin Pharmacol*. 2008 Mar;65(3):437-9.
- B.1. Niioka T, Uno T, Sugimoto K, Sugawara K, Hayakari M, Tateishi T. Estimation of CYP2C19 activity by the omeprazole hydroxylation index at a single point in time after intravenous and oral administration. *Eur J Clin Pharmacol*. 2007 Nov;63(11):1031-8.

和文

2007 年度

- A.1. 大久保正, 桜庭厚子, 山内留美子, 増田美也子, 櫛引美穂子, 立石智則. 治験依頼企業が望む治験ネットワークとは: 津軽地区治験ネットワーク設立のための依頼企業へのアンケート結果より. *薬局* 57:2685-9,2006.
- A.2. 大久保正, 増田美也子, 桜庭厚子, 山内留美子, 櫛引美穂子, 立石智則. 青森県津軽地区の開業医における治験実施体制の実情に関する調査—津軽地区治験ネットワーク設立のために. *臨床薬理* 37:231-234, 2006.
- A.3. 大久保正, 桜庭厚子, 山内留美子, 増田美也子, 櫛引美穂子, 立石智則. 青森県津軽地区の病院における治験実施体制の実情に関する調査—津軽地区治験ネットワーク設立のために. *臨床薬理* 37:235-238,2006.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 立石智則. 循環器薬物応答性の個人差に関するチトクローム P450 の遺伝子多型. 心電図 26:201-210, 2006.
- A.2. 石澤幸男, 高畑武功, 古郡規雄, 宇野 司, 立石智則. 日本人高齢者における CYP2C19 変異遺伝子頻度とオメプラゾール薬物動態を指標とした生体内 CYP2C19 活性の検討. 臨床薬理の進歩 27:82-88, 2006.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Drug Metab Dispos	4.015	1	4.015
Eur J Clin Pharmacol	2.298	2	4.596
Cancer Chemother Pharmacol	2.235	1	2.235
Ther Drug Monit.	2.718	2	5.436
Br J Clin Pharmacol	2.777	3	8.331
J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.	2.391	1	2.391
Xenobiotica	1.427	1	1.427
Br J Clin Pharmacol.	2.777	1	2.777
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry.	2.769	1	2.769
Total		13	33.977

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Ther Drug Monit.	3.032	1	3.032
J Clin Pharm Ther	0.966	1	0.966
Br J Clin Pharmacol	2.718	1	2.718
Eur J Clin Pharmacol	2.029	1	2.029
Total		4	8.745

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨床薬理	2	
薬局	1	
計	3	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数) なし

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

C. 1件

2007年度

B.1. 薬物動態談話会 11月特別例会 2007年11月21日 浜松市 シンポジウムⅠ トランスポーターを介した薬物相互作用の臨床研究 立石智則

C. 2件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金 治験推進研究事業 「地域等治験ネットワークの整備に関する研究」 1,600千円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金 治験推進研究事業 「地域等治験ネットワークの整備に関する研究」 1,600千円

(3) 学内の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

弘前大学学長指定重点研究, 認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出, 研究代表者 蔵田 潔, 600千円

(4) 民間の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

財団法人 臨床薬理研究振興財団 平成18年度 (第31回) 研究奨励金, 代謝酵素遺伝子多型が薬物の生体内利用率へ与える影響の検討, 研究代表者 宇野 司, 2,000千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2007 年度

日本 TDM 学会第 27 回 TDM セミナー 2007 年 12 月 15 日 弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

34. 小児外科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

小児外科の現人員のから，主眼は多忙な診療と学部教育（臨床実習，系統別講義，等）に置かざるを得ず，とくに2007年度の手術数は教室設立最も多い手術数であった。したがって，研究面での到達度は満足できるものではなかったが，大学院生の研究論文が英文誌に掲載された。

理念：

小児外科疾患に対する日常診療の中から未解決の問題点を研究課題とし，それを最新技術を用いて解明し，結果的に患者のQOLに貢献する。

これから2年間の目標：

- 1) 小児肝胆道系疾患の病因，病態の解明
- 2) QOLを目指した鏡視下手術の開発

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 0，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	棟方 博文	1 年
	講 師	専 任	須貝 道博	1 年
研究課題	1. 先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究 2. 胆道閉鎖症の病因・病態解明に関する基礎的・臨床的研究 3. 小児外科疾患に対する超音波診断学 4. QOLを目指した手術法の開発			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	棟方 博文	2 年
	講 師	専 任	須貝 道博	2 年
研究課題	1. 肝胆道系疾患の病院・病態解明に関する基礎的・臨床的研究 2. 先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究 3. 小児外科疾患に対する超音波診断学 4. QOLを目指した手術法の開発			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Sugai M, Endoh M, Hada R, Munakata H.:Monitoring of hepatic artery resistance index and optimal timing of liver transplantation for biliary atresia. J Med Ultrasonics 2007;34:11-16.

2007年度

- A.1. Murata K, Kamata Y, Munakata H, Sugai M, Sasaki M.:Immunohistochemical Study on Liver Fibrosis in Biliary Atresia. Hepato-Gastroenterology 2008;55:179-183.

和文

2006年度

- A.1. 石戸圭之輔, 須貝道博, 棟方博文. 小児消化管出血症例の非手術的検討. 日腹部救急医学誌 2006;38:523-528.
 A.2. 石戸圭之輔, 須貝道博, 棟方博文, 佐々木睦男. 超低体重児消化管穿孔7例の検討. 日小外会誌 2006;38:1138-1141.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文

2006年度

- A.1. Sugai M, Kimura M, Umehara M, Munakata H, Yajima N, Yagihashi S, Kloppel G.:A case of pancreaticoblastoma prenatally diagnosed as intraperitoneal cyst. Pediatr Surg Int 2006;22:845-848.

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Med Ultrasonics	0	1	0
Total		1	0

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepato-Gastroenterology	0.904	1	0.904
Total		1	0.904

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日本救急医学会雑誌	1	
日本小児外科学会雑誌	1	
計	2	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pediatr Surg Int	0.5	1	0.5
Total		1	0.5

和文 (論文数) なし

II. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- C.1. Sugai M, Ishido K, Munakata H.:Sonographic determination of wall thickness of the gallbladder in pediatric patients with pancreatobiliary maljunction. 14th United European Gastroenterology Week. 2006;11.21-25 Berlin.

2007 年度

- A.1. Sugai M, Ishido K, Munakata H:Ultrasonographic diagnosis of duodenal stenosis: Correlation between ultrasonography and pathologic forms. 53th AIUM Annual Convension. 2008,3.13 ~ 15, San Diego, USA

(2) 全国学術集会

2006 年度

- B.1. 須貝道博, 大橋大成, 棟方博文. ワークショップ12「腹部外傷における診断と治療」; 小児肝損傷の検討. 第68回日本臨床外科学会総会 2006;11.9-11. 広島
- C. 7 件

2007 年度

- C. 8 件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

35. 医学医療情報学講座

【研究単位の目標達成度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度：

(羽 田) 1. 医療地域連携に係る『情報ネットワークシステムの在り方』

病院－病院連携医療情報システムの在り方の1例(『医療施設間連携による医療情報共有システム』)を提示した。 達成

2. 生体情報の定量化『高度先進医療技術－特に IT 化医療画像診断技術の開発』

乳房温存乳癌手術における切除線(範囲)の自動決定システムの開発を目指し科学研究費の獲得を目指したが不採用であった。 未達成

(佐々木) 1. 「Impact factor 2以上の Journal に corresponding author として年1編以上の論文を発表する。」 未達成
(Digestive Endoscopy の impact factor は、現在 SIS 社による査定中)

2. 採択率50%程度の国際学会あるいは全国学会(シンポジウム等)で演者として年1編以上発表する。達成

3. 研究代表者として民間や科学技術省の研究費に1件以上採択されるようにする。 未達成
以上より(佐々木分の)達成度は30%。

(松 谷) 1. 最近の医療や医学教育を取り巻く状況は、ゆとりの教育による学生の学力低下をはじめ、地域医療の衰退など、悪化の一途を辿っており、あまり達成度はあるとは言えない。ただ、院内および地域がん登録が軌道に乗ってきたこと、医療情報教育のある程度の実績が得られてきていること、など多少なりとも前進はできた。

理念：

(羽 田)

①診療支援業務(＝病院情報管理システムの開発・運用・管理)を全うする。

②臨床的意義の大きい(＝臨床応用直結型の)「生体情報の定量化」研究を行う。これは、特に IT に拘らないことも意味する。

(佐々木)

① 医用画像の標準化と画像診断支援

(松 谷)

これから2年間の目標：

(羽 田)

①所謂電子カルテの段階的導入とその為の準備

②非観血的内臓血流測定方法の開発

(佐々木)

①放射線以外の医用画像の院内配信の実現。

② Hoya Pentax 社と癌を自動抽出する内視鏡の共同開発。

③研究成果を Journal に発表する。

④研究成果を国際学会あるいは全国学会(シンポジウム等)で発表する。

(松 谷)

①「学力低下問題への取り組み(方策と実践)」「個人レベルだけではなく大学組織としてのシステム化など」

② 青森県における地域医療の動的な変化についての分析と検討

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	羽田 隆吉	8 年
	助教授	専 任	佐々木賀広	1 年
研究課題	(羽田) 1. 医療地域連携に係る『情報ネットワークシステムの在り方』 2. 生体情報の定量化『高度先進医療技術一特に IT 化医療画像診断技術の開発』 (佐々木) 3. 画像特徴量抽出 4. 表在型胃癌・食道癌の自動抽出			

2007年度

研究人員	教授 1, 准教授 1, 講師 1, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 員 (教授~助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併任 (医療情報部)	羽田 隆吉	11 年 (医療情報部 + 医学研究科)
	准教授	専任 (医療情報部)	佐々木賀広	2 年 (医療情報部)
	講 師	専任 (医情学講座)	松谷 秀哉	1 年 (医学研究科)
研究課題	(羽田) 1. 医療地域連携に係る『情報ネットワークシステムの在り方』 2. 生体情報の定量化『高度先進医療技術一特に IT 化医療画像診断技術の開発』 (佐々木) 1. 医療画像の標準化 2. 医用画像配信 3. 医用画像データベースの構築 4. 医用画像の特徴抽出 5. コンピュータ支援診断 (松谷) 1. 医学教育 2. 医療情報・医療画像システムのネットワークに関する研究開発 3. がん登録とがん診療精度の向上			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Yoshihiro Sasaki, Shinsaku Fukuda, Tatsuya Mikami and Ryukichi Hada. ENDOSCOPIC QUANTIFICATION OF MUCOSAL SURFACE ROUGHNESS FOR GRADING SEVERITY OF ULCERATIVE COLITIS. Dig Endosc 2008;20;67-72.
- A.2. Sugai M, Endoh M, Hada R, Munakata M. Monitoring of hepatic artery resistance index and optimal timing of liver transplantation for biliary atresia. J Med Ultrasonics 2007;34(1);11-16

和文

2007年度

- B.1. 辻 剛俊, 三上達也, 福田眞作, 菊池英純, 齋藤大輔, 吉村徹郎, 佐々木賀広, 棟方昭博, 佐々木博海, 村田有志. 大腸ポリープ切除術後早期出血の危険因子とクリップ残存率の検討. Gastroenterol Endosc 2007;50;199-205.
- B.2. 松谷秀哉, 大場久照, 柏倉幾郎, 保健学科学生に対する医療情報学教育医療情報関連用語の理解度調査. 弘前大学医学部保健学科紀要 2008;7;81-87

(2) 総説

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 松谷秀哉, 水田智史, 鈴木裕史. 履修状況と授業評価アンケートによる21世紀教育における情報科目の分析 (第2報). 21世紀教育フォーラム 2008;3;67-73.

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- B.1. 内海 淳, 葛西真寿, 小山智史, 佐藤友暁, 鈴木裕史, 丹波澄男, 松谷秀哉, 水田智史. プレゼンテーション弘前大学21世紀教育情報テキスト作成グループ オープンソースソフトウェアによる情報リテラシー. 東京: 共立出版; 2008;p69-82. (分担)

(4) その他

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 西谷大輔, 三上達也, 福田眞作, 花畑憲洋, 佐々木聡, 蝦名佐都子, 石黒 陽, 佐々木賀広, 棟方昭博. 多量の乳糜腹水にて発症し小腸間膜脂肪繊維炎が疑われた1例. 日消誌 2007;104;1212-1217.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Dig Endosc		1	
J Med Ultrasonics		1	
Total		2	

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
Gastroenterol Endosc		1
弘前大学医学部保健学科紀要		1
21世紀教育フォーラム 2008		1
計	0	3

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

2007 年度

- C.1. Sigai M, Murata K, Endoh M, Hada R, Munakata H. Hepatic artery hemodynamics in biliary atresia patients as revealed by a Duplex Doppler system. **AIUM 2007**, New York City. (Abstract : J Ultrasound in Medicine 2004;23(6))

(2) 全国学術集会

2006 年度

- B.1. 三上達也, 佐々木賀広, 福田真作. 内視鏡オーダーリングシステム構築における問題点. **Gastroenterol Endosco vol47 (Suppl.1):AB703,2005.**
B.2. 佐々木賀広, 福田真作, 棟方昭博. 高品位内視鏡ファイリング装置の試作—標準品位内視鏡画像との比較. **Gastroenterol Endosco vol47 (Suppl.2):AB804,2005.**
C. 5 件

2007 年度

- A.1. 三上達也, 佐々木賀広, 福田真作. 胃癌・非胃癌背景粘膜模様のパターン分析—ハイリスク群の絞り込みを目指して. **Gastroenterol Endosc 2007: 49 (Supple 2);AB1210.**
A.2. 佐々木賀広, 羽田隆吉, 福田真作. 胃癌背景粘膜模様と組織学的粘膜萎縮との相関. **Gastroenterol Endosc 2007:49 (Supple 2);AB1216.**
C. 2 件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2007 年度

研究代表者として

助成名称：平成 19 年度あおもりウェルネスランド構想推進事業—医療・健康福祉関連産業ビジネスモデル構築事業（青森県）

研究科題：『医療施設間連携による医療情報共有システムのビジネスモデル化』

研究代表者：羽田隆吉

配分額：3,592 千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2007 年度

他研究単位との研究分担者として

助成団体：財団法人 21 あおもり産業総合支援センター

助成名称：重点地域研究開発推進プログラム（研究開発資源活用型）

課題名：フィールド・シーケンシャル方式医療用新撮像表示システムの開発

研究代表者名：若生一広

配分額：559 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

- a) 国際学術集会の主催
なし
- b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況
なし
- c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況
なし
- d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況
なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況
なし
- f) その他
なし

(2) 国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催
なし
- b) 地方レベルの学会の主催
なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況
なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況
なし

VII. その他

なし

36. 総合診療医学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

ERにおけるピットフォールを医学生や研修医に伝えるよう努める（70%）
 外来診療における基本的臨床技能および臨床推論に関する教育法の開発（30%）
 医師の生涯教育の方法論とその実践方法の研究（60%）

理念：

総合診療部は各診療科や救急部と連携して総合的な医療環境を構築し，これを通じて地域医療を支える全人的医療が行なえる臨床医の養成を目指す。そのためには卒前・卒後教育に積極的に関わると同時に，教育内容のレベルアップのための研究を推進する。

これから2年間の目標：

卒前・卒後教育内容のレベルアップのための研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	加藤 博之	2006年4月1日～2007年3月31日
	講 師	専 任	大沢 弘	2006年4月1日～2007年3月31日
	助 手	専 任	大串 和久	2006年10月1日～2007年3月31日
研究課題	1. 北米型 ER における研修医，医学生の方法論と実践方法の研究 2. 北米型 ER におけるピットフォールの研究 3. 症候学の方法論と実践方法の研究 4. 外来診療における基本的臨床技能および臨床推論に関する教育法の開発 5. 進行性腎疾患の進行機序に関する研究 6. 医師の生涯教育－生涯現役で活躍するための方法論と実践方法の研究 7. 総合診療を通じた地域社会への貢献策の検討と実践 8. 総合診療と救急医療の有機的統合による医学生および研修医教育法の研究 9. 卒前医学教育における総合診療外来実習の効果的利用方法の検討 10. 医学生教育における医療面接の効果的な活用方法の検討			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 2，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	加藤 博之	2007年4月～2008年3月
	講 師	専 任	大沢 弘	2007年4月～2008年3月
	講 師	専 任	大串 和久	2007年4月～2008年3月
研究課題	1. 北米型 ER における研修医，医学生の方法論と実践方法の研究 2. 北米型 ER におけるピットフォールの研究 3. 症候学の方法論と実践方法の研究 4. EBM に基づいた医療面接および身体診察に関する教育法の研究 5. 進行性腎疾患の進行機序に関する基礎的および臨床的研究 6. 医師の生涯教育－生涯現役で活躍するための方法論と実践方法の研究 7. 総合診療を通じた地域社会への貢献策の検討と実践 8. 総合診療と救急医療の統合による医学生および研修医の教育方法の研究 9. 卒前医学教育における総合診療外来実習の効果的利用方法の検討 10. 生涯教育の観点から見た医学生の診療録作成実習の教育的意義の検討			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Osawa H, Nakamura N, Shirato K, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Yamabe H, Okumura K. Losartan, an angiotensin-II receptor antagonist, retards the progression of advanced renal insufficiency. *Tohoku J Exp Med* 209:7-13,2006
- C.1. Nakamura M, amabe Y, Osawa H, Nakamura N, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Osanai T, Okumura K. Hypoxic conditions stimulate the production of angiogenin and vascular endothelial growth factor by human renal proximal tubular epithelial cells in culture. *Nephrol Dial Transplant* 21:1489-1495,2006
- C.2. Yamabe H, Shimada M, Kaizuka M, Nakamura M, Kumasaka R, Murakami R, Fujita T, Nakamura N, Osawa H, Okumura K. Roxithromycin inhibits transforming growth factor- β production by human cultured mesangial cells. *Nephrology* 11:524-530,2006
- C.3. Fujita T, Nakamura N, Kumasaka R, Shimada M, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, okumura K. Comparison of lipid and fatty acid metabolism between minimal change nephrotic syndrome and membranous nephropathy. *in vivo* 20:891-894,2006

2007年度

- A.1. 加藤博之, 大沢 弘, 大串和久. 医学部医学科4年次臨床入門科目における KJ 法を用いたワークショップ授業 “How to survive BSL(Bed Side Learning)?” の教育的意義. 21世紀教育フォーラム 2008;3:59-65. (弘前大学21世紀教育センター)
- C.1. Kumasaka R, Nakamura N, Yamabe H, Osawa H, Shirato K, Shimada M, Murakami R, Fujita T, Okumura K, Hamazaki T. Fatty acid composition of plasma and kidney in rats with anti-Thy1.1 nephritis. *in vivo* 21:77-80, 2007

和文

2006年度

- C.1. 大串和久, 北原雅徳, 岩村高志, 平原健司, 瀧 健治. 腹部救急患者のプライマリ・ケア救急外来における卒後教育一. *日本腹部救急医学会雑誌* 2006;26:399-401.

2007年度

- B.1. 桜井淑男, 田村正徳, 森脇浩一, 鍵本聖一, 関島俊雄, 菱谷 隆, 原 真人, 小幡一夫, 村田祐二, 島田二郎, 加藤博之, 小泉ひろみ, 梶野真弓, 藤田 智, 三浦純一, 清水直樹, 宮坂勝之. 小児二次救命処置法 (pediatric advanced life support) の地方普及へ向けてーノースブロック支部 (北関東・東北・北海道地域) の活動を通して. *日本小児科学会雑誌* 111(9):1196-1200,2007

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- C.1. 大串和久, 瀧 健治. 心肺蘇生中のモニタリング. 救急・集中治療 2006;18:485-9.
- C.2. 瀧 健治, 岩村高志, 大串和久, 平原健司, 西中徳治. マムシ咬傷の治療法の変遷. *新薬と臨床* 2006;55:177-92.

2007年度

- A.1. 大串和久, 大沢 弘, 加藤博之. 痙攣. 救急・集中治療 19(5・6):551-558,2007
- A.2. 大串和久, 大沢 弘, 加藤博之. 症候別 患者さんを上手に診るコツ. 腹痛. *Junior No.463*:25-32,2007
- A.3. 大串和久, 大沢 弘, 加藤博之. チアノーゼ. *救急医学* 2008;32:266-267.
- C.1. 中村典雄, 熊坂隆一郎, 呂 永富, 藤田 雄, 村上礼一, 大沢 弘, 山辺英彰, 奥村 謙, 浜崎 景, 浜崎智仁. ラット馬杉腎炎に対する DHA 乳剤の効果について *Therapeutic Research* 28:1931-1933,2007

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 加藤博之. ER 流研修指導医®心得 47 一つまづき症例で学ぶ, 研修医教育のポイント. 羊土社 東京 2006.4.15 発行
- A.2. 加藤博之. 高齢者に多い救急疾患. 水島 豊, 菅世智子編集. 市民のための老年病学ー健やかな老後を

なたにー. p98-100. 弘前大学出版会 弘前 2007.1.29 発行

2007年度

- A.1. 加藤博之. 高齢者に多い救急疾患. 水島 豊, 菅世智子編集. 市民のための老年病学ー健やかな老後をあなたにー. p98-100. 弘前大学出版会 弘前 2007.1.29 発行

(4) その他

英文

2006年度

- C.1. Nakamura N, Fujita T, Nakamura M, Shimada M, Kumasaka R, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Systemic lupus erythematosus and blood type. Lancet 368:1022,2006
- C.2. Nakamura N, Yaegaki M, Sugawara T, Shirato K, Kumasaka R, Nakamura M, Shimada M, Fujita T, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Acute tubulointerstitial nephritis with antineutrophil cytoplasmic antibody. Hong Kong J Nephrol 8:33-35,2006
- C.3. Kumasaka R, Nakamura N, Shirato K, Fujita T, Murakami R, Shimada M, Nakamura N, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Nephrotic syndrome associated with interferon- β -1b therapy for multiple sclerosis. Clin Exp Nephrol 10:222-225,2006

和文

2006年度

- A.1. 加藤博之. 「地域医療支援センター主催講演会」. 南塘だより第42号, 2006年6月26日
- A.2. 加藤博之. 「先憂後楽 卒前臨床教育の新しい流れ」. 南塘だより第45号, 2007年3月26日
- A.3. 加藤博之. 「平成17年度ベスト研修医賞選考会」. 医学部ウォーカー第37号, 2006年6月21日発行, p9-10
- A.4. 加藤博之. 「文部科学省医療人 GP 採択事業 “青森へき地医療クリニカル・フェロシップ” フェロー募集」. 医学部ウォーカー第38号, 2006年9月20日発行, p4
- A.5. 加藤博之. 「学生の頃の自分への手紙」「症候学オタク”だった自分へ」. 弘前大学医学部医学科学会学友会誌2007;p5-6
- A.6. 大沢 弘, 中村典雄, 白戸研一, 菅原俊之, 島田美智子, 熊坂隆一郎, 藤田 雄, 村上礼一, 山辺英彰, 奥村 謙. ネフローゼ症候群, M 蛋白血症, 非ホジキンリンパ腫の合併が認められた慢性 C 型肝炎の1例 内科専門医会誌 18:70-73
- C.1. 岩村高志, 北原雅徳, 中島厚士, 大串和久, 平原健司, 瀧 健治, 山元章生. スズメバチ刺傷により多臓器不全にて死亡した1例. 日本救急医学会雑誌 2006;17:67-73

2007年度

- A.1. 加藤博之. 「医師卒後臨床研修必修化ーその功罪と本学の対応ー」. 弘前大学同窓会報第38号, 2007年5月31日発行, p4
- A.2. 加藤博之. 「平成18年度ベスト研修医賞選考会」. 医学部ウォーカー第41号, 2007年6月20日発行, p7
- A.3. 加藤博之. 「平成18年度ベスト研修医賞選考会開催」. 南塘だより第46号, 2007年6月26日
- A.4. 加藤博之. 「卒後臨床研修必修化をめぐる昨今の動向と本学の新プログラム」. 医学部ウォーカー第42号, 2007年9月20日発行, p8
- A.5. 加藤博之. 「医師の卒後研修必修化ー原点に戻って考えてみようー」 COML No.204, 2007年8月15日発行, p6-7
- A.6. 加藤博之:「模擬患者さん”と出会って, 医学生の上に生まれるもの」 COML No.205, 2007年9月15日発行, p6-7
- A.7. 加藤博之. 「『Student Doctor 章』を胸に, いざ臨床実習へー医学生に医療人としての誇りと責任感を持たせる教育ー」 COML No.206, 2007年10月15日発行, p6-7
- A.8. 加藤博之. 「臨床実習学生が選ぶ『ベスト研修医賞』ー先輩・後輩の架け橋を培うユニークな教育ー」 COML No.207, 2007年11月15日発行, p6-7
- A.9. 加藤博之. 「“きずな” が救う医療と教育の危機ー医療も教育も人間的交流のなかに存在するー」 COML No.208, 2007年12月15日発行, p4-5
- A.10. 加藤博之. ER 流指導医®指南ー研修医のための ER 診療10の鉄則第1回「ER で不用意に笑うな」田辺三菱製薬ー医療関係者会員サイトードクターニュース Vol.07010, 2007年12月14日
- A.11. 加藤博之. ER 流指導医®指南ー研修医のための ER 診療10の鉄則第2回「“苦手な指導医” 心理にリスクが潜む」田辺三菱製薬ー医療関係者会員サイトードクターニュース Vol.08001, 2008年1月11日
- A.12. 加藤博之. ER 流指導医®指南ー研修医のための ER 診療10の鉄則第3回「本当の救急は別の顔してやって来る」田辺三菱製薬ー医療関係者会員サイトードクターニュース Vol.08003, 2008年1月25日
- A.13. 加藤博之. ER 流指導医®指南ー研修医のための ER 診療10の鉄則第4回「勝負できる physical examination を身につけよ」田辺三菱製薬ー医療関係者会員サイトードクターニュース Vol.08005, 2008年2月8日
- A.14. 加藤博之. ER 流指導医®指南ー研修医のための ER 診療10の鉄則第5回「『いつもと違う』は要注意ー疾患を Rule in する考え方」田辺三菱製薬ー医療関係者会員サイトードクターニュース Vol.08007, 2008年2月22日
- A.15. 加藤博之. ER 流指導医®指南ー研修医のための ER 診療10の鉄則第6回「心肺蘇生ーご家族のこころも蘇生の対象」田辺三菱製薬ー医療関係者会員サイトードクターニュース Vol.08009, 2008年3月7日

- A.16. 加藤博之, ER 流指導医@指南一研修医のための ER 診療 10 の鉄則第 7 回「ER の危険予知ー 2 歩先を読んで先手を打て」田辺三菱製薬一医療関係者会員サイトドクターニュース Vol.08011, 2008 年 3 月 21 日
- A.17. 宮田昌之, 遠藤一博, 杉浦嘉泰, 日下部崇, 栗田啓司, 三上達也, 大沢 弘. 東北支部教育セミナー (CPC) まとめ 偽性腸閉塞を呈した mitochondrial myopathy の 1 例. 日内会誌 96:179-185, 2007

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Tohoku J Exp Med	1.012	1	1.012
Total		1	1.012

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
日本腹部救急医学会雑誌	1	
救急・集中治療	1	1
新薬と臨床	1	
21 世紀教育フォーラム		1
日本小児科学会雑誌		1
Junior		1
救急医学		1
計	3	5

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	1	0
編 集	0	0
分担執筆	1	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
内科専門医会誌	1	
日本救急医学会雑誌	1	
弘前大学同窓会報		1
医学部ウォーカー		2
南糖だより		1
COML		5
日本内科学会誌		1
計	2	10

Ⅱ. 学術集会での発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006 年度

C. 7 件

2007 年度

C. 10 件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

<取材記事>

1. 弘前大学医学部附属病院. 充実した研修医の医療安全研修 院長ラウンドから改善へつなぐ. **Safety Management Report 2007 July No.4**,p6-9
2. 菊谷 賢. 取材最前線<弘前大学>「人」「コミュニケーション」を重視 地域医療に密着した医学部教育. リクルートカレッジマネジメント 145:40-41,2007
3. ひろだい附属病院ガイド 総合診療部. 陸奥新報 2008年1月10日発行, p8

37. 薬剤学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

アンジオテンシン変換酵素の新たな生理的役割の解明を目指し研究を行って来た。全体としての目標達成度は低いものの，脂肪蓄積過程における ACE の役割の重要性を明らかにすることができた。

理念：

臨床にフィードバックできるような内容の研究テーマを選び，適切な薬物療法に貢献を目指す。

これから2年間の目標：

今までの2年間の目標を継承しレニン-アンジオテンシン系抑制剤の新たな機能解明を更に進める。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 0，助手 3，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	早狩 誠	8 ヶ月
研究課題	1. 脂肪蓄積機構におけるレニン-アンジオテンシン系の役割の解明 2. 記憶保持機構におけるレニン-アンジオテンシン系の役割の解明 3. 癌疾患におけるバイオマーカーの検索 4. 各種薬剤の適正使用に向けた TDM 解析			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 0，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	早狩 誠	12 ヶ月
研究課題	1. 脂肪蓄積機構におけるレニン-アンジオテンシン系の役割の解明 2. 記憶保持機構におけるレニン-アンジオテンシン系の役割の解明 3. 癌疾患におけるバイオマーカーの検索			

【研究業績】

I．発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- B.1. Kudo T, Asano J, Shimizu T, Nanashima N, Fan Y, Akita M, Ookawa K, Hayakari M, Yokoyama Y, Suto K, Tsuchida S. Different susceptibility to peroxisome proliferator-induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase genes. *Cancer Sci* 703-9,2006.
- B.2. Uno T, Niioka T, Hayakari M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, Tateishi T. Absolute bioavailability and metabolism of omeprazole in relation to CYP2C19 genotypes following single intravenous and oral administrations. *Eur J Clin Pharmacol* 62:143-9,2007.

2007年度

- A.1. Niioka T, Uno T, Sugimoto K, Sugawara K, Hayakari M, Tateishi T. Estimation of CYP2C19 activity by the omeprazole hydroxylation index at a single point in time after intravenous and oral administration. *Eur J Clin Pharmacol* 63:1031-8,2007.
- C.1. Miura M, Satoh S, Niioka T, Kagaya H, Saito M, Hayakari M, Habuchi T, Suzuki T. Limited sampling strategy for simultaneous estimation of the area under the concentration-time curve of tacrolimus and mycophenolic acid in adult renal transplant recipients. *Ther Drug Monit* 30:52-9,2008.

和文

2006年度

- A.1. 佐藤淳也, 藤田祥子, 菅原和信. 「物流システム導入による薬品管理業務の改善」. 日病薬誌 42:1079-1082,2006.
- A.2. 佐藤淳也, 藤田祥子, 菅原和信. 「がん化学療法時のリスク管理に関する看護業務の実態と意識調査」. 日病薬誌 42:1051-1054,2006.
- A.3. 佐藤淳也, 阿保都子, 成田幸子, 葛西 猛, 保嶋 実, 菅原和信. 「経腸栄養剤の細菌汚染と適切な投与器具洗浄方法の検討」. 医療薬学 32:740-746,2006.
- A.4. 佐藤淳也, 藤田祥子, 菅原和信. 「外来化学療法における薬剤師の役割」～一人薬剤師の安全性確保と医療経済性～. 薬事新報 2420:484-496,2006.
- A.5. 佐藤淳也, 藤田祥子, 早狩 誠. 「弘前大学医学部附属病院における後発医薬品の導入と薬剤師の役割」. 医薬品相互作用研究 30:77-80,2006.

2007年度

- A.1. 佐藤淳也, 早狩 誠. 感染性微生物への安全性を考慮した血漿分画製剤採用ガイドラインの作成 医薬品研究 38:333-341,2007.
- A.2. 佐藤淳也, 早狩 誠. 外来がん化学療法における制吐療法標準化に向けた使用状況調査と医療経済学的検討. 癌と化学療法 34:1637-42,2007.
- A.3. 佐藤淳也, 照井一史, 藤田祥子, 早狩 誠. がん専門薬剤師による外来化学療法支援と医療経済性. 日病薬誌 43:1179-81,2007.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cancer Sci	3.869	1	3.869
Eur J Clin Pharmacol	2.029	1	2.029
Total		2	5.898

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Clin Pharmacol	2.029	1	2.029
Total		1	2.029

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日病薬誌	2	1
医療薬学	1	
薬事新報	1	
医薬品相互作用	2	
医薬品研究		1
計	6	2

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. Kimihiko Satoh, Makoto Hayakari, and Ichiro Hatayama. THE BILE DUCT-LINKED GROWTH OF PRECURSOR CELL SPECIES OF PRENEOPLASTIC FOCI IN RAT LIVER. 20th IUBMB International Congress of Biochemisry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. 20th IUBMB International Congress of Biochemisry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. June 18-23, Kyoto, Japan.

(2) 全国学術集会

2006年度

- C. 9件

2007年度

- B.1. 佐藤淳也: 後発医薬品導入における薬剤師の責務 第15回クリニカルファーマシーシンポジウムランチョンセミナー (2007年 山形市)
C. 21件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2007年度

代表研究者: 早狩 誠
「ACE 阻害剤および ARB による記憶保持増強効果の解析」
中外製薬株式会社 100万円

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

Robert E.Smith 教授 (Harrison School of Pharmacy Auburn University) 講演会, 2007 年 3 月 22 日
シティ弘前ホテル

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

38. 脳神経病理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

- 1) 部門として年間 5 編以上の英語論文を発表する

Impact factor の付いた英文学術誌に 2006 年度は 11 編，2007 年度は 11 編の論文を発表した（到達度 100%）。

- 2) 学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める

2006 年度は共同研究により 11 編，2007 年度は共同研究により 11 編の論文を発表した（到達度 100%）。

- 3) 若手研究者（大学院生）の育成を行う

2006 年から大学院生 1 名を中国医科大学から受け入れ研究指導を行っている。既に筆頭著者として 2 編の論文を発表した（到達度 100%）。

理念：

当講座は附属脳神経血管病態研究施設に属しており，施設の目的である「脳血管障害と認知症を含めた脳神経疾患に関する学理及びその応用の研究」を行うことを立脚点としている。

これから2年間の目標：

- 1) 部門として年間 5 編以上の英語論文を発表する
- 2) 学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める
- 3) 若手研究者（大学院生）の育成を行う

【研究人員及び研究課題】

2006 年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 1，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教授	専任	若林 孝一	1 年
	助教授	専任	森 文秋	0.5 ヶ月
	助手	専任	丹治 邦和	1 年
	助手	専任	朱 剛	1 年
研究課題	1. 神経変性疾患，特にパーキンソン病における封入体形成メカニズム 2. 認知症における神経細胞変性と脳内蓄積物質 3. グリア細胞の機能と各種病態における変化 4. 脳腫瘍の病理診断 5. てんかんモデル動物を用いた病態解析			

2007 年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 0，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 1，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教授	専任	若林 孝一	1 年
	准教授	専任	森 文秋	1 年
	助教	専任	丹治 邦和	1 年
	助教	専任	朱 剛	7.5 ヶ月
研究課題	1. 神経変性疾患における封入体形成と細胞死 2. グリア細胞の機能と各種病態における変化 3. てんかんモデル動物を用いた病態解析			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Mori F, Nishie M, Houzen H, Yamaguchi J, Wakabayashi K. Hypoglycemic encephalopathy with extensive lesions in the cerebral white matter. *Neuropathology* 26:147-152,2006.
- A.2. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Mori F, Ueno S, Wakabayashi K, Kaneko S. Effects of interleukin-1 β on hippocampal glutamate and GABA releases associated with Ca²⁺-induced Ca²⁺ releasing systems. *Epilepsy Res* 71:107-116,2006.
- A.3. Wakabayashi K, Mori F, Takahashi H. Progression patterns of neuronal loss and Lewy body pathology in the substantia nigra in Parkinson's disease. *Parkinsonism Relat Disord* 12(Suppl 2):S92-S98,2006.
- A.4. Tanji K, Tanaka T, Mori F, Kito K, Takahashi H, Wakabayashi K, Kamitani T. NUB1 suppresses the formation of Lewy body-like inclusions by proteasomal degradation of synphilin-1. *Am J Pathol* 169:553-565,2006.
- A.5. Mori F, Nishie M, Kakita A, Yoshimoto M, Takahashi H, Wakabayashi K. Relationship among α -synuclein accumulation, dopamine synthesis, and neurodegeneration in Parkinson disease substantia nigra. *J Neuropathol Exp Neurol* 65: 808-815,2006.
- A.6. Wakabayashi K, Takahashi H. Cellular pathology in multiple system atrophy. *Neuropathology* 26:338-345, 2006.
- B.1. Orimo S, Amino T, Takahashi A, Kojo T, Uchihara T, Mori F, Wakabayashi K, Takahashi H. Cardiac sympathetic denervation in Lewy body disease. *Parkinsonism Relat Disord* 12(Suppl 2):S99-S105,2006.
- B.2. Imaizumi T, Sashinami H, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Nakane A, Wakabayashi K, Oyama C, Satoh K. **Listeria monocytogenes* induces the expression of retinoic acid-inducible gene-I. *Microbiol Immunol* 50:811-815,2006.
- B.3. Orimo S, Kanazawa T, Nakamura A, Uchihara T, Mori F, Kakita A, Wakabayashi K, Takahashi H. Degeneration of cardiac sympathetic nerve can occur in multiple system atrophy. *Acta Neuropathol* 113:81-86, 2007.
- B.4. Sato F, Imaizumi T, Sashinami H, Yoshida H, Kusumi T, Mori F, Wakabayashi K, Nakane A, Satoh K, Kijima H. *Upregulation of vascular endothelial growth factor by heat-killed *Listeria monocytogenes* in macrophages. *Biochem Biophys Res Commun* 354:608-612,2007.
- B.5. Yoshida S, Okada M, Zhu G, Kaneko S. *Carbamazepine prevents breakdown of neurotransmitter release induced by hyperactivation of ryanodine receptor. *Neuropharmacology* 52:1538-1546,2007.

2007年度

- A.1. Tanji K, Mori F, Kakita A, Zhang H, Kito K, Kamitani T, Takahashi H, Wakabayashi K. Immunohistochemical localization of NUB1, a synphilin-1-binding protein, in neurodegenerative disorders. *Acta Neuropathol* 114: 365-371,2007.
- A.2. Wakabayashi K, Tanji K, Mori F, Takahashi H. The Lewy body in Parkinson's disease: Molecules implicated in the formation and degradation of α -synuclein aggregates. *Neuropathology* 27:494-506,2007.
- A.3. Zhang H, Tan C-F, Mori F, Tanji K, Kakita A, Takahashi H, Wakabayashi K. TDP-43-immunoreactive neuronal and glial inclusions in the neostriatum in amyotrophic lateral sclerosis with and without dementia. *Acta Neuropathol* 115:115-122,2008.
- B.1. Orimo S, Takahashi A, Uchihara T, Mori F, Kakita A, Wakabayashi K, Takahashi H. Degeneration of cardiac sympathetic nerve begins in the early disease process of Parkinson's disease. *Brain Pathol* 17:24-30,2007.
- B.2. Tamo W, Imaizumi T, Yoshida H, Mori F, Fukuda I, Wakabayashi K, Satoh K. *Expression of synphilin-1 in human vascular endothelial cells. *Hiroshima Med J* 58:17-24,2007.
- B.3. Yoshida H, Imaizumi T, Lee S-J, Tanji K, Sakaki H, Matsumiya T, Ishikawa A, Taima K, Yuzawa E, Mori F, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K. *Retinoic acid-inducible gene-I mediates RANTES/CCL5 expression in U373MG human astrocytoma cells stimulated with double-stranded RNA. *Neurosci Res* 58:199-206,2007.
- B.4. Ogawa M, Kurahashi K, Ebina A, Kaimori M, Wakabayashi K. Miliary brain metastasis presenting with dementia: Progression pattern of cancer metastasis in the cerebral cortex. *Neuropathology* 27:390-395,2007.
- B.5. Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Takanashi S, Wakabayashi K, Takahashi R, Hattori N, Satoh K. *Parkin is expressed in vascular endothelial cells. *Neurosci Lett* 419:199-201,2007.
- B.6. Hu D-L, Zhu G, Mori F, Omoe K, Okada M, Wakabayashi K, Kaneko S, Shinagawa K, Nakane A. *Staphylococcal enterotoxin induces emesis through increasing serotonin release in intestine and it is downregulated by cannabinoid receptor 1. *Cell Microbiol* 9:2267-2277,2007.
- B.7. Orimo S, Amino T, Uchihara T, Mori F, Kakita A, Wakabayashi K, Takahashi H. Decreased cardiac uptake of MIBG is a potential biomarker for the presence of Lewy bodies. *J Neurol* 254 [Suppl 4]:21-28,2007.
- B.8. Hatakeyama M, Imaizumi T, Terasaki F, Mori F, Tanji K, Sato F, Kijima H, Wakabayashi K, Yoshida H, Fukuda I, Satoh K. *Interferon- γ upregulates retinoic acid-inducible gene-I in human pericardial mesothelial cells. *Acta Cardiologica* 62:553-557,2007.

和文

2006年度

- B.1. 岡田元宏, 朱 剛, 吉田淑子, 上野伸哉, 岸 昭宏, 鏡石佳史, 斎藤 亮, 高野行夫, 廣瀬伸一, 兼子 直.
ヒト機能性疾患と同じ遺伝子異常をもつ組換え動物の作出 (第二報). 精神薬療研究年報 39:37-43,2007.
B.2. 廣瀬伸一, 岡田元宏, 朱 剛, 上野伸哉, 吉田淑子, 福岡五龍, 斎藤 亮, 高野行夫, 兼子 直, 満留
昭久. 精神障害の新たな動物モデルヒトてんかんと同じ遺伝子異常をもつモデル動物. 脳と精神の医学
17:157-160,2006.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 若林孝一. グリア細胞質内封入体. Clinical Neuroscience 24:990-992,2006.

2007年度

- A.1. 若林孝一, 高橋 均. 家族性パーキンソン病の病理. Brain Nerve 59:851-864,2007.
A.2. 若林孝一. 神経変性疾患の診断に有用な封入体と免疫組織化学的マーカー. 病理と臨床 25:1080-1086,
2007.
A.3. 若林孝一. 痴呆脳におけるグリア細胞の病理. 老年期痴呆研究会誌 14:1-5,2007.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuropathology	1.167	2	2.334
Epilepsy Res	2.663	1	2.663
Parkinsonism Relat Disord	1.527	1	1.527
Am J Pathol	5.796	1	5.796
J Neuropathol Exp Neurol	4.471	1	4.471
Parkinsonism Relat Disord	1.527	1	1.527
Microbiol Immunol	1.61	1	1.61
Acta Neuropathol	2.527	1	2.527
Biochem Biophys Res Commun	3	1	3
Neuropharmacology	3.637	1	3.637
Total		11	29.092

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Neuropathol	2.694	2	5.388
Neuropathology	1.259	1	1.259
Brain Pathol	5.274	1	5.274
Hirosaki Med J	0	1	0
Neurosci Res	1.953	1	1.953
Neuropathology	1.259	1	1.259
Neurosci Lett	2.092	1	2.092
Cell Microbiol	5.07	1	5.07
J Neurol	2.984	1	2.984
Acta Cardiologica	0.519	1	0.519
Total		11	25.798

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
精神薬療研究年報	1	
脳と精神の医学	1	
Clinical Neuroscience	1	
Brain Nerve		1
病理と臨床		1
老年期痴呆研究会誌		1
計	3	3

2. 著書数（A, Bのみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他（A, Bのみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Imaizumi T, Sashinami H, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Nakane A, Wakabayashi K, Satoh K. *Listeria monocytogenes* induces the expression of retinoic-acid inducible gene-I. 20th International Congress of Biochemistry and Molecular Biology (2006.6.18-23, Kyoto, Japan)
- C.2. Tanji K, Mori F, Takahashi H, Wakabayashi K, Kamitani T. NUB1 accumulates in pathological inclusions found in brains of patients with alpha-synucleinopathies. The 16th International Congress of Neuropathology (2006.9.10-15, San Francisco, USA)
- C.3. Kimura T, Tomiyama M, Arai A, Suzuki C, Seino Y, Baba M, Mori F, Wakabayashi K, Shoji M. The long-acting dopamine agonist, cabergoline, prevents L-DOPA-induced dyskinesia in a rat model of Parkinson's disease. 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (2006.10.28-11.2, Kyoto)
- C.4. Zhu G, Okada M, Yoshida S, Wakabayashi K, Kaneko S. Interleukin-1 β leads overload response of Ca²⁺ mobilization resulting in the imbalance between glutamatergic and GABAergic transmission in hippocampus. The 6th Asian & Oceanian Epilepsy Congress (2006.11.16-19, Kuala Lumpur)
- C.5. Tanji K, Mori F, Takahashi H, Kamitani T, Wakabayashi K. The role of NEDD8 ultimate buster 1, NUB1, in neurodegenerative diseases. The 10th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. "Emerging Theories of Host Defense." (2006.11.21-22, Hirosaki, Japan)
- C.6. Imaizumi T, Mori F, Yagihashi N, Kitamura H, Sashinami H, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Sakaki H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Takanashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic-acid inducible gene-I and diseases. The 10th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. "Emerging Theories of Host Defense." (2006.11.21-22, Hirosaki, Japan)

2007年度

- A.1. Wakabayashi K. Neuropathology of α -synucleinopathy. China 10th National Congress of Neuropathology (2007. 10.20-21, Beijing, China)

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 若林孝一. Lewy 小体の形成機構. シンポジウム「Synucleinopathy」. 第 47 回日本神経病理学会 (2006. 5. 24-26, 岡山)
- C. 8 件

2007年度

- B.1. 若林孝一. 教育講演. 変性 (シヌクレイン). 第 48 回日本神経病理学会 (2007. 5.30-6.1, 東京)
- B.2. 丹治邦和, 若林孝一. 神経変性疾患脳における NEDD8 結合蛋白 NUB1 の役割. 第 30 回日本分子生物学会年会・第 80 回日本生化学会大会合同大会シンポジウム (2007.12.11-15, 横浜市)
- C. 5 件

Ⅲ. 学術賞

2007年度

弘前医学会優秀発表賞（第145回弘前医学会，2008.2.1）．張 海心ほか，「筋萎縮性側索硬化症における新規標的蛋白（TDP-43）の免疫組織化学的検討」

Ⅳ. 共同研究

2006年度

大正製薬医薬研究所，シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究，吉本 真

2007年度

大正製薬医薬研究所，シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究，吉本 真

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

若林孝一，平成18年度 科学研究費補助金（基盤研究C）：ユビキチン-プロテアソーム系を標的とするシヌクレイン封入体の形成・分解機構の解明，1,900千円

朱 剛，平成18年度 科学研究費補助金（若手B）：細胞内輸送障害によるてんかんのERストレス仮説の構築，1,900千円

他研究単位との研究分担者として

若林孝一，平成18年度 科学研究費補助金（基盤研究S）（代表：兼子 直）：てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発，15,800千円

若林孝一，平成18年度 科学研究費補助金（基盤研究C）（代表：早狩 誠）：遺伝性夜間前頭葉てんかんにおける脳部位特異的てんかん発症機構の解明，1,800千円

2007年度

研究代表者として

若林孝一，平成19年度 科学研究費補助金（基盤研究C）：ユビキチンプロテアソーム系を標的とするシヌクレイン封入体の形成・分解機構の解明，1,600千円

朱 剛，平成19年度 科学研究費補助金（若手研究B）：細胞内輸送障害によるてんかんのERストレス仮説の構築，1,500千円

他研究単位との研究分担者として

若林孝一，平成19年度 科学研究費補助金（基盤研究S）（代表：兼子 直）：てんかんの分子病態の解析：受容体・イオンチャネルの遺伝子多型に基づく個別化治療の開発，13,600千円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

丹治邦和，第25回唐牛記念医学研究基金研究助成金（助成金B）：ユビキチン関連タンパク質を標的とする加齢性神経変性機序の解明，1,000千円

丹治邦和，平成18年度 学術国際振興基金：ユビキチンフィールドから神経難病の病態解明への道を拓く，1,000千円

他研究単位との研究分担者として

若林孝一，平成18年度 弘前大学学長指定重点研究（代表：東海林幹夫）。

抗オリゴマー抗体による神経難病の根本的治療法の開発，7,500千円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

若林孝一，平成19年度 学長指定重点研究（代表：東海林幹夫）：神経障害性オリゴマー制御による神経難病の新規診断・治療法開発，5,000千円

若林孝一，平成19年度 学長指定重点研究（代表：伊東 健）：脳保護に向けたストレス応答機構のケミカルバイオロジー研究，5,000千円

(4) 民間の研究助成

2007 年度

研究代表者として

若林孝一：平成 19 年度北東北国立 3 大学連携推進プロジェクト：加齢に伴う脳変性疾患の予防法の開発，1,000 千円

若林孝一：平成 19 年度学術国際振興基金助成：国内学会・研究集会・学術講演会の助成，150 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

2006 年度

張 海心（大学院生，2006.5～現在）

2007 年度

張 海心（大学院生），中国医科大学（中国），2006.5～現在

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

2006 年度

森 文秋：スペイン科学研究高等会議バルセロナ医学生物学研究所への研究留学（平成 17 年 12 月から平成 19 年 3 月まで）

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2007 年度

第 14 回東北神経病理研究会（2007.10.6，弘前）

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

39. 脳血管病態学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

ほぼ100%達成できたものと考えている。

理念：

脳研をはじめ，学内外の研究グループとの共同研究を推進し，より質の高い研究成果をできるだけ多く挙げることを目指し，脳血管障害をはじめとする脳神経疾患を中心としつつも，特にテーマを限定することなく研究活動を実施していく。

これから2年間の目標：

- ・ 講座としての原著論文を，年間 3 編以上発表する。
- ・ 科学研究費補助金を講座内から代表として，毎年 1 件以上獲得する。
- ・ 講座構成員による学会発表を，毎年 1 件以上実施する。

【研究人員及び研究課題】

2006 年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	佐藤 敬	1 年
	講 師	専 任	吉田 秀見	1 年
	助 手	専 任	今泉 忠淳	1 年
研究課題	1. 脳血管障害の基礎的研究 2. 血管系細胞の細胞生物学的研究 3. グリア細胞の細胞生物学的研究 4. 免疫反応の細胞内機構に関する研究 5. 生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究 6. Retinoic acid-inducible gene-I に関する研究			

2007 年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	佐藤 敬	1 年間
	講 師	専 任	吉田 秀見	1 年間
	助 手	専 任	今泉 忠淳	1 年間
	助 手	専 任	松宮 朋穂	1 年間
研究課題	1. 脳血管障害の基礎的研究 2. 血管内皮細胞の細胞生物学的研究 3. グリア細胞の細胞生物学的研究 4. 炎症関連遺伝子に関する研究 5. 生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究 6. 動脈硬化の発生機序に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006 年度

- A.1. Imaizumi T, Mori F, Sashinami H, Matsumiya T, Nakane A, Wakabayashi K, Oyama C, Satoh K. *Listeria monocytogenes* induces the expression of retinoic-acid inducible gene-I. **Microbiol Immunol** 2006;50:811-815.

- A.2. Hatakeyama M, Imaizumi T, Yoshida H, Fukuda I, Satoh K. IL-1 induces the expression of vascular endothelial growth factor in human pericardial mesothelial cells. **Heart Vessels** 2007;22:123-127.
- B.1. Sirén J, Imaizumi T, Sarkar D, Pietilä T, Noah DL, Lin R, Hiscott J, Krug RM, Fisher PB, Julkunen I, Matikainen S. Retinoic acid inducible gene-I and *mda-5* are involved in influenza A virus-induced expression of antiviral cytokines. **Microbes Infect** 2006;8:2006-2012.
- B.2. Yamada Y, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Kato K, Kameyama T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Nozawa Y. Genetic risk for ischemic and hemorrhagic stroke. **Arterioscler Thromb Vasc Biol** 2006;26:1920-1925.
- B.3. Yamada Y, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Kato K, Kameyama T, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Assessment of genetic factors for type 2 diabetes mellitus. **Int J Mol Med** 2006;18:299-308.
- B.4. Kashiwakura I, Inanami O, Abe Y, Satoh K, Takahashi TA, Kuwabara K. Regeneration of megakaryocytopoiesis and thrombopoiesis *in vitro* from X-irradiated human hematopoietic stem cells. **Radiat Res** 2006;166:345-351,2006.
- B.5. Yamada Y, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Kato K, Hibino T, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Assessment of genetic risk for myocardial infarction. **Thromb Haemost** 2006;96:220-227.
- B.6. Samanta M, Iwakiri D, Kanda T, Imaizumi T, Takada K. EB virus-encoded RNAs (EBERs) are recognized by RIG-I and activate signaling to induce type I IFN. **EMBO J** 2006;25:4207-4214.
- B.7. Yamada Y, Kato K, Kameyama T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Ichihara S, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Genetic factors for obesity. **Int J Mol Med** 2006;18:843-851.
- B.8. Yamaguchi S, Yamada Y, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Kato K, Kameyama T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Nozawa Y. Genetic risk for atherothrombotic cerebral infarction in individuals stratified by sex or conventional risk factors for atherosclerosis. **Int J Mol Med** 2006;18:871-883.
- B.9. Yamada Y, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Kato K, Hibino T, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Assessment of genetic component of hypertension. **Am J Hypertens** 2006;19:1158-1165.
- B.10. Kubota K, Sakaki H, Imaizumi T, Nakagawa H, Kusumi A, Kobayashi W, Satoh K, Kimura H. Retinoic acid-inducible gene-I is induced in gingival fibroblasts by LPS or poly IC: possible roles in interleukin-1 β , -6 and -8 expression. **Oral Microbiol Immunol** 2006;21:399-406,2006.
- B.11. Nishihara K, Yamada Y, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Kato K, Yajima K, Hibino T, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Association of gene polymorphisms with myocardial infarction in individuals with or without conventional coronary risk factors. **Int J Mol Med** 2007;19:129-141.
- B.12. Kageyama K, Hanada K, Moriyama T, Imaizumi T, Satoh K, Suda T. Differential regulation of CREB and ERK phosphorylation through corticotropin-releasing factor receptors type 1 and 2 in AtT-20 and A7r5 cells. **Mol Cell Endocrinol** 2007;263:90-102.
- B.13. Wagoner J, Austin M, Green J, Imaizumi T, Casola A, Braiser A, Khabar KS, Wakita T, Gale M, Polyak SJ. Regulation of CXCL-8 (interleukin-8) induction by double-stranded RNA signaling pathways during hepatitis C virus infection. **J Virol** 2007;81:309-318.
- B.14. Kitamura H, Matsuzaki Y, Kimura K, Nakano H, Imaizumi T, Satoh K, Hanada K. Cytokine modulation of retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) expression in human epidermal keratinocytes. **J Dermatol Sci** 2007;45:127-134.
- B.15. Sato F, Imaizumi T, Sashinami H, Yoshida H, Kusumi T, Mori F, Wakabayashi K, Nakane A, Satoh K, Kijima H. Upregulation of vascular endothelial growth factor by heat-killed *Listeria monocytogenes* in macrophages. **Biochem Biophys Res Commun** 2007;354:608-612.

2007年度

- A.1. Tamo W, Imaizumi T, Yoshida H, Mori F, Fukuda I, Wakabayashi K, Satoh K. Expression of synphilin-1 in human vascular endothelial cells. **Hirotsuki Med J** 2007;58:17-24.
- A.2. Imaizumi T, Yagihashi N, Kubota K, Yoshida H, Sakaki H, Yagihashi S, Kimura H, Satoh K. Expression of retinoic acid-inducible gene-I (RIG-I) in macrophages: possible involvement of RIG-I in atherosclerosis. **J Atheroscler Thromb** 2007;14:51-55.
- A.3. Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Takanashi S, Wakabayashi K, Takahashi R, Hattori N, Satoh K. Parkin is expressed in vascular endothelial cells. **Neurosci Lett** 2007;419(3):199-201.
- A.4. Yoshida H, Imaizumi T, Sakaki H, Matsumiya T, Ishikawa A, Taima K, Yuzawa E, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene-I mediates RANTES/CCL5 expression in human astrocytoma cells stimulated with double-stranded RNA. **Neurosci Res** 2007;58:199-206.
- A.5. Imaizumi T, Yoshida H, Nishi N, Sashinami H, Nakamura T, Hirashima M, Ohyama C, Itoh K, Satoh K. Double-stranded RNA induces galectin-9 in vascular endothelial cells: involvement of TLR3, PI3K and IRF3 pathway. **Glycobiology** 2007;17:12C-15C.
- A.6. Hatakeyama M, Imaizumi T, Terasaki F, Mori F, Tanji K, Sato F, Kijima H, Suma H, Wakabayashi K, Yoshida H, Fukuda I, Satoh K. Interferon- γ upregulates retinoic acid-inducible gene-I in human pericardial mesothelial cells. **Acta Cardiol** 2007;62:551-555.
- A.7. Ishikawa A, Yoshida H, Metoki N, Toki T, Imaizumi T, Yamashita K, Taima K, Satoh K. Edaravone inhibits the expression of vascular endothelial growth factor in human astrocytes exposed to hypoxia. **Neurosci Res** 2007;59:406-412.
- A.8. Imaizumi T, Mechti N, Matsumiya T, Sakaki H, Kubota K, Yoshida H, Kimura H, Satoh K. Expression of interferon-stimulated gene 20 in vascular endothelial cells. **Microbiol Immunol** 2008;52:30-35.
- B.1. Yamaguchi S, Yamada Y, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Kato K, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Gender differences in the association of gene polymorphisms with type 2 diabetes mellitus. **Int J Mol Med** 2007;19:631-637.
- B.2. Yamada Y, Kato K, Hibino T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Ichihara S, Yoshida H, Satoh K,

- Nozawa Y. Prediction of genetic risk for metabolic syndrome. **Atherosclerosis** 2007;191:298-304.
- B.3. Kato K, Oguri M, Hibino T, Yajima K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y, Yokoi K, Yamada Y. Genetic factors for lone atrial fibrillation. **Int J Mol Med** 2007;19(6):933-939.
- B.4. *Nakagawa H, Matsumiya T, Sakaki H, Imaizumi T, Kubota K, Kusumi A, Kobayashi W, Kimura H. Expression of vascular endothelial growth factor by photodynamic therapy with mono-L-aspartyl chlorin (Npe6) in oral squamous cell carcinoma. **Oral Oncol** 2007;43:544-550.
- B.5. *Suzuki K, Imaizumi T, Tsugawa K, Ito E, Tanaka H. Expression of retinoic acid-inducible gene-I in lupus nephritis. **Nephrol Dial Transplant** 2007;22:2407-2409.
- B.6. Yamada Y, Matsuo H, Watanabe S, Kato K, Yajima K, Hibino T, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Association of a polymorphism of *CYP3A4* with type 2 diabetes mellitus. **Int J Mol Med** 2007;20:703-707.
- B.7. Yamada Y, Matsuo H, Warita S, Watanabe S, Kato K, Oguri M, Yokoi K, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Aoyagi Y, Yasunaga A, Park H, Tanaka M, Nozawa Y. Prediction of genetic risk for dyslipidemia. **Genomics** 2007;90:551-558.
- B.8. Yamada Y, Kato K, Yoshida T, Yokoi K, Matsuo H, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Aoyagi Y, Yasunaga A, Park H, Tanaka M, Lee W, Nozawa Y. Genetic risk for metabolic syndrome: examination of candidate gene polymorphisms related to lipid metabolism in Japanese individuals. **J Med Genet** 2008;45:22-28.
- B.9. Yamada Y, Kato K, Yoshida T, Yokoi K, Matsuo H, Watanabe S, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Yasunaga A, Park H, Tanaka M, Nozawa Y. Association of polymorphisms of *ABCA1* and *ROS1* with hypertension in Japanese individuals. **Int J Mol Med** 2008;21:83-90.
- B.10. Kim MJ, Hwang SY, Imaizumi T, Yoo JY. Negative feedback regulation of RIG-I-mediated anti-viral signaling by interferon-induced ISG15 conjugation. **J Virol** 2008;82:1474-83.
- B.11. *Sato F, Bhawal UK, Kawamoto T, Fujimoto K, Imaizumi T, Imanaka T, Kondo J, Koyanagi S, Noshiro M, Yoshida H, Kusumi T, Kato Y, Kijima H. Basic-helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 negatively regulates vascular endothelial growth factor expression. **Genes Cells** 2008;13:131-144.
- B.12. *Tsugawa K, Suzuki K, Oki E, Imaizumi T, Ito E, Tanaka H. Expression of mRNA for functional molecules in urinary sediment in glomerulonephritis. **Pediatr Nephrol** 2008;23:395-401.
- B.13. *Yuzawa E, Imaizumi T, Matsumiya T, Yoshida H, Fukuhara R, Kimura H, Fukui A, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K, Fujii S, Mizunuma H, Satoh K. Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon- γ and regulates CXCL11 expression in HeLa cells. **Life Sci** 2008;82:670-675.
- C.1. Matsumiya T, Prescott SM, Stafforini DM. IFN- ϵ mediates TNF- α -induced STAT1 phosphorylation and induction of retinoic acid-inducible gene-I in human cervical cancer cells. **J Immunol** 2007;179:4542-4549.

和文

2007年度

- B.1. * 皆川智子, 木村一之, 松崎康司, 中野 創, 今泉忠淳, 佐藤 敬, 澤村大輔. ヒト培養セラチノサイト で tumor necrosis factor- α と interferon- γ は相乗的に retinoic acid-inducible gene-I の発現を増加させる. 弘前医学 59(2-4):83-89,2008(3)

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Imaizumi T, Mori, F, Yagihashi N, Kitamura H, Sashinami H, Suzuki K, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Tanji K, Sakaki H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Tanaka H, Takahashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Ito E, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic acid-incucible gene-I (RIG-I) and diseases. **Hiroaki Med J** 2007;59:S137-S142.

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，B のみ）

英文

2006 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Microbiol Immunol	1.502	1	1.502
Heart Vessels	1.056	1	1.056
Microbes Infect	3.127	1	3.127
Arterioscler Thromb Vasc Biol	6.883	1	6.883
Int J Mol Med	1.854	4	7.416
Radiat Res	2.602	1	2.602
Thromb Haemost	2.803	1	2.803
EMBO J	10.086	1	10.086
Am J Hypertens	3.116	1	3.116
Oral Microbiol Immunol	2.089	1	2.089
Mol Cell Endocrinol	2.918	1	2.918
J Virol	5.341	1	5.341
J Dermatol Sci	2.636	1	2.636
Biochem Biophys Res Commun	2.855	1	2.855
Total		17	48.939

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hirosaki Med J	0	1	0
J Atheroscler Thromb	0	1	0
Neurosci Lett	2.092	1	2.092
Neurosci Res	1.953	2	3.906
Glycobiology	3.668	1	3.668
Acta Cardiol	0.519	1	0.519
Microbiol Immunol	1.502	1	1.502
Int J Mol Med	1.854	4	7.416
Atherosclerosis	3.811	1	3.811
Oral Oncol	2.103	1	2.103
Nephrol Dial Transpl	3.154	1	3.154
Genomics	3.558	1	3.558
J Med Genet	5.087	1	5.087
J Virol	5.341	1	5.341
Genes Cells	3.517	1	3.517
Pediatr Nephrol	2.007	1	2.007
Life Sci	2.389	1	2.389
Total		21	50.07

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
弘前医学		1
計	0	1

2. 著書数（A，B のみ）

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他（A，B のみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ．学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Imaizumi T, Sashinami H, Mori F, Matsumiya T, Yoshida H, Nakane A, Wakabayashi K, Satoh K. *Listeria monocytogenes* induces the expression of retinoic-acid inducible gene-I, 20th International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto, Japan, 2006.
- C.2. Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K. Double-stranded RNA induces the expression of retinoic acid-inducible gene-I in cultured astrocytes, The 8th International Conference of Neuroimmunology, Nagoya, Japan, 2006.
- C.3. Imaizumi T, Mori F, Yagihashi N, Kitamura H, Sashinami H, Yamashita K, Taima K, Kubota K, Sakaki H, Matsumiya T, Yoshida H, Matsuzaki Y, Nakano H, Takamashi S, Wakabayashi K, Yagihashi S, Nakane A, Okumura K, Kimura H, Satoh K. Retinoic-acid inducible gene-I and diseases, The 10th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science. "Emerging Theories of Host Defense." Hirosaki, Japan, 2006.
- C.4. Kato K, Yamada Y, Hibino T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Assessment of genetic risk for myocardial infarction, World Congress of Cardiology 2006, Barcelona, Spain, 2006.
- C.5. Yajima K, Yamada Y, Nichihama K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Kato K, Hibino T, Yokoi K, Ichihara S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y. Association of gene polymorphisms with myocardial infarction among men or women or among individuals with or without conventional risk factor. The 79th Scientific Sessions of American Heart Association, Chicago, USA, 2006.
- C.6. Oguri M, Kato K, Yajima K, Hibino T, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Kameyama T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Nozawa Y, Yamada Y. Genetic risk for lone atrial fibrillation. The 79th Scientific Sessions of American Heart Association, Chicago, USA, 2006.
- C.7. Oguri M, Kato K, Yajima K, Hibino T, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Kameyama T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Nozawa Y, Yamada Y. Assessment of genetic component of hypertension. The 79th Scientific Sessions of American Heart Association, Chicago, USA, 2006.
- C.8. Oguri M, Kato K, Yajima K, Hibino T, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Ichihara S, Kameyama T, Yokoi K, Matsuo H, Segawa T, Watanabe S, Nozawa Y, Yamada Y. Prediction of genetic risk for metabolic syndrome. The 79th Scientific Sessions of American Heart Association, Chicago, USA, 2006.

2007年度

- C.1. Yuzawa E, Fujii S, Fukuhara R, Kimura H, Fukui A, Imaizumi T, Yoshida H, Matsumiya T, Tanji K, Mori F, Wakabayashi K, Satoh K, Mizunuma H. Retinoic acid-inducible gene-I is induced by interferon- γ and regulates CXCL11 expression in HeLa cells. Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction and Reproductive Biology. Hirosaki, Japan. 2007.
- C.2. Oguri M, Kato K, Yoshida T, Hibino T, Yajima K, Fujimaki T, Yokoi K, Matsuo H, Warita S, Segawa T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Tanaka M, Nozawa Y, Ichihara S, Yamada Y. Genetic risk for low HDL-cholesterol or high LDL-cholesterol concentration. The 80th Scientific Sessions of American Heart Association. Orlando, USA. 2007.
- C.3. Kato K, Oguri M, Yoshida T, Hibino T, Yajima K, Fujimaki T, Yokoi K, Matsuo H, Warita S, Segawa T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Aoyagi Y, Tanaka M, Nozawa Y, Ichihara S, Yamada Y. Assessment of genetic risk for hypertriglyceridemia. The 80th Scientific Sessions of American Heart Association, Orlando, USA. 2007.
- C.4. Kato K, Oguri M, Yoshida T, Hibino T, Yajima K, Fujimaki T, Yokoi K, Matsuo H, Warita S, Segawa T, Watanabe S, Metoki N, Yoshida H, Satoh K, Nozawa Y, Ichihara S, Yamada Y. Assessment of genetic risk for thoracic aortic aneurysm among hypertensive patients. The 80th Scientific Sessions of American Heart Association, Orlando, USA. 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

C. 4件

2007年度

C. 1件

Ⅲ．学術賞

なし

IV. 共同研究

2006年度

三重大学生命科学研究支援センター（山田芳司）、生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究

2007年度

- ①三重大学生命科学研究支援センター、山田芳司、生活習慣病の遺伝的危険因子に関する研究、佐藤 敬
- ②香川大学医学部、免疫病理学講座、平島光臣、ガレクチンに関する研究、今泉忠淳
- ③聖マリアンナ医科大学難治病治療研究センター、中島利博、炎症の分子機構に関する研究、今泉忠淳

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

基盤研究(C)、肺・気道の免疫応答における新しいToll様受容体関連シグナル分子の意義(代表 今泉忠淳)、1,200千円

2007年度

研究代表者として

平成19年度科学研究補助金(基盤研究C(2))

今泉忠淳、吉田秀見、佐藤 敬、高梨信吾、亀井克彦：肺、気道の免疫応答における新しいToll様受容体関連シグナル分子の意義、700,000円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

青森県国民健康保険団体連合会支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」
(代表 佐藤 敬)、5,000千円

(3) 学内の研究助成

2007年度

研究代表者として

①平成19年度弘前大学学術国際振興基金(若手研究者への助成)

松宮朋穂：転写後調節による遺伝子発現制御機構の解明、1,000,000円

②第26回唐牛記念医学研究助成金(平成19年度)

松宮朋穂：新規アシル CoA 合成酵素の機能解析と細胞内への脂質取り込み機構の解明、1,000,000円

他研究単位との研究分担者として

①弘前大学学長重点研究

伊東 健、若林孝一、鬼島 宏、山田勝也、今泉忠淳：脳保護に向けたストレス応答機構のケミカルバイオロジー研究、5,000,000円

(4) 民間の研究助成

2007年度

研究代表者として

平成19年度青森県国民健康保険団体支援事業「弘前大学医学部研究開発支援事業」

佐藤 敬：青森県住民における脳卒中危険因子の実態、1,500,000円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

40. 脳神経生理学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2 年前に設定した，これから 2 年間の目標に対する到達度：

- 再生神経可視化動物の作成に関しては，動物作成用ベクターの作成および評価が終了した。
- 痙攣モデル動物の機能解析はほぼ終了し，論文投稿した。

理念：

遺伝子機能解析において遺伝子改変動物（トランスジェニック動物，遺伝子ノックアウトマウス）が果たしてきた役割は極めて大きいものの，遺伝子改変に伴う動物の機能解析を詳細に検討することによって，形態や致死性に注目した表現型だけでは明らかにできない遺伝子の機能を明確にすることが求められる。行動解析および，生理，分子生物学的なアプローチにより中枢神経機能，“こころ”のしくみを解明をめざす。

これから 2 年間の目標：

- 再生神経可視化動物の作成：動物作成用ベクターの受精卵打ち込みと，ファウンダーの確立，フェノタイプ解析
- 異なる突然変異が導入された痙攣モデル動物の機能解析：行動および電気生理学的解析，特に tonic GABA 応答異常と痙攣発作発症機序の解明を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2006 年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 0，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	上野 伸哉	1 年
	助 手	専 任	森山 朋子	1 年
研究課題	1. 再生神経の可視化動物作成 2. けいれん発作モデル動物の異常興奮発生機構の解明 3. 慢性疼痛モデル動物作成とその機能評価 4. 麻酔薬のシナプス応答への効果			

2007 年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 0，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 1			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	上野 伸哉	1 年
	助 教	専 任	右田 啓介	1 年
	助 教	専 任	山田 順子	4 ヶ月
研究課題	1. 再生神経の可視化動物作成 2. けいれん発作モデル動物の異常興奮発生機構の解明 3. 慢性疼痛モデル動物作成とその機能評価 4. 麻酔薬のシナプス応答への効果 5. 大脳皮質および大脳辺縁系における GABA 作動性トニックシグナルと不安のメカニズム 6. モデルマウスを用いた不安障害（パニック障害）の分子機構の解明 7. イオンチャネル型プリン受容体の gating 機構			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006 年度

- B.1. Chikutei K, Oyama TM, Ishida S, Okano Y, Kobayashi M, Matsui H, Horimoto K, Nishimura Y, Ueno SY & Oyama Y. (2006). Propofol, an anesthetic possessing neuroprotective action against oxidative stress,

- promotes the process of cell death induced by H₂O₂ in rat thymocytes. Eur J Pharmacol 540, 18-23.
- B.2. Nishimura Y, Kanada A, Yamaguchi JY, Horimoto K, Kobayashi M, Tatsuishi T, Kanemaru K, Ueno SY & Oyama Y. (2006). Cytometric analysis of lidocaine-induced cytotoxicity: a model experiment using rat thymocytes. Toxicology 218, 48-57.
- B.3. Yamamoto S, Yamada J, Ueno S, Kubota H, Furukawa T, Yamamoto S & Fukuda A. (2007). Insertion of $\alpha 7$ Nicotinic Receptors at Neocortical Layer V GABAergic Synapses Is Induced by a Benzodiazepine, Midazolam. Cereb Cortex 17, 653-660.

2007年度

- B.1. Yamada J, Furukawa T, Ueno S, Yamamoto S & Fukuda A. (2007). Molecular Basis for the GABA_A Receptor-Mediated Tonic Inhibition in Rat Somatosensory Cortex. Cereb Cortex. 17(8):1782-1787.
- B.2. Honda K., Koguchi M., Koga K., Nakajima K., Kobayashi F., Migita K., Ogata S., Hirabara Y., Takano Y. Contribution of Ca²⁺-dependent protein kinase C in the spinal cord to the development of mechanical allodynia in diabetic mice. (2007) Biol. Pharm. Bull. 30(5):990-993.
- B.3. Samways DS, Migita K, Li Z, Egan TM. Endoplasmic Reticulum Is a Key Organella in Bradykinin-Triggered ATP Release From Cultured Smooth Muscle Cells. (2007) J. Pharmacol. Sci. 105(1):57-65.
- B.4. Zhao Y., Migita K., Sato C., Usune S., Iwamoto T., Katsuragi T. On the role of the first transmembrane domain in cation permeability and flux of the ATP-gated P2X₂ receptor. (2008) J Biol Chem. 283(8):5110-7.
- C.1. Khirug S, Yamada J (contributed equally with K.S.), Afzalov R, Voipio J, Khiroug L, Kaila K. (2008) GABAergic depolarization of the axon initial segment in cortical principal neurons is caused by the Na-K-2Cl cotransporter NKCC1. J. Neuroscience 2008 in press.

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Pharmacol	2.477	1	2.477
Toxicology	2.584	1	2.584
Total		2	5.061

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cereb Cortex	6.519	1	6.519
BIOL PHARM BULL	1.614	1	1.614
J PHARMACOL SCI	2.408	1	2.408
J BIOL CHEM	5.581	1	5.581
Total		4	16.122

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
な し		
計	0	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 第12回糖尿病性神経障害を考える会
セッション2 痛みのトピックス
膜のポテンシャル
平成18年8月25日 東京
- B.2. てんかん・熱性けいれん遺伝子解析に関する共同研究グループ会議
GABAA受容体輸送とIP3結合能を有するタンパク (PRIP-1) 欠損マウスのフェノタイプ解析とその発症機構の検討
平成19年3月1日 大阪

2007年度

- B.1. 病態脳 ワークショップ 平成19年12月23日 東京
IP3結合能を有しGABAA受容体輸送に関与するタンパク (PRIP-1) 欠損マウスのフェノタイプ解析とその発症機構の検討 上野伸哉 他
- B.2. 大脳皮質錐体細胞におけるGABA作動性トニック抑制のメカニズム “ニューロトランスミッター研究会”
弘前 2008年1月 山田順子 他
- C. 4件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2006年度

研究課題：ベンゾジアゼピン系非感受性遺伝子改変動物を用いた抑制性神経系の機能解析
相手先：小野薬品工業株式会社水無瀬総合研究所
研究代表者：上野伸哉 2,420千円

2007年度

- ①研究課題：神経系Cl⁻トランスポーターをターゲットとした慢性疼痛制御機構の解明
相手先：小野薬品工業株式会社水無瀬総合研究所
研究代表者：上野伸哉 2,420千円
- ②福岡大学医学部 小児科
- ③福岡大学薬学部生体機能制御学

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

- 基盤研究(B) 人てんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその比較ゲノミクスの病態解析 (代表者: 上野伸哉) 4,600 千円
- 萌芽 認知機能異常動物モデルを用いた慢性疼痛機構の解明 (代表者: 上野伸哉) 1,900 千円

他研究単位との研究分担者として

- 基盤研究(S) てんかん分子病態の解析 (代表者: 兼子 直)
- 基盤研究(B) In vivo patch 法による prestin 導入再生内耳の直接的機能解析 (代表者: 欠畑誠治)

2007年度

研究代表者として

- 基盤研究(B) 人てんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその比較ゲノミクスの病態解析 (代表者: 上野伸哉) 5,000 千円
- 萌芽 認知機能異常動物モデルを用いた慢性疼痛機構の解明 (代表者: 上野伸哉) 1,400 千円
- 若手研究(B), 糖尿病ラットを用いた痛覚過敏に対するアデノシン三リン酸の関与と治療薬の探索, (代表者: 右田啓介), 1,400 千円.

他研究単位との研究分担者として

- 基盤研究(B) てんかん分子病態の解析 (代表者: 兼子 直)
- 基盤研究(B) In vivo patch 法による prestin 導入再生内耳の直接的機能解析 (代表者: 欠畑誠治)
- 基盤研究(C), 中枢性コリン作動神経を標的とした神経因性疼痛伝達機構の解明と治療薬の開発, (代表者: 本多健治)

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

- 平成 18 年度 学長重点継続 認知障害の統合的解析と認知再生科学の創出 (代表者: 藏田 潔)
- 平成 18 年度 学長重点 抗オリゴマー抗体による神経難病の根本的治療法の開発 (代表者: 東海林幹夫)

2007年度

他研究単位との研究分担者として

- 平成 19 年度 学長重点 抗オリゴマー抗体による神経難病の根本的治療法の開発 (代表者: 東海林幹夫)

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

41. 脳神経内科学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

脳血管障害，認知症，神経難病の臨床的・基礎的な研究を行い，新しい診断法や治療法を開発し，世界的な業績を発信するを目標として掲げたが，研究環境の整備と伴に着実な効果を上げている。

理念：

青森県の地域医療と全国レベルでの神経内科としての臨床・研究・教育の飛躍的な発展を行う。優秀な人材およびスタッフを確保し，世界的な臨床・教育・研究業績のための基盤を整備する。

これから2年間の目標：

これまでの研究基盤の整備をもとに，さらに Alzheimer 病や神経変性疾患の診断・治療において世界的な業績を発信する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 1，助手 1，医員 2，大学院学生 2，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	東海林幹夫	H18. 4. 1 ～ H19. 3.31
	助教授	専 任	馬場 正之	H18. 4. 1 ～ H18.12.31
	助教授	専 任	富山 誠彦	H19. 1. 1 ～ H19. 3.31
	講 師	専 任	富山 誠彦	H18. 4. 1 ～ H18.12.31
	講 師	専 任	瓦林 毅	H19. 1. 1 ～ H19. 3.31
	助 手	専 任	瓦林 毅	H18.10. 1 ～ H18.12.31
	助 手	専 任	村上千恵子	H18. 4. 1 ～ H19. 3.31
研究課題	1. アルツハイマー病の病態解明，診断，治療法の開発 2. 脳血管障害の臨床的研究 3. 遺伝性神経変性疾患の解明 4. パーキンソン病の病態解明，薬理学的研究 5. パーキンソン病の臨床研究 6. 多発性硬化症の臨床研究 7. てんかん発症機構の解明			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 1，講師 1，助教 1，助手 0，医員 2，大学院学生 2，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	東海林幹夫	H19. 4. 1 ～ H20. 3.31
	准教授	専 任	富山 雅彦	H19. 4. 1 ～ H20. 3.31
	講 師	専 任	瓦林 毅	H19. 4. 1 ～ H20. 3.31
	助 教	専 任	村上千恵子	H19. 4. 1 ～ H20. 3.31
研究課題	1. アルツハイマー病の関連遺伝子解明，生物学的マーカーの開発，アルツハイマー病の病態解析と根本的治療法の開発．非アルツハイマー型認知症の病態解明と治療法の解明 2. 脳血管障害の臨床疫学と治療法の開発．脳血管性認知症とアミロイドアンギオパチーの関連遺伝子解明と治療法の開発 3. パーキンソン病の診断マーカーの開発，モデル動物の作成，病態解明と治療法の開発 4. 神経変性疾患における原因遺伝子解明，病態解析と治療法の開発 5. 神経再生機序の解明と治療法への応用			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Murakami T, Paitel E, Kawarabayashi T, Ikeda M, Chishti MA, Janus C, Matsubara E, Sasaki A, Kawarai T, Phinney AL, Harigaya Y, Horne P, Egashira N, Mishima K, Hanna A, Yang J, Iwasaki K, Takahashi M, Fujiwara M, Ishiguro K, Bergeron C, Carlson GA, Abe K, Westaway D, St George-Hyslop P, Shoji M. Cortical neuronal and glial pathology in TgTauP301L transgenic mice: neuronal degeneration, memory disturbance, and phenotypic variation. *Am J Pathol.* 2006 Oct;169(4):1365-75. (5.917)
- A.2. Harigaya Y, Tomidokoro Y, Ikeda M, Sasaki A, Kawarabayashi T, Matsubara E, Kanai M, Saido TC, Younkin SG, Shoji M. Type-specific evolution of amyloid plaque and angiopathy in APPsw mice. *Neurosci Lett.* 2006 Feb 27;395(1):37-41. (2.092)
- A.3. Samura E, Shoji M, Kawarabayashi T, Sasaki A, Matsubara E, Murakami T, Wuhua X, Tamura S, Ikeda M, Ishiguro K, Saido TC, Westaway D, St George Hyslop P, Harigaya Y, Abe K. Enhanced accumulation of tau in doubly transgenic mice expressing mutant betaAPP and presenilin-1. *Brain Res.* 2006 Jun 13;1094(1):192-9. (2.341)
- A.4. Suzuki C, Tomiyama M, Baba M, Jinichi N, Ogawa M, Kurahashi K, Kamijo M: Reversible multifocal conduction block in sarcoid neuropathy. *J Peripher Nerv Syst* 2006;11:93-95.
- A.5. Kannari K, Shen H, Arai A, Tomiyama M, Baba M: Reuptake of L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum with dopaminergic denervation via serotonin transporters. *Neurosci Lett* 402:2006;62-65.
- A.6. Tomiyama M, Kimura T, Arai A, Kannari K, Baba M, Matsunaga M: Contribution of D1 receptor stimulation to the development of levodopa-induced dyskinesias in 6-hydroxydopamine-lesioned rats. *Parkinsonism & Related Disorders* 2006;12:S89.
- B.1. Kuwano R, Miyashita A, Arai H, Asada T, Imagawa M, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Kakita A, Takahashi H, Tsukie T, Toyabe S, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y; Japanese Genetic Study Consortium for Alzheimer's Disease. Dynamin-binding protein gene on chromosome 10q is associated with late-onset Alzheimer's disease. *Hum Mol Genet.* 2006 Jul 1;15(13):2170-82. (8.099)
- B.2. Deguchi K, Tsuru K, Hayashi T, Takaishi M, Nagahara M, Nagotani S, Sehara Y, Jin G, Zhang H, Hayakawa S, Shoji M, Miyazaki M, Osaka A, Huh NH, Abe K. Implantation of a new porous gelatin-siloxane hybrid into a brain lesion as a potential scaffold for tissue regeneration. *J Cereb Blood Flow Metab.* 2006 Oct;26(10):1263-73. (4.843)
- B.3. Ohta Y, Nagai M, Nagata T, Murakami T, Nagano I, Narai H, Kurata T, Shiote M, Shoji M, Abe K. Intrathecal injection of epidermal growth factor and fibroblast growth factor 2 promotes proliferation of neural precursor cells in the spinal cords of mice with mutant human SOD1 gene. *J Neurosci Res.* 2006 Oct;84(5):980-92. (3.476)
- B.4. Iwai M, Ikeda T, Hayashi T, Sato K, Nagata T, Nagano I, Shoji M, Ikenoue T, Abe K. Temporal profile of neural stem cell proliferation in the subventricular zone after ischemia/hypoxia in the neonatal rat brain. *Neurol Res.* 2006 Jun;28(4):461-8. (1.573)
- B.5. Sehara Y, Hayashi T, Deguchi K, Nagotani S, Zhang H, Shoji M, Abe K. Distribution of inducible nitric oxide synthase and cell proliferation in rat brain after transient middle cerebral artery occlusion. *Brain Res.* 2006 Jun 6;1093(1):190-7. (2.341)
- B.6. Kurata T, Kawarabayashi T, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Nagai M, Ikeda M, Matsubara E, Westaway D, Hyslop PS, Harigaya Y, Kamiya T, Shoji M, Abe K. Enhanced accumulation of phosphorylated alpha-synuclein in double transgenic mice expressing mutant β -amyloid precursor protein and presenilin-1. *J Neurosci Res.* 2007;85:2246-2252.
- B.7. Murakami T, Moriwaki Y, Kawarabayashi T, Nagai M, Ohta Y, Deguchi K, Kurata T, Takehisa Y, Matsubara E, Ikeda M, Harigaya Y, Shoji M, Takahashi R, Abe K. PINK1, a gene product of PARK6, accumulates in α -synucleinopathy brains. *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* 2007;78:653-654.

2007年度

- B.1. Sasaki S, Kawarabayashi T, Murakami T, Matsubara E, Ikeda M, Hagiwara H, Westaway D, George-Hyslop PS, Shoji M, Nakazato Y. Microglial activation in brain lesions with tau deposits: comparison of human tauopathies and tau transgenic mice TgTauP301L. *Brain Res.* 2008 12;1214:159-168.
- B.2. Miyashita A, Arai H, Asada T, Imagawa M, Matsubara E, Shoji M, Higuchi S, Urakami K, Kakita A, Takahashi H, Toyabe S, Akazawa K, Kanazawa I, Ihara Y, Kuwano R. The Japanese Genetic Study Consortium for Alzheimer's Disease, Consortium Information: Members are listed in the acknowledgements. Genetic association of CTNNA3 with late-onset Alzheimer's disease in females. *Hum Mol Genet* 2007 Dec 1;16(23):2854-2869
- B.3. Kurata T, Kawarabayashi T, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Nagai M, Ikeda M, Matsubara E, Westaway D, Hyslop PS, Harigaya Y, Kamiya T, Shoji M, Abe K. Enhanced accumulation of phosphorylated alpha-synuclein in double transgenic mice expressing mutant beta-amyloid precursor protein and presenilin-1. *J Neurosci Res.* 2007;85(10):2246-52.
- B.4. Murakami T, Moriwaki Y, Kawarabayashi T, Nagai M, Ohta Y, Deguchi K, Kurata T, Takehisa Y, Matsubara E, Ikeda M, Harigaya Y, Shoji M, Takahashi R, Abe K. PINK1, a gene product of PARK6, accumulates in α -synucleinopathy brains. *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* 2007 Jun;78(6):653-4.

- B.5. Hayashi T, Kamada H, Jin G, Deguchi K, Nagotani S, Sehara Y, Zhang H, Nagano I, Shoji M, Abe K. Different expression of low density lipoprotein receptor and ApoE between young adult and old rat brains after ischemia. *Neurol Res.* 2006 Dec;28(8):822-5.
- B.6. Nagata T, Ilieva H, Murakami T, Shiote M, Narai H, Ohta Y, Hayashi T, Shoji M, Abe K. Increased ER stress during motor neuron degeneration in a transgenic mouse model of amyotrophic lateral sclerosis. *Neurol Res.* 2007 Dec;29(8):767-71.
- B.7. Nagata T, Nagano I, Shiote M, Narai H, Murakami T, Hayashi T, Shoji M, Abe K. Elevation of MCP-1 and MCP-1/VEGF ratio in cerebrospinal fluid of amyotrophic lateral sclerosis patients. *Neurol Res.* 2007 Dec;29(8):772-6.
- B.8. Matsubara E, Tsuchiya A, Minami N, Nishino I, Pappolla MA, Shoji M, Abe K. A unique case of limb-girdle muscular dystrophy type 2A carrying novel compound heterozygous mutations in the human CAPN3 gene. *Eur J Neurol* 2007 Jul;14(7):819-822.
- B.9. Ohta Y, Hayashi T, Nagai M, Okamoto M, Nagotani S, Nagano I, Ohmori N, Takehisa Y, Murakami T, Shoji M, Kamiya T, Abe K. Two cases of spinocerebellar ataxia accompanied by involvement of the skeletal motor neuron system and bulbar palsy. *Intern Med.* 2007;46(11):751-5.

和文

2006年度

- A.1. 鈴木千恵子, 木村珠喜, 新井 陽, 前田哲也, 富山誠彦, 神成一哉, 馬場正之, 板橋智映子, 和田龍一. 化学療法のみで治癒した多発性ノカルジア脳膿瘍の1例. *脳と神経* 2006;58:505-508.
- A.2. 富山誠彦, 木村珠喜, 村上千恵子, 神成一哉, 馬場正之, 東海林幹夫, 森 文秋, 若林孝一. 若年発症と老年発症パーキンソン病モデルにおけるレボドパ反復投与への違い. *脳* 21 2006;9:142.
- A.3. 倉田智子, 瓦林 毅, 村上哲郎, 太田康之, 奈良井恒, 武久 康, 永井真貴子, 林 健, 東海林幹夫, 阿部康二. Aβ蓄積によるα-synucleinopathy誘導の検討. *脳* 21 2006;9:143.

2007年度

- A.1. 鈴木千恵子, 新井 陽, 木村珠喜, 若佐谷保仁, 清野祐輔, 富山誠彦, 馬場正之, 東海林幹夫, 杉本一博. アキレス腱反射減弱をともなった30歳代の認知症例. *臨床脳波* 2007;49:65-68.
- A.2. 瓦林 毅, 針谷康夫, 池田将樹, 岡本幸市, 東海林幹夫, 松原悦朗. トランスジェニックマウスを用いたアルツハイマー病発症機序の解析. *老年期痴呆研究会誌* 2007;14:9-11.
- A.3. 富山誠彦, 東海林幹夫: ザニサミドが著効したパーキンソン病の一例. *Pharma Medica*, 2007;257:162-163.

(2) 総説

英文

2006年度

- A.1. Hayashi T, Shoji M, Abe K: Molecular mechanisms of ischemic neuronal cell death—with relevance to Alzheimer's disease. *Curr Alzheimer Res.* 2006;3(4):351-8.

和文

2006年度

- A.1. 東海林幹夫. アルツハイマー病のバイオマーカーの新たな展開. *臨床化学* 2006;35:343-8.
- A.2. 東海林幹夫. 脳アミロイドーシスとしてのアルツハイマー病: 脳脊髄液 Aβ and tau による診断. *臨床病理* 2006 May;54(5):503-8.
- A.3. 東海林幹夫, 瓦林 毅, 松原悦朗. Alzheimer 病の診断マーカー (脳脊髄液と血漿). *Mebio* 2006;23:82-9.
- A.4. 東海林幹夫. 診断マーカー. *Modern Physician* 2006;26(12):1811-39.
- A.5. 東海林幹夫. かかりつけ医のための Q&A. 早期アルツハイマー病の診断マーカーの現状と開発状況について教えてください. *クリニシアン*. 2006;53:37-9.
- A.6. 東海林幹夫. アルツハイマー病の1世紀「これまで」と「これから」. 生物学的マーカーによる診断. *クリニシアン*. 2006;57:57-60.
- A.7. 東海林幹夫. アルツハイマー病の診断点評価基準試案. *DDL magazine* 2006 spring 22-23.
- A.8. 瓦林 毅, 東海林幹夫: アミロイドカスケード仮説に沿った認知症原因仮説と予防の可能性. *Progress in Medicine* 2006;26:361-7.
- A.9. 渡辺光法, 岡本幸市, 東海林幹夫. 常染色体劣性遺伝性脊髄小脳変性症 Ataxia-ocular aproxia 2. *神経研究の進歩* 2006;50:371-7.
- A.10. 針谷康夫, 東海林幹夫. 脳アミロイドアンギオパチー. *インターベンション時代の脳卒中学* (改訂第2版, 下) *日本臨床* 2006;64(suppl 8):755-759.
- A.11. 富山誠彦, 木村珠喜, 村上千恵子, 神成一哉, 馬場正之, 東海林幹夫, 森 文秋, 若林孝一. 若年発症と老年発症パーキンソン病モデルにおけるレボドパ反復投与への違い. *脳* 21.2006;9:142
- A.12. 富山誠彦, 東海林幹夫. ふるえと随伴症状から原因疾患を診断する ふるえと認知症. *Modern Physician*, 2007;27:51-53.
- A.13. 瓦林 毅, 東海林幹夫. Alzheimer 病のバイオマーカー. *医学のあゆみ* 2007;220:409-414.
- A.14. 瓦林 毅, 東海林幹夫. Alzheimer 病治療の進歩 ワクチン療法 神経治療 2007;24:169-176.
- A.15. 瓦林 毅. 病気のはなし アルツハイマー病, 検査と技術, 2006;34:630-637.
- A.16. 鈴木千恵子, 馬場正之. 末梢神経伝導検査報告書の書き方 *神経内科* 2006;65Suppl.4:252-255.

2007 年度

- A.1. 東海林幹夫. アルツハイマー病の新規診断法の開発. *Clinical Neuroscience*, 2007;25:178-180.
- A.2. 東海林幹夫. アルツハイマー病におけるアクチン細胞骨格異常, 日薬理誌, 2007;130:358-361.
- A.3. 東海林幹夫. 薬剤性認知症. *Modern physician*, 2007;27:722.
- A.4. 東海林幹夫. 認知症患者への処方. *Modern physician*, 2007;27:862.
- A.5. 東海林幹夫. バイオマーカーはどこまで進歩したのか脳脊髄液・血液マーカーの現状と課題, 老年精神医学雑誌, 第 18 巻 増刊号— III (印刷中)
- A.6. 東海林幹夫. アルツハイマー病の診断: 治療における新たな展開. 老年期痴呆研究会誌 (印刷中)
- A.7. 東海林幹夫. テロメアの短縮は認知症の発症と予後に関連する危険因子である. *Brain & Nerve* (印刷中)
- A.8. 富山誠彦, 東海林幹夫. ふるえと認知症. *Modern physician*, 2007;27:51-54.
- A.9. 富山誠彦, 東海林幹夫. ザニサミドが著効したパーキンソン病の一例. *Pharma Medica*, 2007;257:162-163.
- A.10. 瓦林 毅, 東海林幹夫. 脂質管理による認知症の予防. 分子脳血管病. 2008;7:66-71.
- A.11. 瓦林 毅, 東海林幹夫. Alzheimer 病治療の進歩 ワクチン療法. 神経治療学 2007;24:169-176
- A.12. 瓦林 毅, 東海林幹夫. Alzheimer 病のバイオマーカー. 医学のあゆみ 2007;220:409-414
- A.13. 瓦林 毅, 東海林幹夫. 動物モデルからみた神経変性疾患. 前頭側頭型認知症. 神経内科 2008;68:119-128.
- A.14. 瓦林 毅, 東海林幹夫. アルツハイマー病の最近の進歩 アルツハイマー病の早期診断法. 臨床検査 2008; 52(3):281-288.
- A.15. 瓦林 毅, 東海林幹夫. What's New in Top Journal 話題の論文. *Cognition and Dementia* 2007;6:62-63.
- A.16. 渡辺光法, 瓦林 毅, 富山誠彦, 東海林幹夫. Alzheimer 病—分子標的治療への展望. 神経治療学 2008; 25(1):19-23
- A.17. 渡辺光法, 瓦林 毅, 富山誠彦, 東海林幹夫. 認知症のバイオマーカー 臨床と研究 2008;85(4):21-24.
- A.18. 渡辺光法, 瓦林 毅, 富山誠彦, 東海林幹夫. アルツハイマー病のバイオマーカー カレントセラピー 2008;26(4):45-49.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006 年度

- A.1. 東海林幹夫. 進行性核上性麻痺. 今日の治療指針 2006 年度版. 東京: 医学書院; 2006. p.670-671.
- A.2. 東海林幹夫. アルツハイマー病. 2. 診断・治療予測に有効な生化学的・生理学的所見は何か? EBM 精神科疾患の治療 (上島国利, 三村将, 中込和幸, 平島奈津子編) 2005-2006. 中外医学社. 2006. p.321-326.
- A.3. 瓦林 毅, 東海林幹夫. 生物学的マーカー. 朝田隆編 軽度認知障害 p.47-61 中外医学社 東京 2007.
- A.4. 瓦林 毅, 東海林幹夫. アルツハイマー病. 阿部康二編 神経難病のすべて p.34-43 新興医学出版社 東京 2007.

2007 年度

- A.1. 東海林幹夫. アミロイドニューロパチー. 今日の治療指針, 2007 年度版, 2007. p.651-652.
- A.2. 東海林幹夫. アルツハイマー病の診断. 診断基準. 日本臨床 66 巻 増刊号 1 (通巻第 929 号) アルツハイマー病 日本臨床社, 大阪, 2008. p.213-219.
- A.3. 東海林幹夫. アルツハイマー病の診断. 3) b. 脳脊髄液 b) Aβ. 日本臨床 66 巻 増刊号 1 (通巻第 929 号) アルツハイマー病 日本臨床社, 大阪, 2008. p.241-246.
- A.4. 東海林幹夫. パーキンソン病. 市民のための老年病学. 弘前大学出版会, 2007. p.38-40.
- A.5. 瓦林 毅, 東海林幹夫. アルツハイマー病. 阿部康二編, 神経難病のすべて〜症状・診断から最先端治療, 福祉の実践まで. 新興医学, 東京, 2007. p.34-43.
- A.6. 瓦林 毅, 東海林幹夫. Alzheimer 病のバイオマーカー. 岩坪威編 別冊 医学のあゆみ 医歯薬出版株式会社, 東京, 2007. p.71-76.
- A.7. 瓦林 毅, 東海林幹夫. 生物学的マーカー. 軽度認知障害 [MCI] (朝田孝志編著), 中外医学社, 東京, 2007. p.47-59.
- A.8. 瓦林 毅, 東海林幹夫. 5. 生物学的マーカー. 軽度認知障害 (MCI): 認知症に先手を打つ 朝田隆編, 中外医学社, 東京, 2007. p.47-61.
- A.9. 瓦林 毅. 特殊なアルツハイマー病 遺伝性脳アミロイドーシス. ダッチタイプ遺伝性脳出血 (HCHWA-D) 日本臨床 66 巻 増刊号 1 (通巻第 929 号) アルツハイマー病 日本臨床社, 大阪, 2008. p.313-317.
- A.10. 瓦林 毅. 特殊なアルツハイマー病 遺伝性脳アミロイドーシス. アイスランドタイプ遺伝性脳出血 (HCHWA-I) アルツハイマー病. 日本臨床社, 大阪, 2008. p.319-323.

(4) その他

英文 なし

和文

2006 年度

- A.1. 田平 武, 東海林幹夫, 池田 学. 「認知症の診断と治療—現在および近未来の展望」, カレントセラピー 特別号 2006;24:88-94.
- A.2. 東海林幹夫, 松原悦朗, 瓦林 毅, 阿部康二. 脳 Aβ42 選択的除去報の検討. 厚生労働科学研究費補助金. 特定疾患対策研究事業. アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究. 平成 17 年度総括・分担研

- 究報告書 2006;55-77.
- A.3. 前田秀一郎, Henny Wati, 河西あゆみ, 伊藤禎洋, 東海林幹夫, 瓦林 毅, 松原悦朗, 河野裕夫, 石原得博. 遺伝性アルツハイマー病における脳内Aβアミロイド沈着への血清アミロイドP成分の関与に関する研究. 特定疾患対策研究事業. アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究. 平成17年度度総括・分担研究報告書 2006;58-60.
- A.4. 山田正仁, 廣畑美枝, 吉田光宏, 池田修一, 玉岡 晃, 葛原茂樹, 東海林幹夫, 安東由喜夫, 徳田隆彦. 我が国における脳アミロイドアンギオパチーに関する全国調査. 特定疾患対策研究事業. アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究. 平成17年度度総括・分担研究報告書 2006;66-70.
- A.5. 東海林幹夫. アミロイドーシス夏のワークショップ2005. II. アミロイドーシス各病型ごとの調査研究. 5. 脳アミロイドーシス(i)アルツハイマー病. 厚生労働科学研究費補助金. 特定疾患対策研究事業. アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究. 平成17年度度総括・分担研究報告書 2006;138-141.
- A.6. 東海林幹夫. ご挨拶. 岡山医学同窓会報. 2006, 100号, 9-10.
- A.7. 東海林幹夫. もの忘れ外来手帳. 2006, 7月
- A.8. 東海林幹夫. 弘前大学医学部神経内科年報. 第1号, 2006, 5月
- A.9. 東海林幹夫. 弘前大学医学部附属病院神経内科. 岡山大学神経内科教室年報. 第9号, 2006, 5月
- A.10. 東海林幹夫. 新任教授の自己紹介. 南塘だより. 2006, 41号
- A.11. 東海林幹夫. 編集後記. 南塘だより. 2006, 42号
- A.12. 東海林幹夫. 新任教授紹介. 医学部ウオーカー. 2006, 第36号
- A.13. 富山誠彦, 東海林幹夫. ゾニサミドが著効したパーキンソン病の1例, *Pharma Medica*, 2007;25:162-164.
- A.14. 鈴木千恵子, 新井 陽, 木村珠喜, 若佐谷保仁, 清野祐輔, 富山誠彦, 馬場正之, 東海林幹夫, 杉本一博. アキレス腱反射減弱を伴った30歳代の認知症例, *臨床脳波* 2007;49:65-68.
- A.15. 瓦林 毅, 東海林幹夫. What's New in Top Journal 話題の論文. *Cognition and Dementia* 2007;6:62-63.
- B.1. 東海林幹夫, 松原悦朗, 瓦林 毅, 阿部康二. 脳Aβ42選択的除去報の検討. 厚生労働科学研究費補助金. 特定疾患対策研究事業. アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究. 平成17年度度総括・分担研究報告書 2006;55-77.
- B.2. 前田秀一郎, Henny Wati, 河西あゆみ, 伊藤禎洋, 東海林幹夫, 瓦林 毅, 松原悦朗, 河野裕夫, 石原得博. 遺伝性アルツハイマー病における脳内Aβアミロイド沈着への血清アミロイドP成分の関与に関する研究. 特定疾患対策研究事業. アミロイド沈着による病的要素の検索に関する研究. 平成17年度度総括・分担研究報告書 2006;58-60.

2007年度

- A.1. 東海林幹夫, 栗原愛一郎, 今田慶行, 富山誠彦, 布村仁一, 畑中光昭. 進むべき慢性期脳梗塞慢性期治療「新薬と治療」 2007;56:3-16.
- A.2. 東海林幹夫. 弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設. *Cognitive and Dementia*, 2007;6:72-75.
- A.3. 東海林幹夫, 瓦林 毅, 池田将樹, 松原悦朗. 胆汁への血液Aβクリアランス経路の検討. 厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患克服研究事業, アミロイドーシスにカンする調査研究. 平成18年度 総括・分担研究報告書. p.51-57.
- A.4. 前田秀一郎, Henny Wati, 河西あゆみ, 平澤孝枝, 久保田建夫, 瓦林 毅, 松原悦朗, 東海林幹夫, 針谷康夫, 河野裕夫, 石原得博. 遺伝性アルツハイマー病における脳内Aβアミロイド沈着へのトランスス入れチンおよび血清アミロイドP成分の関与に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患克服研究事業, アミロイドーシスにカンする調査研究. 平成18年度 総括・分担研究報告書. p.54-57
- A.5. 東海林幹夫. 生化学・血液マーカーはどこまで進歩したのか, 現状と課題を再考する. アルツハイマー病研究会. 第8回学術シンポジウム. 別冊 メディカル朝日. 2007;36(7):8
- A.6. 瓦林 毅, 東海林幹夫. What's New in Top Journal 話題の論文. *Cognition and Dementia* 2007;6:62-63.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Pathol	5.917	1	5.917
Neurosci Lett	2.092	2	4.184
Brain Res	2.341	1	2.341
J Peripher Nerv Syst	2.065	1	2.065
Parkinsonism & Related Disorders	2.308	1	2.308
Curr Alzheimer Res	0	1	0
Hum Mol Genet	8.099	1	8.099
J Cereb Blood Flow Metab	4.843	1	4.843
J Neurosci Res	3.476	2	6.952
Neurol Res	1.573	1	1.573
Brain Res	2.341	1	2.341
Total		13	40.623

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brain Res	2.218	1	2.218
Hum Mol Genet	7.806	1	7.806
J Neurosci Res	3.263	1	3.263
J Neurol Neurosurg Psychiatry	3.857	1	3.857
Neurol Res	1.634	3	4.902
Eur J Neurol	2.58	1	2.58
Intern Med	0.797	1	0.797
Total		9	25.423

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
臨床化学	1	
臨床病理	1	
Mebio	1	
Modern Physician	2	
クリニシャン	2	
DDL magazine	1	
Progress in Medicine	2	
神経研究の進歩	1	
日本臨床	1	
脳21	4	
脳と神経	2	
医学部のあゆみ	1	
神経治療学	1	
検査と技術	1	
神経内科	1	
臨床脳波		1
老年期痴呆研究会誌		1
Pharma Medica		1
計	22	3

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006 年度	2007 年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	4	10

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
カレントセラピー特別号	1	
平成17年度総括・分担研究報告書	6	
岡山医学同窓会会報	1	
もの忘れ外来手帳	1	
弘前大学医学部神経内科年報	1	
岡山大学神経内科教室年報	1	
南塘だより	2	
医学部ウォーカー	1	
Pharma Medica	1	
臨床脳波	1	
Cognition and Dementia	1	2
進むべき慢性期脳梗塞慢性期治療「新薬と治療」		1
平成18年度 総括・分担研究報告書		2
別冊 メディカル朝日		1
計	17	6

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- B.1. Shoji M. The component of Lewy body. The 4th International Workshop on DLB and PDD. 2006, 11.4, Yokohama
- B.2. Shoji M. Aβ oligomer: Essential Therapeutic Target of Alzheimer's disease. "Aging" from basic to clinical Research. 2006, 11.7, Maebashi.
- C.1. Takeshi Kawarabayashi, Shoji M., Etsuro Matsubara, Tomoko Kurata, Tetsuro Murakami, Yasushi Takehisa, Makiko Nagai, Takeshi Hayashi, Tatsushi Kamiya, Koji Abe. Immune response to Aβ40 and tolerance to Aβ42 occur naturally without relationship to brain Aβ burden, 第25回日本認知症学会総会, 2006年10月6日-7日, 広島
- C.2. Murakami T, Kawarabayashi T, Kurata T, Nagai M, Inoue H, Moriwaki Y, Shoji M., Takahashi R, Abe K. Pael-R is accumulated in Lewy bodies of dementia with Lewy bodies and Parkinson's disease. 10th International Conference on Alzheimer's disease and related disorders. Madrid Spain, July 18, 2006
- C.3. Sasaki A, Shoji M., Kawarabayashi T, Ikeda M, Nakazato Y. Microglial activation in human tauopathies and transgenic mouse models, XVI International Congress of Neuropathology, Sept 9-16, 2006, San Francisco.
- C.4. M. Tomiyama, T. Kimura, A. Arai, M. Baba, M. Shoji. Cabergoline prevents L-DOPA-induced dyskinesia in a rat model of Parkinson's disease. Society for Neuroscience, 36th Annual Meeting, Oct 14-18, 2006, Atlanta
- C.5. T. Kimura, M. Tomiyama, A. Arai, C. Suzuki, Y. Seino, M. Baba, F. Mori, K. Wakabayashi, M. Shoji. The long-acting dopamine agonist, cabergoline, prevents L-DOPA-induced dyskinesia in a rat model of Parkinson's disease. 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Oct 28 - Nov 2, 2006, Kyoto
- C.6. Kawarabayashi T, Kurata T, Matsubara E, Murakami T, Takehisa Y, Nagai M, Hayashi T, Asami-Odaka A, Abe K, Shoji M. Selective Aβ42 removal using Aβ42 C-terminal-specific antibody reduces Aβ accumulation in Alzheimer's disease model mouse, Neuroscience 2006, the Society for Neuroscience, 36th Annual Meeting, Atlanta, 2006
- C.7. Kurata T, Kawarabayashi T., Murakami T, Ota Y, Morimoto N, Takehisa Y, Nagai M Hayashi T, Shoji M., Abe K. Enhanced accumulation of α-synuclein & phosphorylated α-synuclein in transgenic mice expressing APP and Presenilin-1. IGGP2006, Hiroshima, 2006

2007年度

- B.1. Mikio Shoji. Components of Lewy bodies. IPA 2007 Osaka SilverCongress October 18, 2007; Osaka, Japan
- B.2. Mikio Shoji. Aβ oligomer: An essential therapeutic target for Alzheimer's disease. Brain'07 and BrainPET'07, The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism & Function. Osaka, May 22, 2007
- C.1. Tomiyama M, Arai A, Kimura T, Watanabe M, Kawarabayashi T, Shoji M. Enhanced GABA release in the medial globus pallidus of a rat model of L-DOPA-induced dyskinesia. XVII WFN World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders. 9-13 Dec 2007, Amsterdam.
- C.2. Kawarabayashi T, Seino Y, Wakasaya Y, Kimura T, Suzuki C, Tomiyama M, Matsubara E, Shoji M. Analysis of amyloid angiopathy in Tg2576 Transgenic mouse model of Alzheimer's disease. Brain'07 and Brain PET'07, May 20-24, Osaka
- C.3. Kawarabayashi T, Seino Y, Wakasaya Y, Watanabe M, Suzuki C, Tomiyama M, Matsubara E, Egashira N, Takahashi M, Fujiwara M, Carlson GA, Westaway D, St. George-Hyslop P, Shoji M. Cortical neuronal and glial pathology in TgTauP301L transgenic mice Neuroscience 2007, the Society for Neuroscience, 37th Annual Meeting, Nov 14-18, 2007, San Diego
- C.4. Suzuki C, Tomiyama M, Kawarabayashi T, Shoji M., Baba M. Multiple Sclerosis with chronic sialadenitis, 17th meeting of the European Neurological Society, Jun 16-20, 2007, Rhodes Greece.
- C.5. Kimura T, Tomiyama M, Arai A, Suzuki C, Kawarabayashi T, Shoji M. Onset age or treatment age: Which is a more important risk factor for L-DOPA-induced dyskinesia in Parkinson's disease? XVII WFN World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders. Amsterdam, Netherlands, 9 - 13 December 2007
- C.6. Masaki Ikeda, Ilse Goris, Atsushi Sasaki, Takeshi Kawarabayashi, Yasuo Harigaya, Mikio Shoji., Dieder Moechars, Koichi Okamoto. Analysis of phosphorylation of tau in transgenic mice overexpressing GSK-3β. Neuroscience 2007, the Society for Neuroscience, 37th Annual Meeting, Nov 14-18, 2007, San Diego
- C.7. Sun H, Okamoto Y, Kawarabayashi T, Yokoseki T, Shibata M, Morishima M, Saito Y, Murayama S, Ihara Y, Shoji M., Michikawa M, Matsubara E. Characterization of therapeutic antibody against Aβ oligomers for Alzheimer's disease. Neuroscience 2007, the Society for Neuroscience, 37th Annual Meeting, Nov 14-18, 2007, San Diego
- C.8. Harigaya Y, Ikeda M, Sasaki A, Kawarabayashi T, Matsubara E, Saido TC, Younkin SG, Shoji M. Type-specific evolution of amyloid plaque and angiopathy in APPsw mice. 8th International Conference AD/PD 2007 March 17, 2007 Salzburg, Austria
- C.9. Kurata T, Kawarabayashi T, Murakami T, Miyazaki K, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Nagai M, Ikeda M, Matsubara E, Westaway D, Hyslop PS, Harigaya Y, Kamiya T, Shoji M., Abe K. Enhanced accumulation of phosphorylated α-synuclein in double transgenic mice expressing mutant βAPP and presenilin-1. IPA 2007 Osaka Silver Congress 14-18 October 2007, Osaka
- C.10. Ikeda M, Goris I, Sasaki A, Kawarabayashi T, Ishiguro K, Shoji M., Harigaya Y, Dieder M, Okamoto K. Analysis of transgenic mice overexpressing mutant tau and GSK-3β. IPA 2007 Osaka Silver Congress 14-18 October 2007, Osaka
- C.11. Murakami T, Imai Y, Inoue H, Kawarabayashi T., Nagai M, Kurata T, Takehisa Y, Harigaya Y, Shoji M.

- Takahashi R, Abe K. Accumulation of Parkinsons-disease-related molecules in Lewy bodies and glial cytoplasmic inclusions. Brain'07 and Brain PET'07, May 20-24, 2007, Osaka
- C.12. Murakami T, Kawarabayashi T, Ikeda M, Matsubara E, Nagai M, Kurata T, Morimoto N, Ohta Y, Takehisa Y, Abe K, Westaway D, St.George-Hyslop P, Shoji M. Cortical neuronal and glial pathology in TgTauP301L transgenic mice: neuronal degeneration, memory disturbance and phenotypic variation. Brain'07 and Brain PET'07, May 20-24, 2007, Osaka

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 東海林幹夫. 認知症の早期診断, バイオマーカー. 2005 年度日本神経学会, 北陸東海地区生涯教育講演会, 2006, 1月7日, 名古屋市
- A.2. 東海林幹夫. アルツハイマー病. 治療法における新たな展開. 第16回中部老年痴呆研究会. 2006, 10月14日, 名古屋
- B.1. 東海林幹夫. アルツハイマー病—診断と治療の進歩. 第18回信州脳神経シンポジウム. 2006, 11月11日, 松本
- C. 45件

2007年度

- A.1. 東海林幹夫. 認知症の臨床と病態, 日本神経学会東北地方会生涯教育講演会, 仙台, 2007年3月17日
- A.2. 東海林幹夫. 認知症:早期診断と治療. 第183回日本内科学会東北地方会, 第50回生涯教育講演会, 弘前, 2007年9月1日
- B.1. 東海林幹夫. アルツハイマー病におけるアクチン骨格異常. 日本薬理学会シンポジウム, 神経系アクチン細胞骨格の基礎と臨床. 第80回日本薬理学会年会, 名古屋国際会議場, 2007年3月16日
- B.2. 東海林幹夫. 生化学・血液マーカーはどこまで進歩したのか; 現状と課題を再考する. アルツハイマー型痴呆研究会, 第八回学術シンポジウム, 京王プラザホテル, 東京, 2007年4月14日
- C. 64件

Ⅲ. 学術賞

2006年度

第25回唐牛記念医学研究基金助成金 A
代表 東海林幹夫 脳アミロイドアンギオパチーの診断・治療法の開発 (350万円)

2007年度

1. 平成19年度弘前大学学長指定重点研究
代表 東海林幹夫 抗オリゴマー抗体による神経難病の根本的治療法の開発
2. 代謝異常研究基金平成19年度研究助成金
代表 東海林幹夫 コレステロール代謝制御によるアルツハイマー病の根本的治療法の開発

Ⅳ. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として
文部科学省研究費補助金 (基盤 B)
代表 (東海林幹夫) Alzheimer 病における AB, tau 蓄積および, 神経細胞死の治療法の開発 (16390251, 280 万円)

2007年度

研究代表者として
文部科学省研究費補助金 (基盤研究 B)
代表 (東海林幹夫) 神経障害性オリゴマー制御によるアルツハイマー病の新規診断・治療法開発と臨床応用
文部科学省研究費補助金 (基盤研究 C)
代表 (瓦林 毅) リピドラフトのアミロイド B 蛋白オリゴマーを指標とした治療法の開発
他研究単位との研究分担者として
文部科学省研究費補助金 (知的クラスター創成事業さっぽろバイオクラスター”Bio-S)
分担 (高橋はるみ, 北海道知事)

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金

分担（金沢大学、山田正仁教授）特定疾患対策研究事業、アミロイドーシスに関する調査研究

厚生労働科学研究費補助金

研究協力（長寿研、鷺見幸彦部長、分担課題研究：認知症の画像データベースの構築）、

経済産業省戦略的技術開発委託費（2006-2010）

東海林幹夫、北興化学、大豆発現 Aβ によるワクチン療法の開発

2007年度

他研究単位との研究分担者として

経済産業省戦略的技術開発委託費

分担（丸山孝雄、北興化学）組み替えダイズによるワクチンペプチドの開発

厚生労働科学研究補助金

分担（金沢大学、山田正仁教授）特定疾患対策研究事業、アミロイドーシスに関する調査研究

厚生労働科学研究補助金

分担（長寿研、鷺見幸彦部長）認知症の画像データベースの構築

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

平成 18 年度弘前大学学長指定重点研究

代表 東海林幹夫 抗オリゴマー抗体による神経難病の根本的治療法の開発（750 万円）

2007年度

研究代表者として

平成 19 年度弘前大学学長指定重点研究

代表 東海林幹夫 抗オリゴマー抗体による神経難病の根本的治療法の開発

第 25 回唐牛記念医学研究基金助成金（A）

代表 東海林幹夫、脳アミロイドアンギオパチーの診断治療法の開発

(4) 民間の研究助成

2007年度

研究代表者として

代謝異常研究基金平成 19 年度研究助成金

代表 東海林幹夫 コレステロール代謝制御によるアルツハイマー病の根本的治療法の開発（100 万円）

カテコラミンと神経疾患に対する研究助成（100 万円）「レボドーパ誘発ジスキネジアの発現機序の解明

に向けて：線条体有棘神経細胞の樹状突起上スパインの形態的定量解析」

受託研究（200 万円）「プラミペキソールによる L-DOPA 誘発ジスキネジア抑制効果」

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2007 年度

9 月 1 日 日本神経学会東北地方会 (主宰)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

Ⅶ. その他

2006 年度

新聞報道, テレビ出演など

1. 東海林幹夫. アルツハイマー病の専門診療を行う. デイリー東北. 2006, 2 月 27 日
2. 東海林幹夫. MS 患者らとの連携願い. 陸奥新報. 2006, 8 月 27 日
3. 東海林幹夫. 認知症予防に新検診. 陸奥新報. 2006, 10 月 12 日
4. 東海林幹夫. 認知症って, なあに. 森の雫. 青森テレビ. 2006, 9 月 24 日

42. 分子生体防御学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

- ・各研究員がそれぞれ筆頭著者として海外学術誌に年1報以上論文を発表することに関しては目標が到達できなかった。研究室の移動などがあったためであり、今後努力を継続していきたい。
- ・国際学会、全国大会レベルの学会等で各研究員が年1回以上発表を行った。
- ・各研究員がそれぞれ研究代表者として科学研究費に1件以上採択されることに関しては目標が達成できなかった。今後努力を継続していきたい。

理念：

教官，大学院生とともに，学術的に意義のある，さらに国際的な評価を得られるような研究を行う。

国内外の共同研究を積極的に行い，幅広い研究を進める。

研究活動を通じ，教室員の研究能力を高めるとともに，優れた倫理感を持った研究を行う。また，人材の交流および研究材料の交換を通して国際レベルでの研究活動に参画する。

これから2年間の目標：

- ・各研究員がそれぞれ筆頭著者として海外学術誌に年1報以上論文を発表する。
- ・国際学会，全国大会レベルの学会等で各研究員が年1回以上発表を行う。
- ・各研究員がそれぞれ研究代表者として科学研究費に1件以上採択される。
- ・弘前大学医学部の各研究室との共同を通して，競争力のある基礎研究を進めていく。
- ・研究室員個人レベルでの目標を達成することにより，研究室として未知なる領域の開拓に挑み，国際的な評価を得る研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 0，講師 0，助手 3，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	伊東 健	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	細谷 朋方	2006.4.1 ～ 2007.2.16
	助 手	専 任	丸山 敦史	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	原田 伸彦	2006.4.1 ～ 2007.3.31
研究課題	1. 転写因子 Nrf2 の転写活性化機構の解析 2. Nrf2 による鉄代謝調節とその生理的機能 3. Nrf2 の細菌感染防御への関与の解析 4. Nrf2 活性化による脳変性疾患の防御機構の解析 5. 内皮細胞 HO-1 の個体レベルでの機能 6. 転写因子 Nrf2 の動脈硬化への関与 7. 個体レベルにおける Nrf2 の自然免疫への関与			

2007年度

研究人員	教授 1，准教授 0，講師 1，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	伊東 健	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	講 師	専 任	三村 純正	2007.10.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	丸山 敦史	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	原田 伸彦	2007.4.1 ～ 2008.3.31
研究課題	1. 転写因子 Nrf2 の転写活性化機構の解析 2. Nrf2 による鉄代謝調節とその生理的機能 3. Nrf2 による動脈硬化症防御の解析 4. Nrf2 の細菌感染防御への関与の解析			

5. Nrf2 活性化による脳変性疾患の防御機構の解析
6. 親電子性物質の神経細胞に与える影響
7. カルノシン酸による NGF 誘導メカニズムの解明
8. Nrf2 による遺伝子発現分子機構の解析
9. 遺伝子発現活性化における Z-DNA の役割
10. Z-DNA 形成と疾患の関与

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006 年度

- B.1. Zhu H, Zhang L, Itoh K, Yamamoto M, Ross D, Trush MA, Zweier JL, Li Y. Nrf2 controls bone marrow stromal cell susceptibility to oxidative and electrophilic stress. *Free Radic Biol Med* 2006;41:132-43.
- B.2. Warabi E, Takabe W, Minami T, Inoue K, Itoh K, Yamamoto M, Ishii T, Kodama T, Noguchi N. Shear stress stabilizes NF-E2-related factor 2 and induces antioxidant genes in endothelial cells: role of reactive oxygen/nitrogen species. *Free Radic Biol Med* 2007;42:260-9.
- B.3. Kitamura Y, Umemura T, Kanki K, Kodama Y, Kitamoto S, Saito K, Itoh K, Yamamoto M, Masegi T, Nishikawa A, Hirose M. Increased susceptibility to hepatocarcinogenicity of Nrf2-deficient mice exposed to 2-amino-3-methylimidazo[4,5-f]quinoline. *Cancer Sci* 2007;98:19-24.
- C.1. Tong KI, Katoh Y, Kusunoki H, Itoh K, Tanaka T, Yamamoto M. Keap1 recruits Neh2 through binding to ETGE and DLG motifs: characterization of the two-site molecular recognition model. *Mol Cell Biol* 2006;26:2887-2900.
- C.2. McMahon MJ, Thomas N, Itoh K, Yamamoto M, Hayes JD. Dimerisation of substrate adaptors can facilitate cullin-mediated ubiquitylation of proteins by a 'tethering' mechanism: A two-site interaction model for the Nrf2-Keap1 complex. *J Biol Chem* 2006;281:24756-68.
- C.3. Zhang J, Ohta T, Maruyama A, Hosoya T, Nishikawa K, Maher JM, Shibahara S, Itoh K, Yamamoto M. BRG1 Interacts with Nrf2 to Selectively Mediate HO-1 Induction in Response to Oxidative Stress. *Mol Cell Biol* 2006;26:7942-52.
- C.4. Sakurai T, Kanayama M, Shibata T, Itoh K, Kobayashi A, Yamamoto M, Uchida K. Ebselen, a Seleno-organic Antioxidant, as an Electrophile. *Chem Res Toxicol* 2006;19:1196-1204.
- C.5. Morikawa K, Ohniwa L R, Kim J, Maruyama A, Ohta T and Takeyasu K. Survival Strategies of Bacteria: Molecular Mechanisms of the Nucleoid Compaction in *Staphylococcus aureus* under Oxidative Stress. *Genes to Cells* 2006;11:409-423.
- C.6. Inose Y, Takeshita SL, Hidaka T, Higashide M, Maruyama A, Hayashi H, Morikawa K, Ohta T. Genetic characterization of the natural SigB variants found in clinical isolates of *Staphylococcus aureus*. *J Gen Appl Microbiol* 2006;52:259-721.

2007 年度

- B.1. Zhang J, Hosoya T, Maruyama A, Nishikawa K, Maher JM, Ohta T, Motohashi H, Fukamizu A, Shibahara S, Itoh K, Yamamoto M. Nrf2 Neh5 domain is differentially utilized in the transactivation of cytoprotective genes. *Biochem J* 2007;404:459-466.
- B.2. Imaizumi T, Yoshida H, Nishi N, Sashinami H, Nakamura T, Hirashima M, Ohyama C, Itoh K, Satoh K. *Double-stranded RNA induces galectin-9 in vascular endothelial cells: involvement of TLR3, PI3K, and IRF3 pathway. *Glycobiology* 2007;17(7):12C-5C.
- B.3. Watai Y, Kobayashi A, Nagase H, Mizukami M, McEvoy J, Singer JD, Itoh K, Yamamoto M. Subcellular localization and cytoplasmic complex status of endogenous Keap1. *Genes Cells* 2007;12(10):1163-78.
- B.4. Iida K, Itoh K, Maher JM, Kumagai Y, Oyasu R, Mori Y, Shimazui T, Akaza H, Yamamoto M. Nrf2 and p53 cooperatively protect against BBN-induced urinary bladder carcinogenesis. *Carcinogenesis* 2007;28:2398-403.
- B.5. Kimura M, Yamamoto T, Zhang J, Itoh K, Kyo M, Kamiya T, Aburatani H, Katsuoka F, Kurokawa H, Tanaka T, Motohashi H, Yamamoto M. Molecular basis distinguishing the DNA binding profile of NRF2-MAF heterodimer from that of MAF homodimer. *J Biol Chem* 2007;282:33681-90.
- B.6. Satoh T, Kosaka K, Itoh K, Kobayashi A, Yamamoto M, Shimojo Y, Kitajima C, Cui J, Kamins J, Okamoto S, Izumi M, Shirasawa T, Lipton SA. Carnosic acid, a catechol-type electrophilic compound, protects neurons both in vitro and in vivo through activation of the Keap1/Nrf2 pathway via S-alkylation of targeted cysteines on Keap1. *J Neurochem* 2008;104(4):1116-31.
- C.1. Aoki Y, Hashimoto AH, Amanuma K, Matsumoto M, Hiyoshi K, Takano H, Masumura K, Itoh K, Nohmi T, Yamamoto M. Enhanced spontaneous and benzo(a)pyrene-induced mutations in the lung of Nrf2-deficient gpt delta mice. *Cancer Res* 2007;67:5643-8.
- C.2. Higgins LG, Cavin C, Itoh K, Yamamoto M, Hayes JD. Induction of cancer chemopreventive enzymes by coffee is mediated by transcription factor Nrf2. Evidence that the coffee-specific diterpenes cafestol and kahweol confer protection against acrolein. *Toxicol Appl Pharmacol* 2008;226(3):328-37.
- C.3. Ohshima M, Mimura J, Yamamoto M. and Fujii-Kuriyama Y. Molecular mechanism of transcriptional repression of AhR repressor involving ANKRA2, HDAC4, and HDAC5, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*,

2007;364:276-282

- C.4. Hosoya T, Harada N, Mimura J, Motohashi H, Takahashi S, Nakajima O, Morita M, Kawauchi S, Yamamoto M and Fujii-Kuriyama Y. Inducibility of cytochrome P450 1A1 and chemical carcinogenesis by benzo[a]pyrene in AhR repressor-deficient mice, Biochem. Biophys. Res. Commun., 2008;365:562-567

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 丸山敦史, 伊東 健. 活性酸素のセンシング機構と遺伝子発現制御分子細胞治療 2006;5:483-489.

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 原田伸彦, 文献紹介：種間で保存された MST-FOXO シグナル経路は酸化ストレス応答を仲介し，寿命を延ばす．分子細胞治療 2006;5:560-561.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，B のみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
FREE RADICAL BIO MED 2006	5.44	1	5.44
FREE RADICAL BIO MED 2007	不明	1	不明
CANCER SCI	3.869	1	3.869
Total		3	9.309

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochem J.	4.1	1	4.1
Glycobiology	3.668	1	3.668
Genes Cells	3.517	1	3.517
Carcinogenesis	5.366	1	5.366
J Biol Chem	5.808	1	5.808
J Neurochem	4.26	1	4.26
Total		6	26.719

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
分子細胞治療	1	
計	1	0

2. 著書数（A，B のみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文（論文数）

雑 誌 名	2006 年度	2007 年度
分子細胞治療	1	
計	1	0

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- C.1. Maruyama A, Nishikawa K, Hosoya T, Kawatani Y, Zhang J, Yanagisawa J, Itoh K and Yamamoto M. TRRAP represses an oxidative stress-responsive transcription factor Nrf2. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. (Kyoto), 2006.
- C.2. Maruyama A, Tsukamoto S, Nishikawa K, Motojima K, Ishii T, Nakane A, Yamamoto M and Itoh K. Nrf2-mediated upregulation of CD36 gene expression enhances the phagocytotic activity of RAW264.7 cells against *Staphylococcus aureus*. The 10th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Sciences. (Hirosaki), 2006.
- C.3. Tsukamoto S, Nishikawa K, Maruyama A, Zhang J, Maher JM, Motojima K, Ishii T, Yamamoto M, Itoh K. Nrf2 directly regulates CD36 expression by binding to a distal ARE upstream of exon 1a. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. Kyoto, 2006.
- C.4. Zhang J, Hosoya T, Maruyama A, Nishikawa K, Maher M J, Ota T, Fukamizu A, Itoh K and Yamamoto M. Actin-related motif in Nrf2-Neh5 conserved between Cap'n'Collar transcription factors activates transcription. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. Kyoto, 2006, (Abstract p.247).
- C.5. Harada N, Hosoya T, Mimura J, Motohashi H, Takahashi S, Nakajima O, Morita M, Kawauchi S, Yamamoto M, Fuji-Kuriyama Y. Reduction of benzo[a]pyrene carcinogenicity in AhRR null mice. 20th International congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto, 2006.

2007 年度

- B.1. Itoh K. Elucidating the roles of Nrf2 in the central nervous system. JST-ERATO Yamamoto environmental response project international symposium. Tsukuba, 2007.
- C.1. Itoh K, Zhang J, Hosoya T, Maruyama A, Ota T, Yamamoto M. BRG1 and actin-related motif in Nrf2 is essential for Nrf2-mediated heme oxygenase 1 induction. 32nd FEBS congress "molecular machines" Vienna, Austria, 2007.
- C.2. Maruyama A, Kosaka K, Shimojo Y, Satoh T, Kitajima C, Asada K, Shirasawa T, Yamamoto M, Itoh K. Carnosic acid promotes Nrf2-dependent neurite outgrowth through activation of p62 in PC12h cells. JST-ERATO Yamamoto Environmental Response Project International Symposium: The Environmental Response, Tsukuba, 2007.
- C.3. Harada N, Maruyama A, Hosoya T, Toki T, Yoshida A, Yamamoto M, Itoh K. Nrf2 enhances iron release from macrophage by up-regulation of ferroportin-1 expression. JST-ERATO Yamamoto Environmental Response Project International Symposium: The Environmental Response, EPOCHAL Tsukuba International Congress Center, Japan, 2007.
- C.4. 丸山敦史, 小坂邦男, 下条洋輔, 佐藤拓己, 北島智恵子, 朝田晃一, 白澤卓二, 山本雅之, 伊東 健. カルノシン酸による Nrf2 を介した神経突起伸長促進機構の解析. 第 30 回日本分子生物学会年会・第 80 回日本生化学会大会合同大会, 横浜, 2007
- C.5. Harada N, Maruyama A, Hosoya T, Yoshida A, Yamamoto M, Itoh K. Identification of Nrf2-regulated 15-deoxy- $\Delta^{12,14}$ prostaglandin J_2 -inducible genes in macrophages. 2007 Biochemistry and Molecular Biology, , Yokohama, 2007

(2) 全国学術集会

2007 年度

- C. 1 件

Ⅲ. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として
基盤研究 (C) 動脈硬化症における転写因子 Nrf2 の役割.
伊東 健. 2,200 千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として
独立行政法人 科学技術振興機構 地域イノベーション創出総合支援事業
平成 18 年度 シーズ発掘試験
Nrf2 活性化に基づく神経変性疾患予防評価法の開発.
丸山敦史. 2,000 千円

2007年度

研究代表者として
基盤研究 (C) 動脈硬化症における転写因子 Nrf2 の役割

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として
財団法人 病態代謝研究会研究助成金
内皮細胞 HO-1 による抗炎症作用の個体レベルでの解析.
伊東 健. 1,000 千円

2007年度

研究代表者として
第 26 回唐牛記念医学研究基金助成金 (A)

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

43. 糖鎖工学講座

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

2年前に設定した目標は下記1～4である。

1. Impact factor のついた学術雑誌に first author として年1報の論文を発表する。
2. 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表する。
3. 研究代表者として科学研究費補助金に1件採択を目指す。
4. 他機関との共同研究を大切にする。

達成度は，1. 100%
2. 100%
3. 100%
4. 100%

理念：

ポストゲノム研究の鍵である糖鎖，複合糖質を中心とした研究に少しでも貢献するために，また，長年育まれてきた弘前大学（特に旧生化学第一講座）の糖鎖工学の研究の発展に少しでも貢献するために，独創性を意識して研究に取り組む。他の研究領域にも興味を持ち，小さな発見を大切にする。

これから2年間の目標：

1. Impact factor のついた学術雑誌に first author として年1報の論文を発表する。
2. 国際学会，全国レベルの学会で演者として発表する。
3. 研究代表者として科学研究費補助金に1件採択を目指す。
4. 他機関との共同研究を大切にする。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 3，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専任	高垣 啓一	2006年4月1日～2006年8月16日
	教 授	併任	遠藤 正彦	2006年8月1日～2007年3月31日
	助教授	専任	今 淳	2006年4月1日～2007年3月31日
	助 手	専任	柿崎 育子	2006年4月1日～2007年3月31日
	助 手	専任	山口 真範	2006年4月1日～2007年3月31日
研究課題	1. VII型コラーゲンの皮膚における発現調節機構 2. 主にプロテオグリカン研究を通じた皮膚の再生・老化機構の解明 3. ヒト表皮角化細胞のヒアルロン酸代謝に及ぼす UVB 照射の影響 4. マラリア病原虫の母子感染阻止を目指した糖鎖工学的アプローチ 5. 尿中トリプシンインヒビターのアイソマーのグリコサミノグリカン糖鎖の解析 6. 糖鎖改変尿中トリプシンインヒビターの合成 7. ウシ精巢性ヒアルロニダーゼの加水分解機構について			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 0，助教 3，助手 0，医員 0，大学院学生 3，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	遠藤 正彦	2007年4月1日～2008年3月31日
	教 授	兼 任	伊東 健	2007年4月1日～2008年3月31日
	准教授	専 任	今 淳	2007年4月1日～2007年11月30日

	准教授	専任	柿崎 育子	2008年1月1日～2008年3月31日
	助教	専任	柿崎 育子	2007年4月1日～2007年12月31日
	助教	専任	山口 真範	2007年4月1日～2007年7月31日
	助教	専任	田所 友美	2007年11月1日～2008年3月31日
研究課題	1. ヒト表皮角化細胞のヒアルロン酸代謝に及ぼす UVB 照射の影響 2. マラリア病原虫の母子感染阻止を目指した糖鎖工学的アプローチ 3. 糖鎖改変尿中トリプシンインヒビターの合成 4. ウシ精巢性ヒアルロニダーゼの加水分解機構について 5. サケプロテオグリカンの構造に関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. Kon A, Ito N, Kudo Y, Nomura K, Yoneda K, Hanada K, Hashimoto I, Takagaki K. L457F missense mutation within the 2B rod domain of keratin 9 in a Japanese family with epidermolytic palmo-plantar keratoderma. *Br J Dermatol* 2006;155:622-624.
- A.2. Morohashi H, Kon A, Nakai M, Yamaguchi M, Kakizaki I, Yoshihara S, Sasaki M, Takagaki K. Study of hyaluronan synthase inhibitor, 4-methylumbelliferone derivatives on human pancreatic cancer cell (KP1-NL). *Biochem Biophys Res Commun* 2006;345:1454-1459.
- A.3. Yamaguchi M, Kojima K, Hayashi N, Kakizaki I, Kon A, Takagaki K. Efficient and widely applicable method of constructing neoproteo- glycan utilizing copper (I) catalyzed 1,3-dipolar cycloaddition. *Tetrahedron Lett* 2006;47:7455-7458.
- A.4. Kakizaki I, Takahashi R, Kojima K, Takahashi T, Yamaguchi M, Kon A, Takagaki K. Diversity in the degree of sulfation and chain length of the glycosaminoglycan moiety of urinary trypsin inhibitor isomers. *Biochem Biophys Acta* 2007;1770:171-177.
- A.5. Morohashi H, Yoshihara S, Nakai M, Yamaguchi M, Kakizaki I, Kon A, Sasaki M, Takagaki K. Inhibitory effect of 4-methyl esculetin on hyaluronan synthesis slows the development of human pancreatic cancer in vitro and in nude mice. *Int J Cancer* 2007;120:2704-2709.
- B.1. Kashiwakura I, Teramachi T, Kakizaki I, Takagi Y, Takahashi T, A, and Takagaki K.: The effects of glycosaminoglycans on thrombopoietin-induced megakaryocytopoiesis. *Haematologica*; 2006;91(4):445-451.
- B.2. Sashinami H, Takagaki K, and Nakane A.: Salmon cartilage proteoglycan modulates cytokine responses to *Escherichia coli* in mouse macrophages; 2006, *Biochem Biophys Res Commun*, 351:1005-1010.
- C.1. Kaneko T, Tamai K, Matsuzaki Y, Yamazaki T, Nakano H, Kon A, Hashimoto I, Hanada K, Kaneda Y, Uitto J. Interferon-gamma down-regulates expression of the 230-kDa bullous pemphigoid antigen gene (BPAG1) in epidermal keratinocytes via novel chimeric sequences of ISRE and GAS. *Exp Dermatol* 2006;15:308-314.
- C.2. Kondo N, Takeda H, Kaneko T, Aizu T, Moritsugu R, Kon A, Nakano H, Hanada K. A method for rapid evaluation of photoaging by measuring fluorescence intensity of green fluorescent protein due to elastin promoter activity. *J Dermatol Sci* 2006;2:31-37.
- C.3. Mayer, D.C., Jiang, L., Achur, R.N., Kakizaki I, Gowda, D.C., and Miller, L.H. The glycophorin C N-linked glycan is a critical component of the ligand for the Plasmodium falciparum erythrocyte receptor BAEBL. *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.* 2006;103(7):2358-2362.

2007年度

- A.1. Kakizaki, I., Itano, N., Kimata, K., Hanada, K., Kon, A., Yamaguchi, M., Takahashi, T., Takagaki, K. Up-regulation of hyaluronan synthase genes in cultured human epidermal keratinocytes by UVB irradiation. *Arch Biochem Biophys* 2008;471:85-93.

和文 なし

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Kon, A., Igarashi, M., Yamaguchi, M., and Kojima, K. Ultraviolet (UV)-and UV-related cytokine-mediated transcriptional mechanisms of type VII collagen gene (COL7A1) expression in the skin, with special reference to photoaged skin and anti-aging. *Hiroshima Med J.* 2007; 59 (Suppl.):S154-161.

和文 なし

(3) 著書

英文

2006年度

- A.1. Edited by Endo, M., Hase, S., Yamamoto, K., Takagaki, K. Endoglycosidases-Biochemistry, Biotechnology, Application. KODANSHA and Springer, Japan, 2006. (編集・分担執筆)

2007年度

- A.1. Takagaki, K., and Kakizaki, I. Degradation of glycosaminoglycans, in Comprehensive Glycoscience - from Chemistry to Systems Biology edited by J. P. Kamerling., G. J. Boons., Y. C. Lee., A. Suzuki., N. Taniguchi., A. G. J. Voragen., Elsevier Science B. V., Amsterdam, the Netherlands, 171-192 (2007).

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 柿崎育子. 表皮ヒアルロン酸代謝における紫外線照射の影響. 化粧品学会誌 (2007);31(4):308-311.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brit J Dermatol	2.978	1	2.978
Biochem Bioph Res Co	3.000	1	3.000
Tetrahedron Lett	2.477	1	2.477
Biochem Biophys Acta	2.418	1	2.418
Int J Cancer	4.700	1	4.700
Haematologica	4.575	1	4.575
Biochem Bioph Res Co	3.000	1	3.000
Total		7	23.148

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch Biochem Biophys	2.969	1	2.969
Hiroaki Med. J	0	1	0
Total		2	2.969

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
な し		
計	0	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	1	0
分担執筆	0	1

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006 年度

- B.1. Takagaki K, Kakizaki I. Applied research on inhibitor of hyaluronan synthesis. International Symposium on Extracellular Glycomatrix in Health and Disease, Awaji, Japan June 17, 2006.
- C.1. Yamaguchi M, Kojima K, Kakizaki I, Kon A, Takagaki K. Efficient and widely applicable method of constructing neo-proteoglycan. International Symposium on Extracellular Glycomatrix in Health and Disease, Awaji, Japan June 17, 2006.
- C.2. Kon A, Morohashi H, Ito N, Yamaguchi M, Kojima K, Kakizaki I, Takagaki K. Inhibition of melanoma metastasis by 4-methylumbelliferone and its derivatives, specific inhibitors of hyaluronan synthesis. 67th Annual Meeting of the SID, Philadelphia, 2006.
- C.3. Taniguchi R, Higuchi T, Kakizaki I, Tanaka K, Kon A, Mizunuma H, Takagaki K. The relationship between bone quality and glycosaminoglycans changes in an ovariectomized rat model of osteoporosis. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto, Japan June 19, 2006.
- C.4. Morohashi H, Yoshihara S, Nakai M, Kimura A, Yamaguchi M, Kakizaki I, Kon A, Sasaki M, Takagaki K. Effect of 4-methyl esculetin (hyaluronan synthase suppressor) on pancreatic cancer. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto, Japan (June 18-23) June 19, 2006.
- C.5. Ibori N, Takahashi R, Shirasawa E, Takahashi T, Yamaguchi M, Kakizaki I, Kon A, Takagaki K. Two-dimensional polysaccharide analysis of urinary trypsin inhibitor isomers. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto, Japan June 19, 2006.
- C.6. Kon A, Igarashi M, Yamaguchi M, Kojima K. Ultraviolet (UV)- and UV-related cytokine-mediated transcriptional mechanisms of type VII collagen gene (COL7A1) expression in the skin, with special reference to photoaged skin and anti-aging. The 10th meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science, "Emerging Theories of Host Defense", Hirosaki, Japan Nov. 21, 2006.

2007 年度

- C.1. Kakizaki, I., Itano, N., Kimata, K., Hanada, K., Kon, A., Yamaguchi, M., Takahashi, T., Takagaki, K. UP-regulation of hyaluronan synthase genes in cultured human epidermal keratinocytes by UVB irradiation. The 7th International Conference on Hyaluronon, Charleston, South Carolina, USA (April 25, 2007).

(2) 全国学術集会

2006 年度

- A.1. 柿崎育子. A novel mechanism for the inhibition of hyaluronan synthesis by 4-methylumbelliferone. 日本生化学会東北支部第 72 回例会・シンポジウム (東北支部奨励賞受賞講演), 2006, 弘前市.
- A.2. 今 淳. 皮膚の病態形成機構に関する分子生物学的および糖鎖生物学的研究: 正常な再生・修復とアンチエイジング (抗加齢). 第 144 回弘前医学会例会 (弘前大学医学部学術賞学術特別賞受賞講演), 弘前市, 2007.
- B.1. 柿崎育子. "故 高垣啓一先生 (弘前大学) の御業績を振り返って"「プロテオグリカン研究における業績」, 第 14 回プロテオグリカンフォーラム "ヒアルロン酸研究 ホットな話題", 2007, 東京都.
- B.2. 児島 薫. "故 高垣啓一先生 (弘前大学) の御業績を振り返って"「産学官連携における業績」, 第 14 回プロテオグリカンフォーラム "ヒアルロン酸研究 ホットな話題", 2007, 東京都.
- C. 12 件

2007 年度

- B.1. 柿崎育子. 紫外線環境と皮膚. 「表皮ヒアルロン酸代謝における紫外線照射の影響」. 第 32 回日本化粧品学会 シンポジウムⅡ『環境と皮膚』. 東京都. 2007.
- B.2. 柿崎育子. 「表皮ヒアルロン酸代謝における紫外線照射の影響」. 太陽紫外線防御研究委員会 第 18 回シンポジウム. 「太陽紫外線を科学する」. 大阪府. 2008.
- C. 4 件

Ⅲ. 学術賞

2006 年度

- ・日本生化学会東北支部奨励賞, 柿崎育子, A novel mechanism for the in inhibition of hyaluronan synthesis by 4-methylumbelliferon.
- ・第 5 回インテリジェント・コスモス奨励賞, 柿崎育子, ヒアルロン酸合成阻害剤 4-メチルウンベリフェロンによる中皮腫の新治療法の開発.
- ・平成 18 年度 (第 11 回) 弘前大学医学部学術賞学術特別賞, 今 淳, 皮膚の病態形成機構に関する分子生物学的および糖鎖生物学的研究: 正常な再生・修復とアンチエイジング (抗加齢).

IV. 共同研究

2006年度

- ・大塚製薬株式会社医薬製品事業部、軟骨変性疾患におけるヒアルロン酸組成の検討，柿崎育子
- ・株式会社 角弘，新規プロテオグリカンの調製とその応用，山口真範
- ・グライコジャパン株式会社，オリゴ糖の合成研究，柿崎育子
- ・愛知医科大学分子医科学研究，ヒト表皮角化細胞のヒアルロン酸代謝に及ぼす UVB 照射の影響，柿崎育子
- ・Pennsylvania State University, College of Medicine, U.S.A, Minimal Sulfate Requirement for the Efficient Adherence of *Plasmodium falciparum*-infected Erythrocytes to the Dodecasaccharide Motif of the Human Placental Chondroitin 4-Sulfate Receptor, 高垣啓一，柿崎育子
- ・わかもと製薬株式会社 消化器研究所，尿中トリプシンインヒビターのグリコサミノグリカン糖鎖に関する研究，高垣啓一，柿崎育子

2007年度

- ・株式会社ミリオン株式会社，りんご鹿角霊芝の皮膚生理機能に対する制御機構の解析，今 淳
- ・株式会社ニチロ 中央研究所，皮膚疾患治療を目的とする海洋性素材を利用した医療材料の開発，今 淳
- ・大塚製薬株式会社 探索第三研究所，疾患関連糖鎖の探索，柿崎育子
- ・愛知医科大学分子医科学研究，ヒト表皮角化細胞のヒアルロン酸代謝に及ぼす UVB 照射の影響，柿崎育子
- ・Pennsylvania State University, College of Medicine, U.S.A., Minimal Sulfate Requirement for the Efficient Adherence of *Plasmodium falciparum*-infected Erythrocytes to the Dodecasaccharide Motif of the Human Placental Chondroitin 4-Sulfate Receptor, 柿崎育子
- ・わかもと製薬株式会社 消化器研究所，尿中トリプシンインヒビターのグリコサミノグリカン糖鎖に関する研究，柿崎育子

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

- ・基盤研究 (B)，エンド型グリコシダーゼを用いたリコンビナントプロテオグリカン糖鎖の再生，高垣啓一，3,000 千円（実支出額 671,917 円）（平成 18 年 7 月 13 日，研究継続不可能により研究廃止）
- ・基盤研究 (C)，胎児創傷治癒機構の解明：皮膚再生機構マスター遺伝子の発掘，今 淳，3,500 千円
- ・若手研究 (B)，ヒアルロン酸合成阻害剤を用いた抗線維化療法の開発，柿崎育子，1,400 千円

2007年度

研究代表者として

- ・基盤研究 (C)，胎児創傷治癒機構の解明：皮膚再生機構マスター遺伝子の発掘，今 淳，800 千円
- ・基盤研究 (C)，マラリアの母子感染阻止を目指した糖鎖工学的アプローチ，柿崎育子，1,300 千円

(2) その他の省庁からの研究費

2006年度

研究代表者として

平成 18 年度地域科学技術振興事業費補助金（文部科学省）都市エリア産学官連携促進事業（連携基盤整備型）・プロテオグリカン応用研究プロジェクト，「プロテオグリカンのオーダーメイド」，高垣啓一（研究総括），11,304 千円

2007年度

他研究単位との研究分担者として

- ・平成 19 年度地域科学技術振興事業費補助金（文部科学省）都市エリア産学官連携促進事業（一般型）・QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発，研究テーマ「プロテオグリカンの皮膚アンチエイジング分野及び化粧品への応用」，今 淳，7,355 千円
- ・平成 19 年度地域科学技術振興事業費補助金（文部科学省）都市エリア産学官連携促進事業（一般型）・QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発，研究テーマ「プロテオグリカンを含む医薬品及び医療素材の研究開発」，今 淳，765 千円
- ・平成 19 年度地域科学技術振興事業費補助金（文部科学省）都市エリア産学官連携促進事業（一般型）・QOL の向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製品開発，研究テーマ「プロテオグリカンの新糖鎖創薬への応用」，柿崎育子，9,458 千円

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

- 平成 18 年度（第 11 回）弘前大学医学部学術賞学術特別賞、「皮膚の病態形成機構に関する分子生物学的および糖鎖生物学的研究：正常な再生・修復とアンチエイジング（抗加齢）」、今 淳，研究費 300 千円
- 他研究単位との研究分担者として
- 東北ミリオン株式会社，弘前大学マッチング研究支援事業・弘前大学 GOGO ファンド「リンゴ鹿角霊芝由来抗アレルギー作用の生化学的及び臨床医学的解析」，今 淳，4,000 千円
- 平成 18 年度弘前大学学長指定重点研究，「ABO 血液型不適合移植における免疫順応と血液型糖鎖抗原に関する研究」，今 淳，500 千円
- 平成 18 年度弘前大学学長指定緊急重点研究，「アスベスト関連疾患，中皮腫の新たな治療に向けた統合的展開」，今 淳，0 千円

(4) 民間の研究助成

2006年度

研究代表者として

- 平成 18 年度学術国際振興基金 A-1 ①若手研究者への助成，「ヒアルロン酸の合成制御によるがんの治療法の開発」，柿崎育子，1,000 千円
- 平成 18 年度学術国際振興基金 B-2 外国人研究者との共同研究の助成，「機能性組み換えオリゴ糖を用いたマラリア母子感染の制御」，柿崎育子，1,000 千円
- 平成 18 年度学術国際振興基金 B-3 外国人研究者の招へいの助成「新規エンド型グリコシダーゼの探索」，柿崎育子，450 千円
- 平成 18 年度学術国際振興基金 C-1 地域企業と大学の共同研究の助成，「軟骨性疾患におけるヒアルロン酸組成の検討」，柿崎育子，500 千円
- 平成 18 年度学術国際振興基金 C-1 地域企業と大学の共同研究の助成，「新規プロテオグリカンの調製とその応用」，山口真範，500 千円
- 第 5 回インテリジェント・コスモス奨励賞，「ヒアルロン酸合成阻害剤 4-メチルウンベリフェロンによる中皮腫の新治療法の開発」，柿崎育子，100 千円

2007年度

研究代表者として

- 地域イノベーション創出総合支援事業重点地域研究開発推進プログラム 平成 19 年度シーズ発掘試験，新規皮膚潰瘍・褥瘡治療薬の開発，今 淳，2,000 千円
- 平成 19 年度学術国際振興基金 C-1（地域企業と大学の共同研究の助成），リンゴ鹿角霊芝による皮膚の保湿，抗炎症，アンチエイジングに対する制御機構の解析，今 淳，500 千円
- 地域イノベーション創出総合支援事業重点地域研究開発推進プログラム 平成 19 年度シーズ発掘試験，糖鎖改変ウリナスタチンの大量調整技術の開発と医薬品への応用，柿崎育子，2,000 千円
- 平成 19 年度学術国際振興基金 A-1（若手研究者への助成），マラリアの母子感染を制御するグリコサミノグリカン糖鎖構造の探索，柿崎育子，1,000 千円
- 平成 19 年度学術国際振興基金 C-1（地域企業と大学の共同研究の助成），疾患関連グリコサミノグリカン糖鎖および関連酵素の探索，柿崎育子，500 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

2006年度

- Prof. Veer.P.Bhavanandan, Center for Glycosciences and Technology, The Biodesign Institute, Arizona State University, U.S.A., 2006 年 8 月 5 ～ 11 日
- Prof. Gowda, Chann D, Department of Biochemistry and Molecular Biology Pennsylvania State University College of Medicine, U.S.A., 2006 年 8 月 5 ～ 11 日

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 カ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

2006年度

- ・ 大学帰属知的財産の創出（特許出願）（整理番号 PA06-07）, 「糖鎖改変ウリナスタチン」, 柿崎育子

44. 附属動物実験施設

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

これから2年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 1，講師 0，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	藏田 潔	2006.4.1 ～ 2006.11.30
	教 授	併 任	中根 明夫	2006.12.1 ～ 2007.3.31
	助教授	専 任	八木澤 誠	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	石田 邦夫	2006.4.1 ～ 2006.6.7
研究課題	1. 動物実験に影響を及ぼす環境要因			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文 なし

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度
な し	
計	0

2. 著書数（A, Bのみ）

英文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他（A, Bのみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会 なし

(2) 全国学術集会 なし

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006 年度

八木澤誠，第 25 回日本実験動物技術者協会奥羽支部総会および講演会，弘前

八木澤誠，第 17 回東北動物実験研究会，弘前

八木澤誠，平成 18 年度実験動物技術者協会奥羽・東北支部合同勉強会，弘前

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

45. 医学教育センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

これから2年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	講 師	専 任	松谷 秀哉	2 年
研究課題	1. 学士編入学制度に対する評価 2. 医学教育におけるポートフォリオと授業改善 3. ゆとり教育・学力低下の実態とカリキュラムへの影響			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 松谷秀哉，水田智史，鈴木裕史．履修状況と授業アンケートによる 21 世紀教育における情報科目の分析，21 世紀教育フォーラム，2007;2:61-67.
- A.2. 浅利 覚，大場久照，松谷秀哉，對馬 均，柏倉幾郎，弘前大学医学部保健学科マルチメディア総合演習室の利用データから見た学生利用動向調査，弘前大学医学部保健学科紀要，2007;6:87-91.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，B のみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な し			
Total		0	0

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度
21世紀教育フォーラム	1
弘前大学医学部保健学科紀要	1
計	2

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会 なし

(2) 全国学術集会 なし

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2006年度

研究代表者として

総合情報処理センター・研究開発費

他研究単位との研究分担者として

学長指定重点研究

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

46. 手術部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

前任者定年退職後の辞令発令のため，申し送りを受けていません。

理念：

手術の安全を中心テーマに研究を行う。

これから2年間の目標：

- 1) 周術期感染の減少に関わる研究
- 2) 手術に関連した医療事故の発生要因の研究
- 3) 手術部要員の感染事故（針刺し事故など）の要因と対策

【研究人員及び研究課題】

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 0，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専 任	橋本 浩	1年
	教 授	併 任	佐々木睦男	1年
研究課題	1. プロトンポンプ阻害薬とヒスタミン2レセプター拮抗薬についての臨床的研究 2. 体外循環中の胸部大動脈内における血流の評価 3. 心臓血管麻酔中の脳波と局所脳内酸素飽和度に関する臨床的研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Hashimoto H, Kushikata T, Kudo M, Hirota K. Does long-term medication with a proton pump inhibitor induce a tolerance to H2 receptor antagonist? J Gastroenterol 2007;42(4):275-278.

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Fukuda I, Minakawa M, Fukui K, Taniguchi S, Daitoku K, Suzuki Y, Hashimoto H: Breakdown of atheromatous plaque due to shear force from arterial perfusion cannula. Ann Thorac Surg 2007;84:e17-18.
 A.2. Kawaguchi Y, Hashimoto H, Kitayama M, Hirota K: Intravenous indigo carmine might cause cerebral ischemia. Acta Anaesthesiol Scand 2007;51(6):776-777.

和文

2007年度

- A.1. 橋場英二, 柳方哲也, 橋本 浩, 廣田和美. 術中に僧帽弁前尖収縮期前方運動 (SAM) を伴う左室流出路狭窄を呈した弁膜性心筋症の2症例. 麻酔 2007;56:429-432.
 A.2. 村上晶子, 安田忠伸, 柳方哲也, 橋本 浩, 廣田和美. グリセリン浣腸による血色素尿の1症例. 麻酔 2007;56:689-691.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Journal of Gastroenterology	1.927	1	1.927
Total		1	1.927

和文 (論文数)

雑 誌 名	2007年度
な し	
計	0

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2007年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2007年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他 (A, B のみ)

英文

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
The Annals of Thoracic Surgery	2.342	1	2.342
Acta Anaesthesiologica Scandinavica	1.863	1	1.863
Total		2	4.205

和文 (論文数)

雑 誌 名	2007年度
麻酔	2
計	2

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会 なし

(2) 全国学術集会

2007年度

C. 2件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

47. 検査部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

インパクトファクター 3.0の国際学術雑誌に共著者として論文を発表し，概ね達成できた。

理念：

国際的に評価される研究を行う。

これから2年間の目標：

インパクトファクター>2.0の国際学術雑誌に筆頭著者として毎年論文を発表する。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	講 師	専 任	杉本 一博	1 年
研究課題	1. 糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 2. 糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 0，講師 1，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	講 師	専 任	杉本 一博	9 ヶ月
研究課題	1. 糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割 2. 糖尿病性神経障害の臨床診断と評価法の検討			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Hasan KN, Shoji M, Sugimoto K, Tsutaya S, Matsuda E, Kudo R, Nakaji S, Suda T, Yasujima M. Association of novel promoter single nucleotide polymorphisms in vasopressin V1a receptor gene with essential hypertension in nonobese Japanese. J Hum Hypertens 21:825-827,2007.

和文

2006年度

- B.1. 鈴木千恵子，新井 陽，木村珠喜，若佐谷保仁，清野祐輔，富山誠彦，馬場正之，東海林幹夫，杉本一博. アキレス腱反射減弱を伴った30歳代の認知症例，臨床脳波，2007;49(1):65-68.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 杉本一博，八木橋操六. C -ペプチド：抗糖尿病性神経障害，腎症薬？，ホルモンと臨床，2006;54(12):87-92.

2007年度

- A.1. 八木橋操六, 杉本一博. 糖尿病性多発神経障害, *Clinical Neuroscience*, 2007;25(7):817-820.
A.2. 杉本一博, 八木橋操六, 須田俊宏, 保嶋 実. 神経障害の病態と対策: 2型糖尿病性神経障害と心血管危険因子, *糖尿病合併症*, 2007;21:116-119.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 杉本一博, 八木橋操六. 自律神経障害, 編集: 河盛隆造, 岩本安彦, *糖尿病最新の治療2007-2009*, pp190-192, 南江堂, 東京, 2007

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な し			
Total		0	0

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J human Hypertension	2.96	1	2.96
Total		1	2.96

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
ホルモンと臨床 Clinical Neuroscience 糖尿病合併症	1	1 1
計	1	2

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	1	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- A.1. Kazuhiro Sugimoto, Irena B. Rashid, Toshihiro Suda, Masaru Shoji, Minoru Yasujima. Altered insulin signaling and thermal nociception depend on the duration of streptozotocin-induced diabetes in rats. Washington, DC, USA. 66th Scientific sessions of the American Diabetes Association, June 9-13, 2006.

- A.2. Hassan KN, Shoji M, Sugimoto K, Tsutaya S, Matsuda E, Kudo R, Saito J, Nakaji S, Suda T, Yasujima M. Val vasopressin receptor gene single nucleotide polymorphism and essential hypertension, type 2 diabetes mellitus, and platelet aggregation — The 10th Meeting Hirosaki International Forum of Medical Science, 弘前コミュニティーセンター, 平成 18 年 11 月 22 日

2007 年度

- A.1. Sugimoto K, Rashid IB, Tanabe J, Tamasawa N, Suda T, Shoji M, Yasujima M. “Different time-courses of thermal nociception in different rat models with insulin resistance, type 2 diabetes and hyperinsulinemia”, 67th Scientific sessions of the American Diabetes Association, Chicago, USA, June 22-26th, 2007.

(2) 全国学術集会

2006 年度

- A.1. 杉本一博, 斎藤慶子, 小島佳也, 須田俊宏, 庄司 優, 保嶋 実. 2 型糖尿病の心血管危険因子と神経障害. 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, 弘前文化センター, 平成 18 年 11 月 9 日
A.2. 小野有希, 杉本一博, 木村正彦, 葛西 猛, 庄司 優, 保嶋 実. 糖尿病患者における血尿と細小血管障害の関連性. 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, ホテルニューキャッスル, 平成 18 年 11 月 9 日
A.3. 杉本一博, 佐藤めぐみ, 柳町 幸, 村上 宏, 丹藤雄介, 松井 淳, 小川吉司, 玉澤直樹, 須田俊宏, 庄司 優, 保嶋 実. 2 型糖尿病における心血管自律神経障害と脈波伝播速度との関連性—第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京国際展示場, 平成 18 年 5 月 25 日
A.4. 杉本一博. シンポジウム糖尿病性神経障害の病態と対策—2 型糖尿病性神経障害と心血管危険因子. 第 21 回日本糖尿病合併症学会, 弘前文化センター, 平成 18 年 10 月 7 日

2007 年度

- A.1. 杉本一博. シンポジウム「糖尿病性神経障害- 成因・診断・治療の新展開」糖尿病性神経障害におけるインスリン分泌・作用異常の関与, 第 22 回日本糖尿病合併症学会, つくば国際会議場, 平成 19 年 10 月 26 日
A.2. 杉本一博, 斎藤慶子, 村上 宏, 丹藤雄介, 松井 淳, 小川吉司, 玉澤直樹, 須田俊宏, 庄司 優, 保嶋 実. 2 型糖尿病患者のアキレス腱反射, 下肢振動覚および心拍変動は異なる心血管危険因子と関連する, 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台市サンフェスタ, 平成 19 年 5 月 25 日
A.3. 杉本一博, 小島圭也, 田辺寿太郎, 玉澤直樹, 保嶋 実. 肥満 Zucker および 2 型糖尿病 ZDF ラットモデルの温痛覚の経時変化, 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪国際会議場, 平成 19 年 11 月 24 日

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006 年度

研究代表者として
科学研究費補助金基盤研究 (C), メタボリックシンドロームに関連する末梢神経障害の分子機構と病態学的研究, 杉本一博, 90 万円

2007 年度

研究代表者として
基盤研究 (C): メタボリックシンドロームに関連する末梢神経障害の分子機構と病態学的研究: 110 万円

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

48. 放射線部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

これから2年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文 なし

和文 なし

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著，総説（A，Bのみ）

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
な し			
Total		0	0

和文（論文数）

種 目	2006年度
な し	
計	0

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2006年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

- C.1. 清野守央. 高エネルギー X 線スペクトル推定法, 日本放射線技術学会 第 62 回総会学術大会, 横浜市, 2006.4.8-10
- C.2. 金 正宜他. 子宮卵管造影検査 (HSG) 時の患者被ばく線量と透視モードによる被ばく低減効果について, 日本放射線技師会 第 22 回放射線技師総合学術大会, 米子市, 2006.10.6-9
- C.3. 金 正宜, 他. ガラス素子線量計の感度特性の改善についての検討. 日本放射線技術学会 第 34 回秋季学術大会 (札幌), 2006.10.19-21
- C.4. 須崎勝正, 他. リニアックグラフィーにおける CR 装置の性能比較, 日本放射線腫瘍学会 第 19 回学術大会, 仙台市, 2006.11.23-25
- C. 4 件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006年度

- 1. 工藤亮裕他. 青森県脳血流 SPECT ファントムスタディ第二報, 第 22 回青森県核医学研究会, 弘前市, 2006.7.8

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

49. 輸血部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

6割程度の到達度と考える

理念：

臨床に直接役立つような，臨床研究・症例報告を行う

これから2年間の目標：

全国学会レベルで年間1回以上の発表あるいは発表者の指導を行う

原著論文を1件以上作成する

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	部 長	併 任	福田 幾夫	2006/4/1～2007/3/31
	副部長・講師	専 任	玉井 佳子	2006/4/1～2007/3/31
研究課題	1. 定量的出血時間の臨床応用 2. 血小板機能（特に抗血小板薬に関して） 3. 難治性骨髓異形成症候群と急性骨髄性白血病に対する化学療法			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 0，講師 1，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	部 長	併 任	福田 幾夫	2007/4/1-2008/3/31
	講 師	専 任	玉井 佳子	2007/4/1-2008/3/31
研究課題	1. 抗血小板薬の血小板機能と止血機能に及ぼす経時的影響 2. 定量的出血時間の臨床応用 3. 高リスク骨髓異形成症候群に対する化学療法			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- B.1. *Atsushi Ishiguro, Yoshiko Tamai, Hideki Takami. Massive ovarian hemorrhage due to autoantibodies to factor VIII. Int J Gynec Obst 2006;93:150-151.

2007年度

- A.1. Yoshiko Tamai, Tomoko Komatsu-Ishizawa, Hideki Takami, Hitoshi Nakajima, Shinsaku Fukuda and Akihiro Munakata. Management of antiplatelet therapy for endoscopic procedures: Optimal cessation period of antiplatelet therapy for Japanese. Digestive Endoscopy 2007;19:161-166.

和文

2006年度

- A.1. 玉井佳子，高見英樹，山形和史，山口公平，太田 健，棟方昭博．治療抵抗性／再発急性骨髄性白血病と高リスク骨髓異形成症候群に対する G-CSF プライミング療法－変法 CAG 療法を中心に－．血液・腫瘍科 2006;5:108-114.

- B.1. * 石澤知子, 玉井佳子, 高見秀樹, 山形和史, 三上達也, 佐々木聡, 福田眞作, 棟方昭博. 観血的内視鏡手技と抗血小板薬休薬状況の検討. *Gastroenterol Endoc* 2006;48:1002-1108.
- B.2. * 佐藤淳也, 藤田祥子, 菅原和信, 泉谷清香, 玉井佳子, 佐々木睦男. 外来化学療法室における薬剤師・看護師の活動と患者満足度の調査. *日病薬誌* 2006;42:359-362.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 玉井佳子 50. 高齢者に多い血液のがん. 市民のための老年病学 弘前大学出版会. 弘前, 2007

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 玉井佳子, 高見秀樹, 棟方昭博. R-CHOP 療法が奏功したアジア型血管内リンパ腫 (Asian variant intravascular Lymphoma:AIVL) 症例. *臨床腫瘍プラクティス* 2007;3:90-93.

2007年度

- A.1. 玉井佳子, 三上達也, 棟方昭博. 内視鏡診療と治療薬—内視鏡治療で注意すべき薬剤—. *カレントセラピー*, 2007;25:60-66
- A.2. 玉井佳子, 高見秀樹. 白血病治療を適切に進めるために 4. 治療の実際—最適な治療のために—4) 支持療法 a 化学療法による副作用をどう乗りきるか. *臨床腫瘍プラクティス*. 2007;3:396-399.
- A.3. 玉井佳子, 高見秀樹. データブック 血栓症の大規模臨床試験 PART2 4. 真性多血症に対する低用量アスピリンの有用性と安全性の検討. 血栓と循環. 2007;15:517-519.
- B.1. * 中路重之, 玉井佳子, 檀上和真. 巻頭連載—がんの疫学 (10) 白血病. *臨床腫瘍プラクティス*, 2007;3:341-350.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
INTERNATIONAL JOURNAL OF GYNECOLOGY & OBSTETRICS	1.078	1	1.078
Total		1	1.078

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Digestive Endoscopy	0	1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
血液・腫瘍科 Gastroenterol Endoc 日病薬誌	1 1 1	
計	3	0

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
臨床腫瘍プラクティス カレントセラピー 血栓と循環	1	2 1 1
計	1	4

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 玉井佳子. 観血的内視鏡手技時の抗血小板薬休薬期間と出血・血栓塞栓症発症状況調査ならびに適切な抗血小板薬休薬期間の設定に関する研究, 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 札幌, 2006
C. 1件

2007年度

- A.1. 玉井佳子. リスクマネジメント (1) 内視鏡検査と抗血小板療法・抗凝固療法. 第19回日本消化器内視鏡学会東北セミナー, 仙台, 2008.
Proceedings: 玉井佳子: 内視鏡検査と抗血小板療法・抗凝固療法 第19回日本消化器内視鏡学会東北セミナー 日本消化器内視鏡学会東北セミナー実行委員会出版. 2008;6-11.
C. 4件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

2007年度

他研究単位との研究分担者として

助成名称: 厚生労働省「平成19年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業」
研究課題: 青森県における適正で安全な輸血療法実現のための協力体制の構築について
研究代表者名: 立花直樹 (青森県立中央病院輸血部)
配分額: 600千円

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

50. 集中治療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

ほぼ到達した。

理念：

常に診療技術の向上に努めながら，教育と研究に従事する。

これから2年間の目標：

臨床に基づいた研究テーマを持ち，継続した研究を行う。

臨床経験を症例報告として発表し，自己の臨床技術の整理と発展に努める。

年1回以上の国際学会とできるだけ多くの国内学会への参加，発表を目標とする。

年1編以上の英語の論文と2編以上の邦文の論文を発表する。

海外の研究者と連絡を密に取り，共同研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 1，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	廣田 和美	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助教授	専 任	坪 敏仁	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	吉田 仁	2006.4.1 ～ 2007.3.31
	助 手	専 任	橋場 英二	2006.4.1 ～ 2007.3.31
研究課題	1. 動物実験での経食道エコーによる呼吸機能の評価 2. 臨床での経食道エコーによる呼吸機能の評価 3. 経食道エコーを用いた周術期の循環器系の評価 4. ウロテンシンⅡの生理活性作用の検討 5. ノシセプチンの新しい鎮痛薬としての可能性の検討 6. 全身麻酔機序の解明（神経伝達物質を主とする） 7. 全身麻酔と睡眠との関連 8. 全身麻酔の薬理学的研究（吸入麻酔・静脈麻酔）			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 0，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	廣田 和美	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	准教授	専 任	坪 敏仁	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	吉田 仁	2007.4.1 ～ 2008.3.31
	助 教	専 任	橋場 英二	2007.4.1 ～ 2008.3.31
研究課題	1. 経食道エコーによる肺病変の観察 2. 超音波を用いた重症患者の観察 3. 全身麻酔機序の解明（神経伝達物質を主とする） 4. 全身麻酔と睡眠との関連 5. 全身麻酔中の脳波の変化			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Tsubo T, Fujita A, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Continuous venovenous hemofiltration improves endotoxin induced lung injury in pigs - evaluation with ultrasonography - Hiroaki Med J 59(Suppl):S128-S136(2007)
- B.1. Yatsu Y, Tsubo T, Ishihara H, Hirota K. A new method to estimate pulmonary blood flow using TEE. Anesth Analg 106:530-534(2008)
- B.2. Hirota K, Kushikata T, Yoshida H, Kudo M, Kudo T. Role of the orexinergic system in acute haemorrhage in the rat. Neurosci Lett 432:162-166(2008)

和文

2006年度

- A.1. 坪 敏仁. 持続血液透析がエンドトキシン ARDS 肺に及ぼす影響. ICU と CCU 2006;30:S156-7.
- A.2. 吉田 仁, 中村仁美, 小野朋子, 櫛方哲也, 石原弘規, 廣田和美. 全静脈麻酔法を用いることで手術室外での小児術中照射を安全に管理できた 1 症例. 麻酔 2006;55:614-6.

2007年度

- A.1. 坪 敏仁, 石原弘規, 廣田和美. 持続血液透析がエンドトキシン ARDS 肺に及ぼす影響. ICU と CCU 31(別):S218-S219(2007)

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 坪 敏仁. 産婦人科・泌尿器科患者の術前・術中・術後の輸液管理. 救急・集中治療 2007;19:290-5.
- A.2. 坪 敏仁. 産婦人科・泌尿器科患者の術前・術中・術後の輸液管理とケアはどうしたらよいの? ナーシングケア Q&A 2007;17:250-1.
- A.3. 吉田 仁, 佐藤哲観, 橋場英二, 高瀬 肇, 廣田和美. 睡眠調節におけるサイトカインの役割. 臨床麻酔 2006;30(10):1585-90.
- A.4. 吉田 仁, 廣田和美. 術中にロピオン®を使用した場合のボルタレン®の使用について. 臨床麻酔 2007;31(1):105-6.

2007年度

- A.1. 吉田 仁, 廣田和美. 低カリウム血症: まれな合併症を疑う前に, 基本的なチェックを忘れず, 結論を急ぎ隠れた所見を見逃すな. LiSA 14(1):64-67(2007)
- A.2. 坪 敏仁. 周術期管理編 46. 産婦人科・泌尿器科患者の術前・術中・術後の輸液管理—帝王切開を含む—. 救急・集中治療 19(1・2):290-295(2007)
- B.1. 櫛方哲也, 吉田 仁, 安田忠伸, 遠瀬龍二, 廣田和美, 松木明知. 麻酔と睡眠—第 1 部: 睡眠に関する最近の知見—. 麻酔 56(9):1047-1052(2007)
- B.2. 櫛方哲也, 吉田 仁, 安田忠伸, 遠瀬龍二, 廣田和美, 松木明知. 麻酔と睡眠—第 2 部: 麻酔と睡眠の関連について—. 麻酔 56(10):1148-1154(2007)

(3) 著書

英文

2007年度

- B.1. Kushikata T, Yoshida H, Yasuda T. 8. Cytokines and Sleep: Neuro-immune Interactions and Regulations. Pandi-Perumal SR, Cardinali DP, Chrousos GP. (Eds). Neuroimmunology of Sleep, 155-166, New York, Springer (2007) (分担執筆)

和文

2007年度

- A.1. 坪 敏仁. VIII 周術期管理 Q117 産婦人科・泌尿器科患者の術前・術中・術後の輸液管理 (帝王切開を含む) とケアは, どうしたらよいの? 岡元和文 (編) ナーシングケア Q&A 輸液管理とケア Q&A —こんなとき, どうしたらよいの?— 250-252 東京, 総合医学社 (2007) (分担執筆)

(4) その他

英文

2007年度

- A.1. Yoshida H, Kushikata T, Kabara S, Takase H, Ishihara H, Hirota K. Flat electroencephalogram caused by carbon dioxide pneumoperitoneum. Anesth Analg 105(6):1749-1752(2007)

和文

2007年度

- A.1. 橋場英二, 櫛方哲也, 橋本 浩, 廣田和美. 術中に僧帽弁前尖収縮期前方運動 (SAM) を伴う左室流出路狭窄を呈した弁膜性心筋症の2症例. 麻酔 56(4):429-432(2007)
A.2. 吉田 仁, 廣田和美. 質疑応答 術中にロビオン®を使用した場合のボルタレン®の使用について. 臨床麻酔 31(1):105-106(2007)
A.3. 吉田 仁, 廣田和美. 研究室紹介 麻酔科学講座. 医学部ウォーカー (41):5(2007)
A.4. 橋場英二, 遠瀬龍二, 大川浩文, 坪 敏仁, 石原弘規, 廣田和美. 2006年1月から2007年9月に当院ICU管理を必要とした骨盤内外科疾患の検討. 青森骨盤外科研究会誌 13(1):14(2007)

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hirosaki Med J	0	1	0
Anesth Analg	2.131	1	2.131
Neurosci Lett	2.092	1	2.092
Total		3	4.223

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
ICU と CCU	1	1
麻酔	1	2
救急・集中治療	1	1
ナーシングケア Q&A	1	
臨床麻酔	2	
LiSA	1	1
計	7	5

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anesth Analg	2.131	1	2.131
Total		1	2.131

和文（論文数）

雑 誌 名	2006年度	2007年度
麻酔	1	1
臨床麻酔		1
医学部ウォーカー		1
青森骨盤外科研究会誌		1
計	1	4

Ⅱ．学会・研究会等の発表

（1）国際学術集会

2007年度

- A.1. Yoshida H. Cytokine as sleep-regulatory substances. Summer department meeting. Busan. 2007.
- C.1. Tsubo T, Fujita A, Hashiba E, Ishihara H, Hirota K. Effects of mild hypothermia on acute lung injury in pigs – Evaluation with transesophageal echography-. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists (San Francisco, U.S.A) Oct 15, 2007.
- C.2. Kushikata T, Yoshida H, Hirota K. BIS monitor in hypercapnea, another possible application of BIS. The First World Congress of Total Intravenous Anaesthesia- TIVA TCI (Venice, Italy) Sept 27-29, 2007.

（2）全国学術集会

2006年度

- A.1. 櫛方哲也, 吉田 仁, 廣田和美. 全身麻酔機序への一提言 ―中枢ノルアドレナリン活性を基に―. 第53回日本麻酔科学会（神戸）平成18年6月1日（2006）
- B.1. 廣田和美, 櫛方哲也, 工藤美穂子, 工藤 剛, 吉田 仁. オレキシンとノルエピネフリン覚醒システム. 第53回日本麻酔科学会（神戸）平成18年6月1日
- C. 12件

2007年度

- B.1. 坪 敏仁, 橋場英二, 石原弘規, 廣田和美. 低体温のARDSへの影響―エンドトキシン投与時の超音波を用いた検討―. 第34回日本集中治療医学会（神戸）
- C. 9件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

2006年度

- 1. ウロテンシンⅡの生理作用の検討
Department of Pharmacology and pharmaceutical Science, University of Ferrara, Section of Pharmacology

2007年度

- 1. ウロテンシンⅡの生理作用の検討
Department of Pharmacology and pharmaceutical Science, University of Ferrara, Section of Pharmacology 2003-4

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として

吉田 仁, 櫛方哲也, 廣田和美, 工藤美穂子
平成 18 年度文部科学省科学研究費 40 万円 (基盤研究(C))
新しい睡眠調節理論の全身麻酔機序解明への応用
橋場英二,
平成 18 年度文部科学省科学研究費 110 万円 (若手研究(B))
強力な血管作動性ペプチド, ウロテンシンⅡの生理作用の検討

他研究単位との研究分担者として

廣田和美, 工藤美穂子, 工藤 剛, 櫛方哲也, 吉田 仁
平成 18 年度文部科学省科学研究費 410 万円 (基盤研究(B))
脳内オレキシンーノルアドレナリン神経の興奮と全身麻酔機序
石原弘規, 坪 敏仁, 大川浩文
平成 18 年度文部科学省科学研究費 220 万円 (基盤研究(C))
ブドウ糖希釈法による体液量評価の検討ー予後改善効果
櫛方哲也, 廣田和美, 工藤美穂子, 吉田 仁
平成 18 年度文部科学省科学研究費 110 万円 (基盤研究(C))
麻酔・手術後の睡眠障害の研究, 機構の解明と治療への試み

2007年度

研究代表者として

吉田 仁
平成 19 年度文部科学省科学研究費 2,990 千円 (基盤研究 (C))
新しい睡眠調節理論の全身麻酔機序解明への応用
橋場英二
平成 19 年度文部科学省科学研究費 2,300 千円 (若手研究 (B))
強力な血管作動性ペプチド, ウロテンシンⅡの生理作用の検討

他研究単位との研究分担者として

櫛方哲也
平成 19 年度文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C))
麻酔・手術後の睡眠障害の研究, 機構の解明と治療への試み
廣田和美
平成 19 年度文部科学省科学研究費 (基盤研究 (B))
脳内オレキシンーノルアドレナリン神経の興奮と全身麻酔機序

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2007年度

他研究単位との研究分担者として

第 10 回弘前大学医学部附属病院診療奨励賞
北山真任, 廣田和美, 櫛方哲也, 木村 太, 石原弘規, 橋本 浩, 吉田 仁
携帯型超音波画像診断装置を用いた末梢神経ブロックへの応用技術ーランドマーク法から視覚的穿刺法へー

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3 ヶ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3 ヶ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2006 年度

橋場英二

第 26 回青森県集中治療研究会会長 平成 19 年 5 月 26 日（青森グランドホテル）

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

51. 周産母子センター

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

これから2年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 1，講師 1，助手 2，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	水沼 英樹	12 ヶ月
	助教授	併 任	高橋 徹	12 ヶ月
	助教授	専 任	尾崎 浩士	12 ヶ月
	講 師	専 任	佐藤 工	12 ヶ月
	助 手	専 任	田中 幹二	12 ヶ月
	助 手	専 任	奈良 昌樹	12 ヶ月
研究課題	1. 子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について 2. 妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育遅延の予知・予防について 3. 子宮頸管無力症新規治療薬の開発のための研究 4. MU のヒアルロン合成抑制機序の研究 5. 骨代謝異常におけるプロテオグリカンの役割についての研究 6. 小児循環器病学			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 1，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
研究課題				

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Tanaka K, Taniguchi R, Higuchi T, Ozaki T, Mizunuma H, Takagaki K. 4-Methylumbelliferone inhibits hyaluronate synthesis in human uterine cervical fibroblasts. J.Obstet.Gynaecol.Res 2007;33:772-776.

和文

2006年度

- A.1. 山本善光，田中加奈子，松倉大輔，田中幹二，尾崎浩士，水沼英樹. 妊娠初期における nuchal translucency の計測. 青森県臨床産婦人科医会誌，21 巻，12-15，2006.
 A.2. 谷口綾亮，田中幹二，樋口 毅，高垣啓一，水沼英樹. 加齢による骨の変化：Osteoporosis Japan，14 巻，443-446，2006.

- A.3. 樋口 毅, 谷口綾亮, 田中幹二, 水沼英樹. 選択的エストロゲン受容体モジュレーターの影響について: Osteoporosis Japan, 14巻, 488-490, 2006.

2007年度

- A.1. 樋口 毅, 谷口綾亮, 田中幹二, 水沼英樹. 選択的エストロゲン受容体モジュレーターの影響についての検討 (第2報). Osteoporosis Japan 2007;15:47-51.
A.2. 谷口綾亮, 樋口 毅, 松倉大輔, 田中幹二, 高垣啓一, 水沼英樹. 骨細胞外マトリックスにおけるグリコサミノグリカン糖鎖の変化と骨の脆弱化—両側卵巣摘出ラットにおける検討—. Osteoporosis Japan 2007;15:7-9.

(2) 総説

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 田中加奈子, 山本善光, 田中幹二, 尾崎浩士, 水沼英樹. 腹腔妊娠. 産婦人科の実際, 56巻, 153-158, 2007.

2007年度

- A.1. 田中幹二, 水沼英樹. 連載「産婦人科医師不足の問題点と対策」2. 地元に居着く医学部入試制度・教育—弘前大学医学部の取り組み—. 産婦人科の実際 2007;56:1233-1238.

(3) 著書

英文 なし

和文

2006年度

- 尾崎浩士. 分娩後の出血裂傷「特発性血小板減少性紫斑病」. 産科臨床ベストプラクティス, 259-262, 2006. 医学書院 (分担執筆)
- 尾崎浩士. 分娩後の出血裂傷「術後出血」. 産科臨床ベストプラクティス, 263-267, 2006. 医学書院 (分担執筆)
- 尾崎浩士. 分娩後の出血裂傷「羊水塞栓」. 産科臨床ベストプラクティス, 268-271, 2006. 医学書院 (分担執筆)

2007年度

- 山本善光, 尾崎浩士. 子宮頸管裂傷, MFICU 連絡協議会編集, MFICU マニュアル, 319-323, メディカ出版, 大阪, 2008

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J.O.GR	0.779	1	0.779
Total		1	0.779

和文 (論文数)

雑誌名	2006年度	2007年度
青森県臨床産婦人科医会誌	1	0
Osteoporosis Japan	2	2
計	3	2

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	3	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文

雑 誌 名	2006年度	2007年度
産婦人科の実際	1	1
計	1	1

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Kanji Tanaka, Ryouzuke Taniguchi, Tsuyoshi Higuchi, Hideki Mizunuma. The anti-inflammatory effects of Proteoglycan in cultured fibroblasts from the human uterine cervix. Pan-pacific connective tissue societies symposium. Japan, 2006.

2007年度

- C.1. Tanaka K, Matsukura D, Taniguchi R, Yamamoto Y, Higuchi T, Ozaki T, Mizunuma H. DEVELOPMENT OF A NOVEL THERAPEUTIC DRUG FOR TREATMENT OF PRETERM DELIVERY. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynaecology (Tokyo) 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- C. 4件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2006年度

研究代表者として
田中幹二 基盤研究 C プロテオグリカンを用いた切迫早産新規治療薬開発のための研究 1,300 千円

2007年度

研究代表者として
田中幹二, 基盤研究 C プロテオグリカンを用いた切迫早産新規治療薬開発のための研究 (900 千円)

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

田中幹二 弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築」

代表研究者 高垣啓一, 1,800 千円

(4) 民間の研究助成

2006年度

他研究単位との研究分担者として

弘前都市エリア産学官連携促進事業, プロテオグリカンのオーダーメイド, 骨組織内のプロテオグリカンの役割について 1,000 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加 (3 ヶ月未満) 状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3 ヶ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加 (内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

52. 病理部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

「小型肺癌における細胞外マトリックスの臨床病理学的研究について」は，英語論文として投稿した国際誌「Pathology International」に受理され，2006年，56巻（9号），494-502頁の同誌に掲載された。

4年前に設定した「肝の線維化における肝星細胞の役割」の研究成果は，ようやく英語論文として投稿した国際誌「Hepato-Gastroenterology」に受理され，2008年，55巻（1号）179-183頁の同誌に掲載された。

共同研究の「肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査」は研究が終了し，現在公表に向けて準備中である。従って，全体の目標到達度としては，7－8割方達成できた。

理念：

外科的に切除された病理組織について，形態学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的，分子生物学的な手法を用いて解析し，evidence-based な外科病理学的な研究を行うとともに，得られた知見を病理診断の精度の向上と個々の患者の治療に役立てる。

これから2年間の目標：

共同研究の「肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査」は，英語論文として公表する予定である。これらの知見ならびにデータが公表されることにより，癌の個別化治療に関する研究への利用が期待される。

「中心性線維化を伴う小型肺癌における血管内皮増殖因子について」の臨床病理学的研究の第一報は，第95回日本病理学会総会（東京 2006年4月30日）において学会発表したが，今後データを追加し英語論文として公表する予定である。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 1，講師 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	助教授	専 任	鎌田 義正	1 年間
研究課題	1. 小型肺癌における血管内皮増殖因子の臨床病理学的研究 2. 肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査（共同研究）			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 0，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	准教授	専 任	鎌田 義正	12 ヶ月
研究課題	1. 肺癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査 2. 小型肺癌における血管内皮増殖因子の臨床病理学的研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006年度

- A.1. K. Okudera, Y. Kamata, S. Takanashi, Y. Hasegawa, T. Tsushima, Y. Ogura, K. Nakanishi, H. Sato, K. Okumura. Small adenocarcinoma of the lung: Prognostic significance of central fibrosis chiefly because of its association with angiogenesis and lymphangiogenesis. Pathol Int 2006;56:494-502.

2007年度

- A.1. Murata K, Kamata Y, Munakata H, Sugai M, Sasaki M. Immunohistochemical study on liver fibrosis in biliary atresia. Hepato-Gastroenterology 2008;55:179-183.

和文

2007年度

- A.1. 石戸圭之助, 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 石澤義也, 浅野研一郎, 大熊洋揮, 鎌田義正, 佐々木睦男. c-kit 陽性を示した脳硬膜原発 mesenchymal chondrosarcoma 肝転移の1例. 肝臓 2007;22(4):494-502.
A.2. 対馬史泰, 小野修一, 清野浩子, 森本公平, 大畑 崇, 長畑守雄, 三浦弘行, 阿部由直, 対馬敬夫, 鎌田義正. 肺癌胸膜播種の CT 診断—原発巣所見との対比—. 弘前医学 2008;59(2):104-109.

(2) 総説

英文 なし

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文 なし

和文 なし

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pathol Int	1.108	1	1.108
Total		1	1.108

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepato-Gastroenterol	0.904	1	0.904
Total		1	0.904

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
肝臓		1
弘前医学		1
計	0	2

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2006年度

C. 5件

2007年度

C. 5件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

2006年度

固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査：対馬敬夫（第一外科），大鵬薬品と共同研究

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

53. 光学医療診療部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2 年前に設定した，これから 2 年間の目標に対する到達度：

潰瘍性大腸炎の病態解析を目的とし，上皮細胞の APOPTOSIS の制御に関する報告を行った Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A. Blockade of TGF-beta accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis. Biochem Biophys Res Commun. 2007 Aug 3;359(3):406-12. この報告は弘前医学奨励賞を獲得した。また，あらたな BIOMARKER の確立に向けた検討では第 44 回消化器免疫学会の優秀演題賞を受賞した。 60% の達成率である。

理念：

炎症性腸疾患について病態解析と臨床への還元を目的とした研究を続ける。

これから 2 年間の目標：

1. BIOMARKER の確立
2. 新たな治療法のアルゴリズムの確立にむけた検討
3. 炎症性腸疾患の病態解析（特に上皮細胞と自然免疫系との相互作用について）

【研究人員及び研究課題】

2006 年度

研究人員	教授 0，助教授 1，講師 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	棟方 昭博	1 年間
	助教授	専 任	石黒 陽	1 年間
研究課題	1. サイトカイン・プロファイルからみた炎症性腸疾患の病態解析 2. 難治性潰瘍性大腸炎の薬剤反応性に関する Bio Marker の確立 3. GCAP による炎症性腸疾患のステロイド減量効果 4. 生物製剤レミケードによるクローン病緩解維持療法 5. Vit A による粘膜バリアー機能の維持			

2007 年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 0，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	福田 眞作	平成 19 年 8 月～ 20 年 3 月
	准教授	専 任	石黒 陽	平成 19 年 4 月～ 20 年 3 月
研究課題	1. クローン病，潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の病因・病態の解明 2. マウス実験腸炎モデルを用いた炎症性腸疾患の治療における標的因子の検索 3. 炎症性腸疾患におけるステロイドなどの薬物療法の選択，さらに効果的な治療法の開発			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2006 年度

- A.1. Sashinami H, Sakuraba H, Ishiguro Y, Munakata A, Nishihira J, Nakane A. The role of macrophage migration inhibitory factor in lethal *Listeria monocytogenes* infection in mice. Microb Pathog. 2006 Aug-Sep;41(2-3):111-8.
- A.2. Ishiguro Y, Ohkawara T, Sakuraba H, Yamagata K, Hiraga H, Yamaguchi S, Fukuda S, Munakata A, Nakane A, Nishihira J. Macrophage migration inhibitory factor has a proinflammatory activity via the p38 pathway in glucocorticoid-resistant ulcerative colitis. Clin Immunol. 2006 Sep;120(3):335-41.

- B.1. Ohkawara T, Nishihira J, Ishiguro Y, Otsubo E, Nagai K, Takeda H, Kato M, Yoshiki T, Iwanaga T, Asaka M. Resistance to experimental colitis depends on cytoprotective heat shock proteins in macrophage migration inhibitory factor null mice. Immunol Lett. 2006 Nov 15;107(2):148-54.

2007年度

- A.1. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A. Blockade of TGF-beta accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis. Biochem Biophys Res Commun. 2007;359(3):406-12.

和文

2006年度

- A.1. 櫻庭裕丈, 石黒 陽, 山形和史, 藤田 均, 平賀寛人, 蝦名佐都子, 島谷孝司, 川口章吾, 佐藤裕紀, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎の腸管粘膜固有層単核球における多剤耐性遺伝子の発現の検討. 消化器と免疫 NO. マイライフ社:東京 42, 2005, p.108-109

2007年度

- A.1. 石黒 陽, 平賀寛人, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 山口佐都子, 藤田 均, 川口章吾, 佐藤裕紀, 山形和史, 福田眞作, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎難治例における p-glycoprotein 発現 CD8ab T細胞の意義. 消化器と免疫. 2007;44:60-61.

(2) 総説

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 石黒 陽, 山形和史, 佐藤裕紀, 櫻庭裕丈, 福田眞作, 棟方昭博. 炎症性腸疾患における AZA/6-MP の役割. 緩解維持効果. 臨床消化器内科. 2007;22(12):1573-1580.

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 山形和史, 石黒 陽, 棟方昭博. 腸炎. 病気と薬 パーフェクト BOOK. 薬局. 2008;59:830-838.

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 山形和史, 石黒 陽, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎の疫学と診断, カレントセラピー, 24(6):16-21,2006.
A.2. 山形和史, 石黒 陽, 川口章吾, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎, クロウン病の治療指針, Modern Physician, 26(9): 1454-1459,2006.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
CLINICAL IMMUNOLOGY	3.606	1	3.606
MICROBIAL PATHOGENESIS	2.258	1	2.258
IMMUNOLOGY LETTERS	2.352	1	2.352
Total		3	8.216

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochem Biophys Res Commun	2.855	1	2.855
Total		1	2.855

和文（論文数）

種 目	2006年度	2007年度
消化器と免疫 臨床消化器内科	1	1
計	1	2

2. 著書数（A, B のみ）

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他（A, B のみ）

英文 なし

和文

種 目	2006年度	2007年度
カレントセラピー Modern Physician	1	
計	2	

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2007年度

- A.1. Ishiguro Y. Basic Science, Innate and acquired immunity in IBD: Lack of Vitamin A impaired mucosal barrier function and exacerbated DSS-induced colitis. 4th JSGE-AGA Joint Meeting. Aomori. 2007.
- B.1. Ishiguro Y, Kawaguchi S, Fujita H, Sakuraba H, Shimaya K, Sato Y, Yamagata K, Fukuda S. MDR1 Positive CD8 β low T cells In Refractory UC. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- B.2. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Fujita H, Hiraga H, Yamaguchi S, Kawaguchi S, Sato Y, Shimaya K, Fukuda S, Nakane A, Munakata A. Cyclosporin A prevented apoptosis-mediated epithelial injury through transforming growth factor- β related pathway. The 1st Japan & US Collaboration Conference in Gastroenterology (JUCC). Tokyo. 2007.
- C.1. Sakuraba H, Ishiguro Y, Kawaguchi S, Sato Y, Hiraga H, Yamaguchi S, Yamagata K, Shimaya K, Fukuda S. Cyclosporin A prevented apoptosis-mediated epithelial injury through transforming growth factor- β related pathway. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.2. Hiraga H, Ishiguro Y, Shimaya K, Kawaguchi K, Fujita H, Sato Y, Sakuraba H, Yamagata K, Yamaguchi S, Fukuda S, Munakata A. Vitamin A-deficiency exacerbates acute intestinal inflammation by impaired macrophage activation. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.3. Kawaguchi S, Ishiguro Y, Fujita H, Sakuraba H, Shimaya K, Sato Y, Yamagata K, Fukuda S. HSP-70 has an anti-inflammatory effects and reduced in refractory ulcerative colitis patients. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.
- C.4. Shimaya K, Ishiguro Y, Kawaguchi S, Sato Y, Hiraga H, Yamaguchi S, Sakuraba H, Yamagata K, Fukuda S. TSP-1 was reduced in refractory cases with UC, that potentiates to restore SMAD-2/3 phosphorylation and TNF- α repression. 13th International Conference of Mucosal Immunology. Tokyo. 2007.

(2) 全国学術集会

2006年度

- B.1. 石黒 陽, 平賀寛人, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 山口佐都子, 藤田 均, 川口章吾, 佐藤裕紀, 山形和史, Atsushi Mizoguchi, 棟方昭博. Cytokine Induced Neutrophil Chemoattractant (CINC)-1 の regulatory cytokine, 誘導と TNBS 腸炎に対する防御的効果, 第 43 回日本消化器免疫学会総会（弘前）, 18.8.4
- B.2. 石黒 陽, 山形和史, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法—当科における 6-MP の治療成績—, 第 48 回日本消化器病学会大会（札幌）, 18.10.12,
- C. 6 件

2007年度

- A.1. 佐藤裕紀, 平賀寛人, 石黒 陽. 粘膜バリアー機能における VITAMIN A の役割. 第 49 回日本消化器病学会大会. 神戸. 2007.
- A.2. 平賀寛人, 石黒 陽, 棟方昭博. ビタミン A によるマクロファージの機能調節と生態防御. 第 93 回日本消化器病学会総会. 青森. 2007.

- A.3. 島谷孝司, 櫻庭裕丈, 石黒 陽. 潰瘍性大腸炎における新たな治療標的・マーカーとしての p-glycoprotein 発現 CD8αβT 細胞. 青森. 2007.
- B.1. 島谷孝司, 櫻庭裕丈, 川口章吾, 佐藤裕紀, 山形和史, 平賀寛人, 石黒 陽, 棟方昭博. UC における血小板由来 TSP-1 の機能について. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」平成 19 年度第 1 回総会. 東京. 2007.
- B.2. 川口章吾, 石黒 陽, 山形和史, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 佐藤裕紀, 福田真作. 腸管上皮細胞における RIG-I の発現調節. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」平成 19 年度第 2 回総会. 東京. 2008.
- C. 6 件

Ⅲ. 学術賞

2007 年度

- 1. 第 44 回日本消化器免疫病学会 優秀演題賞. 石黒 陽, 櫻庭裕丈, 島谷孝司, 藤田 均, 山口佐都子, 川口章吾, 佐藤裕紀, 福田真作, 棟方昭博. MDR1 Positive CD8β low T cells In Refractory UC.
- 2. 第 12 回弘前大学医学部学術賞奨励賞. Hirotake Sakuraba, Yoh Ishiguro, Kazufumi Yamagata, Akihiro Munakata, Akio Nakane. Blockade of TGF-β accelerates mucosal destruction through epithelial cell apoptosis.

Ⅳ. 共同研究

2006 年度

「炎症性腸疾患腸管局所における cDNA microarray による解析」国立がんセンター, 近畿大学, 荒尾 徳三
「炎症性腸疾患における galectin 4 の意義」Massachusetts General Hospital, Center for the study of Inflammatory bowel disease, Exp Pathology, A Mizoguchi

2007 年度

- 1. J-TREAT 研究会（代表者：兵庫医大 松本誉之）. クロウン病に対する各種治療法の長期的安全性および患者 QOL と医療コストに及ぼす影響についての調査研究. 石黒 陽.
- 2. 産業医科大学（代表者：田中良哉）Infliximab 治療により導入された関節リウマチの低疾患活動性の維持に関する研究. 石黒 陽.
- 3. 京都大学医学部消化器内科学（代表者：千葉勉）. 潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス感染例における Ganciclovir・Adacolumn の併用効果について. 石黒 陽.

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

2007 年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 厚生労働省科学研究費（免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業）. 関節リウマチの治療法選択と治療反応性の実態把握のための定点観測. 石黒 陽. 200 千円.

(2) その他の省庁からの研究費

2006 年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班

2007 年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」. 石黒 陽（研究協力者）.

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

2006 年度

研究代表者として

クローン病に関するレミケードの効果について（1,000,000 円）

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2006年度

Massachusetts General Hospital, Center for the study of Inflammatory bowel disease, Dr. Atsushi Mizoguchi, Dr. Emiko Mizoguchi による特別講演. 第43会消化器免疫病学会(2006, 8月3日, 4日, 弘前)

c) 外国研究機関からの留学生, 受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2006年度

Massachusetts General Hospital, Center for the study of Inflammatory bowel disease, Exp Pathology, 2006, 6/JAN -30/JUN

f) その他

なし

(2) 国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

54. リハビリテーション部

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

70%

理念：

股関節疾患の治療における臨床成績の集積を行い，新たな治療法を開発する。

これから2年間の目標：

従来の手の疾患・外傷に対する治療法の利点・欠点を整理し，さらなる進歩を目指す。

血管柄付き骨移植術の利点とその限界を考察し，術式の改良を検討する。

弘前大学式人工股関節の臨床応用をさらに進める。

大腿骨頭壊死の関節温存手術の治療適応，術式の標準化を行う。

【研究人員及び研究課題】

2006年度

研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	講 師	専 任	中村 吉秀	2006.4.1—2007.3.31
	助 手	専 任	湯川 昌広	2006.4.1—2007.3.31
研究課題	1. 特発性大腿骨頭壊死症に対する関節温存手術の開発 2. 日本人変形性股関節症に対する新しい人工股関節置換術の開発と臨床応用 3. 手の外傷，先天疾患，変性疾患の治療			

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 0，講師 1，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	教 授	併 任	藤 哲	
	講 師	専 任	中村 吉秀	
	助 教	専 任	湯川 昌広	
研究課題	1. 特発性大腿骨頭壊死の自然経過と関節温存手術 2. HPF ステムを初めとする日本人に対する人工股関節置換術の開発および臨床成績調査 3. 先天性股関節脱臼治療の長期成績 4. 手の疾患・外傷治療の検討 5. 血管柄付き骨移植による広範囲骨欠損の治療法の検討 6. 上肢の先天異常に対する再建法の検討			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Nakamura Y, Nakata Y, Akita M, Toh S. Original Cementless Femoral Stem for Dysplastic Hip- Clinical Results of HPF Stem. J Arthroplasty. 22:553-559,2007.

和文

2006年度

- A.1. 中村吉秀，中田善博，秋田 護，藤 哲. 圧潰を生じた広範囲病巣を呈する大腿骨頭壊死症に対する血管柄付き腸骨移植術と大腿骨頭前方回転骨切り術の合併手術. Hip Joint 32:158-61,2006.

- A.2. 西川真史, 藤 哲, 神 裕道, 和田誠之, 湯川昌広, 岩崎弘英. 手のスポーツ障害に対する関節鏡の応用, 日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 25(3):287-300,2006.

2007年度

- A.1. 中村吉秀, 中田善博, 秋田 護, 藤 哲, 森川泰仁, 入江伴幸, 越後谷直樹, 岩澤智宏. 遠位固定型セメントレス大腿骨ステムの有用性—いわゆる非定型的症例 4 例の報告. 第15回 MX 人工股関節研究会会誌 51-54,2007.
- A.2. 岩澤智宏, 越後谷直樹, 中村吉秀. 小児麻痺患者に発生した大腿骨頸部骨折の 2 例. 第15回 MX 人工股関節研究会 67-71,2007.
- A.3. 中村吉秀, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲, 森川泰仁, 越後谷直樹. 高齢者大腿骨近位部骨折に対する遠位固定型セメントレス大腿骨ステムの有用性—いわゆるトラブルケース 3 例. 別冊整形外科 52:148-152,2007.
- A.4. 中村吉秀, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲, 片野 博. 広範囲病巣を呈する大腿骨頭壊死症に対する血管柄付き腸骨移植術の臨床成績. Hip Joint 33:433-438,2007.
- A.5. 中村吉秀, 片野 博, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲. AML ステムを使用したセメントレス全人工股関節置換術の長期成績と問題点. 術後10年以上の成績から. 日本人工関節学会誌 37:258-259,2007.

(2) 総説

英文

2007年度

- A.1. Satoshi Toh, Yoshihide Nakamura, Hiromichi Jin, Masahiro Yukawa, Kouichi Arai. A quarter century of advancement in vascularized bone grafts in the orthopaedic field. The Journal of the School of Medicine University of Belgrade. Medical Investigations 41(2):4-11,2007.

和文 なし

(3) 著書

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 湯川昌広, 藤 哲. トラブルにならない整形外科インフォームドコンセント, 手指(腱損傷)外傷, 金原出版株式会社, 東京都, 2007.

(4) その他

英文 なし

和文

2006年度

- A.1. 神 裕道, 湯川昌広, 藤 哲. 有茎筋皮弁後の難治性瘻孔に対して陰圧閉鎖療法が著効した鼠径部放射線潰瘍の 1 例, 日本骨・関節感染症学会雑誌 20:136-139,2006.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2006年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

2007年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
JOURNAL OF ARTHROPLASTY	1.806	1	1.806
Total		0	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2006年度	2007年度
Hip Joint	1	
日本整形外科スポーツ医学会雑誌	1	
計	2	

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種 目	2006年度	2007年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	1

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文

雑 誌 名	2006年度	2007年度
日本骨・関節感染症学会雑誌	1	
計	1	

II. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

2006年度

- C.1. Yukawa M, Toh S, Nishikawa S, Jin H, ORIF of distal humeral fracture by using ONI transcondylar plate, European Trauma Congress, Ljubljana, 2006 (Yukawa M, Toh S, Nishikawa S, Jin H, ORIF of Distal Humeral Fracture by Using ONI Transcondylar Plate, 7th European Trauma Congress, International Proceedings, 2006, 381-5)
- C.2. Yukawa M, Toh S, Jin H, Surgical Treatment of Fibrolipomatous Hamartoma generated in the Median Nerve. Complete Resection of the Tumor and Nerve Transplantation, Opponensplasty., IFSSH & IFSHT, Sydney, 2007.

2007年度

- C.1. Masahiro Yukawa, Noriko Yamamoto, Koei Iwasaki, Satoshi Toh, Mobilization of a proximal radioulnar synostosis with use of a posterior interosseous artery adipofascial flap, 7th APFSSH, Hong Kong, 2008.

(2) 全国学術集会

2006年度

- A.1. 中村吉秀. 大腿骨頭壊死に対する関節温存治療 - 血管柄付き腸骨移植術について. 第14回関西股関節研究会. 2006.4.1
- A.2. 中村吉秀. 整形外科における骨粗鬆症. 鷹巣医談会 学術講演会 2006.10.13 北秋田市
- A.3. 中村吉秀. 整形外科における骨粗鬆症. 第142回八戸市薬剤師会学術生涯セミナー. 2006.10.18 八戸市
- B.1. 秋田 譲, 中村吉秀, 菊池 明, 藤 哲. 進行期股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の治療成績. シンポジウム. 第33回日本股関節学会 2006.10.27-28 東京
- B.2. 中村吉秀, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲, 片野 博. “大腿骨頭回転骨切り術と血管柄付き腸骨移植の合併手術による大腿骨頭壊死の治療” シンポジウム. 第33回日本マイクロサージャリー学会 2006.10.27-28 奈良
- B.3. 中村吉秀, 片野 博, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲. AMLステムを使用したセメントレス全人工股関節置換術の長期成績と問題点. 術後10年以上の成績から. パナレディスカッション. 第37回日本人工関節学会 2007.2.2-2.3 東京
- C. 21件

2007年度

- B.1. 湯川昌広, 山本倫子, 岩崎弘英, 藤 哲. 長管骨偽関節に対する血管柄付き腓骨移植術の治療成績, 第21回日本創外固定・骨延長学会, 横浜, 2008
- B.2. 中村吉秀, 片野 博, 菊池 明, 秋田 護, 藤 哲. AMLステムを使用したセメントレス全人工股関節置換術の長期成績と問題点. 術後10年以上の成績から. パネルディスカッション. 第37回日本人工関節学会 2007.2.2-2.3
- B.3. 中村吉秀, 三井博正, 菊池 明, 岸谷正樹, 藤 哲. 特発性大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術の長期成績. パナルディスカッション. 第34回日本股関節学会 2007.10.11
- C. 13件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

55. 医療安全推進室

【研究単位の目標達成度，理念・目標】

2年前に設定した，これから2年間の目標に対する到達度：

理念：

これから2年間の目標：

【研究人員及び研究課題】

2007年度

研究人員	教授 0，准教授 1，講師 0，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0			
教 員 (教授～助手) の詳細	役 職	専任／併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
	室 長	併 任	保嶋 実	2007/4/1-2008/3/31
	准教授	専 任	福井 康三	2007/5/1-2008/3/31
研究課題	1. 胸部外科領域の医療安全対策 2. 急性大動脈解離と医療連携 3. 医学生に対する医療安全教育			

【研究業績】

I. 発表論文

(1) 原著

英文

2007年度

- A.1. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Junichi Ymazaki, Kozo Fukui, Hideki Yanaoka, Takao Inamura. Effect of Cannula Shape on Aortic Wall and Flow Turbulance: Hydrodynamic Study During Extracorporeal Circulation in Mock Thoracic Aorta. Artif Organs 2007;31:880-886.
- A.2. Kazuo Itoh, Masahito Minakawa, Yuichi Ono, Takao Tsushima, Kozo Fukui, Ikuo Fukuda. Role of oxidative stress in hypertrophied myoblasts stimulated by isoproterenol. Gen Thorac Cardiovasc Surg 2007;56:170-176.
- A.3. Masahito Minakawa, Ikuo Fukuda, Takao Inamura, Hideki Yanaoka, Kozo Fukui, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzuki, Hiroshi Hashimoto. Hydrodynamic evaluation of axillary artery perfusion for normal and diseased aorta. Gen Thorac Cardiovasc Surg 2007;56:215-221.

和文

2007年度

- A.1. 大徳和之，谷口 哲，皆川正仁，福井康三，鈴木保之，福田幾夫．開心術後縦隔洞炎の起因菌と治療の検討．日本外科感染症学会雑誌 2007;5(1):25-31

(2) 総説

英文 なし

和文

2007年度

- A.1. 福田幾夫，福井康三，大徳和之，皆川正仁．心筋梗塞後左室自由壁破裂の治療．冠疾患誌 2007;13:242-245

(3) 著書

英文 なし

和文 なし

(4) その他

英文

2007 年度

- A.1. Kazuyuki Daitoku, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki, Ikuo Fukuda. Letter to The Editor Regarding "Radiation-induced valvular disease is the logical consequence of irradiation" Gen Thorac Cardiovasc Surg 2007;55:341.
- A.2. Ikuo Fukuda, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Yasuyuki Suzuki. Management of an aorto-caval fistula from a ruptured aortic false aneurysm using a covered stent graft. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 2007;6:682-684.
- A.3. Ikuo Fukuda, Masahito Minakawa, Kozo Fukui, Satoshi Taniguchi, Kazuyuki Daitoku, Yasuyuki Suzui, Hrioshi Hashimoto. Breakdown of Atheromatous Plaque Due to Shear Force From Arterial Perfusion Cannula. Ann Thorac Surg 2007;84:e17-18.
- A.4. Kazuyuki Daitoku, Ikuo Fukuda, Rieko Kitagawa, Masahito Minakawa, Yasuyuki Suzuki, Kozo Fukui. Aortic Valve Replacement in a Patient With Myelodysplastic Syndrome and Interstitial Pneumonia. Circulation Journal 2007;71:1826-1828.
- B.1. Mamoru Munakata, Hiroyuki Itaya, Kozo Fukui, Yuichi Ono. One-stage repair for aortic regurgitation and Kommerell diverticulum with aneurysmal right aortic arch. J Thorac Cardiovasc Surg 2007;133:798-799.

和文

2007 年度

- A.1. 渡辺健一, 大徳和之, 鈴木保之, 川村知紀, 山内早苗, 皆川正仁, 福井康三, 福田幾夫. 動脈閉鎖と右鎖骨下動脈起始異常を伴う Fallot 四徴症に対する姑息的右室流出路形成術の 1 例. 胸部外科 2007;61:403-406.

(5) 発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, B のみ)

英文

2007 年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Total		0	0

和文 (論文数)

雑 誌 名	2007 年度
計	

2. 著書数 (A, B のみ)

英文

種 目	2007 年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

和文

種 目	2007 年度
単 著	0
編 集	0
分担執筆	0

3. その他 (A, B のみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1) 国際学術集会

なし

(2) 全国学術集会

2007年度

C. 4件

Ⅲ. 学術賞

なし

Ⅳ. 共同研究

なし

Ⅴ. 研究助成

(1) 文部科学省科学研究費

なし

(2) その他の省庁からの研究費

なし

(3) 学内の研究助成

なし

(4) 民間の研究助成

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

(1) 国際交流，国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘，受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生，受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察，研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

なし

(2) 国内，地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

VII. その他

なし

社会貢献活動

第3章 社会貢献活動

1. 神経解剖・細胞組織学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

全体平均で約80%

これから2年間の目標：

社会貢献活動の機会に対して積極的に取り組む

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 0, 助手 3, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0
07年度		教授 0, 准教授 0, 講師 0, 助教 2, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本解剖学会	評 議 員	正村 和彦		1 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	Arch Histol Cytol 誌 guest reviewer	助 教	浅野 義哉		2 日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	弘前ホスピタリティーアカデミー解剖学講義	助 教	浅野 義哉		15 日
	弘前ホスピタリティーアカデミー解剖学講義	助 教	目黒 玲子		15 日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前ホスピタリティー・アカデミー	非常勤講師	正村 和彦		20 日
	弘前ホスピタリティー・アカデミー	非常勤講師	目黒 玲子		14 日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	白菊会のお手伝い	教 授	正村 和彦		1 日
	白菊会のお手伝い	助 教	浅野 義哉		1 日
	白菊会のお手伝い	助 教	目黒 玲子		1 日
	白菊会のお手伝い	助 手	小田桐紗織		1 日
07年度	白菊会総会	助 教	浅野 義哉		1 日
	白菊会総会	助 教	目黒 玲子		1 日
	白菊会総会	助 手	小田切沙織		1 日

2. 生体構造医科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

約9割。

1. 遺体の収集・管理等により、学外コメディカル学生の人体解剖学実習、また、講座外の人体解剖学的研究に協力した。また、学外のコメディカル学生の教育には講義等でも協力した。
2. 篤志献体団体の白菊会事務局として通年様々な形で協力した。
3. 研究成果の新聞紙上での発表等に加えて、弘前国際フォーラム実行委員として、その外国人特別講演者の招待を含めて協力、また、前日公開セミナーの設定を行った。さらに、弘前大学で行われた日本動物学会の実行委員やシンポジウムのオルガナイザー、また、一般市民への公開企画にも協力した。

これから2年間の目標：

1. 大学の社会貢献の一環として学外の医学教育にも可能な限り協力する。
2. 篤志献体のための外部団体である弘前大学白菊会に協力する。
3. 研究関連分野でも、成果をメディアを介する発表などにより学外にも伝え、できるだけ社会への貢献もしたい。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第10回弘前国際医学フォーラム及び前日公開セミナー主催	実行委員	加地 隆	弘前	実働：約40日 期間：1年間
07年度	第10回弘前国際医学フォーラム及び前日公開セミナー主催	実行委員	加地 隆	弘前	実働：40日 期間：1年間
	第10回ホメオスタシス研究会	オルガナイザー	外崎 敬和	弘前	1日
	第78回日本動物学会	実行委員	渡邊 誠二	弘前	1年間

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Journal of Obstetrics and Gynecology Research	審査員	加地 隆	弘前	2日
07年度	Journal of Obstetrics and Gynecology Research	査読	加地 隆	2006	2日
	Zoological Science	査読	外崎 敬和	2007.6	1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	ラジオ放送出演、FMアップルウェーブ リンゴ王国こうぎょくカレッジ 「人体の構造の基本と松果体ホルモンの謎解き」	講師	加地 隆	弘前	1日 (準備6日)
07年度	ラジオ放送出演、FMアップルウェーブ リンゴ王国こうぎょくカレッジ 「人体の構造の基本と松果体ホルモンの謎解き」	講師	加地 隆	弘前	1日 (準備6日)
	動物学会主催一般公開企画 動物学ひろ場	代表	渡邊 誠二	弘前	2日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前学院大学（非常勤講師）	助 教 授	外崎 敬和	弘前学院大学	半日 (2007.7.28)
07年度	弘前学院大学 弘前学院大学 東北女子大学	非常勤講師	外崎 敬和	06.7.28 07.10.27 07.4-9月	0.5日 1日 15日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー （非常勤講師）	助 教 授	外崎 敬和	城東学園	半日 (2007.2.2)
	弘前市医師会高等看護学院（非常勤講師）	助 手	渡邊 誠二	同看護学院	17日
07年度	城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	外崎 敬和	06年 07年	0.5日 1日
	弘前市医師会高等看護学院講義実習	非常勤講師	渡邊 誠二	06年 07年	17日 16日

(10) 学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国際フォーラム	実行委員	加地 隆	弘前	上述
07年度	弘前国際医学フォーラム	実行委員	加地 隆		上述

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学白菊会事務局	教 授	加地 隆	弘前	通年
		助 教	外崎 敬和		
		助 手	渡邊 誠二		
	役員会開催			2006.4.14	
	総会開催			2006.5.27	
	会報発行			2007.1.15	
	学内外解剖学実習協力				
	弘前学院大学看護学部	助 教 授	外崎 敬和	2006.9.5	1日
		助 手	渡邊 誠二	同上	1日
	医師会附属准看護学校	助 教 授	外崎 敬和	2006.9.	1日
		助 手	渡邊 誠二	同上	1日
	城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	助 教 授	外崎 敬和	2007.2.14	1日
		助 手	渡邊 誠二	同上	1日

06年度	日経産業新聞に研究成果を発表	同	上	同	上	2007.3.7	1日
	東奥日報に研究成果を発表	教	授	加地	隆	2006.4.8.	1日
	東北地区医科歯科学学生スキー大会（大会長）	同	上	同	上	2007.1.5-7, 弘前	3日
	東日本医学生体育大会（理事）	同	上	同	上	東京, 弘前	7日
07年度	弘前大学白菊会事務局	教	授	加地	隆	弘前	通年 ×2
	役員会開催	准	教	授	外崎 敬和	大分	1日
	総会開催						
	会報発行						
	篤志解剖全国連合会総会・研修会出席	准	教	授	外崎 敬和	大分	1日
	学内外解剖学実習協力	准	教	授	外崎 敬和	大分	1+2
	弘前学院大学看護学部						
	医師会附属准看護学校	准	教	授	外崎 敬和	大分	1+2
		准	教	授	外崎 敬和		1×2
	城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	准	教	授	外崎 敬和	大分	1+2
		助	教	授	渡邊 誠二		1+2
	日経産業新聞に研究成果を発表	同	上	同	上	2007.3.7	1日
	東奥日報に研究成果を発表	教	授	加地	隆	2006.4.8	1日
	陸奥新報に研究紹介	同	上	同	上	2008.1.25	1日
	東北地区医科歯科学学生スキー大会	大	会	同	上	2007.1. 弘前	3日
	第13回全国看護学生スキー大会	同	上	同	上	2008.3. 蔵王	3日
	東日本医学生体育大会	理	事	同	上	東京, 弘前	7×2

3. 統合機能生理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

「社会貢献が地域にのみとられることなく、全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす」との目標を掲げたが、国際的トップジャーナルである J. Neurophysiology 誌の Editorial Board や文部科学省プロジェクトの委員に継続的に任ぜられていることなど、到達度は100%である。

これから2年間の目標：

社会貢献が地域にのみとられることなく、全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 2, 助教授 2, 講師 0, 助手 2, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 2, 講師 0, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	内分泌学会評議員	教 授	泉井 亮		2 日
	生理学会評議員				
07年度	日本神経科学学会動物倫理委員会	委 員	藏田 潔	横浜	1 日
	日本神経科学学会動物倫理委員会	委 員	藏田 潔	横浜	1 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Journal of Neurophysiology	Editorial Board	藏田 潔	査読	16日
	Cerebral Cortex				8日
	Journal of Physiological Sciences	Editor			4日
	Proc Natl Acad Sci USA	助 教 授	山田 勝也	査読	4日
	Eur J Neurosci				4日
Neurosci Lett	4日				
07年度	Journal of Neurophysiology	Editorial Board	藏田 潔	査読	12日
	Cerebral Cortex				16日
	Journal of Physiological Sciences	Editorial Board			8日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	文部科学省マカクザルバイオリソース委員会	委 員	藏田 潔	東京 岡崎市	5 日
07年度	文部科学省マカクザルバイオリソース運営委員会	委 員	藏田 潔	東京 岡崎市	6 日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国際特許取得 US patent No. 71748541（取得年月日 2007/02/13）ならびに同技術を用いた製品の販売への寄与	発 明 者	山田 勝也		寄与日数 計算不能

07年度	特許取得第4015115号（取得年月日2007.9.21）ならびに同技術を用いた製品の販売への寄与	発 明 者	山田 勝也		寄与日数 計算不能

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	蛍光グルコースの製品化に向けた (株)ペプチド研究所との共同事業	助 教 授	山田 勝也	2007.3より 共同事業開始	2006年度 は1週間
07年度	蛍光グルコースの製品化に向けた (株)ペプチド研究所との共同事業	准 教 授	山田 勝也		

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	名古屋大学医学部講義	非常勤講師	蔵田 潔	名古屋	1 日
	秋田大学 博士研究指導 研究課題1.「マウス心拍呼吸の非侵襲的解析手法の確立」佐藤紳一 研究課題2.「ミエリン形成および非ミエリン形成シュワン細胞における ABCA2 蛋白の発現解析」齊藤隆志 研究課題3.「低酸素誘発性あえぎ呼吸の中枢制御機構の分子基盤」三宅あかり		山田 勝也	佐藤紳一 齊藤隆志 は2006年度博士号取得（秋田大学）	通年
07年度	名古屋大学医学部講義	非常勤講師	蔵田 潔	名古屋	1 日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国立病院機構弘前病院付属看護学校	非常勤講師	泉井 亮	生理学講義	7 日
	国立病院機構弘前病院付属看護学校	非常勤講師	山田 勝也	生理学講義	26 日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

（13）その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	新聞掲載 1. 2007/4/2 東奥日報「蛍光ブドウ糖で細胞の活動判定」 2. 2007/4/21 朝日新聞「蛍光ブドウ糖の「教科書」作る」 3. 2007/12/13東奥日報「脳血流の仕組み探る」 4. 2008/3/6東奥日報「弘大「蛍光ブドウ糖」研究に期待」 5. 2008/3/6陸奥新報「最先端技術の蛍光ブドウ糖実用化を研究 / 弘大が産学連携」	准 教 授	山田 勝也		

4. ゲノム生化学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

弘前ヘアレスラットの原因遺伝子を解明し、重要な知見を得ることができた。
遺伝子多型の高感受性ラットを用いて化学物質の発がん性を短期間で検索できる方法を開発した。これらの成果は、製薬、化学、食品工業など広い分野に影響を与え、食の安全に向けて、社会に大きく貢献した。

これから2年間の目標：

教室の研究成果を社会に還元し、成果の活用を通して、社会及び地域に貢献することを目指す。

具体的な目標として、

- 1 遺伝子多型ラットを用いた化学物質の発がん性の短期間での検索法の開発と、この知見のヒトへの応用に向けた研究を行う。
- 2 弘前ヘアレスラットの乳腺や免疫系など発毛以外の機能の異常を解明し、この動物がヒトのどのような疾患モデルになるのか解明する。

これらの研究を通して、社会貢献の実践を図るとともに、ノウハウを学ぶ。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本分子腫瘍マーカー研究会	世 話 人	土田 成紀	学会運営	1 日
	日本生化学会	支 部 長	土田 成紀	学会運営	3 日
	弘前医学会	評 議 員	土田 成紀	学会運営	1 日
07年度	日本分子腫瘍マーカー研究会	世 話 人	土田 成紀	学会運営	1 日
	日本生化学会	評 議 員	土田 成紀	学会運営	1 日
	日本癌学会	評 議 員	土田 成紀	学会運営	1 日
	弘前医学会	評 議 員	土田 成紀	学会運営	1 日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本生化学会東北支部例会	支 部 長	土田 成紀	学会運営	20 日
	日本生化学会東北支部例会	運 営 委 員	山田 俊幸	学会運営	20 日
	日本生化学会東北支部第72回例会・シンポジウム	運 営 委 員	清水 武史	学会運営	20 日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前医学		土田 成紀	査読	1 日
	Cancer Science		土田 成紀	査読	1 日
	Biochem Biophys Res Commun		土田 成紀	査読	1 日
	Journal of Biochemistry		土田 成紀	査読	2 日
	Chemotherapy		土田 成紀	査読	1 日
	Journal Cancer Res Clin Oncol		土田 成紀	査読	1 日
	Biochem Pharmacology		土田 成紀	査読	1 日
07年度	弘前医学		土田 成紀	査読	1 日
	Cancer Science		土田 成紀	査読	1 日
	Biochem Biophys Res Commun		土田 成紀	査読	2 日
	Journal of Biochemistry		土田 成紀	査読	2 日
	Chemotherapy		土田 成紀	査読	1 日
	Journal Cancer Res Clin Oncol		土田 成紀	査読	1 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	代表研究者	土田 成紀	実験とデータ解析	100日
	内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	准 教 授	山田 俊幸	実験とデータ解析	50日
	内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究「遺伝子多型ラットを用いたペルオキシソーム増殖剤のヒト発がんリスクの評価法の開発」	助 教	清水 武史	実験とデータ解析	50日

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	産学官連携フェア in 弘前		土田 成紀	ポスター発表	1日
07年度	地域産業科学技術の活性化推進事業	准 教 授	山田 俊幸	平成19年度学術国際振興基金助成金	50日
	地域産業科学技術の活性化推進事業	助 教	清水 武史	平成19年度学術国際振興基金助成金	100日

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	埼玉県立大学で教員評価に関する講演		土田 成紀		1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

5. 病態薬理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

（目標）

- ・地域の諸施設との共同研究をすすめ、研究成果を生かして地域活性化へ貢献する。

（到達度）

- ・青森工業総合研究センターとの共同研究が進展し、英文国際誌に公表した。

（達成度90%）

これから2年間の目標：

- ・引き続き、青森県工業総合研究センターと共同研究を進める。
- ・地域の医療活動、啓蒙活動、教育活動を推進する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 2, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 1
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本薬理学会	理事, 評議員 財 務 委 員	元村 成		5 日
	日本心電学会	評 議 員			3 日
	日本心脈管作動物質学会	評 議 員			1 日
	弘前医学会	庶 務 幹 事			3 日
	日本薬理学会 日本薬学会東北支部	学術評議員 委 員	古川 賢一		2 日 2 日
	日本薬理学会	評 議 員	瀬谷 和彦		2 日
	重篤副作用疾患別マニュアル作成班 (日本循環器学会)	委 員	木村 正臣	京都市 (理事局)	2 日
07年度	日本薬理学会 日本心電学会 日本心脈管作動物質学会	理事, 学術評議員 評 議 員 評 議 員	元村 成		7 日 1 日 1 日
	日本薬理学会 日本薬学会東北支部	学術評議員 委 員	古川 賢一		4 日 2 日
	日本薬理学会	学術評議員	瀬谷 和彦		2 日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第57回日本薬理学会北部会	部 会 長	元村 成		2 日
	第57回日本薬理学会北部会	事 務 局 長	古川 賢一		2 日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	J Pharmacol Sci Pharmacology	査 読	元村 成		3 日 2 日
	Journal of Pharmacological Science Biochemical Pharmacology Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology	査 読	古川 賢一		6 日 3 日 5 日
07年度	J Pharmacol Sci	査 読	元村 成		2 日

07年度	Journal of Pharmacological Science Biochemical Pharmacology Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology	査 読	古川 賢一		6日 3日 5日
	Journal of Pharmacy and Pharmacology Journal of Pharmacological Sciences	査 読	瀬谷 和彦		1日 1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	薬理学会主催市民公開講座 「漢方薬の功罪」	部 会 長	元村 成		1日
	薬理学会主催市民公開講座 「漢方薬の功罪」	事 務 局 長	古川 賢一		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	薬事・食品衛生審議会	専 門 委 員	元村 成	独立行政法人 医薬品医療機器 総合機構	1日
07年度	薬事・食品衛生審議会	専 門 委 員	元村 成	独立行政法人 医薬品医療機器 総合機構	1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	特許第3992467号 cAMP及びcGMPを好感度で測定し得るサンプルの即時調整法	教 授 准 教 授 助 教	元村 成 古川 賢一 瀬谷 和彦		1日

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	札幌医科大学	非常勤講師	元村 成		1日
	青森大学	非常勤講師	元村 成		1日
07年度	札幌医科大学	非常勤講師	元村 成		1日
	青森大学	非常勤講師	元村 成		1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	元村 成		15日
	青森県要約筆記養成講座	講 師	瀬谷 和彦		5日
07年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	古川 賢一		22日
	青森県要約筆記養成講座	講 師	瀬谷 和彦		5日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	尾野病院（つがる市）外来診療	医 師	木村 正臣		50日
	（社）全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	補聴医療対策部長	瀬谷 和彦		3日

07年度	尾野病院（つがる市）外来診療	医 師	木村 正臣		50日
	（社）全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	補聴医療対策部長	瀬谷 和彦		3日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国連障害者権利条約特別委員会でのサイドイベント開催		瀬谷 和彦	ニューヨーク	1日

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	難聴者の権利を PR するロビー活動（国連障害者権利条約特別委員会）		瀬谷 和彦	ニューヨーク	3日

6. 分子病態病理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

医療における病理診断の重要性の啓蒙について8割方普及できた。

病理標本の診断，解剖の実施，CPCを行うことにより地域医療の質の向上，維持に大きく貢献したと考えられ，目標は達成されたと思われる。

コメディカルの指導，連帯化では研究会などを8割方満足できた。

研究成果は講演会，論文発表等で6～7割方達成できた。

これから2年間の目標：

医療における病理の重要性をさらに啓蒙する。

研究で，一般人に向けての研究成果を啓蒙し，疾病の予防・治療の向上に貢献する。

① 病理診断と病理学の理解を推進する。

② 非常勤医師として地域医療に携わることにより，これまで以上に地域医療の維持，質の向上に努める。

③ 地域医療とともに，それ以外の社会貢献活動も行っていきたい。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 1，研究生 0
07年度		教授 1，准教授 1，講師 0，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 1，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本病理学会	東北支部学術委員	八木橋操六		4日
		評 議 員			8日
	日本糖尿病学会	評 議 員			6日
	日本糖尿病合併症学会	幹事・評議員			8日
	日本末梢神経学会	理事・評議員			8日
	日本糖尿病動物研究会	副会長・評議員			8日
	北日本病理研究会	代表世話人			2日
	糖尿病性神経障害を考える会	代表世話人			6日
	粘膜下腫瘍研究会	世 話 人	和田 龍一		2日
07年度	日本病理学会	東北支部役員	八木橋操六		4日
		評 議 員			
	日本糖尿病学会	評 議 員			8日
	日本糖尿病合併症学会	幹事・評議員			6日
	日本末梢神経学会	幹事・編集委員			16日
	日本糖尿病動物研究会	理事・評議員			8日
	北日本病理研究会	副会長・評議員			8日
	糖尿病性神経障害を考える会	代表世話人			8日
	粘膜下腫瘍研究会	世 話 人	和田 龍一	弘前	2日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第21回日本糖尿病合併症学会	学術集会会長	八木橋操六		3日
07年度	第18回日本末梢神経学会学術集会	会 長	八木橋操六		2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Virchows Arch（欧州病理学会誌）	編 集 委 員	八木橋操六		16日
	Exp Diab Res（国際実験糖尿病学会誌）	編 集 委 員			6日
	末梢神経（日本末梢神経学会誌）	編 集 委 員			10日
	弘前医学	副編集委員長			6日
	糖尿病	査 読			3日

06年度	Diabetes	査	読	八木橋操六		6日
	Diabetes Care	査	読			4日
	Diabetologia	査	読			8日
	Diab Res Clin Prac	査	読			20日
	J Diabetes Compl	査	読			4日
	Human Pathol	査	読			6日
	Diab Metab Res Rev	査	読			6日
	Pathol International	査	読			4日
	Diabetes Res Pract	査	読	和田 龍一		7日
07年度	Virchows Arch (欧州病理学会誌)	編 集 委 員		八木橋操六		16日
	Exp Diab Res (国際実験糖尿病学会誌)	編 集 委 員				12日
	末梢神経 (日本末梢神経学会誌)	編 集 委 員				10日
	弘前医学	副編集委員長				6日
	糖尿病	査	読			3日
	Diabetes	査	読			6日
	Diabetes Care	査	読			4日
	Diabetologia	査	読			8日
	Diab Res Clin Prac	査	読			20日
	J Diabetes Compl	査	読			8日
	Human Pathol	査	読			6日
	Diab Metab Res Rev	査	読			6日
	Pathol International	査	読			4日
	Diabetes Res Pract	査	読	和田 龍一		7日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	急性炎症反応症候群における腎不全の予防，治療薬		八木橋操六		
07年度	アルドース還元酵素阻害薬の急性腎不全の予防・治療薬の可能性	教 授	八木橋操六	特許	

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	青森労災病院における CPC の実施	医 師	八木橋操六		1日
			水上 浩哉		1日
	黒石病院における CPC の実施		矢嶋 信久		2日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	黒石市国保黒石病院	非常勤医師	八木橋操六		月3回
	北秋中央病院				月1回
	秋田社会保険病院				月1回

06年度	北秋中央病院病理診断	非常勤医師	和田 龍一		隔週 週 1 日
	秋田社会保険病院病理診断				隔週 週 1 日
	三沢市立三沢病院				隔週 週 1 日
06年度	八戸医師会検査センター病理診断	非常勤医師	水上 浩哉		隔週 週 1 日
	青森労災病院				週 1 日
	八戸市民病院				週 1 日
06年度	米内沢総合病院	非常勤医師	矢嶋 信久		隔週 週 1 日
	青森県立中央病院 病理部				48日
	黒石市国民健康保険黒石病院 臨床検査科				12日
07年度	津軽保健生活協同組合健生病院 病理科	非常勤医師	八木橋操六		12日
	黒石市国保黒石病院				月 3 回
	北秋中央病院				月 1 回
07年度	秋田社会保険病院	非常勤医師	和田 龍一		月 1 回
	三沢市立三沢病院				週 1 日
	八戸医師会検査センター病理診断				週 1 日
07年度	青森労災病院	非常勤医師	水上 浩哉		月 1 回
	北秋中央病院				月 3 回
	秋田社会保険病院				月 3 回
07年度	青森県立中央病院 病理部	非常勤医師	矢嶋 信久		48日
	黒石市国民健康保険黒石病院 臨床検査科				12日
	津軽保健生活協同組合健生病院 病理科				12日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	病理解剖	医 師	水上 浩哉		7 件

7. 病理生命科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

患者検体の正確で、迅速かつ丁寧な病理診断は、質の高い医療に直結するという信念のもち、日々の病理診断を通じて、地域医療に貢献する。また、医学科にとどまらず、医療全体における教育分野でも病理学は重要な位置を占めており、他施設からの要望に応えるため、本務に支障のない範囲で、学外での病理学教育に従事する。このような社会貢献活動は、本務にも有益な経験が得られるものとする。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で、社会貢献活動の面でも、研究面と同様に一層の充実する時期と位置づけられる。

- （1）患者検体の正確で、迅速かつ丁寧な病理診断を、質の高い医療に直結させること、
- （2）教育分野での病理学的重要性に鑑み、他施設からの要望に応えるため、本務に支障のない範囲で、学外での病理学教育に従事する。

このような社会貢献活動は、本務にも有益な経験が得られるものとする。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生（含：講座外大学院生） 5

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本病理学会 学術評議員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 教育委員会委員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 精度管理小委員会 委員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 若手医師確保に関する小委員会 委員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 Pathology International 刊行委員会 委員	教 授	鬼島 宏		1 日
	日本臨床細胞学会 評議員	教 授	鬼島 宏		1 日
	日本病理学会 学術評議員	講 師	楠美 智巳		1 日
07年度	日本病理学会 学術評議員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 教育委員会委員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 精度管理小委員会 委員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 若手医師確保に関する小委員会 委員	教 授	鬼島 宏		2 日
	日本病理学会 Pathology International 刊行委員会 委員	教 授	鬼島 宏		1 日
	日本臨床細胞学会 評議員	教 授	鬼島 宏		1 日
	日本病理学会 学術評議員	講 師	楠美 智巳		1 日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Pathology International, Editorial Board（査読を含む）	教 授	鬼島 宏		3 日
	International Journal of Molecular Medicine, Editorial Academy	教 授	鬼島 宏		1 日
	Oncology Reports, Editorial Board	教 授	鬼島 宏		1 日
	Tohoku J Exp Med 査読	講 師	楠美 智巳		3 日
	J Surg Oncol 査読	講 師	楠美 智巳		3 日

07年度	Pathology International, Editorial Board	教 授	鬼島 宏		3 日
	International Journal of Molecular Medicine, Editorial Academy	教 授	鬼島 宏		1 日
	Oncology Reports, Editorial Board	教 授	鬼島 宏		1 日
	Molecular Medicine Reports, Editorial Board	教 授	鬼島 宏		1 日
	診断病理	講 師	楠美 智巳	査読	1 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	独立行政法人日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI「がんとは、どんな病気？ーがん細胞を見て、がんを知るー」(中学生対象 弘前2007年8月10日, 11日)	教 授	鬼島 宏		2 日
	独立行政法人日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI「がんとは、どんな病気？ーがん細胞を見て、がんを知るー」(中学生対象 弘前2007年8月10日, 11日)	助 教	佐藤 冬樹		2 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加, 技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	独立行政法人産業技術総合研究所(つくば市)ブラディオン・プロジェクト(産学官連携プロジェクト) Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用: 癌の早期診断および治療, 治療後の長期予後モニターシステム開発	教 授	鬼島 宏		3 日
07年度	独立行政法人産業技術総合研究所(つくば市)ブラディオン・プロジェクト(産学官連携プロジェクト) Bradeion の癌特異的発現機能の臨床応用: 癌の早期診断および治療, 治療後の長期予後モニターシステム開発	教 授	鬼島 宏		3 日
	産学官金連携フェア「見てみて, 聞いてみて, 触れてみて, 弘前大学」(2007年11月7日)	教 授	鬼島 宏		1 日
	産学官金連携フェア「見てみて, 聞いてみて, 触れてみて, 弘前大学」(2007年11月7日)	助 教	佐藤 冬樹	ポスター発表	1 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	広島大学 非常勤講師	教 授	鬼島 宏		1 日
	山形大学 非常勤講師	教 授	鬼島 宏		1 日
	秋田看護福祉大学 非常勤講師	教 授	鬼島 宏		5 日
	秋田看護福祉大学 非常勤講師	講 師	楠美 智巳		5 日
	秋田看護福祉大学 非常勤講師	助 手	佐藤 冬樹		4 日
07年度	広島大学 非常勤講師	教 授	鬼島 宏		1 日
	東海大学 非常勤講師	教 授	鬼島 宏		1 日
	秋田看護福祉大学 非常勤講師	教 授	鬼島 宏		5 日
	秋田看護福祉大学 非常勤講師	講 師	楠美 智巳		5 日
	秋田看護福祉大学 非常勤講師	助 教	佐藤 冬樹		5 日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第61回日本消化器外科学会定期学術総会. (シンポジウム) 再び, 消化器外科医と病理医との対話—病理医より学—「食道外科医と病理医との対話と連携—治療戦略の個別化・最適化を求めて—」	教 授	鬼島 宏		1 日
	星医会 平成18年北東北支部会. (特別講演) 臨床医の期待に, 病理医は応えられるのか? (2006年9月6日)	教 授	鬼島 宏		1 日
	五所川原市立高等看護学院非常勤講師	講 師	楠美 智巳		15日
	城東学園言語聴覚科 非常勤講師	助 手	佐藤 冬樹		15日
07年度	東京胆道懇話会 (ミニレクチャー) 胆嚢癌・胆嚢ポリープの形態概説 (東京 2007年7月28日)	教 授	鬼島 宏		1 日
	第8回臨床消化器病研究会 (基調講演) 胆嚢癌と胆嚢膵筋腫症の形態学的特徴 (東京 2007年7月28日)	教 授	鬼島 宏		1 日
	五所川原市立高等看護学院 非常勤講師	講 師	楠美 智巳		15日
	城東学園 非常勤講師	助 教	佐藤 冬樹		15日

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

該当なし。

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	五所川原市立西北中央病院	教 授	鬼島 宏		50日
	五所川原市立西北中央病院	講 師	楠美 智巳		50日
07年度	五所川原市立西北中央病院 非常勤医師	教 授	鬼島 宏		50日
	五所川原市立西北中央病院 非常勤医師	講 師	楠美 智巳		50日

(12) 国際交流への貢献 (姉妹校での活動, 国際協力事業団の活動など)

該当なし。

(13) その他 (ボランティア, 法理解剖, マスコミによる公表など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	病理解剖	教 授	鬼島 宏	15件	15日
	病理解剖	講 師	楠美 智巳	15件	15日
	病理解剖	助 手	佐藤 冬樹	15件	15日
07年度	病理解剖	教 授	鬼島 宏	13件	13日
	病理解剖	講 師	楠美 智巳	13件	13日
	病理解剖	助 教	佐藤 冬樹	13件	13日

8. 感染生体防御学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

弘前大学医学部の教員として関連学会での活動を積極的に行った。
研究・教育を通して社会貢献を行うべく努力した。
特許取得など、新産業基盤創成へ向けて努力し、成果を上げつつある。
中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行った。
病院診療を通じて地域医療に貢献した。

これから2年間の目標：

弘前大学大学院医学研究科の教員として関連学会での活動を積極的に行う。
研究・教育を通して社会貢献を行う。
特許取得など、新産業基盤創成へ向けて実績をあげる。
企業との共同研究を通して地域貢献を行う。
病院診療を通じて地域医療に貢献する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 3, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 3, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本細菌学会評議員会	教 授	中根 明夫		1 日
	日本細菌学会バイオセーフティ委員会				2 日
	日本細菌学会東北支部会	助 教 授	胡 東良		1 日
	日本細菌学会東北支部会				1 日
07年度	日本細菌学会評議員会	教 授	中根 明夫		1 日
	日本細菌学会学会賞選考委員会				1 日
	日本インターフェロン・サイトカイン学会幹事会				1 日
	日本細菌学会東北支部会				1 日
	日本細菌学会東北支部会	准 教 授	胡 東良		1 日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第10回弘前国際医学フォーラム	教 授	中根 明夫		2 日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Infection and Immunity	教 授	中根 明夫		1 日
	Microbiology and Immunology				1 日
	Microbial Pathogenesis				2 日
	Microbes and Infection	助 教 授	胡 東良		1 日
07年度	Electronic Journal of Biotechnology				1 日
	Microbiol Immunol (Associate editor)	教 授	中根 明夫	査読	4 日
	Cell Biol Toxicol				3 日
	Clin Exo Immunol				1 日
	FEMS Immunol Med Microbiol				2 日
	J Antimicrob Chemother				1 日
	JIMB				1 日
	Microbiol Immunol				1 日
	Microbes Infect				2 日

07年度	Vaccine 弘前医学	教 授	中根 明夫	査読	2 日 2 日
	Microbiol Immunol	准 教 授	胡 東良		1 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	放送大学面接授業（集中型） 平成18年度第3回現代セミナーひろさき	教 授	中根 明夫		2 日 1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	青森県感染症動向調査委員会	教 授	中根 明夫	委員	1 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	特許出願： 特許名称「抗真菌活性を示す機能性 イソプレノイド類の開発」特願2006-42553 特許出願： 特許名称「機能性イソプレノイド類 の混用試験：抗菌作用に対する相乗効果につい て」特願2007-75438	教 授	中根 明夫		1 日 1 日
07年度	特許出願： 特許名称「イソプレノイド系化合物 を含む抗菌剤」特願2007-75438	教 授	中根 明夫		1 日

(7) 産学共同事業への参加、技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	都市エリア産学官連携促進事業「プロテオグリカ ン応用研究プロジェクト」 平成18年度弘前大学と青森県の共同研究「ナノ ヒバ油のミスト分散による抗菌・防虫技術の 開発」	教 助 授 手 教 授	中根 明夫 差波 拓志 中根 明夫		4 日 4 日 4 日
07年度	都市エリア産学官連携促進事業一般型「QOLの 向上に貢献するプロテオグリカンの応用研究と製 品開発」 平成19年度弘前大学と青森県の共同研究「ナノ ヒバ油のミスト分散による抗菌・防虫技術の開発」 平成19年度あおもりウェルネスランド構想推進 事業（医療・健康福祉関連産業ビジネスモデル構 築事業）「感染症病原体の簡易迅速検出センサー チップ製品化のビジネスモデル構築」	教 授	中根 明夫		4 日 4 日 2 日

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学教育学部 北海道大学医学部 秋田大学医学部 岩手大学農学部 秋田看護福祉大学	教 授	中根 明夫	非常勤講師	15日 1 日 1 日 1 日 15日
07年度	弘前大学教育学部 北海道大学医学部 秋田大学医学部 岩手大学農学部 秋田看護福祉大学	教 授	中根 明夫	非常勤講師	15日 1 日 1 日 1 日 15日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	秋田しらかみ看護学院	助 教	成田 浩司	非常勤講師	15 日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	白生会胃腸病院	助 手	差波 拓志	医師	48日
07年度	白生会胃腸病院	助 教	差波 拓志	医師	48日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前市成人祭呈茶	教 授	中根 明夫	弘前大学医学部 茶道部顧問	1日
	大学病院ならびに他病院からの寄生虫検査・相談 対応（6件）	助 手	長内 理大	講座内	12日
07年度	弘前市成人祭呈茶	教 授	中根 明夫	弘前大学医学部 茶道部顧問	1日
	寄生虫検査	助 教	長内 理大	5 件	5日

9. 社会医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

地域保健（県の寿命対策, 岩木健康増進プロジェクト, 地域包括ケアなど）, 産業保健・精神保健（青森産業保健推進センター相談員）, 学校保健（岩木健康増進プロジェクト）に積極的にかかわり, その発展に寄与したい。（中路）: ほぼ達成できた。現在進めているスポーツ医学及び健康科学の研究を学外の各機関と連携し, 情報交換等を行いながらより実践したものとしていきたい。また, これに関して現在集積しているデータ及びこれから得られるデータを, これまで同様, スポーツ指導現場並びに教育現場, 地域保健に活用し, スポーツ選手の健康管理, 選手強化, 地域保健活動に役立つものとしたと考えている。（梅田）: ほぼ達成できた。

1. 学外の医学教育に対しても可能な限り協力する。2. 地域医療のあり方について提言していく。3. 学会役員として学会の運営に協力する。（高橋）: ほぼ達成できた。

これから2年間の目標：

地域保健（県の寿命対策, 岩木健康増進プロジェクト, 地域包括ケアなど）, 産業保健・精神保健（青森産業保健推進センター相談員）, 学校保健（岩木健康増進プロジェクト）に積極的にかかわり, その発展に寄与したい。（中路）
現在進めているスポーツ医学及び健康科学の研究を学外の各機関と連携し, 情報交換等を行いながらより実践したものとしていきたい。また, これに関して現在集積しているデータ及びこれから得られるデータを, これまで同様, スポーツ指導現場並びに教育現場, 地域保健に活用し, スポーツ選手の健康管理, 選手強化, 地域保健活動に役立つものとしたと考えている。（梅田）

1. 学外の医学教育に対しても可能な限り協力する。2. 地域医療のあり方について提言していく。3. 学会役員として学会の運営に協力する。（高橋）

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 3, 医員 0, 大学院学生 15, 研究生 5
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 3, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 28, 研究生 3

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	体力・栄養・免疫学会	理事	中路 重之		1日
	民族衛生学会	評議員			1日
	弘前医学会	評議員			3日
	日本機能性食品医学会	評議員			1日
	日本衛生学会	評議員			1日
	日本体力医学会	評議員			1日
	日本レーザー治療学会	評議員			1日
	日本レーザー・スポーツ医学会	評議員			2日
	日本食物繊維学会	評議員			1日
	青森県21世紀栄養を考える会	世話人			1日
	青森県スポーツ医学研究会	世話人			1日
	弘前国際フォーラム	世話人			8日
	日本レーザー・スポーツ医学会理事	理事	梅田 孝		1日
	体力・栄養・免疫学会理事	理事			1日
07年度	体力・栄養・免疫学会	理事	中路 重之		2日
	民族衛生学会	評議員			1日
	弘前医学会	評議員			3日
	日本機能性食品医学会	評議員			1日
	日本衛生学会	評議員			1日
	日本体力医学会	評議員			1日
	日本レーザー治療学会	評議員			1日
	日本レーザー・スポーツ医学会	評議員			2日
	日本食物繊維学会	評議員			1日
	青森県21世紀栄養を考える会	世話人			1日
	青森県スポーツ医学研究会	世話人			1日
	弘前国際フォーラム	世話人			8日

07年度	体力・栄養・免疫学会	理 理	事 事	梅田 孝	東京 東京	1日
	日本レーザー・スポーツ医学会					1日
	体力・栄養・免疫学会	な し	高橋 一平			1日
	日本衛生学会					1日
	日本公衆衛生学会					1日
	日本整形外科学会					1日
	日本体力医学会					1日
	日本リハビリテーション学会					1日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本寄生虫学会川原先生記念講演会（5月）社会医学センター共催	教 授	中路 重之		1日
07年度	日本予防医学会第4回講演会 7月4日（弘前大学50周年記念会館）	大 会 長	中路 重之		1日
	第35回青森スポーツ医学研究会 講演：小嶺忠敏氏（前国見高校サッカー部監督）講演「サーカールを通じた人間教育」（県民福祉プラザ9.8）	大 会 長			1日
	「地域医療を考えるシンポジウム「青森県の医療における弘前大学の役割について」（熊坂宮古市長を迎えて、シティ弘前ホテル）	司 会			1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	体力・栄養・免疫学雑誌	編 集 委 員	中路 重之		18日
	体力・栄養・免疫学雑誌	編集長補佐	菅原 典夫	編集長補佐および査読業務	10日
07年度	体力・栄養・免疫学雑誌	編 集 委 員	中路 重之	編集	18日
	体力・栄養・免疫学雑誌		松坂 方士	査読	15日
	体力・栄養・免疫学雑誌		高橋 一平	査読	2日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森テレビ「テレビ診察室」：青森県民の寿命について	講 師	中路 重之		1日
	弘前大学・㈱ルネサスハイコンポーネント共同研究会：青森県民の健康について				1日
	弘前モータースクール幹部研修会：職場におけるメンタルヘルス対策について				1日
	第90回弘前医学会総会市民公開講座：青森県民の寿命からみた長生きへのヒント				1日
	弘前市安全衛生大会：メタボリックシンドロームの予防について				1日
	朝日新聞青森支社市民講演会：青森県民の寿命について				1日
	八戸市民公開講座：健康で長生きするために				1日
	弘前中央公民館講義：青森県民の寿命について				1日
	弘前大学総合文化祭アスベスト講演会：アスベストの疫学				1日
	百沢小学校 PTA 集会：岩木健康増進プロジェクト小中学校健康調査結果について				1日
	中弘南黒地区婦人団体幹部研修会：寿命は社会の総合力				1日
	鳴海病院第4回健康講座：最近のがんの動向				1日
	岩木町健康増進プロジェクト公開講座：メタボリックシンドロームの正しい知識				1日
	平成18年度第2回健康教育推進協議会：青森県及び学校における生活習慣病予防対策について				1日
	平成18年度生活習慣病等集団検診従事者研修会：平均寿命と健診				1日

06年度	岩木小学校 PTA 集会：岩木健康増進プロジェクト 小中学校健康調査結果について 岩木健康増進プロジェクト 運動教室 メディカルチェック	講 師	中路 重之		1 日 24 日
	青い森みらい創造財団・スポーツアドバイザー事業	講 師	梅田 孝		3 日
	青森県警察本部・スポーツ医学講演会	講 師			1 日
	中教審・弘前地区中学校教育指導者部会講演	講 師			1 日
	青森県・学校地域保健連携事業講演会	講 師			1 日
	大鰐町・地域教育力体験推進協議会講演	講 師			2 日
	青森県高体連柔道競技・身体組成調査	調 査 員			2 日
07年度	NPO スポネット弘前・指導者・保護者スキルアップ講習会	講 師			1 日
	野辺地町・学校保健研究大会兼連合 PTA 研究大会講演	講 師			1 日
	岩木健康増進プロジェクト・運動実践教室	指 導 員			48 日
	岩木健康増進プロジェクト 運動教室 メディカルチェック	な し	高橋 一平		24 日
	岩木健康増進プロジェクト 運動教室 メディカルチェック	な し	松坂 方士		24 日
	岩木健康増進プロジェクト 運動教室 メディカルチェック	な し	菅原 典夫		24 日
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(昨年12月から6月まで) 「最近のがんの動向」, 第4回健康講座(財団法人鳴海研究所清明会鳴海病院), 青森市アウガ5F AV 多機能ホール, 2007.1.6 「青森県及び学校における生活習慣病予防対策について」, 平成18年度第二回健康教育推進協議会, 青森県総合学校教育センター, 2007.2.9 「平均寿命と健診」, 平成18年度生活習慣病等集団検診従事者研修会, 青森国際ホテル, 2007.2.23 「生活習慣病予防と食生活」, 平成19年度弘前市食生活改善推進員会研修会, 弘前市保健センター, 2007.4.17 「基調講演 消化器がんにならないための生活」, 第93回日本消化器病学会総会 市民公開講座, 青森市文化会館, 2007.4.22 「ドクター中路 講演会 青森県民の寿命, 健康, 幸福について考える」, ニッセイ健康塾, ニッセイ青森センタービル, 2007.6.14 「基調講演 青森県民の健康寿命とタバコ」, 2007年 世界禁煙デー無煙世代を育てよう, 青森健康物産館アスパム, 2007.6.17 「津軽人の健康を考える」, 第21回市民の健康まつり特別講演, 弘前市医師会館, 2007.7.8 平成19年度第28回青森県地域婦人団体研修大会 テーマ: 幸せな人生, 幸せな地域づくりとは, 青森市民ホール, 2007.8.28 「生活習慣病について」, 第48回弘前市学校保健研究大会, 弘前市中央公民館岩木館, 2007.10.27 「壮年期の突然倒れる危ない病気」, 平成19年度つがる市健康づくり講座, つがる市生涯学習交流センター松の館, 2007.12.6 第51回セミナー医療と社会 基調講演, 国立病院機構弘前病院地域医療研修センター 2007.12.8	講 師	中路 重之	2007年12～ 2008年3月	28 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日
	黒石小学校スポーツ医学講習会 青森北高校スポーツ科学科スポーツ医学講習 青森県スポーツドクターの会スポーツ医学研修会 岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで)	講 師	梅田 孝	黒石市 青森市, 弘前市 弘前市 弘前市岩木地区 2007年12～2008年3月	
	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで) 「これだけは知っておきたいがんの話」講演会	講 師	松坂 方士	弘前市岩木地区 2007年12～2008年3月 青森市	32 日 1 日

07年度	岩木健康増進プロジェクト「運動・栄養教室」(2007年12月から2008年6月まで)	講 師	檀上 和真	弘前市岩木地区 2007年12～2008年3月	32日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県医師会産業医委員会	委 員	中路 重之		1日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委 員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会（成人病登録・評価部委員）	委 員 長			1日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	委 員			1日
	弘前大学医師会	理 事			1日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委 員			1日
	青森県スポーツドクターの会	理 事			1日
	青森産業保健推進センター	相 談 員			24日
	青森労働局	労働衛生指導医			1日
	青森県環境審議会	委 員			1日
	健康寿命アップ会議	議 長			2日
	弘前保健所運営協議会	委 員			1日
	青森県総合健診センター骨密度判定委員会	委 員			2日
	平成18年度糖尿病調査検討委員会	委 員			2日
	青森県がん医療検討委員会	委 員 長			2日
	青森県自殺対策連絡協議会	委 員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委 員			2日
	青森県医療機能調査検討委員会	委 員 長			2日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会	委 員	梅田 孝		3日
	青森県健康寿命アップ計画推進委員会	委 員			3日
07年度	青森県がん登録委員会	委 員	松坂 方士		1日
	青森県がん医療・施設調査委員会	委 員			2日
	三沢市立三沢病院院内がん登録相談 つがる市立成人病センター院内がん登録相談	委 員			10日 5日
	青森県医師会産業医委員会	委 員	中路 重之		1日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委 員			2日
	青森県成人病検診管理指導協議会（成人病登録・評価部委員）	委 員 長			1日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	委 員			1日
	弘前大学医師会	理 事			1日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委 員			1日
	青森県スポーツドクターの会	理 事			1日
	青森産業保健推進センター	相 談 員			24日
	青森労働局	労働衛生指導医			1日
	青森県環境審議会	委 員			1日
	健康寿命アップ会議	議 長			2日
	弘前保健所運営協議会	委 員			1日
	青森県総合健診センター骨密度判定委員会	委 員			2日
	平成19年度糖尿病調査検討委員会	委 員			2日
	青森県がん医療検討委員会	委 員 長			2日
	青森県自殺対策連絡協議会	委 員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委 員			2日
	青森県医療機能調査検討委員会	委 員 長			2日
	青森県調理師資格試験委員会	委 員	梅田 孝	青森市	3日
	独立行政法人日本学術振興会科学研究費審査委員会	委 員		弘前市	10日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会委員	委 員		弘前市	4日
	社団法人医療系大学間共用試験実施機構医学系 CBT 実施小委員会ブラッシュアップ専門部会	委 員		東京都	4日
	新健康ひろさき21策定委員会委員	委 員		弘前市	3日
	青森県がん医療・施設検討委員会	委 員	松坂 方士	青森市	1日
	総合的地域診断手法に係る研究検討委員会	委 員			2日
	青森県感染症発生動向企画委員会	委 員	高橋 一平		4日
	労働者健康福祉機構青森産業保健推進センター産業保健相談員	相 談 員			2日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与 (特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加, 技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	産学官金連携フェア「見てみて, 聞いてみて, 触ってみて, 弘前大学」	講 師	高橋 一平		1 日

(8) 医学部医学科以外での講義 (大学)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	秋田大学大学院講義	非常勤講師	中路 重之		1 日
	弘前学院大学講義				4 日
07年度	秋田大学大学院講義	非常勤講師	中路 重之		1 日
	弘前学院大学講義				3 日
	健康スポーツ医学 運動と健康の科学 (放送大学)	非常勤講師	梅田 孝		7 日 4 日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	三沢市立三沢病院：院内がん登録の目的と意義について	非常勤講師	中路 重之		1 日
	青森県自治体病院長会議：院内がん登録の目的と意義について				1 日
	つがる市立成人病センター：院内がん登録の目的と意義について				1 日
	心身医学懇話会：青森県下事業場におけるメンタルヘルスの実態				1 日
	東北地区産業医研修会：青森県下事業場におけるメンタルヘルス				1 日
	第12回社会医学サマーセミナー (秋田)：私の社会医学とのかかわり方				1 日
	青森県保健所長会議：青森県の地域がん登録について				1 日
	青森県産業医研修会				1 日
	安全衛生推進者養成講習会：健康の保持増進				1 日
	弘前大学ドリーム講義：食と健康 (明の星高校)				1 日
	黎明脳卒中センター講演：脳卒中の予防・疫学				1 日
	日本生命講演会：寿命と健康				1 日
	産業保健推進センター調査研究発表会：産業保健推進センター・県・医師会・事業場の連携による職域でのメンタルヘルス対策のシステム構築				1 日
	弘前中央公民館講義：青森県民の寿命について				1 日
	第22回日本ストレス学会学術集会：地方における職域のメンタルヘルス対策				1 日
	現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP) 発表会：地域医療型クリニカルクラークシップ教育				1 日
	産業医研修会：メンタルヘルス対策に参加してGP 東北シンポジウム：地域医療型クリニカルクラークシップ教育				1 日 1 日
07年度	労働衛生推進者講義	講 師	中路 重之		1 日
	平成19年度体機能及び体力測定実習 (青森北高等学校)	講 師	高橋 一平		1 日
	平成19年度第2学年体機能及び体力測定実習 (青森北高等学校)				1 日

(10) 学校医、種々の検(健)診活動への参加(学校での予防接種も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	岩木健康増進プロジェクト・成人健診	研究代表者	中路 重之		12日
	岩木健康増進プロジェクト・小中学生検診	研究代表者			4日
	岩木健康増進プロジェクト・成人健診	調 査 員	梅田 孝		12日
	岩木健康増進プロジェクト・小中学生検診	調 査 員			4日
07年度	岩木健康増進プロジェクト(弘前市岩木地区住民健診との共同)			弘前市	11日
	同(個別相談会)			弘前市	3日
	岩木健康増進プロジェクト(小中学校健康調査)	教 授	中路 重之	弘前市	5日
	同(報告会)			弘前市	2日
	岩木健康増進プロジェクト(健康実践教室)			弘前市	48日
	岩木健康増進プロジェクト(弘前市岩木地区住民健診との共同)			弘前市	11日
	同(個別相談会)			弘前市	3日
	岩木健康増進プロジェクト(小中学校健康調査)	教 授	中路 重之	弘前市	5日
	同(報告会)			弘前市	2日
	岩木健康増進プロジェクト(健康実践教室)			弘前市	48日
	岩木健康増進プロジェクト(弘前市岩木地区住民健診との共同)			弘前市	11日
	同(個別相談会)			弘前市	3日
	岩木健康増進プロジェクト(小中学校健康調査)	助 教	松坂 方士	弘前市	5日
	同(報告会)			弘前市	2日
	岩木健康増進プロジェクト(健康実践教室)			弘前市	48日
	岩木健康増進プロジェクト(弘前市岩木地区住民健診との共同)			弘前市	11日
	同(個別相談会)			弘前市	3日
	岩木健康増進プロジェクト(小中学校健康調査)	助 教	高橋 一平	弘前市	5日
	同(報告会)			弘前市	2日
	岩木健康増進プロジェクト(健康実践教室)			弘前市	48日

(11) 地域医療への貢献(弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	中路 重之	つがる市	48日
	弘前記念病院	非常勤スポーツ	梅田 孝	弘前市	48日
	なかざわスポーツクリニック	科学アドバイザー		八戸市	24日
	慈仁会尾野病院	非常勤医師	松坂 方士	五所川原市	20日
	佐々木胃腸科内科医院			青森市	40日
	光智会西大館病院			大館市	3日
	尚友会白戸胃腸科外科			五所川原市	10日
07年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	中路 重之	つがる市	48日
	弘前記念病院	非常勤スポーツ	梅田 孝	弘前市	48日
	なかざわスポーツクリニック	科学アドバイザー		八戸市	24日
	慈仁会尾野病院	非常勤医師	松坂 方士	五所川原市	20日
	佐々木胃腸科内科医院			青森市	40日
	光智会西大館病院			大館市	3日
	尚友会白戸胃腸科外科			五所川原市	10日
	慈仁会尾野病院	非常勤医師	高橋 一平	五所川原市	52日
	光智会西大館病院			大館市	20日
	尚友会白戸胃腸科外科			五所川原市	2日
	大館市立総合病院	非常勤医師	檀上 和真	大館市	25日

(12) 国際交流への貢献(姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など)

該当なし。

(13) その他(ボランティア、法医解剖、マスコミによる公表など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	朝日新聞コラム連載(弘前大学企画「がんの話」)		中路 重之	執筆	5日

07年度	むつ病院院内がん登録指導			むつ市	2日
	県立青森北高校スポーツ指導			弘前市	2日
	西北中央病院院内がん登録指導			五所川原市	1日
	国立弘前病院院内がん登録指導			弘前市	1日
	青森労災病院院内がん登録指導		松坂 方士	弘前市	1日
	八戸赤十字病院院内がん登録指導			八戸市	1日
	青森市民病院院内がん登録指導			青森市	1日
	朝日新聞コラム連載			執筆	4日
	弘前市岩木地区長会長会議健康指導			弘前市	1日

10. 法医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1. 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として、青森県警察本部、青森県各警察署・第2管区海上保安本部青森海上保安部、青森地方検察庁、陸上自衛隊警務部、海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応出来るよう努力する。
(100/100)
2. 医学と社会との接点・窓口として、地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。
(80/100)
3. 実りのある教育および地域社会への貢献。(80/100)

これから２年間の目標：

1. 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として、青森県警察本部、青森県各警察署・第2管区海上保安本部青森海上保安部、青森地方検察庁、陸上自衛隊警務部、海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応出来るよう努力する。
2. 青森県下で発生する死体検案業務に積極的に参加するとともに、本研究科の施行規則に従い、卒前・卒後教育に役立てる。
3. 医学と社会との接点・窓口として、地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。
4. 平日は勿論のこと、休日、夜間を問わず、警察などからの要請に応じて公平中立な立場で質の高い法医解剖を行い、公衆衛生の向上および治安の維持に貢献する。
5. 平日は勿論のこと、休日、夜間を問わず、警察などからの要請に応じて死体検案を行い、公衆衛生の向上および治安の維持に貢献する。
6. 札幌弁護士会の分科会である札幌医療事故問題研究会の研修に非常勤講師として参加し、医療事故の解決に向けた講義やアドバイスをを行うとともに、医療界と法曹界の橋渡し役を務める。
7. ヒロサキメディカルセンター、西大館病院に非常勤医師として勤務し、地域医療の実践を担い問題点の解決に取り組む。
8. 要請があれば、学外の法医学の教育にも積極的に参加する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本法医学会評議員	教 授	黒田 直人		1 日
07年度	日本法医学会評議員	教 授	黒田 直人	学会開催時	1 日
	日本病理学会学術評議員				1 日
	日本法医学会評議員	助 教	美作宗太郎	学会開催時	1 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	法医学の実際と研究編集委員	教 授	黒田 直人	英文審査	2 日
07年度	「法医学の実際と研究」編集員	教 授	黒田 直人	10件	5 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学医学部公開講座	教 授	黒田 直人	司会	1 日
07年度	札幌弁護士会医療事故問題研究会研修	助 教	美作宗太郎		3 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	21世紀教育（基礎ゼミナール）	教 授	黒田 直人		15日
	21世紀教育（基礎ゼミナール）	講 師	北 武		15日
	21世紀教育（テーマ科目）				3日
07年度	青森県消防学校講義	教 授	黒田 直人	県消防学校	1日
	青森県警察学校講義			県警察学校	1日
	青森地方検察庁司法修習生講義			青森地検	1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県警察学校	教 授	黒田 直人	警察官	1日
	青森県消防学校			救急救命士	1日
	青森地方検察庁			司法修習生	1日

(10) 学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	ヒロサキメディカルセンター 西大館病院	助 教	美作宗太郎		週 1 月 1

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医学解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	司法解剖	教 授	黒田 直人	93例	93日
	死体検案			2例	2日
	司法解剖の血液型検査	講 師	北 武	93例	93日
	司法解剖補助 東奥日報 『腐敗遺体の血液型』			80例 2006/7/3	80日 1日
07年度	法医学解剖執刀	教 授	黒田 直人	執刀・補助・記録 および検査等	200日
	死体検案業務			学外において実施	10日
	法医学解剖	助 教	美作宗太郎	執刀・補助・記録 および検査等	114日

11. 消化器血液内科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 消化器病，血液病，膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し，関連施設への情報提供を行い，地域医療のレベルアップを図る。
→紹介率が向上したが，病診連携，病病連携が十分に機能していない（到達度：70%）
2. 医師，コメディカル，一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う。
→（到達度：80%）
3. 青森県民の健康増進のための公益事業に積極的に関与し，平均寿命の延長に貢献する。
→検診事業への協力，市民公開講座等での講演を行った（到達度：80%）

これから2年間の目標：

1. 消化器病，血液病，膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し，関連施設への情報提供を行い，地域医療のレベルアップを図る。
2. 医師，コメディカル，一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う。
3. 健康増進のための公益事業に積極的に関与し，平均寿命の改善に貢献する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 1，講師 3，助手 5，医員 6，大学院学生 9，研究生 5
07年度		教授 1，准教授 1，講師 2，助教 6，助手 0，医員 6，大学院学生 7，研究生 5

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本消化器病学会	理 事	棟方 昭博		4 日
	日本大腸肛門病学会	理 事			3 日
	日本消化器免疫学会	理 事			1 日
	大腸癌研究会	幹 事			1 日
	日本大腸検査学会	理 事			1 日
	日本内科学会	評 議 員			1 日
	日本消化器内視鏡学会東北セミナー プログラム委員会	委 員	福田 眞作	仙台市	1 日
	日本消化器内視鏡学会専門医制度 東北支部認定審査会	指導施設認定委員		盛岡市	1 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員		仙台市	2 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員		仙台市	2 日
	日本消化器内視鏡学会 専門医試験委員会 問題作成小委員会	委 員		東京都	1 日
	日本消化器病学会	評 議 員		北九州市，札幌市	2日，2日
	日本消化器内視鏡学会	評 議 員		東京都，札幌市	2日，2日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員	坂本 十一	仙台市	2 日
	東北臨床腫瘍研究会	世 話 人	伊東 重豪		2 日
	青森悪性リンパ腫研究会	世 話 人			2 日
	日本消化吸収学会	評 議 員	下山 克		2 日
	日本ヘリコバクター学会	評 議 員			2 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員			1 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員			1 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員	三上 達也	仙台市	1 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員		仙台市	1 日
07年度	日本消化器内視鏡学会 東北セミナー プログラム委員会	委 員 長	福田 眞作	弘前	1 日
	日本消化器内視鏡学会 専門医制度 東北支部認定審査会	支 部 委 員		盛岡	1 日
	日本消化器内視鏡学会 専門医制度 中央審議会	支 部 委 員		東京	1 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員		弘前，仙台	1日，1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員		弘前，仙台	1日，1日

07年度	日本消化器内視鏡学会 専門医試験委員会 問題作成小委員会	委 員	福田 眞作	東京	1 日
	日本消化器病学会	評 議 員		福岡, 神戸	1日, 1日
	日本消化器内視鏡学会	評 議 員		横浜, 神戸	1日, 1日
	PEG-IFN α -2a 安全性情報検討会 世話人会	世 話 人	坂本 十一	弘前	1 日
	第10回青森県肝癌研究会 世話人会	世 話 人		弘前	1 日
	第8回青森21世紀の栄養療法を考える会 世話人幹事会	幹 事		青森	1 日
	第9回東北肝炎・肝癌研究会 世話人・幹事会	幹 事		盛岡	1 日
	東北ウイルス肝炎治療研究会 世話人会	幹 事		盛岡	1 日
	第35回青森県肝胆膵研究会 世話人幹事会	幹 事		青森	1 日
	平成19年度共用試験医学系 OSCE 評価者認定講習会			東京	1 日
	第10回青森膵疾患研究会 世話人会幹事会	幹 事		青森	1 日
	第184回日本消化器病学会東北支部	評 議 員		仙台	1 日
	第23回青森県肝疾患研究会 世話人会	世 話 人		弘前	1 日
	東北臨床腫瘍研究会	世 話 人	伊東 重豪		2 日
	東北血液フォーラム	世 話 人			2 日
	青森悪性リンパ腫研究会	世 話 人			2 日
	日本消化吸収学会	評 議 員	下山 克		1 日
	日本ヘリコバクター学会	学会総務委員			2 日
	日本消化器病学会	評 議 員		弘前, 仙台	1日, 1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員	山形 和史	弘前, 仙台	1日, 1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員	三上 達也	仙台	1 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員		弘前, 仙台	1日, 1日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員	吉村 徹郎	弘前	1 日
	日本心身医学会	代 議 員	佐藤 研	福岡, 青森	3日, 2日
	日本心療内科学会	広 報 委 員		大阪	1 日
	消化器心身医学会	幹 事		青森	1 日
	青森心身医学懇話会	世 話 人		青森	1 日
	青森こころのケア研究会	世 話 人		弘前	1 日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第65回大腸癌研究会	会 長	棟方 昭博	弘前市	1 日
	第43回日本消化器免疫学会総会	会 長		弘前市	2 日
	第61回日本大腸肛門病学会総会	会 長		弘前市	2 日
07年度	第93回日本消化器病学会総会	事 務 局 長	福田 眞作	青森	5 日
	第140回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	会 長		仙台	1 日
	第65回日本心身医学会東北地方会	事 務 局 長	佐藤 研	青森	1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	臨牀消化器内科	編 集 員	棟方 昭博	東京都	8 日
	World Journal of Gastroenterology	編 集 員	下山 克		10日
	Helicobacter Research	編 集 員			3 日
07年度	World Journal of Gastroenterology	編 集 員	下山 克		10日
	Helicobacter Research	編 集 員			3 日
	Journal of Gastroenterology	査 読 員			5 日
	Clinical Drug Investigation	査 読 員	高畑 武功		1 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本肝臓学会 市民公開講座	講 師	坂本 十一		1 日
	医療トピックス勉強会	講 師			1 日
	日本肝臓学会 市民公開講座	司 会	遠藤 哲		1 日
	つがる市健康づくり講座	講 師	三上 達也	つがる市	1 日

07年度	弘大病院がん診療市民公開講座（切るがんと切らないがん～胃がん）	講 師	福田 眞作	弘前市	1 日
	弘前大学公開講座（わかりやすいピロリ菌と胃の病気）			青森市	1 日
	市民公開講座（ピロリ菌と胃の病気）			弘前市（岩木町）	1 日
	大腸がん撲滅キャンペーン「大腸がんの早期発見・早期治療に向けて～検診・検査・治療の最前線」			青森市	1 日
	日本肝臓学会市民公開講座	講 師	坂本 十一 遠藤 哲	弘前市	1 日
	弘前大学総合文化祭	展 示 者	坂本 十一	弘前大学	1 日
	市民公開講座『骨髄移植を知ろう』	講 師	伊東 重豪		1 日
	市民公開講座	講 師	三上 達也	弘前市	1 日
	青森県医師会県民公開講座			青森市	1 日
	生活習慣病等集団検診従事者研修会			青森市	1 日
	大腸がん検診従事者指導講習会			青森市	1 日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県社会福祉審議会	委 員	棟方 昭博		2 日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委 員			2 日
	青森県成人病検診管理指導協議会胃がん部会	委 員 長			2 日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会	委 員 長			1 日
	青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	委 員 長			2 日
	青森県総合健診センター	理 事			2 日
	青森県地域保健医療対策協議会	委 員			1 日
	日本学術振興会科学研究費委員会	委 員			1 日
	青森県国民健康保険診療報酬審査会	委 員	福田 眞作		3 回／月
	青森県感染症診査協議会委員	講 師	坂本 十一		1 日
07年度	大腸がん検診指導管理委員会	委 員	三上 達也	青森市	2 日
	青森県国民健康保険診療報酬審査会	委 員	福田 眞作	～7月31日	3 回／月
	青森県総合健診センター	理 事		9月1日～	1 日／年
	青森県社会福祉審議会	委 員		9月1日～	2 日／年
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委 員		平成20年2月4日～	1 日／年
	青森県感染症診査協議会	委 員	坂本 十一		1 日
	青森県肝炎治療特別促進事業審査会	委 員			2 日
	胃がん検診読影委員会	委 員	下山 克	青森県総合健診センター	15 日
			遠藤 哲 三上 達也 吉村 徹郎	青森県総合健診センター	1 日
	大腸がん検診指導管理委員会	委 員	三上 達也	青森市	2 日

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	副主任学校医 (弘前大学保健管理センター)	学 校 医	棟方 昭博	弘前市	3 日
	弘前大学附属小・中学校	学 校 医	下山 克		3 日
07年度	弘前大学附属小・中学校	学 校 医	下山 克		3 日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	町立大鰐病院（検査業務）	非常勤医師	福田 眞作		50日
	公立七戸病院	非常勤医師	坂本 十一		52日
	公立七戸病院	非常勤医師	伊東 重豪		50日
	青森県総合検診センター	読 影 委 員	下山 克		17日
	鶴田町立病院	嘱 託 医 師			28日
	陸上自衛隊弘前駐屯地	嘱 託 医 師			60日
	弘前市立病院	非常勤医師	山形 和史		50日
	大館市立病院	非常勤医師	遠藤 哲		48日
	つがる市立成人病センター	非常勤医師	三上 達也		50日
	公立米内沢病院	非常勤医師	吉村 徹郎		24日
	金木病院	非常勤医師			23日
07年度	町立大鰐病院（検査業務）	非常勤医師	福田 眞作		50日
	公立七戸病院（内科）	非常勤医師	坂本 十一		50日
	公立七戸病院（内科）	非常勤医師	伊東 重豪		50日
	鶴田町立病院	嘱 託 医 師	下山 克		25日
	陸上自衛隊弘前駐屯地	嘱 託 医 師			60日
	弘前市立病院（内科）	非常勤医師	山形 和史		50日
	青森市立浪岡病院（内科）	非常勤医師	遠藤 哲		48日
	つがる市立成人病センター（内科）	非常勤医師	三上 達也		50日
	大館市立総合病院（内科）	非常勤医師	高畑 武功		50日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	吉村 徹郎		44日
	公立七戸病院	非常勤医師	佐藤 研		50日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

社会貢献と弘前大学の知名度を高めるためにも、多くの学会の理事を拝命し、弘前大学医学部のレベル向上と医療の質改善により社会貢献を行う。 90%

学外役員として学会の運営に積極的に参加する。 90%

呼吸器疾患、腎臓疾患の啓蒙を医師、市民に講演会、市民講座を通じて行う。 90%

県の肺癌、結核のサーベイランス、対策に積極的に参加する。 90%

これから2年間の目標：

救急医療 BLS、ACLS の普及に努める。

積極的な禁煙活動に取り組む。

青森県の成人病予防に積極的に取り組む。

学外役員として学会の運営に積極的に参加する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 2, 講師 2, 助手 5, 医員 5, 大学院学生 15, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 2, 講師 2, 助教 6, 助手 0, 医員 4, 大学院学生 14, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本内科学会	評 議 員	奥村 謙	横浜	1 日
	日本循環器学会	理 事		神戸	1 日
	日本心臓病学会	評 議 員		鹿児島	1 日
	日本不整脈学会	理 事		東京	1 日
	日本心電学会	理 事		東京	1 日
	日本高血圧学会	評 議 員	長内 智宏	福岡	1 日
	日本呼吸器学会	代 議 員	高梨 信吾	東京	2 日
	日本結核病学会	代 議 員		仙台	1 日
	日本アレルギー協会	評 議 員		東京	1 日
	循環器救急医療委員会	委 員	花田 裕之		14 日
07年度	日本内科学会	評 議 員	奥村 謙	大阪	1 日
	日本循環器学会	理 事		福岡	1 日
	日本心臓病学会	評 議 員		東京	1 日
	日本不整脈学会	理 事		広島	1 日
	日本心電学会	理 事		名古屋	1 日
	日本高血圧学会	評 議 員	長内 智宏	沖縄	1 日
	日本循環器学会	評 議 員		福岡	1 日
	日本呼吸器学会	代 議 員	高梨 信吾		1 日
	同	用語委員			1 日
	同	倫理委員			2 日
	日本結核病学会	評 議 員			1 日
	同	用語委員			1 日
	日本アレルギー協会	評 議 員			1 日
	日本循環器学会 心肺蘇生法委員会	委 員	花田 裕之		10 日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本呼吸器学会東北地方会	会 長	高梨 信吾	八戸市	1 日
	日本呼吸器学会東北地方会		藤本 幸士	八戸市	1 日
07年度	日本不整脈学会カテーテル・アブレーション関連 秋期大会2007	会 長	奥村 謙	青森市	3 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Heart and Vessels	編 集 委 員	奥村 謙		1 日
	Internal Medicine	編 集 委 員			1 日
	Circulation Journal	編 集 委 員			3 日
	International Heart Journal	編 集 委 員			1 日
	American Heart Journal	査 読 員			1 日
	Autonomic Neuroscience	査 読 員			1 日
	JACC	査 読 員			1 日
	日本心電図学会誌	査 読 員			1 日
	Hypertension Research	査 読 員	長内 智宏		3 日
	Peptides	査 読 員			1 日
07年度	Circ Journal	査 読 員			1 日
	Renal Failure	査 読 員			2 日
	日本呼吸器学会雑誌	査 読 員	高梨 信吾		1 日
	Respirology	査 読 員			1 日
	Allergy International	査 読 員			1 日
	Internal Medicine	査 読 員	花田 裕之		2 日
	Heart and Vessels	編 集 委 員	奥村 謙		1 日
	Internal Medicine	編 集 委 員			1 日
	Circulation Journal	編 集 委 員			3 日
	International Heart Journal	編 集 委 員			1 日
	American Heart Journal	査 読 員			1 日
	Autonomic Neuroscience	査 読 員			1 日
	JACC	査 読 員			1 日
	日本心電図学会誌	査 読 員			1 日
07年度	Hypertension Research	査 読 員	長内 智宏		4 日
	Tohoku J Exp Med	査 読 員			1 日
	日本呼吸器学会雑誌	査 読 員	高梨 信吾		1 日
	Allergy International	査 読 員			1 日
	Internal Medicine	査 読 員	花田 裕之		2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	呼吸器疾患の一般向け講演（テレビ）	講 師	高梨 信吾	RAB 放送（4 回）	1 日
	救急救命講習会（AHA BLS と ACLS）	インストラクター	花田 裕之		50 日
	救急救命講習会（AHA BLS と ACLS）	インストラクター	樋熊 拓未		10 日
07年度	1. 健康・医療講演会 沈黙の殺人者・高血圧の予防と治療	准 教 授	長内 智宏		1 日
	2. 健康・医療講演会 危険な心臓病の予防・管理				1 日
	市民公開講座開催	会 長	高梨 信吾		1 日
	救急救命講習会（AHA BLS と ACLS）	ファカルティ	花田 裕之		50 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	県社会福祉審議会	委 員	奥村 謙	青森	2 日
	県総合検診センター	委 員		青森	2 日
	基本健康診査等判定検討委員会	委 員		青森	2 日
	県総合検診センター肺がん検診読影委員会	委 員		青森	2 日
	県生活習慣病検診管理指導協議会	委 員		青森	2 日
	県総合検診センター	理 事		青森	2 日
	青森県成人検診管理指導協議会	委 員	長内 智宏	青森	1 日
	青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	委 員		青森	36 日
	地方じん肺審査会	委 員	高梨 信吾	弘前	12 日
	青森県肺癌検診読影委員	委 員		青森	12 日
	青森県結核サーベイランス委員会	委 員		青森	1 日
	スポーツ医学委員	委 員	花田 裕之	青森	3 日
	青森県急性心筋梗塞対策協議会	委 員		青森	2 日
	青森県肺癌検診読影委員	委 員	藤本 幸士	青森	10 日

07年度	県社会福祉審議会	委員	奥村 謙		2日
	県総合検診センター基本健康診査等判定検討委員会	委員			2日
	県総合検診センター肺がん検診読影委員会	委員			2日
	県生活習慣病検診管理指導協議会	委員			2日
	県総合検診センター	理事			2日
	青森県成人検診管理指導協議会	委員	長内 智宏	青森	1日
	青森県社会保険診療報酬請求書審査委員会	委員		青森	60日
	地方じん肺審査会	委員	高梨 信吾	弘前	12日
	青森県肺癌検診読影委員	委員		青森	12日
	青森県結核サーベイランス委員会	委員		青森	1日
	スポーツ医学委員会	委員	花田 裕之	弘前医師会	3日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立保健大学	教授	奥村 謙		3日
	青森県立保健大学	講師	花田 裕之		2日
07年度	保健学科看護 心肺蘇生法の科学と実践	講師	花田 裕之		0.5日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	青森県立保健大学 救急認定看護師 循環器病集中講義	講師	花田 裕之		2日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	保健管理センター学校医	教授	奥村 謙		48日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村 謙		19日
	弘前脳卒中センター	研究指導医	奥村 謙		19日
	黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師	長内 智宏		48日
	国保黒石病院	非常勤医師	高梨 信吾		48日
	板柳町立中央病院	非常勤医師	花田 裕之		56日
	弘前小野病院	非常勤医師	中村 典雄		180日
	青森市立浪岡病院	非常勤医師	佐々木真吾		36日
	藤崎病院	非常勤医師	佐々木真吾		4日
		非常勤医師	樋熊 拓未		3日
	平川病院	非常勤医師	佐々木真吾		8日
		非常勤医師	樋熊 拓未		5日
		非常勤医師	横山 仁		8日
	福士病院	非常勤医師	佐々木真吾		2日
		非常勤医師	樋熊 拓未		5日
		非常勤医師	横山 仁		5日
	鳴海病院	非常勤医師	樋熊 拓未		56日
	西北中央病院	非常勤医師	藤本 幸士		50日
	町立大鰐病院	非常勤医師	横山 仁		48日
07年度	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村 謙		19日
	弘前脳卒中センター	研究指導医	奥村 謙		19日
		非常勤医師	長内 智宏		48日

07年度	国保黒石病院	医 師 医 師 医 師 医 師	高梨 信吾 及川 広一 樋熊 拓未 大和田真玄		48日 4日 50日 40日
	板柳町立中央病院	医 師	花田 裕之		56日
	弘前小野病院	医 師	中村 典雄		180日
	浪岡病院	医 師	佐々木真吾		49日
	福士病院	医 師 医 師 医 師	佐々木真吾 及川 広一 大和田真玄		1日 3日 2日
	白生会病院	医 師	及川 広一		50日
	藤崎病院	医 師 医 師 医 師	佐々木真吾 及川 広一 大和田真玄		7日 3日 4日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	アップルマラソン 医療班	講 師	花田 裕之		1日

13. 内分泌代謝内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

80%

これから２年間の目標：

青森県内における糖尿病診療連携ネットワークを構築する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 4, 助手 4, 医員 15, 大学院学生 8, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 4, 助教 4, 助手 0, 医員 15, 大学院学生 8, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本内科学会内科認定医制度審議会	委 員	須田 俊宏	東京	2日
	日本内分泌学会	理 事 長		東京, 京都	3日
	同上 卒後教育委員会	委 員			2日
	神経内分泌学会	理 事 長		横浜	2日
	日本内科学会（東北地方支部）	評 議 員	玉澤 直樹	仙台	2日
	日本動脈硬化学会	評 議 員		大阪	1日
	日本糖尿病学会	学術評議員	小川 吉司	東京	2日
	北奥羽糖尿病教育担当者セミナー	事務局責任者	松井 淳		1日
	青森臨床糖尿病研究会	事務局責任者			1日
	青森県糖尿病週間	幹 事			1日
07年度	日本消化吸収学会	評 議 員	丹藤 雄介		4日
	日本消化器関連学会機構	総 務 委 員			8日
	日本病態栄養学会	評 議 員			1日
	日本内分泌学会	評 議 員	蔭山 和則		3日
	日本内科学会	理 事	須田 俊宏		4日
	日本内分泌学会	理 事			3日
	日本神経内分泌学会	理 事 長			3日
	日本間脳下垂体腫瘍学会	理 事			1日
	日本糖尿病学会東北支部例会評議会		松井 淳		1日
	奥羽糖尿病担当者セミナー幹事会				1日
	青森臨床糖尿病研究会幹事会				1日
	日本消化吸収学会	評 議 員	丹藤 雄介		4日
	日本病態栄養学会	評 議 員			1日
	日本内分泌学会	評 議 員	蔭山 和則		3日
	日本内分泌学会代議員	代 議 員	二川原 健		1日
	日本消化吸収学会学術総会	評 議 員	柳町 幸		3日

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本消化吸収学会	プログラム委員	丹藤 雄介		2日
07年度	第17回日本間脳下垂体腫瘍学会	副 会 長	須田 俊宏		2日
	第81回日本内分泌学会総会	プログラム委員	蔭山 和則		5日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本内科学会 Internal Medicine 米国内分泌学会 Endocrinology J Clin Endocr Metab 日本内分泌学会 Endocrine Journal Peptides	編 集 委 員	須田 俊宏		

07年度	日本糖尿病学会 編集委員	講 師	小川 吉司	東京	6日
	Internal Medicine	査 読	蔭山 和則		3日
	Endocrinology	レフェリー	須田 俊宏		2日
	Endocrine J	編 集 委 員			2日
	J. Clinical Endocrinol. Metab.	レフェリー			2日
	Internal Medicine	査 読			6日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	糖尿病週間講演会	委 員	須田 俊宏		1日
	1) 平成18年度医学科公開講座	講 師	小川 吉司		2日
	2) 平成18年度青森県栄養士生涯学習研修会				
	青森県栄養士会平成18年度生涯学習研修会	講 師	松井 淳		1日
07年度	弘前市保健センター健康講座				1日
	弘前大学医学部医学科「健康・医療講演会」				1日
	糖尿病週間講演会	世 話 人	須田 俊宏		1日
	第4回弘友研究会		松井 淳		1日
	第3回八戸糖尿病カンファランス				1日
	むつ総合病院研修医勉強会				1日
	青森県栄養士会保健指導実践者育成研修会				1日
	北東北支配人研修会				1日
	下北・上十三地区糖尿病療養指導研究会				1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本学術振興会科学研究費委員会	専 門 委 員	須田 俊宏		
	青森県糖尿病対策推進会議	委 員			
	青森県糖尿病調査委員会	委 員			
07年度	青森県医療計画部会	委 員	須田 俊宏		2日
	青森県糖尿病対策連絡会議	議 長			2日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	感染対策研修会 青森県における新型インフルエンザの取り組み案について	准 教 授	玉澤 直樹		1

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県病院栄養士会	講 師	丹藤 雄介		3日
07年度	糖尿病を専門としない医師を対象とした糖尿病医療研修会	講 師	玉澤 直樹		1
	青森県病院栄養士会	講 師	丹藤 雄介		2日
	医療トピックス研究会	講 師	二川原 健		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	板柳中央病院内科外来診療	医師	須田 俊宏		週1回
	感染症対策研修会 鰯ヶ沢病院	准 教 授 非常勤医師	玉澤 直樹		1日 週1回
	1) 厚生会 渡辺病院 2) 本荘第一病院 3) 鷹揚郷青森病院 4) 鷹揚郷弘前病院	非常勤医師	小川 吉司	週1回 月1回 月1回 月1回	計 76日
	厚生会渡辺病院 青嵐会本荘第一病院	非常勤医師	松井 淳		週1回 月1回
	弘前記念病院 白生会胃腸病院	非常勤医師	丹藤 雄介		24日 48日
	北秋中央病院 むつ中央病院	医 師	蔭山 和則		週1回 月1回
07 年度	板柳中央病院	内 科 医	須田 俊宏		週1回
	板柳中央病院	内 科 医	玉澤 直樹		週1回
	厚生会渡辺病院 鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	松井 淳		週1日 月2日
	弘前記念病院 白生会胃腸病院 むつ総合病院	非常勤医師	丹藤 雄介		12日 43日 12日
	弘前小野病院 むつ総合病院	非常勤医師	蔭山 和則		週1回 月1回
	むつ総合病院 野辺地病院	非常勤医師	二川原 健		週1回 週1回
	板柳中央病院 鰯ヶ沢中央病院 本荘第一病院 むつ総合病院	非常勤医師	柳町 幸		12日 24日 6日 9日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

14. 老年科学講座 (資料なし)

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

これから2年間の目標:

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

(2) 学会などの開催

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

(7) 産学共同事業への参加, 技術移転・相談

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加(学校での予防接種も含む)

(11) 地域医療への貢献(弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

(12) 国際交流への貢献(姉妹校での活動, 国際協力事業団の活動など)

(13) その他(ボランティア, 法医解剖, マスコミによる公表など)

15. 腫瘍内科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

地域医療の支援を行う

講演会等を通じて市民にがんに対する意識の向上を図る

【研究人員】

07年度 研究人員 教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	日本肺癌学会	学 術 委 員	西條康夫		2日
	日本肺癌学会	化学療法委員			1日
	日本臨床腫瘍学会	施設認定委員			1日
	日本臨床腫瘍学会	選挙管理委員			1日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	Blood	査 読	西條 康夫		1日
	Stem cells				1日
	Cancer Science				1日
	Intern Med				1日
	呼吸器学会雑誌				1日
	肺癌				1日
	Clinical Drug Investigation 誌論文査読	査 読	高畑 武功		1日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	市民公開講座『骨髄移植を知ろう』	講 師	伊東 重豪		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	古川星陵病院外来	非常勤医師	西條 康夫		5日
	公立七戸病院	非常勤医師	伊東 重豪		50日
	大館市立病院	非常勤医師	高畑 武功		50日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	東北臨床腫瘍研究会	世 話 人	伊東 重豪		2日
	東北血液フォーラム				2日
	青森悪性リンパ腫研究会				2日

16. 神経精神医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ達成した。

これから２年間の目標：

地域に於ける精神科医療の回復へ向けて努力する。

県立つくしが丘病院に於ける児童・思春期病棟立ち上げへの協力。

学会および国や地方自治体の事業に対し、貢献する。

地域医療へ、週一回３時間の頻度で貢献する。

年に一回以上、地域の医師へ診療技能を講演する。

今後も地域医療の維持並びに発展のために教育・診療・診査などを継続していく。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 3, 助手 4, 医員 1, 大学院学生 5, 研究生 6
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 1, 大学院学生 5, 研究生 6

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本精神神経学会	評 議 員	兼子 直	東京	1日
	日本てんかん学会	理 事		東京・大阪	5日
	日本精神神経薬理学会	評 議 員		東京	1日
	日本臨床神経精神薬理学会	理 事 長		東京	3日
	日本行動遺伝学会理事	理 事		東京	1日
	日本総合病院精神医学会	評 議 員		東京	1日
	日本小児神経学会	会 員		東京	1日
	英国薬理学会	会 員			
	日本アルコール医学会	理 事		東京	1日
	日本精神科診断学会	評 議 員		東京	1日
	日本生物学的精神医学会	会 員		東京	1日
	日本統合失調症学会	理 事		東京	1日
	日本神経伝達物質研究会	世 話 人		東京	1日
	日本臨床神経生理学学会	評 議 員	矢部 博興	東京	1日
	日本臨床神経生理学学会	広 報 委 員		東京	1日
07年度	日本臨床神経生理学学会	評 議 員	古郡 規雄	東京	1日
	日本臨床神経生理学学会	評 議 員		東京	1日
	日本臨床精神神経薬理学会	事 務 局 長	古郡 規雄	北九州	3日
	日本統合失調症学会	評 議 員		富山	2日
	日本精神神経学会	評 議 員	兼子 直	東京	1日
	日本てんかん学会	理 事		東京・大阪	5日
	日本精神神経薬理学会	評 議 員		東京	1日
	日本臨床神経精神薬理学会	理 事 長		東京	3日
	日本行動遺伝学会理事	理 事		東京	1日
	日本総合病院精神医学会	理 事		東京	1日
	日本小児神経学会	評 議 員		東京	1日
	英国薬理学会	会 員		東京	1日
	日本アルコール医学会	理 事		東京	1日
	日本精神科診断学会	理 事		東京	1日
	日本生物学的精神医学会	会 員		東京	1日
	日本臨床精神神経薬理学会	事 務 局 長	古郡 規雄	大阪	3日
	日本統合失調症学会	評 議 員		東京	2日
	日本精神科診断学会	評 議 員		徳島	2日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第39回～43回精神科治療研究会	会 長	兼子 直	弘前市	各1
07年度	第44回～48回精神科治療研究会	会 長	兼子 直	青森市	各1

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Tohoku Journal of Experimental Medicine	編 集 委 員	兼子 直		6日
	Psychiatry & Clinical Neurosciences	Advisory Editor			4日
	弘前医学	編 集 委 員			3日
	精神医学	編 集 同 人			
	臨床精神医学	編 集 同 人			1日
	最新精神医学	編 集 同 人			
	分子精神医学	編 集 同 人			1日
	脳21	編集協力者			5日
	臨床精神薬理	編集協力者			2日
	Epilepsia	査 読			3日
	Epilepsy Res	査 読			3日
	Reproductive Toxicology	査 読			3日
	Lancet	査 読			3日
	Lancet Neurology	査 読			3日
	Pharmacogenomics	査 読			3日
	Neuroscience Res	査 読			3日
	Biological Psychology (Elsevier)	Associate Editor	矢部 博興	約20件 約2件	
	日本臨床神経生理学会	編 集 委 員			
07年度	Neuroscience and clinical psychiatry	査 読 員	古郡 規雄		3日
	Neuroscience and clinical psychiatry				3日
	Neuroscience and clinical psychiatry				3日
	Neuroscience and clinical psychiatry				3日
	Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry				3日
	Journal of Chromatography B				3日
	Tohoku Journal of Experimental Medicine	編 集 委 員	兼子 直		6日
	Psychiatry & Clinical Neurosciences	Advisory editor			4日
	精神医学	編 集 同 人			
	臨床精神医学	編 集 同 人			1日
	最新精神医学	編 集 同 人			
	分子精神医学	編 集 同 人			1日
	脳21	編集協力者			3日
	臨床精神薬理	編集協力者			2日
	Epilepsia	査 読			2日
	Epilepsy Res	査 読			3日
	Reproductive Toxicology	査 読			1日
	Lancet	査 読			2日
	Lancet Neurology	査 読			1日
	Pharmacogenomics	査 読			1日
	Neuroscience Res	査 読			1日
	Neuroscience & Clinical Psychiatry	査 読 員	古郡 規雄		12日
	Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry				9日
	Journal of Chromatography B				3日
	The Journal of Physiological Sciences	査 読	松岡 貴志		42日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役 職	氏 名	備 考	日数			
06年度	東北電力(株) (メンタルヘルス)	非常勤医師	兼子 直					
	てんかん治療研究振興財団	評 議 員						
	グラクソ・スミスクライン(株)	治験調整委員						
	大塚製薬(株)仙台支店	座 長						
	ファイザー(株)	講 師						
	宮城県鵬桜会	講 師						
	青森市精神医会	講 師						
	第4回弘前市民公開講座「こころの健康教室」	総 合 司 会						
	第16回日本臨床精神神経薬理学会ランチョンセミナー	講 師						
	国立成育医療センター・妊娠と薬報センター	講 師						
第4回日本不安・抑うつネットワーク研究会	講 師	兼子 直						
ファイザー(株)「ガバペン®発売記念TVシンポジウム」	講 師							
第6回アジアオセアニアてんかん学会サテライトシンポジウム	講 師							
第43回精神科治療研究会	座 長							
第19回日本総合病院精神医学ランチョンセミナー	座 長							
介護労働講習 (訪問介護員養成研修2級課程)	講 師				矢部 博興	介護士養成		
07年度	東北電力(株) (メンタルヘルス)				産 業 医	兼子 直		12日
	てんかん治療研究振興財団				評 議 員			1日
	グラクソ・スミスクライン(株)				治験調整委員			
	大塚製薬(株)仙台支店				座 長			1日
	ファイザー(株)	講 師	1日					
	青森市精神医会	講 師	1日					
	2007弘前市民公開講座「こころの健康教室」	総 合 司 会	1日					
	(慶応義塾大学)慶応賞選考会	選 考 委 員	1日					
	第22回札幌神経科学研究会	講 師	1日					
	(財)先進医薬研究振興財団	選 考 委 員	1日					
	第2回北東北精神科治療技法セミナー	座 長	1日					
	第45回精神科治療研究会	座 長	1日					
	学術講演会「デバケンのより良い使い方を求めて」	座 長	1日					
	座談会(株)メディカルトリビューン	講 師	1日					
	北海道精神科医会学術講演会	講 師	1日					
	TOPIRAMATE, Top Experts Semina	講 師	1日					
	エビファイ発売1周年記念講演会	講 師	1日					
	新規てんかん薬 “ガバペン”	講 師	1日					
	座談会 精神科医および一般臨床医向け配布用冊子	講 師	1日					
	第42回(財)日本脳神経外科学会東北支部会ランチョンセミナー	講 師	1日					
	第17回日本臨床精神神経薬理学会ランチョンセミナー	講 師	1日					
	第41回日本てんかん学会ランチョンセミナー	講 師	1日					
	第20回日本総合病院精神医学会ランチョンセミナー	講 師	1日					
	第3回日本てんかん学会近畿地方会ポストミーティングセミナー	講 師	1日					
	西北五精神科医会	講 師	1日					
	第47回精神科治療研究会	座 長	1日					
	日本てんかん学会東北地方会	講 師	1日					
	International CME on Emerging Tenda Management of Epilepsy	講 師	1日					
	トピナ発売記念講演会	講 師	1日					
第29回栃木てんかん研究会	講 師	1日						

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	科学研究費委員会	専 門 委 員	兼子 直		7日
	青森県公安委員	専 門 委 員			1日
	青森県精神医療審査委員会	委 員			6日
	労働福祉事業団青森産業保健推進センター	産業保健相談員			6日
	津軽地域保健医療推進協議会	委 員			2日
	弘前市中心身障害児就学指導委員会	専 門 員			10日
	青森県精神保健福祉審議会	会 長			3日
	青森県自殺対策連絡協議会	会 長			1日
	青森県警察本部交通部	専 門 医 師			2日
	津軽広域連合介護認定審査会	分 会 長	矢部 博興		
07年度	学校職員精神性疾患休職等審査会委員	委 員			
	青森県精神医療審査会	委 員			
	青森県公安委員会「運転適性検査」	指 定 医 生			
	弘前市学校保健指導	相 談 員			
	社会保険診療報酬請求書審査委員会	審 査 員	古郡 規雄		40日
	介護認定審査会審査委員	助 手	松岡 貴志	弘前市	約15日
07年度	科学研究費委員会	専 門 委 員	兼子 直		7日
	青森県公安委員	専 門 委 員			1日
	青森県精神医療審査委員会	委 員			6日
	労働福祉事業団青森産業保健推進センター	産業保健相談員			6日
	津軽地域保健医療推進協議会	委 員			2日
	弘前市中心身障害児就学指導委員会	専 門 員			10日
	青森県精神保健福祉審議会	会 長			3日
	青森県自殺対策連絡協議会	会 長			1日
	青森県警察本部交通部	専 門 医 師			2日
	黒石市国保健康保険黒石病院	非常勤医師			48日
07年度	社会保険診療報酬請求書審査委員会	審 査 員	古郡 規雄		40日
	学術振興会科学研究費審査会	審 査 員			7日
	介護認定審査会	審 査 委 員	松岡 貴志	弘前市	15日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	◇ 良性家族性新生児けいれん関連遺伝子変異と 良性家族性新生児けいれん診断法（開発者・ 権利者名：兼子，廣瀬伸一，宮島佑，岡野創 造，特願2003-369584号，2003年10月29日出願， 出願中）	教 授	兼子 直		
	◇ 乳児重症ミオクロニーてんかん関連遺伝子変 異と乳児重症ミオクロニーてんかん診断方法 （発明者名：兼子直，廣瀬伸一，福岡五龍，山 川和弘，小国弘量，白坂幸義，祖父江文子， 宮島佑，松尾宗明，安元佐和，吉良龍太郎。 権利者名：JST（81％），理研（19％）。特願 2003-132280号。2003年5月9日。出願中）				
	◇ てんかんモデル動物 （CHRNA4:S284L）（廣瀬伸一，兼子直，岡田 元宏：2004年3月5日				
07年度	良性家族性新生児けいれん関連遺伝子変異と良 性家族性新生児けいれん診断法（開発者・権利者名： 兼子，廣瀬伸一，宮島佑，岡野創造，特願2003- 369584号，2003年10月29日出願，出願中）	教 授	兼子 直		
	乳児重症ミオクロニーてんかん関連遺伝子変異と 乳児重症ミオクロニーてんかん診断方法（発明者 名：兼子直，廣瀬伸一，福岡五龍，山川和弘，小 国弘量，白坂幸義，祖父江文子，宮島佑，松尾宗 明，安元佐和，吉良龍太郎。権利者名：JST（81％）， 理研（19％）。特願2003-132280号。2003年5月9日。 出願中）				

	てんかんモデル動物 (CHRNA4:S284L) (廣瀬伸一, 兼子直, 岡田元宏: 2004年3月5日				

(7) 産学共同事業への参加, 技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	◇パブリックヘルスリサーチセンター財団神経 伝達物質研究会	選 考 委 員	兼 子 直		1日
07年度	パブリックヘルスリサーチセンター 財団神経伝 達物質研究会	選 考 委 員	兼 子 直		1日

(8) 医学部医学科以外での講義 (大学)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	保健学科 (神経・筋・感覚機能学) (2学年)		矢部 博興		
	教育学 (臨床医科学Ⅲ-2) (養護2学年)				
	大学院教育研究科 (精神医学特論) (大学院1学年)				
	青森大学薬学部臨床医学概論	非常勤講師		青森市	2日
07年度	弘前医師会准看護学校	非常勤講師	松岡 貴志	弘前市	4日
	弘前ホスピタリティアカデミー	非常勤講師		弘前市	30日
	秋田大学医学部大学院	非常勤講師			1日
	三重大学大学院医学系研究科	非常勤講師			2日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	北東北精神科治療技法セミナー	座 長	古郡 規雄		1日
	北東北精神科研究会	座 長			1日
	北日本 AAP フォーラム	座 長			1日
	精神科臨床薬学研究会東北ブロック講習会	講 師			1日
	Risperidone Oral Solution Meeting	講 師			1日
	青森県精神科薬剤師会勉強会	講 師			1日
	ガバペン発売記念 TV シンポジウム	講 師			1日
07年度	青森県精神科薬剤師会勉強会	講 師	古郡 規雄		1日
	八戸精神科医会	講 師			1日
	デパケンのより良い使い方を求めて	講 師			1日
	Lilly Web 講演会	講 師			1日
	五所川原精神科医会	講 師			1日
	GSK 社内勉強会	講 師			1日
	青森精神医会	講 師			1日

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学学校医	助 教 授	矢部 博興		12日

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国保黒石病院	教 授	兼 子 直	黒石市	24日
	国保黒石病院 独立行政法人国立病院機構弘前病院	助 教 授	矢部博興	黒石市 弘前市	48日
	黒石あけぼの病院	講 師	古郡規雄	黒石市	50日
	弘前愛成会病院			弘前市	15日
	他病院での診療	助 手	菊池淳宏		96日

	西北中央病院 大館市立総合病院 青森市民病院 八戸市民病院 弘前愛成会病院 国立弘前病院 市立函館病院 浪岡町立病院	助 手	松岡 貴志	五所川原市 大館市 青森市 八戸市 弘前市 弘前市 函館市 青森市	約40日 約5日 約20日 1日 約10日 約10日 約10日 1日
07年度	「LD59ブリッジング試験ーてんかんを対象とした プラセボとの二重盲検比較試験」 ファイザー製薬㈱「CI-945 (Gabapentin) 臨床試験 国保黒石病院	治験調整委員 治験調整委員 非常勤医師	兼子 直		2日 2日 48日
	黒石あけぼの病院 弘前愛成会病院	非常勤医師	古郡 規雄		30日 10日
	五所川原市立西北中央病院 腎研究所鷹揚郷・弘前病院	非常勤医師	菊池 淳宏		48日 48日
	五所川原市立西北中央病院 大館市立総合病院 布施病院 青森労災病院 弘前愛成会病院 国立弘前病院 十和田市立中央病院	非常勤医師	松岡 貴志	五所川原市 大館市 五所川原市 八戸市 弘前市 弘前市 十和田市	40日 5日 1日 2日 10日 10日 14日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	中国医科大学	名 誉 教 授	兼子 直	瀋陽精神科医師会 議で特別講演	1日

(13) その他（ボランティア、法医解剖、マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	八戸精神科医会	助 手	菊池 淳宏	医師を対象とした 講演	1日
	青森県精神科急性期治療研究会			医師・スタッフを対 象とした講演	1日
07年度	第2回北東北精神科治療技法セミナー 第2回弘前精神科薬物療法懇話会 平成19年度五所川原精神科医会	講 師	菊池 淳宏		1日 1日 1日
	措置入院における精神保健指定医としての精神鑑 定	嘱 託	松岡 貴志	弘前市	2日

17. 小児科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

地域の小児医療の充実させるため、地方会などを主催し、小児科医のレベルの向上に努めた。小児血液学の進歩のため、小児血液学会、日本血液学会などで役員として活動し、日本小児科学会では専門医試験委員として問題作成などに携わった。また、津軽地域の小児救急体制を維持発展させるために、委員会を開催して県や市町村の協力体制を堅固なものにすることに努めた。学会の評議員としての任務は全うした。

講義の依頼や学術雑誌の査読には積極的に協力した。地域医療へは可能な限り貢献した。

日本腎臓学会学術評議員、日本小児腎臓病学会評議員として腎臓病、特に小児の腎臓病についての啓蒙活動（医師会レベルでの講演会、市民公開講座その他）を行なった。また、日本腎臓学会専門医試験の試験問題作成などに携わった。青森県国民健康保険審査員として月3回、毎月保険審査を継続した。欧米の腎関連、血液関連、小児科関連の一流誌多数からや日本小児科学会雑誌からの査読依頼がありおおよそ月1回の頻度でこれを担当した。

全体的な到達度としては90%程度と思われる。

これから2年間の目標：

地域の小児医療の充実させるため、地方会などを主催し、小児科医のレベルの向上に努める。

小児血液学の進歩のため、小児血液学会、日本血液学会などで役員として活動する。

小児救急体制の充実など、青森県の小児医療体制の充実のために努力する。

青森小児血液腫瘍研究会、青森骨髓移植研究会の開催を継続する。

兼業基準に従い他施設で診療を行い、地域医療に貢献する。

骨髓移植推進財団移植調整医師の業務を継続する。

青森県小児神経談話会を主催する。

学会の役員、評議員としての任務を全うする。

講演、講義、学術雑誌の査読等の依頼があれば積極的に協力する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 2, 助手 4, 医員 7, 大学院学生 4, 研究生 1
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 6, 大学院学生 3, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	小児血液学会評議員会	評 議 員	伊藤 悦朗		1日
	日本血液学会評議員会	評 議 員			1日
	小児科専門医試験出題委員会	委 員 会			1日
	日本小児保健協会理事会	理 事			1日
	日本小児保健協会支部長会	支 部 長			1日
	日本小児科学会代議員会	代 議 員			1日
	日本小児循環器学会議員会	評 議 員	高橋 徹		1日
	日本腎臓学会 日本小児腎臓病学会	学術評議員 評 議 員	田中 完		2日 2日
07年度	日本小児白血病リンパ腫研究 グループ分子診断委員	助 教	照井 君典		4日
	小児血液学会評議員会	評 議 員	伊藤 悦朗		1日
	日本血液学会評議員会	評 議 員			1日
	小児科専門医試験出題委員会	委 員 会			1日
	日本小児保健協会理事会	理 事			1日
	日本小児保健協会支部長会	支 部 長			1日
	日本小児科学会代議員会	代 議 員			1日
	小児循環器学会評議員会 日本小児科学会選挙管理委員会	評 議 員 委 員 会	高橋 徹		1日 4日
	日本腎臓学会 日本小児腎臓病学会	学術評議員 評 議 員	田中 完	学術評議員会, 評議員会出席	2日 2日

	日本小児白血病・リンパ腫研究グループ (JPLSG) 分子診断委員会	委 員	照井 君典		4日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本小児科学会青森地方会	会 長	伊藤 悦朗		3日
	青森小児血液腫瘍研究会				1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会				1日
	青森県小児保健協会夏期懇談会				1日
	青森骨髓移植研究会		照井 君典		1日
	青森小児血液腫瘍研究会				1日
07年度	日本小児科学会青森地方会	会 長	伊藤 悦朗		1日
	青森小児血液腫瘍研究会	会 長			1日
	青森県小児保健協会夏期懇談会	会 長			1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会	会 長			1日
	北日本小児科学会	会 長			1日
	弘前大学造血幹細胞移植研究会	会 長			1日
	日本血液学会・日本臨床血液学会合同	会 長			1日
	東北地方会				
	東北小児白血病研究会	会 長			1日
	第18回東北小児腎臓病研究会	会 長	田中 完		1日
	青森県神経談話会	監 事	藤田 浩史		2日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Genes to Cells（査読）	教 授	伊藤 悦朗		1（編）
	Tohoku J Exp Med（査読）				1（編）
	Pediatric Int（査読）				1（編）
	Int J Hematology（査読）				1（編）
	Pediatrics International 査読	査 読	高橋 徹		1日
	日本小児科学会雑誌	査 読	田中 完		それぞれ 査読評価 期間とし て約5日 間程度を 要した。
	Pediatric Nephrology				
	Journal of Nephrology				
	Nephron Clinical Practice				
	Clinical Nephrology				
	Tohoku Journal of Exp Med				
	Pediatric International				
07年度	Blood	査 読	伊藤 悦朗		2（編）
	小児科学会誌				2（編）
	日本小児循環器学会雑誌	査 読	高橋 徹		1日
	日本小児腎臓病学会雑誌	編 集 委 員 Editorial Board	田中 完		10日
	Journal of Nephrology and Renal Transplantation				5日
	Pediatrc Nephrology x3回				15日
	Nephron Clinical Practice				5日
	Clinical Nephrology				4日
	Lupus				6日
	Nephrology				4日
	Clinical and Experimental Nephrology				5日
	World Journal of Pediatrics				4日
	日本小児科学会雑誌				4日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本医師会生涯教育講座—呼吸器疾患 第8回弘前市学校医、養護教諭合同研修会	講 師	田中 完	H.18.7.29 H.19.2.23	1日 1日
07年度	放送大学講義		高橋 徹		2日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	青森県小児がん等調査委員会	委 員 長	伊藤 悦朗		2日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会	委 員 長			2日
	青森県小児慢性特定疾患対策協議会	委 員 長			17日
	青森県感染症発生動向調査企画委員会	委 員 長			1日
	津軽地区保健医療圏小児救急医療対策協議会	委 員 長			1日
	津軽地域小児救急医療運営協議会		高橋 徹		2日
	津軽地域小児一次救急医療運営協議会				2日
	津軽地域小児二次・三次救急医療運営協議会				2日
07 年度	青森県国民健康保険診療報酬審査委員会	審 査 委 員	田中 完	1ヶ月間に3日ずつ	36日
	津軽地域小児救急医療運営協議会	委 員	高橋 徹		6日
	青森県国民健康保険診療報酬審査委員会	委 員	田中 完	月3回	36日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	群馬県小児腎，膠原病研究会	特別講演講師	田中 完	H.18.5.12	2日
	盛岡地区膠原病フォーラム			H.18.6.9	2日
07 年度	21世紀教育（最新医学の現状）	教 授	伊藤 悦朗		3日
	21世紀教育（最新医学の現状）	准 教 授	高橋 徹		3日
	21世紀教育（生物学の基礎Ⅱ A）	講 師	土岐 力		5日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	第11回湘南血液セミナー	特 別 講 演	伊藤 悦朗		1日
07 年度	放送大学講義		高橋 徹		2日
	第3回 IgA 腎症カクテル治療研究会シンポジウム	特別講演講師	田中 完		2日
	がん専門薬剤師研修		佐々木伸也	講義	1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	鰯ヶ沢町立中央病院での予防接種	非常勤医師	田中 完	毎週月曜日	約40日
	弘前大学医学部附属病院1か月健診	助 教	照井 君典		12日
	五所川原市立金木小学校内科健診				1日
	金木小学校，喜良一小学校二種混合予防接種				2日
	五所川原市金木地区ポリオ予防接種				1日
	中泊町乳児健診・1歳6ヶ月児健診・3歳児健診				24日
07 年度	弘前大学教育学部附属小学校健診		高橋 徹		1日
	鰯ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	田中 完	予防接種	40日
	五所川原市立金木小学校内科健診		藤田 浩史		1日
	弘前大学医学部附属病院1か月健診	照井 君典			15日
	中泊町乳児健診・1歳6ヶ月健診・3歳児健診				24日
	五所川原市金木地区ポリオ予防接種				2日
	五所川原市立金木小学校内科健診				1日
	金木小学校，喜良市小学校2種混合予防接種				2日
	五所川原市立金木小学校内科健診		工藤 耕		1日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	鰺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	伊藤 悦朗	週1日	40日
	公立野辺地病院	非常勤医師	高橋 徹	週1日	40日
	県立北上病院			月1日	12日
	鰺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	田中 完	週1日	40日
	青森労災病院			月1日	12日
	秋田赤十字病院			月1日	12日
	岩手県立北上病院			月1日	12日
	十和田市立中央病院	非常勤医師	藤田 浩史	月1日	12日
	大館市立総合病院			月3日	36日
	三沢市立三沢病院			月1日	12日
	三戸中央病院			月1日	12日
	弘前市立病院			月2日	24日
	公立金木病院			月3日	36日
	公立金木病院	非常勤医師	照井 君典		48日
	岩手県立北上病院				24日
	弘前市急患診療所				4日
	十和田市立中央病院	非常勤医師	高橋 良博	週1日	40日
	西北中央病院			月1日	12日
	大鰐病院			月1日	12日
	西北中央病院	非常勤医師	佐々木伸也	月1日	12日
	大鰐病院			月1日	12日
	津軽地区小児夜間救急当番				5日
	三戸中央病院	非常勤医師	大谷 勝記	月2日	10日
	公立野辺地病院			月3日	15日
	大鰐病院			月1日	5日
07年度	公立金木病院	非常勤医師	伊藤 悦朗	週1日	40日
	大館市立総合病院	非常勤医師	高橋 徹	週1日	40日
	県立北上病院			月1日	12日
	弘前市急患診療所				4日
	鰺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	田中 完	週1日	40日
	青森労災病院			月1日	12日
	秋田赤十字病院			月1日	12日
	岩手県立北上病院			月1日	12日
	弘前市急患診療所				4日
	大館市立総合病院	非常勤医師	藤田 浩史		12日
	三沢市立三沢病院				16日
	十和田市立中央病院				22日
	三戸中央病院				9日
	弘前市立病院				12日
	公立金木病院				9日
	弘前市急患診療所				2日
	公立金木病院	非常勤医師	照井 君典		48日
	岩手県立北上病院				24日
	弘前市急患診療所				4日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	佐々木伸也		66日
	町立大鰐病院				12日
	弘前市急患診療所				3日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	工藤 耕		40日
	町立浪岡病院				12日
	弘前市急患診療所				3日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	調 整 医 師	伊藤 悦朗		7日
	骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	調 整 医 師	照井 君典		12日
	骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	連絡責任医師	佐々木伸也		
07年度	骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	調 整 医 師	伊藤 悦朗		7日
	骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	移植調整医師	照井 君典		12日
	骨髄移植推進財団ドナーコーディネート	採取責任医師・ 連絡責任医師	佐々木伸也		

18. 胸部心臓血管外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

達成した

これから2年間の目標：

心臓血管外科および胸部外科関連の学会活動を活発に行う。

地域の医療施設との連携を緊密に行い、専門分野の知識の普及と医療水準の向上に寄与する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 3, 助手 5, 医員 2, 大学院学生 1, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 3, 助教 5, 助手 0, 医員 1, 大学院学生 3, 研究生 2

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本外科学会	評 議 員	福田 幾夫		1日
	日本胸部外科学会	評 議 員			1日
	日本心臓血管外科学会	評 議 員			1日
	日本静脈学会	評 議 員			1日
	日本胸部外科学会	評 議 員			1日
	卒後教育委員会	委 員			2日
	日本血管内治療学会	評 議 員			1日
	日本外科学会認定医認定委員会	試 験 委 員			2日
	日本心臓ペース・電気生理学学会	評 議 員			1日
	日本小児循環器学会	評 議 員	鈴木 保之		1日
07年度	日本内視鏡外科学会	評 議 員	對馬 敬夫		1日
	青森呼吸器研究会	幹 事			1日
	青森内視鏡外科研究会	幹 事			1日
	東北肺癌研究談話会	幹 事			1日
	日本脈管学会	評 議 員	福田 幾夫	松本	3日
	日本外科学会	代 議 員		東京	4日
	日本胸部外科学会	評 議 員		仙台	4日
	日本心臓血管外科学会	評 議 員		福岡	3日
	日本血管外科学会	理 事		名古屋	6日
	日本冠動脈外科学会	評 議 員		東京	3日
	日本血管内治療学会	理 事		東京	2日
	日本静脈学会	評 議 員		京都	2日
	日本胸部外科学会誌編集員	委 員			7日
	日本胸部外科学会広報委員	委 員			3日
	日本血管外科学会誌論文審査委員	審 査 委 員			4日
	日本心臓血管外科学会誌論文査読委員	委 員			5日
	日本外科学会学術集会プログラム委員				1日
	日本胸部外科学会学術集会プログラム委員				1日
	日本心臓血管外科学会学術集会プログラム委員				1日
	日本血管外科学会学術集会プログラム委員				1日
	日本冠動脈外科学会学術集会プログラム委員				1日
	日本小児循環器学会	評 議 員	鈴木 保之		1日
	日本内視鏡外科学会	評 議 員	對馬 敬夫	仙台市	1日
	内視鏡外科フォーラム東北	世 話 人		盛岡市	1日
	青森呼吸器研究会	幹 事		青森市	1日
	青森内視鏡外科研究会	幹 事		青森市	1日
	東北肺癌研究談話会	幹 事		仙台市	1日
	弘前癌治療懇話会	幹 事		弘前市	2日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	第154回東北外科集談会 第80回日本胸部外科学会東北地方会 第75回日本小児外科 東北地方会	教 授	福田 幾夫		1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本血管外科学会雑誌 日本脈管学 Surgery Today Heart and vessels	査読委員 査読委員 査読委員 査読委員	福田 幾夫		2日 2日 2日 1日
07年度	Surgery Today European Journal of Echocardiography 日本消化器病学会機関誌 General Thoracic and Cardiovascular Surgery Circulation Journal 日本血管外科学会雑誌 Annals of Thoracic Surgery European Journal of Cardiothoracic Surgery Internal Medicine（査読） 日本小児循環器学会（査読） Artificial Organs（査読） Artificial Organs 査読	査読委員 Invited ewier 査読者 査読委員 Invited ewier 論文審査委員 Invited ewier Invited ewier 准 教 授 准 教 授 准 教 授 講 師	福田 幾夫 鈴木 保之 皆川 正仁	5論文（含再査読） 1論文 1論文 4論文（含再査読） 4論文（含再査読） 3論文 2論文 1論文	10日 1日 1日 8日 8日 3日 3日 1日 1日 1日 1日 4日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	弘前大学がん診療市民公開講座 弘前大学健康医療講演会	講 師 講 師	對馬 敬夫	弘前市 青森市	1日 1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県生活習慣病検診協議会 青森県社会保険診療報酬支払基金 津軽圏域自治体病院機能再編成計画基本的枠組み 具体案検討委員会	委 員 審 査 員 作業部会委員	福田 幾夫 鈴木 保之 對馬 敬夫		1日 48日 1日
07年度	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会 審査部会 青森県健診センター 青森県社会保険診療報酬支払基金	委 員 理 事 准 教 授	福田 幾夫 鈴木 保之		1日 1日 36日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	外科学講義 成人看護方法論 外科学総論	助 手 助 手 助 手	山田 芳嗣 大徳 和之 谷口 哲	看護学科 看護学科 看護科学	2日 1日 2日
07年度	保健学科 看護学専攻 疾病論Ⅱ 保健学科 看護学専攻 疾病論Ⅱ 保健学科	助 教 助 教 助 教	大徳 和之 谷口 哲 山田 芳嗣		1日 1日 2日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	福井 康三		4日

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	肺癌検診	非常勤医師	山田 芳嗣		10日
	青森県肺がん検診	非常勤医師	對馬 敬夫		10日
	青森県肺がん検診				3日
07年度	肺癌検診	非常勤医師	山田 芳嗣		10日
	青森県肺がん検診	X線写真読影委員 合同読影委員	對馬 敬夫		10日
	青森県肺がん検診				3日

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	西北中央病院	非常勤医師	福田 幾夫		12日
	弘前中央病院	非常勤医師			24日
	国民健康保険 板柳中央病院	非常勤医師	鈴木 保之		48日
	弘前中央病院	非常勤医師	皆川 正仁		48日
	弘愛会病院	非常勤医師			12日
	ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師			12日
	ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師	山田 芳嗣		50日
	ヒロサキメディカルセンター	非除菌医師	大徳 和之		48日
	平川市立病院	非除菌医師	福井 康三		45日
	板柳町立中央病院 外科	非常勤医師	對馬 敬夫		40日
	鳴海病院	非常勤医師	谷口 哲		48日
	弘前中央病院	非常勤医師	木村 大輔		48日
	平内中央病院	非常勤医師	須藤 武道		48日
07年度	西北中央病院	医 師	福田 幾夫	非常勤医師	10日
	弘前中央病院	医 師		非常勤医師	36日
	板柳中央病院	准 教 授	鈴木 保之		48日
	弘前中央病院	講 師	皆川 正仁		24日
	弘愛会病院	講 師			12日
	ヒロサキメディカルセンター	講 師			12日
	ヒロサキメディカルセンター	講 師	大徳 和之		38日
	ヒロサキメディカルセンター	助 教	山田 芳嗣		50日
	ヒロサキメディカルセンター	助 教	青木 哉志		12日
	板柳町立中央病院 外科	講 師	對馬 敬夫	板柳町	40日
	鳴海病院	助 教	谷口 哲		38日
	弘前中央病院	助 教	木村 大輔		36日
	平内中央病院	助 教	須藤 武道		50日

(12) 国際交流への貢献 (姉妹校での活動, 国際協力事業団の活動など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	テネシー大学 医学部視察	准 教 授	鈴木 保之		5日

(13) その他 (ボランティア, 法医解剖, マスコミによる公表など)

該当なし。

19. 消化器外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

前回の目標を継続する。すなわち、学会及び生涯学習など、地域のリーダーとしては勿論、全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

到達度：合格点と思われるが、ようやくとといったところ。

これから2年間の目標：

前回の目標を継続する。すなわち、学会及び生涯学習など、地域のリーダーとしては勿論、全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 2, 講師 3, 助手 6, 医員 11, 大学院学生 6, 研究生 1
07年度		教授 1, 准教授 2, 講師 3, 助教 6, 助手 0, 医員 12, 大学院学生 8, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本外科学会	評 議 員	佐々木睦男		1日
	日本外科学会	教 育 要 員			1日
	日本臨床外科学会	評 議 員			1日
	日本移植学会	評 議 員			1日
	日本胆道学会	評 議 員			0日
	日本臨床免疫学会	評 議 員			0日
	日本肝胆膵外科学会	評 議 員			1日
	日本消化器病学会	評 議 員			0日
	日本肝移植研究会	世 話 人			0日
	日本胆道膵管合流異常研究会	監 事			0日
	日本消化器病学会東北支部会	幹 事			1日
	東北外科集談会	世 話 人			1日
	日本外科学会	認定医認定委員	吉原 秀一		1日
	日本消化器病学会東北支部会	評 議 員			2日
	青森県内視鏡外科研究会	幹 事			1日
07年度	東北内視鏡フォーラム	幹 事			2日
	日本甲状腺外科学会	評 議 員	小田桐弘毅		1日
	日本乳癌学会	評 議 員			1日
	青森県内分泌疾患研究会	世 話 人			1日
	青森県乳腺疾患研究会	世 話 人			
	日本肝胆膵外科学会	評 議 員	袴田 健一		1日
	日本肝移植研究会	幹 事			3日
	日本消化器病学会東北支部会	評 議 員	鳴海 俊治		1日
	日本胆膵生理機能研究会	世 話 人			1日
	日本食道学会	評 議 員	川崎 仁司		
	日本胃癌学会	評 議 員			1日
07年度	日本外科学会	評 議 員	佐々木睦男		1日
	日本外科学会	教 育 要 員			1日
	日本臨床外科学会	評 議 員			
	日本移植学会	評 議 員			1日
	日本胆道学会	評 議 員			
	日本臨床免疫学会	評 議 員			
	日本肝胆膵外科学会	評 議 員			1日
	日本消化器病学会	評 議 員			
	日本肝移植研究会	世 話 人			
	日本胆道膵管合流異常研究会	監 事			
	日本消化器病学会東北支部会	幹 事			1日
	東北外科集談会	世 話 人			1日

	日本移植研究会 日本肝胆膵外科学会 日本内視鏡外科学会	幹事 評議員 評議員	袴田 健一		1日 1日 1日
	日本外科学会 日本消化器病学会 東北内視鏡フォーラム	認定医認定委員 評議員 幹事	吉原 秀一		1日 1日 1日
	日本甲状腺学会 日本乳癌学会 青森県内分泌疾患研究会 青森県乳腺疾患研究会	評議員 評議員 世話人 世話人	小田桐弘毅		1日 1日 1日 1日
	日本消化器病学会東北支部会 日本胆膵生理機能研究会	評議員 世話人	鳴海 俊治		1日 1日
	日本食道学会 日本胃癌学会	評議員 評議員	川崎 仁司		1日 1日
	大腸疾患外科療法研究会 青森骨盤外科研究会	幹事 世話人	小山 基		1日 1日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏名	備考	日数
07年度	日本消化器病学会第7回教育講演会	会長	佐々木睦男		1日
	日本消化器病学会第172回東北支部例会	会長			1日
	第183回日本消化器病学会東北支部例会	事務局	鳴海 俊治		30日
	第184回日本消化器病学会東北支部例会	事務局			30日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	吉原 秀一		5日
	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	袴田 健一		3日
	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	鳴海 俊治		6日
07年度	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	袴田 健一		
	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	吉原 秀一		
	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	鳴海 俊治		6日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	秋田膵癌学術講演会「膵癌に対する集学的治療の現状」	演者	袴田 健一		1日
07年度	第1回弘前大学附属病院がん診療市民公開講座	講師	袴田 健一		1日
	南部町立名川中学校教育講演会	講師			1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	青森県総合健診センター	理事	佐々木睦男		2日
	青森県社会福祉審議会	臨時委員			3日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委員			2日
	弘前大学医師会	副会長			2日
	津軽地域保険医療圏における自治体病院機能再編検討委員会（青森県）	委員	袴田 健一		2日
	青森県がん医療検討委員会（青森県）	委員			3日
	青森県医療機能調査検討委員会（青森県）	委員			3日
	弘前大学医師会	幹事	吉原 秀一		2日

07年度	弘前大学医師会	幹事	小田桐弘毅		2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん部会	委員			2日
	青森県総合健診センター乳がん検診マンモグラフィ読影委員会	委員	鳴海 俊治		2日
	青森県総合健診センター	臨時委員	佐々木睦男		2日
	青森県社会福祉審議会	委員			3日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委員			2日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委員			2日
	弘前大学医師会	副会長			1日
	青森がん医療検討委員会	委員	袴田 健一		1日
	青森県医療機能調査検討委員会	委員			1日
06年度	弘前大学医師会	幹事	吉原 秀一		1日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん部会	委員	小田桐弘毅		1日
	弘前大学医師会	幹事			1日
	青森県総合健診センター乳がん検診マンモグラフィ読影委員会	委員	鳴海 俊治		15日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	医学部保健学科看護科	講師	吉原 秀一		9日
	医学部保健学科	講師	鳴海 俊治		4日
07年度	医学部保健学科看護学専攻	講師	小田桐弘毅		1日
	医学部保健学科看護学専攻	講師	川崎 仁司		1日
	医学部保健学科看護学専攻	助教	豊木 嘉一		1日
	医学部保健学科看護学専攻	助教	村田 暁彦		1日
	保健学科理学療法科	講師	鳴海 俊治		2日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	ヒポクラテスガイダンス（青森県平成18年度職業ガイダンス事業講演会：五所川原高等学校）	講師	袴田 健一		1日
07年度	平成19年度青森県臓器移植推進講演会	准教授	袴田 健一		1日
	むつ下北医師会特別講演	准教授			1日
	第163回弘前消化器病研究会特別講演	准教授			1日
	南部胃腸同好会	講師	川崎 仁司		

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	弘前大学教育学部附属小中学校	学校医	吉原 秀一		1日
07年度	弘前大学教育学部附属小中学校	学校医	吉原 秀一		1日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件名	役職	氏名	備考	日数
06年度	青森市立浪岡病院	非常勤医師	佐々木睦男		50日
	藤崎病院，公立金木病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	吉原 秀一		51日
	藤崎病院，町立大鰐病院	非常勤医師	袴田 健一		50日
	弘愛会病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	小田桐弘毅		60日

	鯨ヶ沢町立中央病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	鳴海 俊治		60日
	弘前小野病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	川崎 仁司		50日
	青森市民病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	豊木 嘉一		60日
	弘前小野病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	村田 暁彦		60日
	(財)双仁会厚生病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	柴田 滋		50日
	(財)鳴海研究所 清明会 鳴海病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	小山 基		50日
	公立金木病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	梅原 豊		50日
	公立七戸病院，(財)青森県総合健診センター	非常勤医師	西澤 雄介		50日
07年度	青森市立浪岡病院	非常勤医師	佐々木睦男		50日
	藤崎病院，町立大鰐病院	非常勤医師	袴田 健一		50日
	鳴海病院	非常勤医師			5日
	藤崎病院，公立金木病院	非常勤医師	吉原 秀一		50日
	弘愛会病院	非常勤医師	小田桐弘毅		50日
	佐藤病院	非常勤医師			25日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			24日
	鯨ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	鳴海 俊治		50日
	寿町クリニック	非常勤医師			25日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			2日
	弘前小野病院	非常勤医師	川崎 仁司		50日
	寿町クリニック	非常勤医師			25日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			5日
	青森市民病院	非常勤医師	豊木 嘉一		50日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			10日
	弘前小野病院	非常勤医師	村田 暁彦		50日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			5日
	(財)双仁会黒石厚生病院（黒石）	非常勤医師	柴田 滋		50日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			5日
	(財)鳴海研究所清明会鳴海病院	非常勤医師	小山 基		50日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			5日
	公立金木病院	非常勤医師	奈良 昌樹		50日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			5日
	公立七戸病院	非常勤医師	石戸圭之輔		50日
	(財)青森県総合健診センター	非常勤医師			5日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国際交流基金による講演会主催 (平成18年12月15－16日)	助 教 授	袴田 健一		2日

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	雪灯籠まつり（雪像づくり）		教室員全員		3日

20. 整形外科科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

おおむね目標は達成できた

- 『骨と関節の10年』活動を通して、整形外科の啓蒙活動を行う
青森臨床整形外科医会主催のもと、後援の形で講演会及び健康相談を行った。
- 積極的にフィールドワークを行い、スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究・骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防・治療に関する知識を啓蒙脊柱靭帯骨化症患者団体への支援を行った。
脊椎・脊髄外傷における救急隊および救急部への支援と協力を行った
特に高校バスケットボール選手の膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究、アルペン・クロカンのスキー選手の体力測定、岩木健康プロジェクトの参加など目標に対する到達度は十分と考えている
ドクタースキーパトロールとして、活動を行った。
- 各種学会の役員として学会の発展に寄与する。
弘前にて全国規模の学会を２件開催した。
- 青森県身体障害者更生相談所嘱託医として、厚生医療のバックアップ
問題なく施行された。
- 青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力
毎日新聞広告などで活動を紹介した。
- 検診業務の推進（側彎症、骨粗鬆症、発育期スポーツ障害）
県の検診事業をバックアップした。
- 弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる
適切に相談に応じた。
- 厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する
大学院の研究を積極的に紹介した。脊柱靭帯骨化症患者団体への支援を行った

これから２年間の目標：

- 『骨と関節の10年』活動を通して、整形外科の啓蒙活動を行う。
- 積極的にフィールドワークを行い、スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究、また障害予防のための啓蒙（一般の人に対する講演）・骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防・治療に関する知識を啓蒙
- 各種学会の役員として学会の発展に寄与する。
- 青森県身体障害者更生相談所嘱託医として、自立支援医療のバックアップ
- 青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力
- 検診業務の推進（骨粗鬆症、発育期スポーツ障害）
- 弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる
- 厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 2, 助手 1, 医員 9, 大学院学生 12, 研究生 3
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 5, 大学院学生 9, 研究生 3

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本整形外科学会	代 議 員 国際委員会委員長	藤 哲	神戸市 長崎市	2日 2日
	日本手の外科学会	理事・評議員機能評価 委員会担当理事 専門医資格判定 委員会理事	藤 哲	浜松 東京 東京	2日 8日 2日
	日本マイクロサージャリー学会	理事・評議員	藤 哲	奈良市	2日

07年度	日本最小侵襲整形外科研究会 東日本手の外科研究会 東日本整形外科学会 日本創外固定骨延長学会 日本臨床スポーツ医学会 日本整形外科スポーツ医学会 日本整形外科学会専門医試験 東北整形災害外科学会	運 営 委 員 世 話 人 理 事 評 議 員 評 議 員 理 事 試 験 官 世 話 人	藤 哲	神戸市 東京 東京 横浜 新潟 沖縄 大阪 秋田	2日 2日 2日 2日 2日 2日 2日 2日
	東北膝関節研究会 東北肩関節懇話会 青森県スポーツ医学研究会 東日本臨床整形外科 日本関節鏡学会 日本膝学会	代表世話人 代表世話人 代表世話人 評 議 員 評 議 員 評 議 員	石橋 恭之	仙台市 仙台市 青森 東京 沖縄 沖縄	2日 1日 1日 2日 2日 2日
	日本整形外科学会	代 議 員 ・ 国際委員会委員長	藤 哲	神戸市 浜松	2日 2日
	日本手の外科学会	理事・評議員機能評価 委員会担当理事 専門医資格判定 委員会理事	藤 哲	山形 東京 東京	2日 8日 2日
	日本マイクロサージャリー学会 日本最小侵襲整形外科研究会 東日本手の外科研究会 東日本整形外科学会 日本創外固定骨延長学会 日本臨床スポーツ医学会 日本整形外科スポーツ医学会 日本整形外科学会専門医試験 東北整形災害外科学会	理事・評議員 運 営 委 員 世 話 人 理 事 会 長 理 事 理 事 試 験 官 世 話 人	藤 哲	奈良市 神戸市 東京 東京 横浜 大分 札幌 大阪 福島	2日 2日 2日 2日 2日 2日 2日 2日 2日
	日本整形外科学会 東北膝関節研究会 東北肩関節懇話会 青森県スポーツ医学研究会 東日本臨床整形外科 日本関節鏡学会 日本膝学会	評 議 員 代表世話人 代表世話人 代表世話人 評 議 員 評 議 員 評 議 員	石橋 恭之	東京 仙台市 仙台市 青森 東京 札幌 札幌	2日 1日 1日 2日 2日 2日 2日
	日本関節鏡学会 膝関節フォーラム	評 議 委 員 世 話 人	津田 英一	東京 東京	2日 2日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本—イタリア手の外科合同会議	日本側代表世話人	藤 哲	ミラノ	6日
	東北マイクロサージャリー研究会	代表世話人		仙台	2日
07年度	日本創外固定。骨延長学会	会 長		弘前	3日
	日本インスツルメンテーション学会	事務局担当	藤 哲	弘前	3日
	東北マイクロサージャリー研究会	代表世話人		仙台	2日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Journal of Hand Sugery-Asian volume				4日
	Jopuranal of Orthopaedic Sience				5日
	東日本整形災害外科学会誌	査 読 委 員	藤 哲		3日
	日本手の外科学会誌				5日
	日本整形外科学会誌				2日
	臨床スポーツ医学				
	東北膝関節研究会誌	助 教 授	石橋 恭之		5日
	青森県スポーツ医学研究会誌				5日
	東日本臨床整形外科				3日
	日本関節鏡学会				5日
	日本膝学会				5日

07年度	Journal of Hand Sugery-Asian volume	査読委員	藤 哲		2日
	Jopuranal of Orthopaedic Sience				4日
	東日本整形災害外科学会誌				3日
	日本手の外科学会誌				1日
	日本整形外科学会誌				4日
	臨床スポーツ医学				1日
	日本整形外科スポーツ医学会誌				1日
	日本最小侵襲整形外科学会				1日
	東北膝関節研究会誌	査読委員	石橋 恭之		5日
	青森県スポーツ医学研究会誌				5日
	東日本臨床整形外科				3日
	日本関節鏡学会				5日
	日本膝学会				5日
	東北整形災害外科学会	査読委員	津田 英一		4日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	「運動器の10年・骨と関節の日」市民公開講座 肩の痛み-五十肩からスポーツ障害肩まで-	助 教 授	石橋 恭之	弘前市	1日
07年度	第11回病院ボランティア懇談会講話	教 授	藤 哲	弘前市	1日
	市民公開講座 膝関節疾患の診断と治療	准 教 授	石橋 恭之	弘前市	1日
	頸椎後縦靱帯骨化症患者の会（まるめろの会）での講演	助 教	沼沢 拓也	弘前市	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県社会福祉審議会委員	委員長 常任理事 委員	藤 哲		20日
	青森県肢体不自由児協会会長				
	青森県総合検診センター				
	弘前市就学指導委員会				
	青森県医師研修における海外連携に係わる検討委員会	委員			
07年度	青森県公安委員会運転適正検査（整形）	委員	石橋 恭之		30日
	青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会	委員			
	厚生労働省難病指定・靱帯骨化症班会議への参加	班 員 審 査 委 員	横山 徹		2日 24日
	青森県特定疾患研究事業審査会				
	青森県社会福祉審議会委員	委員長 常任理事 委員	藤 哲		10日
	青森県肢体不自由児協会会長				
	青森県総合検診センター				
	弘前市就学指導委員会				
07年度	青森県公安委員会運転適正検査（整形）	委員	石橋 恭之		30日
	青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会				
	厚生労働省難病指定・靱帯骨化症班会議への参加	班 員 審 査 委 員	横山 徹		2日 24日
	青森県特定疾患研究事業審査会				
07年度	青森県障害者相談センター	嘱託医 帯同医	津田 英一		20日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	東京医科歯科大学整形外科卒後研修セミナー	教 授	藤 哲	東京 Daegu, Korea	8日
	慶北大学医学部講演				
	保険大学・臨床生理学Ⅲ	臨時講師	横山 徹		2日

07年度	Kyonhee 大学講演 第7回桜整形外科セミナー（日本大学医学部整形外科）	教 授	藤 哲	Seoul, Korea 東京	8日
	National Cheng Kung University Medical Center Kaohsiung Medical University			Tainan, Taiwan Kaoshiung, Taiwan	
	養護教諭養成課程 臨床医学 整形外科学		石橋 恭之	教育学部	8日
	保険大学・臨床生理学Ⅲ	臨時講師	横山 徹		2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第25回新潟手の外科セミナー 第13回佐賀手の外科・外傷研究会 第4回青森手の外科懇話会	教 授	藤 哲	新潟市 佐賀市 青森市	5日
	柔整士会学術講演会：投球障害の診断と治療 八戸整形外科医会：関節鏡視下手術の進歩 大館北秋田医師会 学術講演会：投球障害の診断と治療 整喜会 特別講演会：肩・膝関節鏡視下手術の現況 柔整士会学術講演会：スポーツ整形外科疾患について 上十三地区整形外科医会：膝靱帯再建術・成績向上の工夫・	助 教 授	石橋 恭之	青森市 八戸市 大館市 五所川原市 青森市 十和田市	
07年度	第26回新潟手の外科セミナー 第8回神奈川難治性骨折研究会 第4回ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー 第8回北海道スポーツ医学フォーラム 手の外科学術講演会 第29回京都運動器フォーラム 八戸整形外科医会学術講演会 平成19年度第3回大分県整形外科・臨床整形外科医会 第12回くにびき整形外科セミナー 第16回秋田疼痛研究会 医療法人一誠会20周年記念講演会 第34回阪神地区整形外科を語る会 青森整形外科セミナー	教 授	藤 哲	新潟市 横浜市 宮崎市 札幌市 那覇市 京都市 八戸市 大分市 松江市 秋田市 豊橋市 尼崎市 青森市	20日
	南大阪リハビリ・スポーツ整形外科研究会 第51回柔整師会 東北ブロック 学術講演会 青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会学術講演会 第42回北海道膝関節研究会 第22回日本リハビリテーション医学会東北地方会 青森県臨床整形外科医会 富山県整形外科医会 第46回秋田県整形外科医会 マルホ整形外科セミナー：シリーズ「スポーツ障害」(4) 膝の障害	准 教 授	石橋 恭之	大阪 青森市 青森市 札幌市 弘前市 青森市 富山市 秋田市 東京	1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日
	小中高養護教諭のためのスポーツ医学 アスレティックトレーナー養成講習会	講 師	津田 英一	青森市 弘前市	1日 1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	巡回診療	診 療 医	藤 哲		1日
	弘前大学附属養護学校 整形外科検診	助 教 授	石橋 恭之		1日
	青森県身体障害診断巡回診療	審 査 医 師	横山 徹		4日
	第61回国民体育大会夏秋期大会常同ドクター	講 師	津田 英一		4日
	青森県スポーツ科学センタースポーツメディカルチェック	講 師			2日
	五所川原市スポーツ医事相談室	講 師			2日

	青森県障害者相談センター嘱託医 青森県教育委員会健康相談医				10日
	第19回東北総体帯同ドクター 青森県スポーツ科学センタースポーツメディカル チェック	帯同医師 嘱託医	福田 陽		3日 7日
	五所川原市スポーツ医事相談室	嘱託医			2日
07年度	巡回診療	診療医	藤 哲		1日
	弘前大学附属養護学校 整形外科検診	学 校 医	石橋 恭之		1日
	青森県身体障害診断巡回診療	審 査 医 師	三井 博正		3日
	青森県スポーツ科学センタースポーツメディカル チェック	講 師	津田 英一		5日
	青森県学校・地域保健推進事業	講 師			7日
	青森県身体障害者認定巡回診察	診 療 医	沼沢 拓也		3日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	大館市立病院	応 援 医 師			1日/月
	損害保険料率算出機構審査員	嘱 託 医	藤 哲		2回/月
	青森県身体障害者更生相談所	嘱 託 医			2回/月
	青森県更生医療指導医	助 教 授	石橋 恭之		20日
	国立青森病院での整形外科診療	非常勤医師	横山 徹		週1回
	身体障害者手帳／義肢装具交付巡回診療	判 定 医			3日
	義肢装具借り合わせおよび適合判定巡回診療	判 定 医	小野 睦		2日
	鶴田町立病院	整形外科医			50日
07年度	青森市立浪岡病院	整形外科医			50日
	大館市立病院	応 援 医 師			1日/月
	損害保険料率算出機構審査員	嘱 託 医	藤 哲		2回/月
	青森県身体障害者更生相談所	嘱 託 医			2回/月
	青森県更生医療指導医	指 導 医	石橋 恭之		20日
	鶴田町立病院	非常勤医師	三井 博正		50日
	ヒロサキメディカルセンター療				50日
	鶴田町立病院	整形外科医	小野 睦		50日
07年度	ヒロサキメディカルセンター	整形外科医			50日
	弘前記念病院スポーツ外来	医 師	津田 英一		40日
	青森市立浪岡病院	整形外科医	沼沢 拓也		40日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	全日本スキー連盟	ドクターパトロール 青森支部副会長	藤 哲	大鰐	6日
	Orthopaedics Today International Edition, Groball News in Musculoskeletal Health & Disease	Editorial Advisory Board member		メール上会議	
	冬季国体（スキー）青森県選手団 帯同ドクター	助 教 授	石橋 恭之	秋田県	3日
07年度	全日本スキー連盟	ドクターパトロール 青森支部副会長	藤 哲	大鰐	3日
	Orthopaedics Today International Edition, Groball News in Musculoskeletal Health & Disease	Editorial Advisory Board member		メール上会議	
	冬季国体（スキー）青森県選手団	帯同ドクター	石橋 恭之	長野県	3日
	国民体育大会青森県チーム	帯同ドクター	津田 英一	秋田市	4日

21. 皮膚科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

目標：啓蒙活動は市民の QOL を高め、大学病院の患者増につなげる。

地域の医療活動のサービスに努める。

到達度：70%

これから2年間の目標：

啓蒙活動は市民の QOL を高めることは大学病院の患者増につなげる。

地域の医療活動のサービスに努める。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 1, 講師 1, 助手 5, 医員 11, 大学院学生 6, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 12, 大学院学生 7, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第70回日皮会東部支部学術大会	事務局 長	中野 創		30日
07年度	日本皮膚科学会	評 議 員	澤村 大輔		5日
	日本研究皮膚科学会	代 議 員			3日
	日本皮膚科学会会則検討委員会	委 員	中野 創	東京都 松江市	2日
	日本光医学光生物学会	事務局 長			3日
	日本皮膚科学会青森地方会	事務局 長	会津 隆幸		12日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第70回日皮会東部支部学術大会				2日
07年度	日本皮膚科学会青森地方会第339回例会		澤村 大輔	弘前市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第338回例会, 2007年 6月17日	事務局 長	会津 隆幸	弘前市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第339回例会, 2007年 9月2日	事務局 長		弘前市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第340回例会, 2007年 12月9日	事務局 長		八戸市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Journal of Dermatological Science	審 査 員	中野 創		42日
	J Dermatol	審 査 員			7日
	BBA	審 査 員			21日
07年度	日本皮膚科学会誌	編 集 委 員	澤村 大輔		5日
	日本皮膚科学会誌	審 査 員			2日
	Journal of Dermatology	審 査 員			3日
	Journal of Dermatological Science	審 査 員			4日
	Journal of Dermatological Science	審 査 員	中野 創		42日
	J Dermatol	審 査 員			7日
	BBA	審 査 員			21日
	Journal of Dermatology	審 査 員	金子 高英		10日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	いい皮膚の日市民公開講座				1日
07年度	いい皮膚の日市民公開講座	講 師	澤村 大輔	八戸市	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	保健学科看護学専攻	非常勤講師	会津 隆幸		
	養護教諭養成課程（2年）	非常勤講師	松崎 康司		
07年度	保健学科看護学専攻	非常勤講師	会津 隆幸		
	養護教諭養成課程（2年）	非常勤講師	松崎 康司		

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	厚生病院附属看護学校				
	厚生病院看護学院看護学科				
07年度	弘前学院大学看護学部	非常勤講師	金子 高英		2日
	厚生病院附属看護学校	非常勤講師	池永 五月		6日
	厚生病院看護学院看護学科	非常勤講師	中島 康爾		4日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	平成18年度附属養護学校健康診断	学 校 医	松崎 康司		1日
	平成18年度定期健康診断				21日
07年度	平成19年度附属養護学校健康診断	学 校 医	松崎 康司		18日
	平成19年度定期健康診断				

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	公立野辺地病院	非常勤医師	中野 創		24日
	秋田労災病院				24日
	大館市立総合病院	非常勤医師	松崎 康司		12日
	北秋中央病院				12日
	慈仁会尾野病院				24日
	敬仁会病院				24日
	公立野辺地病院	非常勤医師	金子 高英		12日
	大館市立総合病院				24日
	慈仁会尾野病院				12日
	敬仁会尾野病院				12日
	西北中央病院				12日
	大館市立総合病院	非常勤医師	会津 隆幸		12日
	山本組合総合病院				12日
	慈仁会尾野病院				12日
	秋田労災病院				24日
	扇田病院				12日
	むつ総合病院				12日
	慈仁会尾野病院	非常勤医師	武田 仁志		24日
	三沢市立病院				24日
	公立金木病院				24日
	西北中央病院				12日

	公立野辺地病院 山本組合総合病院 慈仁会尾野病院 三沢市立病院 鷹揚郷病院 公立金木病院	非常勤医師	中島 康爾		12日 12日 12日 24日 12日 12日
	北秋中央病院 慈仁会尾野病院 黒石病院 秋田労災病院 扇田病院 敬仁会病院 むつ総合病院	非常勤医師	池永 五月		12日 12日 12日 12日 12日 12日 12日
07年度	大館市立病院 扇田病院 秋田労災病院	非常勤医師	澤村 大輔		12日 12日 12日
	公立野辺地病院 秋田労災病院	非常勤医師	中野 創		24日 24日
	大館市立総合病院 北秋中央病院 慈仁会尾野病院 敬仁会病院	非常勤医師	松崎 康司		12日 12日 24日 24日
	公立野辺地病院 大館市立総合病院 慈仁会尾野病院 敬仁会尾野病院 西北中央病院	非常勤医師	金子 高英		12日 24日 12日 12日 12日
	大館市立総合病院 山本組合総合病院 慈仁会尾野病院 秋田労災病院 扇田病院 むつ総合病院	非常勤医師	会津 隆幸		12日 12日 12日 24日 12日 12日
	慈仁会尾野病院 三沢市立病院 公立金木病院 西北中央病院	非常勤医師	武田 仁志		24日 24日 24日 12日
	公立野辺地病院 山本組合総合病院 慈仁会尾野病院 三沢市立病院 鷹揚郷病院 公立金木病院	非常勤医師	中島 康爾		12日 12日 12日 24日 12日 12日
	北秋中央病院 慈仁会尾野病院 黒石病院 秋田労災病院 扇田病院 敬仁会病院 むつ総合病院	非常勤医師	池永 五月		12日 12日 12日 12日 12日 12日 12日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

22. 泌尿器科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ100%達成した。

これから2年間の目標：

現在のスペースを維持する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 2, 助手 5, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 3, 助教 4, 助手 0, 医員 2, 大学院学生 3, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本泌尿器科学会	評 議 員	大山 力		5日
	日本泌尿器科学会倫理委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会学務委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会賞選考委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会学術委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会専門医審議会	委 員			1日
	日本 Endourology and ESWL 学会	評 議 員			1日
	同 査読委員会	委 員			1日
	同 学術委員会	委 員			1日
	泌尿器科再建再生研究会	世 話 人			1日
	ミニマム創・内視鏡下泌尿器手術研究会	世 話 人			1日
	青森県泌尿器科研究会	代表世話人			2日
	青森県 STD 研究会	顧 問			1日
	東北腎不全研究会	幹 事			1日
	青森県骨盤外科研究会	世 話 人			1日
	更年期心身医学懇話会	世 話 人			1日
	東北内分沁研究会	世 話 人			1日
	日本老年泌尿器科学会	評 議 員			1日
	更年期心身医学懇話会	世 話 人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世 話 人			1日
	青森県内分沁研究会	世 話 人			1日
	青森県人工透析研究会	世 話 人			1日
	骨を語る会	世 話 人			1日
	臨床糖鎖研究会	代表世話人			1日
	青森県泌尿器科研究会	世 話 人	古家 琢也		1日
	青森県前立腺癌研究会	世 話 人			1日
	青森県 STD 研究会	世 話 人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世 話 人			1日
07年度	日本泌尿器科学会	評 議 員	大山 力		5日
	日本泌尿器科学会倫理委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会学務委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会賞選考委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会学術委員会	委 員			1日
	日本泌尿器科学会専門医審議会	委 員			1日
	日本 Endourology and ESWL 学会	評 議 員			1日
	同 査読委員会	委 員			1日
	同 学術委員会	委 員			1日
	泌尿器科再建再生研究会	世 話 人			1日
	ミニマム創・内視鏡下泌尿器手術研究会	世 話 人			1日
	青森県泌尿器科研究会	代表世話人			2日
	青森県 STD 研究会	顧 問			1日
	東北腎不全研究会	幹 事			1日
	青森県骨盤外科研究会	世 話 人			1日

	更年期心身医学懇話会	世 話 人			1日
	東北内分泌研究会	世 話 人			1日
	日本老年泌尿器科学会	評 議 員			1日
	更年期心身医学懇話会	世 話 人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世 話 人			1日
	青森県内分泌研究会	世 話 人			1日
	青森県人工透析研究会	世 話 人			1日
	骨を語る会	世 話 人			1日
	臨床糖鎖研究会	代表世話人			1日
	青森県泌尿器科研究会	世 話 人	古家 琢也		1日
	青森県前立腺癌研究会	世 話 人			1日
	青森県 STD 研究会	世 話 人			1日
	青森県内視鏡外科研究会	世 話 人			1日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	臨床糖鎖研究会	会 長	大山 力		1日
	青森県泌尿器科研究会	会 長			2日
	青森県前立腺癌研究会	会 長			1日
	青森県排尿障害研究会	会 長			1日
	前立腺癌セミナー	代 表			1日
	腎移植セミナー	代 表			1日
07年度	臨床糖鎖研究会	会 長	大山 力		1日
	青森県泌尿器科研究会	会 長			2日
	青森県前立腺癌研究会	会 長			1日
	青森県排尿障害研究会	会 長			1日
	前立腺癌セミナー	代 表			1日
	腎移植セミナー	代 表			1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	International Journal of Urology	編 集 委 員	大山 力		10日
	泌尿器外科	編 集 委 員			4日
	Hirosaki Medical Journal	編 集 委 員			5日
	泌尿器科紀要	編 集 委 員			7日
	International Journal of Urology	査 読	大山 力		20日
	Urology	査 読			4日
	International Journal of clinical oncology	査 読			5日
	Hirosaki Medical Journal	査 読			5日
	泌尿器科紀要	査 読			21日
	科研費審査員	審 査			14日
	International Journal of Urology	査 読	古家 琢也		3日
07年度	International Journal of Urology	編 集 委 員	大山 力		10日
	泌尿器外科	編 集 委 員			4日
	Hirosaki Medical Journal	編 集 委 員			5日
	泌尿器科紀要	編 集 委 員			7日
	International Journal of Urology	査 読	大山 力		20日
	Urology	査 読			4日
	International Journal of clinical oncology	査 読			5日
	Hirosaki Medical Journal	査 読			5日
	泌尿器科紀要	査 読			21日
	科研費審査員	審 査			14日
	International Journal of Urology	査 読	古家 琢也		3日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	産官学連携フェア見てみて聞いてみて触ってみて 弘前大学		盛 和行 古家 琢也 米山 高弘		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県総合検診センター	理 事	大山 力		5日
	青森県社会福祉審議委員	委 員			5日
	青森県腎臓バンク	運営委員長			5日
	青森県総合検診センター	委 員	古家 琢也		5日
07年度	青森県総合検診センター	理 事	大山 力		5日
	青森県社会福祉審議委員	委 員			5日
	青森県腎臓バンク	運営委員長			5日
	青森県総合検診センター	委 員	古家 琢也		5日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	プロテインチップを用いた 前立腺圧出液による前立腺癌診断	教 授	大山 力	特許申請	

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	21世紀教育		大山 力		1日
	医学部保健学科		古家 琢也		2日
07年度	21世紀教育		大山 力		1日
	医学部保健学科		古家 琢也		2日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前学院大学看護科		古家 琢也		8日
07年度	弘前学院大学看護科		古家 琢也		8日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県総合検診センター精度管理委員	委 員	大山 力		2日
	青森県総合検診センター精度管理委員	委 員	古家 琢也		2日
07年度	青森県総合検診センター精度管理委員	委 員	大山 力		2日
	青森県総合検診センター精度管理委員	委 員	古家 琢也		2日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	鷹揚郷	非常勤医師	大山 力		45日
	西北中央病院	非常勤医師	古家 琢也		45日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	大和 隆		45日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	米山 高弘		45日
	青森労災病院	非常勤医師	今井 篤		45日
	大館市立総合病院	非常勤医師	萩沢 茂		45日
	泌尿器科関連病院（手術指導）	非常勤医師	大山 力		19日
07年度	鷹揚郷	非常勤医師	大山 力		45日
	西北中央病院	非常勤医師	神村 典孝		45日
	西北中央病院	非常勤医師	古家 琢也		45日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	大和 隆		10日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	橋本 安弘		30日
	白生会胃腸病院	非常勤医師	米山 高弘		45日

青森労災病院	非常勤医師	今井 篤		45日
大館市立総合病院	非常勤医師	萩沢 茂		10日
大館市立総合病院	非常勤医師	岡本亜希子		30日
泌尿器科関連病院（手術指導）	非常勤医師	大山 力		19日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	RAB ラジオ放送「前立腺の病気」	解 説	大山 力	2006年8月12日放送	1日

23. 眼科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

70%

これから２年間の目標：

社会貢献活動にのめり込みすぎて教育・研究がおろそかにならないように国立大学らしい節度を保ち程々に貢献する

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 ， 助教授 ， 講師 ， 助手 ， 医員 ， 大学院学生 ， 研究生
07年度		教授 1， 准教授 0， 講師 1， 助教 6， 助手 0， 医員 5， 大学院学生 2， 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本眼科学会	評 議 員	中澤 満		3日
	北日本眼科学会	評 議 員			1日
	日本眼循環学会	理 事			0日
	日本網膜硝子体学会	理 事			2日
	日本糖尿病眼学会	理 事			1日
	青森県眼科医会	理 事	鈴木 幸彦		2日
07年度	みちのく緑内障懇話会	世 話 人	石川 太		2日
	日本眼科学会	評 議 員	中澤 満		2日
	日本眼科学会	専門医制度委員			8日
	日本網膜硝子体学会	理 事			5日
	日本眼循環学会	理 事			1日
	日本糖尿病眼学会	理 事			1日
	北日本眼科学会	評 議 員			1日
	北日本眼科学会	評 議 員	鈴木 幸彦		1日
	青森県眼科医会	理 事			3日

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森眼科集談会	共 催	中澤 満		2日
07年度	第46回日本網膜硝子体学会	総 会 長	中澤 満		4日
	第46回日本網膜硝子体学会	会場責任者	鈴木 幸彦		2日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前医学	編 集 長 editor reviewer	中澤 満		30日
	Jpn J Ophthalmol				30日
	Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol				4日
07年度	Japanese Journal of Ophthalmology	Section chief, section editor	中澤 満		14日
	臨床眼科	編 集 委 員			20日
	弘前医学	編集委員長			10日
	弘前大学アイバンク	理 事 長			2日
	臨床眼科	査 読 員	鈴木 幸彦		10日
	弘前大学アイバンク	理 事			1日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	市民医学講座	講 師	中澤 満		1日
	市民医学講座	相 談	鈴木 幸彦		1日

07年度	糖尿病網膜症の基本を医療スタッフに講演	講 師	中澤 満		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	県健康福祉審議会 市教育委員会	専 門 職 専 門 職	中澤 満		1日
07年度	身体障害者福祉法第15条委員 身体障害者福祉法第19条委員 特定疾患審査委員 小児がん委員 青森県臓器移植推進大会	委 員 委 員 委 員 委 員 共 催	中澤 満		2日 1日 12日 1日 1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	眼底写真の動画による観察	監 修	中澤 満		数日

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	東北黄斑研究会（ノバルティス） 東北6大学ステップアップセミナー（ファイザー） 青森眼科セミナー（参天） 青森眼科フォーラム（千寿） Rohto Award 選考（ロート） Pfeizer Award 選考（ファイザー） 青森糖尿病代謝懇話会 ボシュロムジャパン網膜硝子体リサーチフェ ロー選考	顧 問 世 話 人 座 長 座 用 審 査 員 審 査 員 世 話 人 選 考 委 員	中澤 満		4日 2日 1日 1日 2日 2日 2日 1日

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	保健学科	非常勤講師	鈴木 幸彦		2日
	保健学科	非常勤講師	石川 太		1日
	教育学部				8日
	保健学科	非常勤講師	山崎 仁志		3日
07年度	21世紀教育	教 授	中澤 満		3日
	保健学科	講 師	鈴木 幸彦		2日
	保健学科	助 教	山崎 仁志		2日
	教育学部養護教諭養成課程 臨床医科学眼科	助 教	目時 友美		7日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	臓器移植コーディネイター講義	講 師	鈴木 幸彦		1日
07年度	第2回東北6大学ステップアップセミナー	教 授	中澤 満		2日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学教育学部附属小中学校幼稚園		鈴木 幸彦		1日
	城東小学校		石川 太		1日
	小沢小学校		山崎 仁志		1日
	三和小・致遠小・野辺地高・六ヶ所高・ 浪岡小・浪岡中・草薙小		目時 友美		4日 3日
	草薙小・船沢小		伊藤 忠		2日
	転出のため不明		間宮 和久		不明
	石川小・石川中・自得小		鈴木 香		3日

07 年度	横浜町小中学校の定期検診	講 師	鈴木 幸彦	すべて校医として	1 日
	小沢小学校	助 教	山崎 仁志		2 日
	三和小学校	助 教	目時 友美		2 日
	浪岡町小学校，中学校	助 教			2 日
	草薙小学校	助 教			2 日
	野辺地高校	助 教			2 日
	六ヶ所高校	助 教			2 日
	青森県立浪岡養護学校	助 教	宮川 靖博		2 日
	弘前市立東目屋小学校	助 教			2 日
青柳小学校，大和沢小学校	助 教	伊藤 忠	2 日		
光星学院野辺地西高校	助 教	鈴木 香	1 日		

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	松丘保養園	非常勤医師	中澤 満	1 週間の日数	1 日
	金木病院・野辺地病院	非常勤医師	鈴木 幸彦		2 日
	北秋中央病院・七戸病院	非常勤医師	石川 太		2 日
	三戸中央病院・十和田市立中央病院	非常勤医師	山崎 仁志		2 日
	板柳中央病院・平内中央病院・小坂	非常勤医師	目時 友美		2.5 日
	北秋中央病院・鶴田病院・七戸病院	非常勤医師	伊藤 忠		2 日
	転出のため不明	非常勤医師	間宮 和久		不明
	鶴田病院・野辺地病院・小坂・鯨ヶ沢	非常勤医師	鈴木 香		2 日
07 年度	松丘保養園非常勤医師	教 授	中澤 満	すべて非常勤医師 として	50 日
	公立野辺地病院	講 師	鈴木 幸彦		50 日
	公立金木病院	講 師			50 日
	三戸町立中央病院	助 教	山崎 仁志		50 日
	十和田市立中央病院	助 教			50 日
	板柳中央病院	助 教	目時 友美		50 日
	平内中央病院	助 教			50 日
	小坂町診療所	助 教			50 日
	鯨ヶ沢町立中央病院	助 教	宮川 靖博		80 日
	公立米内沢総合病院	助 教			80 日
	鶴田町立病院	助 教	伊藤 忠		80 日
	公立七戸病院，三戸中央病院，大鰐町立病院	助 教	鈴木 香		120 日
鶴田町立中央病院	助 教	50 日			
公立野辺地病院	助 教	50 日			
小坂町診療所	助 教	50 日			
むつ総合病院	助 教	1 日			

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

24. 耳鼻咽喉科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

学会活動：日本専門医認定機構の専門医制度整備指針に基づき耳鼻咽喉科専門医制度の改革を行う。 80%

社会活動：機会があれば、積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。特に耳の日には、一般人に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。 60%

これから2年間の目標：

学会活動：日本専門医認定機構の専門医制度整備指針に基づき耳鼻咽喉科専門医制度の改革を行う。

社会活動：機会があれば、積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。特に耳の日には、一般人に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 2, 講師 0, 助手 4, 医員 5, 大学院学生 3, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 2, 講師 0, 助教 5, 助手 0, 医員 3, 大学院学生 2, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本耳鼻咽喉科学会	理 事	新川 秀一	東京ほか	9日
	日本耳鼻咽喉科学会専門医認定試験	副 長		東京	3日
	第16回日本耳科学会	会 長		東京	4日
	耳鼻咽喉科臨床学会 常任運営委員会	委 員		京都ほか	4日
	日本耳科学会理事会	会 長 幹 事	松原 篤	東京	3日
	日本アレルギー協会東北支部会	世 話 人		仙台	1日
07年度	気道疾患対策会議	幹 事		仙台	1日
	日本耳鼻咽喉科学会 福祉医療・成人老年委員会	臨 時 委 員	南場 淳司		5日
	日本耳鼻咽喉科学会	理 事	新川 秀一	東京ほか	9日
	日本耳鼻咽喉科学会専門医認定試験	副 長		東京	3日
	耳鼻咽喉科臨床学会 常任運営委員会	委 員		京都ほか	4日
	日本アレルギー学会	代 議 員	松原 篤	横浜	2日
07年度	日本アレルギー協会東北支部会	幹 事		仙台	1日
	気道疾患対策会議	世 話 人		盛岡	2日
	日本耳鼻咽喉科学会 福祉医療・成人老年委員会	臨 時 委 員	南場 淳司		2日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会学術講演会	会 長	新川 秀一	青森・弘前・八戸	3日
	第16回日本耳科学会総会学術講演会			青森	3日
	第55回日本耳鼻咽喉科学会東北地方部会連合学術講演会			弘前	2日
07年度	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会 学術講演会	会 長	新川 秀一	青森・弘前・八戸	3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本耳鼻咽喉科学会	査 読	新川 秀一		
	日本耳科学会				
	耳鼻咽喉科臨床学会				
	耳鼻と臨床				
	Tohoku Med J				

	Neuroreport Tohoku J. Exp. Med アレルギー	審 査 員	松原 篤	各 1 件	
07 年度	日本耳鼻咽喉科学会 日本耳科学会 耳鼻咽喉科臨床学会 耳鼻と臨床 Tohoku Med J	査 読	新川 秀一		
	Neuroscience Letter	審 査 員	松原 篤	1 件	

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07 年度	アレルギー市民公開講座 in 弘前	講 師	松原 篤	弘前	1 日
	弘前聾学校 家庭教育学級	講 師	南場 淳司		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	青森県社会福祉審議会 西北五地域中核病院建設用地 選定委員会	委 員	新川 秀一		
	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会 青森県社会保険診療支払基金 NPO 花粉情報協会	指 定 医 理 事 審 委 員 理 事	松原 篤		
	青森県立弘前聾学校	評 議 委 員	南場 淳司		2 日
07 年度	青森県社会福祉審議会 西北五地域中核病院建設用地 選定委員会	委 員	新川 秀一		
	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会 NPO 花粉情報協会 青森県社会保険診療支払基金	指 定 医 理 事 理 事 審 委 員	松原 篤		1 日 30 日 2 日
	青森県立弘前聾学校	評 議 委 員	南場 淳司		2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科 臨床生理学・平衡機能検査 臨床実習・生理学	非常勤講師	松原 篤	教育学部 保健学科 保健学科	7 日 2 日 7 日
	成人看護学演習	非常勤講師	欠畑 誠治		2 日
07 年度	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科 臨床生理学・平衡機能検査 臨床実習・生理学	非常勤講師	松原 篤	教育学部 保健学科 保健学科	7 日 2 日 7 日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	耳鼻咽喉科学講義	非常勤講師	新川 秀一	東北大学 岩手医科大学	1 日 1 日
	耳鼻咽喉科学講義	非常勤講師	松原 篤	信州大学医学部	1 日

07年度	耳鼻咽喉科学講義	非常勤講師	新川 秀一	東北大学 岩手医科大学	1日 1日
	五所川原市立高等看護学院	助 教	佐々木 亮		

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立七戸養護学校	学 校 医	欠畑 誠治		2日
	青森県立七戸高校				
	青森県立青森聾学校	学 校 医	南場 淳司		4日
	青森県立弘前聾学校				
07年度	青森県立青森聾学校	学 校 医	南場 淳司		4日
	青森県立弘前聾学校				
	光星学院野辺地西高等学校	学 校 医	佐々木 亮		
	青森県立六ヶ所高等学校				

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	板柳町立中央病院	嘱 託 医	新川 秀一		1日/週
	青森県身体障害者更生相談所				
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原 篤		1年間
	公立七戸病院	非常勤医師	欠畑 誠治		1年間
	弘前市市立病院				
	大鰐町立中央病院	非常勤医師	丸屋信一郎		1年間
	黒石病院				
	黎明郷リハビリテーション病院				
07年度	青森労災病院	非常勤医師	二井 一則		1年間
	公立米内沢病院				
	板柳町立中央病院	嘱 託	新川 秀一		1日/週
	青森県身体障害者更生相談所				
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原 篤		1日/週
	七戸病院	非常勤医師	欠畑 誠治		1日/週
	弘前市市立病院				
	鯺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	南場 淳司		2日/週
	西北中央病院				
	国保黒石病院				
	十和田市立中央病院				
	公立米内沢総合病院	非常勤医師	二井 一則		1日/週
	青森労災病院				
	黎明郷リハビリテーション病院				
	公立野辺地病院	非常勤医師	佐々木 亮		1日/週
	青森市立浪岡病院				
	黒石病院				
	西北中央病院				

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	MEDICAL TRIBUNE	助 教 授	松原 篤	2006年12月28日 記事掲載	

25. 放射線科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

1) 必要とされる社会貢献を，できる範囲で行っていく。

80%

これから２年間の目標：

1) 必要とされる社会貢献を，できる範囲で行っていく。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 2, 講師 1, 助手 4, 医員 3, 大学院学生 5, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 2, 講師 2, 助教 3, 助手 0, 医員 1, 大学院学生 5, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本医学放射線学会	代 議 員	阿部 由直	横浜	1日
	日本医学放射線学会	専門医認定医委員		東京, 横浜,	6日
	日本医学放射線学会	放射線防護委員会		福岡	2日
	日本放射線腫瘍学会	評 議 員		横浜, 福岡	1日
	日本放射線腫瘍学会	医療安全委員会		仙台	2日
	日本核医学会	評 議 員		横浜, 仙台	1日
	日本放射線影響学会	評 議 員		東京	1日
	日本肺癌学会	評 議 員		札幌	1日
	日本肺癌学会	将来計画委員会		京都	1日
	日本医学放射線学会生物部会	代表幹事		京都	1日
	高精度定位体幹部照射研究会	世 話 人		弘前	1日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世 話 人		東京	2日
	日本核医学会北日本地方会	世 話 人		仙台, 秋田	2日
	青森県医師会	裁 定 委 員		仙台, 秋田	0日
	日本医学放射線学会	代 議 員	小野 修一	横浜	1日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世 話 人		秋田, 仙台	2日
	日本核医学会北日本地方会	世 話 人		秋田, 仙台	2日
07年度	第19回青森呼吸器研究会	世 話 人	青木 昌彦	青森	7日
	第11回北奥羽放射線治療懇話会			八幡平	
	第14回高精度外部照射研究会			札幌	
	第15回高精度外部照射研究会			東京	
	青森県核医学研究会	世 話 人	三浦 弘行	弘前	1日
	東北脳神経血管内治療研究会	世 話 人	長畑 守雄		1日
	日本医学放射線学会	代 議 員	阿部 由直	横浜	1日
	日本医学放射線学会	専門医認定委員会		東京, 横浜,	6日
	日本医学放射線学会	放射線防護委員会		福岡	
	日本放射線腫瘍学会	理 事		横浜, 福岡	2日
	日本放射線腫瘍学会	評 議 員		東京	1日
	日本放射線腫瘍学会	医療安全委員会		仙台	1日
	日本核医学会	評 議 員		横浜, 仙台	1日
	日本放射線影響学会	評 議 員		東京	1日
	日本肺癌学会	評 議 員		千葉	1日
	日本肺癌学会	将来計画委員会		名古屋	1日
	日本医学放射線学会生物部会	代表幹事		名古屋	
	高精度定位体幹部照射研究会	世 話 人		東京	1日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世 話 人		東京	1日
	日本核医学会北日本地方会	世 話 人		仙台, 福島	2日
	青森県医師会	裁 定 委 員		仙台, 福島	2日
	日本医学放射線学会	代 議 員	小野 修一		1日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世 話 人			2日
	日本核医学会北日本地方会	世 話 人			2日

07年度	青森呼吸器研究会	幹事	青木 昌彦	青森	1日
	北奥羽放射線治療懇話会	幹事		八幡平	2日
	青森がん放射線治療研究会	世話人		弘前	1日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世話人		仙台	1日
	放射線治療計画ガイドライン作成委員会	委員		横浜	1日
	JASTRO 将来計画セミナー	委員		東京	1日
	青森核医学研究会	世話人・事務局	三浦 弘行	弘前	1日
	東北脳循環カンファランス	世話人代理		仙台	1日
	東北脳神経血管内治療研究会	世話人	長畑 守雄		2日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第36回放射線による制癌シンポジウム—基礎と臨床の対話—	世話人	阿部 由直	弘前市	1日
	第45回日本医学放射線学会生物部会学術大会	大会長		弘前市	1日
	第45回日本肺癌学会東北支部会	大会長		弘前市	1日
	第32回日本呼吸器内視鏡学会東北支部会	大会長		弘前市	1日
	北日本放射線診断カンファランス	当番世話人	小野 修一	秋田	1日
	第36回放射線による制癌シンポジウム	事務局	青木 昌彦	弘前	2日
	第45回日本医学放射線学会生物部会				
07年度	青森県核医学研究会 事務局	講師	三浦 弘行	弘前	1日
	第12回北奥羽放射線治療懇話会	幹事	青木 昌彦	八幡平	2日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	J Radiat Res	査読委員	阿部 由直	6件	
	Int J Clin Oncol			1	
	Jap J Clin Oncol			3	
	肺癌学会誌			1	
	Radiation Medicine			1	
	Radiation Medicine	査読	小野 修一		2日
	日本医学放射線学会総会	査読			1日
07年度	UROLOGY	査読	青木 昌彦		1日
	Annals of Nuclear Medicine	査読	三浦 弘行		1日
	Radiation Medicine 誌	査読	長畑 守雄		4日
	J Radiat Res	Associate Editor (A-E) 編集委員会 A-E 編集委員会 査読委員 査読委員 査読委員	阿部 由直	6件	1日 1日
	Int J Clin Oncol			1件	
	Jap J Clin Oncol			1件	
	Cancer Science			1件	
	Radiation Medicine			3件	
	Radiation Medicine	査読	小野 修一		1日
	日本核医学会総会	査読			1日
	日本放射線腫瘍学会誌	査読	青木 昌彦	5件	5日
	Radiation Medicine 誌	査読	長畑 守雄		6日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ（除染コース・搬送コース）」放射線事故の歴史と放射線防護	講師	阿部 由直	むつ市	1日
	長崎県「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ（除染コース・搬送コース）」放射線事故の歴史と放射線防護（放射線の基礎知識）			長崎市	1日

07年度	青森県「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ（除染コース・搬送コース）」放射線事故の歴史と放射線防護	講 師		むつ市	1日
	「放射線治療の現状」鍼灸マッサージ会生涯教育講座	講 師	阿部 由直	五所川原市	1日
	第1回弘大病院がん診療市民公開講座	座 長		弘前市	1日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	代表世話人 世 話 人 講 師	小野 修一		2日
	SCC				6日
	東北胸部放射線研究会				1日
	宮城 CT 診断・技術研究会				1日
	あおば画像研究会				1日
	宮城総合画像研究会				1日
	青森呼吸器研究会				1日
	青森核医学研究会				1日
	病理と放射線の夕べ				1日
	八戸市医師会研修会				1日
	バイエル薬品 東北地区研修会				1日
	青森県肺癌検診読影従事者指導講習会				1日
	第1回弘大病院がん診療市民公開講座	講 師	青木 昌彦	弘前	1日
	弘大病院 がん診療の特徴と実績（平成19年度版）	執 筆			1日
	第1回三沢病院がん治療研修会	講 師		三沢	1日
	平成19年度科学研究費補助金山田班	研究分担者		松島	2日
	西北五地区精神科医会における講演	講 師	三浦 弘行		1日
	第6回青森県脳卒中フォーラム教育講演	講 師	長畑 守雄		1日
	第2回青森 CT/MRI 診断・技術研究会教育講演	講 師			1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県小児がん等がん調査委員会	委 員	阿部 由直	青森	2日
	青森県原子燃料サイクル施設環境放射線等監視評価会議			青森	3日
	青森県緊急被ばく検討委員会			青森	2日
	青森県緊急被ばく医療ネットワーク調査検討委員会			青森	2日
	HIMAC 共同利用研究課題採択評価部会委員（放医研）			千葉	4日
	科学研究費委員会専門委員			ネット	5日
	原子力委員会研究開発専門部会原子力試験研究検討会			東京	3日
07年度	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	代表世話人 世 話 人 講 師	小野 修一	弘前	1日
	SCC			仙台	6日
	東北胸部放射線研究会			新潟	1日
	あおば画像研究会			仙台	1日
	宮城総合画像研究会			仙台	1日
	青森呼吸器研究会			青森	1日
	青森核医学研究会			弘前	1日
	病理と放射線の夕べ			弘前	2日
	東京都リウマチ膠原病懇話会			東京	1日
	仙南呼吸器懇話会	委 員	阿部 由直	角田	1日
	福島呼吸器疾患研究会			福島	1日
	岩手びまん性肺疾患研究会			盛岡	1日
	日本呼吸器学会東北地方会			弘前	1日
	研修医のためのプライマリ・ケア セミナー			弘前	1日
	青森県小児がん等がん調査委員会			青森	2日
	青森県原子燃料サイクル施設環境放射線等監視評価会議			青森	3日
	青森県緊急被ばく検討委員会			青森	2日
	青森県がん医療検討委員会			青森	2日
	青森県緊急被ばく医療ネットワーク調査検討委員会			青森	2日
	科学研究費委員会専門委員			ネット	5日
	原子力委員会研究開発専門部会原子力試験研究検討会			東京	2日
	地方じん肺診査医（青森労働局）			弘前	8日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	限局型前立腺癌に対するシード線源永久挿入療法の導入・研修および実施 遠隔放射線治療計画支援システム構築		青木 昌彦	東京・院内	4日
				院内	2日

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	がん専門薬剤師研修セミナー	講 師	阿部 由直	大学病院	1日
	がん専門薬剤師研修事業	指 導 講 師	青木 昌彦	大学病院	24日
07年度	21世紀教育・最新医学の現状 M	講 師	青木 昌彦	本学	3日
	21世紀教育	講 師	三浦 弘行		2日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学職員検診	産 業 医	阿部 由直	胸部検診	6日
07年度	弘前大学職員検診	産 業 医	阿部 由直	胸部検診	6日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	独立法人国立病院機構弘前病院	非 常 勤 医	阿部 由直	弘前	52日
	八戸市立八戸市民病院	非 常 勤 医	小野 修一	八戸	50日
	国保黒石病院			黒石	50日
	先端機能画像医療研究センター			弘前	13日
	青森県立中央病院	非 常 勤 医	青木 昌彦	青森市	48日
	三沢市立三沢病院			三沢市	48日
	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤 医	三浦 弘行	五所川原	96日
	特定非営利法人国際総合研究機構			弘前	48日
	黒石市国保黒石病院 弘前脳卒中センター 青森市民病院 NPO 法人国際総合研究機構	非 常 勤 医	長畑 守雄	黒石 弘前 青森 弘前	48日 48日 3日 48日
	大館市立総合病院	非 常 勤 医	大畑 崇	大館市	50日
07年度	独立法人国立病院機構弘前病院	非 常 勤 医	阿部 由直		52日
	八戸市立八戸市民病院	非 常 勤 医	小野 修一		50日
	国保黒石病院				50日
	先端機能画像医療研究センター				50日
	三沢病院	非 常 勤 医	青木 昌彦	三沢	44日
	大館市立総合病院			大館	47日
	西北中央病院における非常勤診療 特定非営利活動法人国際総合研究機構	非 常 勤 医	三浦 弘行		100日 50日
	黒石市国保黒石病院 弘前脳卒中センター 青森市民病院 NPO 法人国際総合研究機構 大館市立総合病院 山形市立病院 済生館	非 常 勤 医	長畑 守雄		毎週 毎週 不定期 毎週 不定期 不定期

むつ総合病院 青森県立中央病院	非 常 勤 医	場 崎 潔		100日 60日
青森市民病院	非 常 勤 医	畑 山 佳 臣	青森市	100日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学本町地区産業医		阿部 由直	職場巡視	10日
07年度	弘前大学本町地区産業医	産 業 医	阿部 由直	職場巡視	10日
	「前立腺癌に対するシード線源永久挿入療法開始」東奥日報，陸奥新報	取 材 協 力	青木 昌彦		1日
	「ひろだい病院ガイド」陸奥新報				1日
	「つなぎとめる命」東奥日報				1日

26. 産科婦人科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

人員の制限はあったが可能な限りの社会貢献をおこなった。

これから2年間の目標：

現状のさらなる発展をめざし努力する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 2, 助手 4, 医員 0, 大学院学生 6, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 5, 研究生 2

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本産科婦人科学会	代 議 員	水沼 英樹	東京	10日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委 員 長		東京	4日
	日本更年期医学会	理 事 長		東京	5日
	日本受精着床学会	理 事 長		長野	2日
	日本母性衛生学会	理 事 長		東京	2日
	日本女性心身医学会	理 事 長		東京	1日
	日本内分泌学会	代 議 員		東京	2日
	日本骨代謝学会	評 議 員		東京	1日
	日本癌治療学会			東京	1日
	日本不妊学会	評 議 員		大阪	3日
	日本骨粗鬆症学会	評 議 員		東京	3日
	青森県臨床産婦人科医会	会 長		青森	5日
	Healthy Aging Projects for Women	理 事		東京	2日
	日本産婦人科医会研修委員会	委 員	藤井 俊策	東京	16日
	日本哺乳動物卵子学会編集委員会	委 員		東京	3日
	日本哺乳動物卵子学会培地作成委員会	委 員		東京	3日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委 員		東京	1日
	日本不妊学会	評 議 員		大阪	1日
	日本不妊学会東北支部会	評 議 員		東京	1日
	日本生殖免疫学会	評 議 員		東京	1日
	日本産婦人科内視鏡学会技術認定制度	審 査 員		弘前	1日
	日本産婦人科内視鏡学会	評 議 員		東京	1日
	日本不妊予防協会	評 議 員		東京	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世 話 人		青森	1日
	青森県 STD 研究会	世 話 人		青森	1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世 話 人		仙台	1日
	青森県臨床産婦人科医会	理 事		青森	5日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委 幹 事	樋口 毅		4日
	日本更年期医学会				5日
	日本婦人科腫瘍学会	評 議 員	横山 良仁		6日
	東北婦人科腫瘍研究会	幹 事 人			12日
	青森婦人科化学療法研究会	世 話 人			2日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世 話 人	福井 淳史		1日
07年度	日本産科婦人科学会	代 議 員	水沼 英樹	京都他	10日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委 員		東京	5日
	日本産科婦人科学会学術委員会	委 員		東京	3日
	日本産科婦人科学会教育委員会	委 員		東京	3日
	日本更年期医学会	理 事 長		東京	7日
	日本受精着床学会	理 事 長		仙台	2日
	日本母性衛生学会	理 事 長		東京	2日
	日本女性心身医学会	理 事 長		京都	1日
	日本内分泌学会	代 議 員		東京	2日
	日本骨代謝学会	評 議 員		大阪	2日

	日本癌治療学会			東京	1日
	日本生殖医学学会	評 議 員		秋田	4日
	日本骨粗鬆症学会	評 議 員		東京	3日
	青森県臨床産婦人科医会	会 長		青森	5日
	Healthy Aging Projects for Women	理 事		東京	2日
	日本産婦人科医会研修委員会	委 員		東京	16日
	日本哺乳動物卵子学会編集委員会	委 員		東京	3日
	日本哺乳動物卵子学会培地作成委員会	委 員		東京	3日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委 員		東京	3日
	日本不妊学会	評 議 員		大阪	1日
	日本不妊学会東北支部会	評 議 員		東京	1日
	日本生殖免疫学会	評 議 員		東京	1日
	日本産婦人科内視鏡学会技術認定制度	審 査 員	藤井 俊策	弘前	1日
	日本産婦人科内視鏡学会	評 議 員		東京	1日
	日本不妊予防協会	評 議 員		東京	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世 話 人		青森	1日
	青森県 STD 研究会	世 話 人		青森	1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世 話 人		仙台	1日
	青森県臨床産婦人科医会	理 事		青森	5日
	日本産科婦人科学会生殖内分泌委員会	委 員			5日
	日本更年期医学会	幹 事	樋口 毅		5日
	婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構	監 査 委 員			6日
	日本婦人科腫瘍学会	評 議 員	横山 良仁		6日
	東北婦人科腫瘍研究会	幹 事			12日
	東北産婦人科内視鏡懇話会	世 話 人	福井 淳史		1日
	青森県臨床細胞学会	理 事	二神 真行		1日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県臨床産婦人科医会	会 長			5日
	青森県周生期医療研究会	会 長	水沼 英樹		1日
	青森婦人科癌化学療法研究会	世 話 人			1日
	婦人科骨粗鬆症研究会	代表世話人			1日
07年度	青森県臨床産婦人科医会	会 長			5日
	青森県周生期医療研究会	会 長	水沼 英樹		1日
	青森婦人科癌化学療法研究会	世 話 人			1日
	婦人科骨粗鬆症研究会	代表世話人			1日
	Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction & Reproductive Biology	会 長			3日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	編 集 委 員			2日
	骨粗鬆症治療	編 集 委 員	水沼 英樹		2日
	J Bone & Mineral Metab	査 読 員			6日
	J Obstet Gynecol Res	な し		査読	4日
	J Mammalian Ova Research	編 集 委 員	藤井 俊策	編集・査読	7日
	青森臨産婦誌	編 集 委 員		編集	14日
	日本産婦人科医会研修ノート	研 修 委 員		編集	10日
	日本更年期医学会雑誌	査 読	樋口 毅		1日
	Eur J Gynaecol Oncol	審 査 員	横山 良仁		7日
	American Journal of Reproductive Immunology の査読	Reviewer	福井 淳史	9 論文	63日 (7日×9本)
07年度	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	編 集 委 員			2日
	骨粗鬆症治療	編 集 委 員	水沼 英樹		2日
	J Bone & Mineral Metab	査 読 員			4日
	J Obstet Gynecol Res	な し		査読	4日
	J Mammalian Ova Research	編 集 委 員	藤井 俊策	編集・査読	7日
	Reporod Med Biol	な し		査読	7日
	青森臨産婦誌	編 集 委 員		編集	14日
	日本産婦人科医会研修ノート	研 修 委 員		編集	10日

	日本更年期医学会雑誌	査 読	樋口 毅		
	European Journal of Gynaecological Oncology	編 集 員			7日
	Journal of Obstet Gynaecol Res	審 査 員			7日
	Med Sci Monit	審 査 員			7日
	Arch Gynecol Obstet	審 査 員	横山 良仁		7日
	Gynecol Obstet Invest	審 査 員			7日
	Nutrition J	審 査 員			7日
	Clin Med	審 査 員			7日
	Cancer Therapy	審 査 員			7日
	Editorial board of American Journal of Reproductive Immunology	Editorial board member	福井 淳史	10論文査読および編集会議参加	73日(7日×10本+会議参加)

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	不妊専門相談センター研修会	講 師	藤井 俊策	青森	1日
	日本産科婦人科学会市民公開講座	講 師	樋口 毅		1日
	青森県更年期心身医療懇話会市民公開講座				1日
07年度	不妊専門相談員研修会	講 師	藤井 俊策	青森	1日
	市民公開講座			むつ	1日
	日本産科婦人科学会市民公開講座	講 師	樋口 毅		1日
	青森県更年期心身医療懇話会市民公開講座				1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県総合健診センター	理 事 員			1日
	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会	委 員			1日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委 員	水沼 英樹		1日
	東北地方における産婦人科医療のあり方に関する検討会	委 員			2日
	日本学術振興会科学研究費委員会	専 門 委 員			1日
	青森県骨密度判定委員会	委 員	樋口 毅		1日
	マンモグラフィー読影委員会				10日
07年度	青森県総合健診センター	理 事 員			1日
	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医療対策専門部会	委 員	水沼 英樹		1日
	青森県生活習慣病検診管理指導協議会	委 員			2日
	日本学術振興会科学研究費委員会	専 門 委 員			1日
	厚労省女性の健康づくり推進懇談会	委 員			2日
	青森県骨密度判定委員会	委 員	樋口 毅		1日
	マンモグラフィー読影委員会				10日
	子宮がん検診管理指導委員会	委 員	横山 良仁		2日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	都市エリア産官学連携事業	研 究 者	樋口 毅		
07年度	都市エリア産官学連携事業	研 究 分 担	樋口 毅		

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	21世紀教育	講 師	藤井 俊策	弘前	3日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

該当なし。

(10) 学校医、種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	藤井 俊策	青森県内	5日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	検 診 医	横山 良仁		5日
07年度	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	藤井 俊策	青森県内	5日
	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	横山 良仁	青森県内	5日
	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	樋口 毅	青森県内	
	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	二神 真行	青森県内	
	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	山本 善光	青森県内	
	青森県総合検診センター (子宮癌・卵巣癌検診)	検 診 医	木村 秀崇	青森県内	7日

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	公立野辺地病院	非常勤医師	藤井 俊策	野辺地	23日
	野辺地病院	非常勤医師	樋口 毅		
	大館中央総合病院 黒石市民病院				
	十和田市立中央病院	非常勤医師	横山 良仁		24日
	大館市立総合病院	副 部 長	福井 淳史		6ヶ月
	十和田市立中央病院	非常勤医師	二神 真行		
	十和田市立中央病院	非常勤医師	山本 善光		24日
	青森労災病院, 岩手県立一戸病院, 弘前市立病院, 黒石病院	非常勤医師	木村 秀崇		60日
07年度	公立野辺地病院	非常勤医師	藤井 俊策		23日
	野辺地病院	非常勤医師	樋口 毅		
	大館中央総合病院 黒石市民病院				
	十和田市立中央病院	非常勤医師	横山 良仁		24日
	十和田市立中央病院 大館市立総合病院 黒石病院	非常勤医師	福井 淳史		60日
	西北中央病院				
	大館市立病院 黒石病院 西北中央病院	非常勤医師	二神 真行		
	十和田市立中央病院				
	弘前市立病院 黒石病院 大館市立病院 西北中央病院	非常勤医師	山本 善光		24日
		非常勤医師	木村 秀崇		60日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第13回 JGOG 海外派遣	研 究 員	横山 良仁	Division of Gynecologic Oncology, UCI Medical Center	10日
	Rosalind Franklin University of Medicine and Science / The Chicago Medical School, North Chicago, IL USA にて研究	Research Fellow	福井 淳史		6ヶ月

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	更年期と加齢のヘルスケア研究会公開プレスセミナー	教 授	水沼 英樹	東京	1日
	公立野辺地病院	非常勤医師	藤井 俊策	野辺地	23日

27. 麻酔科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- ①学外の医学教育にも可能な限り協力するとともに麻酔科領域の、学会活動、教育・啓蒙活動を展開する。
→学外での講義を担当するとともに、日本麻酔科学会および日本ペインクリニック学会の東北地方会を開催した。市民公開講座も行った。
 - ②救急救命士に対する気管挿管手技についての講義や、実習の充実と青森県内での BLS, ACLS の普及に努める。
→救急救命士の気管挿管実習を積極的に受け入れた。
 - ③超音波ガイド下末梢神経ブロックの手技の普及、教育。
→県内だけでなく、全国での普及に努めた。
 - ④今後も麻酔科学から見た医療安全の向上に努める。
→麻酔科領域の診療をの visualization を推進した。
 - ⑤地域病院の麻酔支援も引き続いて行うとともに地域医療のあり方についても提言していく。
→人員が増えない中で、県内の手術件数の維持増加に貢献した。
- 以上より 100% の到達度といえる。

これから2年間の目標：

- ①学外の医学教育にも可能な限り協力するとともに麻酔科領域の、学会活動、教育・啓蒙活動を展開する。
- ②救急救命士に対する気管挿管手技についての実習の充実に努める。
- ③超音波ガイド下末梢神経ブロックおよび中心静脈穿刺の手技の普及、教育に努める。
- ④今後も麻酔科学から見た医療安全の向上に努める。
- ⑤地域病院の麻酔支援も引き続いて行うとともに地域医療のあり方についても提言していく。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 2, 助手 4, 医員 11, 大学院学生 5, 研究生 1
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 2, 助教 4, 助手 0, 医員 10, 大学院学生 5, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本麻酔科学会代議員会	代 議 員		神戸, 旭川	2日
	日本麻酔科学会機関誌編集委員会	編 集 委 員		神戸, 東京, 旭川	3日
	日本麻酔科学会北海道東北支部理事会	理 事		東京	2日
	日本麻酔科学会専門医認定委員会筆記試験問題作成部会	作 成 委 員		東京	6日
	日本麻酔科学会専門医認定委員会	試 験 官	廣田 和美	神戸	3日
	日本ペインクリニック学会評議員会	評 議 員		神戸	1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会世話人会	世 話 人		盛岡	1日
	日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会評議員会	評 議 員		大阪	1日
	日本集中治療医学会東北地方会評議員	評 議 員		盛岡	1日
	日本集中治療医学会会則検討委員会	委 員	石原 弘規	神戸	1日
07年度	つがる緩和医療を考える会	世 話 人		弘前	2日
	青森緩和医療研究会	世 話 人	佐藤 哲観	青森	2日
	青函ペインクリニック研究会	世 話 人		青森	1日
	日本超音波区域麻酔研究会	評 議 員	北山 真任	大阪	1日
	日本麻酔科学会代議員会	代 議 員			2日
07年度	日本麻酔科学会機関誌編集委員会	編 集 委 員			4日
	日本麻酔科学会北海道東北支部理事会	理 事			2日
	日本麻酔科学会専門医認定委員会	試 験 官	廣田 和美		9日
	日本ペインクリニック学会評議員会	評 議 員			1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会世話人会	世 話 人			1日
	日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会評議員会	評 議 員			1日

	日本集中治療医学会東北地方会評議員会 循環制御医学会	評 議 員 評 議 委 員	廣 田 和 美		1日 1日
	日本集中治療医学会会則検討委員会	委 員	石 原 弘 規		1日
	日本ペインクリニック学会東北地方会 つがる緩和医療を考える会	世 話 人 世 話 人	佐 藤 哲 観		1日 2日
	青函ペインクリニック研究会	世 話 人			1日
	日本区域麻酔研究会	評 議 員	北 山 真 任		2日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前国際医学フォーラム	実行委員会委員	廣 田 和 美	弘 前	3日
	第25回青森県集中治療研究会				1日
	第4回青森県 SIRS 研究会				1日
	第20回青森県青函ペインクリニック研究会				1日
	第41回青森県臨床麻酔研究会				1日
	第11回青森県周術期セミナー				1日
07年度	第64回日本麻酔科学会東北地方会	会 長	廣 田 和 美	青 森 市	1日
	第30回青森骨盤外科研究会	当番世話人			1日
	第32回日本ペインクリニック学会東北地方会	会 長			1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	British Journal of Anaesthesia	国際編集委員	廣 田 和 美	12 査読	120日
	Journal of Anesthesia	編 集 委 員		15 査読	150日
	Anesthesiology	査 読 員		1 査読	10日
	Anesth Analg	査 読 員		1 査読	10日
	弘前国際医学フォーラム Proceeding	編 集 委 員		1 冊	100日
	Anesth Analg	査 読 員	石 原 弘 規	1 査読	1日
	J Applied Physiol	査 読 員		1 査読	1日
	Medical Science Monitor	査 読 員		1 査読	1日
	Tohoku Medical Journal	査 読 員		1 査読	1日
	日本集中治療医学会雑誌	査 読 員		4 査読	4日
07年度	British Journal of Anaesthesia	査 読 員	櫛 方 哲 也	1 査読	10日
	British Journal of Anaesthesia	国際編集委員	廣 田 和 美	10 査読	30日
	Journal of Anesthesia	編 集 委 員		12 査読	36日
	Anesthesiology	査 読 員		2 査読	6日
	Anesth Analg	査 読 員		2 査読	6日
	日本臨床麻酔学会誌	査 読 員		3 査読	6日
	学会誌の査読（Crit Care Med 2 編, Anesth Analg 1 編, Med Sci Monit 3 編, 日本集中治療医学会雑誌 4 編）	査 読 委 員	石 原 弘 規		12日
	British Journal of Anaesthesia Journal of Anesthesia	審 査 員 審 査 員	櫛 方 哲 也	1 件査読 1 件査読	10日 15日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前弓道会	副 会 長	工 藤 剛	弘 前	200日
	弘前大学弓道部	師 範		弘 前	10日
	弘前高校弓道部	コ ー チ		弘 前	50日
	緩和医療に関する教育講演	講 師	佐 藤 哲 観	青 森	3日
				福 岡	1日
				広 島	1日
				宮 崎	1日
				仙 台	1日
				富 山	1日
	平成18年度心肺蘇生法実技講習会	講 師	橋 本 浩	青 森	1日
	他病院において「ICU からみた呼吸管理のリスク マネジメント」講義		石 原 弘 規	むつ, 大館, 五所川原	3日

07年度	日本麻酔科学会市民公開講座	会 長	廣田 和美	青森市	1日
	弘前弓道会	副 会 長	工藤 剛	弘前市	200日
	弘前大学弓道部	師 範		弘前市	10日
	弘前高校弓道部	コ ー チ		弘前市	50日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	学術振興会科学研究費委員会	専 門 委 員	廣田 和美	インターネット を使用	10日
	弘前市 Rh(-)友の会	会 長	工藤 剛	弘前市	5日
07年度	弘前市 Rh(-)友の会	会 長	工藤 剛	弘前市	5日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	ストレスセンサー開発		廣田 和美	ヤマハとの共同研究	

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	経皮ブドウ糖測定に関する研究	助 教 授	石原 弘規	東和電機工業	30日

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森大学薬学部		石原 弘規		2日
	医学研究科講義	講 義	佐藤 哲観		1日
07年度	青森大学薬学部：臨床医学概論	非常勤講師	石原 弘規		2日
	医学研究科講義				1日
	21世紀教育テーマ科目「人間の尊厳」 臨床研修医プライマリケア・セミナー	講 師	佐藤 哲観		1日 1日 1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第3回気管挿管講習（青森県消防学校）	講 師	北山 真任	青森市	1日
	21世紀教育	講 師	佐藤 哲観	本学	6日
07年度	大塚製薬社内勉強会「静注された糖の分布や輸液について」	講 師	石原 弘規	弘前	1日
	第5回 MRCC 呼吸ケアセミナー「気道管理の基礎」	講 師		弘前	1日
	県立消防学校救急救命士講義	非 常 勤	北山 真任		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	廣田 和美	毎週火曜	46日
	青森市民病院	非 常 勤	石原 弘規	毎週火曜	40日
	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	橋本 浩	毎週金曜	30日
	青森厚生病院	非 常 勤	佐藤 哲観	毎週火曜	50日
	青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース		青森市	1日
	黒石厚生病院	非 常 勤	櫛方 哲也	毎週水曜	46日
	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	北山 真任	毎週木曜	50日

07年度	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	廣田 和美	毎週火曜	47日
	青森市民病院	非 常 勤	石原 弘規	毎週火曜	30日
	青森厚生病院	非 常 勤	佐藤 哲観	毎週火曜	50日 1日
	青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	タスクフォース			
	黒石厚生病院	非 常 勤	櫛方 哲也	毎週水曜	47日
	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	木村 太	毎週月曜	40日
	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	北山 眞任	毎週木曜	50日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国際共同研究 1. 英国レスター大学麻酔科学講座 2. イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 3. 米国 GSK 研究所	教 授	廣田 和美	電子メール，FAX などで交流	研究者招聘 3日 6日 2日 講演 2日
	研究者招聘 1. エジンバラ大学 2. レスター大学 3. 釜山大学 講演 1. 釜山大学				
07年度	国際共同研究 1. 英国レスター大学麻酔科学講座 2. イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 3. 米国 GSK 研究所 研究者招聘 1. ドイツハノーヴァー医科大学 2. 釜山大学	教 授	廣田 和美	電子メール，FAX などで交流	研究者招聘 7日 2日

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本 ACLS 協会	インストラクター	橋本 浩	BLS 及び ACLS	10日

28. 脳神経外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

市民，医療関係者向けの講演会開催も回数を増やし，目標を達成することができた。

これから２年間の目標：

講演会や市民講座の開催またインターネットを用い脳疾患に対する質疑にも応じていきたい。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 0，講師 3，助手 4，医員 0，大学院学生 0，研究生 0
07年度		教授 1，准教授 0，講師 3，助教 4，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本脳神経外科学会	評 議 員	大熊 洋揮	京都市	2日
	日本脳卒中学会	評 議 員		福岡市	1日
	スパズム・シンポジウム	世 話 人		福岡市	1日
	東北脳血管障害研究会	世 話 人		仙台市	3日
	東北脳血管治療研究会	世 話 人		仙台市	1日
	東北脳循環カンファランス	世 話 人		仙台市	1日
	北日本脳神経外科連合会	世 話 人		札幌市	1日
	ニューロトランスミッター研究会	世 話 人		弘前市	1日
	青森県脳卒中フォーラム	世 話 人		青森市	1日
	青森県脳神経外科談話会	世 話 人		八戸市	1日
	東北脳腫瘍懇話会	企 画 員	浅野研一郎	仙台市	2
	青森県脳神経外科談話会	世 話 人		八戸市	1
	青森県脳卒中フォーラム	書 記		青森市	1
07年度	日本脳神経外科学会	評 議 員	大熊 洋揮		3日
	日本脳卒中学会	評 議 員			3日
	スパズムシンポジウム	世 話 人			1日
	日本意識障害学会	評 議 員			1日
	日本脳神経外科救急学会	評 議 員			2日
	日本脳卒中の外科学会	運 営 委 員			3日
	東北脳血管障害研究会	世 話 人			2日
	東北脳循環カンファランス	世 話 人			1日
	ニューロトランスミッター研究会	世 話 人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	世 話 人			1日
	青森県脳神経外科談話会	世 話 人			1日
	日本脳神経外科学会東北地方会	理 事			2日
	東北脳腫瘍懇話会	企 画 員	浅野研一郎		2日
	青森県脳神経外科談話会	世 話 人			1日
	青森県脳卒中フォーラム	書 記			1日

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第11回弘前脳疾患臨床セミナー	会 長	大熊 洋揮	弘前市	1日
	第1回青森県脳腫瘍セミナー			弘前市	1日
	第12回弘前脳疾患臨床セミナー			弘前市	1日
	第1回最新脳神経外科手術セミナー			弘前市	1日
	第5回青森県脳卒中フォーラム			青森市	1日
07年度	第13回弘前脳疾患臨床セミナー	会 長	大熊 洋揮	弘前市	1日
	第2回青森県脳腫瘍セミナー				1日
	第17回東北脳 SPECT 研究会				1日
	第43回日本脳神経外科学会東北地方会				1日
	第14回弘前脳疾患臨床セミナー				1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	CI 研究	編 集 委 員	大熊 洋揮		1日
	脳神経外科	編 集 同 人			1日
	東北脳腫瘍懇話会	編 集 員	浅野研一郎		2日
07年度	CI 研究	編 集 委 員	大熊 洋揮		2日
	脳神経外科	編 集 同 人			2日
	Neurologica Medico Chirurgica	編 集 委 員			7日
	東北脳腫瘍懇話会	編 集 員	浅野研一郎		2日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学医学部医学科公開講座	教 授	大熊 洋揮		1日
	板柳町町民健康教室	講 師	嶋村 則人		1日
07年度	弘前大学祭・市民講座	講 演 者	大熊 洋揮		1日
	青森県医師会生涯教育講座				1日
	市民公開講座「脳の病気」の予防と治療	講 演 者	中野 高広		1日
	市民公開講座「脳の病気」の予防と治療	講 演 者	浅野研一郎		1日
	市民公開講座「脳の病気」の予防と治療 りんご王国こうぎょくカレッジ 津軽地方の救急医療を考える会 平内町町民健康講座	講 演 者	嶋村 則人		4日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県公安委員会	指定専門医師	大熊 洋揮		1日
07年度	青森県公安委員会	指定専門医	大熊 洋揮		1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	医学部保健学科理学療法専攻	講 師	浅野研一郎		3日
	医学部保健学科看護専攻	講 師	中野 高広		1日
	医学部保健学科理学療法専攻				2日
	21世紀教育	講 師	嶋村 則人		3日
	医学部保健学科看護専攻				1日
	医学部保健学科理学療法専攻				2日
07年度	21世紀教育	教 授	大熊 洋揮		3日
	疾病論Ⅲ	講 師	中野 高広		3日
	脳神経外科学概要				
	脳神経外科学概要	講 師	浅野研一郎		3日
	疾病論Ⅲ	講 師	嶋村 則人		3日
	脳神経外科学概要				

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	脳腫瘍の最新治療—特に膠芽腫について—	講 師	浅野研一郎		1日
	JIKEI HEART Study の結果について				1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	西北中央病院	非常勤医師	大熊 洋揮		48日
	公立野辺地病院				48日
	西北病院	非常勤医師	浅野研一郎		48日
	黒石病院				48日
	むつ総合病院				12日
	ヒロサキメディカルセンター				24日
	弘前脳卒中センター				24日
	西北病院	非常勤医師	中野 高広		36日
	黒石病院				48日
	むつ総合病院				12日
	ヒロサキメディカルセンター				36日
	弘前脳卒中センター				24日
	西北病院	非常勤医師	嶋村 則人		12日
	黒石病院				72日
	むつ総合病院				12日
	ヒロサキメディカルセンター				12日
	弘前脳卒中センター				12日
07年度	西北中央病院	非常勤医師	大熊 洋揮		72日
	黒石病院				48日
	西北病院	非常勤医師	中野 高広		36日
	むつ総合病院				24日
	ヒロサキメディカルセンター				36日
	西北病院	非常勤医師	浅野研一郎		36日
	ヒロサキメディカルセンター				24日
	弘前脳卒中センター				48日
	西北病院	非常勤医師	嶋村 則人		24日
	むつ総合病院				24日
	ヒロサキメディカルセンター				12日
	三沢病院	非常勤医師	菊池 潤		12日
	一関病院				24日
	ヒロサキメディカルセンター				30日
	むつ総合病院	非常勤医師	小笠原ゆかり		24日
	ヒロサキメディカルセンター				24日
	三沢病院	非常勤医師	竹田 哲司		12日
	一関病院				24日
	ヒロサキメディカルセンター				24日
	むつ総合病院	非常勤医師	奈良岡征都		24日
	ヒロサキメディカルセン				24日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	陸奥新報連載 津軽「アタリ」事情	筆 者	大熊 洋揮	毎月掲載	8日

29. 歯科口腔外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

木村 博人（95%）
 小林 恒（70%）
 佐藤 寿（90%）
 楠美 昭則（90%）
 榊 宏剛（90%）

これから2年間の目標：

木村 博人

- 病診連携を更に推進し、患者紹介率の向上に努める。
- 学会活動に積極的に貢献し、医療・福祉の向上に寄与する。
- パラメディカル教育に貢献する。
- 口腔癌の早期発見のため、広報活動・地域公開講座などに積極的に参画する。

小林 恒

- 依頼があれば、進んで協力を行う。

佐藤 寿

- 青森県より依頼された、保健指導医を引き続き併任する。
- 本業に支障のないように、地域医療（特に、有病者の歯科治療）に貢献する。

成田 憲司

- 専門的な知識・情報をわかりやすく説明・発信しながら地域医療に貢献すること。

榊 宏剛

- 地域医療への貢献を積極的に行う。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 4, 医員 6, 大学院学生 2, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 4, 助手 0, 医員 6, 大学院学生 1, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	(株)日本口腔外科学会	理 事	木村 博人	東京都	5日
	NPO 法人 日本口腔科学会	理 事		北九州市	1日
	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会 長		東京都	1日
				名古屋市	1日
				北九州市	1日
				名古屋市	1日
国立大学歯学部長・病院長会議	オブザーバー委員	安曇野市	2日		
			大阪府	1日	
	(株)日本歯科技工士会	理 事	長内 隆	東京都	12日
07年度	(株)日本口腔外科学会	常 任 理 事	木村 博人	東京都	5日
	NPO 法人日本口腔科学会	理 事		名古屋市	1日
				東京都	3日
	全国医学部付属病院歯科口腔外科科長会議	会 長		神戸市	1日
				神戸市	1日
				浜松市	3日
				名古屋市	1日
	国立大学歯学部長・病院長会議	オブザーバー委員		広島市	1日
	(株)日本口腔インプラント学会	理 事		東京都	3日
				熊本市	1日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本口腔外科学会雑誌編集査読委員会	委 員 長	木村 博人	東京都	12日
07年度	日本口腔外科学会雑誌編集査読委員会	委 員 長	木村 博人	東京都	12日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	平成18年度弘前大学公開講座	講 師	木村 博人	青森市	1日
	弘前大学医学部医学科公開講座—健康・医療講演会—	講 師		青森市	1日
07年度	平成19年度弘前大学公開講座	講 師	木村 博人	三沢市	1日
	平成19年度カルチャーロード歯科相談コーナー	専 門 医	小林 恒	弘前市	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	歯科医師臨床研修マッチング協議会運営委員会	委 員	木村 博人	東京都	1日
	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会	臨 時 委 員		弘前市	1日
	青森社会保険事務局	保険指導医	佐藤 寿	青森市	48日
	平成18年度歯科技工士試験委員会	委 員	長内 隆	青森市	2日
07年度	歯科医師臨床研修マッチング協議会運営委員会	委 員	木村 博人	東京都	2日
	青森県社会福祉審議会	臨 時 委 員		青森市	2日
	青森県障害児歯科病院診療所ネットワーク検討会	委 員		青森市	2日
	青森県社会保険事務局	保険指導医	佐藤 寿	青森市	40日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	保健学科成人看護学演習		木村 博人		3日
	教育学部臨床医科学Ⅲ -1	講 師	小林 恒		8日
	放送大学面接授業				2日
07年度	保健学科・成人看護方法論Ⅲ	講 師	木村 博人		2日
	教育学部臨床医科学Ⅲ -1	講 師	小林 恒		8日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	独立行政法人国立病院機構弘前病院附属看護学校	講 師	木村 博人		2日
	学校法人城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師			9日
	青森県立黒石高等学校専攻科	非常勤講師			3日
	学校法人城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	小林 恒		2日
	学校法人城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	佐藤 寿		1日
07年度	独立行政法人国立病院機構弘前病院附属看護学校	講 師	木村 博人	弘前市	2日
	学校法人城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師		弘前市	10日
	青森県立黒石高等学校専攻科	非常勤講師		黒石市	3日
	学校法人城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	小林 恒	弘前市	2日
	学校法人城東学園弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	佐藤 寿	弘前市	1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林 恒	幼稚園 小学校 中学校 養護学校	1日 1日 1日 1日
07年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林 恒	幼稚園 小学校 中学校 養護学校	1日 1日 1日 1日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森市民病院	非常勤医師	木村 博人	青森市	12日
	独立行政法人労働者健康福祉機構青森労災病院	非常勤医師		八戸市	11日
	北秋中央病院	非常勤医師		北秋田市	12日
	北部上北広域事務組合公立野辺地病院	非常勤医師	小林 恒	野辺地町	49日
	独立行政法人国立病院機構弘前病院	非常勤医師		弘前市	49日
	三沢市立三沢病院	非常勤医師		三沢市	8日
	青森社会保険事務局	保険指導医	佐藤 寿	青森市	48日
	財黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師		平川市	47日
	財鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	成田 憲司	弘前市	22日
	財慈恵会青森慈恵会病院	非常勤医師		青森市	6日
	日本原燃株式会社げんねん診療所	非常勤医師	楠美 昭則	六ヶ所村	23日
	独立行政法人国立病院機構青森病院	非常勤医師		青森市	24日
	秋田県村立上小阿仁国保診療所	非常勤医師		上小阿仁村	6日
	秋田県村立上小阿仁国保診療所	非常勤医師	榊 宏剛	上小阿仁村	8日
07年度	財鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師		弘前市	23日
	ふくい歯科口腔外科クリニック	非常勤医師		弘前市	21日
	青森市民病院	非常勤医師	木村 博人	青森市	12日
	独立行政法人労働者健康福祉機構青森労災病院	非常勤医師		八戸市	12日
	北秋中央病院	非常勤医師		北秋田市	12日
	北部上北広域事務組合公立野辺地病院	非常勤医師	小林 恒	野辺地町	49日
	独立行政法人国立病院機構弘前病院	非常勤医師		弘前市	49日
	三沢市立三沢病院	非常勤医師		三沢市	7日
	青森社会保険事務局	保険指導医	佐藤 寿	青森市	40日
	財黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師		平川市	24日
	財鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師		弘前市	24日
	財鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	楠美 昭則	弘前市	23日
	独立行政法人国立病院機構青森病院	非常勤医師		青森市	23日
	秋田県村立上小阿仁国保診療所	非常勤医師		上小阿仁村	12日
	財黎明郷リハビリテーション病院	非常勤講師	成田 憲司	平川市	25日
	日本原燃株式会社げんねん診療所	非常勤講師		六ヶ所村	25日
	石江歯科クリニック	非常勤講師		青森市	12日
	財鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	榊 宏剛	弘前市	52日
	秋田県村立上小阿仁国保診療所	非常勤医師		上小阿仁村	6日
	田舎館歯科クリニック	非常勤医師		田舎館村	6日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	財青森県国際交流協会海外技術研修員研修	研修指導責任者	木村 博人		10ヶ月
	財青森県国際交流協会海外技術研修員研修	研修指導者	小林 恒		10ヶ月
	財青森県国際交流協会海外技術研修員研修	研修指導者	佐藤 寿		10ヶ月

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	研修医のためのプライマリ・ケア	講 師	小林 恒		1日
07年度	陸奥新報 “ひろだい附属病院ガイド”		木村 博人		1日

30. 形成外科学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

人員の減少により、一部地域医療を縮小せざるを得なかったが、十分に医療を提供できた。目標はおおむね達成できたと思われる。

これから２年間の目標：

形成外科診療を通して、さらに地域医療に貢献できるよう努める。
形成外科領域の啓蒙活動を積極的に行う。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 1, 助手 3, 医員 3, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 3, 助手 0, 医員 3, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本形成外科学会評議会	講 師	横井 克憲	東京	2日
	日本熱傷学会東北地方会世話人	講 師		仙台	1日
	日本褥瘡学会東北地方会世話人	助 手	漆館 聡志	福島	2日
	青森県骨盤外科研究会世話人	助 手			1日
07年度	日本形成外科学会評議員	講 師	横井 克憲	名古屋	2日
	日本形成外科学会北海道・東北支部評議員	講 師		札幌	2日
	日本熱傷学会東北地方会世話人	講 師		郡山	1日
	日本褥瘡学会東北地方会世話人	助 教	漆館 聡志		2日
	青森県骨盤外科研究会世話人	助 教			1日

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第22回日本形成外科学会北海道・東北支部学術集会	講 師	横井 克憲	弘前	1日
07年度	第84回日本形成外科学会北海道・東北支部東北地方会	講 師	横井 克憲	弘前	1日
	日本褥瘡学会青森県在宅褥瘡セミナー	助 教	漆館 聡志	青森	1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第6回研修医のためのプライマリケアセミナー	講 師	横井 克憲		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	21世紀教育	講 師	横井 克憲		3日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前ホスピタリティーアカデミー	助 手	漆館 聡志		4日
07年度	弘前ホスピタリティーアカデミー	助 教	漆館 聡志		4日

(10) 学校医、種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森総合検診センター	助 手	三上 誠		月2回
07年度	青森総合検診センター	助 教	三上 誠		月2回

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	三沢市立三沢病院	講 師	横井 克憲		週1
	青森市民病院	講 師			週1
	青森市民病院	助 手	漆館 聡志		週1
	むつ総合病院	助 手			隔週
	西北中央病院	助 手	渡辺 庸介		隔週
	北秋中央病院	助 手			隔週
07年度	弘愛会病院	助 手	三上 誠		週1
	西北中央病院	助 手			週1
	三沢市立三沢病院	講 師	横井 克憲	三沢	週1
	青森市民病院	講 師		青森	週1
	青森市民病院	助 教	漆館 聡志	青森	週1
	むつ総合病院	助 教		むつ	隔週
	西北中央病院	助 教	渡辺 庸介	五所川原	隔週
	むつ総合病院	助 教		むつ	隔週
	西北中央病院	助 教	渡辺 庸介	五所川原	隔週
	北秋中央病院	助 教		鷹巣	週1
	西北中央病院	助 教	三上 誠	五所川原	週1
	弘愛会病院	助 教		弘前	月2

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア、法医解剖、マスコミによる公表など）

該当なし。

31. 救急・災害医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

地域の医療関係者に対して救急医学，災害医学の教育を行い，さらに青森県における特徴の一つである原子力関連の緊急被ばく医療に関する地域のシステムの構築への関与，教育などを行なうことを目標としたが，少ない教員の中，十分目標を達成できた。

これから２年間の目標：

前回同様，地域の医療関係者に対して救急医学，災害医学の教育を行なうこと，さらに青森県における特徴の一つである原子力関連の緊急被ばく医療に関する教育などを行なうことを目標としたい。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 1，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0
07年度		教授 1，准教授 0，講師 1，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本中毒学会 評議員会	評 議 員	浅利 靖		1
	日本中毒学会 学術委員会	委 員			2
	日本集団災害医学会 評議員会	評 議 員			1
	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	理 事			2
	日本集団災害医学会 JP 羽越線脱線事故調査特別委員会	委 員			1
	共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 事後評価解析小委員会課題改訂専門部会	委 員			12
	共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 事後評価解析小委員会学習・評価項目等改訂専門部会	委 員			8
07年度	日本中毒学会 評議員会	評 議 員	浅利 靖		1
	日本中毒学会 学術委員会	委 員			3
	日本中毒学会 東日本地方会	幹 事			1
	日本集団災害医学会 評議員会	評 議 員			1
	日本集団災害医学会 八甲田雪崩災害特別調査委員会	委 員 長			1
	日本臨床高気圧酸素・潜水医学会	理 事			2
	共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 事後評価解析小委員会課題改訂専門部会	委 員			12
	共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 事後評価解析小委員会学習・評価項目等改訂専門部会	委 員			8
	日本救急医学会	評 議 員			1
	日本救急医学会 会則改訂委員会	委 員			1
	日本臨床救急医学会	評 議 員			1
	東北救急医学会	幹 事			1

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第15回青森救急医学会	会 長	浅利 靖		1
07年度	第12回日本中毒学会東日本地方会	会 長	浅利 靖		1

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本集団災害医学会	査読委員	浅利 靖		3
07年度	日本集団災害医学会	査読委員	浅利 靖		3

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	心肺蘇生法実習	講 師	大川 浩文	青森市	10
	心肺蘇生法実習	講 師	矢口 慎也	青森市	1

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委 員	浅利 靖		1
	青森県メディカルコントロール協議会	委 員			1
	つがる西北五地域メディカルコントロール協議会	委 員			1
	津軽地域保健医療推進協議会医療対策部会	委 員			1
	青森県警察本部交通安全対策推進委員会	委 員			1
	青森県フライトナース運用調節会議	委 員			2
	青森県 DMAT・災害拠点病院連絡会議	委 員			1
07年度	青森県救急災害医療対策協議会	委 員	浅利 靖		3
	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委 員			1
	青森県メディカルコントロール協議会	委 員			1
	つがる西北五地域メディカルコントロール協議会	委 員			1
	津軽地域保健医療推進協議会医療対策部会	委 員			1

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	青森県立保健大学 大学院博士前期課程 「緊急被ばく医療」	非常勤講師	浅利 靖		1
	秋田大学医学部救急医学「災害医学」	非常勤講師			1

(10) 学校医、種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本原燃診療所	産 業 医	浅利 靖		48
	原子力安全研究協会・被ばく医療青森フォーラム	講 師			1
	原子力安全研究協会・研修教材検討委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・除染ワーキンググループ委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・搬送ワーキンググループ委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・原子力災害時などの医療モデル検討および被ばく医療体制基礎調査委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・被ばく医療講師連絡会	委 員			2
	国立医薬品食品研究所・化学物質による緊急危害対応のための情報に関する専門家会合	委 員			4
	放射線医学総合研究所 地域緊急被ばく医療連絡協議会	委 員			2
	青森厚生病院での全身麻酔管理	講 師	大川 浩文		50

07年度	日本原燃診療所	産 業 医	浅利 靖		48
	原子力安全研究協会・被ばく医療青森フォーラム	講 師			1
	原子力安全研究協会・教材検討委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・除染ワーキンググループ委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・搬送ワーキンググループ委員会	委 員			2
	原子力安全研究協会・DTPA 投与方法検討委員会	委 員			2
	国立医薬品食品研究所・化学物質による緊急危害対応のための情報に関する専門家会合	委 員			4
	放射線医学総合研究所 地域緊急被ばく医療連絡協議会	委 員			2
	新潟県中越沖地震救援医療チーム派遣	医 師			4
	青森厚生病院での全身麻酔管理	指 導 医 師		大川 浩文	45

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国際協力事業団国際緊急援助隊総合調節部会	アドバイザー	浅利 靖		4
07年度	国際協力事業団国際緊急援助隊総合調節部会	アドバイザー	浅利 靖		4

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第10回青森プレホスピタル外傷研究会外傷初期診療 IPTEC 講習会	主 催 者	浅利 靖		2
	第9回青森プレホスピタル外傷研究会JPTEC コースインストラクターコース	主 催 者			2
	日本救急医学会外傷初期診療講習会	指 導 医			6
	青森県医師会 ACLS 講習会				1
	青森県東通村主催「緊急被ばく医療講演会」	講 師			1
	緊急被ばく医療講習会・セミナー 原子力安全研究協会主催・救急災害医学講座共催	講 師			1
	尾ぶち診療所「緊急被ばく医療勉強会」	講 師			2
	青森県フライトナースのためのドクターヘリ体験・研修会	主 催 者			1
	青森県フライトナース講習会	主 催 者			3
	青森県医師・看護師救急医療研修会	主 催 者			8
07年度	青森プレホスピタル外傷研究会外傷初期診療 IPTEC 講習会	主 催 者	浅利 靖		2
	青森プレホスピタル外傷研究会 JPTEC コースインストラクターコース	主 催 者			2
	青森県医師会 ACLS 講習会	指 導 医			1
	青森県医師・看護師救急医療講習会	主 催 者			4
	災害医療シュミレーション「エマルゴ」	主 催 者			1
	極寒・吹雪の環境下で温暖な医療環境を設置する検討会	主 催 者			1

32. 臨床検査医学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

第53回日本臨床検査医学会学術集会を開催校として恙無く行い、同時に市民講座を開設して一般に検査医学の啓蒙した。
また、日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え医学検査の振興に努め、地域医療に貢献してきた。

これから2年間の目標：

日本臨床検査自動化学会第22回春季セミナーを開催校として恙無く行う。また、これまで通り、日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え医学検査の振興に努め、地域医療に貢献する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 1
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 0, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本臨床検査医学会	理 事	保嶋 実	東京	8日
	日本臨床検査医学会東北支部	支 部 長			
	日本腎臓学会	評 議 員			
	日本高血圧学会	評 議 員			
07年度	日本腎臓学会	評 議 員	保嶋 実	東京	4日
	日本高血圧学会	評 議 員			
	日本内科学会	評 議 員			
	日本臨床検査医学会	評 議 員			
	日本臨床検査自動化学会	評 議 員			

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第53回日本臨床検査医学会学術集会	会 長	保嶋 実	弘前市	3日
	第53回日本臨床検査医学会学術集会	会 計	富田 泰史	弘前市	3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Tohoku J Exp Med	査 読 員	保嶋 実		2日
	Hypertension Res	査 読 員			2日
07年度	Tohoku J Exp Med	査 読 員	保嶋 実		2日
	Hypertension Res	査 読 員			2日
	日本臨床検査自動化学会誌	査 読 員			2日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	市民公開講座「病気と検査の話」	司 会	保嶋 実	弘前市	1日
07年度	「市民のための臨床検査医学 —病気と検査の話—」	演 者	保嶋 実	弘前市	6日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県医師会	理 事	保嶋 実		12日
	青森県精度管理専門委員会	委 員			3日
07年度	東北大学医学部保健学科	外部評価委員	保嶋 実		2日
	青森県医師会	理 事			12日
	青森県精度管理専門委員会	委 員			3日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与 (特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加, 技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義 (大学)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学医学部保健学科	講 師	保嶋 実	検査管理総論	3日
	東北大学医学部医学科	講 師		検査医学	1日
07年度	弘前大学医学部保健学科	講 師	保嶋 実	検査管理総論	3日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	東北大学医学部医学科	非常勤講師	保嶋 実	臨床検査医学	1日

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

該当なし。

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	つがる市成人病センター	非常勤医師	保嶋 実		通年
	つがる市成人病センター	非常勤医師	庄司 優		通年
	財団法人黎明郷弘前脳卒中センター	非常勤医師	富田 泰史		50日
07年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	保嶋 実		通年
	板柳町立中央病院	非常勤医師	杉本 一博		11日
	十和田市立中央病院	非常勤医師			6日
	財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			3日
	医療法人三良会村上新町病院	非常勤医師	島田美智子		67日

(12) 国際交流への貢献 (姉妹校での活動, 国際協力事業団の活動など)

該当なし。

(13) その他 (ボランティア, 法医解剖, マスコミによる公表など)

該当なし。

33. 臨床薬理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

学会誌の査読に積極的に協力し、ほぼ目標に到達した。
治験管理センターのセンター長を兼務し、医薬品開発業務支援について、ほぼ目標に到達した。
治験管理センターにおいて、地域治験ネットワークを作り、治験推進の啓蒙を行った。
他大学での大学院講義、看護学部授業を担当した。

これから2年間の目標：

学会活動に積極的に協力する。
論文査読に積極的に協力する。
他大学の授業等に積極的に協力する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本臨床薬理学会	評 議 員	立石 智則	都区内	3日
	日本臨床薬理学会	海外研修員選考 委員会委員			2日
	日本臨床薬理学会	「臨床薬理研究 振興財団賞」選考 委員会委員			2日
07年度	日本臨床薬理学会	評議員	立石 智則	都区内	3日
	日本臨床薬理学会	海外研修員選考 委員会委員			2日
	日本臨床薬理学会	「臨床薬理研究 振興財団賞」選考 委員会委員			2日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	日本 TDM 学会第27回 TDM セミナー	会 長	立石 智則	弘前市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Journal of Pharmacological Science 論文審査			1件	3日
	弘前医学論文審査			1件	3日
07年度	日本小児臨床薬理学会誌 論文審査			1件	2日
	弘前医学論文審査			3件	6日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立保健大学大学院講義		立石 智則	青森市 弘前市	5日
	弘前学院大学 保健学科 薬理学講義				14日
07年度	青森県立保健大学大学院講義		立石 智則	青森市	5日
	弘前学院大学 保健学科 薬理学講義			弘前市	14日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	大鰐町立病院内科非常勤医師		立石 智則		24日
	医療法人社団 クローズ・トゥ・ユー EST クリニック非常勤医師				16日
07年度	大鰐町立病院内科非常勤医師		立石 智則		24日
	医療法人社団 クローズ・トゥ・ユー EST クリニック非常勤薬剤師				16日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

34. 小児外科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

地方自治体の医療福祉行政、検診、自治体病院における診療指導および学会活動においてほぼ目標通り貢献したものと判断している。

これから2年間の目標：

これまでの貢献に加え、要望があれば公開講座を含めた講演活動も行いたい。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本小児外科学会	評 議 員	棟方 博文	秋田市	2日
	日本外科学会	代 議 員		大阪市	2日
	日本腹部救急医学会	評 議 員	須貝 道博	東京都	2日
	日本外科学会	試 験 委 員		東京都	2日
07年度	日本小児外科学会	評 議 員	棟方 博文	つくば市	2日
	日本小児外科学会秋期シンポジウム小委員会	委 員		東京	1日
	日本腹部救急医学会	評 議 員		つくば市	1日
	日本腹部救急医学会	評 議 員	須貝 道博	横浜	2日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	第33回東北小児外科研究会	会 長	棟方 博文	青森市	1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Surgery Today	査 読 委 員	棟方 博文		1回
	日本腹部救急医学会	査 読 委 員	須貝 道博		1回
07年度	Surgery Today	査 読 委 員	棟方 博文		1回
	日本小児外科学会	査 読 委 員			1回
	日本腹部救急医学会	査 読 委 員	須貝 道博		1回

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	救急医学セミナー	講 師	須貝 道博	弘前市	1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	1) 青森県地域保健医療対策協議会	委 員	棟方 博文	青森市	2日
	周産母子医療対策専門部会				
	2) 周産期情報調査小委員会	委 員 長	須貝 道博	青森市	4日
	3) 青森県小児がん等調査委員会	委 員		青森市	2日
07年度	4) 青森小児がん実務検討委員会	委 員	須貝 道博	弘前市	3日
	1) 青森県周産期医療協議会	委 員	棟方 博文	青森市	2日
	2) 周産期情報調査小委員会	委 員 長		青森市	4日
	3) 青森県小児がん等調査委員会	委 員	須貝 道博	青森市	2日
	4) 青森小児がん実務検討委員会	委 員		弘前市	3日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与 (特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加, 技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義 (大学)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	21世紀教育 (最新医学の現状)	講 師	須貝 道博		3日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立保健大学	非常勤講師	棟方 博文		3日
07年度	青森県立保健大学	非常勤講師	棟方 博文		3日

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県総合健診センター乳がん検診マンモグラフィ読影委員会	講 師	須貝 道博	青森市	10日
07年度	青森県総合健診センター乳がん検診マンモグラフィ読影委員会	講 師	須貝 道博	青森市	7日

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	公立野辺地病院	非常勤医師	棟方 博文	野辺地町	24日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	19日
	大鰐町立病院	非常勤医師	須貝 道博	大鰐町	50日
07年度	公立野辺地病院	非常勤医師	棟方 博文	野辺地町	20日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師		五所川原市	34日
	大鰐町立病院	非常勤医師	須貝 道博	大鰐町	50日

(12) 国際交流への貢献 (姉妹校での活動, 国際協力事業団の活動など)

該当なし。

(13) その他 (ボランティア, 法医解剖, マスコミによる公表など)

該当なし。

35. 医学医療情報学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

（羽田）

『本務（病院業務）優先』の通り。格段の社会貢献活動を行わなかった。

到達度：評価無し

（佐々木）

医用・医療全般のソフトウェア開発・特許取得

到達度：ヘモグロビン断層像による消化器癌自動抽出アルゴリズムは内視鏡への実装段階である。特許取得にはいっていない。達成度は50%

（松谷）

社会貢献活動として見た場合、前回に目標とした学会活動や各種の教育・啓蒙活動等は順調に実施出来た（達成した）と考える。

これから2年間の目標：

（羽田）

本務（病院業務）を最優先とするので、各段の目標は設定できない。

（佐々木）

消化器癌自動抽出機能を内視鏡装置に実装し、（Hoya Pentaqx との共同研究）特許取得・製品化を目指す。

（松谷）

- ・学会活動（医療情報，医学教育）
- ・学内・地域における情報セキュリティに関する啓蒙活動
- ・地域がん登録の普及
- ・世界遺産である白山山地の研究・啓蒙活動

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0
07年度		教授 1，准教授 1，講師 1，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本医療情報学会医療情報技師育成事業—平成18年度講習会	教 授	羽田 隆吉	講 師	1日
07年度	日本医療情報学会・医療情報技師育成 事業平成19年度講習会	講 師	羽田 隆吉	仙台	1日
	日本医療情報学会平成19年医療情報技師能力検定試験	試験監督者		仙台	1日
	第1回日本医療情報学会東北支部学術集会	幹 事		仙台	1日
	第12回日本医療情報学会春季学術大会 プログラム委員	委 員		（秋田）	3日
	日本消化器内視鏡学会東北地区評議員会	評 議 員	佐々木賀広	弘前市	1日
	日本医療情報学会・医療情報技師育成 事業平成19年度講習会	講 師	松谷 秀哉	仙台	1日
	日本医療情報学会平成19年医療情報技師能力検定試験	試験監督者		仙台	1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07 年度	第25回北奥羽地区消化器内視鏡技師研究会教育口演	講 師	佐々木賀広	青森市	1 日
	弘前大学白神研究会観察会	ス タ ッ フ	松谷 秀哉		3 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）
該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07 年度	平成19年度あおりウエルネスランド構想推進事業—医療・健康福祉関連産業ビジネスモデル構築事業	研究代表者	羽田 隆吉	青森市	1 日
	『医療施設間連携による医療情報共有システムのビジネスモデル化』			弘前市	4 ヶ月

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07 年度	消化器癌自動抽出アルゴリズムの内視鏡装置への実装	共同研究者	佐々木賀広	弘前市	3 日

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	保健学科 3 年次 コンピュータ概論 (医療情報システム)	教 授	羽田 隆吉	非常勤講師	3 日
	保健学科 3 年次 コンピュータ概論 (医用画像)	助 教 授	佐々木賀広	非常勤講師	2 日
07 年度	21 世紀教育 生活習慣と健康 (メタボリックシンドローム)	非常勤講師	羽田 隆吉		4 日
	平成19年度 Web を通じた授業公開に関する講演会「著作権などの情報倫理について」	講 師	松谷 秀哉		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	国立病院機構弘前病院附属看護学校 2 年次—臨床英語	教 授	羽田 隆吉	国立病院機構弘前病院附属看護学校	15 日
07 年度	国立病院機構弘前病院附属看護学校 2 年次—臨床英語	非常勤講師	羽田 隆吉		15 日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）
該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	つがる成人病センター	教 授	羽田 隆吉	非常勤医師	45 日
	つがる市成人病センター	助 教 授	佐々木賀広	非常勤医師	50 日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）
該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）
該当なし。

36. 総合診療医学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

卒後研修に関して、地域の医療機関との交流を深め、連携を図る。 70%

総合診療部医師として地域医療に貢献する。 70%

これから２年間の目標：

卒後研修に関し、学内外の理解を深めて頂くよう努める。

総合診療の専門家として地域の医師へ啓蒙活動を行う。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 2, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本救急医学会	評 議 員	加藤 博之	福岡	2日
	日本臨床救急医学会	評 議 員		盛岡	2日
	東北救急医学会医師部会幹事会	幹 事		新潟	2日
	日本内科学会認定医専門医試験	試験問題作成			6日
	日本腎臓学会	学術評議員	大沢 弘	横浜	1日
07年度	日本内科学会	試験問題作成委員		東京, 仙台	6日
		専門医部会東北支部会長			2日
		病歴評価委員			6日
	日本救急医学会	評 議 員	加藤 博之	大阪	2日
07年度	日本腎臓学会	学術評議員	大沢 弘	東京	1日
	日本腎臓学会	専門医試験問題作成委員			6日
	日本内科学会	専門医部会東北支部会長			2日
	日本内科学会	病歴評価委員			6日

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	PALS（小児二次救命処置法）プロバイダーコース	インストラクター	加藤 博之	弘前	3日
	第179回日本内科学会東北地方会 内科専門医による教育セミナー	セミナー企画責任者	大沢 弘	仙台	1日
07年度	第182回日本内科学会東北地方会 内科専門医による教育セミナー	企画・開催責任者	大沢 弘	仙台	1日
	第183回日本内科学会東北地方会 内科専門医による教育セミナー	企画・開催責任者		青森	1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Clinical and Experimental Nephrology	reviewer	大沢 弘		7日
07年度	弘前医学	査 読 員	加藤 博之		2日
	日本臨床救急医学会雑誌	査 読 員			8日
	日本救急医学会雑誌	査 読 員			2日
	医学教育	査 読 員			2日
	Cell Proliferation	reviewer	大沢 弘		7日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	PALS (小児二次救命処置法) プロバイダーコース	インストラクター	加藤 博之	埼玉	6日
	PALS (小児二次救命処置法) プロバイダーコース	インストラクター		仙台	3日
	青森県医師会 ACLS 講習会	インストラクター	大串 和久	青森市	2日
	佐賀県小児救急医療電話相談	指 導 医		佐賀県	6日
	佐賀大学医学部 ICLS コース	インストラクター		佐賀市	2日
	PALS (小児二次救命処置法) プロバイダーコース	インストラクター		弘前市	2日
07年度	JATEC (外傷初期診療) コース	インストラクター	加藤 博之	東京等	6日
	PALS (小児二次救命処置法) プロバイダーコース	インストラクター		仙台市	2日
	PALS (小児二次救命処置法) プロバイダーコース	インストラクター	大串 和久	弘前市	2日
	PALS (小児二次救命処置法) プロバイダーコース	インストラクター		弘前市	2日
	青森県医師会 ACLS 講習会	インストラクター		弘前市	1日
	国立弘前病院市民講座	講 師		弘前市	1日
	JATEC (外傷初期診療) コース	インストラクター		東京	2日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動 (相談員, 医師会役員も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県へき地における卒前教育モデル事業推進検討委員会	委 員	加藤 博之	青森市	1日
	国立大学附属病院院長会議 第2回医師臨床研修協議会			札幌市	3日
	国立大学附属病院院長会議 第3回医師臨床研修協議会			東京都	2日
	青森県医師臨床研修対策協議会 平成18年度第1回	副 会 長		青森市	1日
	青森県医師臨床研修対策協議会 平成18年度第2回	副 会 長		青森市	1日
	第2回青森県医師臨床研修対策協議会 医師臨床研修指導医ワークショップ	講習会責任者世話人		青森市	3日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	研修施設代表者		東京都	2日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	研修施設代表者		弘前市	1日
	東北ブロック医師臨床研修の充実強化に関する懇話会	委 員	大沢 弘	仙台市	2日
	第7回全国大学病院総合診療部連絡協議会			金沢市	2日
	青森県医師臨床研修対策協議会主催「指導医ワークショップ」	講習会世話人		弘前市 東京	3日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	研修施設代表者		青森市	3日
	東北ブロック臨床研修病院合同説明会	研修施設代表者		仙台市	1日
	佐賀県救急医療メディカルコントロール (MC)	M C 担 当	大串 和久	佐賀県	6日
	佐賀県救急医療情報システム運営委員会	委 員		佐賀県	1日
	佐賀空港緊急計画連絡協議会	委 員		佐賀県	2日
07年度	東北ブロック医師臨床研修の充実強化に関する懇話会	委 員	加藤 博之	仙台市	2日
	東北ブロック医師臨床研修の充実強化に関する懇話会実務委員会	委 員		仙台市	3日
	青森県医師臨床研修対策協議会	副 会 長		青森市	4日
	青森県医師臨床研修対策協議会企画委員会	委 員 長		青森市	3日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	研修施設代表者		弘前市・東京都	2日
	青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ	主催者・講習会世話人		青森市	3日

07年度	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	研修施設代表者	大沢 弘	弘前市・東京都 青森市	2日
	青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導 医ワークショップ	講習会世話人			3日
	東北ブロック臨床研修病院合同説明会	研修施設代表者		仙台市	1日
	青森県医師臨床研修指定病院合同説明会	研修施設代表者	大串 和久	弘前市	1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立保健大学	非常勤講師	加藤 博之	青森市	1日
	神戸大学大学院災害救急医学	非常勤講師		神戸市	2日
07年度	秋田大学医学部救急医学	非常勤講師	加藤 博之	秋田市	1日
	佐賀大学医学部救急医学	非常勤講師		佐賀市	2日
	神戸大学大学院災害救急医学	非常勤講師		神戸市	2日
	青森県立保健大学	非常勤講師		青森市	1日
	秋田大学医学部 OSCE	外部評価者		秋田市	2日
	山形大学医学部 OSCE	外部評価者	大串 和久	山形市	1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	本学附属病院看護部看護実践研修	講 師	加藤 博之		1日
	佐賀女子短期大学 介護福祉学科 一般医学	非常勤講師	大串 和久		5日
07年度	青森県看護協会訪問看護師養成講習会	講 師	加藤 博之		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国民健康保険黒石病院	非常勤医師	加藤 博之	黒石市	50日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	大沢 弘	弘前市	97日
	国立病院機構弘前病院	非常勤医師	大串 和久	弘前市	15日
	小柳記念病院	非常勤医師		佐賀市	25日
07年度	国民健康保険黒石病院	非常勤医師	加藤 博之	黒石市	48日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	大沢 弘	弘前市	102日
	国立病院機構弘前病院	非常勤医師	大串 和久	弘前市	50日
	げんねん診療所	非常勤医師		六ヶ所村	13日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	雑誌「Attending Eye」に取材記事として掲載				1日
	雑誌「月刊地域医学」に取材記事として掲載				1日
	広報誌「Teaching Hospital Next」取材記事として掲載				1日
	新聞「Japan Medicine」に取材記事として掲載				1日
	健生病院で講演	講 師	加藤 博之	弘前市	1日
	第28回宮崎救急医学会で講演	講 師		都城市	2日
	名古屋掖済会病院で講演	講 師		名古屋市	2日
	佐賀大学救急医学講座開講10周年記念講演会で講演	講 師		佐賀市	2日
	弘前市医師会産婦人科部会で講演	講 師		弘前市	1日
	第22回青森県検査医学研究会で講演	講 師		弘前市	1日
07年度	第6回地域循環器診療研究会で講演	講 師	大沢 弘	八戸市	1日
	むつ下北医師会学術講演会で講演	講 師		むつ市	1日
	＜取材記事＞ 1. 弘前大学医学部附属病院 充実した研修医の医療安全研修 院長ラウンドから改善へつなぐ. Safety Management Report 2007 July No.4, p6-9 2. 菊谷賢:取材最前線＜弘前大学＞「人」「コミュニケーション」を重視 地域医療に密着した医学部教育. リクルートカレッジマネジメント 145:40-41, 2007 3. ひろだい附属病院ガイド 総合診療部. 陸奥新報 2008年1月10日発行, p8		加藤 博之		3日
	北五医師会第438回集談会で講演	講 師	大沢 弘		1日

37. 薬剤学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

2006年度は記入不要であった。

これから2年間の目標：

所属部署の特性を生かし薬剤の関わる様々な情報を社会に知らせる機会を多く設定し、適切な薬物療法やサプリメントの適切な使用の啓蒙を図る。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 0, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県病院薬剤師会	会長代行	早狩 誠		
07年度	青森県病院薬剤師会 日本薬学会東北支部アドバイザー 医薬品相互作用研究会	会長代行 委員 理事	早狩 誠		

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	日本病院薬剤師会	審査員	早狩 誠		

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森大学薬学部	非常勤講師	早狩 誠	物質生化学	15日
07年度	青森大学薬学部	非常勤講師	早狩 誠	物質生化学	15日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	保健学科看護学	非常勤講師	早狩 誠	薬理学	14日
07年度	黒石厚生病院	非常勤講師	早狩 誠	薬理学	14日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本病院薬剤師会国際交流推進事業	委 員	早狩 誠		3日

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

38. 脳神経病理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

専門性を発揮し，神経病理学の普及に努める（達成度100％）。

これから2年間の目標：

専門性を発揮し，神経病理学の普及に努める。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 1，講師 0，助手 2，医員 0，大学院学生 1，研究生 0
07年度		教授 1，准教授 1，講師 0，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 1，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本神経病理学会	評 議 員	若林 孝一		1日
		広 報 委 員			1日
		将来計画委員			1日
		プログラム委員			1日
07年度	日本神経病理学会	評 議 員	若林 孝一		1日
		広 報 委 員			1日
		将来計画委員			1日
		プログラム委員			1日
	日本神経病理学会	評 議 員	森 文秋		1日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	東北神経病理研究会	当番世話人	若林 孝一		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	査読（Brain）	教 授	若林 孝一		1日
	査読（Acta Neuropathol）				3日
	査読（Neuropathology）				4日
	査読（Pathology International）				1日
	弘前医学編集委員				1日
07年度	査読（Acta Neuropathologica）	教 授	若林 孝一		14日
	査読（Neuropathology）				10日
	査読（Pathology International）				4日
	査読（Brain）				2日
	査読（Experimental Neurology）				2日
	査読（Neuroscience Letters）				2日
	査読（Synapse）				2日
	弘前医学編集委員				4日
	科学研究費委員会専門委員				7日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	講演（東京都神経科学総合研究所）	教 授	若林 孝一		2日
	講演（新潟市）				1日
	講演（富山市）				1日
	講演（学生自治会）				1日
	出前授業（五所川原高校）				1日
07年度	講演（函館・神経内科医師）	教 授	若林 孝一		1日
	講演（弘前大学オープンキャンパス）				1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	21世紀教育	教 授	若林 孝一		1日
07年度	21世紀教育	教 授	若林 孝一		3日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	秋田大学医学部	非常勤講師	若林 孝一		2日
07年度	秋田大学医学部	非常勤講師	若林 孝一		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立中央病院	非常勤医師	若林 孝一		1日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	スペイン科学研究高等会議バルセロナ 医学生物学研究所への研究留学	助 教 授	森 文秋		346日
	弘前大学医学部と中国医科大学との交流活動	助 手	朱 剛		3日

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	法医解剖（脳神経系に関して）	教 授	若林 孝一		1日
	ラジオ出演（KNBラジオ）				1日

39. 脳血管病態学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

100%

これから２年間の目標：

機会あるごとに積極的に社会貢献活動を進める。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 1
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Regulatory Peptides 誌の査読	Invited reviewer	吉田 秀見		21日
07年度	Brain Research Bulletin	Invited reviewer	吉田 秀見		18日
	Brain Research Bulletin				2日
	Neurotoxicology				3日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前ロータリクラブ講演会	教 授	佐藤 敬		1日
	りんご王国こうぎょくカレッジ	助 手	今泉 忠淳		1日

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県医療審議会委員	教 授	佐藤 敬		1日
	津軽県域自治体病院機能再編成計画基本的枠組み				1日
	具体案検討委員会委員				
	あおり地域医療・医師支援機構運営委員会委員				1日
07年度	西北五地域保健医療圏における中核病院設計プロ	教 授	佐藤 敬		1日
	ポーザルに係る審査委員会				1日
	青森県医療審議会				1日
	西北五地域保健医療圏における中核病院設計プロ				2日
	ポーザルに係る審査委員会				
	あおり地域医療・医師支援機構運営委員会				1日
	青森県地域医療対策協議会				2日
	青森県総合計画審議会				

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加、技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	産官学金連携フェアポスター発表	助 教	今泉 忠淳		1日

(8) 医学部医学科以外での講義 (大学)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	早稲田大学人間科学学術院講義	助 手	今泉 忠淳		1日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前高等学校 (大学進学講座)	教 授	佐藤 敬		1日
07年度	弘前高等学校進路指導講演会	教 授	佐藤 敬		1日
	青森高等学校弘前大学ドリーム講座				1日

(10) 学校医, 種々の検(健)診活動への参加 (学校での予防接種も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前市健康診査	助 手	今泉 忠淳		11日
07年度	弘前市巡回基本健康診査	助 教	今泉 忠淳		1日
	地域企業の歯科検診	助 教	松宮 朋穂		5日

(11) 地域医療への貢献 (弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など)

該当なし。

(12) 国際交流への貢献 (姉妹校での活動, 国際協力事業団の活動など)

該当なし。

(13) その他 (ボランティア, 法医解剖, マスコミによる公表など)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前大学白菊会役員	講 師	吉田 秀見		3日
07年度	FM アップルウェーブ「弘前大学の魅力」	教 授	佐藤 敬		1日
	弘前大学白菊会 監事	講 師	吉田 秀見		3日

40. 脳神経生理学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

特許につながる動物作出の準備が完了した。
大学以外での講義，放送大学での講義による地域貢献。
非常勤医師としての地域医療への貢献。

これから2年間の目標：

遺伝子改変モデル動物の作出による特許出願を目指す。
モデル動物関連の学会が弘前で開催予定であるので，参加および講演を行う。
業務に差し支えない範囲での地域医療へ貢献。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1，助教授 0，講師 0，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 1
07年度		教授 1，准教授 0，講師 0，助教 2，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 1

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	弘前医学	教 授	上野 伸哉		5日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	放送大学講師		上野 伸哉		2日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	放送大学講師		上野 伸哉		2日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	青森県ヘアアーティスト専門学校	助 教	右田 啓介	1日 50分 4コマ	32日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前市巡回基本健康診査	教 授	上野 伸哉		10日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	非常勤医師	教 授	上野 伸哉		24日
	嘱託医			青森県身体障害者 相談センター	20日
07年度	大館市立病院 非常勤医師	教 授	上野 伸哉		20日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

41. 脳神経内科学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

弘前大学医学部附属脳神経統御部門として神経科学の発展と附属病院神経内科として青森の地域医療と全国の臨床神経学の発展の基盤をおおむね形成した。

これから2年間の目標：

弘前大学附属病院神経内科、青森県における中・小規模な神経内科医の育成に努め、世界的な業績の発信を行う。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 1, 助手 1, 医員 2, 大学院学生 2, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 1, 助教 1, 助手 0, 医員 2, 大学院学生 2, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	①日本神経学会：評議員，生涯教育委員，専門医認定委員，東北地方会幹事，教育施設責任者，第32回日本神経学会専門医試験委，総会座長	教 授	東海林幹夫		14日
	②日本内科学会：東北支部評議員，施設指導医				2日
	③日本認知症学会：評議員，あり方委員会委員，総会座長				6日
	④日本老年医学会：代議員，施設指導医，総会座長				4日
	⑤東北脳血管障害研究会：世話人				2日
	⑥東北老年期脳障害研究会：世話人				2日
	⑦青森県核医学研究会：世話人				1日
	⑧弘前医学会：評議員				1日
	⑨弘前大学弘仁会評議員				1日
07年度	①日本神経学会：専門医認定医，評議員	教 授	東海林幹夫		4日
	②日本認知症学会：評議員，あり方委員会委員				3日
	③日本老年医学会：評議員				1日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	ニューロトランスミッター研究会	教 授	東海林幹夫		1日
	弘前市学術講演会				2日
	神経内科セミナー				3日
	青森 MS 研究会				1日
	弘前大学 VIP 研究会				1日
	青森 PD 研究会				1日
07年度	第81回日本神経学会東北地方会主催	教 授	東海林幹夫	青森アウガ	2日
	日本神経学会東北地方会開催手伝い	講 師	瓦林 毅		2日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	国内外雑誌論文査読	教 授	東海林幹夫	10件	20日
	Psychiatry and Clinical Neurosci 編集顧問				1日
	Cognitive and Dementia 編集アドバイザー				1日
	Synapse 査読		富山 誠彦	3件	3日
	Eur J Neurology 査読				
07年度	Journal of Neuroscience 査読		瓦林 毅	1件	1日
	国内外雑誌論文査読	教 授	東海林幹夫	8件	36日
	査読 英文雑誌	准 教 授	富山 誠彦	2件	4日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	もの忘れ市民フォーラム in 弘前	教 授	東海林幹夫		1日
	もの忘れフォーラム 難病患者会	講 師	富山 誠彦	5件	5日
	弘前物忘れフォーラム	助 手	瓦林 毅		1日
	多発性硬化症患者会 脊髄小脳変性症患者会	助 手 助 手	村上千恵子		1日 1日
07 年度	認知症の早期診断と治療, もの忘れフォーラム in 弘前, 弘前文化センター, 2007年3月24日	教 授	東海林幹夫		1日
	もの忘れ～早期診断と治療～, 病気とくすり～市 民公開講座～, 伊予鉄高島屋ローズホール, 松 山, 2007年6月10日	教 授			1日
	認知症: 早期診断と治療, 青森もの忘れフォーラ ム, 青森市文化会館大ホール, 2007年6月16 日	教 授			1日
	認知症: 早期診断と治療, もの忘れフォーラム in 鯉ヶ沢, 日本海拠点館, 2007年9月2日	教 授			1日
	穏やかな老後のために～認知症と生活習慣～弘前 大学シニアサマーカレッジ, 弘前創立50周年 記念会館, 会議室, 2007年9月7日	教 授			1日
	認知症: 現状と展望, 青森県高齢者等地域リハビ リテーション支援センター研修会, 青森県総合 社会教育センター, 2007年9月8日	教 授			1日
	アルツハイマー病の原因と早期診断, 八戸もの忘 れフォーラム, 八戸市公民館, 2007年9月23 日	教 授			1日
	認知症の早期診断と治療～穏やかな老後のために ～, 東津軽群もの忘れフォーラム, 外ヶ浜中央 公民館, 2007年9月30日	教 授			1日
	脳の病気を知る～認知症～, 弘前大学総合文化祭, 弘前大学本部, 2007年10月28日	教 授			1日
	アルツハイマー病の診断と治療, 第13回下北医 療研究会, むつ市弘済会館, 2007年10月31日	教 授			1日
	アルツハイマー病研究の最前線と治療への展望, 第五回岡山神経内科勉強会, 岡山ホテルグラン ビア, 2007年11月2日	教 授			1日
	アルツハイマー病の診断と治療, 第九回アルツハ イマーフォーラム in 青森, 青森, 11月17日	教 授			1日
	東海林幹夫, 認知症の治療とケア, 泉在宅ケア勉 強会, 仙台市泉区役所, 2007年11月26日	教 授			1日
	東海林幹夫, 認知症ケアのウソ, ホント, 認知症 フォーラム, 東青地区認知症グループホーム協 会, 青森県県民福祉プラザ, 2007年11月29日	教 授			1日
	難病対策事業	准 教 授	富山 誠彦		2日
	アルツハイマーフォーラム開催手伝い		瓦林 毅		2日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06 年度	青森県公安委員会: 専門員	教 授	東海林幹夫		1日
	青森県認知症, 高齢者対策検討委員会委員				3日
	科学研究費委員会: 専門委員				7日
07 年度	青森県公安委員会: 判定医	講 師	富山 誠彦		3日
	青森県生き難病対策事業				
	青森県脳卒中对策協議会会長, 青森県難病対策委員会委員, 青森県高齢対策検討委員会委員, 青森県公安委員 会専門医(認知症, 神経起因性失神, 重度睡眠障 害および脳卒中)	教 授	東海林幹夫		2日 2日 0日 0日
	青森県医療審議会専門委員				1日
	青森県特定疾患治療研究事業審査員 青森県公安委員会専門医(神経疾患)	委 員	富山 誠彦		2日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	Lewy 小体を再現する変異 α -synuclein トランスジェニックマウス（特許出願中：特願2002-001229） 抗 A β 特異抗体による脳アミロイドーシスの治療と診断（特許出願中：特願2003-317443）	教 授	東海林幹夫		1年間

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	武田薬品工業 北興化学（NEDO）	教 授	東海林幹夫	共同研究	1年間

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	岡山大学	非常勤講師	東海林幹夫		2日
	21世紀教育	講 師	富山 誠彦		3日
07年度	アルツハイマー病：病態研究の進歩。群馬大学同窓会推薦講演，群馬大学，2007年9月14日	教 授	東海林幹夫		1日
	21世紀教育	准 教 授	富山 誠彦		1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	Common disease としての神経内科。第25回弘前大学医師会教育講演会	教 授	東海林幹夫		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	東海林幹夫，難病とは？ 平成19年度 難病患者等相談事業「医療相談」，平内町金両者青少年ホーム	教 授	東海林幹夫		1日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前脳卒中センター	教 授	東海林幹夫		36日
	板柳中央病院・むつ総合病院	講 師	富山 誠彦		62日
	弘前小野病院	講 師	村上千恵子		50日
	むつ総合病院	助 手			5日
	尾野病院	助 手			10日
07年度	脳卒中センター 八戸市民病院	教 授	東海林幹夫		20日 3日
	板柳中央病院 むつ総合病院	准 教 授	富山 誠彦		38日
	黒石市民病院 むつ総合病院	講 師	瓦林 毅		48日 12日
	尾野病院	助 教			12日
	大館市立総合病院	助 教	村上千恵子		24日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	新聞報道3回 テレビ出演1回	教 授	東海林幹夫		3日 1日
07年度	東海林教授ら4人に，弘前大学医学部，唐牛基金 が助成金，東奥日報，2007年1月20日	教 授	東海林幹夫		1日
	東海林幹夫，ATV テレビ出演，森の雫，認知症っ て何．2007年9月24日	教 授			1日
	東海林幹夫，青森放送ラジオ なぜなに認知症～ 守ろう人権～，5月8日，15日，22日	教 授			1日

42. 分子生体防御学講座

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

- ・研究を通して得た成果を、新聞にプレス発表した。
- ・地域関連のある材料と方法を使った研究を模索するまでには至らなかった。

これから2年間の目標：

- ・研究を通して得た成果を、社会に還元できるように努力する。
- ・地域関連のある材料と方法を使った研究を模索する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 0, 助手 3, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 0, 講師 1, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医、種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

43. 糖鎖工学講座

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

直接社会貢献をする機会は少なかったが、青森県における産学官共同事業および関連の集会に参加することにより、目標はほぼ達成された。

これから２年間の目標：

直接社会貢献をする機会は少ないと考えられるが、研究、教育に携わるものとして、また弘前大学、糖鎖工学講座の一員として何ができるか、日々アンテナを張る。青森県における産学官共同事業および関連の集会に参加する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 2, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生 0
07年度		教授 0, 准教授 1, 講師 0, 助教 3, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本結合組織学会（評議員）	助 教 授	今 淳	前橋市	1日
	日本研究皮膚科学会（評議員）			京都市	1日
	日本生化学会東北支部（幹事）			弘前市	1日
	プロテオグリカンフォーラム（世話人）	助 手	柿崎 育子	東京都	1日
07年度	プロテオグリカンフォーラム（世話人）	助 教	柿崎 育子	東京	2日
				横浜	1日
	東北糖鎖研究会（世話人）			仙台	2日

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	学術雑誌審査員 (J Dermatol Sci, Arch Dermatol Res J Invest Dermatol)	助 教 授	今 淳		14日
	査読 (Mol Cell Biochem)	助 手	柿崎 育子		2日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	見てみて、聞いてみて、触ってみて弘前大学：ポスター発表「アンチエイジング（抗加齢）医学」	助 教 授	今 淳	弘前市	1日
	平成18年度・第3回現代セミナーひろさき：特別講演「いつまでも若々しい皮膚で健康に」			弘前市	1日
	都市エリア産学官連携促進事業（弘前エリア）成果報告会	助 手	柿崎 育子	弘前市	1日
	都市エリア産学官連携促進事業（弘前エリア）成果報告会	助 手	山口 真範	弘前市	1日
07年度	平成19年度ひろさき産学官連携フォーラム第2回講演会～学術国際振興基金助成事業に係る公開発表会～	助 教	柿崎 育子	弘前市	1日
	「見てみて、聞いてみて、触ってみて、弘前大学」			弘前市	1日
	第7回弘前大学と八戸高専とのシーズ提案会			弘前市	1日
	第7回青森糖質研究会			弘前市	1日
	第2回プロテオグリカン応用開発研究会	助 教	山口 真範	弘前市	1日
	平成19年度ひろさき産学官連携フォーラム第2回講演会～学術国際振興基金助成事業に係る公開発表会～			弘前市	1日

第7回青森糖質研究会	助 教	田所 友美	弘前市	1日
第2回プロテオグリカン応用開発研究会			弘前市	1日

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）
該当なし。

- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	大学附属知的財産の創出（特許出願）（整理番号 PA06-07）	助 手	柿崎 育子		

- (7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	都市エリア産学官連携促進事業（弘前エリア）交流会への参加	助 教 授	今 淳	弘前市	1日
	大塚製薬株式会社への技術指導			弘前市	3日
	都市エリア産学官連携促進事業（弘前エリア）交流会への参加	助 手	柿崎 育子	弘前市 東京都 弘前市	1日 4日
	都市エリア産学官連携促進事業（弘前エリア）交流会への参加	助 手	山口 真範	弘前市	4日

- (8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県立保健大学（臨床遺伝学）	助 教 授	今 淳	青森市	7日
	弘前学院大学（栄養代謝学）			弘前市	15日
07年度	青森県立保健大学（臨床遺伝学）	准 教 授	今 淳	青森市	7日
	弘前学院大学（栄養代謝学）			弘前市	15日
	千葉大学大学院薬学研究院 大学院講義「生体分子分析学」及び公開セミナー	助 教	柿崎 育子	千葉市	2日

- (9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	双仁会厚生病院附属看護学院「生化学」	助 手	柿崎 育子	黒石市	8日
07年度	双仁会厚生病院附属看護学院「生化学」	助 教	柿崎 育子	黒石市	8日

- (10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）
該当なし。

- (11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	山本組合総合病院 非常勤医師（皮膚科担当）	准 教 授	今 淳	能代市	24日

- (12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）
該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	・RAB ニュースレーダー（RAB 青森放送部式会社）の放送のため「サケ鼻軟骨由来プロテオグリカンの応用研究」について取材を受けた。（放送2007年 1 月30日）	助 手	柿崎 育子	弘前市	1 日
	・ニュースJチャンネル aba（青森朝日放送株式会社）の放送のため「サケ鼻軟骨由来プロテオグリカンの応用研究」について取材を受けた。（放送2007年 1 月31日）			弘前市	1 日

44. 附属動物実験施設

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 1, 講師 0, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	農学生命科学部学生講義	助 教 授	八木澤 誠		15日

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

45. 医学教育センター

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本医療情報学会・医療情報技師育成部会	講 師	松谷 秀哉		3日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	情報セキュリティ講演会	講 師	松谷 秀哉	附属病院	1日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

（12）国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

46. 手術部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

不明。前回の目標の申し送りを受けていません。

これから２年間の目標：

1. 手術効率の改善により手術件数を増加させることを通じて社会に貢献する。
2. 外来棟手術室の開設により、手術件数を増加させることを通じて社会に貢献する。

【研究人員】

07年度	研究人員	教授 0, 准教授 1, 講師 0, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

該当なし。

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	H19年度弘前歯科医師会11月月例会	准 教 授	橋本 浩	講演	1日

（10）学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

（11）地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	五所川原市立西北中央病院 青森県立あすなろ医療療育センター (非常勤医師)	准 教 授	橋本 浩	毎週 金曜日	50日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	AHA BLS, ACLS 講習会インストラクター	准 教 授	橋本 浩	日本循環器学会	10日

47. 検査部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

概ね達成できた。

これから２年間の目標：

地域住民の健康増進に貢献するため、求めに応じて健康教室の開催，患者の健康相談に可能な限り協力する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0
07年度		教授 0，准教授 0，講師 1，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第53回日本臨床検査医学会学術集会	学 術	杉本 一博		4日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	日本糖尿病学会誌「糖尿病」の査読 Experimetal Diabetes Research の論文査読	査 読 者	杉本 一博		10日
					10日

（４）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（５）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（６）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（７）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（８）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（９）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

（10）学校医，種々の検（健）診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	つがる市立成人病センター	非常勤医師	杉本 一博		45日
	十和田市立中央病院	非常勤講師			24日
	財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			24日
07年度	つがる成人病センター	非常勤医師	杉本 一博		23日
	板柳町立中央病院	非常勤医師			13日
	十和田市立中央病院	非常勤医師			18日
	財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			9日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

48. 放射線部

前回（２年前）設定した目標に対する到達度：

これから２年間の目標：

【研究人員】

06年度 研究人員 教授 0, 助教授 0, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（１）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本放射線技術学会	評 議 員	工藤 亮裕		4日
	日本放射線技術学会東北部会	幹 事			5日
	日本核医学技術学会	評 議 員			2日
	日本核医学技術学会東北地方会	幹 事			2日
	青森県核医学研究会	世 話 人			5日
	緊急被ばく医療ネットワーク	青森地区委員			0日
	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委 員			3日
	青森県放射線技師会	副 会 長			12日
	東北デジタル医用画像研究会	世 話 人	木村 均		3日
	東北循環器撮影研究会	幹 事			
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	世 話 人	葛西 二郎		3日
	青森県放射線技師会	学術企画委員長	長内 恒美		8日
	青森県乳腺疾患研究会	世 話 人			1日
	つがる乳腺診断フォーラム	世 話 人			1日
	東北 MRI 技術研究会	世 話 人	辻 敏朗		2日
	青森県放射線技師会	学術企画委員			2日
	青森県 MRI 研究会	MRI 部会長 代表世話人			6日
	北奥羽放射線治療懇話会	世 話 人	藤森 明		2日
	青森県放射線技師会	学術企画委員 治療部会長			3日
	青森県放射線治療技術研究会	事 務 局 長			8日
06年度	青森県放射線技師会	放射線管理士部会 委 員	須崎 勝正		3日
	青森県放射線技師会	学術企画委員	神 寿宏		3日
	青森 CT・MRI 診断・技術研究会	CT 部会長 世 話 人			
	青森県放射線技師会	放射線機器管理士 部 会 委 員	清野 守央		3日

（２）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	①全国循環器撮影研究会 第11回循環器被ばく低減技術セミナー	実行委員長	木村 均		1日
	②青森県核医学技術セミナー	代 表	工藤 亮裕		1日

（３）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	弘前市民健康まつり	実行委員	工藤 亮裕 長内 恒美		2日 2日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委 員	工藤 亮裕		3日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	①保健学科学生40名に対して、X線撮影・核医学・放射線治療技術の実習		①放射線技師全員		140日
	②医学部2年次学生81名に対して、放射線部臨床実地見学		②工藤 亮裕		13日
	③他施設放射線技師1名に対して、放射線治療技術を講義・実施見学		③藤森 明他		24日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	①乳房撮影ガイドライン精度管理研修会	準 講 師	長内 恒美 (①～③)		6日
	②青森県マンモグラフィ読影講習会	準 講 師			3日
	③青森県委託事業	講 師			2日
	④平成18年度弘放会研修会特別講演	講 師	木村 均		1日
	⑤技師会緊急被ばく測定研修会	講 師	工藤 亮裕		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

該当なし。

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

（資格修得者一覧）

	長内恒美	藤森 明	大谷雄彦	成田将崇	菅原かおる	熊野志保	小原秀樹
検診マンモグラフィ認定技師* ¹							○6.06
医療情報技師* ²			○11.06		○11.06		
医用画像情報管理士* ³							○1.07
臨床技術能力検定2級* ⁴		○4.06 (治療)					

一般撮影能力検定 3 級* ⁵	○4.06			○4.06	○4.06	○4.06	
MRI 検査技能検定 3 級* ⁶			○4.06				
衛生管理者（第一種） * ⁷	○12.06						

備考：*1：マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

*2：日本医療情報学会

*3～6：日本放射線技師会

*7：厚生労働省

49. 輸血部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

8割程度は達成できたと考える。

これから2年間の目標：

血液学・輸血学に関する情報を医学科以外でも提供する。

学会の委員会活動に7割以上出席して活動する。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 0, 准教授 0, 講師 1, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本臨床血液学会	評 議 員	玉井 佳子	福岡	2日
	日本血液学会・臨床血液学会東北支部	世 話 人		仙台（2回）	2日
	東北止血血栓研究会	世 話 人		仙台（2回）	2日
	日本輸血・細胞治療学会東北支部	世 話 人		福島	1日
	東北血液フォーラム	世 話 人		仙台（2回）	2日
	東北血友病インビター調査ワーキンググループ	世話人・監事		仙台（2回）	2日
	青森県合同輸血療法委員会	世 話 人		青森（2回）	2日
	あおもり血液疾患研究会	世 話 人		青森（2回）	2日
07年度	日本臨床血液学会	評 議 員	玉井 佳子	横浜	2日
	日本輸血・細胞治療学会 輸血療法の安全性委員会	委 員		高松	2日
	日本輸血・細胞治療学会東北支部例会	世 話 人		青森・山形	2日
	日本血液学会・日本臨床血液学会東北地方会	世 話 人		青森・仙台	2日
	日本内科学会内科専門医部会	世 話 人		仙台	2日
	東北止血・血栓研究会	世 話 人		青森	1日
	八幡平造血セミナー	実行委員		盛岡	1日
	あおもり血液疾患研究会	世 話 人		弘前・青森	2日
	東北血液フォーラム	世 話 人		仙台	1日
	東北血友病インビター調査ワーキンググループ	世話人・監事		仙台	1日
	青森県合同輸血療法委員会	世 話 人		青森・弘前	2日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	市民公開講座～骨髄移植を知ろう～	セミナー講師	玉井 佳子		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	青森県献血推進協議会	委員（代理）	玉井 佳子	青森	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第79回弘前臨床検査勉強会 院内リスクマネジメント講演会（輸血）	講 師	玉井 佳子		1日 1日
07年度	研修医のためのプライマリ・ケア セミナー 附属病院リスクマネジメント研修会	講 師	玉井 佳子		1日 1日

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	平成18年度中弘南黒支部研修会	講 師	玉井 佳子	弘前	1日
07年度	第25回岩手地区消化器内視鏡技師研究会	講 師	玉井 佳子	盛岡	1日
	第20回東北臨床検査技師会 輸血・移植部門研修会			弘前	1日
	第19回日本消化器内視鏡学会東北セミナー			仙台	2日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森市立浪岡病院	非 常 勤	玉井 佳子		週 1 回
07年度	弘前献血ルーム・弘前献血バス 青森市立浪岡病院	非 常 勤 非 常 勤	玉井 佳子		10日 週 1 日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	骨髓移植財団 ドナー安全委員会	委 員	玉井 佳子		3日

50. 集中治療部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

ほぼ到達した。

これから2年間の目標：

できる限り，市民や他の病院に対して情報を発信していく。

学内外での教育講演を積極的に行う。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 1, 講師 0, 助手 2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 0, 准教授 1, 講師 0, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	日本集中治療医学会	評 議 委 員	坪 敏仁		1日
	日本集中治療医学会東北地方会	評 議 委 員			1日
	吸入麻酔研究会	プリセプター	吉田 仁		1日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	第2回吸入麻酔研究会研修主催	主催者代表	吉田 仁		1日
07年度	第26回青森県集中治療研究会	会 長	橋場 英二		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	超音波医学会専門医試験委員会	試 験 委 員	坪 敏仁		2日
	Journal of Clinical Anesthesia		吉田 仁	査読	21日
	Journal of Anesthesia	査 読 員	橋場 英二		1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	津軽の救急医療を考える	シンポジスト	橋場 英二		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	製薬会社研修会講義		坪 敏仁		2日
	麻酔科領域における薬物療法				
	ヤンセンファーマ社内勉強会		吉田 仁		1日

(10) 学校医、種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	西北中央病院	非 常 勤	坪 敏仁	毎週水曜	42日
	弘前中央病院	非 常 勤	吉田 仁	毎週火曜	38日
	青森市民病院	非 常 勤	橋場 英二	毎週木曜	31日
07年度	五所川原市立西北中央病院	非 常 勤	坪 敏仁	毎週水曜	40日
	弘前中央病院	非 常 勤	吉田 仁	毎週火曜	1年
	青森市民病院	非 常 勤	橋場 英二	毎週月曜	1年

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア、法医解剖、マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	待望の助っ人レミフェンタニル～メジャー屈指のマルチプレーヤー～			招待講演	1日
	宮城県大崎地区静脈麻酔勉強会（大崎市）				
	待望の助っ人レミフェンタニル～メジャー屈指のマルチプレーヤー～	助 教	吉田 仁	招待講演	1日
	八戸地区アルチバ発売記念懇話会（八戸市）				

51. 周産母子センター

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

これから2年間の目標：

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 1, 助手 2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 1, 准教授 1, 講師 1, 助教 2, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県臨床産婦人科医会母子保健委員会 青森県周生期医療研究会	委 員 長 幹 事	尾崎 浩士		6日 1日

（2）学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県周生期医療研究会		尾崎 浩士		1日

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Journal of Obstetrics & Gynecology	査 読	尾崎 浩士		1日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加、技術移転・相談

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	都市エリア産学官連携事業	研 究 者	田中 幹二		
07年度	都市エリア産学官連携事業	研 究 者	田中 幹二		

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	久慈市産婦人科医会	講 師	尾崎 浩士		1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤医師	尾崎 浩士		5日
	老人保健法に基づく子宮癌卵巣癌検診	非常勤医師	田中 幹二		5日

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	公立野辺地病院	非常勤医師	尾崎 浩士		24日
	十和田中央病院	非常勤医師	田中 幹二		24日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

52. 病理部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

患者検体の正確で、迅速かつ丁寧な病理診断は、質の高い医療に直結するという信念をもち、日々の病理診断を通じて、地域医療に貢献する。また、附属病院にとどまらず、他施設からの要望に応えるため、本務に支障のない範囲で、病理診断に従事し、地域医療に貢献する。このような社会貢献活動は、本務にも有益な経験が得られるものとする。

これから2年間の目標：

前回の目標と同様で、社会貢献活動の面でも、研究面と同様に一層の充実する時期と位置づけられる。

- (1) 患者検体の正確で、迅速かつ丁寧な病理診断を、質の高い医療に直結させること、
- (2) 教育分野での病理学の重要性に鑑み、他施設からの要望に応えるため、本務に支障のない範囲で、学外での病理診断に従事し、地域医療に貢献する。

このような社会貢献活動は、本務にも有益な経験が得られるものとする。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0, 助教授 1, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
07年度		教授 0, 准教授 1, 講師 0, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	International Academy of Pathology 日本支部	助 教 授	鎌田 義正	セミナー担当委員	3日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	International Journal of Urology	助 教 授	鎌田 義正	査読委員	8日
07年度	International Journal of Urology	准 教 授	鎌田 義正	査読委員	10日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	生物学の基礎（21世紀教育；弘前大学）	助 教 授	鎌田 義正		5日

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

該当なし。

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森労災病院 八戸医師会臨床検査センター	助 教 授	鎌田 義正	2 回 / 月 (各 3 時間)	24 日 24 日
07年度	青森労災病院 非常勤医師 八戸医師会臨床検査センター 非常勤医師	准 教 授	鎌田 義正		24 日 24 日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法理解剖，マスコミによる公表など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	病理解剖（弘前大学医学部附属病院）	助 教 授	鎌田 義正		52 日
07年度	病理解剖	准 教 授	鎌田 義正		52 日

53. 光学医療診療部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：
専門的知識の普及，啓蒙，地域医療への貢献

これから2年間の目標：
難治性疾患の地域連携を主眼としたアルゴリズムの策定についての検討

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0，助教授 1，講師 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0
07年度		教授 0，准教授 1，講師 0，助教 0，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	日本消化器病学会東北支部例会	評 議 員	石黒 陽	評議員会	2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部例会				2日
07年度	消化器免疫学会	評 議 員	石黒 陽	東京	1日
	日本消化器病学会東北支部例会			仙台	2日
	日本消化器内視鏡学会東北支部例会			仙台	2日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	Clinical Immunology 3件		石黒 陽	査読	42日
	Clin Exp Immunology 1件				14日
	Tissue Antigen 1件				14日
07年度	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY	Reviewer	石黒 陽		14日
	CLINICAL EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY 2件				28日
	CLINICAL IMMUNOLOGY 2件				28日

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	厚生労働科学研究補助金難治性疾患克服研究事業 —難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	研究協力員	石黒 陽	東京	4日
	胃がん検診読影委員会	委 員		青森県総合健診センター	1日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	南部胃腸同好会	講 師	石黒 陽	三沢市	1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	町立大鰐病院 内科医師として週 1 回勤務		石黒 陽		44 日
07年度	町立大鰐病院（内科）	非常勤医師	石黒 陽	大鰐町（週 1 回）	40 日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

54. リハビリテーション部

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

整形外科領域における卒後教育を通し地域医療に貢献した。

各種講演会，学会活動を通して地域住民，臨床医師に対し整形外科疾患，リハビリテーション医学に関する知識の啓蒙を図った。

これから2年間の目標：

充実した卒後教育を通し地域に根ざした臨床医を育成する。

地域住民，臨床医師に対し整形外科疾患，リハビリテーション医学に関する知識の啓蒙を図る。

【研究人員】

06年度	研究人員	教授 0，助教授 0，講師 1，助手 1，医員 0，大学院学生 0，研究生 0
07年度		教授 0，准教授 0，講師 1，助教 1，助手 0，医員 0，大学院学生 0，研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	東北股関節症例検討会	世 話 人	中村 吉秀		1日
	人工股関節懇話会	世 話 人			2日
	バイポーラー検討会	幹 事			2日
	青森県骨粗鬆症研究会	世 話 人			1日
	MX 人工股関節研究会	幹 事			1日
07年度	東北股関節症例検討会	世 話 人	中村 吉秀		1日
	人工股関節懇話会	世 話 人			1日
	バイポーラー検討会	幹 事			1日
	MX 人工股関節研究会	幹 事			1日

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	東北整形災害外科紀要編集	査 読 委 員	中村 吉秀		

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	骨粗しょう症の最新知識岩木健康増進プロジェクト 講演	講 師	中村 吉秀		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員，医師会役員も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県検診センター骨密度（骨粗鬆症）検診判定委員	判 定 委 員	中村 吉秀		1日
	損害保険料率算出機構	顧 問 医			36日
07年度	身体障害者判定巡回診療	判 定 医	中村 吉秀		3日
	損害保険料率算出機構	顧 問 医			36日
	青森県検診センター骨密度（骨粗鬆症）	検診判定委員	湯川 昌広		2日
	身体障害者判定巡回診療	判 定 医			3日

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加，技術移転・相談

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	第158回宮城股関節研究会講演 エーザイ株式会社社内勉強会	講 師	中村 吉秀		1日
					1日

(10) 学校医，種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	青森県身体障害診断巡回診療	審 査 医 師	中村 吉秀		4日
	青森県身体障害診断巡回診療	審 査 医 師	湯川 昌広		

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
06年度	身体障害者手帳／義肢装具交付巡回診療	判 定 医	中村 吉秀		3日
	義肢装具借り合わせおよび適合判定巡回診療	判 定 医			2日
	ヒロサキメディカルセンター 平川市立病院	整形外科医 整形外科医			50日 50日
	弘前記念病院整形外科での診療	非常勤医師	湯川 昌広		週1回
07年度	ヒロサキメディカルセンター 五所川原市立西北中央病院	診 療 応 援	中村 吉秀		48日 24日
	弘前記念病院	診 療 応 援	湯川 昌広		48日
	なかざわ整形外科・リハビリテーションクリニック				30日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

55. 医療安全推進室

前回（2年前）設定した目標に対する到達度：

1. 地域の医療従事者養成施設における教育活動：看護師養成施設における講義を行った。
2. 専門領域に関連する健康増進活動による地域貢献：不十分

これから2年間の目標：

1. 地域の医療従事者養成施設における教育活動を今後も続ける。
2. 専門領域について、地域医療機関に対する啓発活動を行う。

【研究人員】

07年度	研究人員	教授 0, 准教授 1, 講師 0, 助教 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0

【社会貢献活動の実施状況】

（1）学会などにおける委員としての活動

該当なし。

（2）学会などの開催

該当なし。

（3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

該当なし。

（4）一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	鯉ヶ沢町立病院医療安全研修会 弘前市立病院医療安全研修会	准 教 授	福井 康三		1日

（5）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動（相談員、医師会役員も含む）

該当なし。

（6）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

該当なし。

（7）産学共同事業への参加、技術移転・相談

該当なし。

（8）医学部医学科以外での講義（大学）

該当なし。

（9）医学部医学科以外での講義（大学以外）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	国立病院機構弘前病院附属高等看護学校	准 教 授	福井 康三		4日

（10）学校医、種々の検(健)診活動への参加（学校での予防接種も含む）

該当なし。

(11) 地域医療への貢献（弘前大学職員兼業規程及び医学部における兼業基準による他病院での診療など）

	件 名	役職	氏 名	備 考	日数
07年度	五所川原市立西北中央病院				12日
	黒石市立病院	准 教 授	福井 康三		24日
	弘前中央病院				26日

(12) 国際交流への貢献（姉妹校での活動，国際協力事業団の活動など）

該当なし。

(13) その他（ボランティア，法医解剖，マスコミによる公表など）

該当なし。

管 理・運 営

第4章 管 理・運 営

I. 所属委員会

【医学部】（2006年4月現在）

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	医学部教授会	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 泉井 亮, 藏田 潔, 高垣啓一, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 棟方昭博, 奥村 謙, 須田俊宏, 水島 豊, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 澤田幸正, 保嶋 実, 立石智則, 浅利 靖, 木村博人, 花田勝美, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之 計 42 名
2	医学系研究科委員会	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 泉井 亮, 藏田 潔, 高垣啓一, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 棟方昭博, 奥村 謙, 須田俊宏, 水島 豊, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 澤田幸正, 保嶋 実, 立石智則, 浅利 靖, 木村博人, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之 計 41 名
3	学科間連絡会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 正村和彦, 奥村 謙, 保嶋 実 計 5 名
4	専攻会議連絡会	◎佐藤 敬, 若林孝一 計 2 名
5	附属動物実験施設運営委員会	◎藏田 潔, 加地 隆, 八木橋操六, 須田俊宏, 東海林幹夫 計 5 名
6	附属図書館医学部分館運営委員会	◎正村和彦, 加地 隆, 中根明夫, 木村博人 計 4 名
7	医学部環境整備委員会	◎中路重之, 中根明夫, 藤 哲, 棟方博文, 瀬谷和彦, 二井一則, 品川弘子, 長内恒美, 石崎孝志 計 9 名
8	医学部倫理委員会	◎泉井 亮, 中根明夫, 奥村 謙, 兼子 直, 黒田直人, 立石智則, 相澤 寛, 小田桐弘毅, 小林朱実 計 9 名
9	医学部動物実験倫理委員会	◎藏田 潔, 八木澤誠, 加地 隆, 元村 成, 大山 力, 廣田和美, 今 淳, 工藤 剛 計 8 名
10	医学部情報公開検討委員会	◎羽田隆吉, 黒田直人, 藏田 潔, 佐々木睦男 計 4 名
11	医学部及び附属病院職員レクリエーション委員会	柿崎育子, 渡邊誠二, 石川 太, 渡辺庸介, 薦谷昭司, 水木恵美子, 相馬美香子, 堀川万記子, 石崎孝志, 佐藤洋正 計 10 名
12	医学部放射線安全管理委員会	◎阿部由直, 藏田 潔, 土田成紀, 福田幾夫, 藤 哲, 八木澤誠, 石崎孝志 計 7 名
13	本町地区安全衛生委員会	◎花田勝美, 葛西 猛, 阿部由直, 佐藤洋正, 成田博昭, 長澤 淳, 佐山 洋 計 7 名

【医学部医学科】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	医学科会議	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 泉井 亮, 藏田 潔, 高垣啓一, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 棟方昭博, 奥村 謙, 須田俊宏, 水島 豊, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 澤田幸正, 保嶋 実, 立石智則, 浅利 靖, 木村博人, 花田勝美, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之 計 42 名

2	医科学専攻会議	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 泉井 亮, 藏田 潔, 高垣啓一, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 棟方昭博, 奥村 謙, 須田俊宏, 水島 豊, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 澤田幸正, 保嶋 実, 立石智則, 浅利 靖, 木村博人, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之 計41名
3	医学科運営会議	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 中根明夫, 若林孝一, 正村和彦, 保嶋 実, 水沼英樹, 中路重之, 鬼島 宏, 奥村 謙, 土田成紀, 石崎孝志 計12名
4	医学科将来計画委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 水沼英樹, 中路重之, 鬼島 宏, 奥村 謙, 土田成紀, 古川賢一, 武田仁志 計 9名
5	医学科予算委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 中路重之, 中根明夫, 木村博人 計 5名
6	医学科人事委員会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 奥村 謙, 水沼英樹, 正村和彦, 佐々木睦男 計 6名
7	医学科施設整備委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 保嶋 実, 中路重之, 藤 哲, 石崎孝志 計 6名
8	医学教育検討委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 鬼島 宏, 若林孝一, 中路重之, 福田幾夫, 木村博人 計 7名
9	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎佐藤 敬, 若林孝一, 花田勝美, 上野伸哉, 東海林幹夫, 正村和彦, 藏田 潔, 奥村 謙, 伊藤悦朗 計 9名
10	医学科学務委員会	◎奥村 謙, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 伊藤悦朗, 大山 力 計 6名
11	医学科入試専門委員会	◎中根明夫, 佐藤 敬, 鬼島 宏, 八木橋操六, 高垣啓一, 水沼英樹, 中澤 満 計 7名
12	医科学専攻学事委員会	◎若林孝一, 高垣啓一, 中路重之, 伊藤悦朗, 水沼英樹 計 5名
13	医学科研究推進委員会	◎佐藤 敬, 保嶋 実, 若林孝一, 土田成紀, 中根明夫, 伊藤悦朗, 中澤 満 計 7名
14	医学科・附属病院自己評価委員会	◎中澤 満, 中根明夫, 泉井 亮, 福田幾夫, 藏田 潔, 今 淳, 古川賢一, 下山 克, 岡田元宏, 庄司 優, 玉井佳子, 佐藤 優 計12名
15	医学科広報委員会	◎藤 哲, 正村和彦, 高垣啓一, 黒田直人, 廣田和美, 中澤 満 計 6名
16	医学科地域医療対策委員会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 土田成紀, 中路重之, 伊藤悦朗, 奥村 謙, 福田幾夫, 新川秀一 計 8名
17	医学科ネットワーク管理委員会	上野伸哉, 阿部由直, 羽田隆吉, 長内理大, 胡 東良, 横山 徹, 石井賢治, 八木澤誠, 松谷秀哉 計 9名
18	医学科国際交流研究委員会	◎藤 哲, 藏田 潔, 上野伸哉, 高垣啓一, 水沼英樹, 大山 力 計 6名
19	医学科図書委員会	◎正村和彦, 羽田隆吉, 加地 隆, 中根明夫, 木村博人, 中澤 満, 石田邦夫, 二神真行 計 8名
20	医学部教員任期審査委員会	◎泉井 亮, 八木橋操六, 中根明夫, 奥村 謙, 藤 哲, 新川秀一 計 6名
21	医学部教員任期再審査委員会	正村和彦, 元村 成, 須田俊宏, 保嶋 実 計 4名
22	高度先進医学研究センター運営委員会	◎佐藤 敬, 伊東 健, 高垣啓一, 上野伸哉, 伊藤悦朗, 大山 力 計 6名
23	病理解剖運営委員会	八木橋操六, 佐々木睦男, 水上浩哉, 和田龍一, 楠美智己, 柴田 滋, 小林 恒, 山本善光, 岡崎耕衛 計 9名
24	青森医学振興会医学科実務委員会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 奥村 謙, 藤 哲 計 4名
25	教授団幹事	藤 哲 計 1名
26	弘前医学会幹事会	◎佐藤 敬, 須田俊宏, 元村 成, 中澤 満 計 4名
27	弘前医学編集委員会	◎中澤 満, 高垣啓一, 黒田直人, 若林孝一, 正村和彦, 八木橋操六, 須田俊宏, 伊藤悦朗, 立石智則, 大山 力 計10名

【附属病院】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	病院科長会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 棟方昭博, 奥村 謙, 須田俊宏, 東海林幹夫, 兼子 直, 伊藤悦朗, 佐々木睦男, 中野 創, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 廣田和美, 大熊洋揮, 横井克憲, 棟方博文, 木村博人, 浅利 靖, 八木橋操六, 羽田隆吉, 加藤博之, 水島 豊, 立石智則, 佐藤 優 計30名
2	病院運営会議	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 佐藤 優 計 7名
3	病院将来計画委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 伊藤悦朗, 大山 力, 阿部由直, 羽田隆吉, 佐藤 優 計11名
4	病院予算委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 須田俊宏, 廣田和美, 阿部由直, 砂田弘子, 佐藤 優 計 8名
5	病院人事委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 兼子 直, 新川秀一, 浅利 靖, 砂田弘子, 佐藤 優 計 8名
6	経営戦略会議	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 羽田隆吉, 佐藤 優, 古川文男, 松川昌勝, 馬場 守, 藤村 徹, 三浦康久, 木村博人 計14名
7	医療材料委員会	◎保嶋 実, 福田幾夫, 奥村 謙, 高橋 徹, 小野修一, 鈴木幸彦, 石橋恭之, 杉本一博, 坪 敏仁, 中嶋裕子 計10名
8	医療情報システム委員会	◎羽田隆吉, 佐々木賀広, 阿部由直, 中澤 満, 加藤博之, 辻 剛俊, 蔭山和則, 三浦 淳, 川崎仁司, 横山 徹, 山本善光, 榊 宏剛, 小林朱実, 小澤 浩 計14名
9	臨床検査外注検討委員会	◎藤 哲, 保嶋 実, 庄司 優, 鎌田義正, 玉井佳子, 須田俊宏, 伊藤悦朗, 藤本幸士, 武田仁志, 二井一則, 葛西 猛, 成田博昭 計12名
10	クリティカルパス委員会	◎福田幾夫, 遠藤 哲, 坂本十一, 樋熊拓未, 横山 仁, 松井 淳, 丹藤雄介, 富山誠彦, 菊池淳宏, 栗林理人, 遠野千佳子, 高橋 徹, 鈴木保之, 村田暁彦, 袴田健一, 石橋恭之, 松崎康司, 米山高弘, 石川 太, 間宮和久, 南場淳司, 石井賢治, 近藤英宏, 木村秀崇, 佐藤哲観, 嶋村則人, 浅野研一郎, 漆館聡志, 須貝道博, 大沢 弘, 矢口慎也, 佐藤 寿, 小林 恒, 木村博人, 玉澤直樹, 中村吉秀, 小林朱実, 小澤 浩 計38名
11	業務連絡会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田眞作, 長内智宏, 玉澤直樹, 馬場正之, 矢部博興, 高橋 徹, 對馬敬夫, 吉原秀一, 石橋恭之, 松崎康司, 大和 隆, 鈴木幸彦, 松原 篤, 小野修一, 藤井俊策, 石原弘規, 浅野研一郎, 漆館聡志, 須貝道博, 小林 恒, 坂井哲博, 庄司 優, 青木昌彦, 新井正康, 中村吉秀, 玉井佳子, 坪 敏仁, 尾崎浩士, 鎌田義正, 佐々木賀広, 石黒 陽, 大沢 弘, 大久保正, 米山高弘, 照井君典, 小川吉司, 豊木嘉一, 楠美昭則, 藤田祥子, 安部よし子, 葛西 猛, 工藤亮裕, 佐藤 優, 佐藤洋正, 成田博昭, 小澤 浩, 古川文男 計49名
12	感染対策委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 佐藤 優, 玉澤直樹, 山本葉子 計 9名
13	感染制御センター会議	◎保嶋 実, 玉澤直樹, 高梨信吾, 差波拓志, 高橋一平, 木村正彦, 新岡丈典, 山本葉子, 須藤信子, 小澤 浩, 坂本十一, 谷口 哲, 庄司 優, 安田文子, 福沢百合子, 中嶋裕子 計16名
14	リスクマネジメント対策委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 佐藤 優, 二階千津子, 新井 正康, 二階千津子 計10名
15	輸血療法委員会	◎保嶋 実, 佐々木睦男, 福田幾夫, 水沼英樹, 伊藤悦朗, 大山 力, 中村典雄, 小野 睦, 玉井佳子, 田中一人, 小澤 浩 計11名

16	薬事委員会	◎保嶋 実, 奥村 謙, 中澤 満, 山形和史, 花田裕之, 小川吉司, 富山誠彦, 岡田元宏, 高橋 徹, 山田芳嗣, 柴田 滋, 石橋恭之, 武田仁志, 古家琢也, 目時友美, 石井賢治, 小野修一, 二神真行, 北山眞任, 浅野研一郎, 漆館聡志, 須貝道博, 小林 恒, 浦田幸朋, 庄司 優, 坂井哲博, 青木昌彦, 新井正康, 坪 敏仁, 尾崎浩士, 大沢 弘, 花田勝美, 藤田祥子, 佐藤淳也, 野呂秀紀, 福土涼子, 成田博昭, 小澤 浩 計38名
17	高度先進医療専門委員会	◎花田勝美, 棟方昭博, 奥村 謙, 須田俊宏, 東海林幹夫, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 中野 創, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 横井克憲, 棟方博文, 木村博人, 保嶋 実, 佐藤 優 計23名
18	栄養管理委員会	◎保嶋 実, 小川吉司, 須田俊宏, 丹藤雄介, 萩沢 茂, 藤田浩史, 砂田弘子, 松田和子, 相馬博子, 堀内悦子, 佐藤淳也, 三上昭夫, 成田博昭, 小澤 浩, 平野聖治 計15名
19	褥瘡対策委員会	◎藤 哲, 松井 淳, 村田暁彦, 金子高英, 渡辺庸介, 砂田弘子, 金子高英, 古川真佐子, 塚本利昭, 下山葉子, 福土涼子, 須藤信子, 小澤 浩 計13名
20	防災対策委員会	◎花田勝美, 水島 豊, 浅利 靖, 工藤 剛, 藤田浩史, 菊池 潤, 大畑 崇, 工藤亮裕, 下山律子, 砂田弘子, 久保田昭子, 石川千鶴子, 佐々木幸子, 福土明美, 安部よし子, 佐藤 優, 佐藤洋正, 成田博昭, 小澤 浩, 古川文男, 野崎勝利, 會津利幸 計22名
21	医療ガス安全管理委員会	◎廣田和美, 高梨信吾, 石原弘規, 坂井哲博, 青木昌彦, 坪 敏仁, 大泉昭良, 安部よし子, 成田博昭 計9名
22	放射線安全委員会	◎阿部由直, 工藤亮裕, 金 正宜, 青木昌彦, 奥村 謙, 浅利 靖, 佐々木大輔, 坂井哲博, 庄司 優, 新井正康, 玉井佳子, 坪 敏仁, 石黒 陽, 砂田弘子, 大和田優子, 佐藤 優, 加藤春夫 計17名
23	臓器移植検討委員会	◎花田勝美, 伊藤悦朗, 大山 力, 保嶋 実, 佐々木睦男, 浅利 靖, 福田幾夫, 廣田和美, 八木橋操六, 砂田弘子, 佐藤 優 計11名
24	治験管理センター運営委員会	◎水沼英樹, 立石智則, 大久保正, 玉澤直樹, 兼子 直, 新川秀一, 保嶋 実, 羽田隆吉, 砂田弘子, 成田博昭 計10名
25	医薬品等臨床研究審査委員会	◎立石智則, 東海林幹夫, 新川秀一, 佐々木真吾, 皆川正仁, 元村 成, 相馬美香子, 成田博昭, 三浦秀春, 清水 明, 中林裕雄 計11名
26	卒後臨床研修センター運営委員会	◎水沼英樹, 加藤博之, 大沢 弘, 福田眞作, 中村典雄, 玉澤直樹, 矢部博興, 高橋 徹, 福井康三, 鳴海俊治, 藤井俊策, 石原弘規, 浅利 靖, 八木橋操六, 佐藤洋正 計15名
27	臨床研修管理委員会	◎花田勝美, 水沼英樹, 加藤博之, 砂田弘子, 佐藤 優, 大沢 弘, 藤井俊策, 高橋 徹, 福田眞作, 中村典雄, 玉澤直樹, 矢部博興, 福井康三, 鳴海俊治, 石原弘規, 浅利 靖, 八木橋操六, 佐藤洋正, 原田征行, 三浦一章, 長谷川正, 五十嵐勝朗, 橋本 功, 村田有志, 和賀 忍, 鈴木重晴, 小川克弘, 武内 俊, 坂田 優, 蘆野吉和, 松川昌勝, 相澤 中, 山中朋子, 田鎖良樹, 仁平 將, 井口弘三, 宮川隆美, 齋藤和子, 田崎博一, 百瀬昭志, 木村イク子, 館山俊子, 今村憲市, 石澤 誠, 沢田美彦, 坂本祥一, 五日市敬, 高橋修一, 若杉宏一, 斎藤重周, 小笠原幸裕, 中村恵彦, 梅村芳文, 三浦昭人, 竹内いづみ, 佐々木淳, 岡村良久, 堀内雅之, 沖津勝大, 秋山昌弘, 石田 均, 村上秀一, 木村健一, 駒井一雄, 成田祥耕, 三上雅人, 村上京子, 千葉茂夫, 葛西智徳, 白倉外茂夫, 吉田 淳, 木津明彦, 綿谷靖彦, 盛 勇造, 森山裕三, 田辺和彦, 秋山昌希, 丸山博行, 東海林優, 川原田恒, 田村 研, 武田智彦, 和田一穂, 難波吉雄 計84名

28	歯科医師卒後臨床研修室運営委員会	◎木村博人, 小林 恒, 織田光夫, 楠美昭則, 佐藤 寿, 榊 宏剛, 加藤博之, 佐藤洋正 計 8名
29	歯科医師臨床研修管理委員会	◎花田勝美, 木村博人, 小林 恒, 織田光夫, 楠美昭則, 佐藤 寿, 百瀬昭志, 梅原一浩, 福井 朗, 広瀬寿秀, 小島華林, 神谷 彰, 小原はるみ, 榊 宏剛, 砂田弘子, 佐藤 優, 佐藤孝雄 計 17名
30	附属病院衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎保嶋 実, 立石智則, 棟方博文, 鬼島 宏, 加藤博之, 佐々木睦男, 羽田隆吉, 小林朱実, 成田博昭 計 9名
31	診療環境向上推進委員会	◎藤 哲, 須田俊宏, 新川秀一, 羽田隆吉, 砂田弘子, 坂本十一, 袴田健一, 下山 克, 坂井哲博, 工藤正純, 齊藤慶子, 工藤亮裕, 安田文子, 小澤 浩 計 14名
32	診療情報提供委員会	◎藤 哲, 阿部由直, 羽田隆吉, 黒田直人, 五十嵐靖彦, 小田切達, 安田文子, 佐藤 優, 小澤 浩 計 9名
33	広報委員会	◎水沼英樹, 東海林幹夫, 棟方博文, 三浦 淳, 萩沢 茂, 安田文子, 佐々木賀広, 佐藤洋正, 小澤 浩 計 9名
34	院内がん登録委員会	◎中路重之, 下山 克, 高梨信吾, 對馬敬夫, 吉原秀一, 横山良仁, 松谷秀哉, 松方方士 計 8名
35	医療支援センター運営委員会	◎水沼英樹, 保嶋 実, 玉井佳子, 八木橋操六, 葛西 猛, 中田伸一, 齊藤慶子 計 7名

【全学の委員会】

	委 員 会 名	委 員 名
1	役員会	花田勝美
2	学長選考会議	佐藤 敬
3	経営協議会	花田勝美
4	教育研究評議会	佐藤 敬, 正村和彦, 保嶋 実
5	運営会議	佐藤 敬, 花田勝美, 佐藤 優
6	総務委員会	水沼英樹, 佐藤 優
7	財務・施設委員会	中路重之, 木村博人, 成田博昭
8	教育・学生委員会	鬼島 宏, 石崎孝志
9	研究・産学連携委員会	奥村 謙
10	社会連携委員会	土田成紀, 佐藤洋正
11	遺伝子実験施設運営委員会	伊東 健
12	総合情報処理センター運営委員会	元村 成, 羽田隆吉
13	総合情報処理センター運営委員会ネットワーク 技術専門委員会	松谷秀哉
14	生涯学習教育研究センター運営委員会	伊藤悦朗
15	地域共同研究センター運営委員会	高垣啓一
16	留学生センター運営委員会	水沼英樹
17	保健管理センター運営委員会	阿部由直, 保嶋 実, 水島 豊
18	21世紀教育センター運営委員会	立石智則, 中根明夫
19	アイソトープ総合実験室運営委員会	阿部由直, 土田成紀
20	機器分析センター運営委員会	土田成紀
21	附属図書館運営委員会	正村和彦, 加地 隆
22	情報公開・個人情報保護委員会	黒田直人, 羽田隆吉
23	ハラスメント防止等対策委員会	正村和彦
24	ハラスメント相談員	中根明夫
25	入学試験委員会	佐藤 敬, 中根明夫
26	動物実験委員会	藏田 潔, 東海林幹夫, 八木澤誠
27	組換え DNA 実験安全委員会	土田成紀, 中根明夫
28	バイオセーフティ委員会	中根明夫, 保嶋 実
29	放射線安全管理委員会	佐藤 敬, 花田勝美, 阿部由直
30	エネルギー教育推進委員会	阿部由直
31	スペース・コラボレーション・システム事業実施 運営委員会	藏田 潔, 羽田隆吉
32	サテライト運営委員会	藤 哲
33	知的財産審議会	高垣啓一

34	総合文化祭実施委員会	鬼島 宏, 玉澤直樹, 石崎孝志
35	化学物質等管理専門委員会	早狩 誠
36	出版会運営委員会	神谷晴夫
37	情報セキュリティ委員会	佐藤 敬, 花田勝美
38	セキュリティ対策専門委員会	松谷秀哉, 佐々木賀広
39	評価室	藏田 潔, 中澤 満
40	監査室	佐藤洋正
41	人事苦情処理室	中根明夫, 樺澤美代子

【医学研究科・保健学研究科・附属病院共通】（2007年4月現在）

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	医学部教授会	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 藏田 潔, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 奥村 謙, 須田俊宏, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 澤村大輔, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 木村博人, 澤田幸正, 浅利 靖, 保嶋 実, 立石智則, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之, 早狩 誠, 花田勝美 計 40 名
2	学科間連絡会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 中路重之, 奥村 謙, 保嶋 実 計 5 名
3	医学研究科附属動物実験施設運営委員会	◎中根明夫, 加地 隆, 八木橋操六, 須田俊宏, 東海林幹夫 計 5 名
4	附属図書館医学部分館運営委員会	◎藏田 潔, 加地 隆, 中根明夫, 木村博人 計 4 名
5	医学研究科環境整備委員会	◎中路重之, 中根明夫, 藤 哲, 大山 力, 瀬谷和彦, 二井一則, 品川弘子, 長内恒美, 石崎孝志 計 9 名
6	医学研究科倫理委員会	◎黒田直人, 鬼島 宏, 中根明夫, 奥村 謙, 兼子 直, 廣田和美, 早狩 誠, 外崎敬和, 田中 完, 小林朱実 計 10 名
7	医学研究科動物実験倫理委員会	◎中根明夫, 八木澤誠, 加地 隆, 元村 成, 大山 力, 廣田和美, 今 淳, 工藤 剛 計 8 名
8	医学研究科情報公開検討委員会	◎羽田隆吉, 藏田 潔, 黒田直人, 佐々木睦男 計 4 名
9	医学研究科等放射線安全管理委員会	◎阿部由直, 中根明夫, 土田成紀, 福田幾夫, 藤 哲, 八木澤誠, 石崎孝志 計 7 名

【医学研究科】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	研究科教授会	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 藏田 潔, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 奥村 謙, 須田俊宏, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 澤村大輔, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 木村博人, 澤田幸正, 浅利 靖, 保嶋 実, 立石智則, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之, 早狩 誠, 花田勝美 計 40 名
2	医学研究科運営会議	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 中根明夫, 若林孝一, 中路重之, 花田勝美, 保嶋 実, 水沼英樹, 中路重之, 鬼島 宏, 伊東 健, 土田成紀, 石崎孝志 計 13 名
3	医学研究科将来計画委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 水沼英樹, 中路重之, 鬼島 宏, 伊東 健, 土田成紀, 古川賢一, 武田仁志 計 9 名
4	医学研究科予算委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 中路重之, 中根明夫, 木村博人 計 5 名
5	医学研究科人事委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 花田勝美, 水沼英樹, 正村和彦, 佐々木睦男 計 6 名
6	医学研究科施設整備委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 保嶋 実, 中路重之, 藤 哲, 石崎孝志 計 6 名

7	医学教育検討委員会	◎佐藤 敬, 奥村 謙, 鬼島 宏, 若林孝一, 中路重之, 福田幾夫, 木村博人 計 7名
8	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎佐藤 敬, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 花田勝美, 正村和彦, 藏田 潔, 奥村 謙, 伊藤悦朗 計 9名
9	医学研究科学事委員会	◎若林孝一, 中路重之, 伊東 健, 澤村大輔, 伊藤悦朗, 水沼英樹 計 6名
10	医学研究科研究推進委員会	◎佐藤 敬, 保嶋 実, 若林孝一, 伊東 健, 中根明夫, 伊藤悦朗, 中澤 満 計 7名
11	医学研究科・附属病院自己評価委員会	◎中澤 満, 若林孝一, 元村 成, 新川秀一, 福田幾夫, 藏田 潔, 今 淳, 古川賢一, 下山 克, 三浦 淳, 石黒 陽, 玉井佳子, 佐藤 優 計 13名
12	医学研究科広報委員会	◎藤 哲, 鬼島 宏, 黒田直人, 上野伸哉, 澤村大輔, 廣田和美 計 6名
13	医学研究科地域医療対策委員会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 土田成紀, 中路重之, 伊藤悦朗, 奥村 謙, 福田幾夫, 新川秀一 計 8名
14	医学研究科ネットワーク管理委員会	上野伸哉, 立石智則, 羽田隆吉, 柿崎育子, 浅野義哉, 沼沢拓也, 二井一則, 八木澤誠, 松谷秀哉 計 9名
15	医学研究科国際交流研究委員会	藏田 潔, 上野伸哉, 鬼島 宏, 大山 力, 廣田和美, 大熊洋揮 計 6名
16	医学研究科教員任期審査委員会	◎八木橋操六, 土田成紀, 黒田直人, 奥村 謙, 藤 哲, 大山 力 計 6名
17	医学研究科教員任期再審査委員会	正村和彦, 鬼島 宏, 須田俊宏, 水沼英樹 計 4名
18	高度先進医学研究センター運営委員会	◎佐藤 敬, 伊東 健, 若林孝一, 上野伸哉, 伊藤悦朗, 大山 力 計 6名
19	病理解剖運営委員会	八木橋操六, 佐々木睦男, 水上浩哉, 和田龍一, 楠美智己, 小山 基, 小林 恒, 山本善光, 亀谷禎清 計 9名
20	医学科図書委員会	◎藏田 潔, 羽田隆吉, 加地 隆, 中根明夫, 木村博人, 中澤 満, 胡 東良, 二神真行 計 8名

【医学科】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	医学科会議	◎佐藤 敬, 正村和彦, 加地 隆, 藏田 潔, 土田成紀, 元村 成, 八木橋操六, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 東海林幹夫, 伊東 健, 奥村 謙, 須田俊宏, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 澤村大輔, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 木村博人, 澤田幸正, 浅利 靖, 保嶋 実, 立石智則, 棟方博文, 羽田隆吉, 加藤博之, 早狩 誠, 花田勝美 計 40名
2	医学科学務委員会	◎奥村 謙, 鬼島 宏, 中根明夫, 中路重之, 伊藤悦朗, 大山 力 計 6名
3	医学科入試専門委員会	◎中根明夫, 佐藤 敬, 鬼島 宏, 八木橋操六, 若林孝一, 木村博人, 中澤 満 計 7名

【任意団体】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	青森医学振興会医学科実務委員会	◎佐藤 敬, 花田勝美, 奥村 謙, 藤 哲 計 4名
2	教授団幹事	上野伸哉 計 1名
3	弘前医学会幹事会	◎佐藤 敬, 元村 成, 保嶋 実, 中澤 満 計 4名
4	弘前医学編集委員会	◎中澤 満, 黒田直人, 若林孝一, 上野伸哉, 正村和彦, 八木橋操六, 須田俊宏, 伊藤悦朗, 立石智則, 大山 力 計 10名

【附属病院】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	病院科長会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 福田眞作, 奥村 謙, 須田俊宏, 東海林幹夫, 兼子 直, 伊藤悦朗, 佐々木睦男, 澤村大輔, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 廣田和美, 大熊洋揮, 横井克憲, 棟方博文, 木村博人, 浅利 靖, 鬼島 宏, 羽田隆吉, 加藤博之, 早狩 誠, 立石智則, 佐藤 優 計30名
2	病院運営会議	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 佐藤 優 計 7名
3	病院将来計画委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 伊藤悦朗, 大山 力, 阿部由直, 早狩 誠, 羽田隆吉, 佐藤 優 計12名
4	病院予算委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 須田俊宏, 廣田和美, 阿部由直, 砂田弘子, 佐藤 優 計 8名
5	病院人事委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 兼子 直, 新川秀一, 浅利 靖, 砂田弘子, 佐藤 優 計 8名
6	経営戦略会議	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 羽田隆吉, 佐藤 優, 工藤泰民, 松川昌勝, 馬場 守, 藤村 徹, 三浦康久, 木村博人 計14名
7	医療材料委員会	◎保嶋 実, 福田幾夫, 奥村 謙, 高橋 徹, 小野修一, 鈴木幸彦, 石橋恭之, 杉本一博, 坪 敏仁, 中嶋裕子, 福井康三, 吉原秀一, 岩佐 篤, 二井一則, 橋本 浩, 成田憲司, 成田博昭, 工藤泰民 計18名
8	医療情報システム委員会	◎羽田隆吉, 佐々木賀広, 阿部由直, 中澤 満, 加藤博之, 辻 剛俊, 蔭山和則, 三浦 淳, 川崎仁司, 横山 徹, 山本善光, 榊 宏剛, 小林朱実, 小澤 浩 計14名
9	臨床検査外注検討委員会	◎藤 哲, 保嶋 実, 杉本一博, 鎌田義正, 玉井佳子, 須田俊宏, 伊藤悦朗, 藤本幸士, 武田仁志, 二井一則, 葛西 猛, 成田博昭, 工藤泰民 計13名
10	クリティカルパス委員会	◎福田幾夫, 吉村徹郎, 坂本十一, 木村正臣, 横山 仁, 松井 淳, 丹藤雄介, 瓦林 毅, 菊池淳宏, 佐々木伸也, 高橋 徹, 鈴木保之, 村田暁彦, 袴田健一, 沼沢拓也, 金子高英, 米山高弘, 石川 太, 間宮和久, 南場淳司, 石井賢治, 近藤英宏, 木村秀崇, 佐藤哲観, 嶋村則人, 浅野研一郎, 漆館聡志, 須貝道博, 大沢 弘, 矢口慎也, 佐藤 寿, 小林 恒, 木村博人, 玉澤直樹, 中村吉秀, 小林朱実, 小澤 浩 計37名
11	業務連絡会	◎花田勝美, 保嶋 実, 坂本十一, 長内智宏, 玉澤直樹, 富山誠彦, 矢部博興, 高橋 徹, 鈴木保之, 吉原秀一, 石橋恭之, 中野 創, 神村典孝, 鈴木幸彦, 松原 篤, 小野修一, 藤井俊策, 石原弘規, 浅野研一郎, 漆館聡志, 須貝道博, 小林 恒, 橋本 浩, 杉本一博, 青木昌彦, 石橋恭之, 中村吉秀, 玉井佳子, 坪 敏仁, 尾崎浩士, 鎌田義正, 佐々木賀広, 石黒 陽, 大沢 弘, 宇野 司, 米山高弘, 照井君典, 小川吉司, 豊木嘉一, 楠美昭則, 藤田祥子, 安部よし子, 葛西 猛, 工藤亮裕, 佐藤 優, 佐藤洋正, 成田博昭, 小澤 浩, 工藤泰民 計49名
12	感染対策委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 早狩 誠, 佐藤 優, 玉澤直樹, 樋口三枝子 計10名
13	感染制御センター会議	◎保嶋 実, 玉澤直樹, 樋口三枝子, 高梨信吾, 差波拓志, 高橋一平, 木村正彦, 新岡丈典, 中嶋裕子, 須藤信子, 小澤 浩, 坂本十一, 谷口 哲, 安田文子, 杉本一博, 橋本 浩 計16名
14	リスクマネジメント対策委員会	◎花田勝美, 保嶋 実, 福田幾夫, 水沼英樹, 藤 哲, 砂田弘子, 佐藤 優, 二階千津子, 福井康三 計 9名
15	輸血療法委員会	◎保嶋 実, 佐々木睦男, 福田幾夫, 水沼英樹, 伊藤悦朗, 大山 力, 中村典雄, 小野 睦, 玉井佳子, 田中一人, 岡村祐嗣, 中嶋裕子, 小澤 浩 計13名

16	薬事委員会	◎保嶋 実, 奥村 謙, 中澤 満, 山形和史, 花田裕之, 小川吉司, 富山誠彦, 古郡規雄, 高橋 徹, 山田芳嗣, 柴田 滋, 石橋恭之, 武田仁志, 古家琢也, 目時友美, 石井賢治, 小野修一, 二神真行, 北山真任, 浅野研一郎, 漆館聡志, 須貝道博, 小林 恒, 杉本一博, 橋本 浩, 青木昌彦, 坪 敏仁, 尾崎浩士, 大沢 弘, 早狩 誠, 藤田祥子, 佐藤淳也, 野呂秀紀, 福士涼子, 成田博昭, 小澤 浩, 工藤泰民 計37名
17	先進医療専門委員会	◎花田勝美, 福田眞作, 奥村 謙, 須田俊宏, 東海林幹夫, 兼子 直, 伊藤悦朗, 福田幾夫, 佐々木睦男, 藤 哲, 澤村大輔, 大山 力, 中澤 満, 新川秀一, 阿部由直, 水沼英樹, 廣田和美, 大熊洋揮, 横井克憲, 棟方博文, 木村博人, 早狩 誠, 佐藤 優 計23名
18	栄養管理委員会	◎保嶋 実, 小川吉司, 須田俊宏, 丹藤雄介, 萩沢 茂, 藤田浩史, 砂田弘子, 松田和子, 相馬博子, 堀内悦子, 佐藤淳也, 三上昭夫, 成田博昭, 小澤 浩, 平野聖治 計15名
19	褥瘡対策委員会	◎藤 哲, 松井 淳, 村田暁彦, 金子高英, 渡辺庸介, 砂田弘子, 久保田昭子, 塚本利昭, 下山葉子, 福士涼子, 須藤信子, 小澤 浩, 古川真佐子 計13名
20	防災対策委員会	◎花田勝美, 加藤博之, 浅利 靖, 工藤 剛, 藤田浩史, 菊池 潤, 大畑 崇, 工藤亮裕, 下山律子, 砂田弘子, 久保田昭子, 石川千鶴子, 佐々木幸子, 福士明美, 安部よし子, 佐藤 優, 佐藤洋正, 成田博昭, 小澤 浩, 工藤泰民, 野崎勝利, 會津利幸 計22名
21	医療ガス安全管理委員会	◎廣田和美, 高梨信吾, 石原弘規, 橋本 浩, 青木昌彦, 坪 敏仁, 大泉昭良, 安部よし子, 成田博昭 計 9名
22	放射線安全委員会	◎阿部由直, 工藤亮裕, 金 正宜, 青木昌彦, 奥村 謙, 浅利 靖, 佐々木大輔, 橋本 浩, 杉本一博, 玉井佳子, 坪 敏仁, 石黒 陽, 砂田弘子, 大和田優子, 佐藤 優, 小幡欽也 計16名
23	臓器移植検討委員会	◎花田勝美, 伊藤悦朗, 大山 力, 保嶋 実, 佐々木睦男, 浅利 靖, 福田幾夫, 廣田和美, 鬼島 宏, 砂田弘子, 佐藤 優 計11名
24	治験管理センター運営委員会	◎水沼英樹, 立石智則, 玉澤直樹, 宇野 司, 兼子 直, 新川秀一, 保嶋 実, 羽田隆吉, 早狩 誠, 砂田弘子, 成田博昭 計11名
25	医薬品等臨床研究審査委員会	◎早狩 誠, 東海林幹夫, 新川秀一, 石黒 陽, 皆川正仁, 元村 成, 立石智則, 相馬美香子, 成田博昭, 三浦秀春, 田中一隆, 中林裕雄 計12名
26	卒後臨床研修センター運営委員会	◎水沼英樹, 加藤博之, 大沢 弘, 坂本十一, 中村典雄, 玉澤直樹, 矢部博興, 高橋 徹, 鈴木保之, 鳴海俊治, 藤井俊策, 櫛方哲也, 浅利 靖, 鬼島 宏, 佐藤洋正 計15名
27	臨床研修管理委員会	◎花田勝美, 水沼英樹, 加藤博之, 砂田弘子, 佐藤 優, 大沢 弘, 藤井俊策, 高橋 徹, 坂本十一, 中村典雄, 玉澤直樹, 矢部博興, 鈴木保之, 鳴海俊治, 櫛方哲也, 浅利 靖, 鬼島 宏, 佐藤洋正, 吉田茂昭, 三浦一章, 吉川修身, 佐藤年信, 竹川弘美, 村田有志, 和賀 忍, 鈴木重晴, 小川克弘, 館岡 博, 星 克樹, 蘆野吉和, 中畑 久, 相澤 中, 長谷良志男, 宮川隆美, 井口弘三, 仁平 將, 山中朋子, 反町吉秀, 齋藤和子, 田崎博一, 百瀬昭志, 木村イク子, 館山俊子, 今村憲市, 石澤 誠, 沢田美彦, 坂本祥一, 五日市敬, 高橋修一, 若杉宏一, 小笠原幸裕, 中村恵彦, 梅村芳文, 三浦昭人, 竹内いずみ, 佐々木淳, 関 秀一, 岡村良久, 堀内雅之, 沖津勝大, 秋山昌弘, 石田 均, 村上秀一, 木村健一, 駒井一雄, 成田祥耕, 三上雅人, 村上京子, 千葉茂夫, 高橋浩司, 吉田 淳, 秋山實男, 武内徳男, 清水幸雄, 加藤輝夫, 淀野 啓, 山口 力, 石田洋平, 晴山靖雄, 三上 修, 高橋昌久, 山谷敏彦, 阿部朋親, 盛 勇造, 森山裕三, 田辺和彦, 秋山昌希, 富山月子, 丸山博行, 東海林優, 川原田恒, 田村 研, 武田智彦, 佐々木正人, 吉田順一, 小嶋泰彦, 山本孝司, 蝦名宣男, 和田一穂, 難波吉雄 計100名

28	歯科医師卒後臨床研修室運営委員会	◎木村博人, 小林 恒, 成田憲司, 楠美昭則, 佐藤 寿, 榊 宏剛, 加藤博之, 佐藤洋正 計 8 名
29	歯科医師臨床研修管理委員会	◎花田勝美, 木村博人, 小林 恒, 成田憲司, 楠美昭則, 佐藤 寿, 榊 宏剛, 砂田弘子, 佐藤 優, 百瀬昭志, 梅原一浩, 福井 朗, 広瀬寿秀, 大出伸治, 神谷 彰, 小原はるみ, 佐藤孝雄 計 17 名
30	衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎保嶋 実, 立石智則, 棟方博文, 鬼島 宏, 加藤博之, 佐々木睦男, 羽田隆吉, 小林朱実, 成田博昭 計 9 名
31	診療環境向上推進委員会	◎藤 哲, 須田俊宏, 新川秀一, 羽田隆吉, 砂田弘子, 坂本十一, 袴田健一, 下山 克, 橋本 浩, 工藤正純, 齊藤慶子, 工藤亮裕, 安田文子, 小澤 浩 計 14 名
32	診療情報提供委員会	◎藤 哲, 阿部由直, 羽田隆吉, 黒田直人, 平野 潔, 小田切達, 安田文子, 佐藤 優, 小澤 浩 計 9 名
33	広報委員会	◎水沼英樹, 東海林幹夫, 棟方博文, 三浦 淳, 萩沢 茂, 安田文子, 佐々木賀広, 佐藤洋正, 小澤 浩 計 9 名
34	院内がん登録委員会	◎中路重之, 下山 克, 高梨信吾, 對馬敬夫, 吉原秀一, 横山良仁, 松谷秀哉, 松方方士 計 8 名
35	医療支援センター運営委員会	◎水沼英樹, 保嶋 実, 玉井佳子, 鬼島 宏, 葛西 猛, 中田伸一, 齊藤慶子 計 7 名
36	病院診療録管理委員会	◎花田勝美, 羽田隆吉, 加藤博之, 伊藤悦朗, 大山 力, 下山 克, 木村大輔, 山本善光, 富田泰史, 小林朱実, 小澤 浩 計 11 名
37	腫瘍センター運営委員会	◎阿部由直, 佐々木睦男, 玉井佳子, 福田眞作, 高梨信吾, 佐藤哲観, 對馬敬夫, 袴田健一, 横山良仁, 鬼島 宏, 相馬朱美, 三上恵理, 佐藤淳也, 塚本利昭, 小澤 浩, 中路重之 計 16 名

【全学の委員会】

	委 員 会 名	委 員 名
1	役員会	花田勝美
2	学長選考会議	佐藤 敬
3	経営協議会	花田勝美
4	教育研究評議会	佐藤 敬, 正村和彦, 中路重之, 保嶋 実
5	運営会議	佐藤 敬, 花田勝美, 佐藤 優
6	総務委員会	水沼英樹, 佐藤 優
7	財務・施設委員会	中路重之, 木村博人, 成田博昭
8	教育・学生委員会	鬼島 宏, 石崎孝志
9	研究・産学連携委員会	伊東 健
10	社会連携委員会	土田成紀, 佐藤洋正
11	遺伝子実験施設運営委員会	伊東 健
12	総合情報処理センター運営委員会	元村 成, 羽田隆吉
13	総合情報処理センター運営委員会ネットワーク技術専門委員会	松谷秀哉
14	生涯学習教育研究センター運営委員会	大山 力
15	地域共同研究センター運営委員会	梅田 孝
16	国際交流センター運営委員会	廣田和美
17	保健管理センター運営委員会	阿部由直, 保嶋 実, 水島 豊
18	21世紀教育センター運営委員会	立石智則, 上野伸哉
19	アイソトープ総合実験室運営委員会	阿部由直, 土田成紀
20	機器分析センター運営委員会	土田成紀
21	附属図書館運営委員会	正村和彦, 藏田 潔, 八木橋操六
22	情報公開・個人情報保護委員会	鬼島 宏, 羽田隆吉
23	ハラスメント防止等対策委員会	中路重之
24	ハラスメント相談員	中根明夫, 早狩 誠
25	入学試験委員会	佐藤 敬, 中根明夫
26	動物実験委員会	中根明夫, 東海林幹夫, 八木澤誠
27	組換え DNA 実験安全委員会	土田成紀, 中根明夫
28	バイオセーフティ委員会	中根明夫, 保嶋 実

29	放射線安全管理委員会	佐藤 敬, 花田勝美, 阿部由直
30	エネルギー教育推進委員会	東海林幹夫
31	スペース・コラボレーション・システム事業実施運営委員会	上野伸哉, 羽田隆吉
32	サテライト運営委員会	藤 哲
33	知的財産審議会	伊東 健
34	総合文化祭実施委員会	鬼島 宏, 玉澤直樹, 石崎孝志
35	化学物質等管理専門委員会	瀬谷和彦
36	出版会運営委員会	中根明夫, 今泉忠淳
37	情報セキュリティ委員会	佐藤 敬, 花田勝美
38	セキュリティ対策専門委員会	松谷秀哉, 佐々木賀広
39	評価室	藏田 潔, 中澤 満
40	監査室	佐藤洋正
41	人事苦情処理室	中根明夫, 樺澤美代子
42	弘前大学創立60周年記念事業運営委員会	中路重之

Ⅱ. 医学部医学科・医学（系）研究科及び附属病院役付職員一覧

【医学系研究科・医学部医学科】（2006年4月現在）

医学系研究科長・医学部長・医学科長	佐 藤 敬
副学部長（医学科）	奥 村 謙
評 議 員	正 村 和 彦
附属動物実験施設長	藏 田 潔
附属脳神経血管病態研究施設長	若 林 孝 一
附属図書館医学部分館長	正 村 和 彦

【附属病院】

附 属 病 院 長	花 田 勝 美
副 病 院 長	保 嶋 実
病 院 長 補 佐	福 田 幾 夫
病 院 長 補 佐	藤 哲
病 院 長 補 佐	水 沼 英 樹
病 院 長 補 佐	砂 田 弘 子

【医学研究科・医学部医学科】（2007年4月現在）

医学研究科長・医学部長・医学科長	佐 藤 敬
副学部長（医学科）	奥 村 謙
評 議 員	中 路 重 之
附属動物実験施設長	中 根 明 夫
附属脳神経血管病態研究施設長	若 林 孝 一
附属図書館医学部分館長	藏 田 潔

【附属病院】

附 属 病 院 長	花 田 勝 美
副 病 院 長	保 嶋 実
病 院 長 補 佐	福 田 幾 夫
病 院 長 補 佐	藤 哲
病 院 長 補 佐	水 沼 英 樹
病 院 長 補 佐	砂 田 弘 子

Ⅲ. 学友会所属サークル一覧（体育系及び文化系）（2006年4月現在）

整理番号	サークル名	部員数	顧 問 教 員	
			所属講座等	氏 名
1	陸 上 競 技 部	12	神 経 統 御 部 門	馬 場 正 之
2	準 硬 式 野 球 部	30	整 形 外 科 学	藤 哲
3	硬 式 庭 球 部（ 男 子 ）	30	生 理 学 第 二	藏 田 潔
4	硬 式 庭 球 部（ 女 子 ）	18	生 理 学 第 二	藏 田 潔
5	ソ フ ト テ ニ ス 部	46	内 科 学 第 三	須 田 俊 宏
6	水 泳 部	13	放 射 線 医 学	阿 部 由 直
7	サ ッ カ ー 部	33	薬 理 学	元 村 成
8	ラ グ ビ ー 部	34	脳 血 管 病 態 部 門	佐 藤 敬
9	バ レ ー ボ ー ル 部（ 男 子 ）	18	外 科 学 第 一	福 田 幾 夫
10	バ レ ー ボ ー ル 部（ 女 子 ）	28	外 科 学 第 一	福 田 幾 夫
11	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部（ 男 子 ）	30	内 科 学 第 一	棟 方 昭 博
12	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部（ 女 子 ）	15	内 科 学 第 一	棟 方 昭 博
13	バ ド ミ ン ト ン 部	39	分 子 病 態 部 門	若 林 孝 一
14	卓 球 部	30	小 児 外 科	棟 方 博 文
15	剣 道 部	19	産 科 婦 人 科 学	水 沼 英 樹
16	柔 道 部	6	整 形 外 科 学	藤 哲
17	競 技 ス キ ー 部	22	解 剖 学 第 二	加 地 隆
18	ゴ ル フ 部	48	内 科 学 第 二	奥 村 謙
19	弓 道 部	15	歯 科 口 腔 外 科 学	木 村 博 人
20	空 手 道 部	20	薬 理 学	元 村 成
21	山 岳 部	7	病 理 学 第 一	八 木 橋 操 六

整理番号	サークル名	部員数	顧 問 教 員	
			所属講座等	氏 名
1	写 真 部	42	生 理 学 第 二	藏 田 潔
2	茶 道 部	17	細 菌 学	中 根 明 夫
3	ボランティア部〔コスモス〕	79	細 菌 学	中 根 明 夫
4	漢 方 医 学 研 究 会	27	老 年 科 学	水 島 豊
5	国 際 医 療 研 究 会	28	老 年 科 学	水 島 豊
6	管 弦 楽 団	28	耳 鼻 咽 喉 科 学	新 川 秀 一
7	Medical Cool Quartet	40	整 形 外 科 学	藤 哲
8	グリーンキャンパスクラブ	17	細 菌 学	中 根 明 夫
9	社会医学研究会〔ほっと〕	6	社 会 医 学	中 路 重 之
10	ピアカウンセリングサークル BLOOM	26	母 子 看 護 学（ 保 健 ）	五 十 嵐 世 津 子
11	ダンスサークル FUNT EOCKERS	5	基 礎 看 護 学（ 保 健 ）	工 藤 せ い 子

(2007年4月現在)

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	陸上競技部	18	社会医学	中路重之
2	準硬式野球部	25	整形外科学	藤哲
3	硬式庭球部	52	統合機能生理学	藏田潔
5	ソフトテニス部	34	内科学第三	須田俊宏
6	水泳部	11	放射線科学	阿部由直
7	サッカー部	32	病態薬理学	元村成
8	ラグビー部	33	脳血管病態学講座	佐藤敬
9	バレーボール部(男子)	20	胸部心臓血管外科学	福田幾夫
10	バレーボール部(女子)	32	胸部心臓血管外科学	福田幾夫
11	バスケットボール部(男子)	29	分子生体防御学	伊東健
12	バスケットボール部(女子)	20	分子生体防御学	伊東健
13	バドミントン部	31	脳神経病理学	若林孝一
14	卓球部	35	小児外科学	棟方博文
15	剣道部	25	産科婦人科学	水沼英樹
16	柔道部	11	整形外科学	藤哲
17	競技スキー部	31	生体構造医科学	加地隆
18	ゴルフ部	38	循環呼吸腎臓内科学	奥村謙
19	弓道部	12	歯科口腔外科学	木村博人
20	空手道部	27	病態薬理学	元村成
21	山岳部	3	分子病態病理学	八木橋操六

整理番号	サークル名	部員数	顧問教員	
			所属講座等	氏名
1	写真部	41	統合機能生理学	藏田潔
2	茶道部	21	感染生体防御学	中根明夫
3	ボランティア部[コスモス]	68	感染生体防御学	中根明夫
4	漢方医学研究会	32	臨床薬理学	立石智則
5	国際医療研究会	38	救急・災害医学	浅利靖
6	管弦楽団	15	耳鼻咽喉科学	新川秀一
7	Medical Cool Quartet	5	整形外科学	藤哲
8	グリーンキャンパスクラブ	26	感染生体防御学	中根明夫
9	社会医学研究会[ほっと]	12	社会医学	中路重之
10	ピアカウンセリングサークルBLOOM	23	障害保健学分野(保健)	五十嵐世津子
11	ダンスサークルFUNT EOCKERS	5	障害保健学分野(保健)	工藤せい子
12	Med-English Club	34	病理生命科学	鬼島宏

IV. 教員現員並びに諸会議・会合等について

1. 神経解剖・細胞組織学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	3	0	1	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①昼食時，休憩時，その他必要あるときは直ちに相談，意見を交換している。

2007年度

主な会議及び会合名：

①神経解剖・細胞組織学講座会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

Medical English Center, 医学部電子顕微鏡室の管理運営を行っている。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2. 生体構造医科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	2	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①教室連絡会議（ミーティング）・・・毎週火曜日

②食事会

2007年度

主な会議及び会合名：

①教室連絡会議（ミーティング）・・・毎週木曜日

②食事会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

遺体収集・管理

篤志献体団体「白菊会」事務局

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

遺体収集・管理

篤志献体団体「白菊会」の事務局

3. 統合機能生理学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
2	2	0	2	0	1	0	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

【生理学第一講座】

①教室会議

【生理学第二講座】

①講座運営会議（運営・教育・研究などすべてを議題とする）

2007年度

主な会議及び会合名：

①講座運営会議（運営・教育・研究などすべてを議題とする）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

4. ゲノム生化学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	2	0	1	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①実験セミナー
- ②ゲノム生化学運営協議会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①ゲノム生化学実験セミナー
- ②ゲノム生化学運営協議会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし

5. 病態薬理学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	3	1	1	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①週1回スタッフミーティング，週1回全体抄読会，週1回グループ抄読会
- ②2ヶ月一回リサーチミーティング
- ③新年会，忘年会，同門会，医局旅行，講義・実習打ち上げ等

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①週 1 回スタッフミーティング、週 1 回全体抄読会、週 1 回グループ抄読会
- ② 2 ヶ月一回リサーチミーティング
- ③新年会、忘年会、同門会、医局旅行、講義・実習打ち上げ等

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

6. 分子病態病理学講座

【教員定員数等】（平成18年 4 月 1 日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	1	0	4	0	1

（平成19年 4 月 1 日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①月 1 回教室会議
- ②週 1 回スタッフ会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①教室会議 月 1 回（技師・事務含む）
- ②スタッフ会議 週 1 回（医師のみ）
- ③抄読会・症例検討会等 週 2 ～ 3 回あり

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室構成員の意見の交換、親睦の為の会合を四季折々に行っている。

7. 病理生命科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	2	0	4	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	3	5	3	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 教室連絡会議
- ② 研究セミナー後のミーティング
- ③ 症例討議会のミーティング

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 教室連絡会議
- ② 研究セミナー後のミーティング
- ③ 症例討議会のミーティング

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室連絡会議には教官・大学院生のみならず、技師・補助員および事務員の意見も反映される。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室連絡会議には教官・大学院生のみならず、研究生・技師および補助員の意見も反映される。

8. 感染生体防御学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	3	0	2	0	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	3	0	0	2	0	2	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①感染生体防御学講座運営会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①感染生体防御学講座運営会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

9. 社会医学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	15	5	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	28	3	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①研究会議

2007年度

主な会議及び会合名：

①打ち合わせ

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

10. 法医学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

なし

2007年度

主な会議及び会合名：

①会議と呼べるほどの規模ではない（議事録もない）が、原則として一日二回行なう「コーヒープレイク」の際に意思疎通を図っている。（少人数のためこれで充分。）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

・少人数の講座なので、個別の対応が必要かつ充分であり、唯一最大の意思疎通方法である。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室員が3名しかいないので、会議はない。当該3名が常に対話を絶やさず、仕事の分担、連絡の徹底、問題の解決などに心掛けている。

11. 消化器血液内科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	6	9	5	0	0	5

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	6	0	6	7	5	0	0	5

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①講座運営委員会

②抄読会

2007年度

主な会議及び会合名：

①講座運営委員会

②抄読会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室員とのコミュニケーションを大切に、各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教室員とのコミュニケーションを大切に、各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力している。

12. 循環呼吸腎臓内科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	3	6	5	15	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	2	6	6	4	14	0	0	0	7

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①弘前大学医学部循環器内科教室会

2007年度

主な会議及び会合名：

①弘前大学医学部循環器内科教室会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

13. 内分泌代謝内科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	4	4	15	8	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	4	4	0	15	8	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①昼食会（月1回）

②スタッフ・病棟連絡会議（月1回）

③教室全体会議（年2回）

2007年度

主な会議及び会合名：

①教室会議（年2回）

②スタッフ会議（毎月）

③病棟会議（毎月）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

14. 老年科学講座

資料なし

15. 腫瘍内科学講座

【教員定員数等】（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①業務連絡会（消化器・血液内科と合同）毎週水曜日昼休み
- ②抄読会・リサーチミーティング 毎週木曜夕方

【その他】

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

16. 神経精神医学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	4	1	5	6	0	?	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	4	0	5	6	0	16	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①定期講座運営会議
- ②卒後研修委員会
- ③人事会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①定期講座運営会議
- ②卒後研修委員会
- ③人事会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 卒後研修システム：

卒後 1 年目～ 5 年目までの研修生を対象に，研修病院群を含むシステムを作り，研修委員会規約を設定し，それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ，それを研修医に呈示し，それを参考に，研修医が自ら研修先を決めている。

2. 定期講座運営会議：

月 1 回，講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。

3. 人事会議：

卒後 6 年目以降の人事は，当事者・教室マネージャー・助教授・教授で討議し，本人の了解を得た上で決定している。

4. 病棟 Conference：

治療方針・連絡等，月 1 回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 卒後研修システム：

卒後 1 年目～ 5 年目までの研修生を対象に，研修病院群を含むシステムを作り，研修委員会規約を設定し，それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ，それを研修医に呈示し，それを参考に研修医が自ら研修先を決めている。

2. 定期講座運営会議：

月 1 回，講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。

3. 人事会議：

卒後 6 年目以降の人事は，当事者・講座マネージャー・准教授・教授で討議し，本人の了解を得た上で決定している。

4. 病棟 Conference：

治療方針・連絡等，月 1 回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

17. 小児科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	7	4	1	1	0	4

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	6	3	1	1	0	3

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①小児科学講座運営会議
- ②病棟カンファランス
- ③小児科人事委員会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①小児科学講座運営会議
- ②病棟カンファランス
- ③小児科人事委員会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

18. 胸部心臓血管外科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	5	1	0	0	23	3

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	3	5	0	1	3	2	0	26	3

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座会議
- ②カンファランス

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座連絡会（水曜日午前8時）
- ②術前術後検討会・症例検討会（水曜日午前8時、金曜日午前8時）
- ③スタッフ会議（火曜日午前8時）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

年に2回安全点検を行い、診療科運営における問題点を抽出し、これを改善するように努力している。
医師にインシデントレポートの記載を奨励し、病院長より表彰された。
静脈血栓塞栓症の予防と治療に積極的に取り組み、診療科横断的に予防と治療を行っており、これによって急性肺塞栓症による死亡例は、医学部附属病院内では激減した。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 安全管理に配慮し、積極的にインシデント報告を行い、病院長表彰を受けた。
2. 毎年2回、診療科内安全チェックを行い、安全管理上の問題点を改善するように努めている。
3. 死亡例カンファレンスを行い、経験から学ぶ姿勢を重視している。

19. 消化器外科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	3	6	11	6	1	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	3	6	0	11	6	1	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議（毎月1回）
- ②医員連絡会議（毎週月曜日）
- ③卒後研修委員会（年4回：3ヶ月毎）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議
- ②医員連絡会議（毎週1回）
- ③卒後研修委員会（年4回：3ヵ月毎）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

20. 整形外科科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	9	12	3	0	0	3

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	5	9	3	0	0	3

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①教室運営会議
- ②スタッフ会議
- ③月例研究会
- ④弘前大学整形外科勤務医会
- ⑤弘前大学整形外科研修医会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 教室運営会議
- ② スタッフ会議
- ③ 月例研究会
- ④ 弘前大学整形外科勤務医会
- ⑤ 弘前大学整形外科研修医会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 2週に一度の教室運営会議にて、管理・運営面に関する諸問題を検討している。
2. スタッフ会議を週3回持ち、連絡の徹底・意思の疎通を計り、できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。
3. 弘前大学整形外科勤務医会を立ち上げ、主として7年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施、研究会などの企画、人事異動などを検討している。
4. 若手研修医は研修医会を作り、研修希望内容などを検討し、大学スタッフに要望するなど、活発な活動をしている。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 2週に一度の教室運営会議にて、管理・運営面に関する諸問題を検討している。
2. スタッフ会議を週3回持ち、連絡の徹底・意思の疎通を計り、できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。
3. 弘前大学整形外科勤務医会を立ち上げ、主として7年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施、研究会などの企画、人事異動などを検討している。
4. 若手研修医は研修医会を作り、研修希望内容などを検討し、大学スタッフに要望するなど、活発な活動をしている。

21. 皮膚科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	5	11	6	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	5	1	10	7	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 第1皮膚科学講座運営会議（教授、助教授、講師、助手、医員（研修医）、大学院生）
- ② 第2皮膚科学講座運営会議（第1皮膚科学講座運営会議から教授を除く）
- ③ 皮膚科代表者会議（教授、助教授、講師、講座幹事長）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 第1皮膚科学講座運営会議（教授、助教授、講師、助教、医員（研修医）、大学院生）
- ② 第2皮膚科学講座運営会議（第1皮膚科学講座運営会議から教授を除く）
- ③ 皮膚科代表者会議（教授、助教授、講師、講座幹事長）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

その他講座内・外からの意見，希望に関して，E-mail での連絡も勧めている。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

その他講座内・外からの意見，希望に関して，E-mail での連絡も勧めている。

22. 泌尿器科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	5	1	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	4	0	1	3	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座連絡会
- ②手術検討会
- ③病理検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座連絡会
- ②手術検討会
- ③病理検討会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

23. 眼科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	制限無し	制限無し	制限無し	0	管轄外	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	6	0	4	2	0	3	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①教室会
- ②抄読会
- ③術前検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①医局会
- ②抄読会
- ③研究会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

24. 耳鼻咽喉科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	4	5	3	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	0	5	0	4	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座連絡会議
- ②研究発表会
- ③術後症例検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座連絡会議
- ②研究発表会
- ③術後症例検討会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

25. 放射線科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	1	4	3	5	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	2	1	4	0	1	5	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議
- ②各種診療カンファランス
- ③同窓会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議（隔週）
- ②抄読会（隔週）
- ③同窓会，忘年会，花見など（年1回）
- 放射線治療連絡会議（毎週）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

各科カンファランス（呼吸器，肝胆膵，耳鼻科，婦人科，食道など）

26. 産科婦人科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	6	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	0	6	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①月曜会（術前術後検討会、諸連絡／協議事項）
- ②婦人科カンファランス
- ③周産母子センター症例検討会（2ヶ月に1回）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①月曜会（術前術後検討会、諸連絡／協議事項）
- ②婦人科カンファランス
- ③周産母子センター症例検討会（2ヶ月に1回）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

27. 麻酔科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	11	5	1	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	2	4	0	10	0	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①教室連絡会（毎週金曜日）
- ②スタッフミーティング（2ヶ月に1回）
- ③抄読会（この会議においても、連絡事項を話している。毎週月曜日）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①教室連絡会（毎週月曜日）
- ②スタッフミーティング（2ヶ月に1回）
- ③抄読会（この会議においても、連絡事項を話している。毎週月曜日）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- 必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。
- トラブルが生じたら、即刻、対処するようにしている。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- 必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。
- トラブルが生じたら、即刻、対処するようにしている。

28. 脳神経外科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	4	0	0	0	0	0	2

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	3	4	0	0	0	0	0	0	2

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座会議
- ②術前症例検討会
- ③術後症例、病理検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座会議
- ②術前症例検討会
- ③術後症例、病理検討会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

29. 歯科口腔外科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	4	6	2	0	1	1	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	4	0	6	1	0	1	1	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議
- ②拡大講座運営会議
- ③抄読会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議
- ②拡大講座運営会議
- ③抄読会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教育、診療、研究、人事などの諸案件に関して、教室員との双方向的伝達を良好なものにするため、平成12年4月より、教授、助教授、講師、助手による教員連絡会議を月1回開催することとした。しかし、教室員全員への連絡・協議事項が多く、意思疎通が図れないため、平成14年1月にこれを廃止し、教室連絡会議（旧医局会）を月2回開催することとした。平成15年2月からは名称を講座運営会議として現在に至っている。

また、外来、病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため、奇数月1回拡大講座運営会議を開催している。

管理・運営面での主たる案件は、医療事故防止の徹底、診療収支の改善、学生教育の自己点検、関連病院への医師派遣などである。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

教育、診療、研究、人事などの諸案件に関して、教室員との双方向的伝達を良好なものにするため、平成12年4月より、教授、准教授、助教による教員連絡会議を月1回開催することにした。しかし、教室員全員への連絡・協議事項が多く、意思疎通が図れないため、平成14年1月にこれを廃止し、教室連絡会議（旧医局会）を月2回開催することにした。平成15年2月からは名称を講座運営会議として現在に至っている。

また、外来、病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため、奇数月1回拡大講座運営会議を開催している。

管理・運営での主たる案件は、医療事故防止の徹底、診療収支の改善、学生教育の自己点検、関連病院への医師派遣などである。

30. 形成外科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	3	3	0	0	0	1	2

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	3	0	3	0	0	0	1	2

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議
- ②症例検討会
- ③連絡会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①講座運営会議
- ②症例検討会
- ③連絡会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

31. 救急・災害医学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①平日朝9：00よりモーニングカンファレンス
- ②平日17時よりイブニングカンファレンス
- ③火曜日曜日17時より症例検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①平日朝9：00よりモーニングカンファレンス
- ②平日17時よりイブニングカンファレンス
- ③火曜日曜日17時より ER 塾

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

所属医師が医員を含めて3名であり、ほぼ毎日、全員が顔を合わせることができ、意思の疎通、情報交換は良好であった。学生教育に関しては3名でどうにかこなせたが診療、研究に関しては3名では現状が精一杯であった。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

実際に救急医療に専従できる医師が少なく、整形外科の応援医師により支援をしてもらう1年間であった。専従医師が少ない中で5年次臨床実習、6年次クリニカルクラークシップなどを実施するため医師間の連携をよくし連絡を密にするためたとえ少ない医師であっても上記カンファレンスなどを毎日実施した。

32. 臨床検査医学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	1	1	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①検査教員会議（週一回）
- ②検査勉強会（週一回）
- ③検査抄読会（週一回）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①検査教員会議（週一回）
- ②検査勉強会（週一回）
- ③検査抄読会（週一回）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

33. 臨床薬理学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

なし

2007年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

34. 小児外科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①運営会議（週2回のカンファランス後、議題があれば引き続き行っている。）

2007年度

主な会議及び会合名：

①運営会議（週2回のカンファランス後、議題があれば引き続き行っている。）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

構成員が2名のみであるため、問題点があれば適宜2人の話し合いで決定している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

構成員が2名のみであるため、問題点があれば適宜2人の話し合いで決定している。

35. 医学医療情報学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	(2)	0	※	※	※

1) ※医療情報部専属職員（教員を除く）の内訳

電算室：実験助手〔技能補佐員〕1 + 医事課事務員（兼務）5 + 看護長（兼務）1

病歴室：事務員2 + 技官1

2) 医療情報部の兼務職員

教員（助教授1 講師1）2

主任技官（薬剤師）1

主任技官（臨床検査技師）1

主任技官（放射線技師）1

3) 大学院生

社会医学系卒の活用として

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	0	0	0	0	0	1 (注意1)	(注意2)	(注意2)

注意1 実験助手技能補佐員（非常勤職員）

注意2 事務職員並びに看護要員等は全て他部署よりの兼務職員である。

教員 1

医事課兼務事務員 4

看護師長 1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①医療情報部内会議：電算室専属の教官・事務官による定例の業務会議（月1回）

②医療情報部門会議：電算室・病歴室の専属並びに兼務職員による業務会議（月1回）

③システム連絡会議：医療情報部全職員とシステムベンダーとの業務打合（月1回）

2007年度

主な会議及び会合名：

①医療情報部内会議：電算室専属の教員・事務員による定例の業務会議（月1回）

②医療情報部門会議：電算室専属の教員・事務員並びに他部門からの兼務職員等による業務上の連絡会議（月1回）

③システム連絡会議：医療情報部全職員とシステムベンダーとの業務打合（月1回）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

個人（患者）情報の保護（守秘）に留意した管理・運営を心掛ける
情報システム運用経費削減のため機器等の「再生」「自作」に努める

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1) 外来診療棟開業に至る迄の各種政府調達業務

医療情報部長（羽田）

外来診療棟用病院情報管理システム仕様策定委員会（委員長）

外来診療録自動抽出システム仕様策定委員会（委員長）

院内画像配信システム仕様策定委員会（委員）

薬剤システム仕様策定委員会（委員）

患者呼出装置仕様策定（委員）

医療情報副部長（佐々木）

外来診療棟用病院情報管理システム仕様策定委員会（委員）

外来診療録自動抽出システム 技術審査職員

院内画像配信システム 技術審査職員

医学医療情報学講座（松谷）

院内画像配信システム仕様策定委員会（委員）

外来診療棟用病院情報管理システム 技術審査職員

2) 次期病院情報管理システムの政府調達業務

医療情報部長（羽田）

病院情報管理システム仕様策定委員会（委員長）

医療情報副部長（佐々木）

病院情報管理システム仕様策定委員会（委員）

医学医療情報学講座（松谷）

病院情報管理システム 技術審査職員

3) 次期総合医療情報管理システム（病院ネットワーク）の政府調達業務

医療情報部長（羽田）

総合医療情報管理システム（病院情報ネットワーク）仕様策定委員会（委員長）

医療情報副部長（佐々木）

総合医療情報管理システム（病院情報ネットワーク）技術審査職員

医学医療情報学講座（松谷）

総合医療情報管理システム（病院情報ネットワーク）仕様策定委員会（委員）

36. 総合診療医学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①総合診療部連絡会議

2007年度

主な会議及び会合名：

①総合診療部連絡会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

37. 薬剤学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	23	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	20	0	3

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①週1回の部内ミーティング

②月1回の主任会議

③緊急性が生じた場合は、臨時にミーティングを開催

2007年度

主な会議及び会合名：

①週1回の部内ミーティング

②月1回の主任会議

③緊急性が生じた場合は、臨時にミーティングを開催

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

38. 脳神経病理学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	1	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

① Neuropathological conference

2007年度

主な会議及び会合名：

① Neuropathological conference

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

39. 脳血管病態学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	1	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	2	0	0	0	1	0	0	2

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①脳血管病態学講座会議

②脳研運営会議

2007年度

主な会議及び会合名：

①脳血管病態学講座会議

②脳血管病態学講座研究セミナー

③脳神経血管病態研究施設会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

高度先進医学研究センターと合同で定期的に研究セミナーを開催している。

40. 脳神経生理学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	1	1	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①部門ミーティング

2007年度

主な会議及び会合名：

①教室ミーティング

②脳研会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

41. 脳神経内科学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	2	2	2	0	1	0	2

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	1	1	0	4	4	0	3	0	2

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

①教室運営会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①教室会議 毎週火曜日夕方に行っている
②スタッフ会議 毎朝8時20分から行っている
③病棟回診、外来カンファランス 毎週火曜日に行っている

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

平成20年1月から、新外来棟で内科各科と共同して診療を開始した。また、もの忘れ外来、パーキンソン病外来、神経変性疾患外来、神経免疫疾患専門外来、遺伝子疾患外来を開始し、外来での認知リハビリテーションも開始し、神経内科外来として順調な発展がみられた。また、当科独自の取り組みとして、遺伝子診断、バイオマーカー、筋生検、電気生理学的検査などの検査が弘前でもできるように確立し、患者の診療に大きな進歩がみられた。地域医療に貢献した。科研費を始め、多くの外部資金の獲得によって、事務員や研究補助員をたくさん雇用し、研究面でも大きな進歩を遂げた。

42. 分子生体防御学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	3	0	0	0	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①研究発表会
②論文抄読会
③事務連絡会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①研究発表会
②論文抄読会
③事務連絡会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

43. 糖鎖工学講座

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	3	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	2	0	0	3	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①セミナー
- ②抄読会
- ③生化学第一講座運営委員会（月1回）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①セミナー
- ②抄読会
- ③糖鎖工学講座運営委員会（月1回）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

上記以外に月1回スタッフミーティングを行っている。

44. 附属動物実験施設

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	1	0	0	0	1	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①医学部附属動物実験施設運営委員会
- ②動物実験施設ミーティング
- ③医学部附属動物実験施設兼任教員会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①医学部附属動物実験施設運営委員会
- ②動物実験施設ミーティング
- ③医学部附属動物実験施設兼任教員会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

毎週1回施設の教員・技術職員・事務職員を含めたミーティングを行っている。
また平成19年2月から兼任教員5名が任命され、月一回会議を行っている。

動物実験施設管理・運営に関わる業務内容

1. 施設管理業務

1) 設備に関する業務

電気、給・排気、給・排水設備、空調機（フィルター交換を含む）、オートクレーブを含む圧力容器の点検、個液分離機、焼却炉などの総括

2) 飼育管理に関する業務

飼育用ラックの点検、自動飼育機の点検、購入動物の検収・予定把握、搬入動物の検疫・微生物チェック、遺伝子操作動物の研究機関への手続き指導・チェック・部屋割り・飼育状況確認、各飼育室の微生物モニタリング、異常動物の摘発、飼育室の状況点検などの総括

昨年10月～11月には施設内のマウスについて蟻虫の駆虫処置を行った。

3) 事務

予算・決算書の作成、予算施行状況の確認、購入物品の確認、各種要求書作成のための資料作り利用者への案内書作成、実験者の問い合わせへの返答など

2. 委員会業務

下記委員会の開催、資料作成など

- 1) 動物実験施設運営委員会
- 2) 動物実験倫理委員会

3. 教育関係、講習会等

1) 実験者

年12回の利用者講習会の開催

2) 施設技官等

施設技官の知識、技術向上のため随時勉強会および技術指導を行っている。

3) 外注職員

担当職員が交代するごとに講習会、とくに洗浄担当は交代回数も多く、施設の衛生管理上重要なので随時講習を行っている。

4) 実験者からの問い合わせ等に対する情報提供および指導

4. 日本実験動物技術者協会

- 1) 技術者協会は、施設技官等の知識、技術の向上を目的に運営されている協会で、年2回の勉強会および技術講習会を開催し、広く実験者にも参加を呼びかけている。教官は勉強会および技術講習会の開催をするとともに、技官等が参加・発表するための支援を行っている。

2) 当施設からの18年度発表演題数

一般講演 3 題

5. 動物実験計画書関係

年間約140部提出される動物実験計画書のチェック、指導および不明箇所の実験者に対する問い合わせなど

6. 情報公開に対する対応

動物実験に関しての情報公開請求に対応できる体制作りを行った。また全国他大学の情報公開に対する情報を収集し、本学での参考にしている。

7. 情報の収集、提供など

内外の動物実験に関する情報を収集し、実験者に提供する。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

毎週1回施設の教員・技術職員・事務職員を含めたミーティングを行っている。

また平成19年2月から兼任教員5名が任命され、月一回会議を行っている。

動物実験施設管理・運営に関わる業務内容

1. 施設管理業務

1) 設備に関する業務

電気、給・排気、給・排水設備、空調機（フィルター交換を含む）、オートクレーブを含む圧力容器の点検、個液分離機、焼却炉などの総括

2) 飼育管理に関する業務

飼育用ラックの点検、自動飼育機の点検、購入動物の検収・予定把握、搬入動物の検疫・微生物チェック、遺伝子操作動物の研究機関への手続き指導・チェック・部屋割り・飼育状況確認、各飼育室の微生物モニタリング、異常動物の摘発、飼育室の状況点検などの総括

昨年10月～11月には施設内のマウスについて蟯虫の駆虫処置を行った。

3) 事務

予算・決算書の作成、予算施行状況の確認、購入物品の確認、各種要求書作成のための資料作り利用者への案内書作成、実験者の問い合わせへの返答など

2. 委員会業務

下記委員会の開催、資料作成など

1) 動物実験施設運営委員会

2) 動物実験倫理委員会

3. 教育関係、講習会等

1) 実験者

年12回の利用者講習会の開催

2) 施設技官等

施設技官の知識、技術向上のため随時勉強会および技術指導を行っている。

3) 外注職員

担当職員が交代するごとに講習会、とくに洗浄担当は交代回数も多く、施設の衛生管理上重要なので随時講習を行っている。

4) 実験者からの問い合わせ等に対する情報提供および指導

4. 日本実験動物技術者協会

1) 技術者協会は、施設技官等の知識、技術の向上を目的に運営されている協会で、年2回の勉強会および技術講習会を開催し、広く実験者にも参加を呼びかけている。教官は勉強会および技術講習会の開催をするとともに、技官等が参加・発表するための支援を行っている。

2) 当施設からの18年度発表演題数

一般講演 3 題

5. 動物実験計画書関係

年間約140部提出される動物実験計画書のチェック、指導および不明箇所の実験者に対する問い合わせなど

6. 情報公開に対する対応

動物実験に関しての情報公開請求に対応できる体制作りを行った。また全国他大学の情報公開に対する情報を収集し、本学での参考になっている。

7. 情報の収集、提供など

内外の動物実験に関する情報を収集し、実験者に提供する。

45. 医学教育センター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

なし

2007年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし

46. 手 術 部

【教員定員数等】（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1

【諸会議及び会合等】

2007年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

47. 検 査 部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名： ① スタッフ会議 ② 検査部会議 ③ 定期カンファレンス

2007年度

主な会議及び会合名： ① スタッフ会議 ② 検査部会議 ③ 定期カンファレンス

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項： なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項： なし

48. 放 射 線 部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
(1)	1	0	0	0	0	0	0	27	0	3

常勤21。契約5，パート1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名： ① 部長・技師長打合せ（週1回） ② 技師長・副技師長会議（週1回） ③ 放射線部全職員の定例会議（週1回）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 部長・技師長打合せ（週1回）
- ② 技師長・副技師長会議（週1回）
- ③ 放射線部全職員の定例会議（週1回）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- ① 放射線装置使用室の漏洩線量の定期的な測定及び管理
- ② 放射線治療装置の出力線量の定期的な測定
- ③ 放射線業務従事者の放射線被曝線量の測定及び管理

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- ① 放射線装置使用室の漏洩線量の定期的な測定及び管理
- ② 放射線治療装置の出力線量の定期的な測定
- ③ 放射線業務従事者の放射線被曝線量の測定及び管理

49. 材 料 部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1併任	1併任	0	0	0	0	0	1	2	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1併任	1併任	0	0	0	0	0	0	2	1	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 始業前，終了時の連絡事項・情報交換（毎日）
- ② 定例のミーティング

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 始業前，終了時の連絡事項確認・情報交換
- ② 定例のミーティング

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医療現場における滅菌保証のガイドラインを参考に管理している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

洗浄・滅菌の質を保ち安全な医療材料を提供している。
衛生材料の未滅菌から滅菌済み製品への変更，特注製品から既製品の変更等材料の見直しに積極的に関わっている。

50. 救 急 部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①平日朝9：00よりモーニングカンファレンス
- ②平日17時よりイブニングカンファレンス
- ③火曜日17時より症例検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①平日朝9：00よりモーニングカンファレンス
- ②平日17時よりイブニングカンファレンス
- ③火曜日17時より症例検討会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医師、看護師間の意思の疎通を図るため、連絡ノートをナースステーションに設置している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医師、看護師間の意思の疎通を図るため、連絡ノートをナースステーションに設置している。

51. 輸 血 部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	3	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①月例ミーティング
- ②輸血部ミーティング（業務連絡）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①月例ミーティング
- ②輸血部ミーティング（業務連絡）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 高額な医薬品である輸血製剤を取り扱うので血液廃棄量削減のために、頻繁に診療部門と連絡を取り合う、適正在庫保持量を検討する等の運営努力を行っている。
2. 輸血検査24時間体制を確立・稼働させ、良好な医療サービスに貢献するよう努力している。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 高額な医薬品である輸血製剤を取り扱うので血液廃棄量削減のために、頻繁に診療部門と連絡を取り合う、適正在庫保持量を検討する等の運営努力を行っている。
2. 輸血検査24時間体制を確立・稼働させ、良好な医療サービスに貢献するよう努力している。
3. 輸血業務の院内統一のため、副作用監視シートを合わせた適合血払出票を作製した。また、荷札を廃止して製剤に貼付するシールに変更した。
4. 看護部と協同で血液製剤保管管理基準を作成し、血液製剤を一般病棟・一般診療部門で長期保管しない体制を確立した。

52. 集中治療部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	2	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①毎日朝夕2回カンファレンスを行っている。

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①毎日朝夕2回カンファレンスを行っている。

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

週に2,3回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

週に2,3回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

53. 周産母子センター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	2	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 周産母子センター症例検討会
- ② 外来妊婦健診カンファレンス
- ③ 産婦人科術前術後検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 周産母子センター症例検討会
- ② 外来妊婦健診カンファレンス
- ③ 産婦人科術前術後検討会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

54. 病 理 部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	5	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 病理部連絡会議
- ② 病理部担当者会議
- ③ 抄読会後のミーティング

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 病理部連絡会議
- ② 病理部担当者会議
- ③ 抄読会後のミーティング

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

病理部連絡会議には教官・大学院生のみならず、技師・補助員および事務員の意見も反映される。病理部担当者会議は、病理部に携わるすべての教職員（医学研究科の分子病態病理学講座・病理生命科学講座を含む）の意見が反映される。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

病理部連絡会議には教官・大学院生のみならず、技師・補助員および事務員の意見も反映される。病理部担当者会議は、病理部に携わるすべての教職員（医学研究科の分子病態病理学講座・病理生命科学講座を含む）の意見が反映される。

55. 光学医療診療部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 消化器血液膠原病内科 抄読会（毎週）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①抄読会・連絡会議

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

56. リハビリテーション部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	1	0	0	0	0	10	1	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①リハビリテーション職員会議
- ②リハビリテーション部カンファレンス

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①リハビリテーション部スタッフミーティング

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

57. 強力化学療法室

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①弘前大学造血幹細胞移植研究会
- ② ICTU 入室患者カンファレンス
- ③ ICTU 勉強会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 弘前大学造血幹細胞移植研究会
- ② ICTU 入室患者カンファレンス
- ③ ICTU 勉強会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし。

58. 地域連携室

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	1	1	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会
- ② カンファレンス（ケース）連携室職員（看護師と MSW）で月1回
- ③ カンファレンス（運営）医事課医療福祉担当職員と地域連携室職員との運営カンファレンスを年2回

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

59. MEセンター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	5	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

なし

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①週一回（火曜日）に技士のみで行う「MEセンター内ミーティング」
- ②月一回（第二火曜日）に ME センター室長も含めた「全体ミーティング」

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

60. 治験管理センター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	1	3	3

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	0	0	0	0	0	3	2	5

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①治験管理センター事務局会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① センター会議
- ② スタートアップ・ミーティング
- ③ キックオフ・ミーティング

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

総ての業務は GCP 省令に従って行われており、管理運営共に手順書に基づいて行われる。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

特になし

61. 卒後臨床研修センター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①卒後臨床研修センター運営委員会
- ②研修管理委員会
- ③研修医ミーティング（研修医のためのプライマリ・ケアセミナー後）

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①卒後臨床研修センター運営委員会
- ②研修管理委員会
- ③研修医ミーティング（研修医のためのプライマリ・ケアセミナー後）

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- ・ 研修医オリエンテーションを行なった（平成18年4月2日－6日）
- ・ 研修医のためのプライマリ・ケアセミナーを12回開催した
- ・ CPC を5回開催した

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

- ・ 研修医オリエンテーションを行なった（平成19年4月2日－6日）
- ・ 研修医のためのプライマリ・ケアセミナーを12回開催した
- ・ CPC を6回開催した

62. 歯科医師卒後臨床研修室

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	4	3	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	1	0	4	0	3	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 歯科医師卒後臨床研修管理委員会 2回
- ② 歯科医師卒後臨床研修室運営委員会 2回

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 歯科医師卒後臨床研修管理委員会 2回
- ② 歯科医師卒後臨床研修室運営委員会 2回

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

63. 腫瘍センター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 外来化学療法室ミーティング
- ② 腫瘍センター運営会議

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 腫瘍センター運営委員会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

1. 外来化学療法加算と無菌製剤加算を計上できる外来化学療法室では、使用する薬剤が高価であり、がん患者が利用する施設であるため、専任の薬剤師・看護師を中心に、安全・安楽で良好な医療サービスに貢献するよう努力している。現在、利用患者数は増加の一途をたどっており、今後さらに人員の充実が必要と思われる。

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医療事故を起こさず、外来化学療法センターを運営することができた。外来化学療法センターを使った外来化学療法実施件数は昨年度より大きく増加し、月300件を超えた。

64. 栄養管理部

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	4	0	0

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ① 栄養管理委員会
- ② 栄養管理部ミーティング
- ③ 献立検討会

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① 栄養管理委員会
- ② 栄養サポートチーム（NST）ミーティング
- ③ 献立検討会

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

なし

65. 病 歴 部

【教員定員数等】（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【諸会議及び会合等】

2007年度

主な会議及び会合名：

なし

【その他】

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

平成20年1月に中央カルテ室へシングルピッカーシステムが導入されたことにより、外来カルテの1患者1カルテファイル方式による集中管理が実現した。

これまで、各診療科による独自の管理となっていた外来カルテの管理が一元化され、検索及び貸出業務の効率化が図られた。

66. 地域医療支援センター

【教員定員数等】（平成18年4月1日現在）

（名）

教 授	助教授	講 師	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	2	0	0	0	0	1

（平成19年4月1日現在）

（名）

教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2006年度

主な会議及び会合名：

- ①地域医療支援センター運営会議
- ②スタッフミーティング
- ③へき地医療修練医研修状況に関する打合せ

2007年度

主な会議及び会合名：

- ①地域医療支援センター運営会議
- ②スタッフミーティング
- ③へき地医療修練医研修状況に関する打合せ

【その他】

2006年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

平成18年度地域医療支援センター実施内容

■平成18年度地域医療支援センターパンフレットを作成

■平成18年度 地域医療教育講演会の実施

【第一回】

開 催 日：平成18年10月24日（火）

講 師：（1）東秀史先生（都城市群医師会病院・副病院長）

（2）内山圭氏（都城市群医師会病院・救急コーディネーター）

テ ー マ：(1)「地方都市における地域密着型 DMAT の試み」
 (2)「救急コーディネーター日本版救急ディスパッチャー制度の試み」

【第二回】

開 催 日：平成18年12月6日（水）

講 師：前田隆浩先生

（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講座・教授）

テ ー マ：「長崎県の離島医療～県と大学の新たな取り組み～」

【第三回】

開 催 日：平成18年12月20日（水）

講 師：山田隆司先生

（地域医療振興協会・常務理事，地域医療研究所・所長，日本家庭医療学会・代表理事，公立黒川病院・管理者）

テ ー マ：「家庭医療・地域医療・へき地医療－その現状と将来」

【第四回】

開 催 日：平成19年1月10日（水）

講 師：松岡史彦先生

（青森地域医療研究会・会長，六ヶ所村国民健康保険尾駁診療所・所長，自治医科大学青森会・会長，
 本院地域医療支援センター・客員教授）

テ ー マ：「本県へき地医療の将来を考える」

■遠隔診療データ通信システムの使用

平成18年度までに遠隔診療データ通信システムが設置されている大間病院，外ヶ浜中央病院，むつ総合病院，六ヶ所村尾駁診療所と本学を結び，

- ・ プライマリケアセミナーの配信
- ・ 諸画像を用いた症例相談
- ・ カンファレンス
- ・ 各病院との打合せ等

を行った。具体的日取りは以下の通りである。

実施日	通信先	時間	利用内容	備考
H18. 5. 8（月）	外ヶ浜	全日	データ送信確認作業	
H18. 5. 9（火）	外ヶ浜	全日	画質確認作業	
H18. 5.11（木）	外ヶ浜	午後	画質確認作業	
H18. 5.15（月）	大間	全日	データ送信確認作業	
H18. 5.17（水）	大間	全日	画質確認作業	
H18. 5.18（木）	外ヶ浜	午後	データ送信確認作業	
H18. 5.29（月）	外ヶ浜	全日	症例相談，プライマリ・ケア セミナー 配信の打合せ	
H18. 5.30（火）	外ヶ浜	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H18. 5.31（水）	外ヶ浜	全日	症例相談，画質確認作業	
H18. 6. 1（木）	大間	全日	学生臨床実習に関わる打合せ	
H18. 6. 5（月）	外ヶ浜	全日	症例相談	
H18. 6.12（月）	大間	全日	学生臨床実習カンファレンス	
H18. 6.13（火）	外ヶ浜	全日	症例相談	
H18. 6.14（水）	外ヶ浜	全日	カンファレンス	
H18. 6.29（木）	大間	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H18. 7. 3（月）	大間	午後	症例相談	
H18. 7.17（月）	外ヶ浜	午後	症例相談（スキャナ）	
H18. 7.18（火）	大間	午後	学生臨床実習カンファレンス	
H18. 7.27（木）	外ヶ浜	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H18. 8. 2（水）	外ヶ浜	夕方	システム使用方法の説明	

実施日	通信先	時間	利用内容	備考
H18. 8. 4 (金)	大間	夕方	使用方法説明会	
H18. 8.23 (水)	外ヶ浜	午前	カンファレンス	
H18. 8.24 (木)	外ヶ浜	午前	カンファレンス	
H18. 8.25 (金)	大間	全日	症例相談, カンファレンス	
H18. 8.29 (火)	大間	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H18. 9. 5 (火)	大間	午後	症例相談	
H18. 9.13 (水)	外ヶ浜	全日	症例相談	
H18. 9.21 (木)	外ヶ浜	午後	カンファレンス	
H18. 9.22 (金)	外ヶ浜	午後	カンファレンス	
H18. 9.26 (火)	大間	夕方	CPC	
H18. 9.29 (金)	外ヶ浜	全日	耳鼻科 手術風景送信テスト	
H18.10. 2 (月)	外ヶ浜	全日	耳鼻科 手術風景操作テスト	
H18.10. 8 (日)	大間	午後	症例相談	
H18.10. 9 (月)	大間	午後	症例相談	
H18.10.16 (月)	大間	午前	症例相談	
H18.10.18 (水)	ホテル青森	全日	耳鼻科学会にて手術画像の送信	
H18.10.19 (木)	ホテル青森	全日	耳鼻科学会にて手術画像の送信	
H18.10.20 (金)	ホテル青森	全日	耳鼻科学会にて手術画像の送信	
H18.10.23 (月)	外ヶ浜	午後	地域医療講演会の打合せ	
H18.10.24 (火)	外ヶ浜	午後	地域医療講演会	
H18.10.25 (水)	外ヶ浜	午後	カンファレンス	
H18.10.26 (木)	外ヶ浜	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H18.10.31 (火)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H18.11. 5 (日)	大間	午後	症例相談	
H18.11. 6 (月)	大間	午後	症例相談	
H18.11.14 (火)	大間	午後	カンファレンス	
H18.11.16 (木)	大間	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H18.11.23 (木)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H18.11.28 (火)	外ヶ浜	夕方	CPC	
H18.12. 5 (火)	大間	午後	地域医療講演会打合せ	
H18.12. 6 (水)	大間	午後	地域医療講演会 (長崎)	
H18.12.12 (火)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H18.12.15 (金)	外ヶ浜	午後	カンファレンス	
H18.12.19 (火)	大間	午後	講演会講師との打合せ	
H18.12.20 (水)	大間	夕方	講演会 (山田先生)	
H18.12.26 (火)	外ヶ浜・大間	全日	(年末年始にかかる) カンファレンス	
H19. 1. 9 (火)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H19. 1.12 (金)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H19. 1.17 (水)	外ヶ浜	全日	症例相談	
H19. 1.18 (木)	外ヶ浜	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H19. 1.25 (木)	大間	午後	症例相談	
H19. 1.26 (金)	大間	午後	症例相談	
H19. 2. 5 (月)	大間	夕方	カンファレンス	
H19. 2. 6 (火)	大間	午後	症例相談	
H19. 2.14 (水)	外ヶ浜・大間	全日	修練医研修	
H19. 2.19 (月)	大間・外ヶ浜	全日	修練医研修	
H19. 2.22 (木)	大間	夕方	カンファレンス	
H19. 2.26 (月)	大間・外ヶ浜	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H19. 2.27 (火)	六ヶ所	午後	通信確認作業	
H19. 2.28 (水)	むつ	午後	通信確認作業	
H19. 3. 1 (木)	六ヶ所	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H19. 3. 2 (金)	むつ	午後	プライマリ・ケア セミナー (DVD)	
H19. 3. 6 (火)	六ヶ所・むつ	全日	センター長と各院長の打合せ	
H19. 3. 7 (水)	外ヶ浜	夕方	プライマリ・ケア セミナー	
H19. 3.12 (月)	六ヶ所	全日	修練医研修	
H19. 3.13 (火)	むつ	全日	修練医研修	
H19. 3.15 (木)	大間	午後	症例相談	
H19. 3.16 (金)	大間	夕方	カンファレンス	
H19. 3.19 (月)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H19. 3.20 (火)	大間	午後	症例相談	

管理・運営面に特筆すべき事項：

平成19年度地域医療支援センター実施内容

■平成19年度 地域医療教育講演会の実施

【第一回】

開 催 日：平成19年11月1日（木）

講 師：山本和利 先生

（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座・教授）

テ ー マ：「総合医・家庭医の現在・過去・未来」

【第二回】

開 催 日：平成19年11月20日（火）

講 師：松岡史彦 先生

（六ヶ所村国民健康保険尾駁診療所・所長、自治医科大学青森会・会長、本院地域医療支援センター・客員教授）

テ ー マ：「地域医療に学ぶ患者中心医療」

【第三回】

開 催 日：平成19年11月29日（木）

講 師：前田隆浩 先生

（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講座・教授）

テ ー マ：「長崎県離島をステージにした地域医療人教育―連携と一貫教育―」

【第四回】

開 催 日：平成19年12月4日（火）

講 師：山田隆司 先生

（地域医療振興協会・常務理事、地域医療研究所・所長、日本家庭医療学会・代表理事、公立黒川病院・管理者）

テ ー マ：「地域医療とは ―現場からの提言―」

■遠隔診療データ通信システムの使用

平成19年度までに遠隔診療データ通信システムが設置されている大間病院、外ヶ浜中央病院、むつ総合病院、六ヶ所村尾駁診療所、大館市立総合病院、西北中央病院と本学を結び、

- ・ プライマリケアセミナーの配信
- ・ 諸画像を用いた症例相談
- ・ カンファレンス
- ・ 各病院との打合せ等

を行った。具体的日取りは以下の通りである。

実施日	通信先	時間	利用内容	備考
H19. 4.11（水）	大間	夕方	システム操作説明会	
H19. 4.12（木）	外ヶ浜	夕方	システム操作説明会	
H19. 4.16（月）	むつ	夕方	システム操作の説明会	
H19. 4.17（火）	六ヶ所	夕方	システム操作の説明会	
H19. 4.18（水）	外ヶ浜	夕方	カンファレンス	
H19. 4.24（火）	六ヶ所	午後	カンファレンス	
H19. 4.26（木）	大間	夕方	カンファレンス	
H19. 5. 9（水）	大間	午後	学生実習に関わる打合せ	
H19. 5.10（木）	大間	全日	クリニカル・クラークシップの学生発表	
H19. 5.15（火）	むつ	午後	学生実習に関わる打合せ	

実施日	通信先	時間	利用内容	備考
H19. 5.16 (水)	むつ	夕方	学生実習に関わる打合せ	
H19. 5.17 (木)	外ヶ浜	午後	症例相談	
H19. 5.24 (木)	六ヶ所	午後	カンファレンス	
H19. 5.25 (金)	六ヶ所	夕方	症例相談	
H19. 5.31 (木)	大間	午後	カンファレンス	
H19. 6. 5 (火)	むつ	夕方	学生実習に関わる打合せ	
H19. 6. 6 (水)	六ヶ所	午前	症例相談	
H19. 6. 8 (金)	大間・RMSC・スキルズ・ラボ	午後	学生カンファレンス	マルチ
H19. 6.21 (木)	スキルズ・ラボ	午後	ファイアーウォール更新に伴うテスト	
H19. 6.25 (月)	スキルズ・ラボ	午後	ファイアーウォール更新に伴うテスト	
H19. 6.26 (火)	外ヶ浜・大間・むつ・六ヶ所	全日	プライマリ・ケア セミナー	
H19. 6.29 (金)	スキルズ・ラボ・RMSC・RAB	全日	システムの調整・テスト	
H19. 7. 2 (月)	RAB・大間	全日	操作方法説明会のための調整	
H19. 7. 3 (火)	大間	午後	実地へ赴いての操作方法説明会	
H19. 7. 9 (月)	西北	午後	新規導入によるテスト	※接続失敗
H19. 7.10 (火)	六ヶ所	午後	研修医によるカンファレンス	
H19. 7.11 (水)	西北	午後	新規導入による再テスト	
H19. 7.17 (火)	外ヶ浜・大間・むつ・六ヶ所	午後	プライマリ・ケア セミナー	
H19. 7.23 (月)	大館	午後	通信確認	
H19. 7.25 (水)	東海研究センター	午後	通信確認	通信方式が合わず断念
H19. 7.26 (木)	大館・西北	全日	実地へ赴いての操作方法説明会	
H19. 8. 7 (火)	西北	午後	TV 会議システムの操作レクチャー	
H19. 8.29 (水)	西北	午後	研修医とのカンファレンス	
H19. 8.30 (木)	外ヶ浜・大間・むつ・六ヶ所・西北・大館	午後	プライマリ・ケア セミナー	接続失敗 (最終的に外ヶ浜・大間と接続)
H19. 9. 3 (月)	外ヶ浜・大間・むつ・六ヶ所・大館	午後	前回 (H19. 8.30 (木)) 接続出来なかったため、5カ所同時通信テスト	接続成功

67. 医療安全推進室

【教員定員数等】 (平成19年4月1日現在)

(名)

教授	准教授	講師	助教	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技術職員	看護要員	事務職員
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2007年度

主な会議及び会合名：

- ① リスクマネジメント対策委員会
- ② 事故防止専門委員会
- ③ 医療安全推進室会議

【その他】

2007年度

管理・運営面に特筆すべき事項：

医学部学生に対する医療安全教育への関与

弘前大学大学院医学研究科・附属病院自己評価委員会

委員長	中澤満	(眼科学講座教授)
委員	中根明夫	(細菌学講座教授)
	元村成	(薬理学講座教授)
	福田幾夫	(外科学第一講座教授)
	藏田潔	(生理学第二講座教授)
	今淳	(基礎教職員会議)
	古川賢一	(基礎教職員会議)
	下山克	(臨床科医師代表者会)
	三浦淳	(臨床科医師代表者会)
	庄司優	(検査部副部長)
	玉井佳子	(輸血部副部長)
	佐藤優	(事務部長)

弘前大学大学院医学研究科・附属病院 自己評価報告書 = 2006年度 - 2007年度 =

2009年3月31日 印刷
2009年3月31日 発行

発行者 弘前大学大学院医学研究科・附属病院

発行所 弘前大学大学院医学研究科・附属病院
医学研究科 〒036-8562 青森県弘前市在府町5
附属病院 〒036-8563 青森県弘前市本町53
電話 0172-33-5111 (大代表)
